國譯大藏經

經部

第二巻

目次

漢譯原文

以上

を思へばなり。脚註は章段の大要と難解の意義とを辨明するのみ。委曲を悉さんとせば論釋に渉りて研鑽の要あるも、玆に大綱に就て廣く諸部般若と本經との關係、本經の大意等を陳ねて解題となす。

【般若の梵本】 梵本として流通するもの五本あり。

一、十萬頌般若(Śatasāhasrikā prajñāpāramitā) プラターパチャンドラ、ゴーシャ氏 (Pratāpacandra Ghoṣa)に依りて千九百二年より甲谷(Calcutta)に於て續刊せらる。ラージェーンドラーラ・ミトラ氏(Rājendralāla Mitra)は本經を以て十一萬三千六百七十七首盧四分七十二品より成るとす。既刊本を以て玄奘所譯と對照するに出入長短ありて一致すと云ひ難きものあり、只第一會經の類にして印度的色彩强し、通三乘を主とし十地よりも多く四果を云ふ等耳目を惹く。

二、二萬五千頌般若(Pañcaviṃśati sāhasrikā prajñā pāramitā)。ミトラ氏は現に二萬四十五首盧あり、八品として大綱を說き十萬頌と異るとす。固より長短具略の別あるも、氏が單に品目より論ずる如く別異なるにあらず、支那諸譯に徵するも古新兩經新舊兩譯分品互に同じからず、僧叡大品序に「胡本品目ありしもの唯序品阿鞞跋致品魔事品のみ、餘は直ちに事數を陳ぶ」とせるに依るも、分品に重きを置くべからざるや明かなり。本經は大般若第二會、大品般若卽ち今國譯

する所と比較さるべきものにして大綱一致せりと云ふを妨げず。

三、八千頌般若（Aṣṭasāhasrikā prajñā pāramitā）千八百八十八年ミトラ氏尼波爾の梵本に依りて甲谷に出版せる所、梵本般若として廣く流布せるものとす。尼波爾佛敎に在りても九法中に編して重んぜらる。分ちて三十二品とす、各品の要旨等ミトラ氏の解説に詳なり。これ支那譯小品般若に比すべきもの、訶梨跋陀羅の釋（Haribhadra's Aṣṭasāhasrikāya Prajñāpāramitāyā Vyākyā）ありて行はる。

四、金剛般若（Vajracchedikā prajñā pāramitā）本書は金剛能斷般若の梵本にして、前三本と異り我國にも弘法大師將來と稱するもの傳はりて世に行はる。アネクドータ・オキソニエンシヤ第一卷（Anecdota Oxoniensia, Aryan series Vol I Part I）として出版せられたるものこれなり。

五、般若心經（Prajñā pāramitā hṛdaya sūtra）これ又大小二種の梵本我國に行はれ、前叢書第一卷第三編として出版せらる。簡短にして般若の要旨を盡くす。

以上五本現存梵本として研究せらるゝものなるが、尼波爾傳説に依らば大般若拔抄として、頌十萬、二萬五千、一萬、八千の四種ありと云ふ。而してこの四本の存在確かなるのみならず、更に拔抄數種あるもの丶如し。若し西藏所傳に依らば甘珠（Kandjour）の第二に位し、ワシリエフ氏

(Wassiljew)は蕃藏般若の中に十萬、二萬五千、一萬八千、一萬、八千及び七百頌の諸波羅蜜あり。尙金剛と心經とあり、而して十萬頌經も尙三大波羅蜜の最少なるものなりと云はるとせり。若し勝天王般若の如きは雜論部に編して正法中に算せざるのみ、存せざるにあらず。

【支那譯の般若經】 後漢の末葉に竺佛朔支婁迦讖等小品般若を傳へてより、漸出漸增、その十種中に於て小品大品心經等譯次各々十指を屈するに近し。今表を以て示す。

一　小品般若

(經名)	(別名)	(譯時)	(譯人)	(卷)	(品)	(存缺)
一、道行經		漢靈、熹平元(一七二)	竺佛朔	一	一?	缺
二、般若道行品經	摩訶般若波羅蜜	漢靈、光和二(一七九)	支婁迦讖	十(或八)	三十	月六(二一—四五)
三、大明度無極經	明度	吳權、黃武(二二三—二三八)	支謙	六(或四)	三十	月八(九—二四)
四、吳品經		吳權、太元元(二五一)	康僧會	五	十	缺
五、小品經	(更出經)	晉武、泰始八(二七二)	竺法護	七		缺
六、摩訶般若波羅蜜道行經	(略出)	晉惠帝(二九〇—三〇六)	衛士度	二		缺
七、大智度經	大智度無極	東晉(三一七—四二〇)	祇多密	四		缺
八、摩訶般若波羅蜜鈔經	長安品又云須菩提品	符秦建元十八(三八二)	曇摩蜱 佛護	五(或四)	十三	月八(二五—五八)
九、小品般若波羅蜜經		姚秦弘始十(四〇八)	鳩摩羅什	十	廿九	月六(四六—八七)
十、大明度經		北涼(三九七—四三八)	道龔	四		缺

十一、大般若經第四會	唐顯慶五―龍朔三（六六〇―六六三）	玄奘	十八	廿九	日七（八〇―）日八（一―七二）
十二、佛母出生三法藏般若波羅蜜多經	宋太宗（九八〇―一〇〇〇）	施護	二十五	三十二	月七（一―七四）

○備考。十の大明度經は大周刊定錄に四卷百六紙とせるも經錄の誤ならんか。

二、大品般若

（經名）	（別名）	（譯時）	（譯人）	（卷）	（品）	（存缺）
一、放光般若波羅蜜經	放光般若	西晋、元康元（二九一）	無叉羅	廿（或三十）	九十	月一、二
二、光讃般若波羅蜜經	光讃	西晋、泰康七（二八六）	法護	十（或十五）	廿一（或廿七）	月五
三、摩訶般若波羅蜜經	大品	姚秦、弘始五（四〇三）	羅什	廿七（或三十）	九十	月三、四
四、大般若經第二會		唐顯慶五龍朔三（六六〇―六六三）	玄奘	七十八	八十五	日一―四（八三）

○備考。第一表の八、鈔經は異を出すと云ふ、具譯せば或は大品に屬すべき疑あり。本表の第一は譯第二に後くるゝも傳來は泰康三年に在り。第三は今國譯する所なり。三寶記等度無極譬經三卷（或四卷）大品に出づとせるも開元錄これを削る。

三、仁王般若

（經名）	（別名）	（譯時）	（譯人）	（卷）	（品）	（存缺）
一、仁王護國般若波羅蜜經	仁王般若	姚秦	鳩摩羅什	二	八	月九（四六―五三）
二、大唐新翻護國仁王般若經		唐、永泰元（七六五）	不空	二	八	閏七（二一―九）

○備考。今表第一を羅什に屬するも恐く什以後梁以前に成れるものなるべし。天台仁王經疏には今經前後三本あり。一晋永嘉年（三〇七―三一二）法護出二卷仁王般若、二秦弘始三（四〇一）鳩摩羅什出二卷佛說仁王護國般若波羅蜜、三梁

眞諦大同年（五三五―五四五）出一卷仁王般若と云ふも二譯倶に譯記的確ならず、圓測の疏も亦粗この類なり。

四、金剛般若

（經名）	（別名）	（譯時）	（譯人）	（卷）	（品）	（存缺）
一、金剛般若波羅蜜經	金剛般若	姚秦、弘始四（四〇二）	鳩摩羅什	一		月九（一九―二三）
二、金剛般若波羅蜜經		北魏、永平二（五〇九）	菩提流支	一		月九（二三―二六）
三、金剛般若波羅蜜經		陳、天嘉三（五六二）	眞諦	一		月九（三〇―三四）
四、金剛能斷般若波羅蜜經	金剛斷割般若波羅蜜	隋、大業（六〇五―六一六）	達磨笈多	一		月九（三四―三八）
五、能斷金剛般若波羅蜜多經		唐、貞觀廿二（六四八）	玄奘	一		月九（四一―四六）
六、大般若經第九會		唐、龍朔三（六六三）	玄奘	一		日九（七二―七七）
七、能斷金剛般若波羅蜜多經		唐、長安三（七〇三）	義淨	一		月九（三八―四二）

○備考。本經全本なるや否やにつき嘉祥の疏に大悲比丘本願經の末記を引き、經本と八卷、今は唯格量功德一品あるのみとするも依用しがたしと論ぜり。

五、般若心經

（經名）	（別名）	（譯時）	（譯人）	（卷）	（品）	（存缺）
一、摩訶般若波羅蜜大明呪經		秦、弘始四―一五（四〇二―四一三）	鳩摩羅什	一		闕八（六七）
二、般若波羅蜜多心經		唐、貞觀二三（六四九）	玄奘	一		月九（五六）
三、般若波羅蜜多那經		唐、長壽二（六九三）	菩提流志	一		缺
四、摩訶般若隨心經		唐、中宗（六九五―七一〇）	實叉難陀	一		缺

五、普遍智藏般若波羅蜜多心經		唐、開元廿六(七三八)	法月	一		月九(五七)
六、般若波羅蜜多心經		唐、貞元六(七九〇)	般若、利言	一		月九(五七)
七、般若波羅蜜多心經		唐、大中(八四七—八五九)	智慧輪	一		續八七套四
八、聖佛母般若波羅蜜多經		宋(九八〇—一〇〇〇)	施護	一		月九(五八)

○備考。三藏記には失譯有本として摩訶般若波羅蜜神呪一卷、般若波羅蜜神呪一卷異本とし、未見に般若波羅蜜偈一卷を錄す。大周錄には蜜呪を吳支謙譯とせり。この他寫傳せる義淨譯の心經あり。

六、濡首般若

(經名)	(別名)	(譯時)	(譯人)	(卷)	(品)	(存缺)
一、濡首菩薩無上淸淨分衞經	決了諸法如幻化三昧	宋、(四二〇—四七八)	翔公	二		月九(一二—一九)
二、大般若經第八會		唐、龍朔三(六六三)	玄奘	一	那伽室利分	日九(六八—七二)

○備考。三寶記には漢靈帝中平五(一八八)年嚴佛調の第一譯あることを云ふ。後人これに基き翔公譯を第二出とす。

七、文殊般若

(經名)	(別名)	(譯時)	(譯人)	(卷)	(品)	(存缺)
一、文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經		梁、天監中(五〇六—五一二)	曼陀羅仙	二		月九(一一—一六)
二、同		梁天監普通(五一三—五二〇)	僧伽婆羅	一		月九(六—一一)
三、大般若經第七會		唐、龍朔三(六六三)	玄奘	二	曼殊室利分	日九(五九—六八)

八、勝天王般若

(經名)	(別名)	(譯時)	(譯人)	(卷)	(品)	(存缺)
一、勝天王般若波羅蜜經		陳、天嘉六(五六五)	月婆首那	七	十六	月八(五八—九一)

二、大般若經第六會		唐、龍朔三（六六三）	玄奘	八	十七	日九（三三―五九）

九、大般若

（經名）	（別名）	（譯時）	（譯人）	（卷）	（品）	（存缺）
一、大般若波羅蜜多經	大般若	唐、顯慶五―龍朔三（六六〇―六六三）	玄奘	六百	二百七十五	洪荒日三帙

十、理趣般若

（經名）	（別名）	（譯時）	（譯人）	（卷）	（品）	（存缺）
一、大般若經第十會第五百七十八般若理趣分		唐、龍朔三（六六三）	玄奘	一		日九（七七―八一）
二、實相般若波羅蜜經		唐、長壽二（六九三）	流支	一		成三（四六―四八）
三、金剛頂瑜伽理趣般若經		唐、開元七―二〇（七一九―七三二）	金剛智	一		閏八（一四―一七）
四、大樂金剛不空眞實三麼耶經般若波羅蜜多理趣品		唐開元八太暦九（七二〇―七七四）	不空	一		閏八（一―一四）
五、徧照般若波羅蜜經		宋（九八〇―一〇〇〇）	施護	一		成三（四九―五一）

以上小品より理趣に至る十種相次で傳譯せられたる外、宋施護譯の了義、五十頌聖般若、帝釋般若波羅蜜多心經各一卷、惟淨の開覺自性般若四卷あり、何れも月帙第九卷に收む。

【般若經の部黨】　前項表示せる小品乃至理趣の十種傳譯せられたる中に於て、第九大般若に十六會を具備し、第三仁王を除かば、他は皆その十會以前の別出に外ならず。然るに大經の傳來せざるに際し部黨の論一ならず。その古說、これを支遁に見る。即ち大小品對比要抄序に依るに小品を以て滅後大品より抄出せるものと云ひ、二本を以て文の殷約に過ぎずとし、又大小二品倶に本

品に出づ、本品の文六十萬言あり、印度に行はるとす。その他聽くべきの言少からず。次に道安は般若研究に篤かりしも、諸本本別の比較頗る明かならず、彼が比較せるもの三種を降らず、道行序に三十萬言と云へるは一萬頌たるべく、鈔經序に二十千失盧審かには十七千二百六十首盧殘二十七字と云へるは一萬八千頌に比すべく、六十萬餘言とせる大品は二萬五千頌般若と云ふべきなり。若八千頌を加ふれば四種となる。然るに彼は區分を主とせず歸一を事とせるが爲に、鈔經も殆ど小品と別なからしめ、放光光讃も道行の全備せるものに外ならずとするに至れり。部黨の論更に明白なるは羅什の所傳たり。その資僧叡の小品序に四種あるをいふ。即ち十萬偈大本、六十餘萬言大品、三十萬言小品、六百偈經これなり。道安の鈔經原本たる一萬七千餘の般若は別種とせざりしが如し。梁武帝は注解大品序に當時般若部黨論少からざるを擧ぐ、中に仁王には前説摩訶般若、金剛、天王問、光讃四部を列ぬるも、仁王は疑經なりとしてこれを捨て、自ら大品の五段、勸説、命説、願説、信説、廣説を五時に擬するは部黨論としては當らず。此の如く部黨の説久しくして尚明かならざるに際し八部般若説成る、菩提流支の傳へたる金剛仙論に列ぬる所なり。第一部十萬偈(大品)第二部二萬五千偈(放光)、第三部一萬八千偈(光讃)、第四部八千偈(道行)、第五部四千偈(小品)、第六部二千五百偈(天王問)、第七部六百偈(文殊)、第八部三百偈(金剛

般若）なりと。これ諸本を統合するに便なるを以て後人依用するもの多し。然れども諸部般若の傳說に强て既譯諸本を配當せる嫌なしとせず。降りて玄奘六百大般若を譯出するに及び、四處十六會具備し、人をして般若大本の圓具せるに驚かしむ。但これ根本般若と枝末般若との大集に外ならず。而も學者これを明かにせず、大般若を本經とし、他本はその一會の別出なりと解すること、開元錄以下皆然り。支那に行はれたる部黨論三本四部五部八部十六會等、經典の譯出に伴ひ明白を加へたるが如くなるも、大本必ずしも初出經ならず、小會直ちに別出と云ふ能はざるを以て、大本別出とするは牽强の誹を免がれず。

今諸般若比較の結果を概括するに、大般若初五會の比較に於ては、玄奘譯二十萬頌によらば、初會十二萬五千頌を基本とするの適當なるを認め、更に玄奘譯第一會よりも、梵本十萬頌に原始的性質を認む。然れども別に新舊諸譯諸會の差異を明かにせる結果は、四會五會の小品は三會以前の大品に比し基礎たることを示せり。卽ち大品は小品を注解敷衍增語せるものなり。般若が三學の一たるは原始佛敎これを認め、慧眼を尊重するに怠らざるも、尙是れ一乘佛法の所詮に外ならず。例令ひ所化定に長ずると慧に敏なるとあり、佛化律儀を主とすると定慧を本とするとあるも、尸羅淸淨ならざれば三昧現前せず、大寂靜に住せずば慧炬明朗ならず、三學相資は一乘法

門の第一義たりしなり。然るに二藏の分裂は敎に化制を分ち、業に表無を辨じ、法藏の所詮は三昧般若を主とするものとなれり。而も分化此に止まらず、定慧旣に二面たり、法藏永く一樣なる能はず、三藏成りて慧學は論藏の詮顯する所となる。阿毘曇成立の日に於て般若は所詮たり。かの分別說部が波致參毘陀（Patisambhidā）を重んじ、般若品に摩訶般若を廣說し、毗崩伽（Vibhaṅga）に諸智品ありて般若を列擧するが如き、舍利弗阿毘曇非問分に諸智を辨じ、品類識身の諸論には前數者に及ばざるも十智七十七智等の說定まれるものあり。獨り慧智に於て然るのみならず、蘊處界根諦緣八法の分別を事とし、三界受想結縛を論じ、禪無量無色念處正勤神足根力覺道を談じ、超界聖果を明かにするが如きも、聖慧般若の了了を期するものならざるなし。論藏の所詮は般若なりと雖も、阿毘曇は法相を逐て枝末に馳せ三昧所現の般若と相距ること遠し。これ論藏が經藏と分離し、思辨が靜慮と隔絕せる結果なり。此に至て誠實に三昧を修し、果佛の內證を般若に求めたるものゝ滿足する能はざる所となる。彼等は般若の名に依て阿毘曇三藏以外別に原始般若を闡明し、枯渇着有の佛敎に蘇生の妙劑を投せんとし、大乘般若經の成立を見るに至れり。般若を解する者曰く、是れ大乘の阿毘曇と。諸法不可得を示し、小乘法相の決定相を打破し諸法の如實性相住位に通せしむるものとしてこの解正し、若し單に法相を分別するを阿毘曇の任

とし、この經を以て大乘法相を示すものとせば當らざるなり。眞實阿毗曇たる般若經典を成すに際し、結集者は原始佛教と滅後連綿たる度生の事實とを忘るゝものにあらざるも、切要を求めて須菩提の無諍三昧に結歸し、一切法相空無相無作不可得の鐵槌を揮ひ、釋尊會上解空須菩提をして甚深般若を廣說せしむ。過去の佛教に脫胎せるは、本經の法相條目に徵するも、亦須菩提を上首とせるに觀るも明かなり。本經の法相條目とは蘊處界三科、無明等十二緣起、六界四緣六波羅蜜十八空十眞如不思議界、念處等三十七道品、四聖諦四靜慮四無量四無色定、八解脫八勝處九次第定十一切處、三三昧一切三昧門一切陀羅尼門、十地四果五眼六通十力四無所畏四無礙十八不共法、四攝三十二相八十隨好不錯謬法恒常捨行、一切智道種智一切種智、辟支佛道一切菩薩摩訶薩行無上正等菩提これなり。本經主として反覆せる法相が如何に滅後佛教に成就せるかを學ぶとき前出阿毗曇に荷負する所を知るを得べし。又無諍三昧は中阿含これを須菩提族姓子に屬し、彼の解空超逸なるは諸古偈に發して增一阿含等の經說となる。無諍法門として不可見不可聞不可得非樂非我寂靜遠離空無相無願、善無罪無漏無染清淨、平等無二出世間無爲として廣說するも、緣起無相の所觀に外ならず。此等の點を明かにせば諸會中獨り小品の基礎たるは瞭然たり。今一々諸會比較を表示し難きを以てこの概言に止む。

若し小品に關し梵漢多數の異本を比較するときは、梵本は首尾に附加せる所を除き、本文多少の出入ありと雖も、大體施護譯本に酷似せり。梵本の稿本中年次の知らるゝ最も古きものは西紀千六十一年なりと云へば、施護譯本が西紀九百八十年に傳來せると、年代近邇し、此等原本が西紀第十世紀、今より約一千年前に存したるを明かにするも、古本とは同一ならず、玄奘譯第四會は隨順品以下を除き、他は八千頌梵本に近し。隨順品には隨順般若を細說し、前品に出でたる十二緣起遠離二邊觀を敷衍せるもの、緣起觀と般若實相觀と接合せる、注意すべき一品なるが、前代諸經に顯はれず。遡りて羅什に至る四本は相互類似す、先出の道行を基礎とし、明度は修文に止る。鈔經稱して別本の特色を譯出すと云ふも、道行の抄出更正に外ならず。羅什譯は道行に倣似する所あるも、亦原本の差異を傳ふ。故に六存本中支識羅什玄奘施護の所依各別なりと云ふべし。先出のもの原始に近きを豫想するも、後譯も亦捨つべきにあらず・先人の抄略後人これを修補することなしとせざるなり。若し玄奘譯を補ふに常啼以下の諸品を以てせば完全なる小品を得べし。然れども粗道行を以て要を盡し古を傳ふるものとして妨げなし。斯の如く小品を第一とし、大品これに次ぎ、第六會以下の諸本更にこれに次ぐ、獨り金剛般若は道行に近似せる古品たるも、道行ありて成立すべく、大品同時とせば大差なからん。第一會は十萬頌大經尊重の思想

と共に、大方廣の先出たるべし。十六會中最も新しきは第十會たるべく、これを基として實相般若となり、密敎般若續出し、一系の脈絡絶えず。小品流行して他の四會心經等この後に出づ、而も龍樹は大品の流行を見てこれを釋述せると、支那に早く放光光讃の傳譯を見たるとによりて此等聖典が世間に出づる最下限を知ることを得べし。略して諸部般若の關係前後を敍したれば、此に上表十部に關し、第一に諸部互攝表を以て十部互に攝すると不とを表し、第二に五會互攝を示すに止む。

一、諸部互攝表

大般若十六會	卷數	卷次	品數	縮刷藏經	同本異譯
一、十萬頌	四百	一——四〇〇	七十九	洪荒二帙	
二、二萬五千頌	七十八	四〇一—四七八	八十五	日一（一……）二、	大品（放光　月一、二／光讃　月五／大品　月三、四）
三、一萬八千頌	五十九	四七九—五三七	三十一	日四（八三……）	
四、八千頌	十八	五三八—五五五	二十九	日七（八〇……）一、	小品（道行　月六／小品　月六／大明　月八／鈔　月八）
五、八千ノ分（四品缺）	十	五五六—五六五	二十四	日八（七二……）	
六、蕃　缺	八	五六六—五七三	十七	日九（二三……）八、	勝天王　月八
七、七百頌	二	五七四—五七五	曼殊室利分	日九（五九……）七、	文珠（曼陀譯　月九／婆羅譯　月九）
八、蕃　缺	一	五七六	那伽室利分	日九（六八……）六、	濡首　月九

九、三百頌	一	五七七	能斷金剛分	日九(七二…)四、金剛(六本)月九
十、百五十頌	一	五七八	般若理趣分	日九(七七…)十、實相(四本)成三閏八
十一、以下五品十四卷 一千八百頌	五	五七九―五八三	布施波羅蜜多分	日九(八一…)
十二、	五	五八四―五八八	戒波羅蜜多分	日十(一四…)
十三、	一	五八九	忍波羅蜜多分	日十(三四…)
十四、	一	五九〇	勤波羅蜜多分	日十(三九…)
十五、	二	五九一―五九二	靜慮波羅蜜多分	日十(四四…)
十六、二千一百頌	八	五九三―六〇〇	般若波羅蜜多分	日十(五三…八九)

○備考。般若心經は直ちに十六會中に攝せざるも、大品第三習應品中に攝することを得、仁王般若は敎限他の般若と著しく異りて大般若中に攝せず。表中十萬頌等は西藏本十六萬四千五十頌を配す、同本異譯は前の列表を示す。

二、大般若初五會互攝比較

初會		第二會		第三會		第四會		第五會	
卷次	品目	卷次	品目	卷次	品目	卷次	品目	卷次	品目
一―二	一、緣起	四〇一	一、緣起	四七九(日四八三右―)	一、緣起	(イ)五三八(日七〇右―)	一、妙行	五五六(日八七三右―)	一、(イ)善現品
三―四	二、學觀	四〇二	二、歡喜	―四八〇(同八五右―)	二、舍利子	(ロ)		(ロ)	
同		同	三、觀照	四八〇(同八八右―)	同				
同―七	三、相應	四〇三	同	―四八一(同八九左―)	同				
同―九	四、轉生	四〇四 四〇五	同	―四八二(同五一左―)	同				

一〇	五、讚勝德	四〇七	四、無等等						
同	六、現舌相	同	五、舌根相						
二一―三六	七、教誡教授	四〇六―四〇八	六、善現	四八三―(同 七―左)	三、善現	(二)五三八(同 右八―〇)	同	(八)五五六(同 右七―三)	同
同	八、勸學	四〇八	七、入離生	四八四(同 左一―四)	同	同(同 左八―〇)	同	同(同 左七―三)	同
同―三七	九、無住	四〇九―	八、勝軍	同(同 右一―六)	同	同(同 右八―一)	同	同(同)	同
三八―四一	十、般若行相	四一〇―	九、行相	四八五―(同 左一―八)	同	同(同 左八―一)	同	同(同 右七―四)	同
四一―四五	十一、譬喩	四一〇	十、幻喩	四八五(同 右二―二)	同	同(同 右八―二)	同	同(同 右七―五)	同
同―四六	十二、菩薩	四一一	十一、譬喩	四八六(同 右二―四)	同	同(同 左八―二)	同	同(同 同)	同
四七―四九	十三、摩訶薩	同	十二、斷諸見	同(同 右二―七)	同	同(同 同)	同	同(同 同)	同
	同	四一三―	十三、到彼岸	四八七―(同 左二―七)	同	同(同 右八―三)	同	同(同 同)	同
	同	四一三	十四、乘大乘	四八七(同 左三―〇)	同	同(同 同)	同	同(同 同)	同
同―五一	十四、大乘鎧	四一三	十五、無縛解	四八八―(同 左三―一)	同	同(同 同)	同	同(同 同)	同
同―五六	十五、辨大乘	四一四―	十六、三摩地	四八九―(同 右三―五)	同	同(同 左八―三)	同	同(同 左七―五)	同
	同	四一五―	十七、念住等	四九〇―(同 右三―九)	同	同(同 同)	同	同(同 同)	同
	同	四一六―	十八、修治地	四九一―(同 左四―三)	同	同(同 同)	同	同(同 同)	同
	同	四一七―	十九、出住	四九二―(同 左四―九)	同	同(同 同)	同	同(同 同)	同
同―六二	十六、讚大乘	四一八	廿、超勝	四九三(同 左五―六)	同	同(同 同)	同	同(同 同)	同

同	同	四二〇—	廿一、無所有	四九五—(同右五—九)	同	同(同　同)	同	同(同　同)	同
同	十七、隨順	四二〇	廿二、隨順	四九五(同右六—八)	同	同(同　同)	同	同(同　同)	同
同—七〇	十八、無所得	四二三—	廿三、無邊際	四九六—四九七(同左六—九)	同	同(同　同)	同	同(同　同)	同
同—七四	十九、觀行	四二三	同	四九七(同左七—七)	同	同(二)(同右八—四)	同	同(八)(同右七—六)	同
同—七五	廿、無生(ホ)	四二四—	廿四、遠離	四九八—(同　同)	同	五二九—(同　同)	同	同(同　同)	同
同—七六	廿一、淨道		同		同		同		同
七七—八一	廿二、天帝	四二五—四二六	廿五、帝釋	四九九—(同右八—二)	四、天帝	五二九(同左八—五)	二、帝釋	同(同左七—六)	二、天帝
同—八二	廿三、諸天子		同		同		同		同
八三—八四	廿四、受教	四二六	廿六、信受	四九九(同右八—六)	同	同(同左八—六)	同	同(同左七—七)	同
同	廿五、散花	同	廿七、散花	五〇〇(同左八—七)	同	同(同　同)	同	同(同　同)	同
八五—八九	廿六、學般若		同		同	同(同　同)	同	同(同　同)	同
同—九八	廿七、求般若		同		同	同(同右八—七)	同	同(同右七—八)	同
同—九九	廿八、歎衆德	四二七	同	同(同右八—九)	同	同(同左八—七)	同	同(同　同)	同
同—一〇三	廿九、攝受	同	廿八、授記	同(同右九—〇)	五、現窣堵波品	同(同　同)	同	五三七(同左七—八)	三、窣堵波
	同		同		同	同(同右八—八)	三、供養窣堵波	同(同　同)	同
	同	四二八—	廿九、攝受	五〇一—(同左九—一)	同	五四〇(同　同)	同	同(同　同)	同
	同	四二八	三十、窣堵波	五〇二—(日六—二左)	同	五四〇(同右八—九)	同	同(同右七—九)	同

同一六八 三十、校量功德	四二九 三十一、福生	五〇二(同六—右)六、稱揚功德	同(同左九—一) 同	同(同左八—〇) 同
同	同 三十二、功德	同(同六—左) 同	同(同右九—二) 同	同(同 同)四、神呪
同	同 三十三、外道	同(同七—左) 同	同(同左九—二) 同	同(同右八—一) 同
同	四三〇— 三十四、天來	五〇三—(同八—左) 同	五四一—(同右九—三) 同	同(同左八—一) 同
同	四三〇 三十五、設利羅	五〇三(同右一—一)七、設利羅	五四一(日左八—二)四、稱揚功德	五五八(同右八—三)五、設利羅
同	同	同(同左一—三)八、福聚	同(同四—右)五、福門	同(同右八—四) 同
同	四三一 四三二 三十六、經文	五〇四—(同右一—五) 同	五四二—(同 同) 同	同(同 同)六、經典
同一七一 三十一、隨喜廻向	四三三— 三十七、隨喜廻向	五〇五—(同右一—九)九、隨喜廻向	五四三 五四四(同左一—〇)六、隨喜廻向	同(同左八—五)七、廻向
同一八一 三十二、讃般若	四三四 三十八、大師	五〇六—(同右二—四)十、地獄	五四四(同右一—七)七、地獄	五五九(同左八—七)八、地獄
一八一 三十三、謗般若	四三五— 三十九、地獄	五〇六(同左二—五) 同	同(同右一—八) 同	同(同左八—八) 同
一八二—一八六 三十四、難信解	同	同	同	同
同	同	同	五四五(同左一—九)八、清淨	同(同右八—九) 同
二八五—二八七 三十五、讃清淨	四三六 四十、淸淨	五〇七—(同左二—七)十一、歎淨	同(同 同) 同	同(同左八—九)九、清淨
同一九二 三十六、著不著相	同	同	同	同
同一九六 三十七、說般若相	四三七 四十一、無標幟	五〇七(同右三—一) 同	同(同左二—〇) 同	同(同右九—〇) 同
同	同	同(同右三—三)十二、讃德	同(同左二—一)九、讃歎	同(同左九—〇) 同
同一九七 三十八、波羅蜜多	同 四十二、不可得	同(同右三—四) 同	同(同右二—二) 同	同(同右九—一) 同

同―三〇二	三十九、難問功德	四三八―四四〇	四十三、東北方	五〇八―五〇九（同左三―四）	十三、陀羅尼	五四六―（同左二―二）	十、總持
三〇三―三〇四	四十、魔事	四四〇	四十四、魔事	五〇九（同左四〇―）	十四、魔事	五四六（同左二―六）	十一、魔事
	同	四四一―	四十五、不和合	同（同右四―二）	同	五四七―（同右二―八）	同
三〇五―三〇八	四十一、佛母	四四二	四十六、佛母	五一〇（同右四―五）	十五、現世	五四七（同右三―〇）	十二、現世間
同―三一〇	四十二、不思議等	四四三	四十七、示相	同（同左四―七）	同	同（同右三―二）	同
	同		同	五一一（同左四―九）	十六、不可思議等品	同（同右三―三）	十三、不思議等
同―三一一	四十三、辨事	四四四	四十八、成辨	同（同左五―〇）	十七、譬喩	五四八（同左三―三）	十四、譬喩
同―三一三	四十四、衆喩	四四五―	四十九、船等喩	同（同右五―二）	同	同（同左三―四）	同
同―三一六	四十五、眞善友	四四六―	五十、初業	五一三（同左五―四）	十八、善友	同（同左三―五）	十五、天讃
同―三一八	四十六、趣智	四四六	五十一、調伏	同（同左五―七）	同	同（同左三―六）	同
同―三二四	四十七、眞如	四四八―	五十二、眞如	五一三―五一四（同左五―九）	十九、眞如	同（同右三―七）	同
	同		同		同	五四九―（同左三―七）	十六、眞如
同―三二五	四十八、菩薩住		同		同		同
同―三二七	四十九、不退轉	四四八	五十三、不退轉	五一四（同右六―五）	廿、不退相	五四九（同左三―九）	十七、不退相
	同	四四九	五十四、轉不轉	五一五―（同左六―八）	同	同（同右四―一）	同
三二八―三三〇	五十、巧方便	四五〇―	五十五、甚深義	五一六―（同左七―二）	廿一、空	五五〇―（同右四―二）	十八、空相
	同		同		同	五五〇（同右四―四）	十九、深功德

五六〇―（同左九―一）	十、不思議
五六〇（同右九―四）	十一、魔事
同（同右九―五）	同
同（同左九―五）	十二、眞如
五六一（日―一右）	十三、甚深相
同（同―一左）	同
同（同―二右）	同
同（同―三右）	十四、船等喩
同（同 同）	十五、如來
同（同―四右）	同
同（同―四左）	同
五六二―（同 同）	同
	同
五六二（同―六右）	十六、不退
同（同―七右）	同
同（同―八右）	十七、貪行
五六三―（同―九右）	同

	四五一 五十六、夢行	五一六（同右七｜七） 同	同（同左四｜四） 同	五六三（同右一｜〇） 同
同一三三一 五十一、願行	同 五十七、願行	｜五一七（同左七｜七） 同	同（同左四｜五） 同	同（同左一｜〇） 同
三三二 五十二、殑河天	四五一 五十八、殑伽天	五一七（同右八｜一） 廿二、殑伽天	同（同右四｜六） 廿、殑伽天	同（同右一｜一） 十八、姉妹
同一三三五 五十三、善學	四五二 五十九、習近	｜五一八（同左八｜一） 廿三、巧便	｜五五一（同左四｜六） 廿一、覺魔事	同（同｜二左） 同
同一三三六 五十四、斷分別	｜四五四 六十、增上慢	｜五一九（同左八｜四） 同	五五二（同左四｜八） 同	同（同左一｜二） 十九、夢行
同	同	同	｜五五二（同右五｜一） 廿二、善友	五六四（同右一｜四） 廿、勝意樂
三三七｜三四一 五十五、巧便學	｜四五五 六十一、同學	｜五二〇（同左九｜一） 同	五五二（同左五｜三） 廿三、天主	同（同左一｜五） 同
同	同	同	同（同左五｜四） 廿四、無雜無異	同（同右一｜六） 廿一、修學
同	｜四五六 六十二、同性	五二〇（同左九｜五） 廿四、學時	｜五五三（同左五｜六） 廿五、迅速	同（同右一｜七） 廿二、根栽
同一三四二 五十六、願喩	四五六 六十三、無分別	五二二（日七｜一右） 廿五、見不動	五五三（同右五｜九） 廿六、幻喩	｜五六五（同左一｜七） 同
同一三四六 五十七、堅等讃	四五六 四五七 六十四、堅非堅	｜五二三（同｜三左） 同	｜五五四（同右六｜一） 廿七、堅固	五六五（同左一｜八） 同
同	同	同	同	同（同左一｜九） 廿三、付囑
同一三四七 五十八、囑累	｜四五八 六十五、實語	五二三（同｜七左） 同	五五四（同左六｜三） 同	同（同右二｜〇） 同
同	同	同	同（同右六｜四） 廿八、散花	同（同 同） 同
同	同	同	同	同（同左二｜五） 廿四、見不動
同一三四八 五十九、無盡（ホ）	四五八 六十六、無盡	五二五（同左一｜〇） 廿六、方便善巧	同（同左六｜六） 同	同（同右二｜二） 同
三四九 三五〇 六十、相引攝品	四五九 六十七、相攝	同（同左一｜一） 同	（ヘ）	（ヘ）

三五一—三六三 六十一、多問不二	四六〇—四六三 六十八、巧便	五二四—五二六（同左一—一五） 同
同—三六五 六十二、實説	四六三 六十九、樹喩品	五二六（同左二—二六）
同—三六六 六十三、巧便行	四六四 七十、菩薩行	同（同左二—二八） 同
同	同 七十一、親近	同（同左二—二九） 同
同—三七二 六十四、遍學道	四六五— 七十二、遍學	五二七（同左三—三〇） 卅七、慧到彼岸
同—三七三 六十五、三漸次	四六六— 七十三、漸次	五二八（同左三—三五） 卅八、妙相
同—三七八 六十六、無相無得	四六七— 七十四、無相	五二九—（同右三—三九） 同
同—三七九 六十七、無雜法義	四六八— 七十五、無雜	五三〇—（同左四—四二） 同
同—三八三 六十八、諸功德相	四六九—四七一 七十六、衆德	五三一—（同左四—四五） 同
同—三八六 六十九、諸法平等	四七三— 七十七、善達	五三二（同右五—五四） 卅九、施等
同—三九〇 七十、不可動	四七四— 七十八、實際	五三三—五三四（同右五—五八） 同
同—三九三 七十一、成熟有情	四七五— 七十九、無閡	五三五—（同左六—六三） 同
同—三九四 七十二、嚴淨佛土	四七六 八十、道士	五三六—（同右六—六九） 三十、佛國
同—三九五 七十三、淨土方便	四七七 八十一、正定	五三六（同左七—七一） 卅一、宣化
同—三九六 七十四、無性自性	同 八十二、佛法	五三七—（同左七—七四） 同
同	四七八 八十三、無事	五三七（同左七—七五） 同
同—三九七 七十五、勝義瑜伽	同 八十四、實説	同（同右七—七七） 同

三九七	七十六、無動法性	同	八十五、空性	同（同右七九—）	同
三九八 三九九	七十七、常啼菩薩	（ト）			
同—四〇〇	七十八、法涌菩薩				
四〇〇	七十九、結勸				

○備考。本表の第一會第二會は相互對照し、第三會以下は第二會に對し、且各その直前の會に對照す。（イ）第四會第五會の第一を第一會緣起品に比するも、實は善現品の前序として二行半の記事に過ぎず。（ロ）第四第五會が舍利子品を缺如するは經文比較研究上注意に値す。（ハ）第五會文約にして初二會の廣長なるに似て、乘大乘の如きは僅に一句、其他長さも二三行に過ぎず。（ニ）第四會は第五會より長きものあるも大體第五會に同じ。（ホ）初會無生品以下無盡品に至る部分は、五會一致し廣略の別に過ぎず、廣文は略說を豫期す、一々略說を徵して解釋するを常とすればなり。（ヘ）第四第五會が以下重說に近き諸品を有せざるは、舍利子品を缺如せるに同じ。（ト）第二會以下諸會俱に初會の常啼品以下を缺如するは、蕃藏の例に見る如く、初會に具說せるを以て省略せるものと解することを得るも、小品大品の如く具備するを當然とす。

【般若の佛說】 諸部般若の內容は區々たり、說者も佛陀の開示あり、弟子羅漢菩薩諸天あるも、五種說人等く法印に契ひ、佛陀の印可を受くるが故に佛說なりとするを常とす。然れども此に說くが如き幾許を以て敎主釋尊に屬すべきか、若くは全然滅後の思索に出づるべきか、これを佛說とせばその意義如何に解すべきかを略說せん。

一、非佛說論　遺法護持を重んずるや、自己傳承に異るものを排して佛說に非ずとするは頗る古し。蓋し佛說の見解一ならず、持阿含、持毗尼、作論議、行禪の分裂せるも、道因聲起の眞妄を論諍

せるも、二藏三四五藏等の差異あるも、島史に傳承法律をば異派に別說し、尼渧娑波致參毗陀六分論等を認めざるものありとするも、非佛說論の凌轢久しきを示す、啻に大乘菩薩藏の否認のみならざるなり。殊に大乘非佛說論として見るも、既に大乘經流通の初期に發す。正法難信は奕世の事實にして初正覺時の歎聲なり。大經に至りて此の感更に切なるは、傳道を思ふ深くして不信の強きに驚き、義理を解く微にして俚耳入り難ければなり。即ち信毀品には「人あり是の甚深般若波羅蜜を說くを聽く時、毀呰して信ぜず、是の言を作す、是の法を學すべからず、是法に非ず、善に非ず、佛敎に非ず、諸佛是の語を說き給はず」と。魔事品も亦これを述べて誡とす。龍樹は智度論第六十三卷にこれを解して、滅後五百年に諸部決定相を求め、般若の諸法畢竟空と說くを聞き刀心を傷くる如しと云ひ、又般若を破するに、佛口の所說、弟子誦習書作せる經卷を、愚人謗りて言ふ、是れ佛說に非ず、是れ魔若くは魔民の所作、亦是れ斷滅邪見人の手筆、莊嚴口力者の說なりと、或は言ふ、是れ佛說なりと雖も其の中處處餘人增益すと、此の如き破人は大地獄に墮すべき狂夫なりと辨ぜり。又六十八卷には六足阿毗曇論議分別を以て眞般若なりとするを聲聞邪見とせり。經者聲聞所觀に異るを感ずるに由りて、非佛說論を豫防せりと解すべき點あるも、大品法華泥洹皆これを力說するは、諸經流布の日新出經典に對する非佛說論激烈なりしに因るべ

し。般若非佛說論は各地小乘敎徒の唱和せること、朱士行の大品將來の日、于闐小乘學徒は漢地沙門婆羅門書を以て正典を惑亂せんとするが故に禁斷せんことを請願せりと云ひ、羅什龜茲に般若を得るや魔その讀誦を妨ぐと云ふが如きに徵して知るべく、印度に論爭絕えざるは續出せる經典聲聞彈呵の聲を大にし、無著堅意世親無性等大乘の佛說たるを論辨せるに照して明かなり。支那多く般若を尊ぶも慧導は大品を非斥し、法度は通じて大乘を遮遣するが如きものなきにあらず。

二、佛說論。非佛說論に對し經は魔事とし、龍樹は狂愚小乘の邪說とし、大乘を了義眞實大法とするに過ぎざるも、無著は莊嚴論第一に(一)不記亦(二)同行(三)不行亦(四)成就(五)體(六)非體(七)能治(八)文異八因成ずとし、顯揚聖敎論第二十には十因を擧げ、(一)先に記別せざるが故に(二)今知るべからざるが故に(三)多く所作あるが故に(四)極重障の故に(五)尋伺の境界にあらざるが故に(六)大覺を證するが故に(七)第三乘なきの過失の故に(八)此若し有ることなくば一切智者なき過失を成ずるが故に(九)此を緣じて境となし理の如く思惟し一切の諸煩惱を對治するが故に(一〇)言の如く彼の意を取るべからざるが故にとし、攝大乘論には十殊勝を陳ねて大乘佛說を成立す。十殊勝とは(一)所知依(二)所知相(三)入所知相(四)彼入因果(五)彼因果修差別(六)增上戒(七)增上心(八)增上慧(九)彼果斷(一〇)彼果智なり。釋論これを辨せり。成唯識論第三には七因を述ぶ。(一)先に記せざるが故に、(二)本より俱行せるが故

に、(三)餘境に非ざるが故に、(四)極成すべきが故に、(五)有無有るが故に、(六)能對治の故に、(七)義文に異るが故にと。堅慧は入大乘論に、(一)聲聞解する所に非ざるが故に、(二)阿難受けざる所あるが故に、(三)大乘廣大なるが故にとせり。勝軍は諸大乘經皆佛說なりと立量するに至る。

支那には大小の辨明かならず、佛法雜然として輸入せられ、道行先づ行はれ、小品大品諸般若相次ぎ、道敎虛無と類するありて、學人學び易きを以て、佛敎を奉せんとする者、特に大乘非佛說を唱ふるに及ばざりしも、漢に支讖、三國に支謙朱子行、西晉に法護等諸大乘經を弘むると倶に、般若の譯講を事とせるを以て、夙に大乘有緣の地となりぬ。然れども東晉に小乘輸入盛なりしかば、羅什龍樹の法門を傳へたる後も、劉宋に小乘學人少からず、慧導大品を排し、曇樂法華を無し、僧淵涅槃を謗り、法度大乘を信せず大經を讀ましめず、法弘普明等從ふ者あり。此に大乘佛說を明かにするを要す、有空二門を分ち、大乘空義を說き、常住佛性の實義を談じ、一乘眞實を論じて、敎相論の發達せるは、元と大乘佛說を明かにするに基く。幾許もなく偏狹の學徒擯斥せられ、毗曇專學續かず、儒道に對し佛徒大同に急なれば非佛說論盛ならず。眞諦部執疏の說は、此の部(大衆部を云ふ)華嚴般若等大乘經を將ちて、三藏中に雜へてこれを說く、時人信ずる者あり、信せざる者あり、故に二部となる。(一)信せざる者唯言ふ、阿難等三師の誦せる所の三藏のみ、

此れ則ち信ずべし、自の三藏外の諸大乘經皆信ずべからずと。(二)復大乘を信ずる者あり、三の因緣あり、一には爾の時猶親く佛の大乘法を說き給ふを聞ける者あり、是の故に信ずべし。二には、自ら道理を思量するに大乘あるべし、是の故に信ずべし。三には其の師を信ずるが故に、是の故に信ずべしと。凡そこの類の理由を以て、大乘久く行はれ道理極成せり、佛說なるべしと云ふに過ぎず。

佛說を信ずるもの、(一)經に佛說とするが故にとせるは最單なるもの、妄不妄を別つ能はず、(二)智度論等滅後初年彌勒文殊阿難を伴ひ鐵圍山外に結集すと云ふが故に信ずべしとは、龍樹を信じて信ずとするも、傳說保すべからず。(三)大小久く倶行するが故にと云ふは、史實の論證備はらずば充分ならず。(四)道理極成せるが故にとは理の標準如何に決す。畢竟史實文證道理信念實感により、教義能く成佛の可能を證するとき佛說たるを決すべきのみ。

三、般若佛說論。前述の大乘佛說論は般若經の佛說たるを含むこと勿論なるが、今特に般若の佛說たるを示す。史實より云はゞ、現代の印度研究が明らかにせる吠陀奧義書等の古きもの、釋尊もこの思想に習眤し給へるを信ずべきものに於て般若思想成熟せり。李倶吠陀第十に多くの現象を否定し非有を說き、アイタレーヤ第三章に深般若を述べ、カウシータキ第三第四章の觀察も類

するあり。チヤンドーグヤ第八章眞我論は般若の次第觀とも云ふべく、ケーナ第一分に梵の屬性を論ずるも般若を明かならしむる所ありと云ふべく、黑耶柔のタイチリーヤ第二に食氣意識の四弗沙を經て歡喜道に進めるは、佛敎の四食を超えて般若を依止とするが如し。此の如く古典の般若思想圓熟せるものあるに、新しきものにはこれを模倣せるか、或は自在天等と觀るに至る。滅後五百年頃流通せる般若が當時の新說に關せずして、古文學に一致せるは、當時かゝる新古の硏究なく、所學を祕密にし、現流を古道とするを以て、偶然にも故意にも佛徒の取捨し得べき所にあらざれば、釋尊の用ゆる所と觀ざるべからず。又佛世の文學なりとせらるゝ薄伽梵歌第二章等にも般若思想鮮からず。般若に通ずるは最高なりとする思想釋尊時代に圓熟せるが故に、佛陀を般若成就者と見るは後世大乘敎徒の新案ならざるなり。

佛典中に成佛を三學五分成就とし般若堅固を重んずるの古きは明かなり、只その般若たる三藏毗曇に至りて、諸法を分析し定相を求むるを常とせるは、般若經の空無定相を說くと相反するも、これ外典印度思想より云ふも、大乘の復古醇正思想よりするも、樹下禪思が若干諸法の分析差別にあらざるべきと、三學成就して正慧に到達し如如に通曉し解脫解脫知見成就す、謂ゆる正慧は三昧正受にあらはるゝ觀照にして認識差別の議論にあらざると、五分は如來超世の勝德、佛陀の

本質にして、これを成就するものは正法なり、この最勝法に契合する般若も亦論理思辨にあらず、分別法智にあらざるべきは本經舍利品等に說くが如くなるべきとによりて、空無定相の般若を本義とすべきを知る。

是の如く佛陀在世に於ける外道の思想と、成佛の妙觀とより云ふも、滅後佛徒が通じて般若を尊重せるよりするも、傳承せる諸文書に照すも、般若の佛說たるは必せり。これを大小俱行の事實ありと云はんよりは、般若一流の中滅後年を經て遺法の分別世間の施設に沒了して小乘敎成立せるに至る、此を以て大士古道を復興し諸大乘經の弘通受持に專注して此經を成す、成るは三藏の後なりと雖も所詮は佛化に基くと云ふべし。大乘般若は一貫の本流にして小乘三藏は支流末解に過ぎず。更に理を以てこれを論ずれば、法性相應これ佛陀たり、佛は法の子として法と一體となる。佛と法と不二一體なるは無相にして成不成あるべからず、成不成なきが故に能く成就す。これを成就するも亦無相般若の明導ならざるべからず。般若觀の行者は釋尊の佛陀たるを觀ること其の色身法身に於てせず、身はこれ摩尼を盛れる篋笥のみ、佛陀は般若に於て求むべし、般若は根本なり母なり。無相の故に一切無礙なり、無作の故に度生無窮なり、般若の佛陀なるが故に釋尊に成佛ある如く、吾人にも成就すべく、十方法界に成就すべし。故に復正法出現し世善成就

す、般若ならずは假中の假、善も善たらず、正も正たらず、世道倚立たず、況んや出世の大道をや。苟も釋迦の成佛般若に在りとせば、世出世の法佛陀の三輪般若に照らされざるなし。佛口自ら某處に說くと說かざるとに關せず、法性等流は皆佛力にしてこれを佛說と云ふべしとは、本經に屢屢須菩提釋提桓因等の宣說せる所なり。又釋尊の成佛を信じ、度生の大用を歡び、法悅の事實を認むる時、釋尊の教說此に在りとすべし。佛說とは蓄音譜の謂にあらず、了義を分別する者これを佛說とするに妨なし。佛陀の觀行は信者の觀行なるを以て、觀照修行弘通の所作擧て佛說なりとす。又佛陀の說法神通皆憶念三昧に發す、衆生の正念正定相應する所、發して說法文書となるもの佛說に異ならず、諸大乘經三昧を重んずる意此に在り。本經問乘品百八三昧を說くのみならず、無量三昧攝して般若三昧に在り、故に三昧等流の般若法門是れ佛說なり。此の如き史實文證道理信念實感は本經の佛說なるを證す、如是乃至奉行この意に於て悉く佛說なり。若し單に文字を執し佛陀の命令印可の故に佛說なりとするが如きは形相に捉へらる、般若に合せず又佛說たるを確證せざるなり。此に佛說論を云々せるは大乘經中夙に廣く行はれたる本經は古來佛說非佛說の論場たりし爲のみならず、佛說たる所以を明して經意を示さんと欲するが爲なり。

【佛教の般若】 經論に多く般若を説き、小乘に決定相を求め大乘に無定相を明す。吉藏の大品遊意並びに義疏卷一にも種種の義解を出せり。般若の譯、清淨、遠離、明度、慧、智、智慧、到彼岸等とし、或は飜すべからずとするあり。船若二あり深重と輕淺、或は三あり、慧持は實相方便文字の三とす。初品より六十六品の般若道これ實相般若、六十七品より九十品に至る方便道これ方便般若、文字般若は兩者に通ずと、吉藏はこれを非とし、實相觀照文字の三般若とし、經中智及び智處を説く、智處は實相にして境、智はこれ觀照、これを説くものは文字般若なりとせり。釋論般若の體を論ずる八家、一に無漏を般若と爲す、成論主の用ゆる所なり。二に有漏を般若と爲す數家の用ゆる所。三に有漏無漏を合して般若とし四には因中の智慧、五には無漏無爲不可見無對、六には有無四句を離る、七には前の六併に是なりとし、八には六の中第六のみ是なりとす。龍樹は是非を辨ぜざるも、吉藏は前五の偏執は般若の正義に非ず、第七の合取せるは偏せず、第六家正しく般若の體を示すと評せり。支那南北の異説に在て、南土には空解能く惑を斷ずるを以て般若とす。空解に眞似あり、通法師宋の照令法師明慶禪師等は發心より六地までを似とし七地以上を眞とす。梁三大法師以下は小乘に五方便を似、苦忍以上を眞とし、大乘に三十心を似、地上を眞とす。本經所説の通の十地には性地似、八忍斷眞をとすと若般の解概ね此の類なり。

釋尊成道の頃印度の深刻なる思索は般若を主とし、彼の般若と佛教の般若と多く類似せることと前述せるが如くなるが、今その差別の要點を略説して佛教の般若の何たるかを明さん。(一)有我と無我、外道も人天世相差別せる我を以て假妄とし、獨立常住自在を認めざるも、假我を去れる唯一の最上我を眞實とし、眞我に沒入するを解脱般若なりとす。佛教これに反し眞我も存せず、眞如法性の實法として別存せざるは顚倒の妄我の非有なるが如く、眞妄倶に無我とするは第一の異點なり。(二) 有性無性の別、眞我ありとするを以て自性の大有實在を論ず、若し然らば諸法各〻別存するに同じ。佛教これに反して自性の自性とすべきものなきを性とするのみ。如性實際諸法差別皆是れ無性の性とす。(三) 因果緣起の別、外道の所談を因果撥無と云ひ邪因邪果と云ふことあるも、進みて因果を論ずるものに在りても、竟に因の常有に果法の生起を求むるに過ぎざるは最上我大有性によりて明かなり。佛教は因果撥無と邪因邪果とに對しては正因正果を說くも、色心を因として果法ありとするは、遂に三界の流轉を免かれず。因果は善道を得るも解脱の正道を得ず、解脱は正慧正觀に依る。正慧とは因果を絕し、有無四句を離れ、萬法皆衆緣の生ずる所にして、一因二因多因の生ずる所に非ずと知るなり。多因と衆緣と何の別あるか。因は果に親しく緣は果に疎なりとするは、只因と緣と對比して說をなすのみ、多因は因も緣も各別法の自他を

爲して存とす、衆緣に實に緣の外に因たるものなく、緣に親疎なく、暫く有力無力を別つも、法の生ずべき緣たるに於て、相應と不相應、障礙と不障、與力と不與力との別あることなし、衆緣平等にして因性の差別するが如くならずとす。因は現實の存在たるも緣は然らず、緣を表するに現實の諸法を以てするは、法を表するに名言を以てするの假設なるが如し。衆緣和合して諸法あり、法は各衆緣の焦點中心の如くなるのみ、これ緣生の故に空なり非有なりと論ずる所以なり。緣起明かなるとき因果滅盡して諸法如如の實相に達す、是無生法忍たり解脫正慧たるなり。(四)觀照方便の別、外道の般若は觀照ありて方便なし。眞我大有たるも眞如法性たるも、單に冷靜に觀察し知見するのみならば多く異なる所なし。然るに佛敎の般若は卽ち方便たり、觀照は直ちに善巧方便となる。是れ菩薩大悲の願力によりて長く觀照の靜座に住せず、度生の動用となると云はる丶所なるも、此の言末だ義を盡くさず。願力亦法如の相のみ、不如の願に依りて强ひて靜を動に轉ずるが如きは有作なり有願なり空に合せず、三解脫門倶に背く、何ぞ菩薩の眞門たらんや。般若卽方便たるは諸法緣起の故に無我無性なり、一法として自因自力に依りて存せず、他緣他力の加持ならざるなし、故に法界は恩處なり、怨親等しく恩として荷負すべきのみ。自己解脫せるが故に在纏の迷妄を救濟するにあらず、自己の自己なきを知るとき、渾身法界の恩處に捧ぐ、是れ

無所得無緣の眞實の慈悲なり。般若即方便なるが故に、空を觀じて空を證せず、實際に住せず、度生を事として有に着せず、福善を作せりとせず。即ち施者受者施物なくして、施を行じて施とせず、戒と持戒と犯戒となくして、戒を行じて戒とせず、乃至智慧と智者と愚者となくして、智を成じて智とせず。是れ菩薩の般若波羅蜜なりと云ふ所以なり。般若の言似たるも、釋尊に在りては樹下の觀照に止まらず、直ちに鹿苑の法輪となり、一化四十餘年不斷の度生となれるなり。他の梵我合一を夢み、觀照眞實を誇りつゝ徒らに理智に捉へらるゝものと同じからざる所以なり。異點四五に局らざるも、粗佛教の般若の何たるかは明かなるべく、又般若が佛陀と等しく、佛教この般若を外にして存すべからず、これを一派の私有とし、滅後の新案とすべからざるも更に明白を加へたるべきなり。

【般若經の弘通】（一）印度に於ける般若經典の弘通。般若は無上菩提を成就せしめ、佛陀の三輪般若相應ならざるなしとせば、この法門を目して佛說とせずば佛說なきに同じ。佛法此に存せば滅後の道人この法を尊重受持すべきは必せり。然れども我見斷ち難く法執起り易し、正慧沈淪し正觀隱覆さるゝを免がれず、法藏を護持し般若を尊重すと云ふ者、徒らに有見に流れ定相を求め因果に縛せらるゝに至る。佛陀の色法二身を供養し、無畏無礙の大用を欣慕し、無緣の大慈大悲

に傚學せんとする者も亦作業善事に縛せられ、法施代受苦に愛著して般若の正意に遠かる。勢の窮まる所佛法滅盡を免がれざらんとす。此の時に際し般若經の弘通は危機を轉じて大乘復興の恩澤を潤せり。結集弘通の大士、知恩の菩薩の功德偉なりと云ふべし。假令鐵圍の結集あり龍宮に護持せられたりとするも、現在の經典は弘法者の恩德たるを失はず。本經說く所の法涌常啼菩薩の名に於て、此等弘法の大士に感謝すべきなり。滅後南天西印に行はれ、後五百歲に當に廣く北方に流布すべしと云ふもの、十喩空法方廣道人等南西に空觀を說けるを承けて、滅後五百歲斯經北方弘通の事蹟を語るものと云ふべし。五百歲流通を基とし、道行(月六四)に滅後の造像壁畫等を譬說せるも當時流行の事實に適合すと云ふべく、東行して揵陀越に般若を得たりとするも、流布の地域に合すと云ふべし。然るに須菩提のみに般若を專らにせしむるは經衆の滿足せざる所、智慧第一の舍利弗を對告たらしめ、聞持第一の阿難を讚衆たらしめ、西方開敎者にして說法第一たる富樓那をして會中の一たらしむるも、目連迦葉僅に名を連ぬるのみ、五百比丘三十比丘尼六十優婆塞三十優婆夷等預流受決にすぎず。釋迦會中の實際四衆の輕きに反し、因陀羅梵天伊除等欲色諸天重きを占め、帝釋は讚歎供養護法證明を約し、文殊彌勒諸大薩陲雲集し、後佛たる彌勒は須菩提に對し重要なる地位を占むるが如き、經中の法數記事と相待ち五百年頃初期般若の內容とし

て當れり。當時この類の小品諸本弘通せるものなるべし。然るに大品には此等の內容增廣せられたるのみならず、舍利弗品獨立して重要となり、須菩提とその地位を競ふが如き、文殊般若に文殊迦葉の重んぜらるゝに同じく、持經者の心理を表すと云ふべし。卽ち須菩提の地位不明となると、增語により句義を增加せると、陀羅尼三昧字門諸法の廣說せらるゝとの如き大品の後るゝを示す。第四會妙行第五會善現が第二會の廿四品となれるに照らして察すべきなり。此等大品諸本の流通せるは多くは六百年に近からん。爾來幾許もなく諸本品類部黨の成立あると倶に、滅後六百五十餘年佛朔支讖の手に依りて、小品先づ支那に入り、百餘年を經て、西紀二百八十二年には大品に屬する放光來れり。小大二品を魁とし、諸部輸入せられたるは、前に表示せるが如し。

(二) 印度の般若解釋。他方に龍樹(Nāgārjuna)菩薩は滅後七百年に出でゝ、小乘を以て滿足せず、北遊して雪山中に諸大乘經を得て南に歸りて論釋を出すこと多し。傳ふる所の大乘經典多數なるも、般若法華十地無量壽等の經は殊に重んずる所たり、中にも大品に關して十萬頌の優波提舍を作れり。羅什長安に至り、弘始四年夏より七年十二月に至るまで四年を閲して、譯出せる智度論百卷是れなり。今譯する大品般若はその中間、弘始五年四月廿三日に始り、同年十二月十五日に出し盡くす。翌年四月廿三日校了せるも、釋論譯出の後更に對校して經本定まると云ふ。卽ち羅什

の心力は智度論(本書に釋論又は大論と云ひ、注解も多くこれに從ふ)の譯出に注がれたるも、尚經の序品を釋する論初三十四卷を具譯せるのみ、第二品以下は抄譯たり、全譯せば或は十倍すと云ひ、或は三倍すと云ふ。龍樹の大著たる本論は量に於て大なるのみならず、大乘教理の發達に與ふる所頗る大なり。龍樹は本經を釋するに大小諸經は勿論、毗曇諸家の說をも比較網羅せり。故に宛然たる佛教全書たると倶に、般若の無所得空義を明かにし、諸法實相を詳かにし、本經無上菩提菩薩願行を重んずるも通三乘に墮する嫌あるをば、法華一乘を以て經意を闡く。卽ち法華を以て般若を解せるものと云ふも可なり。論首歸敬序は所歸の佛法を標するものなるも、論主の見地を示すに足る。曰く、智度の大道は佛從て來り、智度の大海は佛窮盡し、智度の相と義とは佛無礙なり、智度無等の佛に稽首し奉る。有無の二見滅して餘なく、諸法實相は佛の說き給へる所、常住不壞にして煩惱を淨む、佛の尊重し給へる所の法に稽首し奉ると。龍樹は大論の外著述尠からず、十住毗婆沙菩提資糧等佛道莊嚴の行位を明かにし、殊に無畏論に般若を主張す、有名なる中論はその一部に屬す。中觀(Madhyamika)法門此に興る。其門下提婆(Aryadeva)、龍叫(Nāgāhvaya 元と如來賢 Tathāgatabhadra と云ふ、龍智(Nāgabodhi)、大釋迦友(Mahāśakyamitra)、舍婆離(Śāvari)、尸迦波(Singkhapa)等名あり。提婆は四百論百論等に師說を展開し法

を羅睺羅(Rāhulabhadra)に傳ふ。これ皆滅後八百年に至る弘通と云ふべし。羅の後青目(賓伽羅或は賓頭盧伽とす)、堅慧(Sthiramati)あり。青目の說莎車王子須利耶蘇摩(Sūryasoma)須利耶跋陀(Sūryabhadra)に傳はりて羅什に至る。什は弘始十一年、青目の註せる中論四卷を出せり。佛滅を去る殆ど九百年、當時印度に中觀を釋するもの數十家ありたりと云へば、般若の學盛なりしを察せしむ。中觀は後に無著の釋せる順中論二卷、元魏武定元年瞿曇般若流支これを譯し、分別照明の釋せ般若燈論釋十五卷、唐貞觀四年波羅頗迦羅密多羅これを譯し、安慧の造れる大乘中觀釋論九卷宋惟淨等これを譯せり。無著安慧は瑜伽般若觀に屬し、中論燈論は中觀般若系なり。分別照明は掌珍論の作者たる淸辨(Bhavya, Bhāvaviveka)なり。無著(Āryāsaṅga)は瑜伽論に於て大乘の新主張の唱首たるも、本論若くは金剛般若に於て復般若の學人たるを知るのみならず、ワシリエフ氏の注意せる如く、彼は龍樹を非難せず。中觀般若の解釋變化せりとも、彼は此を以て龍樹の本旨とせるに過ぎず。世親(Vasubandhu)に至りては一層龍樹佛敎に近けるものあり。爾餘の大乘論師龍樹般若を通じて大乘を觀るものと云ふべし。滅後千年を過ぎて乖異大を加へ、耽波羅に佛護論師(Buddhapālita)あり、龍樹提婆の說に基き容有(Prasaṅga)を立つ、西藏中觀の學多くこれに從ふ。久しからずして淸辨南方マルヤラに出でてこれに反し自性空派(Svatantrika)を立

つと。玄奘が謂ゆる護法清辨の爭の如きも、佛護を以て護法と同視し難きは燈論に擧ぐる所の佛護の說を以ても察すべきなり。時に須利耶崛多(Sūryagupta)は龍樹無著の似同を論ぜり。南方沙曼多の月稱(Candrakīrti)佛護の說を紹ぎ、那爛陀(Nālanda)に敎へしが、月居士(Candragomin)と七年の論爭ありて月稱南に去る。その後護法(Dharmapāla)那爛陀に上首たりとは西藏の史傳等を參照して知る所なり。但清辨が一方に佛護と爭ひ他方に瑜伽の依他起論(Paratantrika)と爭ふとするも、後世傳ふる如く相容れざるにあらず。月稱が佛護の釋論清辨の燈論を抄釋せることは其著(Prasannapadā, Madhyamakāvatāra)に明かにして、清辨妙月の敵手とするも稍過ぎたり。戒賢智光空有の爭を傳ふるも、玄奘これを同學の先後とし、日照二派の代表とするも融會の餘地あるを云ふの類なり。要するに南北異說するも、互に般若中觀の宣揚脈脈絕えざりしなり。

(三) 支那の弘通。後漢に道行譯せられたるも、講經は魏の朱士行に始まる。彼の求法は大品の傳來となり、弗如檀、無叉羅、竺叔蘭、祇多蜜、竺法護等傳譯に關係せり。支孝龍小品を以て心要とし、放光譯せらるゝや盛儀を具してこれを迎へ中山に講ず、西紀三百三年なり。康僧淵は常に放光道行二般若を讀誦し、道潛は大品を講じ晉朝に重んぜられ門侶群をなす、法蘊は放光に善く、支遁は道行に通じ、道行指歸卽色遊玄論、卽色本無義等を作る。同時に于法開あり放光に善く、道

林と卽色空義を爭ふ。同學于道邃弟子法威等も亦名あり。然れども多くは大旨を捕へ機鋒縱橫の辨を事とするのみ　道安襄陽に在る時より廿餘年每歲放光を講ずる二度、注解集異頗る勉む。光讚折中解、光讚抄解、折疑、起盡解、道行品集異注各一卷、折疑略二卷等の作ありしも早く逸せり。存するもの道行序、合放光光讚隨略解序、摩訶鉢羅若波羅蜜經鈔序あり。同學竺法汰は道恒の心無義を破し、簡文帝の爲に放光を講ず、竺僧敷、道安の弟子道立曇戒、法汰の弟子曇一道一等般若を以て知らる。皆本經を講じて入空離繫を事とす、談理精粗あるも文を逐ふと然らざるとのみ、論藏一も存せざれば緣起實相の論あることなし。但他經の講說寥寥たるに般若の學は頗る盛なり。その論要に關して宋の曇濟七宗論を作る、中論疏これを抄錄す、道安本無義、琛法師本無義、關內卽色義、支道林卽色義、溫法師心無義、于法開識含義卽ち三界大夢說、壹法師世諦幻化說于道邃世有眞無說なり。中に道安の本無支遁の卽色は倶に義正しと評せらる。此の時に當り羅什は印度の般若學統を承け、龍樹提婆の論釋を譯し、盛に空門大乘を唱ふ。道安の遺弟を始め天下の學人長安に集る。盧山慧遠も亦問學敬を致す。什門僧肇道融僧叡道生を始め般若を尊ばざるなし殊に僧肇の寶藏論肇論は般若敎義を論じて醇正なるものとせらる。これより後南北朝に於て涅槃華嚴等の新學興隆に壓せらるゝ所ありと雖も般若を講學せざるものなしと云ふも可なり。註疏論

議出づるもの尠からず。學者は大論中論十二門論百論成實論等を併せ用ゆ。但し成實は訶梨跋摩の作れる小乘論なるも、毗曇有門を破するが爲に、什門譯講の端を發きてより遂に大乘として般若を歷するに至れり。特に般若を宗とする者、齊の周顒三宗論を著はし、不空假名の鼠嘍栗義、空假名の案荒義を斥け、假名空義を般若の正意とせり。梁武帝は注解大品を造らしめ、講說を盛にす、道朗僧詮法朗吉藏相次ぎ、南地三論を起す。北地僧叡等の後般若四論の研究相續せるも學統明かならず、地論宗行はるゝに當り、道場慧影等智論を宗とし淨土敎と伴ふ。又南岳天台は大論中論を以て法華法門に結び、禪觀の行人も亦般若を得意とす。然れども宗派別立に急なるに際し各宗通依の經論は漸く輕んぜられんとす。六朝以來大品の疏釋、今存するもの吉藏の遊意一卷並に義疏十卷(內第二欠)唐元曉の大慧度經宗要一卷に過ぎず。玄奘渾身の努力を以て六百の大經を譯出して、再び般若の雄大莊重を感ぜしめ、以て鎭國の典人天の寶とす。智昇これを大藏經の首に配し十六會の大綱を示し、綱目指要錄稍詳かにし、智旭は大本を讀むもの少きを惜み知津に詳敍せり。會〻大本の學ばれざるを示すのみ。宋の雪月大隱通關法を創め四明演忠重ねて編定す、淸葛藹は般若綱要十卷を作り、第二會乃至第五會の初會と具略の異なるを說く。此等三五の解說も大品の不振を補ふに足らず、本經の講說弘通始に盛にして終に振はざる此の如くなるは、般若の行はれざ

るが爲にあらず。六百の大本も經要金剛般若若くは心經に外ならずとし、簡を求め易に就き、講疏專ら兩經を事とし、經意面目の異なるものに在りては仁王と理趣分實相とを重んずるによる、是等の註釋存するもの百千に及ぶを以ても、般若を重んずるは今尙舊の如きも、通依として簡要に走れるものと云ふべきなり。心經金剛仁王理趣等に關しては、その譯經に伴ふ解題に讓りて此に述べず。

(四) 本邦に於ける弘通。我邦に在りても支那の學風に動かさるゝ多きを以て三論と倶に大品の研究講說行はれしが、法相の興るに及び、大般若の書寫讀誦受持供養盛にして、大品の講讀衰へたり。且つ法相が鎭國攘災の法門として受讀するも、宗の所依は華嚴深密楞伽等に在るを以て、大本の講說も多く行はれず。平安以後支那にも大品大本盛ならざれば、我國にも硏究を促さるゝことなく、獨り古今を通じて鎭護攘災功德のため仁王理趣の修會盛行し、大般若の書寫弘通轉讀今に絕えず、若干の金剛寶相等の講疏を傳ふるも、主として、人口親しきは心經の一篇なりとす。

【大品の要領】 (一)、大要分科。般若經典中に於ける大品の地位と傳譯とは先にこれを叙したり。大般若の第貳會が末尾に於て省略せられたるを除かば、文辭豐富譯語妥當なるも、獨り羅什の譯本早く行はれ、龍樹の釋論と相待ちて南北に弘まり、講論註疏專ら什譯大本に力を注ぐ。本經の

要旨は般若の妙義を宣暢するに在り。釋論には大科二道を說くとし、前六十六品は般若道、後二十四品は方便道なりとす。これを實智權智に配するに至りて、觀照を重んじ、方便を輕んずる端を啓くと雖も、二智永く別ならず、般若卽方便なるを以て、二道等く佛敎の般若を明すに外ならず。唯前は菩薩の般若の習學相應受持解行の功德相貌を說き、後は見佛聞法淨佛國土成就衆生を審かにするを以て二となすのみ。大品義略序には大分して三とす。一は初より第六舌相品に至る、佛自ら宗を開き舍利弗に對す、上根人の爲に說しむ。二は第七三假品より四十四嘆度品に至る、佛須菩提に命じて中根人の爲に說しむ。三は聞持品より終まで更に宗に歸す、重て下根諸天人の爲に說くと。梁武帝注解大品序には部黨論に云へる如く五段とせり。一に勸說不住を以て其始を標し、二に命說無敎を以て其の道を通じ、三に願說無得を以て其の行を顯し、四に信說甚深を以て其の法を歎じ、五に廣說不盡を以て其の終を要す。中品(第六十六)累敎ある所以、末章(第九十品)三屬ある所以なり。嘉祥の大品義疏は第二卷を缺き、本文錯誤甚しきを以て分科定め難きも、略下の如くなるべし。經文分ちて三とす。序分正說流通なり。序分は序品前半にして通序(本文一—四頁)別序(四—一二頁)なり。正說八十七品半(序品後半なるを以て半とするも、經疏には全數とし八十八とす)次に分說する所の如し。流通二品あり、一は第六十六囑累(累敎)品に

して實相般若の付囑流通なり。他は第九十囑累品にして方便般若の付屬流通なり。

正説八十八品分ちて二とす。

第一、四十四品半(序品—遍歎聞持前半)般若の妙義を明す、分ちて三とす、出體と般若の德を歎ずると人法を歎ずるとなり。

第一段、三十品(序品—三歎)、三周三根人の爲に般若の體を明す。初二品開宗、第三以下辨宗。

一 第一周上根人の爲に佛自宗を示す。

(疏二)(一)序品。通別兩序を明し佛略して宗を開く。

(二)奉鉢品。般若の德相を述べ略開終る。

(疏三)(三)習應品。以下別して宗義を論じ、略開せる言意を顯す。菩薩方便を以て般若と相應することを習ひ、第一義門に依り智慧行を修す。

(四)往生品。世諦に依り功德行を修す。

(疏四)(五)歎度品。衆聖佛説を聞き歡喜領解稱歎して佛命を證成す。

二 第二周中根人の爲に須菩提をして説かしむ。轉教二十一品あり。或は舌相品を前段の結證とし或は結前生後とす。

(六)舌相品。第二段の起說にして、放光、衆集、現瑞、衆悟、授記を明す。

(七)三假品。以下二十品須菩提正しく般若を說く、大悲心を離れず。本品は正しく命じて說くべき所を明かにす。

(八)勸學品、命を奉じて般若を說く。六度根本、所知境、所斷、通學行、三昧陀羅尼、慈悲化他、菩薩所離を擧げて勸む。

(疏五)(九)集散品―(廿六)無生品。十八品。菩薩の爲に說く。集散無相行幻は三脫門、次の十三は稱歎門、十無無生の二は無生門なり。本品は空門無生滅無去來、諸法畢竟因果不失の故に集散なきを明す。次は無相無作に就て明す。無生品の末段は後事を命ず。讚成現瑞得道是なり。

三　第三周下根人の爲に般若の體を出す、下根三聞して一悟を得、問者天主なり。

(疏六)(廿七)問住品(三十)三歎品。四品あり衆生の爲にす。三歎の後半(二七七頁)爾の時、佛四衆和合以下の文は後段に屬す。

第二段、九品半(三歎後半―隨喜)般若所生の功德を明す。

(三十)三歎後半―(三十八)法施品。八品半は般若を受持し乃至正憶念するが故に得る所の功

德を明し、格量して勝を顯はし修を勸む。三歎品の格量は前の第一周に擬し、滅諍大明述成の三品の格量は第二周に擬し、勸持以下五品の格量は第三周に擬す。

(疏七)(三十九)隨喜品。般若に依り嘿念隨喜し身口を動かさゞるも福を得る無邊なるを明し、般若の妙を讚じて信行せしむ。

第三段。五品半(照明―聞持前半)人法を歎美す。

(四十)照明品―(四十四)遍歎品。主として法を歎ず。般若實相圓明にして盡さゞるなく滿たざるなきを歎じ、信無邊の福、毀莫大の罪を得るを明し、般若の甚深を示し、說法引導を歎稱す。

(疏八)(四十五)聞持品前半。主として人を稱し、信人の德不信の失を明す。

第二、四十三品半、(聞持後半、魔事―度空、無盡―如化)。第一の略明に對し廣說す。分ちて二段とす。

第一段。二十品半(聞持―度空)。實慧を明す、或は上の行不行相應不相應の義を廣め、又は體を明すものとす。

(疏九)初品總、後十九品次第來生す。內外三周の留難魔事を明し、三根人の信般若を說く。

第二段。二十三品（無盡―法尙）。方便慧を明す。或は上の功の周能不能の義を廣め、又は用を明すとす。

（疏九、十）前廿一品（疏には廿三）は正しく方便因果の大用を明し、後の常啼法尙兩品は修行を結勸す。吉藏の說粗此の如くならん。以て本經の分科大綱を知るを得べし。

（一）大品諸本比較。先に略表を以て示せる如く支那譯本大品に屬するもの四本あり。放光を小品に屬する說ありと雖も、內容比較に於て大品たること明かなり。今四本と梵本との出入を概表すること次の如し。

甲、二萬五千頌般若	乙、般若第二會		丙、摩訶般若（什譯）		丁、放光般若		戊、光讚般若	
(1)須菩提品	（品目）	（卷次）	（品目）	（卷次）	（品目）	（卷次）	（品目）	（卷次）
一―二五下九、日一六右七行	一、緣起	四〇一 日一 一右―五左廿行	一、序	(1)月三 一―三右十七行	一、放光	(1)月二 二左―三右四行	一、光讚	(1)月九 二右―三右二行
同―三下一三 同八左五行	二、歡喜	四〇二 同 六右―九右十行	同	同 ―五右十行	同	同 ―四右四行	同	同 ―五右
同―云上七	同	同 同 同―左六行	二、奉鉢	同 ―五左三行	二、無見	同 ―同十六行	二、順空	同 ―五左一行
同―	三、觀照	同 同 同左八行―同壵行	同	同 ―同八行	同	同 ―五右一行	同	同 ―同八行
三下五	同	四〇三 同 同―古左七行	三、習應	同 ―八右十五行	三、假號	同 ―六左	三、行空	同 ―八左
同―元上八	同	四〇四 同 壵右―六左十八行	四、往生	(2)同 八左―十左十九行	四、學五眼	(2)同 ―八左	同	(2)同 ―十一左四行

同——四三上三	同 廿四右——二十一行
同——五二下七	同 廿五右——十七行
同——五三上七	同 廿六左——一行
同——五四下三	
同——六三下一	
同——六六下八	同 四四右——二行
同——六七下三	同 四四右——一三行
同——七三下八	
同——	
七七上八	
同——七八上七	
同——八二下五	
同——八三上三	

同	四〇四—四〇五日一	同	十九行—三二右二行—
同	四〇五	同	廿二右——十八行
四、無等等	同	同	廿三右——十五行
五、舌根相	同	同	同——十八行
六、善現	四〇六—四〇八	同	廿四右——廿五左十一行
七、入離生	四〇八	同	三七左——四行
八、勝軍	四〇九—	同	四一右——一三行
九、行相	四一〇—	同	四四右——九行
十、幻喩	四一〇	同	四七左——一行
十一、譬喩	四一一	同	四九左——一三行
同	同	同	五左——六行
十二、斷諸見	同	同	五一右——十八行
十三、六到彼岸	四一二—	同	五五左——十八行
十四、乘大乘	四一三	同	五六左——五行

同	同	十一左——十二行
同	同	十三右——一行
五、歎度	同	同——十八行
六、舌相	同	十三左——一〇行
七、三假	同	十四左——一行
八、勸學	(3)同	十五左——八行
九、集散	同	十七左——一六行
十、行相	同	十九左——一一行
十一、幻學（幻人）	(4)同	二一左——七行
十二、句義	同	二二左——二〇行
十三、金剛	同	二三左——四行
十四、樂說（斷諸見）	同	二四右——五行
十五、辯才（富樓那）	同	二五左——一八行
十六、乘乘（乘大乘）	同	二六右——一五行

五、度通五神	同	九右——
六、授決	同	六行同左
七、妙度	同	廿行同
八、舌相光	同	一〇右
九、行	同	一一左
十、學	同	一二右
十一、本無	同	一四右
十二、空行	(3)同	一五右
十三、問幻	同	一六右
十四、了本	同	一六左——二〇行
同	同	一七右
十五、摩訶薩	同	一七左
十六、問僧那	同	一八右
十七、摩訶衍	同	一八左

同	同	十三左——三行
同	同	同——十三行
四、歎等	同	十三右——三十行
五、授決	同	同左
六、分別空	同	一六右
七、了空	(3)同	一七左
八、假號	同	二一右
九、行	(4)同	二三左
十、幻	同	二六左
十一、摩訶薩	(5)同	二八左——二三行
同	同	二九左
十二、等無等	同	三〇右
十三、大乘	同	三二右
十四、乘大乘	(6)同	三二左

同—八六下八	十五、無縛解　四一三同五行—六右	十七、莊嚴　(5)同　一二行—三六右	十六、僧那僧涅　同　一九左—	十五、無縛　同　三五左—
同—九二上三	十六、三摩地　同—四一四同十四行—六四右	十八、問乘(摩訶衍)　同　二行—三三右	十九、問摩訶衍　(4)同　二一左—	十六、三昧　同　三九右—
同—九六下一	十七、念住等　同—四一五同一二行—六八右	十九、廣乘(念處)　同　二〇行—三五右	廿、陀隣尼　同　二三左—	十七、觀　(7)同　四一左—
同—一〇一下一	十八、修地　同—四一六同六行—七三左	廿、發趣　(6)同　三六右二行—三七左一三	廿一、治地　同　二五左—	十八、十住　同　四三左—
同—一〇五上八	十九、出住　同—四一七同一五行—七七左	廿一、出到　同　四行—三七右	廿二、問出衍　同　二六左—	十九、所因出衍　(8)同　四五右—
同—一〇八上二	廿、超勝　同—四一八同一七行—八〇左	廿二、騁出　同　一二行—三八右	廿三、歎衍　(5)同　二七右—	廿、去來　同　四六左—
同—一一二上二同三行—九二右	廿一、無所有　同—四二〇同九行—九一右	廿三、等学(含受)　同　一二行—四〇左	廿四、衍與空等　同　二八左—	廿一、衍與空等　同　四八右—
同—一一三上八	廿二、隨順　四二〇同一五行—同左	廿四、會宗　(7)同　一五行—四三左	廿五、合聚　同　二九右—	廿二、分曼陀尼弗　(9)同　四八左—
同—一三〇上五	廿三、無邊際　同—四二三同三右三行—日二	廿五、十無　同　二〇行—四四右	廿六、不可得三際　同　三〇左—	廿三、等三世　同　五一右—
同—一三六下九	廿四、遠離　同—四二四日二一二行—一〇六右	廿六、無生　同　一〇行—四六左	廿七、問觀　同　三二左—	廿四、觀行　同　五三右—
(2)、兩邊淨品				
一三六下九—一三一下五	廿五、帝釋　四二五—四二六同五行—二三右	廿七、問住(天主)　同　四八左—	廿八、無住　(6)同　三四左—	廿五、問　(10)同　五五右—
同—一三二上四日二一—三二右七行	廿六、信受　四二六同八行—二四右	廿八、幻聽(幻人聽法)　(8)同　四八右—四九左	廿九、如幻　同　三五右—	廿六、如幻　同　五六右—
同—一三四下四同一行—三四左	廿七、散花　同—四二七同三行—二八右	廿九、散花　同　五一左—	卅、雨法雨　同　三六左—	廿七、雨法寶　同　五八右—
同—一三九上五	廿八、授記　四二七同一行—二九左	卅、三歎(顧視)　同　五二左—	卅一、歎　同　三七左	
同—一四一下二				(終)

同—一四六下三	廿九、攝受	同四二八 同 —三二右 一七行	廿一、滅諍（現功德）	同 五四左—	廿二、降衆生	同 三九右—
同—一五一上四 同—三五右 一六行	卅、率堵波	四二八 同 —三五左 一六行	廿二、大明（寶塔）(9)	同 五六左—	廿三、守行 (7)	同 四〇左—
同—一五二上一〇	卅一、福生	四二九 同 —三六右 一七行	廿三、述成	同 五七右—	廿四、供養	同 四一右—
同—一五四上	卅二、功德	同 同 —三七右 三行	廿四、勸持	同 五七左—	廿五、持	同 四一左—
同—一五五下二	卅三、外道	同 同 —三八右 一五行	廿五、遣異（梵志）	同 四八左—	廿六、遣異道士	同 四二右—
同—一五九下五	卅四、天來	同四三〇 同 —四一左 一行	廿六、尊導（阿難稱譽）	同 六〇右—	廿七、無二	同 四三左—
同—一六四下一〇 同—四四左 一四行	卅五、設利羅	四三〇 同 —四五右 七行	廿七、法稱（舍利）(10)	同 六三右—	廿八、舍利	同 四六右—
同—一六五上二 同—四五右 二〇行						
同—一七二上九 同—五一右 二〇行	卅六、經文	四三二 四三三 同 —五一左 一五行	廿八、法施（十善）	同 六六右—	廿九、功德 (8)	同 四八左—
同—一七三上一〇 同—五二右 一行						
同—一八二下一	卅七、隨喜迴向	同四三三 同 —五八右 八行	廿九、隨喜（隨喜迴向）(11)	同 六九左—	四十、勸助	同 五一左—
同—一八四上四	卅八、大師	四三四 同 —六二右 一行	四十、照明（大度）	同 七一右—	四十一、照明 (9)	同 五三右—
同—一八八下六	卅九、地獄	同四三五 同 —六六左 二行	四十一、信毀（泥犁）	同 七三右—	四十二、泥犁	同 五四左—
同—一九〇下一	四十、清淨	四三六 同 —六九右 三行	四十二、歡淨 (12)	同 右—七四 四行	四十三、明淨	同 右—五五 六行
(3) 一切智相行品						
一九〇下二—	同	同 同 —七〇右 一四行	同	同 七四左—	同	同 五五左—
一九二上一一						

同｜一九七下一〇	四十二、無標幟 四三七 同｜同 九行｜七四左	四十三、無作（面各千佛） 同 七七右｜	四十四、無作 同 五七左｜
(4) 一切種智相如品			
一九七下一〇—二〇〇上一	四十二、不可得 四三七 同 一二行｜七六右	四十四、遍歎（百波羅蜜） 同 七八右｜	四十五、等 (10) 同 五八左｜
同｜二〇九下一一	四十三、東北方 四三八｜四四〇 同 一行｜八六右	四十五、聞持（耳） (13) 同 八二左｜	四十六、眞知識 同 六一左｜
同｜二一三上四	四十四、魔事 四四〇 同 一〇行｜八八右	四十六、魔事 同 八四左｜	四十七、覺魔 同 六二左｜
同｜二一七上四 日三 九行｜三右 同｜二一八上九 同 七行｜四左	四十五、不和合 四四一 同｜同｜日三 四右二行	四十七、兩過（兩不和合） (14) 月 四三右 一｜	四十八、不和合 (11) 月二 右一｜二
同｜二二一上九	四十六、佛母 四四二 同｜日三 左四右 一〇行｜八	四十八、佛母 同 四左｜	四十九、大明 同 三右｜
同｜二二四下九	四十七、示相 四四三 同｜同 二行｜一四左	四十九、問相 同 六左｜	五十、問相 同 四左｜
同｜二二七下一二	四十八、成辦 四四四 同 二〇行｜一七右	五十、成辦（大事起） (15) 同 七右｜八右	五十一、大事與 同 五左｜
同｜二三一上三	四十九、船等喩 四四五 同 八行｜二〇右	五十一、譬喩 同 九左｜	五十二、譬喩 同 六左｜
同｜二三五下二	五十、初業 四四六 同 二〇行｜二四左	五十二、知識 同 二行｜二左	五十三、隨眞知識 (12) 同 一七行｜七左
同｜二三六上三	五十一、調伏貪等 四四六 同 二右二行｜同八行	同 同 一四行｜二左	同 同 二〇行｜七左
同｜二三九上	同 同 同 九行｜三六左	五十三、趣智 同 一二右｜	五十四、解深 同 八右｜
同｜二四八上一三	五十二、眞如 四四八 同｜同 一五行｜三三左	五十四、大如（如相） (16) 同 一五左｜同左	五十五、歎深 (12) 同 一〇左｜同左
同｜二五二下八	五十三、不退轉 四四八 同 一二行｜三六左	五十六、不退（阿鞞跋致） 同 三行｜七左	五十六、阿惟越致 同 一八行｜二左

同｜二五三上三		五十四、轉不轉 四四九 同｜三七右 一四行	同	同 七左｜	同	同 ｜三 右二行
同｜二五六下五	同｜四〇左 一〇行	同 同 ｜四左 五行	五十六、堅固（轉不轉）	(17) 同 十九左｜	五十七、堅固	(13) 同 一三左｜
同｜二六一左一〇		五十五、甚深義 四五〇 同｜同 ｜四五右 八行	五十七、深奥（燈炷）	同 二二右｜	五十八、甚深	同 一五右｜
同｜二六二下一〇		五十六、夢行 四五一 同 ｜四五左 一八行	五十八、夢行（夢入三昧）	同 同左二行｜	五十九、夢中行	同 一六行 同左｜
同｜二六六上		五十七、願行 同 同 ｜四八左 一六行	同	同 二三左｜	同	同 一七右｜
同｜二六七上九		五十八、殑伽天 同 同 ｜四九左 一行	五十九、河天（恒河提婆）	(18) 同 二四右 同左一行	六十、恒伽調	同 同
同｜二七〇下二		五十九、習近 四五二 同 ｜五二左 九行	六十、不證（不證學空）	同 二五左｜	六十一、願問相行	(14) 同 十八左｜
(5) 觀相學淨品						
二七〇下三｜二七七下五		六十、增上慢 四五四 同｜同 ｜六一右 五行	六十一、夢誓（夢中不證）	同 二九右｜	六十二、阿惟越致相	同 二一右｜
同｜二八〇下四	同｜六六左 一五行	六十一、同學 四五五 同｜同 ｜六五右 五行	六十二、魔愁（同學）	(19) 同 三〇右｜	六十三、釋提桓因	同 二二右｜
同｜二八一上三	同 六五左 六行					
同｜二八三下七		六十二、同性 四五六 同｜同 ｜六八右 二行	六十三、等學	同 三一右｜	六十四、問等學	同 二三右｜
二八五上八｜二八八上三	同｜六九左 一四行					
同｜二八八下六	同｜七〇右 二行					
同｜二八八下二	同｜七〇右 一三行					
二八三下七｜二八五上八		六十三、無分別 四五六 同 ｜七〇左 一四行	六十四、淨願（隨喜）	同 三二左｜	六十五、親近	(15) 同 二四左｜
二九四下一｜二九五下七	同｜七五左 二行	六十四、堅非堅 四五七 同｜同 ｜七五右 四行	六十五、度空（稱揚）	同 三四右｜	六十六、牢固	同 二五左｜

三三四下二
(7)學一念觀相品
三三四下一二｜
三三九下四
同｜
三四三下七
(8)學法身相品
三四三下八｜
三五一
同｜
三五七
同｜
三六二上一三
同｜
三六六
同｜
三七〇上一
同｜
三七三
同｜
三七四下
同｜
三七九上五
同｜
三八三上八
同｜
三八四上五
同｜
三八四上七

七十四、無相　同　同　｜二七右七行
同　同｜四六七　同　｜三一右一二行
七十五、無雜　同｜四六八　同　｜三五左九行
七十六、衆德相　同｜四七一　同　｜四八右一二行
七十七、善達　同｜四七三　同　｜五六左二行
七十八、實際　同｜四七四　同　｜六三左一行
七十九、無閡　同｜四七五　同　｜六九右三行
八十、道士　四七六　同　｜七三右一七行
八十一、正定　四七七　同　｜七六右一六行
八十二、佛法　同　同　｜七七左一八行
八十三、無事　四八　同　｜七九左三行
八十四、實說　同　同　｜八二右一六行
八十五、空性　同　同　｜八二左一八行

七十六、一念（無論行六度）　同　｜五三左一四行
同　同　｜五六右
七十七、六喩（夢化六度）　同　｜五八右
七十八、四攝　(24)同　｜六二右
七十九、善達　同　｜六四左
八十、實際　(25)同　｜六七左
八十一、具足　同　｜七〇右
八十二、淨土（淨佛國）　(26)同　｜七一左
八十三、畢定　同　｜七三右
八十四、差別（四諦）　同　｜七四右
八十五、七譬　同　｜七五右
八十六、平等　同　｜七六左
八十七、如化　同　｜七七右
八十八、常啼　(27)同　｜八一右
八十九、法尙（曇無竭）　同　｜八三右一行
同　同　｜八三右七行

七十六、無倚相　同　｜四〇右一四行
同　同　｜四一左
七十七、無有相　同　｜四三右
七十八、住二空　(18)同　｜四五左
七十九、超越法相　同　｜四七右
八十、信本際　同　｜四九右
八十一、無形　(19)同　｜五一右
八十二、建立　同　｜五二左
八十三、畢竟　同　｜五三左
八十四、分別　同　｜五四左
八十五、有無　同　｜五五右
八十六、諸法等　(20)同　｜五六右
八十七、如化　同　｜五六左
八十八、薩陀波倫　同　｜五九左
八十九、法上　同　｜六十左
九十、囑累　同　｜六〇左一九行

		九十、囑累	同一八三右四行	同	同一六一右四行
同	同　同一八二左一九行	同	同一八三右六行	同	同一六一右六行

○備考。本表の甲は寫本に依る。⑴須菩提以下八品とす。同一は前行の次より續くを示す。乙以下は支那譯四本なり、梵本の量に比して互に若干の出入廣略あるも大體同じ。甲に附註せる所と乙の附註と照合すべし。品目の上の一二等は品次、⑴⑵は卷次、その下に割註するは縮刷の所在なり。

本表示す所にてミトラ氏云ふが如く梵本も異るものにあらず、又光讃は後部缺くるも、其存する所他と大同なるを知るに足る。

三、大品各品の大要。般若各品の記事は道宣智昇に始まるも充分ならず、宋佛國禪師の大藏經綱目指要錄は略なりと雖も體を成せり、元王古の法寶標目も大品をば別說せず、智旭の知津も大品に於て多く加ふるなし。譯者は各品にその大要を註したれば、此には指要錄卷一の所載につき、卷次品目は今の所譯に改め、彼に缺くる所の散華遍歎二品を補ひ各品の大要となす。

卷一　(一)序品　如來光を放ちて十方界を照し給ふ。(二)奉鉢品　天王鉢を奉る、佛卽ち之を受け給ふ。(三)習應品　一切の諸法は但名あり字あるのみ。

卷二　(四)往生品　何處より沒して此の間に來生する。肉眼天眼等の五眼あり。(五)歎度品　六度等を行じて有情の衆を度す。(六)舌相品　舌より光を放ち一切の世界を照す。(七)三假品

諸法の名字悉く假りに施設す。

卷三　(八)勸學品　諸法を成就し、當に般若を學すべし、乃ち圓滿を得ん。(九)集散品　色の集散を得ず、受想等の法の集散を得ず。(一〇)行相品　若し色等の行相を行ぜば方便善巧無し、但行相を作さゞるのみ。

卷四　(一一)幻學品　幻人能く般若等の法を學ぶ、其の義如何。(一二)句義品　句義無き是を菩薩の句義となす。(一三)金剛品　大心を發し、金剛の如く壞す可からずば有情の上首となす。(一四)斷諸見品(樂說品)　其の所以を說く、便ち知者見者を說く。(一五)富樓那品(辯才品)　我も亦樂說す、大乘に乘じて有情を利せんが爲に。(一六)乘大乘品(乘乘品)　大乘に乘ずる時に般若に乘じ、布施に乘じ、諸法に乘ずる等なり。

卷五　(一七)莊嚴品　大莊嚴とは般若布施等の法を行ずる皆大莊嚴なり。(一八)問乘品　大乘に趣く、是の乘何處に發し、何處に至り、何處に在りて、誰か此の大乘に乘ずる。

卷六　(一九)廣乘品　摩訶衍は內身の中に身に循て觀ずるも亦身覺無し、不可得なるを以て等。(二〇)發趣品　大乘は一地を發趣して一切地に至る。(二一)出到品　是の乘三界の中より薩婆若の中に至りて住す。

卷七　(二二二)勝出品　一切天人等の法に超勝し、虚空等の如く含容包徧す。(二二三)等空品　摩訶衍と虚空と等しくして邊量涯際あることなし。(二二四)會宗品　摩訶衍皆般若布施等の行に隨ふ。(二二五)十無品　一切の諸法は畢竟じて無なるが故に、色の如く色性なく、前際なく後際なく中際なし。法なく佛なき等の義。(二二六)無生品　何等か是れ菩薩、何等か是れ般若、是の如きの觀を作す、畢竟無生なりと。(二二七)天王品(問住品)　諸の天人般若を問ふ、畢竟じて當に何處に於てか住すべき、所住なきなり。

卷八　(二二八)幻聽品　諸の天子の曰く、幻化の如く般若を說くを聽く、說なく聽なし。(二二九)散花品　諸天疑を除き悟を得て華を散じ供養す。(二三〇)三歎品　諸天の曰く、快い哉、快い哉、快く是の法を說く。(二三一)滅諍品　般若を學ぶが故に、諸の諍法を滅して一切の善法を成就するが故のみ。

卷九　(二三二)寶塔大明品　般若を受持せば能く一切の刀箭を除く、是れ大明咒なり。(二三三)述成品　一切の智智一切の善法は皆般若の中より生ず。(二三四)勸持品　天帝諸天を勸めて般若を受持せしめ、天衆を增益し修羅を損滅す。(二三五)遣異品　外道會に至りて佛の過失を求む、諸天般若を誦念するに外道自ら歸依して去る。(二三六)阿難稱譽品(尊導品)　諸法を稱せず、唯般若を

讃じて尊となし導となし妙となし上となす。

卷十（三七）舍利品（法稱品）舍利を供養するの福聚も般若に如かず。（三八）十善品（法施品）贍部洲に敎て十善道に住せしむるも般若に如かず。

卷十一（三九）隨喜品　般若を隨喜するの福をば一切衆生と共に菩提に廻向し有情を利樂す。（四十）照明品　般若一切の世間の光明となりて諸法を照了す。（四一）信毀品　般若を信受せば何處に沒して此の間に來生するや等。

卷十二（四二）歎淨品　此の淨甚深なり、佛言はく畢竟して淨きが故に、不可得の故に。（四三）無作品　般若は無邊無等にして無作なり、空の故に、離の故に。

卷十三（四四）百波羅蜜徧歎品（歎度品）無邊平等の九十波羅蜜を說く。（四五）聞持品（歎信行品）名字耳に過る者も、曾て佛の所を經て大功德を爲す。何に況んや受持するをや。（四六）魔事品　佛道を求むるに留難を生ずれば、說聽師資各和合せず。

卷十四（四七）兩過品（兩不和合過品）說者勤樂し聽者解怠にして、二心和せざれば多く魔事となす。（四八）佛母品　母の子を生むが如く般若は我等を生育す。（四九）問相品　般若何の相なりや、空相是れ相なり。

卷十五　(五十)成辨品(大事起品)　般若は能く世間出世間の法を成辨するが故に。(五一)譬喩品(船喩品)　海中船ありて能く渡ることを得るが如し。(五二)知識品(善知識品、新學品)　新學の菩薩如何が般若を學せん、當に空處に於て學すべし。(五三)趣智品(趣一切智品、壞證品、高度品)　深般若を解して當に一切種智一切智智に趣くべし。

卷十六　(五四)大如品　(如相品)　色如、智如、相如、一切二なく別なし。(五五)阿鞞跋致品　(不退品、後阿鞞跋地品)　般若を修行すれば諸法に於て行なく相なく願なきを不退となす。

卷十七　(五六)轉不退轉品(堅固品、轉不轉品)魔說法をなせども其心動せず、故に堅固と云ふ。(五七)深奧品　(燈炷品、功德品)　般若の深奧なる處は空、是れ其の義なり。(五八)夢行品　(夢中入三昧品、淨土品)　夢に空等を行ずれば晝と異なるなく別なし。

卷十八　(五九)河天品(恒伽提婆品、恒伽天品、提婆女人品)天女花を散じ受記作佛す。(六〇)學空不證品　(不證品、夢證品)　般若を學する時は色空を觀じ、受想行識の空を觀ず。(六一)夢誓品　(夢中不證品、燒城品)　夢中にも亦聲聞緣覺等の法を習はず。

卷十九　(六二)魔愁品　(魔愁毒品、同學品)　若し般若を持すれば、魔復大に愁て、猶毒箭の心に入るが如し。(六三)等學品、菩薩等の法內空等是れ等法なり。(六四)願樂隨喜品　(淨願品、帝

觀隨喜品、願樂品）般若等の法を學びて已に有情の上に出づ、何に況んや正等覺を得るをや。
（六五）度空品（稱揚品）眞實なきは不可得なり、何に況んや眞實の法をや。
卷二十　（六六）囑累品（累敎品）汝が所說の如く實に皆隨順等なり。（六七）不可盡品（無盡品、無盡方便品）虛空盡すべからず、般若盡すべからず、色も亦盡すべからず。（六八）六度相攝品（六度品、攝五品、相攝品）般若は能く布施淨戒安忍等の五行を攝す、故に成就を得るなり。
卷二十一　（六九）大方便品（方便品）能く成就する者は意を發してより已來無量劫を經て般若經を聞く。（七〇）三慧品（三德品）云何が生、云何が修、又云何が般若等を行ずる、不堅實の故に行ずべし。
卷二十二　（七一）道樹品（種樹品）空中に樹を種うる甚だ難と爲す、衆生の爲に正覺を求むること又復た甚だ難し。（七二）菩薩行品（道行品）何等の行を行じて菩提の行と爲すか、色空を行じ受等の空を行ずるなり。（七三）種善根品（三善品、三菩提品）佛を供養し諸の善根を種ゑ眞の善知識を得べし。（七四）遍學品　知慧成就し、是の甚深の法を行して色性の中に動せざるが故に、受等の性空にして動せざるが故に。
卷二十三　（七五）三次第行品（次第學品、三次品、次第品）漸次の學を修し、漸次の業を作し、

漸次の行を行じ、忍を得道を得證を得。(七六)一念品(一心具萬行品、所具足品)種種の惱亂あるも般若を學する人は一念の瞋心を生ぜず。(七七)六喩品(夢幻品)六度の中六種の行相廣く有情を利す、喩の及ばざる所なり。何を以ての故に、皆空と等しければなり。

卷二十四　(七八)四攝品(奇特品)布施之を攝取し、愛語利行同事を以て攝化す。(七九)善達品。諸の法相に達し、化人の如く色等の有爲無爲等を行ぜず、分別を生ぜざるなり。

卷二十五　(八〇)實際品(建立品)般若の際衆生の際菩薩の際畢竟じて異無きが故に。(八一)具足品(照明品、成就辨生品)方便を以ての故に布施等の諸法を行ず、是を菩薩の道を行ずと爲す。

卷二十六　(八二)淨佛國品(淨佛國土品、淨土品)布施等を行ずれば是れ大莊嚴なるを以て佛土を淨む。(八三)畢定品。畢定と非不畢定と、亦畢定亦不畢定と、聲聞辟支の畢定、佛の畢定となり。(八四)四諦品(差別品、佛法差別品)菩薩と佛と亦差別無し。何を以ての故に、空相の中に差別の異無ければなり。(八五)七喩品(七譬品、譬喩品、性空品)辟支佛に非ず、羅漢に非ず、阿含等に非ず、向道の人に非ず、得果の人に非ず、菩薩等に非ず、所作皆夢幻の如し。(八六)平等品(無垢無淨品)所有無き中に垢無く淨無く、有所有の中にも亦垢無く淨無し。(八七)如化品(化品、涅槃如化品)若し化人化人を作さば、是の化實ありや否や。諸法平等なる

が故に化の如し。

卷二十七（八八）薩陀波崙品（常啼品）般若を求むる當に薩陀波崙の如くなるべし。（八九）曇無竭品（法尙品）般若を說かんが爲に、佛所來無く所去無く所住無し。（九〇）囑累品。佛阿難に勅して廣く爲に般若を流布して斷絕せしむること無からしむ。

以上綱目に依り各品の概要を示すのみ。本經縱橫に論じ、般若の體義功德魔障機根等三周重說せるを以て截然たらしむること難し、毗曇の定相を說くに異り無定相不可得を要とするが爲に、達して達する無く、通じて通ずる無し。解題も註解も相似般若に墮せしむるなくんば幸なり。若し審にせんと欲せば、大智度論及び慧影の疏、吉藏の大品遊意並びに疏、惟白の綱目等に就くべし。然れども經文を通讀翫味して無所得に達し、實生活に無礙自在を得るの至要なるを遺るべからず。寺塔舍利の供養も般若の一句を安置するに如かず。百千萬偈の典籍を莊嚴恭敬せんも一句の受持書寫讀誦に如かず。萬部の書寫讀誦も一句の解說分別に如かず。縱橫の分別領解し易からしむるも、人の自ら思惟し說の如く正憶念せんには如かず、若し能く正念せば相似の所得なく、自ら行じ他をして行ぜしめ、般若の世界成就し、擧足下足方便慈悲を行じて、慈悲に著せす能度所度に著せず、救ひて救へりとせず、救ふとせずして救はざるを得ず。是れ佛道なり、菩薩

なり、無上菩提なり、眞實般若なり。經典の供養讃歎に捕へられ文字施設に縛せらるゝなく、觀照偏空の實證に執し、退嬰無作の妄見に著するなく、實慧の妙力を發揮するは本經の眼目なり。

國譯摩訶般若波羅蜜經

卷の第一

序品第一

(一)是の如く我れ聞きき。(二)一時(三)婆伽婆、(四)王舍城、(五)耆闍崛山の中に住しまして、(六)摩訶比丘僧(七)大數五千分と(八)共なりき。皆是れ(九)阿羅漢なり、(一〇)諸漏已に盡き、復(一一)煩惱無し、(一二)心好解脱を得、慧好解脱を得、(一三)心調ひ柔輭に、(一四)摩訶那伽(一五)所作已に辦じ、(一六)擔を棄て(一七)能く擔し、(一八)己利を逮得し、諸の(一九)有結を盡し、(二〇)正智已に解脱を得たり。唯(二一)阿難のみ(二二)學地に在て(二三)須陀洹を得たるのみなるを除

【一】如是我聞。證信序、持經者この般若を正しく信ずるを示す。

【二】一時。化前序、時數等實に無なるも、般若說法の時を通俗に隨ひて云ふ。

【三】婆伽婆(Bhagavān)有德、巧分別と譯す、教主の佛なり。以上大論卷一、二釋す。

【四】王舍城。摩伽陀國の都城。

【五】耆闍崛山(Gṛdhrakūṭaparvata)。鷲頭山又は靈鷲山と譯す。

【六】摩訶比丘僧(Mahābhikṣu-saṃgha)。僧伽は多比丘一處に和合せる團體なり。比丘は乞士と譯す、摩訶は大なり多なり勝なり。以下列衆、先づ聲聞比丘。

【七】大數五千分。千萬衆中の一分を取りて優者凡そ五千人もありと。

【八】共。大論に處、時、心、戒、見、道、解脱の一なるを共と云ふ。

【九】阿羅漢(Arhan)。應供、破

く。復五百(二四)比丘尼(二五)優婆塞(二六)優婆夷等あり、皆(二七)聖諦を見たり。(二八)復(二九)菩薩摩訶薩あり、皆(三〇)陀羅尼及び諸の(三一)三昧を得、(三二)空無相無作を行じ、已に(三三)等忍を得、(三四)無礙陀羅尼を得悉く是れ(三五)五通あり、言は必ず(三六)信受せられ、復懈怠無し、已に利養名聞を捨て、説法(三七)希望する所なし、(三八)深法忍に度り、(三九)無畏力を得、諸の(四〇)魔事を過ぎ、一切の(四一)業障悉く解脱することを得たり。善く(四二)因緣法を說く、(四三)阿僧祇劫より以來(四四)大誓願を發し、(四五)顏色和悅常に先づ問訊す、言ふ所麤ならず大衆の中に於て畏るゝ所なきを得たり。無數億劫に說法(四六)巧出す。諸法は(四七)幻の如く(四八)燄の如く水中の月の如く虛空の如く響の如く(四九)乾闥婆城の如く夢の如く影の如く鏡中の像の如く(五〇)化

賊、不生と譯す。
【一〇】諸漏。三界の欲色無色煩惱。
【一一】煩惱。結、使、流、受、扼、縛、蓋、見、纏等に分つ。心の束縛なり。
【一二】心好解脱。煩惱修惑を離るゝを心解脱と云ひ、不退を得、無生を證するを好解脱と云ふ。慧好解脱は無明、見惑を離るゝなり。
【一三】心調。恭敬供養せらるゝも罵詈打擲せらるゝも心等くして動ぜず、和平柔軟なり。
【一四】摩訶那伽(Mahānāga)。大象王又は大龍と譯す、五千羅漢の優勝なるを云ふ。又那伽を不罪とも譯す。
【一五】所作。信戒定捨又は聞思慧、又は愛惑を斷する類。本文は略なり具さに所作已作所辨已辨の意なり。已辨は智慧精進解脱、又は修慧成就又は見惑斷の類なり。又所作已作は心解脱、所辨已辨は慧解脱とも云ふべし。
【一六】擔を棄て。羅漢が麤重の五蘊を除く。
【一七】能擔。自利々他を滿足し佛法の大事を擔任す。
【一八】己利。諸善を修め信戒捨定慧等の功德を成じ、道果を得るなり。
【一九】有結。欲有色有無色有の三有卽ら三界の業報。愛恚慢癡疑見取慳嫉の九結。
【二〇】正智。眼見によらず、佛を信じて解脱す。
【二一】阿難(Ānanda)。多聞第一の佛弟子として佛に常侍すること廿五年、斛飯王の子提婆達多の弟。
【二二】學地。羅漢に達せざるもの、阿難本願により初果に停るも無學離欲五千人の中に數ふるを辨ず。

の如しと解了し、(五一)無礙無所畏を得て、悉く衆生心行の(五二)趣く所を知り、(五三)微妙の慧を以て之を度脫し、意に(五四)罣礙なく(五五)大忍成就し(五六)實の如く巧に度す。無量の諸佛世界を(五七)願受し、(五八)無量世界諸佛三昧常に現在前するを念ふ。能く無量の諸佛を(五九)請じ、能く種種の(六〇)見(六一)纏及び諸の(六二)煩惱を斷ち、百千三昧に(六三)遊戲し出生す。諸の菩薩是の如き等の種種の無量功德成就せり。其の名を(六四)跋陀婆羅菩薩、(六五)闍那那伽羅菩薩、導師菩薩、(六六)那羅達菩薩、星得菩薩、水天菩薩、主天菩薩、大意菩薩、益意菩薩、增意菩薩、不虛見菩薩、善進菩薩、勢勝菩薩、常勤菩薩、不捨精進菩薩、日藏菩薩、不缺意菩薩、觀世音菩薩、(六七)文殊師利菩薩、執寶印菩薩、常擧手菩薩、慈氏菩薩と曰ふ。(六八)是の

【二三】須陀洹(Srota-āpanna)。預流、聲聞四果中の第一。

【二四】比丘尼(Bhikṣuṇī)。出家女、大尼。乞女と譯す。

【二五】優婆塞(Upāsaka)。在家信男。近事男と譯す。

【二六】優婆夷(Upāsikā)。在家信女。近事女と譯す。

【二七】聖諦。苦集滅道の四諦、緣起を見、漏盡涅槃を得るの法。以上大論三。

【二八】以下菩薩衆を擧げ勝德を嘆す。大論第四第五。

【二九】菩薩摩訶薩（Bodhisattva mahāsattva)。佛道衆生、大勇心又は覺有情大有情と譯す。成佛を願ふ大乘の行者精進不退なる者なり。

【三〇】陀羅尼（Dhāraṇī)。總持又は能持と譯す。善法を散失せしめず惡法を生ぜざらしむ。聞持、分別知、入音聲、寂滅、無邊等の陀羅尼略說五百門あり。

【三一】三昧（Samādhi)。等持と譯す、次の空等これなり。略說百八三昧廣說無量三昧なり。

【三二】空無相無作。三三昧、三解脫門又は得實相三昧と名く。空は諸法實相畢竟空無我無我所を觀る。無相は五塵男女生滅一異等の相を離れ諸法に著せず、無作は有無に著せず、後世の爲に造作せず。

【三三】等忍。一切衆生に於て等心等念等愛等利し八不中道を得、善惡諸法に於て不二實相に入る。

【三四】無礙陀羅尼。諸陀羅尼中の最大最上にして大菩薩の具する所、說法敎化の根本なり。

【三五】五通。如意神足、天眼、天耳、他心智、自識宿命。

【三六】信受。言說信ぜらるゝは不綺語の報なり。

如き等の無數百千萬億(六九)那由他の諸の菩薩摩訶薩、一切の菩薩皆是れ(七〇)補處にして、尊位に紹ぐ者なり。

(七一)爾の時世尊自ら(七二)師子座を敷き(七三)結跏趺坐して身を直くし、(七四)念を繫け前に在り、(七五)三昧王三昧に入り給ふ。是の時世尊三昧より(七六)安詳にして起ち、(七七)天眼を以て世界を觀視し、(七八)擧身微笑し、足下(七九)千輻相輪の中より六百萬億の光明を放ち、足の十指・兩踝・兩(八〇)腨・兩膝・兩髀・腰脊・腹脅・背臍・心胷・(八一)德字・肩臂・手の十指・項口・(八二)四十齒・兩の鼻孔・兩眼・兩耳・(八三)白毫相・(八四)肉髻より、各六百萬億の光明を放ち給ふ。是の諸の光より大光明を出し、徧く三千大千世界を照し、三千大千世界より徧く東方如恒河沙等の諸

【三七】希望。大慈憐愍に出で衣食名聲利養勢力の望なし。

【三八】深法忍。甚深法とは十二因緣三解脫門諸法實相にして深く實相に入りて動轉せず、能く彼岸に到る。

【三九】無畏力。佛と菩薩とに四無畏あり、能持と知機と無相と善巧との四により菩薩大衆中に說法畏るゝ所なし。

【四〇】魔事。四魔あり、煩惱、五蘊、死、他化自在天子魔、菩薩道を得、法身、法性身、常一心の故に四魔を過ぐ。

【四一】業障。煩惱、業、報の三障あり。中に業力久住して障最も大なり。

【四二】因緣法。十二緣起法門を云ふ。成佛の一切智これなり。

【四三】阿僧祇劫 (Asaṃkhyeya-kalpa)。無數劫、劫大論に四十里石山天人拭滅の譬あり。

【四四】大誓願。菩薩の正願又は總願と云ふ。度一切生、斷諸煩惱、成等正覺心なり。

【四五】顏色和悅。瞋恚嫉妬なく四口惡を斷じ四無量を具す故に和悅等と云ふ。

【四六】巧出。多智善論者の中に巧論卓出す。

【四七】幻。幻焰等十喩あり諸法空を示す。大論第六。

【四八】焰。陽炎、日光中風塵を動じて野馬の如し。

【四九】乾闥婆城 (Gandharva-nagara)。日出時に見る蜃氣樓の一種。

【五〇】化。初禪等十四變化心、大小輕擧等八變化の類。

【五一】無礙無所畏。菩薩自智に於て一切處一切經等に無礙にして大衆中に畏れず。

【五二】趣。心樂を求め、智分別す。又苦樂有無の二邊なり。

【五三】微妙慧。世智に對し出世

佛世界を照す、南西北方四維上下も亦復た是の如し。若し衆生ありて斯の光に遇ふ者は、必ず(八五)阿耨多羅三藐三菩提を得ん、光明東方如恒河沙等の諸佛世界に出過す。南西北方四維上下も亦復是の如し。爾の時世尊(八六)擧身の毛孔皆亦微笑して、諸の光を放ち、徧く三千大千世界を照し、復十方如恒河沙等の諸佛の世界に至る。若し衆生ありて此光に遇ふ者は必ず阿耨多羅三藐三菩提を得ん。爾の時世尊(八七)常光明を放つて徧く三千大千世界を照し、亦東方如恒河沙等の諸佛の世界に至る。乃至十方も亦復是の如し。若し衆生ありて斯の光に遇ふ者は、必ず阿耨多羅三藐三菩提を得ん。爾の時世尊廣長の(八八)舌相を出して徧く三千大千世界を覆ひて熙怡微笑し給ふ。其の舌根より無量千萬億の光を放つ、

智、施戒定に對し無猗禪、不取相慧を云ふ。

【五四】罣礙。怨親等の差別に礙けらるゝを云ふ。

【五五】大忍。等忍法忍進みて無生忍を得、十方諸佛現前を見る。

【五六】如實巧度。一切智方便心によりて眞に解脱せしむ。

【五七】願受。佛土嚴淨を見て等しからんことを願ず。大論第七。

【五八】菩薩の念佛三昧を説く。

【五九】請。初轉法輪と如來久住とを請ふ。

【六〇】見。斷常二見乃至六十二邪見。

【六一】纒。瞋、覆罪、睡、眠、戲、掉、無慚、無愧、慳、嫉の十纒乃至五百纒。

【六二】煩惱。十纒九十八結を一百八煩惱と云ふ。

【六三】遊戲出生。諸三昧を生じて出入自在なるを云ふ。

【六四】跋陀婆羅(Bhadrapāla)。善守、賢護と譯す。

【六五】罽那那。大論刹那に作る。刹那伽羅(Ratnākara)寶積、寶生と譯す。

【六六】那羅達(Nāradatta)。人授。

【六七】文殊師利(Mañjuśri)。妙吉祥と譯す。

【六八】列ぬる所、廿二は此方他方の在家出家の菩薩の一分を擧ぐ。

【六九】那由他(Nayuta)。第十二位の數、千万億なり。

【七〇】補處。佛處を補ひ紹ぐを云ふ。

【七一】放光現瑞。初に神力、二に一切毛孔微笑、三に常光一丈、四に舌相遍覆、五に師子三昧大千震動、六に最勝身威德、七に常身示現。

【七二】師子座。如來の座の尊稱。

【七三】結跏趺坐。禪人の坐法、身

是の一一の光化して千葉の金色の寶華と成る、是の諸の華の上に皆化佛有り、結跏趺坐して、(八九)六波羅蜜を說く、衆生聞く者必ず阿耨多羅三藐三菩提を得、復十方如恒河沙等の諸佛の世界に至るまで皆亦是の如し。爾の時世尊故らに師子座に在り、(九〇)師子遊戲三昧に入り、神通力を以て三千大千世界を感動し(九一)六種に震動す、東に涌り西に沒み、西に涌り東に沒み、南に涌り北に沒み、北に涌り南に沒み、邊に涌り中に沒み、中に涌り邊に沒む。地皆柔輭にして衆生をして(九二)和悅せしむ。是の三千大千世界の中の地獄餓鬼畜生及び(九三)八難處、卽時に解脫し天上に生ずることを得、(九四)四天王天處より乃ち他化自在天處に至る。是の諸の天人自ら(九五)宿命を識り、皆大に歡喜し、佛所に來詣し、頭面佛

直く心正しく、安穩疲れず。

【七四】繫念在前。三昧に入らんが爲に散心を攝し來る。

【七五】三昧王三昧。佛三昧中の第一、自在な相とし、善五蘊の攝、第四禪捨念淸淨なるもの。

【七六】安詳。安靜庠序たり。

【七七】天眼。五眼の中遍く世界衆生法を見るもの。

【七八】擧身微笑。全身の毛孔皆開く。

【七九】千輻相輪。三十二相の一、眼口出す光りあるも先つ底下より放光す。

【八〇】蹲。踵、くびす、かゝと、髀。もゝ。

【八一】德字。胸の卍字相を云ふ。

【八二】四十齒。三十二相の一として佛齒四十ありと云ふ。

【八三】白毫。眉間に白毛婉旋せる相。

【八四】肉髻。頂上に拳大の隆起肉。

【八五】阿耨多羅三藐三菩提。(Anuttara samyaksambodhi) 無上正徧智。

【八六】擧身微笑の細相、毛孔放光を說く、大論第七終る。

【八七】常光。三十二相の一。釋迦佛身四邊一丈の光あり。

【八八】舌相。證誠不虛を表し、般若を信ぜしむ。

【八九】六波羅蜜。施戒忍進定慧の六度。波羅蜜(Pāramitā)到彼岸と譯す。

【九〇】師子遊戲三昧。師子の鹿を搏つ如く自在なり。故に名づく。

【九一】六種震動。東涌西沒等これなり。

【九二】和悅。地動身に適し、身心に順する故に欣悅す。

【九三】八難處。地獄等の三塗と、人道の根缺、邪見、佛前佛後、北俱盧洲と無想長壽天。

足を禮し、卻きて一面に住す。是の如く十方如恒河沙等の世界、地皆六種に震動し、一切の地獄餓鬼畜生及び八難處、卽時に解脫し天上に生ずることを得て、第六天に齊る。爾の時此の三千大千世界の衆生、盲者視るを得、聾者聽くを得、瘂者言を得、狂者正を得、(九六)亂者定るを得、(九七)裸者衣を得、飢渴者飽滿することを得、病者愈るを得、(九八)形殘者具足するを得。一切衆生皆(九九)等心を得、相視る父の如く母の如く兄の如く弟の如く姉の如く妹の如く、亦親族及び善知識の如し。是の時衆生等(一〇〇)十善業道を行じ、(一〇一)梵行を淨修し、諸の瑕穢なく恬然(一〇二)快樂、譬へば比丘第三禪に入り、皆好慧を得、戒を持ち自ら守り衆生を嬈らざるが如し。

(一〇三)爾の時世尊師子座の上に在りて坐し給ふ。三千大千世界の中に於て其の德特尊に、光明色像威德巍巍たり、徧く十方如恒河沙等の諸佛の世界に至る、譬へば須彌山王の光色殊特にして衆山の能く及ぶ者なきが如し。(一〇四)爾の時世尊(一〇五)常身を以て此の三千大千世界の一切衆生に示す。是の時(一〇六)首

【九四】「四天王」等は欲界六天なり。
【九五】宿命。諸天三種自知す。三とは所從來處、所修福田、本所作福なり。人自ら宿命を識らざるものあるも、佛力に依て識る。
【九六】亂者。狂せざるも不善を逐ひ心散亂す。
【九七】裸者。狂亂惡邪にして衣なき者。
【九八】形殘者。醜陋爛壞殘毀せる者。
【九九】等心。離欲無我ならざれば眞の等心ならざるも怨讐をも父母の如く視るを云ふ。
【一〇〇】十善業道。身業道不殺不盜不邪婬の三、口業道不妄語、不兩舌、不惡口、不綺語の四、意不貪不惱害不邪見の三。
【一〇一】梵行。斷婬除欲を云ふ。
【一〇二】快樂。內心樂、涅槃樂。
【一〇三】第六に最勝身光明色像威德。以下大論第九。
【一〇四】第七常身を示す。
【一〇五】常身。佛の眞身。
【一〇六】首陀會。(Śuddhāvāsa シユッダーワーサ)淨居と譯す第四禪中無煩等の五、阿那含聖者の住處とす。

陀會天・(一〇七)梵衆天・(一〇八)他化自在天・化樂天・(一〇九)兜率陀天・(一一〇)夜摩天・三十三天・四天王天、及び三千大千世界の人と非人と、諸の(一一一)天華・天瓔珞・天(一一二)澤香・天(一一三)末香・天青蓮華・赤蓮華・白蓮華・紅蓮華・天樹葉香を以て、持て佛所に詣る、是の諸の天華乃至天樹葉香を以て佛の上に散ず。散ずる所の寶華此の三千大千世界の上に於て、虚空の中に在り化して大臺と成る。是の華臺の邊に諸の瓔珞を垂る、雜色の華蓋五色繽紛たり、是の諸の華蓋瓔珞偏く三千大千世界に滿つ、是の華蓋瓔珞を以て嚴飾す。故に此の三千大千世界皆金色と作る、十方如恒河沙等の諸佛の世界も及び皆亦是の如し。爾の時三千大千世界及び十方の衆生各々自ら念ふ、佛獨り我が爲めに說法し餘人の爲めにせずと。爾の時世尊師子座に在りて煕怡微笑し給ふ。(一一四)光口より出て偏く三千大千世界を照す、此の光を以ての故に、此の間三千大千世界の中の衆生、皆東方如恒河沙等の諸佛及び僧を見る、彼の間如恒河沙等の世界の中の衆生亦此の間三千大千世界の中の釋迦牟尼佛及び諸の大衆を見る、南西北方四維上下も亦復是の如し。

(一一五)是の時東方如恒河沙等の諸佛の世界を過ぎ、其の世界(一一六)最在邊の世

【一〇七】梵衆。初禪の梵を擧げて色界四禪十二天を攝す。
【一〇八】他化以下欲界六天なり。
【一〇九】兜率陀（Tuṣita）。欲界第四天。知足天と云ふ。
【一一〇】夜摩（Yāma）。欲界第三天。善分天と云ふ。
【一一一】天華。天の雨らす妙華、並びに人、非人に屬するも妙好なる華。
【一一二】澤香。所住の地に塗るもの。
【一一三】末香。散敷する香。
【一一四】如來重ねて放光し衆會相見せしむ。
【一一五】以下十方相見の大衆來會供養を明す。六方の初東方多寶等。
【一一六】最在邊。世界實に無邊なるも、釋迦化境因緣の邊際を云ふ。

界を多寶と名け、佛を寶積と號す。今現に在して諸の菩薩摩訶薩の爲めに般若波羅蜜を說き給ふ。爾の時彼の世界に菩薩有り、名けて普明と曰ふ　大光明を見、地大に動くを見、又佛身を見たてまつり、寶積佛の所に到り、佛に白して言さく、『世尊、今何の因何の緣ありて、此の光　明　有り諸の世界を照し、地大に震動し及び佛身を見るや。』（二七）寶積佛普明に報て言はく、『善男子、西方如恒河沙等の諸佛の世界を度りて、世界有り娑婆と名く、是の中に佛有り釋迦牟尼と號す、今現に在して諸の菩薩摩訶薩の爲めに般若波羅蜜を說かんと欲す、是れ其の神力なり。』是の時普明菩薩寶積佛に白して言さく、『世尊、我れ今往きて釋迦牟尼佛に見え、禮拜供養し、及び彼の諸の菩薩摩訶薩尊位に紹ぐ者、皆陀羅尼及び諸の三昧を得、諸の三昧に於て自在を得たるを見るべし。』佛普明に告げ給はく、『往かんと欲せば意に隨へ、宜しく知るべし是の時なり』と、爾の時寶積佛千葉金色の蓮華を以て普明菩薩に與へて、之に告げて曰く、『善男子、汝此の華を以て釋迦牟尼佛の上に散ぜよ、彼の娑婆世界の中に生ずる諸の菩薩勝ち難く及び難し。汝當に一心に彼の世界に遊ぶべし。』爾の時普明菩薩寶積佛より千葉金色の蓮華を受け、無數の出家在家の菩薩及び諸の童男童女と倶に共に發引す。皆東方の諸佛を供養し恭敬し尊重し讚歎す。諸の華香瓔珞澤香末香燒香塗香衣服旛蓋を持つて、釋迦牟尼佛の所に向ふ。到り已りて頭面佛足を禮し一面に立つ。佛に白して言さく、『寶積如來（二八）問を致す、世尊、少惱

【二七】以下大論第十。

【二八】問。問訊、挨拶なり。

少患起居輕利氣力安樂なりや不や、又此の千葉金色の蓮華を以て世尊に供養す。〓爾の時釋迦牟尼佛是の千葉金色の蓮華を受け、以て東方如恒河沙等の諸の世界の中の佛に散ず。散ずる所の蓮華、東方如恒河沙等の諸佛の世界に滿ち、一一の華の上に皆化菩薩有り、結跏趺坐して六波羅蜜を説く、此法を聞く者必ず阿耨多羅三藐三菩提に至る、諸の出家在家の菩薩及び諸の童男童女、頭面釋迦牟尼佛の足を禮し、各供養の具を以て釋迦牟尼佛を供養し恭敬し尊重し讃歎す。是の諸の出家在家の菩薩及び諸の童男童女、各々善根福德力を以ての故に、釋迦牟尼佛（二九）多陀阿伽度（三〇）阿羅訶（三一）三藐三佛陀を供養することを得たり。

（三二）南方如恒河沙等の諸佛の世界を渡り、其の世界最在邊の世界を離一切憂と名け、佛を無憂德と號し、菩薩を離憂と名く。（三三）西方如恒河沙等の諸佛の世界を度り、其の世界最在邊の世界を滅惡と名け、佛を寶山と號し、菩薩を義意と名く。（三四）北方如恒河沙等の諸佛の世界を度り其の世界最在邊の世界を勝と名け、佛を勝王と號し、菩薩を德勝と名く。（三五）下方如恒河沙等の諸佛の世界を度り、其の世界最在邊の世界を善と名け、佛を善德と號し、菩薩を華上と名く。（三六）上方如恒河沙等の諸佛の世界を度り、其の世界最在邊の世界を喜と名け、佛を喜德と號し、菩薩を德喜と名く。是の如く一切皆東方の如し。

【二九】多陀阿伽度（Tathāgata）。如來と譯す。
【三〇】阿羅訶（Arhan）。應供と譯す、羅漢に同じ。
【三一】三藐三佛陀（Samyaksaṃbuddha）。正徧智と譯す。
【三二】二に南方離一切憂等。
【三三】三に西方滅惡等。
【三四】四に北方勝等。
【三五】五に下方善等。
【三六】六に上方喜等。

(一二七)爾の時此の三千大千世界變成して寶華と爲り、徧く其の地を覆ひ、繒旛蓋を懸け、香樹華樹皆悉く莊嚴せり、譬へば(一二八)華積世界普華世界の如し。妙德菩薩善住意菩薩及び餘の大威神の諸の菩薩、皆彼に在りて住す。爾の時佛一切世界若は(一二九)天世界若は(一三〇)魔世界若は(一三一)梵世界若は(一三二)沙門(一三三)婆羅門、若は天若は(一三四)乾闥婆人(一三五)阿修羅等、及び諸の菩薩摩訶薩尊位に紹ぐ者、一切皆集まれるを知り、佛衆會已に集まれるを知り給ふ。

(一三六)佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩(一三七)一切種智を以て(一三八)一切法を知らんと欲せば、當に般若波羅蜜を習行すべし。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩云何が一切種智を以て一切法を知らんと欲せば、當に般若波羅蜜

【一二七】佛力を以て變成莊嚴し大衆集る、序分の最後。

【一二八】華積等。華樹莊嚴の故に華嚴の淨界を例とす。

【一二九】天世界。欲天、色天、無色界天に通ずるも特に欲天。大論は之を四天王忉利とし次の天を夜摩兜率化樂愛身天とす。

【一三〇】魔(Māra)。他化自在天を云ふ。

【一三一】梵世(Brahmaloka)。色界無色界に通じ特に初禪、或は單に大梵天(Mahābrahmā)。

【一三二】沙門(Śramaṇa)。勤息と譯す、出家行者。

【一三三】婆羅門(Brāhmaṇa)。淨行と譯す。四姓の第一、宗教に携るもの。

【一三四】乾闥婆(Gandharva)。尋香と譯す、八部の一。

【一三五】阿修羅(Asura)。非天と譯す、八部の一。

【一三六】以下正宗分。大論第十一。舍利弗(Śāriputra)は弟子中智慧第一と稱せらる。

【一三七】一切種智。種とは智慧門なり。三觀六念十六行相世出世の一切の諸智一切法を知るを一切種と云ふ。

【一三八】一切法、識所緣、智所緣。色無色。蘊處界等種々に分類せらるゝ無量の諸法。

【一三九】不住法。法に有無生滅等定住する所なきなり。般若を有漏慧と云ひ、無漏慧と云ひ種々論するも所著あり住法あるは眞般若にあらず。大論第十一。

【一四〇】無所捨法。法空無我の故に財法無畏煩惱の四な施捨して施捨なき故に眞の施となる。

【一四一】檀那(Dānapāramitā)。施の波羅蜜となるは般若により無所捨とすればなり。

を習行すべきや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩(一三九)不住法を以て般若波羅蜜の中に住すべし、(一四〇)無所捨法を以て(一四一)檀那波羅蜜を具足すべし、(一四二)施す者受くる者及び財物不可得の故に。(一四三)罪不罪不可得の故に、(一四四)尸羅波羅蜜を具足すべし。心動かざるが故に(一四五)羼提波羅蜜を具足すべし。身心精進懈怠せざるが故に(一四六)毗棃耶波羅蜜を具足すべし。(一四七)不亂不味の故に(一四八)禪那波羅蜜を具足すべし。(一四九)一切法に於て著せざるが故に般若波羅蜜を具足すべし。

(一五〇)菩薩摩訶薩不住法を以て般若波羅蜜の中に住すべし。(一五一)不生の故に、(一五二)四念處・(一五三)四正勤・(一五四)四如意足・(一五五)五根・五力・(一五六)七覺分・(一五七)八聖道分、(一五八)空三昧・無相三昧・無作三昧、(一五九)四禪・(一六〇)四無量心・(一六一)四無色定・(一六二)八背捨・(一六三)

【一四二】施者、受者、財物の三を執せず不可得なるを三輪清淨の施度と云ふ。大論第十二。

【一四三】能持戒、所持戒不可得なれば罪不罪不可得なり、これ眞の戒度なり。

【一四四】尸羅(Śīlapāramitā)。戒度と譯す、大論第十三、第十四處說。

【一四五】羼提。(Kṣāntipāramitā)忍度と譯す。忍に生忍法忍あり。福德智慧を生ず。大論第十四、第十五。

【一四六】毗梨耶(Vīryapāramitā)。精進度と譯す、大論第十五、十六。

【一四七】不亂不味。麁細の亂なく愛着の味なし。

【一四八】禪那(Dhyānapāramitā)。定度と譯す。大論第十七。

【一四九】大論第十八、般若の實相空觀を論ず。

【一五〇】大論第十九に以下三十七品を論ず。

【一五一】不生。一切諸法の實相本來不生不滅なり。實相に相應して諸法具すべし。

【一五二】四念處乃至八聖道分を三十七道品とす。得涅槃道なり。身受心法の四處に不淨苦無常無我を觀ずるもの四念處なり。

【一五三】四正勤。已生未生の二不善を遮し二善法を集むること懃精進なり。

【一五四】四如意足。念處は智慧實觀を主とし、正勤は精進を主とし、如意足は定を以て心を攝す。

【一五五】五根五力。信、進、念、定、慧の五の根、根增長して惱壞されざるを力とす。

【一五六】七覺分。念、擇法、精進、喜、輕安、定、捨の七菩提分。

【一五七】八聖道分。見、思惟、語、業、精進、定、念、命の八正。

八勝處・(一六四)九次第定・(一六五)十一切處、(一六六)九想・脹想・壞想・(一六七)血塗想・膿爛想・(一六八)青想・(一六九)噉想・散想・骨想・燒想、(一七〇)念佛・(一七一)念法・(一七二)念僧・(一七三)念戒・(一七四)念捨・(一七五)念天・(一七六)念入出息・(一七七)念死、(一七八)十想・無常想・苦想・無我想・食不淨想・一切世間不可樂想・死想・不淨想・(一七九)斷想・離欲想・盡想、十一智・法智・比智・他心智・世智・苦智・集智・滅智・道智・盡智・無生智・(一八〇)如實智、三三昧・(一八一)有覺有觀三昧・(一八二)無覺有觀三昧・(一八三)無覺無觀三昧、(一八四)三根・(一八五)未知欲知根・(一八六)知根・(一八七)知已根を具足すべし。(一八八)舍利弗、菩薩摩訶薩遍く佛の(一八九)十力・(一九〇)四無所畏・(一九一)四無礙智・(一九二)十八不共法・(一九三)大慈大悲を知らんと欲せば當に般若波羅蜜を習行すべし。菩薩摩訶薩(一九四)道慧を具足せんと欲せば、當に般若波羅蜜を習行すべし、道慧を以て(一九五)道種慧を具足せんと

【一五八】空三昧等。三三昧乃至十一切處の八種法は道品を調御するもの、大論第二十。

【一五九】四禪。覺觀喜樂を攝して初禪より第四禪となる。淨禪は有漏善五蘊、無漏禪は無漏五蘊による。

【一六〇】四無量。無限の慈悲喜捨。

【一六一】四無色定。空處定、識處定、無所有處定、非有想非無想處定。

【一六二】八背捨。內有色外觀色、內無色外觀色、淨背捨身作證及び四無色定と滅受想定との八に內外の欲著を背捨す。大論第二十一。

【一六三】八勝處。內有色相外觀色、內無色相外觀色の少多好醜と內無色相外觀色の青黃赤白との八に於て不淨觀を以て一切の貪を治す。

【一六四】九次第定。初禪乃至第四禪四無色滅受想定。

【一六五】十一切處。青黃赤白地水火風空識の十普遍を觀ず。

【一六六】九想。死尸の脹壞等を觀て厭離す。

【一六七】血塗想。死尸壞れて肉血塗漫す。

【一六八】青想。死尸變色して青瘀黃赤となるを觀る。

【一六九】噉想。鳥獸に噉食せらるを想ふ。

【一七〇】念佛。念佛等八念なり。如來の十力大慈悲を念す。

【一七一】念法。佛說二諦、諸法一相無相を念す。大論第廿二。

【一七二】念僧。三乘五分四双八輩の佛弟子衆和合團を念す。

【一七三】念戒。律儀、定共道共の戒を念す。

【一七四】念捨。財法二施、捨煩惱を念す。

【一七五】念天。六欲天を念す。

【一七六】念入出息。安那般那觀數息なり。

欲せば、當に般若波羅蜜を習行すべし、道種慧を以て（一九六）一切智を具足せんと欲せば、當に般若波羅蜜を習行すべし、一切智を以て（一九七）一切種智を具足せんと欲せば、當に般若波羅蜜を習行すべし、一切種智を以て（一九八）煩惱習を（一九九）斷せんと欲せば、當に般若波羅蜜を習行すべし。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を學すべし。

復次に舍利弗、菩薩摩訶薩（二〇〇）菩薩の位に上らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。（二〇一）聲聞（二〇二）辟支佛地を過ぎ（二〇三）阿鞞跋致地に住せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。（二〇四）菩薩摩訶薩（二〇五）六神通に住せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。（二〇六）一切衆生の意の趣向する所を知らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩一切聲聞辟支佛の智慧に勝れ

【一七七】念死。自死他因緣死を念ず、念死は入道の始めなり。

【一七八】十想。無常等の十は自の內觀にて、九想の外他觀と異る。大論第廿三。

【一七九】斷想等。煩惱を斷離盡す。三毒を斷じ愛を離れ苦を滅盡す。

【一八〇】如實智。前の十智は廣く通ずるも、この智は佛眼に屬す。

【一八一】有覺有觀。感覺推理と相應する初禪心。

【一八二】無覺有觀。二禪中間の但觀。

【一八三】無覺無觀。二禪以上覺觀を絕す。

【一八四】三根。廿二根の中知根にして無漏の信進念定慧喜樂捨意九根和合なり。

【一八五】未知欲知根。見道の九根和合。

【一八六】知根。信解見得者修道の九根。

【一八七】知已根。無學聖者の九根。

【一八八】大論第廿四。

【一八九】十力。是處不是處、衆生業報、諸禪解脫、衆生根性、衆生欲、世間無數、一切道至處、宿命、天眼、漏盡との究竟如實知なり。

【一九〇】四無所畏。正智人、漏盡、障法、聖道を說くに微畏なし。

【一九一】四無礙智。義、法、辭、樂說事滯る所なし。

【一九二】十八不共法。身と口と念と失なく、異想なく、定心ならさるなく、知て捨てざるなく、欲と進と念と慧と解脫と解脫知見と滅するなく、身口意業智慧に隨ひ、智慧三世を知るに無礙なり。此十八は二乘になし故に不共と云ふ。大論第廿六。

【一九三】大慈大悲。拔苦を慈、與樂を悲と云ふ。慈悲は四無量

んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。諸の陀羅尼門諸の三昧門を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。一切聲聞辟支佛を求むる人の布施するに、(二〇七)隨喜心を以て其の上に過ぎんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。一切聲聞辟支佛を求むる人の持戒するに、隨喜心を以て其の上に過ぎんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。一切聲聞辟支佛を求むる人の(二〇八)三昧智慧解脱解脱知見に於て、隨喜心を以て其の上に過ぎんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。一切聲聞辟支佛を求むる人の諸の(二〇九)禪定解脱三昧に於て、隨喜心を以て其の上に過ぎんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩(二一〇)少施少戒少忍少進少禪少智を行し、(二一一)方便力廻向を以ての故に無量無邊功德

にもあるも、今佛眼究意の慈悲を大と云ふ。大論廿七。

【一九四】道慧。趣涅槃の一道より百六十二道無量道を實相と知る。

【一九五】道種慧。諸道實相に卽して重々差別を盡く知る。

【一九六】一切智は因分略說總相の智。

【一九七】一切種智は果分廣說別相にして如來の妙智。

【一九八】煩惱習。煩惱は三毒九十八使、習はその熏習の余垢。

【一九九】斷。道慧道種慧一切智一切種智次第して習氣を斷ずとするが如きも般若一相の故に一心中に圓得圓斷なり。

【二〇〇】菩薩の位。無生法忍にして一切空と觀じ心著せず諸法實相に住し諸佛現前三昧を得るなり、慧眼法眼佛眼を見るを云ふ。

【二〇一】聲聞。聲聞は佛化により羅漢に至る。

【二〇二】辟支佛（Pratyekabuddha）。獨覺と譯す。緣起を觀察し自證す、聲聞と俱に二乘とし自覺解脫とす、利他菩薩はこれを超過す。

【二〇三】阿鞞跋致（Avaivartai）。不退轉と譯す。

【二〇四】大論第二十八。

【二〇五】六神通。五通及び漏盡通。漏盡に漏習俱盡と、煩惱盡くるも習氣尙盡きざるとあり。

【二〇六】一切衆生の意。他心通よりも廣く三世一切の心心所の志向を含む。

【二〇七】隨喜心。賛同する心。諸法緣生の故に、發起自作も賛同も同力なり、無般若の自作よりも般若の隨喜勝る。緣生に相應するが故なり。

【二〇八】三昧等。戒定慧解脫々々知見を五分と云ひ、三乘因果に通じて存するも、佛の五分

を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩（二一二）檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜を行せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩（二一三）世世の身體をして佛と相似ならしめんと欲し、（二一四）三十二相（二一五）八十隨形好を具足せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。（二一六）菩薩の家に生ぜんと欲し、（二一七）鳩摩羅伽地を得んと欲し、諸佛を離れざるを得んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。（二一八）諸の善根を以て諸佛を供養し恭敬し尊重し讚歎し、意に隨て成就せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。一切衆生の願ふ所の飲食衣服臥具塗香車乘房舍牀榻燈燭等を滿さんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩如恒河沙等の諸佛の

は實般若の故に完全なり。

【二〇九】禪定。四禪九次第定を云ひ、解脫三昧とは八背捨三解脫門慧解脫共解脫三三昧等を云ふ。前五分に三昧あるも慧を主とし、これは定を主とす。大論第二十九。

【二一〇】少施等。菩薩六度の故に行の多少にあらず、散雜劣心の行を少と云ふ。

【二一一】方便力廻向。成佛度生を願ずるなり。

【二一二】檀那等。布施行等の波羅蜜なるは般若波羅蜜心を以てするにあるが故なり。

【二一三】世々。小乘は最後成佛身にのみ三十二相等なりとす。

【二一四】三十二相。頂上肉髻、髮毛右旋、額廣平、眉間白毫等。

【二一五】八十隨形好。爪如赤銅色等八十の細相殊妙を云ふ。

【二一六】菩薩の家。衆生中に甚深大悲を發す者。

【二一七】鳩摩羅伽（Kumāraka）。童眞と譯す。童男となり愛欲に染まず佛道を修む。

【二一八】大論第三十。

【二一九】衆生に六度を教化して成就せしむ。

【二二〇】善根。無貪、無瞋、無癡善根を三善根と云ふ。今は善根の因緣たる花香燈明等の具持戒誦經等の法を云ふ。

【二二一】佛福田。福德を長養する處を福田と云ふ、種々あるも佛を第一福田とす。

【二二二】稱讚。觀空無我の菩薩名譽を求めず、世俗に隨ふと度生の爲とによる、佛讚すれば不退を確乎たらしむ。

【二二三】斷えざらしむるは佛種不斷に次第發心作佛せしめんとなり。

【二二四】大論第三十一。

世界の衆生をして檀那波羅蜜に立ち、尸羅波羅蜜羼提毗梨耶禪那般若波羅蜜に（三二九）立たしめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。（三三〇）一善根を（三三一）佛福田の中に植ゑ、阿耨多羅三藐三菩提を得るに至るまで盡きざらんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩十方の諸佛をして其の名を（三三二）稱讚せしめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩一たび意を發し、十方如恒河沙等の諸佛の世界に到らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩一たび音を發し、十方如恒河沙等の諸佛の世界をして聲を聞かしめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩諸佛の世界をして（三三三）斷えざらしめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すへし。（三三四）復次に舍利弗、菩薩摩訶薩（三三五）内空・外空・内外空・空空・大空・第一義空・有爲空・無爲空・畢竟空・無始空・散空・性空・自相空・諸法空・無所得空・無法空・有法空・無法有法空に住せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。（三三六）菩薩摩訶薩諸法の

【三三五】内空等。十八空なり内空とは眼耳鼻舌身意の六内處空、外空とは六外處色聲香味觸法空・内外空とは内外十二處空、空空とは内空等の三空も空なり、大空とは十方相悉く空なり、第一義空とは諸法實相も亦空、受なく著なきが故に、有爲空とは五蘊十二處等因緣和合に生ずる故に空なり、無爲空とは不生不滅虚空の如し、畢竟空とは有爲無爲畢竟余有なき故に空なり、無始空とは過去第一とすべきなし、散空とは離散すれば空、性空とは法性空寂なり、自相空とは總別二相俱に空なり、諸法空とは一切法皆種々義門上の有、實有とすべきなし。不可得空とは諸法實無にして得べからざるが故に、無法空とは無法の有とすべきなく、有法空とは和合緣生の故に有の有とすべきなし、無法有法空とは無法と有法と俱に不可得なればなり、この十八空は體と事とを空じ、三世生滅俱に空ず。

【三三六】大論第三十二。

【三三七】因緣等。心法に四緣、色

(二二七)因緣・次第緣・緣緣・增上緣を知らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩諸法の(二二八)如、諸法の法性、諸法の實際を知らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜に住すべし。

(二二九)復次に舍利弗、菩薩摩訶薩三千大千世界の大地諸山の微塵を數知せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩一毛を析きて百分と爲し、一分毛を以て盡く三千大千世界の中の大海江河池泉の諸水を擧げて、水の性を嬈さゞらんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。三千大千世界の中の諸火一時に皆然え、譬へば(二三〇)劫盡き燒くる時の如くならんに、菩薩摩訶薩一たび吹きて滅せしめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。三千大千世界の中の諸の大風起り三千大千世界及び諸の須彌山を吹破せんと欲す、腐草を摧くが如くならんに、菩薩摩訶薩一指を以て其の風力を障へ起らざらしめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩一たび結跏趺坐し、能く悉く三千大千世界の中の虛空に滿たしめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩一毛を以て三千大千世界の中の諸の須彌山王を擧げ、他方無量阿僧祇の諸佛の世界に擲過

法に因緣增上緣と云ふ。因緣は親生果の主緣、相應因共生因自種因遍因報因の五とす。次第緣は前の心々所後の心々所と繼起次第す。緣々とは所緣の對境となる一切法、增上緣とは前法以外一切法恒に不障若くは與力の緣となる。暫く四を分つも緣生の緣たるは同じ、緣も亦緣とすべき常有の法にあらず。

【二二八】如等。如とは各々の個性と實相となり、法性とは自性なり又實相なり、如も法性も實際も實相の異名のみ。

【二二九】善法の果報を求るもの爲に大神力を讚歎す。

【二三〇】劫盡。住劫盡き壞劫來れば劫火洞然萬物皆燒くるに喩ふ。

し、衆生を嬈さゞらんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。一食を以て十方各如恒河沙等の諸佛及び僧を供養せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。一衣華香瓔珞末香塗香燒香燈燭幢旛華蓋等を以て、諸佛及び僧を供養せんと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩十方各如恒河沙等の世界の中に衆生をして悉く戒三昧智慧解脫解脫知見を具せしめ、(三一)須陀洹果(三二)斯陀含果(三三)阿那含果阿羅漢果を得しめ、乃至無餘涅槃を得しめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、布施する時是の分別を作すべし。是の如き布施は大果報を得、是の如き布施は(三四)剎利大姓婆羅門大姓居士大家に生ずることを得、是の如き布施は四天王天處三十三天夜摩天兜率陀天化自樂天他化自在天に生ずることを得、是の布施に因りて初禪二禪三禪四禪無邊空處無邊識處無所有處非有想非無想處に入ることを得、是の布施に因りて能く八聖道分を生じ、是の布施に因りて能く須陀洹道乃至佛道を得んとせば當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ布施する時、(三五)慧方便力を以ての故に、能く檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を具足す。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩云何が布施する時慧方便力を以

【三一】須陀洹 Srotāpanna。預流と譯す入道の第一果。
【三二】斯陀含(Sakṛdāgāmi)。一來と譯す第二果。
【三三】阿那含(Anāgāmi)。不還と譯す第三果。羅漢は第四果なり。
【三四】剎利(Kṣatriya)。王種、四姓の一。
【三五】慧方便力。得も不得も不可得とし、事を成して破らず作さず、煩惱を斷じ大悲を起し自作隨喜成佛に廻向する力なり。

ての故に、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜を具足するか。」佛舍利弗に告げ給はく、「施す者受くる者財物不可得の故に能く檀那波羅蜜を具足す、罪不罪著せざるが故に尸羅波羅蜜を具足す、心動せざるが故に羼提波羅蜜を具足す、身心精進懈怠せざるが故に毗梨耶波羅蜜を具足す、不亂不味の故に禪那波羅蜜を具足す、一切法不可得と知るが故に般若波羅蜜を具足す。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩過去未來現在の諸佛の功德を得んと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。（三三六）復次に舍利弗、菩薩摩訶薩有爲無爲法の（三三七）彼岸に到らんと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩過去未來現在の諸法の如諸法の（三三八）法相無生際を知らんと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩一切聲聞辟支佛の前に在らんと欲し、諸佛に給侍せんと欲し、諸佛の（三三九）內眷屬たらんと欲し、大眷屬たることを得んと欲し、菩薩の眷屬たることを得んと欲し、大施を（三四〇）淨報するを得んと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩（三四一）慳心破戒心瞋恚心懈怠心亂心癡心を起さゞらんと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩一切衆生をして布施（三四二）福處持戒福處修定福處

【三三六】大論第三十三。

【三三七】彼岸に到る。有爲法の總相別相、無爲法の須陀洹乃至佛果を知悉す。

【三三八】法相。上に法性と云ふに同じ、性相別あるも般若には性無性、相無相の故に同じ。無生際は上の實際に同じ。

【三三九】內眷屬は釋尊に於ける阿難密跡力士等、大眷屬は舍利弗目連須菩提彌勒文殊等の如し。若し報身には無量の補處菩薩侍從す。

【三四〇】淨報。供養者をして大福を得しめ不淨たらしめず。

【三四一】慳心等。六種惡心六度を障ふ、六蔽とも云ふ。

【三四二】福處。果報として福あるが故に。

【三四三】勸導。教化勸導を因緣として福あらしむ。

【三四四】財福法福。道俗の布施を細分して重示す。

(二四三)勸導福處に立たしめんと欲し、衆生をして　(二四四)財福法福處に立たしめんと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩五眼を得んと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。　(二四五)何等をか五眼とす。　(二四六)肉眼天眼慧眼法眼佛眼なり。菩薩摩訶薩　(二四七)天眼を以て十方如恒河沙等の世界の中の諸佛を見たてまつらんと欲し、天耳を以て十方諸佛の所說の法を聞かんと欲し、諸佛の心を知らんと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。十方諸佛の所說の法を聞き、聞き已りて乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで(二四八)忘れざらんと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩過去未來の諸佛の世界を見、及び現在の十方諸佛の世界を見んと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩十方諸佛の所說の　(二四九)十二部經、(二五〇)修妬路、祇夜、受記經、伽陀、優陀那、因緣經、阿波陀那、如是語經、本生經、廣經、未曾有經、論議經を聞かんと欲し、諸の聲聞等聞くと聞かざると、盡く誦して受持せんと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。　(二五一)十方如恒河沙等の世界の中の諸佛所說の法、已に說き今說き當に說くべきを聞き已りて、一切信持し自ら行じ、亦他人の爲めに說かんと欲

【二四五】何等より佛眼なりまで二句大論の文を混じたるか。

【二四六】肉眼等。五眼は佛敎の觀察上の區分なり、肉眼は物界を見て礙多し。天眼は心界にて前後內外晝夜上下無礙なるも和合因緣の假名を見るのみ。慧眼は實相空を見、法眼は衆生を度して盡くさず、佛眼は一切を完うす。

【二四七】天眼天耳は三千界內に限るも佛力と般若無礙とによりて十方に亘る。

【二四八】不忘。聞持陀羅尼の力なるも般若は大海の如く容受して忘れず。

【二四九】十二部經。九分と並びて遺敎の區分なり、大乘に限ると云ふも然らず、只解釋大小同じからず。

【二五〇】修妬路(Sūtra)。又は修多羅契經直說と譯す。祇夜(Geya)。經中偈、應頌と譯す。受

せば當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩過去の諸佛說き已り未來の諸佛當に說くべきを聞かんと欲し、聞き已りて自ら利し亦他人を利せんとせば、當に般若波羅蜜を學すべし。十方如恒河沙等の諸佛世界の中間暗き處日月照さゞる處を、光明を持し普く照さんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。十方如恒河沙等の世界の中佛名法名僧名有るなきところに、一切衆生をして皆正見を得て（二五二）三寶の名を聞かしめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。十方如恒河沙等の諸の世界の中の衆生をして、我が力を以ての故に、盲者視るを得聾者聽くを得狂者念を得裸者衣を得飢渇者飽滿を得しめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩若し十方如恒河沙等の世界の中の衆生の諸の（二五三）三惡趣に在る者をして、我が力を以ての故に、皆人身を得しめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。十方如恒河沙等の世界の中の衆生をして、我が力を以ての故に、戒三昧智慧解脫解脫知見に立ち須陀洹果乃至阿耨多羅三藐三菩提を得しめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩諸佛の（二五四）威儀を學せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。

記經（Vyākarana）和伽羅那。伽陀（Gāthā）諷頌、記句と譯す。優陀那（Udāna）讃嘆又は自說。尼陀那（Nidāna）本起因緣。阿波陀那（Avadāna）解、譬喩。如是語經（Itivṛttaka）本事。本生（Jātaka）廣（Vaipulya）未曾有（Adbhutadharma）論議（Upadeśa）。

【二五一】大論三十四。

【二五二】三寶の名。名はその要を示す、讃嘆してその體相用を明かならしむ。

【二五三】三惡趣。地獄餓鬼畜生。

【二五四】威儀。行に不遲不疾身傾動せず、住して語默宜を得飲食味著せず、座して趺座正直、臥に右脅累膝等。

【二五五】象王等。身心專一にして身を廻して觀んとせば擧身倶轉す、窺看側視等なし。

【二五六】願。菩薩の因位の誓願。

【二五七】阿迦尼吒天（Akaniṣṭha）。

菩薩摩訶薩(二五五)象王の如き視觀を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩是の(二五六)願を作し、我れ行く時地を離れ四指足地を蹈まざらしめ、我れ當に四天王天乃至(二五七)阿迦尼吒天無量千萬億の諸天衆と共に圍繞し恭敬し、(二五八)菩提樹下に至るべしとせば、當に般若波羅蜜を學すべし。我れ當に菩提樹下に於て坐し、四天王天乃至阿迦尼吒天天衣を以て座と爲すべしとせば、當に般若波羅蜜を學すべし。我れ阿耨多羅三藐三菩提を得る時、行住坐臥處悉く金剛たらしめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩若し出家せんと欲する日卽ち阿耨多羅三藐三菩提を成じ、卽ち是の日(二五九)法輪を轉じ、法輪を轉ずる時無量阿僧祇の衆生は(二六〇)遠塵離垢し、諸法の中(二六一)法眼淨を得、無量阿僧祇の衆生は一切法(二六二)不受の故に諸漏心解脫を得、無量阿僧祇の衆生は阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得しめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。我れ阿耨多羅三藐三菩提を得る時、無量阿僧祇の聲聞を以て(二六三)僧と爲し、我れ一たび法を說く時、便ち座上に於て盡く阿羅漢を得しめんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。我れ當に無量阿僧祇の菩薩を以て僧と爲し、我れ一たび法を說く時、無量阿僧祇の菩薩皆阿鞞跋致を得べく、壽命無量光明具足を得しめんと欲

色究竟天、第四禪淨居最上天。

【二五八】菩提樹。佛成道の金剛座に在る道場樹なり、釋尊の畢鉢羅樹の如し。

【二五九】法輪。說法よく所化の迷夢を摧破し彼岸に運ぶを云ふ。

【二六〇】遠塵離垢。慧眼開きて物心の塵垢を遠離す。

【二六一】法眼淨。法眼開きて衆生を利して著せず。

【二六二】不受。法に苦樂を見ず憎愛なし。これを成就せるが漏心解脫なり。

【二六三】僧。具に僧伽(Saṅgha)。和合衆なり。

せば、當に般若波羅蜜を學すべし。我れ阿耨多羅三藐三菩提を成する時世界の中婬欲瞋恚愚癡無く、亦（三六四）三毒の名無く、一切衆生是の如き（三六五）智慧ありて善施善戒善定善梵行善不嬈衆生を成就せしめんとせば、當に般若波羅蜜を學すべし。我れ（三六六）般涅槃後（三六七）法滅盡する無く、亦滅盡の名なからしめんとせば、當に般若波羅蜜を學すべし。我れ阿耨多羅三藐三菩提を得ん時、十方如恒河沙等の世界の中の衆生、我が名を聞く者必ず阿耨多羅三藐三菩提を得ん。是の如き等の功德を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。』

【三六四】三毒。染、愛、無明は三界に通じ、貪瞋癡は欲界三毒なり、婬瞋癡の體もなく名もなからしめんとなり。

【三六五】智慧。世間正見、因果聖者の知見。因果罪福を信じて戒定善施あり、聖者を信じて戒定梵行あり、正見によりて衆生を嬈亂せず。

【三六六】般涅槃（Parinirvāṇa）。入滅。

【三六七】法滅盡。正法は滅後五百年千年五五百年、末法萬年後等滅盡すと云ふものなり。

(一)奉鉢品第二

佛舍利弗に告げ給はく、『若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ能く是の功德を作せば、是の時四天王皆大に歡喜し、意に念言すらく、「我等當に(二)四鉢を以て上の菩薩に奉ること、前の天王の先佛に鉢を奉るが如くなるべし」と。三十三天乃至他化自在天も亦皆歡喜し、意に念言すらく、「我等當に菩薩に給侍し供養し、(三)阿脩羅種を減損し諸天衆を增益すべし」と。三千大千世界の四天王天乃至阿迦尼吒天皆大に歡喜し。意に念言すらく、「我等當に是の菩薩に法輪を轉ぜんことを(四)請ふべし」と、舍利弗、是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ六波羅蜜を增益する時、諸の善男子善女人各々歡喜し、意に念言すらく、「我等當に是の人の爲めに父母妻子親族(五)知識と作るべし」と。爾の時四天王天乃至阿迦尼吒天皆大に歡喜し、各自ら念言すらく、「我等當に方便を作し是の菩薩をして(六)婬欲に離れ初發意より常に(七)童眞と作らしめ、色欲と共會せしむるなかるべし」、若し五欲を受けば梵天に生ずることを障ふ、何に況んや阿耨多羅三藐三菩提をや。是を以ての故に、

【一】麗本、報應品とす。大論第三十五。本品に四天の奉鉢、諸天の讃嘆加護並に般若空觀修行の要旨を述ぶ。

【二】四鉢。四王同等にて各々一鉢を奉る。

【三】阿修羅。阿修羅は因陀羅と戰ふとの神話佛典に多く、誘惑作惡は阿修羅種の有力なるによるとす。

【四】請。間なくば説かず、初成道の時梵天等轉法輪を請ふと云ふ。

【五】知識。結緣者。

【六】婬欲。世間色聲香味觸の五欲樂に耽る、五欲中觸を第一とし、觸中婬欲荒迷の罪最も深しと説く。

【七】童眞。前に云ふ鳩摩羅伽。

舍利弗、菩薩摩訶薩婬欲を斷つ出家は阿耨多羅三藐三菩提を得べし、欲を斷たざるに非るなり。』舍利弗、佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩要らず當に父母妻子親族知識有るべき耶。』佛舍利弗に告げ給はく、『或は菩薩あり父母妻子親族知識有り、或は菩薩有り初發心より婬欲を斷ち童眞の行を修し、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得て、色欲を犯さず、或は菩薩有り、方便力の故に、五欲を受け已り、出家して阿耨多羅三藐三菩提を得。譬へば(九)幻師若くは幻師の弟子善く幻法を知り五欲を幻作し中に於て共に相娯樂するが如し。汝が意に於て云何是の人此五欲に於て頗る實受ありや不や。』舍利弗言はく、『不よ世尊。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩方便力を以ての故に五欲を化作す、中に於て樂を受け衆生を成就するも亦是の如し。是の菩薩摩訶薩欲に染まず、種々の因縁を以て五欲を呰毀す。欲を熾然と爲し、欲を穢惡と爲し、欲を毀壞と爲し、欲を如怨と爲す。是の故に舍利弗、當に知るべし菩薩衆生の爲めの故に五欲を受く。』

(一〇)舍利弗佛に白して言さく、『菩薩摩訶薩云何が般若波羅蜜を行ずべきか。』佛舍利弗に告給はく、『菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、菩薩を見ず菩薩の(一一)字を見ず、般若波羅蜜を見ず、亦我れ般若波羅蜜を行ずるを見ず、亦我れ般若波羅蜜を行ぜざるを見ず。何を以ての故に、菩薩も菩薩の字も性

〔八〕色欲。婬欲。
〔九〕幻師。奇術師。
〔一〇〕般若の行要を説く。
〔一一〕字。名字差別も衆緣和合の假稱なり。
〔一二〕色。五蘊の第一、四大及び四大所造の物質界。
〔一三〕受想行識。五蘊の後四蘊、無色の心界に屬す。行に相應不相應ありて、後者は非色非心なりとも云ふ。

空なり、空中には(一二)色も無く(一三)受想行識も無し、色を離れて亦空無く、受想行識を離れて亦空無し空は卽ち是れ色、色は卽ち是れ空、空は卽ち是れ受想行識、受想行識は卽ち是れ空なり。何を以ての故に、舍利弗、但だ名字有るが故に菩提たりと謂ふ、但だ名字有るが故に菩薩たりと謂ふ。但だ名字有るが故に空たりと謂ふ。所以は何ん、諸法の實性は生無く滅無く垢無く淨無し。故に菩薩摩訶薩是の如く行じて、亦生を見ず亦滅を見ず亦垢を見ず亦淨を見ず。何を以ての故に、名字は是れ(一四)因緣和合の作法なり、但だ(一五)分別憶想假りに名を以て說く、是の故に菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時一切の名字を見ず、見ざるが故に著せず。』

【一四】因緣に六因四緣等を分つは親疎關係を說明せんが爲なるも實は無量の緣なり。

【一五】分別憶想。通常の認識差別を云ふ、皆不確なる妄想とす。

(一)習應品第三

(二)佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、是の如く思惟すべし。菩薩但だ字有り、佛も亦但だ字有り、般若波羅蜜も亦但だ字有り、色も但だ字有り、受想行識も亦但だ字有るのみと。舍利弗、(三)我の但だ字有るが如く(四)一切我常に(五)不可得なり、(六)衆生の如く(七)壽者命者(八)生者(九)養育(一〇)衆數(一一)人者作者使作者起者使起者受者使受者知者見者、是の一切皆不可得なり、不可得空の故に但だ名字を以て說くのみ。菩薩摩訶薩も亦是の如く般若波羅蜜を行じ、我を見ず衆生を見ず、乃至知者見者を見ず、所說の名字も亦見るべからず。菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を行ずることを作せば、佛の智慧を除き一切聲聞辟支佛の上に過ぎたり。不可得空を用ての故に、所以は何ん、是れ菩薩摩訶薩諸の名字の所著する處亦不可得の故に。舍利弗、菩薩摩訶薩能く是の如く行ずるを般若波羅蜜を行ずと爲す。譬へば(一二)閻浮提に滿つる竹葦甘蔗稻麻叢林の如く、諸の比丘其の數是の如くにして、智慧(一三)舍利弗目連等の如くならんに、菩薩般

【一】麗本習相應品に作る。般若行要の續きなり。
【二】前多く法空を說く、今衆生空法空を雜說し、能觀者も空なるを示す。
【三】我。自我は名字のみにして無我なり。
【四】一切我。一切衆生とし人と法と總て我とするもの。
【五】不可得。空の代語として用ふ、分拆上にも當體上にも空にして得べからず、得たりとするは憶想上の假のみ。
【六】衆生。五蘊和合假りに有情と云ひ、衆生と呼ぶ。
【七】壽者命者(Jīva)壽命を衆生の實體と考ふるものあるも、有機統一に命根成就するのみ。
【八】生者。萬有の能生創造者あ

若波羅蜜を行ずるの智慧に比せんと欲せば、百分一に及ばず、千分百千億分乃至算數譬喩の及ぶ能はざる所なり。何を以ての故に、菩薩摩訶薩智慧を用て一切衆生を度脱するが故なり。舍利弗、閻浮提に滿つる舍利弗目連等の如くならんを〔一四〕置け、若し三千大千世界に滿つるもの舍利弗目連等の如くならんも復是の事を置け、若し十方如恒河沙等の世界に滿つるもの舍利弗目連等の智慧の如くならんも、菩薩般若波羅蜜を行ずるの智慧に比せんと欲せば、百分一に及ばず、千分百千億分乃至算數譬喩の及ぶ能はざる所なり。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、一日智慧を修せんに、一切聲聞辟支佛の上に出過す。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、聲聞の有ゆる智慧、若くは須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛の智慧、佛の智慧、是の諸の衆智差別有る無く相違背せざるべし、無生性空の故に。若は法相違背せざるべし、無生性空の故に。是の法別異有る無くんば、云何が世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ一日智慧を修せんに、聲聞辟支佛の上に出過すと言ひ給ふや。』佛舍利弗に告げ給はく、『汝が意に於て云何、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ一日智慧を修せば、心に我れ道慧を行じ一切衆生を益せんと念じ、當に一切種智を以て一切法を知り一

りと云ふも父子を生ずるが如き關係のみ。

【九】養育。乳哺衣服等の衆緣のみ。

【一〇】衆數。五蘊十二處十八界等の諸法のみ、而して色等も亦衆緣和合のみ。

【一一】人者。數論に人者神我等ありと云ふも緣合して人事を行ふを人と云ふのみ、作者起者知者等の獨存を云ふも皆誤れる我見なり。

【一二】閻浮提(Jambu-dvīpa ジャムブドヰーパ)。印度のことなるも、神話化してこの世界全體と解せらる。

【一三】舍利弗は智慧第一、目連は神通第一にして弟子の上首とせらる。

【一四】置け。捨置、擱けの意。

切衆生を度すべし、諸の聲聞辟支佛の智慧に是の事有りとせんや不や。』舍利弗言さく、(二五)『不とよ世尊。』舍利弗、汝が意に於て云何、諸の聲聞辟支佛頗る是の念有り、我等當に阿耨多羅三藐三菩提を得、一切衆生を度し(二六)無餘涅槃を得しむべしとせんや不や。』舍利弗言さく、『不とよ世尊。』佛舍利弗に告げ給はく、『是因縁を以ての故に、當に知るべし諸の聲聞辟支佛の智慧菩薩摩訶薩の智慧に比せんと欲せば百分一に及ばず、千分百千分乃至算數譬喩の及ぶ能はざる所なり。舍利弗、汝が意に於て云何、諸の聲聞辟支佛頗る是の念有り、我れ六波羅蜜を行じ、衆生を成就し佛界を莊嚴し、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法を具し、無量阿僧祇の衆生を度脱し、涅槃を得しめんとするや不や。』舍利弗言さく『不とよ世尊。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩は能く是の念を作す、我當に六波羅蜜乃至十八不共法を行じ、阿耨多羅三藐三菩提を成じ、無量阿僧祇の衆生を度脱し涅槃を得しむべし。譬へば螢火蟲の是の念を作さず、我が力能く閻浮提を照し普く大明ならしめんとせざるが如く、諸の阿羅漢辟支佛も亦是の如く、是の念を作さず、我等六波羅蜜乃至十八不共法を行じ、阿耨多羅三藐三菩提を得、無量阿僧祇の衆生を度脱し、涅槃を得しむと。舍利弗、譬へば日出づる時光明偏く閻浮提を照し明を蒙むらざる者無きが如く、菩薩摩訶薩も亦是の如く、六波羅蜜乃至十八不共法を行じ、阿耨多羅三藐三菩提を得、無量阿僧祇の

【二五】不。聲聞辟支佛の二乘は自調自度にして利他なく、有餘智にして一切種智を成ぜざる故に云ふ。
【二六】無餘涅槃。最後身滅して身心都無の涅槃と云ふを常とす。實は身心倶に全く解脱せるなり。

衆生を度脱し涅槃を得しめんとせざるなし。』

（一七）舍利弗佛に白して言さく、『云何が菩薩摩訶薩聲聞辟支佛地を過ぎ阿鞞跋致地に至り佛道を淨むるや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩初發心より六波羅蜜を行じ、空無相無作の法に住し、能く一切聲聞辟支佛地を過ぎ阿鞞跋致地に住し佛道を淨む。』舍利弗佛に白して言さく、『菩薩摩訶薩何等の地に住し能く諸の聲聞辟支佛の爲に福田と作るや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩初發心より六波羅蜜を行じ乃ち（一八）道場に坐するに至るまで、其の中間に於て常に諸の聲聞辟支佛の爲めに福田と作る。何を以ての故に、菩薩摩訶薩の因縁有るを以ての故に世間の諸の善法生ず。何等をか是れ善法とする、所謂（一九）十善道（二〇）五戒（二一）八分成就齋四禪四無量心四無色定四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分盡く世に現はる。菩薩の因縁を以ての故に、六波羅蜜十八空、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲一切種智盡く世に現はる。菩薩の因縁を以ての故に、刹利大姓婆羅門大姓居士大家四天王天乃至非有想非無想天有り皆世に現はる、菩薩の因縁を以ての故に、須陀洹斯陀舍阿那舍阿羅漢辟支佛佛有り、皆世に現る。』舍利弗佛に白して言さく、『菩薩施福を（二二）淨畢すべきや不や。』

【一七】淨佛道を明す。淨佛道とは眞の淨佛國土成就衆生なり。大論第三十六。

【一八】道場。成佛のこと。

【一九】十善道。十惡に反する不殺生等。

【二〇】五戒。不殺生戒、不偸盗戒、不邪婬戒、不妄語戒、不飮酒戒、在家の持つ所の戒なり。

【二一】八分成就齋。或は八關齋と云ふ。五戒に不座高廣大牀、不觀聽歌舞、不塗香油を加へて八とし、非時食なきを齋と云ふ。

【二二】淨畢。次第に布施して淨報を究む。

佛言はく、『不とよ、何を以ての故に、本より已に淨畢するが故に。舍利弗、菩薩摩訶薩大施主と爲り何等をか施す。諸の善法を施す。何等をか善法とする、十善道五戒乃至十八不共法一切種智なり。是を以て施與す。』

(二三)舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩云何が般若波羅蜜を習應し般若波羅蜜と相應するや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩(二四)色空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く、受想行識空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩(二五)眼空に習應す、是れを般若波羅蜜と相應すと名く。耳鼻舌身心空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。色空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。聲香味觸法空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。(二六)眼界空色界空眼識界空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。耳聲識界鼻香識界舌味識界身觸識界意法識界空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。(二七)苦空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。集滅道空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。(二八)無明空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。行識名色六入觸受愛取有生老死空に習應す、是を般若波羅蜜と相應

【二三】般若の修習相應を明す。
【二四】色空等。五蘊空を明す。
【二五】眼空等。十二處空を明す。
【二六】眼界空等。十八界空を明す。
【二七】苦空等。四諦空を明す。
【二八】無明空等。十二緣起空を明す。十二法は通常生死因緣を明すと云ふ。無明は根本惑、行は惑に相應する業。無明行に緣て識、自我主體あり、名色、主客心的と物的となる。六入、內外六處現す、故に我れ外物に觸ると知り、苦樂の受を生じ、これを愛する貪惑ある故に取業となり生老死の果を招くべき因有具す、因あるが故に果あり相續止まず、無我空を得れば緣起滅す。

すと名く。(二九)一切諸法空若は有爲若は無爲に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩(三〇)性空に習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、七空に習應す、所謂性空自相空諸法空無所得空無法空有法空無法有法空なり、是を般若波羅蜜と相應すと名く。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩七空に習應する時、色の若は(三一)相應若は不相應を見ず、受想行識の若は相應若は不相應を見ず、色の若は生相、若は滅相を見ず、受想行識の若は生相、若は滅相を見ず、色の若は垢相若は淨相を見ず、受想行識の若は垢相若は淨相を見ず、色と受と合するを見ず、受と想と合するを見ず、想と行と合するを見ず、行と識と合するを見ず。何を以ての故に、法と法と合する者有る無し、其の性空の故に。舍利弗、色空中色有る無く、受想行識空中(受想行)、識有る無し。舍利弗色空の故に(三二)惱壞相無し、受空の故に受相無し、想空の故に知相無し、行空の故に作相無し、識空の故に覺相無し。何を以ての故に、舍利弗、色空に異るに非ず、空色に異るに非ず、(三三)色は卽ち是れ空、空は卽ち是れ色、受想行識も亦是の如し。舍利弗、是の諸法は空相、生にあらず滅にあらず、垢にあらず淨にあらず、增にあらず滅にあらず、是れ空法、過去に非す未來に非ず現在に非ず、是の故に空

【二九】一切等。總じては十八空今別して有爲無爲一切の三空を明す。

【三〇】性空等。七空を明す、七空下に辯ず。

【三一】相應等。相應不相應、生滅垢淨、增減、合不合は皆有爲の相なり。現象觀察上の假設なり。

【三二】惱壞等。物質の破壞も受、知、作、覺の相も五蘊空なれば存すべからず。

【三三】色卽是空。色の當體その儘空なり、分拆壞滅して空となるに非ず。

中色無く、受想行識無く、眼耳鼻舌身意無く、色聲香味觸法無く、眼界無く乃至意識界無く、亦無明無く、亦無明の（三四）盡くること無く、乃至亦老死無く亦老死の盡くること無く、苦集滅道無く、亦智無く、亦得無く、亦須陀洹無く須陀洹果無く、斯陀含無く、斯陀含果無く、阿那含無く阿那含果無く、阿羅漢無く阿羅漢果無く、辟支佛無く辟支佛道無く、亦佛無く亦佛道無し。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。舍利弗、是れ菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、般若波羅蜜の若は相應若は不相應を見ず、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜の若は相應若は不相應を見ず、亦色の若は相應若は不相應を見ず、受想行識の若は相應若は不相應を見ず、眼乃至意、色乃至法、眼色識界乃至意法識界の若は相應若は不相應を見ず、四念處乃至八聖道分、佛の十力乃至一切種智の若は相應若は不相應を見ず。是の如く舍利弗、當に知るべし菩薩摩訶薩般若波羅蜜と相應す。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時空空と合せず、無相無相と合せず、無作無作と合せず。何を以ての故に、空無相無作合と不合と有る無し。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時諸法自相空に入る、入り已て色合を作さず、不合を作さず、受想行識合を作さず、不合を作さず、色（三五）前際と合せず。何を以ての故に、前際を見ざるが故に、色後際と合せず、何を以ての故に、後際を見ざるが故

【三四】無盡。空なれば有にあらず盡滅もなし。

【三五】前際。過去を通じて云ふ。後際は未來、中際は現在なり。これを三際と云ふ。

に。色現在と合せず、何を以ての故に、現在を見ざるが故に。受想行識も亦是の如し。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ず、前際後際と合せず、後際前際と合せず、現在前際後際と合せず、前際後際亦現在と合せず、三際の名も空なるが故に。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。(三六)復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ず。(三七)薩婆若過去世と合せず、何を以ての故に、過去世見るべからず、何に況んや薩婆若過去世と合せんや。薩婆若未來世と合せず、何を以ての故に、未來世見るべからず、何に況んや薩婆若未來世と合せんや。薩婆若現在世と合せず、何を以ての故に、現在世見るべからず、何に況んや薩婆若現在世と合せんや。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、色薩婆若と合せず、色見るべからざるが故に。受想行識も亦是の如し。眼薩婆若と合せず、眼見るべからざるが故に。耳鼻舌身意も亦是の如し。色薩婆若と合せず、色見るべからざるが故に。聲香味觸法も亦是の如し。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、檀那波羅蜜薩婆若と合せず、檀那波羅蜜見るべからざるが故に、乃至般若波羅蜜も亦是の如し。四念處薩婆若と合せず、四念處見るべからざるが故に、乃至八聖道分も亦是の如し。佛の十力乃至十八不共法薩婆若と合せず、佛の十力乃至十八不共法見るべからざるが故に。舍利弗、

【三六】大論第三十七。
【三七】薩婆若(Sarvajñāna)。一切智智なり。

菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、佛薩婆若と合せず、薩婆若佛と合せず、菩提薩婆若と合せず、薩婆若菩提と合せず、何を以ての故に、佛は卽ち是れ薩婆若、薩婆若は卽ち是れ佛、菩提は卽ち是れ薩婆若、薩婆若は卽ち是れ菩提なればなり。舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、色有を習せず、色無を習せず、受想行識も亦是の如し。色有常を習せず、色無常を習せず、受想行識も亦是の如し。色苦を習せず、色樂を習せず、受想行識も亦是の如し。色我を習せず、色非我を習せず、受想行識も亦是の如し。色寂滅を習せず、色不寂滅を習せず、受想行識も亦是の如し。色空を習せず、色非空を習せず、受想行識も亦是の如し。色有相を習せず、色無相を習せず、受想行識も亦是の如し。色有作を習せず、色無作を習せず、受想行識も亦是の如し。是れ菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、是の念を作さず、我れ般若波羅蜜を行じ、般若波羅蜜を行ぜず、般若波羅蜜を行ずるに非ず、行ぜざるに非ず。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を爲さゞるが故に、般若波羅蜜を行ず、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜を爲さゞるが故に、般若波羅蜜を行ず、阿鞞跋致地を爲さゞるが故に、般若波羅

【三八】成就衆生。衆生を救度し解脫せしむ、而も救ひて救ふとせず、救ふものなし故に爲すと云ふ。

【三九】淨佛世界。佛國土を嚴淨す。

蜜を行ず、(三八)成就衆生を爲さゞるが故に、般若波羅蜜を行ず、(三九)淨佛世界を爲さゞるが故に、般若波羅蜜を行ず、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法を爲さざるが故に、般若波羅蜜を行ず、内空を爲さざるが故に、般若波羅蜜を行ず、外空内外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空諸法空自相空不可得空無法空有法空無法有法空を爲さゞるが故に、般若波羅蜜を行ず、如法性實際を爲さゞるが故に、般若波羅蜜を行ず。何を以ての故に、是れ菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、諸法相を壞せざるが故に是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、如意神通を爲さゞるが故に、般若波羅蜜を行ず、天耳を爲さゞるが故に、他心智を爲さゞるが故に、宿命智を爲さゞるが故に、天眼を爲さゞるが故に、漏盡神通を爲さゞるが故に、般若波羅蜜を行ず。何を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、尙般若波羅蜜を見ず、何に況んや菩薩の神通を見ん。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く行ず、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、是の念を作さず、我れ如意神通を以て東方に飛到し、如恒河沙等の諸佛を供養し恭敬すと、南西北方四維上下も亦復是の如し。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、是の念を作さず、我れ天耳を以て十方諸佛の所說の法を聞くと。是の念を作さず、我れ他心智を以て十方衆生の心の所念を知ると、是の念を作さず、我れ宿命智を以て十方衆生の宿命の所作を知ると、是の念を作さず、我れ天眼を以て十方衆生の此に死し彼に生ずるを見る

と。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く行ず、是を般若波羅蜜と相應すと名く、亦能く無量阿僧祇の衆生を度す。

舍利弗、菩薩摩訶薩能く是の如く般若波羅蜜を行ずれば、惡魔其の便を得る能はず、世間の衆事欲する所意に隨ふ。十方各如恒河沙等の諸佛皆悉く是の菩薩を擁護して、聲聞辟支佛地に墮せざらしむ、四天王天乃至阿迦尼吒天皆亦是の菩薩を擁護して礙有らしめず。是の菩薩有らゆる重罪現世輕く受く。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩普慈を用て衆生に加ふるが故に。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く行ず、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、疾く諸の陀羅尼門諸の三昧門を得て、所生の處常に諸佛に値ふ、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで終に見佛を離れず。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、是の念を作さず、法法と若は合若は不合、若は等若は不等有りと。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩是の法餘法と若は合若は不合、若は等若は不等を見ざればなり。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ず、是の念を作さず、我れ當に疾く法性を得若は得ざるべしと。何を以ての故に、法性は得相に非ざるが故に、舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、法法性より出づる者有るを見ず、是の如く習應

す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時是の念を作さず、法性諸法を分別すと、是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時是の念を作さず、是の法能く法性を得若は得ずと。何を以ての故に、是の菩薩是の法を用て能く法性を得若は得ざるを見ざればなり。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。

復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、法性空と合せず空法性と合せず、是の如く習應す、是を般若波羅蜜と相應すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、眼界空と合せず、空眼界と合せず、色界空と合せず、空色界と合せず、眼識界空と合せず、空眼識界と合せず、乃至意界空と合せず、空意界と合せず、法界空と合せず、空法界と合せず、意識界空と合せず、空意識界と合せず。是の故に、舍利弗、是れ空相應を名けて第一相應と爲す。舍利弗、空行の菩薩摩訶薩聲聞辟支佛地に墮せず、能く佛國土を淨め衆生を成就し、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得。舍利弗、諸の相應の中、般若波羅蜜相應を最第一と爲し、最尊最勝最妙上有ること無しと爲す。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜相應を行ずればなり。所謂空無相無作の故に。當に知るべし是の菩薩受記の如く異り無く、若は受記に近し。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く相應する者、能く無量阿僧祇の衆生の爲めに益を作す厚し。是の菩薩摩訶薩亦是の念を作さず、我れ般若波羅蜜と相應す、諸佛當に

我に記を授くべし、我れ當に近く受記すべし、我れ當に佛世界を淨むべし、我れ阿耨多羅三藐三菩提を得て當に法輪を轉ずべしと。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩法の法性より出づる有るを見ず、亦法の般若波羅蜜を行ずる有るを見ず、亦法の諸佛に授記せらるゝ有るを見ず、亦法の阿耨多羅三藐三菩提を得る有るを見ざればなり。何を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、我相衆生相乃至知者相見者相を生ぜざればなり。何を以ての故に、衆生畢竟不生不滅の故に、衆生生有る無く滅有る無く、若は法生相有る無く滅相有る無し。云何が法の般若波羅蜜を行ずべき有らん。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩衆生を見ざるが故に、般若波羅蜜を行ずと爲す。衆生受けざるが故に、衆生空の故に、衆生不可得の故に、衆生離の故に、般若波羅蜜を行ずと爲す。舍利弗、菩薩摩訶薩諸の相應の中に於て最第一の相應と爲す。所謂空相應なり。是の空相應餘の相應に勝る。菩薩摩訶薩是の如く空を習して能く大慈大悲を生ず、菩薩摩訶薩是の如く空相應を習し、慳心を生ぜず、犯戒心を生ぜず、瞋心を生ぜず、懈怠心を生ぜず、亂心を生ぜず、無智心を生ぜず。』

卷の第二

(一)往生品第四

(二)舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、能く是の如く相應を習する者、何處より終り此の間に來生し、此の間より終り何處に生ずべきか。』佛舍利弗に告げ給はく、『是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、能く是の如く相應を習する者、或は他方佛國より此の間に來生し、或は(三)兜率天上より此の間に來生し、或は人道の中より此の間に來生す。舍利弗、他方佛國より來る者疾く般若波羅蜜と相應せり、般若波羅蜜と相應せるが故に、身を捨てゝ此の間に來生し、諸の深妙の法皆現在前す、後還て般若波羅蜜と相應す、所生の處に在りて常に(四)諸佛に値ふ。舍利弗、一生補處の菩薩有り、兜率天上より終り是の間に來生す、是の菩薩六波羅蜜を失はず。所生の處に隨つて一切陀羅尼門諸三昧門疾く現在前す。舍利弗菩薩人中命終り還て人中に生ずる者有り、(五)阿惟越致たるを除き、是の菩

【一】前品般若相應を說き衆生壽命なしとす。今この見地に住する者の生死往來の相を說く故に往生品と云ふ。後に三業五眼六通の淸淨等心を說く。大論第三十八。

【二】般若行者此土に來生するものに三類を擧ぐ。他方佛土來。兜率天來と人道より來るものとなり。

【三】諸天の中兜率を別說するは、補處の所居たり、又兜率は結使深利ならずとすればなり。

【四】諸佛に値ふ。佛出づれば衆生これに値ふも、多くは値ふを知らず、今の値遇は佛たる

薩根鈍にして疾く般若波羅蜜と相應する能はず、諸の陀羅尼門、諸の三昧門疾く現在前する能はず。

(六)舍利弗、汝が問ふ所の菩薩摩訶薩般若波羅蜜と相應し、此の間より終り當に何處に生ずべきかとは、舍利弗、此の菩薩摩訶薩一佛國より一佛國に至り、常に諸佛に値ひて終に諸佛を(七)離れず。舍利弗、菩薩摩訶薩有り(八)方便を以てせずして初禪乃至第四禪に入り亦六波羅蜜を行ず、是の菩薩摩訶薩禪を得るが故に長壽天に生ず、彼の壽終はるに隨ひて是の間に來生し、人身を得て諸佛に値遇す、是の菩薩諸根利ならず。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初禪乃至第四禪に入り亦般若波羅蜜を行ず、方便を以てせざるが故に諸禪を捨てゝ欲界に生ずるに是の菩薩諸根亦鈍なり。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初禪乃至第四禪に入り、(九)慈心乃至捨に入り、虛空處乃至非有想非無想處に入り、四念處乃至八聖道分を修し、佛の十力乃至大慈大悲を行ず、是の菩薩方便力を用て、禪に隨て生ぜず、無量心に隨て生ぜず、四無色定に隨て生ぜず、有ゆる佛處に在て中に於て生じ、常に般若波羅蜜行を離れず、是の如き菩薩(一〇)賢劫の中に、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初禪乃至第四禪に

を信知して値遇し受教するなり。

【五】此間に來生して不退を得るも鈍根なりとの意。

【六】未來は當受相なれども廣く後世往生相を說く。

【七】値遇更に深く常に佛處に生じ心恒に佛に合するを不離と云ふ。

【八】方便なしとは不善無記心を以て欲界に生じ、若くは禪味に愛著して廣度衆生を主とせざるなり。

【九】慈悲喜捨の四無量心に拔苦與樂、喜樂、護持の度生心なり。

【一〇】賢劫。小乘に五佛出世の時と云ひ、大乘は現在千佛出世の時を賢劫と云ふ。

入り、慈心乃至捨に入り、虚空處乃至非有想非無想處に入り、方便力を以ての故に、禪に隨て生ぜず還て欲界、若は刹利大姓婆羅門大姓居士大家に生ず、衆生を成就せんが爲の故なり。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初禪乃至第四禪に入り、慈心乃至捨に入り、虚空處乃至非有想非無想處に入り、方便力を以ての故に、禪に隨て生ぜず、或は四天王天處に生じ、或は三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天に生じ、是の中に於て衆生を成就し亦佛土を淨め、常に諸佛に値ふ。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に、初禪に入り、此の間に命終りて梵天處に生じ、大梵王と作り、梵天處より一佛國に遊び一佛國に至る、有ゆる諸佛阿耨多羅三藐三菩提を得て、未だ法輪を轉ぜざる者に在りては〔一〕勸請して轉ぜしむ。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、一生補處にして般若波羅蜜を行ず、方便力を以ての故に、初禪乃至第四禪に入り、慈心乃至捨に入り、虚空處乃至非有想非無想處に入り、四念處乃至八聖道分を修し、空三昧無相無作三昧に入り、禪に隨て生ぜず、有佛の處に生じ諸の〔二〕梵行を修す、若は兜率天上に生じ、其の壽終はるに隨て善根を具足し正念を失はず、無數の百千億萬の諸天に圍繞し恭敬せられて此の間に來生し、阿耨多羅三藐三菩提を得。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、六神通を得て欲界色界無色界に生ぜず、一佛國より一佛國に至り、諸佛を供養し恭敬し尊重し讃歎す。舍利

【一】勸請等。小乘に初轉法輪梵天これを懇請すと云ふの類なり。

【二】梵行。清淨の行爲、別しては斷婬。

【三】神通遊戲。六神通を以て諸世界に遊び、慈雨を灑ぎ衆生を救ひ勞苦とせず。

弗、菩薩摩訶薩有り、(一三)神通に遊戲し一佛國より一佛國に至り、至る所の到所(一四)聲聞辟支佛乘有る無く、乃至二乘の名なし。舍利弗、菩薩摩訶薩神通に遊戲し一佛國より一佛國に至り、至る所の到處其の壽無量なり。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、神通に遊戲し一國土より一國土に至り、至る所の到處佛法僧無き處有らば佛法僧の功德を讃ず、諸の衆生佛名法名僧名を聞くを用ての故に、此に於て命終り、諸佛の前に生ず。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初發意の時初禪乃至第四禪を得、四無量心を得、四無色定を得、四念處乃至十八不共法を修す、是の菩薩欲界色界無色界の中に生ぜず、常に衆生を益する有るの處に生ず舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初發意の時六波羅蜜を行じ、菩薩の位に上り阿惟越致地を得。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初發意の時便ち阿耨多羅三藐三菩提を得て、法輪を轉じ、無量阿僧祇の衆生と與に益を作すこと厚く、已て無餘涅槃に入る、是の佛般涅槃後(一五)餘法若は一劫に住し若は(一六)一劫に滅ず。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初發意の時般若波羅蜜と相應し無數百千億の菩薩と與に、一佛國より一佛國に至る、佛國土を淨めんが爲の故なり。(一七)舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、四禪四無量心四無色定を得て、其の中に遊戲し、初禪に入り、初禪より起ちて(一八)滅盡定に入り、滅盡定より起ちて乃至四禪に入り、四禪より起ちて滅盡定に入り、滅盡

【一四】二乘の實體なきのみならず名字もなしとなり。
【一五】餘法。遺教法門。
【一六】一劫に滅す。法住すること一劫に及ばず。
【一七】以下大論第三十九。
【一八】滅盡定。身心滅盡の定にして小乘は聖者所入とするも、大乘無我觀を行ずればこれに入る。

定より起ちて虚空處に入り、虚空處より起ちて滅盡定に入り、滅盡定より起ちて乃至非有想非無想處に入り、非有想非無想處より起ちて滅盡定に入る。斯の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に（一九）超越定に入る。舍利弗菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、四念處乃至十八不共法を修し、須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を取らず、方便力を以て衆生を度することを爲すが故に、八聖道分を起す、是の八聖道を以て須陀洹果乃至辟支佛道を得しむ。』佛舍利弗に告げ給はく、『一切阿羅漢辟支佛の諸果及び（二〇）智は是れ菩薩摩訶薩の無生法忍なり。舍利弗、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を行ず、是れ阿惟越致地の中に在りて住するなり。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、六波羅蜜に住し、兜率天道を莊嚴す當に知るべし是れ賢劫中の菩薩なり。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、四禪乃至十八不共法を修し、未だ（二一）四諦を證せず、當に知るべし是れ菩薩の一生補處なり。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、無量阿僧祇劫に（二二）修行し阿耨多羅三藐三菩提を得たり。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、六波羅蜜に住し、常に勤めて（二三）精進し、衆生を利益し（二四）無益の事を説かず。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、六波羅蜜を行じ常に勤

【一九】超越定。小乘は次第定中一を越ゆるに限るも、大乘は餘心間雜せずして自在に超越すと說く。

【二〇】智等。羅漢成就の八智等實は緣起無我無生に入らざるなし。故に菩薩の無生法忍と云ふ、

【二一】四諦を證せず。苦集滅道の四諦法を證して獨覺地に墮することなからんがために證せざるなり。

【二二】修行。菩薩の諸行、無我觀に相應する習練を加ふるが行德を積修すと云ふものなり。

【二三】精進に勤むるも、元と無我に住するが爲なり我力を緊張するにあらず。

【二四】無益事。惡口綺語等。

めて精進し、衆生を利益し一佛國より一佛國に至り、衆生の(二五)三惡道を斷ず。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、六波羅蜜に住す、(二六)檀那を以て首と爲し一切衆生を安樂にす、飲食を須てば飲食を與へ衣服臥具瓔珞華香房舍燈燭人の須つ所に隨て盡く之を給與す。舍利弗、菩薩摩訶薩有り般若波羅蜜を行ずる時身を變ずる佛の如く、地獄の中の衆生の爲めに法を說き、畜生餓鬼の中の衆生の爲めに法を說く。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、六波羅蜜を行ずる時身を變ずる佛の如く、十方如恒河沙等の諸佛國土に至り、衆生の爲めに法を說く。亦諸佛を供養し、及び佛國土を淨め、諸佛の說法を聞き十方淨妙の國相を觀採して、已に自ら殊勝の國土を起す、其の中の菩薩摩訶薩皆是れ一生補處なり。舍利弗、菩薩摩訶薩有り六波羅蜜を行ずる時、三十二相諸根淨利を成就す、諸根淨利なるが故に衆人愛敬す、愛敬するを以ての故に漸く(二七)三乘の法を以て之を度脫す。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、(二八)身淸淨口淸淨を學すべし。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、六波羅蜜を行ずる時、(二九)諸根淨を得、是の淨根を以て(三〇)自ら高うせず亦他を下さず。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初發心より檀那波羅蜜に住し、乃ち阿惟越致地に至るまで終に三惡道に墮せず。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初發心より乃ち阿惟越致地に至

【二五】三毒十惡を遮するが故に三惡道を斷ずることゝなる。
【二六】布施與樂の菩薩を說く。
【二七】三乘法。聞思修の三慧により聲聞獨覺菩薩の道を以て解脫せしむ。
【二八】身淸淨等。心般若に住すれば身口業も淸く、隨つて相好心所も淨し。
【二九】諸根淨。六根淸徹互用自在を得るなり。
【三〇】自高等。憍慢なり、波羅蜜所成なれば根淨にして憍慢なし。

るまで常に十善行を捨てず。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜の中に住し、(三一)轉輪聖王と作り衆生を十善道に安立し、亦財物を以て衆生に布施す。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜に住し無量千萬世轉輪聖王と作り、無量百千の諸佛に値遇し供養し恭敬し尊重し讃歎す。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、常に衆生の爲めに(三二)法を以て照明し亦以て自ら照す、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで終に照明を離れず。舍利弗、是の菩薩摩訶薩佛法の中に於て已に(三三)尊重を得たり。舍利弗、是を以ての故に菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時身口意の(三四)不淨をして妄起せしめず。』

(三五)舍利弗佛に白して言さく、『世尊、如何が菩薩の身業不淨口業不淨意業不淨なるや。』佛舍利弗に告げ給はく、『若し菩薩摩訶薩是の念を爲す、是れ身是れ口是れ意と、是の如き(三六)相作の縁を取る、是を身口意不淨と名く。舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、(三七)身を得ず口を得ず意を得ず。舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、若は身を得若は口を得若は意を得、是の身口意を得たるを用ての故に、能く(三八)慳心犯戒心瞋

【三一】轉輪聖王。高德なる聖君にして梵輪轉じて四天下自から治まる王者とす。

【三二】法等。經を誦説分別し法義を明白にし智慧光明を以て自他を照す。

【三三】尊重。名利を捨て實相を明かす淨法施を行ずるなり。

【三四】不淨妄起。意不淨なれば智正しからず、身口善行を失ふ。

【三五】業等の所得あるは不淨、不可得なるは清淨なるを問決す。

【三六】相作の縁を取る。法空の故に三業とすべきもの、相も作もなく、見者もなし。然るに相作等を取著せば罪となり不淨となる。

【三七】身を得ず。身の相作を取著せざれば身の身とすべきものなし。

【三八】慳心等。六度に反する六

心解心亂心愚心を生ず。當に知るべし是の菩薩六波羅蜜を行ずる時、身口意の(三九)麤業を除く能はず。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩云何が身口意の麤業を除かんや。』佛舍利弗に告げ給はく、『若し菩薩摩訶薩身を得ず口を得ず意を得ずば、是の如き菩薩摩訶薩能く身口意の麤業を除かん。復次に舍利弗、若し菩薩摩訶薩初發意より十善道を行じ、聲聞心を生ぜず辟支佛心を生ぜずば、是の如き菩薩摩訶薩能く身口意の麤業を除かん。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行じ(四〇)佛道を淨むる時、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜を行ぜば、是の菩薩摩訶薩身口意の麤業を除かん。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ菩薩摩訶薩の佛道なりや。』佛舍利弗に告げ給はく、『佛道とは若し菩薩摩訶薩身を得ず口を得ず意を得ず、檀那波羅蜜を得ず、尸羅波羅蜜を得ず、羼提波羅蜜を得ず、毗梨耶波羅蜜を得ず、禪那波羅蜜を得ず、般若波羅蜜を得ず、聲聞を得ず辟支佛を得ず菩薩を得ず佛を得ず、舍利弗是を菩薩摩訶薩の佛道と名く。所謂一切(四一)諸法不可得の故に、舍利弗、菩薩摩訶摩有り、六波羅蜜を行ずる時能く(四二)壞する者無し。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩六波羅蜜を行ずる時能く壞する者無きや。』佛舍利弗に告げ給はく、『若し菩薩摩訶薩六波羅蜜を行ずる時、色乃至識有るを念

〔三九〕麤業。小乘には身口業瞋恚邪見等を麤とし意業愛慢等を細とするも、大乘には悉く麤とす、卽ち罪業なり。

〔四〇〕佛道を淨む。六度の作相を取らざる淨業、總じて佛道を淨むるものなり。

〔四一〕諸法不可得。法として實有ならず、體も相も固取すべきなし。

〔四二〕無壞。實法を執せざるが故に破壞せず。

はず、眼乃至意有るを念はず、色乃至法有るを念はず、眼界乃至法界有るを念はず、四念處乃至八聖道分有るを念はず、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜有るを念はず、佛の十力乃至十八不共法有るを念はず、須陀洹果乃至阿羅漢果有るを念はず、辟支佛乃至阿耨多羅三藐三菩提有るを念はず。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く六波羅蜜を行じ增益し能く壞する者無し。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜の中に住し智慧を具足す、是の智慧を用て常に惡道に墮せず、弊惡の人の中に生れず、貧窮人と作らず、受くる所の身體人天阿修羅の憎惡する所と爲らず。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ菩薩摩訶薩の智慧なるや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩是の智慧の成就せるを用て、十方如恒河沙等の諸佛を見法を聽き僧を見、亦嚴淨の佛土を見る、菩薩摩訶薩是の智慧を以て、佛の想を作さず、菩薩の想を作さず、聲聞辟支佛の想を作さず、我の想を作さず、佛國の想を作さず、是の智慧を用て檀那波羅蜜を行じ、亦檀那波羅蜜を得ず、乃至般若波羅蜜を行じ亦般若波羅蜜を得ず、四念處を行じ亦四念處を得ず、乃至十八不共法を行じ亦十八不共法を得ず、舍利弗、是を菩薩摩訶薩の智慧と名く、是の智慧を用て能く一切法を具足すれども亦一切法を得ず。

(四三)舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、五眼肉眼天眼慧眼法眼佛眼を淨む。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩肉眼淨なるや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩有り肉眼百由旬を見る、菩薩有り肉眼二百由旬を見る、菩

【四三】五眼淸淨を辨ず。

薩有り肉眼（四四）一閻浮提を見る、菩薩有り肉眼二天下三天下四天下を見る、菩薩有り肉眼（四五）小千國土を見る、菩薩有り肉眼（四六）中千國土を見る、菩薩有り肉眼（四七）三千大千國土を見る。舍利弗、是を菩薩摩訶薩の（四八）肉眼淨と爲す。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩の天眼淨なるや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩有り天眼一切四天王天の所見を見、三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天の所見を見、梵天王の所見乃至阿迦尼吒天の所見を見る。菩薩天眼の所見とは四天王天乃至阿迦尼吒天の知らず見ざる所なり。舍利弗是の菩薩摩訶薩の天眼とは十方如恒河沙等の諸の國土の中の衆生の此に死し彼に生ずるを見る。舍利弗、是を菩薩摩訶薩の（四九）天眼淨と爲す。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩の慧眼淨なるや。』佛舍利弗に告げ給はく、『慧眼の菩薩是の念を作さず、有法若は有爲若は無爲、若は世間若は出世間、若は有漏若は無漏なるありと。是の慧眼の菩薩亦法として見ざる無く、法として聞かざる無く、法として知らざる無く、法として識らざる無し。舍利弗、是を菩薩摩訶薩の（五〇）慧眼淨と名く。』（五一）舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩法眼淨なるや。』佛舍利弗に告げ

【四四】一閻浮提。須彌四洲の一、一天下なり。
【四五】小千國土。須彌世界一千を總稱す。
【四六】中千國土。小千國土一千を云ふ、百万須彌界なり。
【四七】三千大千國土。大千即ち三千世界なり。中千國土一千を云ふ。
【四八】肉眼淨。本文視界の大さを云ふのみなるが、清徹分了自在互用の德を云ふ。
【四九】天眼淨。欲色諸天の所見に通ずると十方國土衆生生死を見るとを擧ぐ。明了と無散亂等持と妙觀察とを具す。
【五〇】慧眼淨。慧眼は實相無我平等を觀、別存の諸法なく、一法として正しく知見せざるなし。
【五一】以下大論第四十。

給はく、「菩薩摩訶薩(五二)法眼を以て是の人(五三)隨信行、是の人(五四)隨法行、是の人(五五)無相行、是の人(五六)空解脱門を行じ、是の人無相解脱門を行じ、是の人無作解脱門を行ずるを知り、(五七)五根を得。五根を得るが故に(五八)無間三昧を得、無間三昧を得るが故に(五九)解脱智を得、解脱智を得るが故に(六〇)三結(六一)有我見疑戒取を斷ず、是の人を須陀洹と名く。是の人(六二)思惟道を得(六三)婬恚癡を薄くし、當に斯陀含を得べし、思惟道を增進し婬恚癡を斷じ、當に阿那含を得べし、思惟道を增進し(六四)色染無色染無明慢掉を斷じ阿羅漢を得。是の人空無相無作解脱門を行じ五根を得。五根を得るが故に無間三昧を得、無間三昧を得るが故に解脱智を得、解脱智を得るが故に、有ゆる(六五)集法皆是れ滅法なりと知り、辟

【五二】法眼。人をして法を行し道を得しめ、衆生相應方便を知りて道證を得しむるものなり。
【五三】隨信行。鈍根の信力に依りて無漏道に入るもの。
【五四】隨法行。利根にして諸法分別の知識に依て得道するもの。
【五五】無相行。隨信隨法の十五心速疾なるを云ふと。或は入道を隨信隨法とするに對し般若無相に依て道に入るものとも云ふべし。
【五六】空解脱等。三解脱門。實事を好む者には空門、善寂を好む者には無相門、捨離を好む者には無作門。
【五七】五根を得。一切の聖道は信進念定慧の五根に成立する故に五根を第一とす。
【五八】無間三昧。果を證する時相應する三昧。
【五九】解脱智。無間三昧成じて得る斷結得果の智なり。
【六〇】三結。見諦斷十結と云ふことあるも三は根本のものなり。
【六一】我見疑戒取。麗本衆見疑齋戒取に作る。我見は五蘊に我々所を見る、見結の根本。疑は三寶四諦を信ぜず。戒取は實行上誤りて不當行爲を善因行と思ふものなり。
【六二】思惟道。初果見諦以後實踐上の罪障思惑を斷伏するを云ふ。
【六三】婬恚癡。又貪瞋癡なり、思惑の主たる三毒を擧ぐ。
【六四】色染等。色染は色界愛、無色染は無色界愛、無明慢掉孰れも細深なる上界惑なり。掉は掉擧不安なり。
【六五】集法皆是れ滅法。因法惑業悉く涅槃の法なり。

支佛と作る、是を菩薩摩訶薩の法眼淨と爲す。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩是の菩薩初發意に檀那波羅蜜を行じ、乃至般若波羅蜜を行じ、信根精進根を成就し、純ら厚く方便力を用ての故に、(六六)衆生の爲めに身を受くるを知る。若は刹利大姓に生じ、若は婆羅門大姓に生じ、若は居士大家に生じ、若は四天王天處乃至他化自在天處に生ず。是の菩薩其の中に於て住し衆生を成就し、其の所樂に隨て皆之に給施す。亦佛國土を淨め、諸佛に値遇し供養し恭敬し尊重し讃歎し、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至りて亦聲聞辟支佛地に墮せず、是を菩薩摩訶薩の法眼淨と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩是の菩薩阿耨多羅三藐三菩提に於て退くを知り、是の菩薩阿耨多羅三藐三菩提に於て退かざるを知る。是の菩薩阿耨多羅三藐三菩提の(六七)記を受くるを知り、是の菩薩未だ阿耨多羅三藐三菩提の記を受けざるを知る。是の菩薩阿惟越致地に到るを知り、是の菩薩未だ阿惟越致地に到らざるを知る。是の菩薩神通を具足するを知り、是の菩薩未だ神通を具足せざるを知る。是の菩薩神通を具足するを以て、十方如恒河沙等の世界に飛到し、諸佛を供養し恭敬し尊重し讃歎するを知り、是の菩薩未だ神通を得ざると、當に神通を得べきとを知る。是の菩薩當に佛土を淨むべきと未だ佛土を淨めざるとを知る。是の菩薩衆生を成就せると未だ衆生を成就せざると、是の菩薩諸佛に稱譽せらるゝと、稱譽せられざる所たると、是の菩薩諸佛に親近すると、諸佛

【六六】衆生の爲。般若方便よりせば一身として利衆生の爲ならざるなし。

【六七】記。不退菩薩の中に受記と不受記とあり。受記は佛より決定成佛の豫言的宣告を受くるなり。

に親近せざると、是の菩薩壽命有量なると壽命無量なると、是の菩薩佛を得ん時比丘衆有量なると比丘衆無量なると、是の菩薩阿耨多羅三藐三菩提を得ん時菩薩を以て(六八)僧と爲すと菩薩を以て僧と爲さゞると、是の菩薩當に苦行難行を修すべきと苦行難行を修せざるべきと、是の菩薩一生補處なると、未だ一生補處ならざると、是の菩薩(六九)最後身を受くると未だ最後身を受けざると、是の菩薩能く(七〇)道場に坐すると、能く道場に坐せざると、是の菩薩(七一)魔有ると魔無きとを知る。是の如く舍利弗、是を菩薩摩訶薩の(七二)法眼淨と爲す。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩佛眼淨なるや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩有り、佛道を求むる心次第に(七三)如金剛三昧に入り、一切種智を得。爾の時十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲を成就す。是菩薩摩訶薩一切種智を用て、一切法の中法として見ざる無く、法として聞かざるなく、法として知らざる無く、法として識らざる無し。舍利弗、是を菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提を得る時の佛眼淨と爲す。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩五眼を得んと欲せば當に六波羅蜜を學すべし。何を以ての故に、舍利弗、是の六波羅蜜中一切善法、若は聲聞法辟支佛法菩薩法佛法を攝す。舍利弗、若

【六八】僧。大衆教團なり、今の釋尊常に比丘を以て僧伽とするのみ、菩薩僧伽の有無あるを說く。

【六九】最後身。通常肉體生活の最後生涯。

【七〇】道場。成道の席、金剛大菩提心なり。

【七一】魔。成道の誘惑魔障等。

【七二】法眼淨。廣く十界差別を觀、利生過たざるなり、上述の分別只一例のみ。

【七三】如金剛三昧。十地滿ずる最後心の三昧堅確なるを云ふ。

【七四】實語。語は假設とせば實語なし。語義相應を實語とせば只一切を攝し得べきは般若のみ。

し(七四)實語有て能く一切善法を攝するは、般若波羅蜜是れなり。舍利弗、(七五)般若波羅蜜は能く五眼を生ず、菩薩五眼を學する者阿耨多羅三藐三菩提を得。

(七六)舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、神通波羅蜜を修す。(七七)是の神通波羅蜜を以て種々如意の事を受く、能く大地を動かし一身を變じて無數の身と爲し、無數の身還て一身と爲る、隱顯自在山壁樹木皆過ぐるに礙無く、空中を行くが如く、水を履む地の如く、虛を凌たる鳥の如く、地中に出沒する水を出入するが如く、身煙焔を出す大火聚の如く、身中水を出す雪山の水流の如し、(七八)日月大德威力當り難くして能く摩捫す、乃至(七九)梵天まで身自在を得るも、亦是の如意神通に著せず、神通の事及び己身皆不可得なり。(八〇)自性空の故に、自性離の故に、自性無生の故に、是の念を作さず、我れ如意神通を得たりと、(八一)薩婆若心たるを除く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、如意神通智證を得。(八二)是の菩薩天耳淨くして人耳に過ぐるを以て、二種の聲天聲人聲を聞くも、亦是の天耳神通に著せず、天耳と聲と及び己身皆不可得なり。自性空の故に、自性離の故に

【七五】般若能生五眼。若し般若なくば肉眼天眼の世間眼のみ出世間眼なし、佛道般若ならずば慧眼なるも、法佛二眼なし。般若能く五眼を生じ、五眼定りて智慧解脫を成す。

【七六】神通自在を得るを說く。

【七七】如意神通を說く。

【七八】日月にも接觸摩捫す。

【七九】梵天色界諸天に於ても隱顯大小自在なる前の如し。

【八〇】空離無生。體空無自性、離相無性、無生無性にして體相生の實有なし。故に不可得なり。

【八一】薩婆若心。一切智智に於ては神通あるを神通ありと知る、實相無性に契ひ廣度衆生を念ずる智なればなり。

【八二】天耳神通を說く。

自性無生の故に、是の念を作さず、我れ是の天耳有りと、薩婆若心たるを除く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、天耳神通智證を得。(八三)是の菩薩如實に他の衆生心を知る、若し(八四)欲心は如實に欲心と知り、離欲心は如實に離欲心と知る、(八五)瞋心は如實に瞋心と知り、離瞋心は如實に離瞋心と知る、(八六)癡心は如實に癡心と知り、離癡心は如實に離癡心と知る、(八七)渇愛心は如實に渇愛心と知り、無渇愛心は如實に無渇愛心と知る、(八八)有受心は如實に有受心と知り、無受心は如實に無受心と知る、(八九)攝心は如實に攝心と知り、散心は如實に散心と知る、(九〇)小心は如實に小心と知り、大心は如實に大心と知る、定心は如實に定心と知り、亂心は如實に亂心と知る、解脱心は如實に解脱心と知り、不解脱心は如實に不解脱心と知る、有上心は如實に有上心と知り、無上心は如實に無上心と知る亦是の心に著せず。何を以ての故に、是の心心に非ず、相思議すべからざるが故に、自性空の故に、自性離の故に、自性無生の故に、是の念を作さず、我れ他心智證を得たりと。薩婆若心たるを除く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、他心神通智證を得。(九一)是の菩薩宿命智證通を以て、一心乃至百心を念じ、一日乃至百日を念

【八三】他心神通を説く。

【八四】欲心等。衆生の心相なり、欲は財色眠等を貪欲す、離欲はこれを離れ恩施となる。主として意の兩面なり。

【八五】瞋心。我を恣にせば憍慢たり、これを妨ぐれば瞋恚となる、不和の情。

【八六】癡心。我見有無斷常の妄見にて實相を知らざる無知。

【八七】渇愛。貪欲なり、有色無色の細貪を云ふ。

【八八】有受心。三界諸法に接して苦樂を感ずるなり。

【八九】攝心。掉擧散亂を攝持す。

【九〇】小心。自我の一片のみを見るもの。

【九一】宿命神通を説く、自己の過去生死相を知るなり。

じ、一月乃至百月を念じ、一歲乃至百歲を念じ、一劫乃至百劫、無數百劫、無數千劫、無數百千劫、乃至無數百千萬億劫を念ず。設し我は是の處、是の如き姓、是の如き名字、是の如き(九二)生、是の如き(九三)食、是の如き久住、是の如き壽限、是の如き長壽、是の如き苦樂を受く。我れ是の中に死し彼處に生じ、彼處に死し是處に生ず、相有り因緣有り、亦是の宿命神通に著せず、宿命神通の事及び己身皆不可得なり。自性空の故に、自性離の故に、自性無生の故に、是の念を作さず、我に是の宿命神通有りと、薩婆若心たるを除く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、宿命神通智證を得。(九四)是の菩薩天眼を以て衆生の死時生時端正醜陋惡處好處若は大若は小を見、衆生の(九五)隨業因緣を知る、是の諸の衆生の身惡業成就し口惡業成就し意惡業成就ずるが故に、賢聖人を謗毀し邪見の因緣を受くるが故に、身壞して惡道に墮し地獄の中に生ず。是の諸の衆生身善業成就し口善業成就し意善業成就し、賢聖人を謗毀せず正見の因緣を受くるが故に、命終りて善道に入り天上に生ず、亦是の天眼通に著せず、天眼通の事及び己身皆不可得なり。自性空の故に、自性離の故に、自性無生の故に、是の念を作さず、我に是の天眼神通有りと、薩婆若心たるを除く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、天眼神通智證を得。(九六)亦十方如恒河沙等の世界の中の衆

【九二】生。胎卵濕化の四生差別。
【九三】食。長養の法、摶觸想識四食差別。
【九四】天眼神通を說く。
【九五】隨業因緣。果體に伴ふ報相の貴賤智愚等多業の因緣によるとす、その諸業の關係を云ふ。
【九六】上來五通一界人天に就て說く、今十方界に通じて同じきを示す。

生の生死、乃至天上に生るゝを見る。四神通も亦是の如し。(九七)是の菩薩摩訶薩漏盡神通あり、漏盡神通を得て、聲聞辟支佛地に墮せず、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至ると雖ども、亦異法に依らず、亦是の漏盡神通に著せず、漏盡神通の事及び己身皆不可得なり。自性空の故に、自性離の故に、自性無生の故に、是の念を作さず、我れ漏盡神通を得たりと、薩婆若心たるを除く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、漏盡神通智證を得。是の如く舍利弗菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、神通波羅蜜を具足す、神通波羅蜜を具足し已りて阿耨多羅三藐三菩提を增益す。

(九八)舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時(九九)檀那波羅蜜淨薩婆若道に住す、畢竟空にして慳心を生ぜざるが故に。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、尸羅波羅蜜淨薩婆若道に住す、畢竟空にして罪不罪著せざるが故に。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、羼提波羅蜜淨薩婆若道に住す、畢竟空にして瞋らざるが故に。舍利弗菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、毗梨耶波羅蜜淨薩婆若道に住す、畢竟空にして身心精進に懈怠せざるが故に。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、禪那波羅蜜淨薩婆若道に住す畢竟空にして(一〇〇)亂せず味せざるが故に。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、般若波

【九七】漏盡神通を說く。一切煩惱斷盡して、自在なり。

【九八】六波羅蜜淨を說く。六度の度たるは般若に住し空不可得なれば淸淨たり一切智に合す。

【九九】檀那等。慳惜心なき布施は布施淸淨にして一切智に至る。

【一〇〇】散亂と味著となきなり。

羅蜜淨薩婆若道に住す、畢竟空にして癡心を生ぜざるが故に。(一〇一)是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、六波羅蜜淨薩婆若道に住す、畢竟空の故に、(一〇二)來ならず去ならざるが故に、施ならず受ならざるが故に、戒に非ず犯に非ざるが故に、忍に非ず瞋に非ざるが故に、進ならず怠ならざるが故に、定ならず亂ならざるが故に、智ならず愚ならざるが故に。爾の時菩薩摩訶薩、布施不布施持戒犯戒、忍辱瞋恚、精進懈怠、定心亂心、智慧愚癡を分別せず、毀害輕慢恭敬を分別せず。何を以ての故に。舍利弗、無生法中毀を受くる者有ること無く、害を受くる者有ること無く、輕慢恭敬を受くる者有ること無ければなり。舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずれば是の如き諸の功德を得、聲聞辟支佛の得る有る無き所なり、是の功德具足し、衆生を成就し、佛國土を淨め一切種智を得。(一〇三)復次に舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、一切衆生の中に等心を生ず、一切衆生の中に等心を生じ已りて一切諸法等しきを得、一切諸法等しきを得已りて、(一〇四)一切衆生を諸法等の中に立つ。是の菩薩摩訶薩現世に十方諸佛の愛念する所と爲り、亦一切菩薩一切聲聞辟支佛の愛念する所と爲る。是の菩薩所生の處に在りて眼終に不愛色を見ず、乃至意不愛法を覺せず。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、阿耨多羅三藐三菩提を減せず。』

【一〇一】般若の故に布施等淨なり、淨の故に六度も六蔽も存せず。

【一〇二】不來不去。空に來去なし。來去なければ法の有無生滅を離る。

【一〇三】平等を說く。衆生平等、諸法平等なり。

【一〇四】衆生をして諸法平等に安立せしむるもの般若の行要なり。

（一〇五）是の般若波羅蜜品を說く時、三百の比丘座より起ち、著くる所の衣を以て佛に上り、阿耨多羅三藐三菩提心を發す。佛爾の時微笑し種種の色光口の中より出づ。爾の時（一〇六）慧命阿難座より起ち、衣服を整へ、合掌し右膝を地に著け佛に白して言さく、『佛何の因緣ありて微笑し給へるか。』佛阿難に告げ給はく、『是の三百の比丘是より以後六十一劫（一〇七）當に佛と作るべく、皆號して大相と名く、（一〇八）是の三百の比丘此の身を捨て、當に（一〇九）阿閦佛國に生ずべし。及び六萬の欲天子皆阿耨多羅三藐三菩提心を發し、（一一〇）彌勒佛法の中に於て出家し佛道を行ず。是の時佛の威神の故に、此の間の（一一一）四部衆十方面に各千佛を見る。是の十方國土嚴淨にして、此の娑婆國土の及ぶ能はざる所なり。』

爾の時十千人願を作す、『我等淨願行を修し、淨願行を修するが故に、當に彼の佛世界に生ずべし。』爾の時佛是の善男子の深心を知りて復微笑し種々の光口の中より出づ。阿難衣服を整へ、合掌して佛に白さく、『佛何の因緣ありて微笑し給へるか。』佛阿難に告げ給はく、『汝是の十千人を見たりや不や。』阿難言さく、『見たり。』佛言はく、『是の十千人此に於て壽終り當に彼の世界に生ずべし、終に諸佛を離れず、後當に作佛すべし、皆莊嚴王佛と號す。』

【一〇五】得忍受記を明す。
【一〇六】慧命。上座の敬稱、或は具慧、長者と譯す。
【一〇七】これ成佛の授記なり。
【一〇八】未來生處を說く。
【一〇九】阿閦（Akṣobhya）。不動又は無動と譯す、東方の佛。
【一一〇】彌勒佛法。後佛慈氏の教法。
【一一一】四部衆。比丘比丘尼優婆塞優婆夷卽ち出家在家の男女

(一)歎度品第五

爾の時慧命舍利弗、慧命(二)大目揵連、慧命(三)須菩提、慧命(四)摩訶迦葉是の如き等の諸多の知識比丘、及び諸の菩薩摩訶薩、諸の優婆塞優婆夷、座より起ち合掌して佛に白して言さく、『世尊、(五)摩訶波羅蜜は是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり。(六)尊波羅蜜、(七)第一波羅蜜、(八)勝波羅蜜、(九)妙波羅蜜、無上波羅蜜、無等波羅蜜、(一〇)無等等波羅蜜、(一一)如虚空波羅蜜は、是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり。世尊、(一二)自相空波羅蜜は是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり、世尊、(一三)自性空波羅蜜は是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり。諸法空波羅蜜、無法有法空波羅蜜、(一四)開一切功德波羅蜜、成就一切功德波羅蜜、(一五)不

【一】般若波羅蜜の勝妙を讃歎す、故に歎度と名く。

【二】大目揵連(Mahāmaudgalyāyana)。舍利佛と相並ぶ上首にして神通第一とせらる。

【三】須菩提(Subhūti)。善吉又は善現と譯し解空第一の弟子とし三三昧般若の正機なり。

【四】摩訶迦葉(Mahākāśyapa)。大飲光と譯す、頭陀第一とし滅後付法の第一上座とせらる。

【五】摩訶波羅蜜(Mahāpāramitā)。大度と譯す。佛道は最大にして般若能くこれを顯はす。

【六】尊。一切法中第一たるを云ふ。

【七】第一。五度を導くを云ふ。

【八】勝。五度及ばざるを云ふ。

【九】妙。常情の及ばざるを云ふ。

【一〇】無等等。諸佛を無等等と云ふ。般若能く佛を生ず、故に般若に名く。

【一一】如虚空。般若清淨にして論破されざるを云ふ。

【一二】自相空。一切法の自相の空なるを云ふ。

【一三】自性空。諸法衆緣和合にして自性なし。これ般若の空なり。

【一四】開一切功德。日出でて華敷く如く功德として般若によらざるなきを云ふ。

【一五】不可壞。如何なる法も般若を破る能はざるを云ふ。

可壞波羅蜜は是れ諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり。諸の菩薩摩訶薩是の般若波羅蜜無等等布施を行じ、無等等檀那波羅蜜を具足し、(二六)無等等身を得、無等等法を得、所謂阿耨多羅三藐三菩提なり尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜も亦是の如し。世尊、本亦復此の般若波羅蜜を行じ、無等等六波羅蜜を具足し、無等等法を得、(二七)無等等色を得、無等等受想行識を得、佛の無等等法輪を轉じ給ふ。過去の佛も亦是の如く、此の般若波羅蜜を行じ、無等等布施を具足し、乃至無等等法輪を轉せり。未來世の佛も亦此の般若波羅蜜を行じ、當に無等等布施を作すべく、乃至無等等法輪を轉ずべし。是を以ての故に、世尊、菩薩摩訶薩一切法を彼岸に渡さんと欲せば、當に般若波羅蜜を習行すべし。唯世尊、是の般若波羅蜜を行ずる、菩薩摩訶薩をば一切世間、天及び人阿修羅當に禮敬供養すべきや。』佛衆の弟子及び諸の菩薩摩訶薩に告げ給はく、(二八)『是の如し是の如し、諸の善男子是の般若波羅蜜を行ずる者をば、一切世間天及び人阿修羅當に禮を作し恭敬供養すべし。何を以ての故に、(二九)菩薩來るに因るが故に、人道天道、刹利大姓、婆羅門大姓、居士大家、轉輪聖王、四天王天乃至阿迦尼吒天を出生し、須陀洹乃至阿羅漢辟支佛諸佛を出生すればなり、菩薩來るに因るが故に、世間便ち飲食衣服臥具房舍燈燭(三〇)摩尼

【二六】無等等身。佛身なり。無等等の般若により無等等の法と行と滿足して、無等等となる。

【二七】無等等色等。般若によりて佛の五蘊無等等なり。無等等五蘊を得るは佛身を得るなり。

【二八】是の如し。この說錯謬なきを證し印可する語なり。

【二九】菩薩來。般若修行の菩薩來りて般若を示し一切を安樂ならしむるを云ふ。

【三〇】摩尼(Maṇi)。寶珠。

眞珠玻瓈〔二〕瑠璃珊瑚金銀等諸の寶物有りて生ずればなり。舍利弗、世間有ゆる樂具、若は人中若は天上、若は〔三〕離欲樂、此の一切樂具皆菩薩有るに由る。何を以ての故に、舍利弗、菩薩摩訶薩菩薩道を行ずる時、六波羅蜜に住し、自ら布施を行じ亦布施を以て衆生を成就し、乃至自ら般若波羅蜜を行じ、亦般若波羅蜜を以て衆生を成就すればなり舍利弗、是の故に菩薩摩訶薩は一切衆生を安樂にせんが爲の故に、世に出現す。』

〔二〕瑠璃（Vaidūrya）。
〔三〕離欲樂。解脫涅槃の快樂。

(一)舌相品第六

爾の時世尊舌相を出して、徧く三千大千世界を覆ふ。其の舌相より無數無量の色を出す。光明普く十方如恒河沙等の諸佛の世界を照す。是の時東方如恒河沙等の世界の中の無量無數の諸の菩薩、是の大光明を見、各々其の佛に白して言さく、『世尊、是れ誰の力の故に、是の大光明有り、普く諸佛の世界を照すや。』諸佛諸菩薩に告げて言はく、『諸の善男子、西方に世界有り(二)娑婆と名く、是の中に佛有り、(三)釋迦牟尼と名く。是れ其の舌相より大光明を出し、普く東方如恒河沙等の諸佛の世界を照す。南西北方四維上下も亦是の如し。』諸の菩薩摩訶薩の爲めに般若波羅蜜を説くが故なり』と。是の時諸の菩薩各々其の佛に白して言さく、『我れ往きて釋迦牟尼佛及び諸の菩薩摩訶薩に供養せんと欲し、幷に般若波羅蜜を聽かんと欲す』と。諸佛諸の菩薩に告げ給はく、『善男子、汝自ら(四)時を知る』と。是の時諸の菩薩摩訶薩諸の供養の具、無量の華蓋幢旛瓔珞衆香金銀寶華を持ちて、娑婆世界に向つて、釋迦牟尼佛の所に詣る。爾の時四天王諸天乃至阿迦尼吒諸天、各天上の天香末香澤香天樹香葉香、天の種々の蓮華青赤紅白を持ちて、釋迦牟尼佛の所に向ふ。是の諸の菩薩摩訶薩及び諸天散ずる所の諸華、三千大千世

(一) 序品に舌相示現ありしが、須菩提に説法せしむるに舌相の示現を説く。
(二) 娑婆(Sahalokadhâtu)。堪忍世界と譯す。
(三) 釋迦牟尼(Sâkyamuni)。能仁寂默と譯す。
(四) 時を知る。適當の意。

界の虛空の中に於て、化して四柱の大寶臺と成る。種々の異色莊嚴分明なり。是の時釋迦牟尼佛の衆中十萬億人有り、皆座より起ちて合掌し佛に白して言さく、『世尊、我等未來世の中に於て、亦當に是の如きの法を得べきや。今の釋迦牟尼佛弟子侍從し、大衆に說法するが如く亦爾るや。』是の時佛善男子の至心に一切諸法に於て、(五)不生不滅不出不作とし、是の法忍を得るを知り、佛便ち微笑し種々の色光口の中より出づ。阿難佛に白して言さく、『世尊、何の因緣の故に微笑し給へるや。』佛阿難に告げ給はく、『是の衆中十萬億人、諸法の中に於て無生忍を得、此の諸人未來世に於て、六十八億劫を過ぎて當に佛と作るべし。劫を(六)華積と名け、佛を皆覺華と號す』と。

【五】不生等。諸法の生滅起作の不可得なるな明かにす。卽ち無生法忍なり。

【六】華積。序品には香華莊嚴な華積世界普化國の如しとせ佛り。

(一)三假品第七

爾の時佛慧命須菩提に告げ給はく、『汝當に諸の菩薩摩訶薩に般若波羅蜜を敎ふること、諸の菩薩摩訶薩の成就すべき所の般若波羅蜜の如くすべし。』卽時に諸の菩薩摩訶薩及び聲聞大弟子諸天等此の念を作す、『慧命須菩提自ら智慧力を以て、當に諸の菩薩摩訶薩の爲めに般若波羅蜜を說くべきや』と。是の佛力の爲めに、慧命須菩提諸の菩薩摩訶薩大弟子諸天の心の所念を知り、慧命舍利弗に語る、『敢て佛弟子の說く所の法、敎授する所皆是れ(二)佛力なり。佛の說く所の(三)法と法相と相違背せず、是の善男子是の法を學び、此の法を證するを得、佛說は燈の如し。舍利弗、一切の聲聞辟支佛實に是の(四)力無くして、能く菩薩摩訶薩の爲に般若波羅蜜を說かんや。』爾の時、慧命須菩提佛に白して言さく、『世尊、說く所の(五)菩薩、菩薩の字、何等の法を菩薩と名くるや。世尊、我等是の法菩薩と名くるを見ず。云何が菩薩に般若波羅蜜を敎へんや。』佛須菩提に告げ給はく、『般若波羅蜜亦但だ(六)名字のみ有り、名けて般若波羅蜜と爲す。菩薩と菩薩の字も亦但

【一】以下大論第四十一。菩薩に般若を敎ふと云ふも般若も菩薩も亦名字も假名なること我衆生五蘊諸法の假名なるが如くなるを明す。三假は本文云ふ名受法の三皆假施設なるを云ふ。

【二】佛力。弟子所說も皆佛力によれば佛說に同じ。

【三】法と法相。法の體と相となり。體無我にして相無相無生無滅なり。

【四】力無く。弟子自力なし、佛眼所見に照らされて般若を說く。

【五】菩薩、菩薩の字。菩薩と名けらるゝ人と、菩薩の名言說明。

【六】名字のみ。實の我法なく緣和合のみ、假に名けて般若菩

だ名字のみ有り、是の名字(七)内に在らず外に在らず中間に在らず。須菩提、譬へば(八)我の名を說くが如き、和合の故に有り、是の我の名不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。衆生壽者命者生者養育者衆數人、作者使作者、起者使起者、受者使受者、知者見者等の如きも、和合法の故に有り、是の諸の名不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。般若波羅蜜と菩薩と菩薩の字も亦是の如し、皆是れ和合の故に有り、是れ亦不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。須菩提、譬へば(九)身の如き和合の故に有り、是れ亦不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。須菩提、譬へば色受想行識の如きも亦和合の故に有り、是れ亦不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。須菩提般若波羅蜜、菩薩、菩薩の字も亦是の如し、皆是れ和合の故に有り、是れ亦不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。須菩提、譬へば(一〇)眼の如き和合の故に有り、是れ亦不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。是の眼內に在らず外に在らず中間に在らず。耳鼻舌身意和合の故に有り、是れ亦不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。色乃至法も亦是の如し。(一一)眼界和合の故に有り、是れ亦不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。乃至意識界

薩等と云ふ。皆假名施說なり。

【七】内に在らず等。佛教離邊處中と說くを以て非內非外とするも、中間なりとするものあり、處中の中は中間にもあらず、衆因緣の內外中何れも實在と云ふを否定す。

【八】我等。我衆生等の人皆和合假名なるを示す。

【九】身等。身、蘊、處、界の法和合假名なるを示す。

【一〇】眼等。內外六處の假名を敍す。

【一一】眼界。十八界の假名を示す。

も亦是の如し。須菩提、般若波羅蜜、菩薩、菩薩の字も亦是の如し、皆和合の故に有り、是れ亦不生不滅なり、但だ世間の名字を以ての故に說くのみ。是の名字內に在らず、外に在らず、中間に在らず。須菩提、譬へば(二)內身の如き、名けて頭と爲すも但だ名字有るのみ、項肩臂脊肋(三)胜膞脚皆是れ和合の故に有り、是の法及び名字も亦不生不滅なり、但だ名字を以ての故に說くのみ、是の名字亦內に在らず、亦外に在らず、中間に在らず。須菩提、般若波羅蜜、菩薩、菩薩の字も亦是の如し、皆和合の故に有り、但だ名字を以ての故に說くのみ。須菩提、是れ亦不生不滅なり、內に在らず、外に在らず、中間に在らず。譬へば外物草木枝葉莖節の如き、是の一切但だ名字を以ての故に說くのみ是の法及び名字亦不生不滅なり、內に非ず、外に非ず、中間に住するに非ず。須菩提、般若波羅蜜、菩薩、菩薩の字も亦是の如し、皆和合の故に有り、是の法及び名字も亦不生不滅なり、內に非ず、外に非ず、中間に住するに非ず。須菩提、譬へば過去の諸佛の名の如き和合の故に有り、是れ亦不生不滅なり、但だ名字を以ての故に說くのみ、是れ亦內に非ず、外に非ず、中間に住するに非ず。般若波羅蜜、菩薩、菩薩の字も亦是の如し。須菩提、譬へば(四)夢響影幻燄佛の化する所の如き皆是れ和合の故に有り、但だ名字を以て說くのみ、是の法及び名字不生不滅なり、內に非ず外に非ず、中間に住するに非ず。般若波羅蜜、菩薩、菩薩の字も

【二】內身等。內身肉體外物草木の假名を說く。內身觀は座禪者の習ふ所、外物觀は不座禪者の習ふ所なり。

【三】胜膞。胜は胃脘臟腑を云ひ、膞は踵なり。

【四】夢等。十喩の一分を擧ぐ。

亦是の如し。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ず、般若波羅蜜は(一五)名は假の施設、受は假の施設、法は假の施設なりと、是の如く當に學すべし。

(一六)復次に須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、色の名字是れ常なるを見ず、受想行識の名字是れ常なるを見ず、色の名字無常なるを見ず受想行識の名字無常なるを見ず、色の名字樂なるを見ず、色の名字苦なるを見ず、色の名字我なるを見ず、色の名字(一七)無我なるを見ず、色の名字空なるを見ず、色の名字無相なるを見ず、色の名字無作なるを見ず、色の名字寂滅なるを見ず、色の名字垢なるを見ず、色の名字淨なるを見ず、色の名字生なるを見ず、色の名字滅なるを見ず、色の名字內なるを見ず、色の名字外なるを見ず、色の名字中間住なるを見ず、受想行識も亦是の如し(一八)眼色眼識眼觸眼觸因緣生の諸受乃至意法意識意觸意觸因緣生の諸受亦是の如し。何を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ず、般若波羅蜜の字、菩薩、菩薩の字、(一九)有爲性の中にも亦見ず、無爲性の中にも亦見ず。菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、是の法皆(二〇)分別を作さず。是の菩薩

【一五】名、受、法。これ三假施設又三種波羅聶提 Prajñapti と云ふ。五蘊等は法施設、五蘊因緣和合して衆生たり、根莖和合して樹たる類を受施設と云ひ、名字を以てこの二種を說くを名字施設と云ふ。名言字門受想內外法皆假設なることを習學し實相般若に入る。

【一六】色等の名字常無常等の憶想分別を遮し無著を明し、不著の故に菩薩成就するを說く衆緣和合を假に色法と云ふ、その上に常無常苦樂我無我空無相無作寂滅垢淨生滅內外を見る。皆憶想妄見のみ。

【一七】無我、空等。色無我空無相無作と云ふも有我有相に對す、我相妄ならば無我無相も施設のみ。

【一八】眼色等。以下常に略攝して說く、眼乃至意は內六處、色乃至法は外六處、眼識乃至意識は六識身、眼觸乃至意觸は六觸身、眼觸因緣生受乃至

般若波羅蜜を行じ、〔二一〕不壞法の中に住し、四念處を修する時、般若波羅蜜を見ず、般若波羅蜜の字を見ず、菩薩を見ず、菩薩の字を見ず、乃至十八不共法を修する時、般若波羅蜜を見ず、般若波羅蜜の字を見ず、菩薩を見ず、菩薩の字を見ず。菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を行ずる時、但だ諸法實相を知る。〔二二〕諸法實相とは無垢無淨なり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、當に是の知を作すべし、名字は假の施設なりと。假の名字と知り已りて、色に著せず、受想行識に著せず、眼乃至意に著せず、色乃至法に著せず、眼識に著せず、乃至意識に著せず、眼觸に著せず、乃至意觸に著せず、眼觸因緣生の受若は〔二三〕苦若は樂若は不苦不樂に著せず、乃至意觸因緣生の受若は苦若は樂若は不苦不樂に著せず、有爲性に著せず、無爲性に著せず、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜に著せず、三十二相に著せず、菩薩身に著せず、菩薩の〔二四〕肉眼に著せず、乃至佛眼に著せず、〔二五〕智波羅蜜に著せず、〔二六〕神通波羅蜜に著せず、〔二七〕內空に著せず、乃至無法有法空に著せず、成就衆生に著せず、淨佛國土に著せず、〔二八〕方便法に著せず、何を以ての故に、

意觸因緣生受は六受身なり。

〔一九〕有爲。爲作生滅あるもの。

〔二〇〕分別。諸法に憶想して一定法を見んとす、これ實相智慧に反す。

〔二一〕不壞法。別法堅實と謂ふも破壞すべし、空不可得の實相に住すれば不壞なり。

〔二二〕諸法實相。憶想を離れ生滅垢淨なき緣起如實の相なり。

〔二三〕苦等。これを苦樂捨の三受と云ふ、觸に依て苦樂等の感あり。

〔二四〕肉眼等。五眼を擧ぐ。

〔二五〕智波羅蜜。漏盡智如々智一切智智。

〔二六〕神通波羅蜜。六通を擧ぐ。

〔二七〕內空等。十八空を擧ぐ。

〔二八〕方便法に著せず。度生の事と智と果とを著せず、慈悲救濟せりとせず。

是の諸法著する者無し、著する法無し、著する處無し、皆無の故に。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、一切法に著せず。(二九)便ち檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を増益し(三〇)菩薩の位に入り、阿惟越致地を得、菩薩の神通を具足し、一佛土に遊び、一佛土に至り、衆生を成就し、諸佛を恭敬し尊重し讃歎し、佛國土を淨むるを爲し、諸佛を見て供養を爲す。供養の具善根成就するが故に意に隨て悉く得、亦諸佛所説の法を聞く、聞き已りて乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至り、終に忘失せず、諸の陀羅尼門、諸の三昧門を得。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、當に知るべし諸法の名は假の施設なりと。

(三一)須菩提、汝の意に於て云何、色是れ菩薩なりや不や、受想行識是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『眼耳鼻舌身意是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『色聲香味觸法是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『眼識乃至意識是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『須菩提、汝の意に於て云何、(三二)地種是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『水火風空識種是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『須菩提の意に於て云何、(三三)無明是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『乃至老病死是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』

【二九】不著の故に六度増益し成佛に至るを説く。
【三〇】菩薩の位。頂位を過ぎ無生法忍の位を云ふ。
【三一】一法の定んで菩薩なるものなく諸法和合の假設なるを説く。
【三二】地種等。六大種界に就て述ぶ。
【三三】無明等。十二因緣法に就て述ぶ。
【三四】離。色等の別法を遮すると倶にこれを離るゝものも倶に遮す。

『須菩提の意に於て云何、色を（三四）離れ、受想行識を離れ、乃至老死を離るゝ是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『須菩提、汝の意に於て云何、（三五）色如の相是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『乃至老死如の相是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊』『色如の相を離れ、乃至老死如の相を離るゝ是れ菩薩なりや不や』『不とよ世尊。』佛須菩提に告げ給はく、『汝何等の義を觀て色菩薩に非ず、乃至老死菩薩に非ず色を離るゝ菩薩に非ず、乃至老死を離るゝ菩薩に非ず、色如の相菩薩に非ず、乃至老死如の相菩薩に非ず、色如の相を離るゝ菩薩に非ず、乃至老死如の相を離るゝ菩薩に非ずと言ふや』須菩提言さく、『世尊、（三六）衆生畢竟不可得なり、何に況んや是れ菩薩なるべけんや。色不可得なり、何に況んや色と色を離るゝと、色如と色如を離るゝと、是れ菩薩ならんや。乃至老死不可得なり、何に況んや老死と老死を離るゝと、老死如と老死如を離るゝと、是れ菩薩ならんや。』佛須菩提に告げ給はく、（三七）『善い哉善い哉、是の如し須菩提、菩薩摩訶薩衆生不可得の故に、般若波羅蜜も亦不可得なり。當に是の學を作すべし。須菩提の意に於て云何、色是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『須菩提の意に於て云何、色の常是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の常是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『色の無常是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の無常是れ菩薩の義なりや不や』『不と

【三五】色如の相。色を質礙なりとする如き、色たらしむる相。

【三六】衆生畢竟不可得。別法の定んで衆生なるものなし、衆生空なり。

【三七】善哉。衆生空に達するを讃す。

よ世尊』『色の樂是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の樂是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『色の苦是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の苦是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『色の我是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の我是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『色の非我是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の非我是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『須菩提の意に於て云何、色の空是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の空是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『色の非空是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の非空是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『色の相是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の相是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『色の無相是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の無相是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『色の作是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の作是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『色の無作是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊』『受想行識の無作是れ菩薩の義なりや不や』『不とよ世尊、乃至老死も亦是の如し。』佛須菩提に告げ給はく『汝何等の義を觀て色菩薩の義に非ず、受想行識菩薩の義に非ず、乃至色受想行識の無作菩薩の義に非ず、乃至老死も亦是の如しと言ふや。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、色は畢竟不可得なり、何に況んや色是れ菩薩の義ならんや、受想行識も亦是の如し。世尊、色の常畢竟不可得なり、何に況んや色の無常是れ菩薩の義ならんや、乃至識も亦是の如し。世尊、色の樂畢竟不可得なり、何に況んや色

の苦是れ菩薩の義ならんや、乃至識も亦是の如し。世尊、色の我畢竟不可得なり、何に況んや色の非我是れ菩薩の義ならんや、乃至識も亦是の如し。世尊、色の有畢竟不可得なり、何に況んや色の空是れ菩薩の義ならんや、乃至識も亦是の如し。世尊、色の相畢竟不可得なり、何に況んや色の無相是れ菩薩の義ならんや、乃至識も亦是の如し。世尊、色の作畢竟不可得なり、何に況んや色の無作是れ菩薩の義ならんや、乃至識も亦是の如し』と。佛須菩提に告げ給はく、(三八)『善い哉善い哉、是の如し須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、色の義不可得なり、受想行識の義不可得なり、乃至無作の義不可得なるは、當に是の般若波羅蜜を學すと作すべし。

(三九)須菩提、汝言ふ我れ是の法菩薩と名くるを見ずと。須菩提、諸法諸法を見ず、諸法法性を見ず、法性諸法を見ず、法性地種を見ず、地種法性を見ず、乃至識種法性を見ず、法性識種を見ず、法性(四〇)眼色眼識の性を見ず、眼色眼識の性法性を見ず、乃至法性意法意識の性を見ず、意法意識の性法性を見ず。須菩提、有爲性無爲性を見ず、無爲性有爲性を見ず。何を以ての故に、有爲を離れて無爲を説くべからず、無爲を離れて有爲を説くべからざるが故に。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、諸法に於て見る所無し、是の時(四一)驚かず畏れず怖かず、心亦沒せず悔いず。

【三八】須菩提の諸法深空に入りて疑はざるを讃す。
【三九】菩薩の定で菩薩たるべきものなき如く諸法自性なく畢竟空なるを明す。
【四〇】眼色眼識。眼根界と色界と眼識界となり。
【四一】驚かず。菩薩の不畏怖を三説す。第一は五蘊乃至十八不共法の一切法を見ざるを以て驚かず。

何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩色受想行識を見ざるが故に、眼乃至意を見ず、色乃至法を見ず、婬怒癡を見ず、無明乃至老死を見ず、我乃至知者見者を見ず、欲界色界無色界を見ず、聲聞心辟支佛心を見ず、菩薩を見ず、菩薩法を見ず、佛を見ず、(四二)佛法を見ず、(四三)佛道を見ず、是の菩薩一切法を見ざるが故に、驚かず畏れず、怖かず、沒せず、悔いざるなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊何の因緣の故に是の菩薩心沒せず悔いざるや』佛須菩提に告げ給はく、(四四)『菩薩摩訶薩一切の心心數法得べからず見るべからず、是を以ての故に菩薩摩訶薩心沒せず悔いざるなり。』『世尊、云何が菩薩心驚かず畏れず怖かざるや』佛須菩提に告げ給はく、『是の菩薩の(四五)意及び意識得べからず、見るべからず、是を以ての故に驚かず畏れず怖かざるなり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩一切法得べからざるが故に、般若波羅蜜を行ずべし。須菩提、菩薩摩訶薩一切行處に般若波羅蜜を得ず、菩薩を得ず、菩薩の名を得ず、亦菩薩の心を得ず、卽ち是れ菩薩摩訶薩に敎ふるなり。』

【四二】佛法。十力乃至十八不共法等。
【四三】佛道。般若相應の成佛の願行。
【四四】第二に心々所の不可得不可見の故に畏れず。
【四五】第三に心々所の根本たる意意識不可得の故に畏れず。

(一)勸學品第八

(二)爾の時、慧命須菩提佛に白して言さく、「世尊、菩薩摩訶薩檀那波羅蜜を具足せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を具足せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩色を知らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。乃至識を知らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。眼乃至意を知らんと欲し、色乃至法を知らんと欲し、眼識乃至意識を知らんと欲し、眼觸乃至意觸を知らんと欲し、眼觸因緣生の受乃至意觸因緣生の受を知らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。婬瞋癡を斷せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩(三)身見戒取疑婬欲瞋恚(四)色愛無色愛掉慢無明等の諸の(五)結使及び(六)纒を斷せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。(七)四縛四結(八)四顚倒を斷せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。十善道を知らんと欲し、四禪を知らんと欲し、四無量心四無色定四念處乃至十

【一】三乘に廣く般若の學を勸む。大論四十一續き。
【二】知法斷惑得三昧等の般若習學によるを說く。
【三】身見。我々所を執す。戒取は因に非ざるものを因と計す。瞋恚に至る五を五下分結と云ひ見思の惑に通ず。
【四】色愛等。色愛以下の五を五上分結と云ひ、唯思惑にして色無色界に生ずるものとす。
【五】結使。結縛使役の義、煩惱のこと。
【六】纒。纒縛にして煩惱の細相。
【七】四縛四結。貪瞋戒取見取を云ふ。三界を出でず解脫を得ざらしむ。
【八】四顚倒。生滅斷常、又は常

八不共法を知らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩（九）覺意三昧に入らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。六神通九次第定（一〇）超越三昧に入らんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。（一一）師子遊戲三昧を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。（一二）師子奮迅三昧を得んと欲し、一切陀羅尼門を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。菩薩摩訶薩（一三）首楞嚴三昧、寶印三昧、妙月三昧、月幢相三昧、一切法印三昧、觀印三昧、（一四）畢法性三昧、（一五）畢住相三昧、如金剛三昧、入一切法門三昧、三昧王三昧、王印三昧、淨力三昧、高出三昧、畢入一切辯才三昧、入諸法名三昧、觀十方三昧、諸陀羅尼門印三昧、一切法不忘三昧、（一六）攝一切法聚印三昧、虛空住三昧、三分淸淨三昧、不退神通三昧、出鉢三昧、諸三昧幢相三昧を得んと欲し、是の如き等の諸の三昧門を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。復次に世尊、菩薩摩訶薩一切衆生の願を滿せんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。是の如きの善根を具足し、常に惡趣に墮せざるを得んと欲し、卑賤の家に生ぜざるを得んと欲し、聲聞辟支佛地の中に住せざるを得んと欲し、菩薩の（一七）頂に墮せざるを得んと欲せば、當に

樂我淨を執す。
【九】覺意三昧。諸覺亂想を治す。
【一〇】超越三昧。初禪より三禪に超入する類。
【一一】獅子遊戲。獅子畏れなく群獸の間に在るが如し無畏自在なり。
【一二】師子奮迅。威勢熾猛に喩ふ。
【一三】首楞嚴（Sūraṃgama）。健行と譯す。諸三昧は更に第十品に廣說す、梵名は飜譯名義大集第廿一を見よ。
【一四】畢法性。或は法界決定と名く。
【一五】畢住相。或は決定幢相と名く。
【一六】攝一切等。或は一切法等趣海印三昧と名く。
【一七】頂。又位と云ひ不生と云ふ。柔順忍と無生法忍との中間の位なり。頂に墮するを生と云ふ。

般若波羅蜜を學すべし。』

(一八)爾の時慧命舍利弗須菩提に問ふ、『云何が菩薩摩訶薩の頂に墮すると爲すや。』須菩提言く、『舍利弗、若し菩薩摩訶薩(一九)方便を以てせずして六波羅蜜を行じ、空無相無作三昧に入り、聲聞辟支佛地に墮せず、亦菩薩の位に入らず、是を菩薩摩訶薩法愛生ずるが故に、頂に墮すと名く。』舍利弗須菩提に問ふ、『云何が菩薩生と名くるや。』須菩提舍利弗に答へて言く、『生を法愛と名く。』舍利弗言く、『何等か法愛なるや』須菩提言く、『菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、色は是れ空なりとして念著を受く、受想行識是れ空なりとして念著を受く。舍利弗、是を菩薩摩訶薩(二〇)順道法愛生すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩色是れ無相なりとして念著を受く、受想行識是れ無相なりとして念著を受く、色是れ無作なりとして念著を受く、受想行識是れ無作なりとして念著を受く、色是れ寂滅なりとして念著を受く、受想行識是れ寂滅なりとして念著を受く、色是れ無常乃至識(無常)色是れ苦乃至識(苦)色是れ無我乃至識(無我)なりとして念著を受く、是れを菩薩の順道法愛生ずと爲す。是れ苦應に知るべし、集應に斷ずべし、盡應に證すべし、道應に修すべし。是れ垢法、是れ淨法。是れ近くべく、是れ近くべからず。是れ菩薩の所應行、是れ菩薩の所應行に非ず。是れ菩薩道、是れ菩薩道に非ず。是れ菩薩學、是れ菩

【一八】般若に應ぜざる噴頂と法愛とを辨ず。

【一九】度生の方便加行なき六度三解脫は頂に止る。これ菩薩の生にして般若に違ふ。

【二〇】順道法愛。出世間に著するなり。三解脫等人天に對して妙なるもこれに著すべからず。病に藥要あるも過ぐれば害あるが如きを云ふ。

薩學に非ず。是れ菩薩の檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、是れ菩薩の檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜に非ず。是れ菩薩の方便、是れ菩薩の方便に非ず。是れ菩薩の(三一)熟、是れ菩薩の熟に非ず。舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、是の諸法に念著を受く、是を菩薩摩訶薩の順道法愛生ずと爲す。』

(三二)舍利弗須菩提に問ふ、『云何が菩薩摩訶薩不生と名くるや』須菩提言く、『菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、(三三)內空中外空を見ず、外空中內空を見ず、外空中內外空を見ず、內外空中外空を見ず、內外空中空空を見ず、空空中內外空を見ず、空空中大空を見ず、大空中空空を見ず、大空中第一義空を見ず、第一義空中大空を見ず、第一義空中有爲空を見ず、有爲空中第一義空を見ず、有爲空中無爲空を見ず、無爲空中有爲空を見ず、無爲空中畢竟空を見ず、畢竟空中無爲空を見ず、畢竟空中無始空を見ず、無始空中畢竟空を見ず、無始空中散空を見ず、散空中無始空を見ず、散空中性空を見ず、性空中散空を見ず、性空中諸法空を見ず、諸法空中性空を見ず、諸法空中自相空を見ず、自相空中諸法空を見ず、自相空中無所得空を見ず、無所得空中自相空を見ず、無所得空中無法空を見ず、無法空中無所得空を見ず、無法空中有法空を見ず、有法空中無法空を見ず、有法空中無法有法空を見ず、無法有法空中有法空を見ず。舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずれば、菩薩の位に入ることを得。復次に舍利弗、菩

【三一】熟。生と相違し實相に應ずるを云ふ。
【三二】不生即ち法愛念著なき正見を述ぶ。
【三三】內空中外空等。外飮食身に入りて內たり身死して還りて外たりと云ふ如きは內に外を見、外に內を見るものなり。法實に去來なければ內に外を見ず。十八空例して知るべし。

薩摩訶薩般若波羅蜜を學せんと欲せば是の如く學すべし。色受想行識を念せず、眼乃至意を念せず、色乃至法を念せず、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜乃至十八不共法を念せず。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずれば、(二四)是の心念ずべからず高うすべからず、(二五)無等等心念ずべからず高うすべからず、(二六)大心念ずべからず高うすべからざることを得ん。何を以ての故に、是の心心に非ず、心相常に淨きが故に。』舍利弗須菩提に語る、『云何が心相常に清淨なりと名くるや』須菩提言く、『若し菩薩是の心相婬怒癡と合せず離れず、諸纒流縛等の諸々の結使一切の煩惱と合せず離れず、聲聞辟支佛心と合せず離れずと知る。舍利弗、是を菩薩の心相常に淨しと名く。』舍利弗須菩提に語る、『是の(二七)無心相心有りや不や』須菩提舍利弗に報へて言く、『無心相の中心相無心相得べきこと有りや不や』舍利弗言く、『得べからず』須菩提言く、『若し得べからずば、是の無心相心有りや不やを問ふべからず。』舍利弗復問ふ、『何等か是れ無心相なるや』須菩提言く、『諸法壞せず、分別せず、是を無心相と名く。』舍利弗復須菩提に問ふ、『但だ是の心のみ壞せず分別せざるや、色も亦壞せず分別せざるや、乃至佛道も亦壞せず分別せざるや』須菩提言く、『若し能く心相壞せず分別せずと知らば、是の菩薩は亦能く色乃至佛道壞せず分別せずと知らん。』

【二四】是心。菩提心なり成佛を緣ずる初發心。
【二五】無等等心。佛に等しき心。諸法空を知りて深心濟度する行六度の心。
【二六】大心。大悲方便一切に通ずる心。般若に依て菩提心も大心も念著せず自高せず。
【二七】無心相心。心相清淨なるも尙無相心あるべしとの憶想所見なり。

(二八)爾の時慧命舍利弗須菩提を讚じて言く、『善い哉善い哉、汝は眞に是れ(二九)佛子なり、(三〇)佛口より生じ、(三一)法を見るより生じ、法化より生ず、(三二)法分を取り(三三)財分を取らず、法の中(三四)自ら信じ(三五)身に證を得たること佛の所説の如し、無諍三昧を得たる中汝は最第一なること實に(三六)佛の擧ぐる所の如し。須菩提、菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を學すべし。是の中亦當に分別して知るべし。菩薩汝が所説の如く行ずれば、則ち般若波羅蜜を離れず。須菩提、善男子善女人聲聞地を學せんと欲するも、亦當に般若波羅蜜を(三七)聞き持し誦し讀し、正憶念し説の如く行ずべし。辟支佛地を學せんと欲するも、亦當に般若波羅蜜を聞き持し誦し讀し、正憶念し説の如く行ずべし。菩薩地を學せんと欲するも、亦當に般若波羅蜜を聞き持し誦し讀し、正憶念し説の如く行ずべし。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中(三八)廣く三乘を説く、是の中菩薩摩訶薩聲聞辟支佛當に學すべし。』

【二八】須菩提の善解を讃す。
【二九】佛子。佛は般若より生じて般若を説く、故に般若に通ずるは眞の佛子なり。
【三〇】佛口生。婆羅門は梵天の口より生じて第一とする如く、佛化によるものは佛口より生じたる子なり。
【三一】見法。法を見法を知る、又法に化せられて生じたるものなり。
【三二】法分。覺道善分を信解す。
【三三】財分を取。得道せずして佛の供養のみを受くる者、
【三四】自信。四信を得るを云ふ。
【三五】身證。神通滅盡定等を得たるを云ふ。
【三六】中阿含無諍經增一阿含須菩提讃歎參照。
【三七】聞持誦讀。聽聞受持暗誦讀經。
【三八】廣説三乘。本經は二乘を超越せる菩薩般若を説くにあるも三乘等しく無餘涅槃にありとせば、無餘は般若に與へらるゝ故に三乘と云ふべし。

(一)集散品第九

(二)爾の時、慧命須菩提佛に白して言さく、『世尊、我れ (三)覺らざるも、是の菩薩般若波羅蜜を行ずるを得ず、當に誰が爲に般若波羅蜜を說くべきや。世尊、我れ一切諸法の集散を得ず、若し我れ菩薩の爲に字を作り菩薩と言はゞ、或は當に (四)悔い有るべし。世尊、是の (五)字住せず、亦住せざるにあらず。何を以ての故に、是の字所有無きが故に。是を以ての故に、是の字住せず、亦住せざるにあらず。世尊、我れ色の集散乃至識の集散を得ず、若し得べからずば云何が當に名字を作るべき。世尊、是の因緣を以ての故に、是の字住せず、亦住せざるにあらず、何を以ての故に、是の字所有無きが故に。世尊、我れ亦眼の集散乃至意の集散を得ず、若し得べからずば云何が當に名字を作り、是れ菩薩と言ふべきや。世尊、是の眼の名字乃至意の名字住せず、亦住せざるにあらず。何を以ての故に、是の名字所有無きが故に。是を以ての故に、是の字住せず、亦住せざるにあらず。世尊、我れ色の集散乃至法の集散を得ず、若し得べからずば云何が當に名字を作り、是れ菩薩と言ふべきや。世尊、

【一】集散。法愛を除かんが爲に集散なきを說く。緣和して生ずるを集とし緣離れて滅するを散とす。生滅去來不可得なれば集散も不可得なり。

【二】この段集散を得ず住不住にあらざるを說き、菩薩名字及び諸法を破す。

【三】覺らざるも…得ず。般若を行ぜざるも實有の衆生諸法不可得なり。菩薩も般若も不可得なり。智慧を得て實有が假有となるにあらず。

【四】悔。無我中に菩薩と云ひ般若と說く妄語の悔あらん。

【五】字住せず。名字も法中に住す、法空の故に名字も住處なし。

是の色の字乃至法の字も亦住せず亦住せざるにあらず。何を以ての故に、是の字所有無きが故に。是を以ての故に、是の字住せず亦住せざるにあらず。眼識乃至意識、眼觸乃至意觸、眼觸因緣生の受乃至意觸因緣生の受も亦是の如し。世尊、我れ無明の集散を得ず、乃至老死の集散を得ず。世尊、我れ(六)無明盡の集散を得ず、乃至老死盡の集散を得ず。世尊、我れ婬怒癡の集散を得ず、諸の邪見の集散も皆亦是の如し。世尊、我れ六波羅蜜の集散、四念處の集散、乃至八聖道分の集散、空無相無作の集散、四禪四無量心四無色定の集散、(七)念佛念法念僧念戒念捨念天念善念入出息念死の集散を得ず、我れ佛の十力乃至十八不共法の集散を得ず。世尊、若し我れ六波羅蜜乃至十八不共法の集散を得ずば、云何が當に字を作り、是れ菩薩と言ふべきや。世尊、是の字住せず、亦住せざるにあらず。何を以ての故に、是の字所有無きが故に。是を以ての故に、是の字住せず、亦住せざるにあらず。世尊、我れ夢の如き(八)五受陰の集散を得ず、我れ響の如く影の如く燄の如く化の如き五受陰の集散を得ざるも亦上說の如し。世尊、我れ(九)離の集散を得ず、我れ(一〇)寂滅(一一)不生(一二)不滅(一三)不示不垢不淨の集散を得ず。

【六】無明盡等。十二因緣の滅觀に於て無明滅して行滅し乃至生滅して老死滅すと云ふ。

【七】念佛等。九念あり、常の八念に念善を加へたり。十念に念身を缺く。念善は善惡因緣を分別し眞善涅槃を念ず。

【八】五受陰。單に五陰、五蘊又は五衆と云ふ、色受想行識なり。五陰前に說く、今如夢等五喩に就て再說す。

【九】離。離に二あり、身離は家國世事を捨つ、心離は煩惱結使を離る。又二離あり。諸法の名字を離るゝと、自相を離るゝとなり。今の離これなり。

【一〇】寂滅。淳善滅惡と如涅槃寂滅と二あり、今後者なり。

【一一】不生。未來無爲法と一切法實無生と二あり、今後者なり。

【一二】不滅。滅に擇(智緣)滅、非擇滅、無常滅と三あり今無常

世尊、我れ如法性實際法相法位の集散を得ざるも亦上說の如し。我れ諸善不善法の集散を得ず、我れ有爲無爲法有漏無漏法の集散、過去未來現在法の集散、不過去不未來不現在法の集散を得ず。何等か是れ不過去不未來不現在なるや。所謂無爲法なり。世尊、我れ亦無爲法の集散を得ず。世尊、我れ亦佛の集散を得ず。世尊、我れ亦十方如恒河沙等の國土の諸佛及び菩薩聲聞の集散を得ず。世尊、若し我れ諸佛の集散を得ずば、云何が菩薩摩訶薩に般若波羅蜜を敎ふべきや。世尊、是の菩薩の字住せず亦住せざるにあらず。何を以ての故に、是の字所有無きが故に。是を以ての故に、是の字住せず亦住せざるにあらず。世尊、我れ是の(一四)諸法實相の集散を得ず、云何が當に菩薩の與に字を作り、是れ菩薩と言ふべき。世尊、是の諸法の實相の名字住せず、亦住せざるにあらず。何を以ての故に、是の名字所有無きが故に。是を以ての故に、是の名字住せず、亦住せざるにあらず。

(一五)世尊、諸法は(一六)因緣和合にして(一七)假名の施設なり。所謂菩薩、是の名字五陰の中に於て說くべからず、十二處十八界乃至十八不共法の中に說くべからず、和合法の中に於て亦說くべき無し。世尊、譬へば夢の(一八)諸法の中に於て說くべからざるが如く、響影燄化も諸法の中に於て亦說くべから

滅ならざるを云ふ。
【一三】不示。諸觀滅し語道斷じ法の示すべきなし。
【一四】諸法實相の集散。實相不生不滅にして又集散去來の特に云ふべきなし、名字言說の實相とするものは謂ゆる實相にあらず。
【一五】異門相對して菩薩名字の說くべきものなきを示す。
【一六】因緣。六因四緣と云ふは通途の法相による、實は無量の緣なり。
【一七】假名の施設。三假の一なり。第七三假品を見よ。
【一八】諸法。五蘊十二處等にして、夢實にかゝる法なく虛誑のみ。

す。譬へば虚空と名くるも亦法の中に説くべき無きが如し。世尊、地水火風の名も亦法の中に説くべき無きが如く、(二九)戒三昧智慧解脱解脱知見の名も亦法の中に説くべき無し。須陀洹の名乃至阿羅漢辟支佛の名の如きも、亦法の中に説くべき無し、佛名法名の如きも、亦法の中に説くべき無し。所謂若は(三〇)善若は不善、若は常若は無常、若は苦若は樂、若は我若は無我、若は寂滅若は離、若は有若は無と。世尊、我れ是の義を以ての故に(三一)心に悔ゆ。一切諸法集散の相得べからず、云何が菩薩の爲に字を作り、是れ菩薩と言はんや。世尊、是の字住せず、亦住せざるにあらず。何を以ての故に、是の字所有無きが故に。是を以ての故に、是の字住せず亦住せざるにあらず。世尊、若し菩薩摩訶薩是の般若波羅蜜は是の如きの相是の如きの義なりと説くことを作すを聞きて、心沒せず驚かず畏れず怖かずば、當に知るべし是の菩薩必ず(三二)阿鞞跋致性の中に住すと、不住法に住するが故に。

(三三)復次に世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を(三四)行ぜんと欲せば、色の中に住すべからず、受想行識の中に住すべからず、眼耳鼻舌身意の中に住すべからず、色聲香味觸法の中に住すべからず、眼識乃至意識の中に住すべ

【二九】戒三昧等。法身五分なり。定戒の肉眼的粗業も空なり。定慧等の空更に明かなり。

【三〇】諸法法相の實に説くべきなし。

【三一】心悔。善不善等説くべきなくして説くに心釋けず。

【三二】阿鞞跋致性中住。未だ無生法忍を得ず授記されざるも、福慧力に依て心怖畏なく法空を信ずるを云ふ。

【三三】前は謙して不説と云ひて菩薩に般若を説く、今は不住門を以て般若を直説す。

【三四】行般若。般若の名字觀修相應合入習住等を云ふ。又聽聞誦讀書寫正憶念說思惟籌量分別修習より成佛に至るを云ふ。

からず、眼觸乃至意觸の中に住すべからず、眼觸因緣生の受乃至意觸因緣生の受の中に住すべからず、地種水火風種空識種の中に住すべからず、無明乃至老死の中に住すべからず。何を以ての故に、世尊、(三五)色の色相空なり、受想行識の（受想行）識相空なり。世尊、(三六)色空のゆゑに名けて色と爲さず、空を離れて亦色無し、色は卽ち是れ空、空は卽ち是れ色なり。受想行識、識空のゆゑに名けて識と爲さず、空を離れて亦識無し、識は卽ち是れ空、空は卽ち是れ識なり。乃至老死老死の相空なり。世尊、老死空のゆゑに老死と名けず、空を離れて亦老死無し、老死卽ち是れ空、空卽ち是れ老死なり。世尊、是の因緣を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば色の中に住すべからず、乃至老死の中に住すべからず。復次に世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば四念處の中に住すべからず。何を以ての故に、四念處四念處の相空なり、世尊、四念處空のゆゑに四念處と名けず、空を離れて亦四念處無し、四念處卽ち是れ空、空は卽ち是れ四念處なり。乃至十八不共法も亦是の如し。世尊、是の因緣を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、四念處乃至十八不共法の中に住すべからず。復次に世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、檀那波羅蜜の中に住すべからず、尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜の中に住すべからず。何を以ての故に、檀那波羅蜜檀那波羅蜜の相空、乃至般若波羅蜜般若波羅蜜の相空なり。世尊、檀那波羅蜜空のゆゑに檀那

【三五】色相空。可見有對等の色相の實有なるなし。

【三六】色空等。色と名くるも空なれば色とせず空の外に色あるにあらず色體卽空なり。

波羅蜜と名けず、空を離れて亦檀那波羅蜜無し、檀那波羅蜜は卽ち是れ空、空は卽ち是れ檀那波羅蜜なり。乃至般若波羅蜜も亦是の如し。世尊、是の因緣を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、六波羅蜜の中に住すべからず。復次に世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、文字の中に住すべからず、(二七)一字門(二八)二字門是の如き種種の字門の中に住すべからず。何を以ての故に、諸字諸字の相空の故に、亦上說の如し。復次に世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、諸の神通の中に住すべからず。何を以ての故に、諸の神通神通の相空なり、神通空のゆゑに神通と名けず、空を離れて亦神通無し、神通は卽ち是れ空、空は卽ち是れ神通なり。世尊、是の因緣を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、諸の神通の中に住すべからず。

(二九)復次に世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、色是れ無常に住すべからず、受想行識是れ無常に住すべからず。何を以ての故に、無常無常の相空なり。世尊、無常空のゆゑに無常と名けず、空を離れて亦無常無し、無常は卽ち是れ空、空は卽ち是れ無常なり。世尊、是の因緣を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、色是れ無常に住すべからず、受想行識是れ無常に住すべからず、色是れ苦に住すべからず、受想行識是れ苦に住すべからず、色是

【二七】一字門。一字一語ち(血)死(し)の如し。

【二八】二字門。二字一語いし(石)ひと(人)の如し。三字門三字一語を云ふ。

【二九】無常等の聖行、如法性陀羅尼三昧等の中住すべからざるを說く。是等善無記法も生罪の因緣なればなり。

れ無我に住すべからず、受想行識是れ無我に住すべからず、色是れ空に住すべからず、受想行識是れ空に住すべからず、色是れ寂滅に住すべからず、受想行識是れ寂滅に住すべからず、色是れ離に住すべからず、受想行識是れ離に住すべからず、亦上說の如し。復次に世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、如の中に住すべからず。何を以ての故に、如如の相空なり。世尊、如相空のゆゑに如と名けず、空を離れて亦如無し、如は卽ち是れ空、空は卽ち是れ如なり。世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、法性法相法位實際の中に住すべからず。何を以ての故に、實際實際の相空なり。世尊、實際空のゆゑに實際と名けず、空を離れて亦實際無し、實際卽ち是れ空、空卽ち是れ實際なり。復次に世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、一切陀羅尼門の中に住すべからず、一切三昧門の中に住すべからず。何を以ての故に、陀羅尼門陀羅尼門の相空、三昧門三昧門の相空なり。世尊、陀羅尼門三昧門空のゆゑに陀羅尼門三昧門と名けず、空を離れて亦陀羅尼門三昧門無し、陀羅尼門三昧門卽ち是れ空、空卽ち是れ陀羅尼門三昧門なり。世尊、是の因緣を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、乃至陀羅尼三昧門の中に住すべからず。世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲し、方便無きを以ての故に、(三〇)吾我心を以ての故に、色の中に於て住するが如きは、是の菩薩色に(三一)行を作す。(三二)吾我心を以ての

【三〇】吾我心。自我を執す、利他方便力なく我執すれば色には色に著して業を作す。
【三一】行。有我の諸業。
【三二】吾我心を以ての故に。一本我心あるが故に作る。
【三三】受けず。般若を行ずと云ふも世間行にして般若ならず。

故に、受想行識の中に於て住す、是の菩薩識に行を作す。若し菩薩行を作す者は般若波羅蜜を（三三）受けず、亦般若波羅蜜を具足せず、般若波羅蜜を具足せざるが故に、薩婆若を成就することを得る能はず。世尊、是の如く菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲し、方便無きを以ての故に、吾我心を以ての故に、十二入乃至陀羅尼三昧門の中に於て住す。是の菩薩十二入を作し、乃至陀羅尼三昧門に行を作す。若し菩薩行を作す者は般若波羅蜜を受けず、亦般若波羅蜜を具足せず、般若波羅蜜を具足せざるが故に、薩婆若を成就することを得る能はず。何を以ての故に、（三四）色は是れ不受、受想行識は是れ不受、色不受なれば則ち色に非ず、性空の故に、受想行識不受なれば則ち識に非ず、性空の故に、十二入是れ不受、乃至陀羅尼三昧門是れ不受、十二入不受なれば則ち十二入に非ず、乃至陀羅尼三昧門不受なれば卽ち陀羅尼三昧門に非ず、性空の故に。般若波羅蜜も亦不受、般若波羅蜜不受なれば則ち般若波羅蜜に非ず、性空の故に。是の如く菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、諸法の（三五）性空を觀るべし。是の如く觀ずれば心（三六）行處無し、是を菩薩摩訶薩の（三七）不受三昧と名く。廣大の用聲聞辟支佛と共ならず。是の薩婆若の慧も亦不受、內空の故に、外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空自相空諸法空不可得空無法空有法

【三四】色是不受。性常に空の故に色の色とすべきなし。

【三五】性空等。諸法緣起無自性を觀るが爲に見著なく法愛を離る。

【三六】行處。五蘊乃至三昧門は心の行處なり、性空の故に行處なし。

【三七】不受三昧。菩薩の不受三昧は一切法不受にして清淨なり習氣障礙なし。聲聞等は諸法限あり廣大清淨ならず。

空無法有法空の故に。何を以ての故に、是の薩婆若は(三八)相行を以て得べからず、相行垢有るが故に。何等か是れ垢相なりや。色相乃至諸陀羅尼門三昧門の相、是を垢相と名く。是の相若は(三九)受若は修によりて薩婆若を得べき者ならんや。

(四〇)先尼梵志(四一)一切智の中に於て終に信を生ぜず。云何が信と爲すや、般若波羅蜜を信じ、分別解知稱量思惟するに相法を以てせず、無相法を以てせず、是の如く先尼梵志相を取らず、信行の中に住す、(四二)性空の智を用て諸法相の中に入り、色を受けず、受想行識を受けず。何を以ての故に、諸法自相空の故に受くることを得べからず。是れ先尼梵志(四三)內觀の故に是の智慧を得るに非ず、外觀の故に是の智慧を得るに非ず、內外觀の故に此の智慧を得るに非ず、無智慧觀の故に是の智慧を得るにあらず。何を以ての故に、梵志是の(四四)法と智者と知法と知處とを見ざるが故に。此の梵志(四五)內色の中に是の智慧を得るに非ず、內受想行識の中に是の智慧を得るに非ず、外色の中に是の智慧を得るに非ず、外受想行識の中に是の智慧を得るに非ず、內外色の中に是の智慧を得るに非ず、內外受想行識の中に是の

【三八】相行。有相の諸業。これ皆垢障あり。

【三九】受若は修。垢相の受修は見著欲著のみ一切智を得ず。

【四〇】先尼の例を擧げ無相般若を述ぶ。先尼(Senani)又西儞迦(Senaka)に作り、有軍と譯し、六師の一なる删若婆の舅にして佛に歸し諸法本來無我無所得を聞き得道す。

【四一】一切智。六師を指す、六師皆一切智と稱し、弟子の死するもの大小皆生處を說くも佛は小者生處を說き大者に生處を說かず、先尼六師を去りて佛に至り、佛の無相を信ず。

【四二】性空。一本信空に作る。

【四三】內觀等。定相なきが故に、內外等の四處に不可得なり。

【四四】法等。所觀法と能觀智とその合すると、その果との四相なり。

【四五】內色外色等。內色は六根

智慧を得るに非ず、亦色受想行識の中を離れて、是の智慧を得るにあらず、内外空の故に。(四六)先尼梵志此の中に心一切智に於て信解することを得たり。是を以ての故に、梵志諸法の實相を信ず、一切法不可得の故に、是の如く信解し已らば法として受くべき無し、諸法相無く憶念する無きが故に。是の梵志諸法に於て亦得る所無く、取無く(四七)捨無し、取捨得べからざるが故に。是の梵志亦智慧を念ぜず諸法相念無きが故に。

世尊、(四八)是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜と名く、此彼岸(四九)度らざるが故に。是の菩薩色受想行識受けず、一切法受けざるが故に。乃至諸陀羅尼三昧門亦受けず、一切法受けざるが故に。是の菩薩是の中に於て亦(五〇)涅槃を取らず、未だ四念處乃至八聖道分を具足せず、未だ十力乃至十八不共法を具足せざるが故に。何を以ての故に、是の四念處四念處に非ず、乃至十八不共法十八不共法に非ず、是の諸法法に非ず、亦法に非ざるにあらず。是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜と名く、色受けず、乃至十八不共法受けざるがゆゑに。

(五一)復次に世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、應に是の如く

身、外色は五境色聲香味觸等、この内、外、内外、及びそれを離れたる四に求むべからず。

【四六】六師の説を信ぜざりしも、佛の内外空無我を解して佛の一切智を信ずるを得たり。

【四七】捨無し。一切法皆助道力あるが故に、取らざるが故に別に捨つべきなし。

【四八】先尼の所信の如く取捨相を離れて般若たるを示す。

【四九】度らざるが故に波羅蜜と名くるは世間即涅槃々々即世間にして、一相即無相なればなり。

【五〇】不取涅槃。知の故に涅槃に住すべきも利他功德具足せざると大慈本願との故に滅せず。

【五一】不住不受を廣説せるが今般若の體無所有を示す。大論第四十三。

思惟すべし。(五二)何者か是れ般若波羅蜜なる、(五三)何を以ての故に、般若波羅蜜と名くるや、是れ(五四)誰の般若波羅蜜なりや。若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行せば、是の如く念ぜよ、若し(五五)法所有無く不可得なるは是れ般若波羅蜜なり』と。爾の時舍利弗須菩提に問ふ、『何等の法か所有無く不可得なる』と。須菩提言く、『般若波羅蜜是れ法所有無く不可得、禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜、是れ法所有無く不可得なり。内空の故に、外空内外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空自相空諸法空不可得空無法空有法空無法有法空の故に。舍利弗(五六)色法所有無く不可得、受想行識法所有無く不可得なり。内空法所有無く不可得、乃至無法有法空法所有無く不可得なり。舍利弗、四念處法所有無く不可得、乃至十八不共法所有無く不可得なり。舍利弗、諸神通法所有無く不可得、如如法所有無く不可得、法性法相法位法住實際法所有無く不可得なり。舍利弗、佛所有無く不可得、薩婆若法所有無く不可得、一切種智法所有無く不可得なり。内空乃至無法有法空の故に。舍利弗、若し菩薩摩訶薩是の如く思惟し、是の如く觀ずる時、心沒せず悔いず驚かず畏れず怖かず、當に知るべし是の菩薩般若波羅蜜行を離れずと。』舍利弗須菩提に問ふ、『何の因

【五二】何者か。般若の法體を問ふ。これ諸法實相にして有佛無佛湛然常住なり。又これ離邊處中なり二法三法等の分別を離れ不可得なり。

【五三】何を以て　名義を問ふ。諸法實相は一切智慧の第一無上無比無等なるを以て名く。

【五四】誰の般若。世諦には菩薩に屬す

【五五】法所有無く。一切の法一も有とすべきものなし次に列ぬる如し。

【五六】色法所有無く。色中色性を離れ色中色相なし、有とするは虚にして實に有とすべきなし。

縁の故に、當に菩薩般若波羅蜜行を離れずと知るべきや。』須菩提言く、『色色の性を離れ、受想行識識の性を離れ、六波羅蜜六波羅蜜の性を離れ、乃至實際實際の性を離るゝがゆゑに。』舍利弗復須菩提に問ふ、『云何が是れ色の性、云何が是れ受想行識の性、云何が是れ乃至實際の性なりや。』須菩提言く、(五七)『所有無き是れ色の性、所有無き是れ受想行識の性、乃至所有無き是れ實際の性なり。舍利弗、是の因縁を以ての故に、當に知るべし色色の性を離れ、受想行識識の性を離れ、乃至實際實際の性を離るゝことを。舍利弗、色亦色の相を離れ、受想行識亦識の相を離れ、乃至實際亦實際の相を離れ、相亦相を離れ、性亦性を離る。』舍利弗須菩提に問ふ、『菩薩摩訶薩若し是の如く學せば薩婆若を成就するを得るや。』須菩提言く、『是の如し是の如し、舍利弗、若し菩薩摩訶薩是の如く學せば薩婆若を成就するを得ん。何を以ての故に、諸法生せず成就せざるを以ての故に。』舍利弗須菩提に問ふ、『何の因縁の故に、諸法生せず成就せざるや。』須菩提言く、『色の色空是れ色の(五八)生成就得べからず、受想行識の識空是れ識の生成就得べからず、乃至實際の實際空是れ實際の生成就得べからざるが故に。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く學せば漸く薩婆若に近づき、漸く(五九)身清淨心清淨相清淨を得、漸く身清淨心清淨相清淨を得るが故に、是の菩薩染心を生ぜず

【五七】所有無き是れ色の性。自性別有ならざれば色性と云ふも色性とすべきものなき無所有たるが色性なり。

【五八】生成就。有法ならば生あり成就あり、空の故に生なく成就なし。

【五九】身清淨心清淨相清淨。三清淨と云ふ、諸法清淨にして心邪見煩惱を生ぜざるは心清淨なり。心淨の果報として身淨を得。三十二相等その身を莊嚴す、これ相淨なり。

瞋心を生ぜず、癡心を生ぜず、憍慢心を生ぜず、慳貪心を生ぜず、邪見心を生ぜず。是の菩薩染心を生ぜず、乃至邪見心を生ぜざるが故に、(六〇)終に母人の腹中に生ぜずして、常に化生することを得て一佛國より一佛國に至り、衆生を成就し佛國土を淨め、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで、終に諸佛を離れず。舍利弗、菩薩摩訶薩當に是の般若波羅蜜を行ずることを作すべく、當に是の般若波羅蜜を學することを作すべし。』

【六〇】三淨を得、虚誑取相を破し、法性生身を受くる故に胞胎に處らず。

(一)行相品第十

(二)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩(三)方便無くして、般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、若は色を(四)行じて行相と爲し、若は受想行識を行じて行相と爲し、若は色是れ常と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ常と行ずるを行相と爲し、若は色是れ無常と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ無常と行ずるを行相と爲し、若は色是れ樂と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ樂と行ずるを行相と爲し、若は色是れ苦と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ苦と行ずるを行相と爲し、若は色是れ有と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ有と行ずるを行相と爲し、若は色是れ空と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ空と行ずるを行相と爲し、若は色是れ我と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ我と行ずるを行相と爲し、若は色是れ無我と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ無我と行ずるを行相と爲し、若は色是れ離と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ離と行ずるを行相と爲し、若は色是れ寂滅と行ずるを行相と爲し、若は受想行識是れ寂滅と行ずるを行相と爲す。世尊、若し菩薩摩訶薩

【一】麗本相行品と名づく。前品空門、この品無相門を以て諸法を破す。方便なき觀行は皆相に墮するを示す。

【二】諸法の取相皆行相たるを明す。初學に善惡を分別するも無相門よりせば取相修行も患たり、無相相も亦自ら破るべきなり。

【三】無方便。取著すべからざるを取著し愛見に依り善法に著す。無相に廣度を得ず。

【四】行。取相分別受念妄解なり。

方便無くして、四念處を行ずるを行相と爲し、乃至十八不共法を行ずるを行相と爲す。世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時是の念を作す、我れ般若波羅蜜を行ずと、所得有る行亦是れ行相なり。世尊、若し菩薩摩訶薩是の念を作し、能く是の如く行ぜば是れ般若波羅蜜を修行せりとするも、亦是れ行相なり。當に知るべし是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに方便無しと。』須菩提舍利弗に語る、『若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、色に於て受念妄解し、若くは色の受念妄解を色と爲すが故に行を作し、若くは(五)色と爲すが故に行を作して、(六)生老病死憂悲苦惱及び後世の苦を離るゝことを得る能はず。若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時方便無く、眼に於て受念妄解し、乃至意、色乃至法、眼識界乃至意識界、眼觸乃至意觸、眼觸因緣生の受乃至意觸因緣生の受、四念處乃至十八不共法の受念妄解を十八不共法と爲すが故に行を作し、若くは十八不共法と爲すが故に行を作して、是の菩薩生老病死憂悲苦惱及び後世の苦を離るゝことを得る能はず。是の如き菩薩尙聲聞辟支佛地の證を得ること能はず、何に況んや阿耨多羅三藐三菩提を得んや。是の處有ること無し。舍利弗、當に知るべし是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに方便無しと。』舍利弗須菩提に問ふ、『云何が當に知るべき、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに(七)方便有りと。』須菩提舍利弗に語る、『若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲する時、色を(八)行ぜず、受想行

【五】色と爲す。色性實有とす。
【六】生老等。現世の大苦聚なり。
【七】方便有り。取著すべからざるに取著せず、諸法和合無自性とし廣度妨げなきなり。
【八】行ぜず。有と執し取相分別妄解せざるなり。

色受想行識無常を行せず、色受想行識常を行せず、色受想行識相を行せず、色相を行せず、受想行識を行せず、色受想行識無我を行せず、色受想行識我を行せず、色受想行識苦を行せず、色受想行識樂を行せず、色受想行識離を行せず、色受想行識無作を行せず、色受想行識無相を行せず、色受想行識空を行せず、色受想行識寂滅を行せず。何を以ての故に、舍利弗、是れ色空色に非ずと爲す、空を離れて色無く、色を離れて空無し、色は卽ち是れ空、空は卽ち是れ色なり。受想行識空識に非ずと爲す、空を離れて識無く、識を離れて空無く、空は卽ち是れ識、識は卽ち是れ空なり。乃至十八不共法空十八不共法に非ずと爲す、空を離れて十八不共法無く、十八不共法を離れて空無し、空は卽ち是れ十八不共法、十八不共法は卽ち是れ空なり。是の如く舍利弗、當に知るべし是れ菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに方便有りと。是れ菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を行じ、能く阿耨多羅三藐三菩提を得。是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、行亦受けず、不行亦受けず、行不行亦受けず、非行非不行亦受けず、不受亦受けず。』舍利弗須菩提に語る、『菩薩訶摩薩般若波羅蜜を行ずる時、何の因緣の故に受けざるや。』須菩提言く、『是れ般若波羅蜜の自性得べからざるが故に受けず。何を以ての故に、(九)所有性無き是れ般若波羅蜜なればなり。舍利弗、是を以ての故に、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ず、行亦受けず、不行亦受けず、行不行亦受けず、非行非不行亦受けず、不受亦受けず。何を以ての故に一切法性所有無く、(一〇)諸法行に隨

【九】所有性無。前品廣說參照。
【一〇】本品の始に說く如く行相なく取相受著せざるなり。

はず、諸法相を受けざるが故なり。是を菩薩摩訶薩諸法（一一）無所受三昧と名く。廣大の用聲聞辟支佛と共ならず。是の菩薩摩訶薩是の三昧を行じて（一二）離れずば、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得ん』と。

（一三）舍利弗言く、『但だ是の三昧を離れざるのみ菩薩摩訶薩をして疾く阿耨多羅三藐三菩提を得しむるか、更に（一四）諸餘の三昧有りや。』須菩提舍利弗に語つて言く、『更に諸三昧有り、菩薩摩訶薩是の三昧を行し、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得ん。』舍利弗言く、『何等の三昧か菩薩摩訶薩是を行じて疾く阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』須菩提言く、『諸の菩薩摩訶薩、三昧有り首楞嚴と名く、是の三昧を行ぜば菩薩摩訶薩をして疾く阿耨多羅三藐三菩提を得しむ。寶印三昧、師子遊戲三昧、妙月三昧、月幢相三昧、出諸法印三昧、觀頂三昧、畢法性三昧、（一五）畢幢相三昧、金剛三昧、入法印三昧、三昧王安立三昧、王印三昧、放光三昧、力進三昧、出生三昧、必入辯才三昧、（一六）入名字三昧、觀方三昧、陀羅尼印三昧、不忘三昧、攝諸法海印三昧、徧覆虛空三昧、金剛輪三昧、寶斷三昧、能照耀三昧、不求三昧三昧、無處住三昧、無心三昧、淨燈三昧、無邊明三昧、（一七）能作明三昧、普徧明三昧、堅淨諸三昧三昧、無垢明三昧、作樂三昧、電光三昧、無淨三昧、威德

【一一】無所受三昧。前品に說く不受三昧は空に就て云ふ。今の無所受は無相の爲なり。
【一二】不離。大慈悲心を以て常に行じて休息せざるなり。
【一三】諸三昧を廣說す。第八勸學品及び後の摩訶衍品參照。今首楞嚴以下百九三昧あり、名義大集百十八三昧あり。
【一四】諸餘三昧。涅槃一道三三昧なるも、その解脫門に入るに多門あるを云ふ。
【一五】畢幢相。或は決定幢相と云ふ、第八品には畢住相と云へり。
【一六】入名字。或は入增語と云ふ種々別語解說自在なり。
【一七】能作明。或は發光と云ふ。

三昧、離盡三昧、不動三昧、莊嚴三昧、日光三昧、月淨三昧、淨明三昧、(一八)能作明三昧、作行三昧、知相三昧、如金剛三昧、心住三昧、徧照三昧、安立三昧、寶頂三昧、妙法印三昧、法等三昧、立生喜三昧、到法頂三昧、能散三昧、壞諸法處三昧、字等相三昧、離字三昧、斷緣三昧、不壞三昧、無種相三昧、無處行三昧、離暗三昧、無去三昧、不動三昧、度緣三昧、集諸德三昧、住無心三昧、淨妙華三昧、覺意三昧、無量辯三昧、無等等三昧、度諸法三昧、分別諸法三昧、散疑三昧、無住處三昧、一相三昧、生行三昧、一行三昧、不一行三昧、妙行三昧、達一切有底散三昧、入言語三昧、離音聲字語三昧、然炬三昧、淨相三昧、破相三昧、一切種妙足三昧、不喜苦樂三昧、不盡行三昧、(一九)多陀羅尼三昧、取諸邪正三昧、滅憎愛三昧、逆順三昧、淨光三昧、堅固三昧、滿月淨光三昧、大莊嚴三昧、能照一切世三昧、等三昧、無諍行三昧、無住處樂三昧、(二〇)如住定三昧、(二一)壞身三昧、壞語如虛空三昧、離著如虛空不染三昧と名くる有り。舍利弗、是の菩薩摩訶薩是の諸の三昧を行せば、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得ん。復無量阿僧祇三昧門陀羅尼門有り。菩薩摩訶薩是の三昧門陀羅尼門を學せば、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得ん。』慧命須菩提(二二)佛心に隨ひて言く、『當に知るべし諸の菩薩摩訶薩是の三昧を行ずる者は已に過去の諸佛に授記せられ、今現在十方の諸佛も亦是の菩薩に記を授く。(二三)是の菩薩是の諸の三

【一八】能作明。或は所應作、又は發明と云ふ。
【一九】多陀羅尼三昧 (Dhāraṇīmatir nāma Samādhi)。
【二〇】如住定。決定安住眞如。
【二一】壞身。壞身穢惡。
【二二】佛心等。授記は如來の妙用なれば特に佛心に隨ふと云ふ。
【二三】三昧の分別も已入今入當入の執著もなく心清淨なり。

味を見ず、亦是の三昧を念せず、亦我れ當に是の三昧に入るべく、我れ今是の三昧に入り、我已に是の三昧に入れりと念せず、是の菩薩摩訶薩都て分別の念無きなり。』舍利弗須菩提に問ふ、『菩薩摩訶薩此の諸の三昧に住し、已に過去の佛に從つて記を受けたりや。』須菩提報へて言く、(三四)『不とよ舍利弗、何を以ての故に、般若波羅蜜は諸の三昧に異ならず、諸の三昧は般若波羅蜜に異ならず、菩薩は般若波羅蜜及び三昧に異ならず、般若波羅蜜及び三昧は菩薩に異ならず、般若波羅蜜は卽ち是れ三昧、三昧は卽ち是れ般若波羅蜜、菩薩は卽ち是れ般若波羅蜜及び三昧、般若波羅蜜及び三昧は卽ち是れ菩薩なればなり。』舍利弗須菩提に語る、『若し三昧菩薩に異ならず、菩薩三昧に異ならず、三昧は卽ち是れ菩薩、菩薩は卽ち是れ三昧ならば、菩薩云何が一切諸法是れ三昧と知るや。』須菩提言く、『若し菩薩この三昧に入らば、是の時是の念を作さず、我れ是の法を以て是の三昧に入れりと。是の因緣を以ての故に、舍利弗、是の菩薩諸の三昧に於て知らず念せざるなり』と。舍利弗言く、『何を以ての故に、知らず念せざるや。』須菩提言く、『諸の三昧所有無きが故に、是の菩薩知らず念せざるなり。』爾の時佛讚じて言はく、『善い哉善い哉、須菩提、我が汝無諍三昧を行すること第一なりと(三五)說けるが如く、(三六)此の義と相應せり。菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を學すべし。禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜、四念處乃至十八不共法も亦是の如く學す

【三四】三昧と般若と菩薩と三事異ならざる故に授記もなし。
【三五】中阿含四十三無諍經に曰く須菩提族姓子以無諍道於後知法如法と。
【三六】此義。諸法空無所有にして不著のと須菩提の說當れり。

べし。』

（三七）舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩是の如く學するを般若波羅蜜を學すと爲すや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩是の如く學するを般若波羅蜜を學すと爲す、是の法得べからざるが故に。乃至檀那波羅蜜を學す、是の法得べからざるが故に。四念處乃至十八不共法を學す、是の法得べからざるが故に。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を學するも是の法得べからざるや。』佛言はく、『是の菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を學せば是の法得べからず。』舍利弗言さく、『世尊、何等の法か得べからざる。』佛言はく、『我得べからず、乃至知者見者得べからず、（三八）畢竟淨の故に。五陰得べからず、十二入得べからず、十八界得べからず、畢竟淨の故に。無明得べからず、畢竟淨の故に。乃至老死得べからず、畢竟淨の故に。苦諦得べからず、畢竟淨の故に。集滅道諦得べからず、畢竟淨の故に。欲界得べからず、畢竟淨の故に。色界無色界得べからず、畢竟淨の故に。四念處得べからず、畢竟淨の故に。乃至十八不共法得べからず、畢竟淨の故に。六波羅蜜得べからず、畢竟淨の故に。須陀洹得べからず、畢竟淨の故に。斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛得べからず、畢竟淨の故に。菩薩得べからず、畢竟淨の故に。佛得べからず、畢竟淨の故に。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ畢竟

【三七】諸三昧を分別するを以て舍利弗これを得るを學般若と思ふ。故に不可得なるを明かにす。

【三八】畢竟淨。諸法本來空不可得なる、これ畢竟清淨なり。

淨なるや。』佛言はく、(二九)『出でず生ぜず得る無く作す無き、是を畢竟淨と名く。』

(三〇)舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩若し是の如く學するを何等の法を學すと爲すや』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩是の如く諸法を學せば學する所無し。何を以ての故に、舍利弗、諸の法相凡夫所著の如くならざればなり。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、諸法の實相云何が有なるや』佛言はく、『諸法所有無し、是の如く有り、是の如く所有無し、是の事知らざるを名けて無明と爲す。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、何等か所有無く、是の事知らざるを名けて無明と爲すや』佛舍利弗に告げ給はく、『色受想行識所有無し、內空乃至無法有法空の故に。四念處乃至十八不共法所有無し、內空乃至無法有法空の故に。是の中に凡夫(三一)無明力渇愛を以ての故に、妄見分別して是れ無明是れ凡夫と說き、二邊の縛する所と爲る。是の人諸法所有無きを知らず見ずして、憶想分別し、色乃至十八不共法に著す。是の人著するが故に、無所有法に於て識知の見を作す。是れ凡夫知らず見ず。』『何等か知らず見ざる』『色を知らず見ず、乃至十八不共法も亦知らず見ず。是を以ての故に、凡夫數に墮す、(三二)小兒の如し。是の人出でず。』『何に於て出でざる』『欲界を出でず、色界を出でず、無色界を出でず、聲聞辟支佛法の中を出でず。是の人亦信ぜず。』『何等をか信ぜざる』『色空を信ぜず、乃至

【二九】出でず等。因より起るにあらず、これを不出とす。緣より起るにあらず、これを不生とす。不出不生なれば定で生相とすべきものなし。無得無作なり。

【三〇】實相無所有の學たるを說く。學學する所なし。

【三一】無明力渇愛。無所有を知らず、實有とし愛著す。

【三二】小兒等。指月の指を執し、虛誑相を實なりとするに譬ふ。

十八不共法空を信ぜず。是の人住せず。『何等にか住せざる』『檀那波羅蜜に住せず、乃至般若波羅蜜に住せず、阿鞞跋致地に住せず、乃至十八不共法に住せず。〔三三〕是の因緣を以ての故に名けて凡夫と爲す、小兒の如し。亦名けて著者と爲す。』『何等をか著と爲すや。』『色乃至識に著し、眼入乃至意入に著し、眼識界乃至意識界に著し、婬怒癡に著し、諸の邪見に著し、四念處に著し、乃至佛道に著す。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩〔三四〕是の如き學を作すも、亦般若波羅蜜を學せずば薩婆若を得ざるや』佛舍利弗に語り給はく、『菩薩摩訶薩是の如き學を作すも、亦般若波羅蜜を學せざれば薩婆若を得ず。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、何を以ての故に菩薩摩訶薩亦般若波羅蜜を學せざれば薩婆若を得ざるや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩方便無きが故に、想念分別し、般若波羅蜜に著し、禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜乃至十八不共法一切種智に著し、想念分別し著す。是の因緣を以ての故に、菩薩摩訶薩是の如く學するも、亦般若波羅蜜を學せずば薩婆若を得ず。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩是の如く學するも、亦般若波羅蜜を學せずば薩婆若を得ざるや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩摩訶薩是の如く學するも、亦般若波羅蜜を學せずば薩婆若を得ず。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩今云何が般若波羅蜜を學し、薩婆若を得べき。』佛舍利弗に告げ給はく、『若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を學する

【三三】凡夫は不出、不信、不住の者に名く。これ實相を知見せざるなり。

【三四】如是學。凡夫著者の諸法分別するを云ふ。これ般若の學にあらず、轉じて一切智をも得ざるなり。

時、般若波羅蜜を見ず。舍利弗、菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を學せば薩婆若を得、不可得を以ての故に。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が不可得と名くるや』佛言はく、『諸法内空乃至無法有法空の故に。』

卷の第四

(一)幻學品第十一

(二)爾の時、慧命須菩提佛に白して言さく、『世尊。若し人有り、問ひて(三)「幻人般若波羅蜜を(四)學し、薩婆若を得べきや不や、幻人禪那波羅蜜毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜を學し、四念處乃至十八不共法及び一切種智を學し、薩婆若を得るや不や」と言ふに當りて、我れ當に云何が答ふべきか。』佛須菩提に告げ給はく、(五)『我れ還つて汝に問ふ、汝の意に隨て我に答へよ。須菩提、汝の意に於て云何ん、色と幻と異り有りや不や、受想行識と幻と異り有りや不や。』須菩提言さく、『不とよ世尊。』佛言はく、『汝の意に於て云何ん、眼と幻と異り有りや不や、乃至意と幻と異り有りや不や、色乃至法と幻と異り有りや不や、眼界乃至意識界と幻と異り有りや不や、眼觸乃至意觸、眼觸因緣生の受、乃至意觸因緣生の受と幻と異り有りや不や。』須菩提言さく、『不とよ世尊。』『汝の意に於て云何ん、四念處と幻と異り有りや不や、乃至八聖道分と幻と異り有りや不や。』『不と

【一】丹宋元本幻人品と名づく。幻人虛なれば般若を學するも佛とならず、菩薩般若を學せば佛となるは實あればなり、二者別あるべしとの疑を解き善惡知識を辨す。大論第四十四。幻人無作品。

【二】幻と諸法と異らざるを明す。

【三】幻人、幻師の奇術變化に現はるゝ人。

【四】學。幻人心識なければ學行を云ふも學行なし。觀者學行ありとするのみ。

【五】直答せず反問するは須菩提の解空をして徹底せしめんが爲なり。須菩提皆空とするも尙所貴ありて幻人實人區別せんとす、反問してその非を自覺せしむ。

よ世尊。』『汝の意に於て云何ん、空無相無作と幻と異り有りや不や。』『不とよ世尊。』『須菩提、汝の意に於て云何ん、檀波羅蜜と幻と異り有りや不や、乃至十八不共法と幻と異り有りや不や。』『不とよ世尊。』『須菩提、汝の意に於て云何ん、阿耨多羅三藐三菩提と幻と異り有りや不や。』『不とよ世尊。何を以ての故に、色は幻と異ならず、幻は色と異ならず、色は卽ち是れ幻、幻は卽ち是れ色なればなり。世尊、受想行識は幻と異ならず、幻は受想行識と異ならず、識は卽ち是れ幻、幻は卽ち是れ識なればなり。世尊、眼は幻と異ならず、幻は眼と異ならず、眼は卽ち是れ幻、幻は卽ち是れ眼、眼觸因緣生の受、乃至意觸因緣生の受も亦是の如し。世尊、四念處は幻と異ならず、幻は四念處と異ならず、四念處は卽ち是れ幻、幻は卽ち是れ四念處、乃至阿耨多羅三藐三菩提は幻と異ならず、幻は阿耨多羅三藐三菩提と異ならず阿耨多羅三藐三菩提は卽ち是れ幻、幻は卽ち是れ阿耨多羅三藐三菩提なればなり。』

(六)佛、須菩提に告げ給はく、『汝の意に於て云何ん、幻に垢有り、淨有りや不や。』『不とよ世尊。』『須菩提、汝の意に於て云何ん、幻に生有り、滅有りや不や。』『不とよ世尊。』『若し法生せず滅せず、是の法能く般若波羅蜜を學せば、當に薩婆若を得べきや不や。』『不とよ世尊。』『汝の意に於て云何ん、(七)五受陰假名、是れ菩薩なりや不や。』『是の如し世尊。』『汝の意に於て云何ん、五受陰假名に生滅垢淨有りや不や。』『不とよ世尊。』『汝の意に於て云何ん、若し法但だ名字のみ有り、身に非らず、身業に

〔六〕菩薩幻人別なきを說く。
〔七〕五受陰假名。菩薩も五受陰和合に假に名字を與へて菩薩と云ふ幻人に異らず。

非らず、口に非らず、口業に非らず、意に非らず、意業に非らず、生にあらず、滅にあらず、垢にあらず、淨にあらず。是の如きの法、能く般若波羅蜜を學せば、薩婆若を得るや不や。』『不とよ世尊。』『菩薩摩訶薩、若し能く是の如く、般若波羅蜜を學せば、當に薩婆若を得べし、無所得を以ての故なり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩、是の如く般若波羅蜜を學せば、阿耨多羅三藐三菩提を得べし。幻人の學するが如くなるべし。何を以ての故に、世尊、當に知るべし、五陰は即ち是れ幻人、幻人は即ち是れ五陰なればなり。』佛須菩提に告げ給はく、『汝の意に於て云何ん、是の五陰、般若波羅蜜を學せば、當に薩婆若を得べきや不や。』『不とよ世尊。何を以ての故に、是の五陰の性、所有無し、無所有の性も亦得べからざればなり。』佛須菩提に告げ給はく、『汝の意に於て云何ん、如夢の五陰、般若波羅蜜を學せば、當に薩婆若を得べきや不や。』『不とよ世尊。何を以ての故に、夢の性、所有無し、無所有の性も亦得べからざればなり。』『汝の意に於て云何ん、如響、如影、如焔、如化の五陰、般若波羅蜜を學せば、當に薩婆若を得べきや不や。』『不とよ世尊。何を以ての故に、影響焔化の性、所有無し、無所有の性も亦得べからざればなり。六情も亦是の如し。世尊、(八)識は即ち是れ六情、六情は即ち是れ五陰。是の如きの法、皆内空の故に得べからず、乃至無法有法空の故に得べからざるなり。』

【八】識。十二因緣第三の識なり識に緣て名色あり、名に意情、色は眼等五情をなす。識名色六情五陰相離れず、等く無所有なり。

【九】菩薩般若を行ずるものあることなしと聞き疑を生ずるを以て方便を明す。第七三假品怖畏を說く參照。

(九)須菩提佛に白して言さく、『世尊、(一〇)新發大乘意菩薩、般若波羅蜜を說くを聞き、將に(一一)恐怖無かるべきや。』佛須菩提に告げ給はく、『若し新發大乘意菩薩、般若波羅蜜に於て方便無く、亦善知識を得ずんば、是の菩薩或は驚き、或は怖き、或は畏れん。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ(一二)方便なる。菩薩是の方便を行せば、驚かず、畏れず、怖かざるや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩有り、般若波羅蜜を行ずる時、(一三)薩婆若に應ずる心に、色無常相も是れ亦不可得なりと觀じ、受想行識無常相も亦不可得なりと觀ず。須菩提、是を菩薩摩訶薩般若波羅蜜の中の方便を行ずと名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心に、色の苦相も是れ亦不可得なりと觀ず、受想行識も亦是の如し。薩婆若に應ずる心に、色無我の相も是れ亦不可得なりと觀ず、受想行識も亦是の如し。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心に、色の空相も是れ亦不可得なりと觀ず、受想行識も亦是の如し。色無相の相も是れ亦不可得なりと觀ず、受想行識も亦是の如し。色無作の相も是れ亦不可得なりと觀ず、受想行識も亦是の如し。色寂滅の相も是れ亦不可得なりと觀ず、乃至識も亦是の如し。色の離相も是れ亦不可得なりと觀ず、乃至識も亦是の如し。是を菩薩摩訶薩般若波羅蜜の中の方便を行ずと名く。復次に須菩提、菩薩摩訶

【一〇】新發大乘意。新發意と云ふ。菩提心を發すも未だ法空に通ぜざるもの。

【一一】恐怖。內外因緣なきもの恐怖す。內因緣は正念利智慈悲心、外因緣は中國に生れ般若を聞き知識に導かるゝ等。

【一二】方便。內因緣を具し一切種智に相應する心に諸法を觀じて諸法を得ざるを云ふ。

【一三】應薩婆若心。一切智智に相應する心。

薩、般若波羅蜜を行じ、色無常の相も是れ亦不可得なりと觀じ、色苦相、無我相、空相、無相相、無作相、寂滅相、離相も是れ亦不可得なりと觀ず、受想行識も亦是の如し。是の時菩薩是の念を爲す、我れ當に一切衆生の爲めに、是の無常の法を說くも是れ亦不可得なるべく、一切衆生の爲めに苦相を說き、無我相、空相、無相相、無作相、寂滅相、離相を說くも是れ亦不可得なるべしと。是を菩薩摩訶薩の（一四）檀波羅蜜と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、（一五）聲聞辟支佛心を以てせず、色無常を觀ずるも亦不可得なり。聲聞辟支佛心を以てせず、識無常を觀ずるも亦不可得なり。聲聞辟支佛心を以てせず、色苦、無我、空、無相、無作、寂滅、離を觀ずるも亦不可得なり。受想行識も亦是の如し。是を菩薩摩訶薩の（一六）不著の尸羅波羅蜜と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、是の諸法の無常相、乃至離相に於て（一七）忍欲樂する、是を菩薩摩訶薩の羼提波羅蜜と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、薩婆若に應ずる心に、色無常相も亦不可得、乃至離相も亦不可得、受想行識も亦是の如しと觀ずるも、薩婆若に應ずる心に、捨てざる息まざる是を菩薩摩訶薩の毗棃耶波羅蜜と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、聲聞辟支佛意、及び餘の不善心を起さず、是を菩薩摩訶薩の禪那波羅蜜と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波

【一四】檀。布施の中法施大なり。說きて不可得なるに法施の大なるものなり。

【一五】聲聞辟支佛心。利智慧深悲心なき二乘自調の心。

【一六】不著の尸羅。佛意を觀じ大悲を起すを以て諸法に著せざる淨戒となる。

【一七】忍欲樂。安忍し欣欲し願樂し瞋恚せず。

羅蜜を行じ、是の如く思惟す。(一八)色を空ずるを以ての故に、色空ならず、色は卽ち是れ空、空は卽ち是れ色なり。受想行識も亦是の如し。眼を空ずるを以ての故に、眼空ならず、眼は卽ち是れ空、空は卽ち是れ眼なり。乃至意觸因緣生の受も、受を空ずるを以ての故に、受空ならず、受は卽ち是れ空、空は卽ち是れ受なり。四念處を空ずるを以ての故に、四念處空ならず、四念處は卽ち是れ空、空は卽ち是れ四念處なり。乃至十八不共法を空ずるを以ての故に、十八不共法空ならず、十八不共法は卽ち是れ空、空は卽ち是れ十八不共法なり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、驚かず、畏れず、怖かず。』

(一九)須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ菩薩摩訶薩の善知識に守護せらるゝが故に、般若波羅蜜を說くを聞きて、驚かず、畏れず、怖かざるや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩の善知識とは、色の無常亦不可得なるを說き、是の善根を持ち、聲聞辟支佛道に向はしめず、但だ一切智に向はしむ。是を菩薩摩訶薩の善知識と名く。受想行識の無常亦不可得なるを說き、是の善根を持ち、聲聞辟支佛道に向はしめず、但だ一切智に向はしむ。是を菩薩摩訶薩の善知識と名く。須菩提、菩薩摩訶薩、復善知識有り、色苦亦不可得と說き、受想行識苦亦不可得と說き、色無我受想行識無我亦不可得と說き、色空、無相、無作、寂滅、離亦不可得と說き、受想行識空、無相、無作、寂滅、離亦不可得なるを說き、

【一八】色を空ずる。諸緣に歸して空なりと觀る故に空となるにあらず、本來自體空なり。

【一九】善知識守護の緣を說く。

是の善根を持ち、聲聞辟支佛道に向はしめず、但だ一切智に向はしむ。須菩提、是を菩薩摩訶薩の善知識と名く。須菩提、菩薩摩訶薩、復善知識有り、眼の無常、乃至離も亦不可得なるを說き、乃至意觸因緣生の受の無常、乃至離も亦不可得なるを說き、是の善根を持ち、聲聞辟支佛道に向はしめず、但だ一切智に向はしむ。是を菩薩摩訶薩の善知識と名く。須菩提、菩薩摩訶薩、復善知識有り、四念處の法を修するに、乃至離も亦不可得なるを說き、是の善根を持ち、聲聞辟支佛道に向はしめず、但だ一切智に向はしむ。須菩提、是を菩薩摩訶薩の善知識と名く。乃至十八不共法を修し、一切智を修するも亦不可得なるを說き、是の善根を持ち、聲聞辟支佛道に向はしめず、但だ一切智に向はしむ。是を菩薩摩訶薩の善知識と名く。』

〔三〇〕須菩提佛に白して言さく、『云何が菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずるとき、方便無く、惡知識に隨て、是の般若波羅蜜を說くを聞き、驚怖畏するや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩、〔三一〕一切智を離れたる心に、般若波羅蜜を修し、是の般若波羅蜜を得、是の般若波羅蜜、禪那波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜を念じ、〔三二〕皆得、皆念ず。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、薩婆若を離れたる心に、色の內空乃至無法有法空を觀じ、受想行識の內空、乃至無法有法空を觀じ、眼の內空、乃至無法有法空、乃至意觸因緣生の受の內空、乃至無法有法空を觀じ、諸法空に於て、所念有り、所得有り。復次に須菩

【三〇】無方便、惡知識を廣說す。
【三一】一切智を離れたる心。薩婆若に相應せざる心なり。
【三二】皆得皆念。般若等を得たりと所得心あり念著心あり。

提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずるとき薩婆若を離れたる心に、四念處を修し、亦念じ、亦得。乃至十八不共法を修し、亦念じ、亦得。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずるとき、方便無きを以ての故に、是の般若波羅蜜を聞き、驚畏怖す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩、惡知識に隨て、般若波羅蜜を聞き、驚畏怖するや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩の惡知識、般若波羅蜜を離れ、禪那波羅蜜、毗黎耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜を離るゝを敎ふ。須菩提、是を菩薩摩訶薩の惡知識と名く。須菩提、菩薩摩訶薩、復惡知識有り、(三三)魔事を說かず、魔罪を說かず、(三四)是の言を作さず。惡魔、(三五)佛の形像を作し、來りて菩薩に六波羅蜜を離るゝを敎ふ。菩薩に語つて言く、「善男子、般若波羅蜜を修するを用て爲し、禪波羅蜜、毗黎耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀波羅蜜を修するを用て(三六)爲すありや」と。當に知るべし、是れ菩薩摩訶薩の惡知識なり。復次に須菩提、惡魔復佛の形像を作し、菩薩の所に到り、爲めに(三七)聲聞經、若くは(三八)修妬路、乃至(三九)憂波提舍を說き、是の如き經を敎詔し、分別し演說するは、魔事魔罪なりと說くを爲さゞるなり。當に知るべし、是れ菩薩摩訶薩の惡知識なり。復次に須菩提、惡魔、佛の形像を作し、菩薩の所に到り、是の

【三三】魔事。魔は第六天欲界主にして佛賊たり佛行を妨ぐ。
【三四】是の言を作さず。菩薩に六度無用を語るは魔の爲す所の罪惡なりと警告せず。
【三五】佛の形像。惡魔變化して假令ひ佛像をなすもの意。
【三六】爲すありや。無用無益なり。
【三七】聲聞經。小乘經九分十二部四阿含等。
【三八】修妬路。修多羅(Sūtram)契經。十二分の首。
【三九】憂波提舍(Upadeśa)。論議。十二分の終。

語を作す。「善男子、汝眞の菩薩心無し、亦阿惟越致地に非ず、汝亦阿耨多羅三藐三菩提を得る能はず」と、是の如きは魔事魔罪なりと說くを爲さず。當に知るべし。是れ菩薩の惡知識なり。復次に須菩提、惡魔、佛の形像を作し、菩薩の所に到り、菩薩に語つて言く、「善男子、色空にして我無く、我所無し。受想行識空にして我無く、我所無し。眼空にして我無く、我所無し。乃至意觸因緣生の受空にして我無く、我所無し。檀波羅蜜空、乃至般若波羅蜜空、四念處空、乃至十八不共法空なり。(三〇)汝阿耨多羅三藐三菩提を用て爲すありや」と云ひ、是の如きは魔事魔罪なりと說かず、敎へず。當に知るべし、是れ菩薩の惡知識なり。復次に須菩提、惡魔、辟支佛身を作し、菩薩の所に到り、菩薩に語つて言く、「善男子、十方皆空にして、是の中佛無く、菩薩無く、聲聞無し」と、是の如きは魔事魔罪なりと說かず敎へず。當に知るべし、是れ菩薩摩訶薩の惡知識なり。復次に須菩提、惡魔(三一)和尙(三二)阿闍梨の身と作り、菩薩の所に到り、菩薩道を離るゝを敎へ、一切種智を離るゝを敎へ、四念處乃至八聖道分を離るゝを敎へ、檀波羅蜜を離るゝを敎へ、乃至十八不共法を離るゝを敎へ、空無相無作に入るを敎へ、是の言を作す、「善男子、汝是の諸法を修念し、(三三)聲聞證を得よ。阿耨多羅三藐三菩提を用て爲さんや」と云ふ。是の如きは魔事、魔罪なりと說かず敎へず。當に知るべし、是れ菩薩の惡知識なり。復次に須菩提、惡魔父母の

【三〇】空無我なれば菩提を求むる要なしと云ふ。
【三一】和尙(Upadhyāya)。親敎師と譯す。
【三二】阿闍梨(Ācārya)。軌範師と譯す。威儀正行の師なり。
【三三】聲聞證。須陀洹乃至阿羅漢の小乘果なり。

形像を作し、菩薩の所に到り、菩薩に語つて言く、「汝須陀洹果の證の爲の故に、勤めて精進し、乃至阿羅漢果の證の爲の故に、勤めて精進せよ。汝阿耨多羅三藐三菩提を用て爲さんや。阿耨多羅三藐三菩提を求めば、當に無量阿僧祇劫の生死を受け、手を截ち、脚を截ち、諸の苦痛を受くべし」といひ。是の如きは魔事、魔罪なりと說かず、敎へず、當に知るべし、是れ菩薩の惡知識なり。復次に須菩提、惡魔、比丘の形像を作し、菩薩の所に到り、菩薩に語つて言く、「眼の無常は可得の法なり。乃至意の無常も可得の法なり。眼の苦、眼の無我、眼の空、無相、無作、寂滅、離も可得の法なり」と說き、乃至意も亦是の如しとし、有所得の法を用て四念處を說き、乃至有所得の法を用て十八不共法を說く。須菩提、是の如きは魔事、魔罪なりと說かず、敎へざるは、當に知るべし、是れ菩薩の惡知識なり。知り已りて、(三四)當に之を遠離すべし。』

【三四】惡知識は慧命を害し佛寶を奪ふ故に身心遠離せよ。

(一)句義品第十二

(二)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩の句義と爲す。』佛須菩提に告げ給はく、『(三)義有ること無きは、是れ菩薩の句義なり。何を以ての故に、阿耨多羅三藐三菩提(四)義處有る無く、亦(五)我無し。是を以ての故に、句義無きは是れ菩薩の句義なり。須菩提、譬へば鳥虛空を飛んで、跡有る無きが如し。菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、譬へば夢中見る所、處所無きが如し。菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、譬へば幻、實義有る無きが如く、焰の如く、響の如く、影の如く、佛の所化の如く、實義有る無し。菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、譬へば如、法性、法相、法位、實際の(六)義有る無きが如く、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、譬へば幻人の色、義有る無く、幻人の受想行識、義有る無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、幻人の眼、義有る無く、乃至意、義有る無きが如く、須菩提、幻人の色、義有る無く、乃至法、義有る無く、眼觸因緣生の受、乃至意觸因緣生の受、義有る無き

(一) 前品菩薩名字空なるに因て般若を說く。今句義を說き般若を示す。句義とは定義條件なり。
(二) 無義無所有を義とするを說く。
(三) 義あることなき。無有義を麗本無句義に作る。意同じ。無句義の無は法義詞に通ずるも、句義なきを主とす。
(四) 義處有る無く。依止處なし、法空を云ふ。
(五) 我無し。無我無名、得道者なし。
(六) 眞如、法性等の句定れる義なし。

が如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、幻人、內空を行ずるに、義有る無く、乃至無法有法空を行ずるに、義有る無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、幻人、四念處、乃至十八不共法を行ずるに義有る無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀の色、義有る無きが如く、(七)是の色有る無きが故に、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀の受想行識、義有る無きが如く、(八)是の識有る無きが故に、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、佛眼處所無く、乃至意、處所無く、色乃至法、處所無く、眼觸乃至意觸因緣生の受、處所無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、佛の內空、處所無く、乃至無法有法空、處所無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、佛の四念處、處所無く、乃至十八不共法、處所無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、有爲性の中、無爲性の義無く、無爲性の中、有爲性の義無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩

【七】是の色有る無きが故にとは如來の色無有義なるを叙す。文としてはこれを「義あるなきが如く」の前にあるものと見よ。

【八】この句前に例して讀め。

提、不生不滅の義、處所無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、(九)不作、不出、不得、不垢、不淨、處所無きが如く、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。』

(一〇)須菩提佛に白して言さく、『何の法か不生不滅の故に、處所無く、何の法か不作、不出、不得、不垢、不淨の故に、處所無きや。』佛須菩提に告げ給はく、『色不生不滅の故に、處所無く、受想行識不生不滅の故に、處所無く、乃至不垢不淨も亦是の如し。(一一)入界不生不滅の故に、處所無く、乃至不垢不淨も亦是の如し。四念處不生不滅の故に處所無く、乃至不垢不淨も亦是の如し。乃至十八不共法不生不滅の故に、處所無く、乃至不垢不淨も亦是の如し。須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、四念處の(一二)淨義、畢竟不可得なるが如く、須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、四正勤乃至十八不共法の淨義、畢竟不可得なるが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、(一三)淨の中の我不可得の如く、我所有無きが故に、乃至淨の中の知者、見者不可得なり。知者、見者所有無きが故に。須菩提、菩薩摩訶

【九】不作等。空法は因縁の所起作にあらず、因によらず不出なり、不作不出なれば不得なり、空の故に垢淨なし。
【一〇】無義は諸法皆然るを説く。
【一一】入界。十二處十八界なり。
【一二】淨義。四念處等三十七品に著すれば道品も結使なり、第一義よりすれば淨なく不淨なし。道品淨義淨相なし。
【一三】淨中我。我相不可得なるを淨中我と云ふ。知者淨見者淨も意同じ。

薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、譬へば日出づる時、黑闇有る無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、譬へば(一四)劫燒くる時、一切の物無きが如く、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、(一五)佛戒の中破戒無し。須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、佛定中亂心無く、佛慧中愚癡無く、佛解脱中不解脱無く、佛解脱知見中不解脱知見無きが如く、須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。須菩提、譬へば佛光中日月の光現ぜず、佛光中四天王天、三十三天、夜摩天、兜率陀天、化樂天、他化自在天、梵衆天、乃至阿迦尼陀天の光現ぜざるが如く、須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、菩薩の句義の所有無きも亦是の如し。何を以ての故に、是の阿耨多羅三藐三菩提、菩薩、菩薩の句義、是の一切法は皆(一六)合せず、散せず、(一七)色無く、形無く、對無く、一相所謂無相なり。是の如く、須菩提、菩薩摩訶薩、一切法、無礙の相の中に、應に學すべく、亦應に知るべし。』

(一八)須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ一切法、云何が一切法の中に、無礙の相學すべ

【一四】劫燒。世界滅盡の時大火洞然一切を燒盡するを云ふ。

【一五】佛戒。佛は戒堅固なれば一として破するなし。

【一六】合せず。第九集散品參照。

【一七】色無く等。質礙形相々對なしこれ無相なり、故に無礙なり。

【一八】前段の末句を受け、一切法を總擧す。

く、知るべきや。』佛須菩提に告げ給はく、『一切法とは(二九)善法、不善法記法、無記法、(三〇)世間法、出世間法、有漏法、無漏法、有爲法、無爲法、共法、不共法なり。須菩提、是を一切法と名く。菩薩摩訶薩、是の一切法、無礙の相の中に學すべく知るべし。』

(三一)須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか世間の善法と名くるや。』佛須菩提に告げ給はく、『世間の善法とは、父母に孝順し、(三二)沙門婆羅門に供養し、尊長に敬事し、(三三)布施福處、持戒福處、修定福處、勸導福事、(三四)方便生福德、世間の十善道、(三五)九想—脹想、血想、壞想、膿爛想、青想、噉想、散想、骨想、燒想—四禪、四無量心、四無色定、(三六)念佛、念法、念僧、念戒、念捨、念天、念善、(三七)念安般、念身、念死、是を世間の善法と名く。

(二八)何等か不善法なるや。(二九)奪他命、(三〇)不與取、邪婬、妄語、兩舌、惡口、(三一)非時語、貪、瞋、邪見、是の十不善道等、是を不善法と名く。何等か(三二)記法なるや。若は善法、若は不善法、是を記法と名く。何等か無記法なるや。無記の身業、口業、(三三)意業、無記の四大、無記の五陰、十二入、十八界

【二九】善不善無記。これ三性法。無記は善惡に屬せざるもの。

【三〇】世出世。俗と第一義となり。佛敎の眞諦に契ふと契はざるとなり。

【三一】善法を說く。世間善は罪福因果三世應報を信じ世間を捨てゝ涅槃を證せんとす。

【三二】沙門婆羅門。出家求道者を沙門と云ひ、在家學問人を婆羅門と云ふ。

【三三】布施等。初品參照。

【三四】方便生福德。懺悔隨喜請法等空を行じて空に著せず、修する諸善。

【三五】九想。不淨觀なり。東坡九想詩はこれらに基き目を改む。新死、肪脹、血塗、蓬亂、噉食、青瘀、白骨連、骨散、古墳想なり。

【三六】念佛等十念なり。集散品九念あり參照。

【三七】念安般(Ānāpānasmṛti)。入

無記の報、是を無記法と名く。何等をか（三四）世間法と名くるや。世間法とは五陰、十二入、十八界、十善道、四禪、四無量心、四無色定、是を世間法と名く。

（三五）何等をか出世間法と名くるや。（三六）四念處、四正勤、四如意足、五根、五力、七覺分、八聖道分、空解脱門、無相解脱門、無作解脱門、三無漏根―未知欲知根、知根、已知根―三三昧―有覺有觀三昧、無覺有觀三昧、無覺無觀三昧―（三七）明解脱、（三八）念慧、（三九）正憶、（四〇）八背捨―何等か八なるや。（四一）内色相あり、外色を觀る、是れ初背捨。内（四二）色相無く、外色を觀る、是れ二背捨。淨背捨の身によりて證を作す、是れ三背捨。一切の色相を過ぐるが故に、有對の相を滅するが故に、一切異相念せざるが故に、無邊空處に入る、是れ四背捨。一切無邊空處を過ぎて、一切無邊識處に入る、是れ五背捨。一切無邊識處を過ぎて、無所有處に入る、是れ六背捨。一切無所有處を過ぎて、非有想非無想處に入る、是れ七背捨。一切非有想非無想處を過ぎて、滅受想定に入る、是れ八背捨―（四三）九次

出息を念ずる數息觀なり。念身は内身外身内外身念なり。

【二八】不善法を説く。不善とは善に反し因果をも信ぜず。

【二九】奪他命。常に殺生と云ふ。

【三〇】不與取。常に偸盗と云ふ。

【三一】非時語。常に綺語と云ふ。

【三二】記法。善惡性の記別せらるなり。

【三三】無記意業。善惡に屬せざる心、威儀心、工巧心、變化心。

【三四】世間法。五蘊乃至四無色、世人所行にして界繋を脱せず。

【三五】出世間法を説く。

【三六】四念處乃至八聖道分。三十七道品なり。

【三七】明解脱。明は三明。解脱は有爲解脱と無爲解脱。

【三八】念慧。十念十一智。

【三九】正憶。諸法實相に隨つて觀ず、一切善法の本とす。

【四〇】八背捨。新に八解脱と云ふ。

【四一】單に「色に諸色を觀る」とするも可なり。

【四二】色相。色の想の意。

第定なり—何等か九なるや。欲を離れ、惡不善法を離れ、有覺有觀にして（四四）離生喜樂ありて、初禪に入る。諸の覺觀を滅して、內清淨なるが故に、（四五）一心にして覺無く、觀無く、（四六）定生喜樂ありて、第二禪に入る。喜を離るゝが故に、（四七）捨を行じ、身樂を受く、（四八）聖人能く說き、能く（四九）捨念行樂し、第三禪に入る。（五〇）苦樂を斷ずるが故に、先に憂喜を滅するが故に、苦ならず、樂ならず、（五一）捨念淨く、第四禪に入る。一切の色相を過ぐるが故に、有對相を滅するが故に、一切の（五二）異相念せざるが故に、無邊虛空處に入る。一切の無邊虛空處を過ぎて、無邊識處に入る。一切の無邊識處を過ぎて、無所有處に入る。一切の無所有處を過ぎて、非有想非無想處に入る。一切の非有想非無想處を過ぎて、滅受想定に入る—復出世間の法有り。內空、乃至無法有法空、佛の十力、四無所畏、四無礙智、十八不共法、（五三）一切智、是を出世間の法と名く。

（五四）何等をか有漏法と爲す。（五五）五受陰、十二入、十八界、（五六）六種、（五七）六觸、六受、四禪、乃至四無色定、是を有漏法と名く。何等をか無漏法と爲す。四念處、乃至十八不共法、及び一切智、是を無漏法と名く。何等をか有爲

【四三】九次第定。四禪四無色定受想滅定なり。
【四四】離生喜樂。五欲を離れ欲界生ならざる淨念所生の喜樂なり。眞理を樂しむの類なり。
【四五】一心。心一方に定るが故にの意。
【四六】定生喜樂。三昧安住の喜樂なり。美に沒するの類なり。
【四七】捨を行じ。捨に住すの意、憂喜なく心平等にして只德に勵む類なり。
【四八】聖人能說　唯聖者の宣說する所。
【四九】捨念行樂。平等正念にして樂に住す。
【五〇】苦樂。喜樂とするは非なり。
【五一】捨念淨。平等正念清淨究竟せるなり。
【五二】異相念。種々の想の作意。
【五三】列擧せる世出世の諸法註せざるもの初品に出づ參照。

法と為す。若し法の（五八）生、住、滅。欲界、色界、無色界。五陰、乃至意識因縁生の受、四念處、乃至十八不共法、及び一切智、是を有為法と名く。何等をか無為法と為す。（五九）不生、不住、不滅、若は染盡、瞋盡、癡盡、如、不異、法相、法性、法位、實際是を無為法と名く。何等をか（六〇）共法と為す。四禪、四無量心、四無色定、是の如き等、是を共法と名く。何等をか不共法と名くるや。四念處、乃至十八不共法、是を不共法と名く。菩薩摩訶薩、是の（六一）自相空の法の中に於て、著すべからず、動ぜざるが故に。菩薩亦一切法不二の相を知るべし、動ぜざるが故に、是を菩薩の義と名く。』

【五四】漏無漏、為無為、共不共を分別す。
【五五】五受法。五陰、五取陰に同じ。
【五六】六種。地水火風空識の六大。
【五七】六觸。眼觸、耳觸、鼻觸、舌觸、身觸、意觸、六受これに例す。
【五八】生住滅。有為の三相として有為を略説するに用ふる特色なり。
【五九】不生等の三は有為三相に反し無為を略説するものなり。染盡等は三毒滅盡により如等皆異名のみ。
【六〇】共法。凡夫聖者に通じ、生處定處に通ず。
【六一】自相空法。諸法別相を分つも皆縁生にして空なり、無相なり無性なり不動なり不二なり。

(一)金剛品第十三

(二)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、何を以ての故に、名けて(三)摩訶薩と爲すや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩(四)必定衆の中に於て上首と爲る、是の故に摩訶薩と名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか必定衆と爲して、是の菩薩摩訶薩、而も上首と爲るや。』佛須菩提に告げ給はく、『必定衆とは(五)性地人、(六)八人、須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛、(七)初發心の菩薩、乃至阿鞞跋致地までの菩薩なり。須菩提、是を必定衆と爲す。菩薩は上首たり。菩薩摩訶薩、是の中に於て(八)大心を生じ、(九)壞すべからざること金剛の如く、當に必定衆の爲に上首と作るべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ菩薩摩訶薩大心を生じ、壞すべからざること金剛の如きや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩、是の如きの心を生ずべし。我れ當に

【一】品目。丹本元本大論には摩訶薩品に作る摩訶薩を辨じて不動なる金剛の如しとす。大論第四十五卷。

【二】上首大士の大心として十大誓、代受苦願を明す。

【三】摩訶薩。先きに菩薩の義を定む。故に今摩訶薩を定む。これ菩薩たる大心上人なり。

【四】必定衆。麗本必を畢に作る。三聚中の正定聚なり、必ず涅槃に入るべきもの。衆は佛以外の一切賢聖の大衆なり。

【五】性地人。聖人性の中に生れたるもの。四善根位とも云ふ。

【六】八人。見道の位なり、十五心の中忍を主とし八忍ある故に名づく。

【七】初發心。新發大乘意なり。或は無生法忍を得たる者なり。或は凡夫の度生成佛を願ふ者をも稱するに妨げなし。

【八】大心。一切法を知り一切衆生を度せんと欲する心。

【九】不壞。結使煩惱に動亂され破壞されざるなり。

【一〇】大誓莊嚴。弘誓願の鎧を被て莊嚴す。こゝに十大願を列ぬ。今その一なり。

無量生死の中に於て、(一〇)大誓をもつて莊嚴すべし。我れ應に一切所有を捨つべし。我れ應に心を一切衆生に(一一)等うすべし。我れ應に三乘を以て一切衆生を度脱し、無餘涅槃に入らしむべし。我れ一切衆生を度し已りて、乃至一人も(一二)涅槃に入る者有ること無けん。我れ應に一切諸法、不生の相を解すべし。我れ應に純ら薩婆若心を以て、六波羅蜜を行ずべし。我れ當に智慧を學し、一切法を了達すべし。我れ當に諸法(一三)一相智門を了達すべし。我れ當に乃至(一四)無量相智門を了達すべし。須菩提、是を菩薩摩訶薩大心を生じ、壞すべからざること金剛の如しと名く。是の菩薩摩訶薩、是の心中に住せば、諸の必定衆に於て、而も上首と爲る。是の法、所得無きを以ての故に。須菩提、菩薩摩訶薩、應に是の如きの心を生ずべし。(一五)我れ當に十方一切の衆生、若は地獄の衆生、若は畜生の衆生、若は餓鬼の衆生に代つて苦痛を受け、一一の衆生の爲に無量百千億劫、代つて地獄の中の苦を受け、乃ち是の衆生、無餘涅槃に入るに至るべし。是の法を以ての故に、是の衆生の爲に、諸の勤苦を受く。是の衆生、無餘涅槃に入り已つて、然る後自ら善根を種ゑ、無量百千億阿僧祇劫に、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。須菩提、是を菩薩摩訶薩大心を生じ、壞すべからざること金剛の如く、是の心中に住し、必定衆の爲に、上首と作ると爲す。

【一一】等うす。平等に住し憎怨なし。

【一二】衆を度して一人も度せりとせず、功なきも心悔沒せず。

【一三】一相智門。諸法畢竟空無相なり。

【一四】無量相。諸法の二相三相乃至無量の相を云ふ。

【一五】代受苦の願。

(二六)復次に須菩提、菩薩摩訶薩、大快心を生じ、是の(二七)大快心の中に住し、必定衆の爲に上首と作る。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ菩薩摩訶薩の大快心なるや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩、初發意より、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで、(二八)染心、(二九)瞋恚、(三〇)愚癡心を生ぜず、(三一)惱心を生ぜず、(三二)聲聞、辟支佛心を生ぜず。是を菩薩摩訶薩の大快心と名く。是の心中に住し、必定衆の爲に上首と作り、亦是の心有るを念ぜず。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、應に(三三)不動心を生ずべし。』須菩提佛に白して言さく、『云何が不動心と名くるや。』佛言はく、『常に一切種智心を念じ、亦是の心有るを念ぜず。是を菩薩摩訶薩の不動心と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、一切衆生の中に於て、應に利益安樂心を生ずべし。』『云何が利益安樂心と名くるや。』『一切衆生を救濟し、一切衆生を捨てず。是の事あるも、亦是の心有るを念はず。是を菩薩摩訶薩、一切衆生の中に於て、利益安樂心を生ずと名く。是の如く須菩提、是の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、必定衆の中に於て、最も上首たりと爲す。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、應に欲法、喜法、樂法心を生ずべし。』『何等か是れ法なるや。』『所謂、諸法の實相を破らざる、是を名けて法と爲す。』『何等をか欲法、喜法と名

【二六】更に大快心不動心等の諸心を述べて大士たるを明にす
【二七】大快心。牢固心更に大快を加ふ。
【二八】不生染心。二種平等の心を得る故に。
【二九】不生瞋恚。我を破し慈悲心を行ずるが故に。
【三〇】不生愚癡心。諸法緣生にして無自性なりと觀ずるが故に。
【三一】不生惱心。衆生を愛する赤子に過ぐるが故に。
【三二】不生聲聞等。衆生を捨てず佛道を貴ぶが故に。
【三三】不動心。金剛心牢固なるは不動なるも、邪見疑惑等の內緣によりて動搖あり、今この動搖もなきなり。

くるや。』『法を信じ、法を忍び、法を受くる、是を欲法、喜法と名く。』『何等をか樂法と名くるや。』『常に是の法を修行す、是を樂法と名く。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じて、必定衆の中に於て能く上首と爲る。是の法、所得無きを用ての故に。(三四)復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、內空、乃至無法有法空に住し、能く必定衆の爲に上首と作る。是の法、所得無きを用ての故に。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、四念處の中に住し、乃至十八不共法に住し、能く必定衆の爲に上首と作る。是の法、所得無きを用ての故に。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、如金剛三昧乃至離著虛空不染三昧の中に住し、必定衆に住し上首と作る。是の法所得無きを用ての故に。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、是の諸法の中に住し、能く必定衆の爲に上首と作る。是の因緣を以ての故に、名けて摩訶薩と爲す。』

【三四】以下十八空、道品、佛法諸三昧に住して不可得なる故に上首たるを明す。

(一)斷諸見品第十四

(二)爾の時、慧命舍利弗佛に白して言さく、『世尊、我も亦摩訶薩たる所以を說かんと欲す。』佛舍利弗に告げ給はく、『便ち說け』と。舍利弗言さく、(三)『我見、衆生見、壽見、命見、生見、養育見、衆數見、人見、作見、使作見、起見、使起見、受見、使受見、知者見、見者見、(四)斷見、常見、有見、無見、(五)陰見、入見、界見、諦見、因緣見、四念處見、乃至十八不共法見、佛道見、成就衆生見、淨佛國土見、佛見、轉法輪見、是の如き(六)諸見を斷ずる爲の故に、而も爲に(七)法を說く。是を摩訶薩と名く。』須菩提舍利弗に語つて言く、『何の因緣の故に色見是れ(八)見なる、何の因緣の故に、受想行識、乃至轉法輪見、是を名けて見と爲すや。』舍利弗須菩提に語る、『菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、(九)方便無きが故に(一〇)色に於て見を生ず、有所得を用ての故に。

【一】品目丹本大論には斷見とし麗本に樂說とす。佛說に次で舍利弗等衆生利益の爲に說くを以て、樂說と云ふ。舍利弗斷諸見を說く故に又斷諸見品と云ふ。次に須菩提は無上無等心を說く。

【二】舍利弗諸見を斷ずる故に摩訶薩なりと說く。

【三】我見等。我衆生等を實有なりとす我見乃至見者見、菩薩見佛見等は人見なり。

【四】斷常有無見。これ邪見なり。

【五】陰入轉法輪見等。これ法見なり。

【六】諸見。分別すれば無量、合說せば人、法、邪見の三見なり。

【七】說法。有所得轉法輪は妄見とし、無所得に住して說く。

【八】見。麗本には妄見とせり。その意味なるも、文としては色見の見を問ふに在り妄字なきを可とす。

【九】方便無き。色の定相を求め取著する類。

【一〇】色に於て。「色を得て」とするあり意同じ。色法を有所得觀に依て實在物の如く見るなり。

受想行識、乃至轉法輪に於て見を生ず、有所得を以ての故に。是の中の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に、諸見の網を斷ずるが故に、而も爲に法を説く、無所得を以ての故なり。』

(二)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、我れ亦摩訶薩たる所以を説かんと欲す。』佛言はく、『便ち説け。』須菩提言さく、『世尊、是れ阿耨多羅三藐三菩提心、無等等心、(三)不共聲聞辟支佛心あればなり。何を以ての故に、是れ(三)一切智心、無漏繫せざるが故に、是の一切智心、無漏不繫の中にも亦(四)著せず、是の因縁を以ての故に、摩訶薩と名く。』舍利弗須菩提に語る、『何等をか菩薩摩訶薩無等等心、不共聲聞辟支佛心と爲すや。』須菩提言く、『菩薩摩訶薩、初發意より已來、法、生有り、滅有り、增有り、減有り、垢有り、淨有るを見ず。舍利弗、若し法、生無く、滅無く、乃至垢無く、淨無く、是の中聲聞心無く、辟支佛心無く、阿耨多羅三藐三菩提心無く、佛心無し。舍利弗、是を菩薩摩訶薩の無等等心、不共聲聞辟支佛心と名く。』舍利弗須菩提に語る、(五)『須菩提、一切智心、無漏心繫せず、心中にも著せずと説くが如く、須菩提、色にも亦著せず、受想行識にも亦

【二】須菩提無等等心の故に摩訶薩なりと説く。

【三】不共聲聞等。二乘の孤獨解脫心を超越せる菩薩心なり。

【三】一切智心。一切智成就せざるも一切智に相應せる心なり。

【四】著せず。菩薩發心より法の生滅等の定相を見ず、菩薩心佛心の故に貴しとせざることにしてこれ貴き點なり。諸法同じく無漏不繫なるも、凡夫著するが故に有漏繫縛となる。

【五】以下舍利弗の難意は一切智心無漏不繫なるが如く、凡夫人心も亦然れば菩薩自ら高うすべからずと云ふにあり。實相性空に於て佛凡同じく、菩薩不著の故に自ら高うせざるも、凡夫著相の故に自ら卑うするが故に差あり、菩薩を高くして大士とすることゝなる。

著せず、四念處にも亦著せず、乃至十八不共法にも亦著せず、何を以て(三六)但だ是の心にのみ著せずと說くや。』須菩提言く、『是の如し、是の如し。舍利弗、色にも亦著せず、乃至十八不共法にも亦著せざるなり。』舍利弗須菩提に語る、『凡夫人の心も亦無漏不繫なるべし。性空の故に。性空の故に、諸聲聞、辟支佛心、諸佛心も亦無漏不繫なるべし、性空の故に。』須菩提言く、『是の如し、舍利弗。』舍利弗須菩提に言く、『色も亦無漏不繫なるべし、性空の故に。受想行識も亦無漏不繫なるべし、性空の故に。乃至意識因緣生の受も亦無漏不繫なるべし、性空の故に。』須菩提言く、『爾り。』舍利弗言く、『四念處も亦無漏不繫なるべし、性空の故に。乃至十八不共法も亦無漏不繫なるべし、性空の故に。』須菩提言く、『爾り。』舍利弗言ふ所の如く、凡夫人の心も亦無漏不繫なり、性空の故に。乃至十八不共法も亦無漏不繫なり、性空の故に。』舍利弗須菩提に語る、『須菩提說く所の、空無心の故に、是の心に著せずとするが如く、須菩提、色無の故に色に著せず。受想行識、乃至意識因緣生の受無の故に受に著せず。四念處無の故に四念處に著せず。乃至十八不共法無の故に十八不共法に著せざるべし。』須菩提言く、『是の如し舍利弗、色無の故に色に著せず。乃至十八不共法無の故に十八不共法に著せず。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、阿耨多羅三藐三菩提心、無等等心、不共聲聞辟支佛心を以て、是の心有るを念せず、亦是の心に著せず、一切法無所得を用ての故に。是を以ての故に、摩訶薩と名く。』

【三六】難者は但だ是の心にのみと限るも、須菩提の意固より然らず、不著は一切に通ず。

(一)富樓那品第十五

(二)爾の時、(三)富樓那彌多羅尼子佛に白して言さく、『世尊、我も亦摩訶薩たる所以を說かんことを樂ふ。』佛言はく、『便ち說け。』富樓那彌多羅尼子言さく、『是の菩薩(四)大誓莊嚴す。是の菩薩(五)大乘に發趣す。是の菩薩(六)大乘に乘る。是を以ての故に、是の菩薩を摩訶薩と名く。』

(七)舍利弗富樓那に語つて言く、『云何が菩薩摩訶薩の大誓莊嚴と名くるや。』富樓那舍利弗に語る、『菩薩摩訶薩、分別して(八)爾所の人の爲の故に、檀波羅蜜に住し、檀波羅蜜を行はず。一切衆生の爲の故に、檀波羅蜜に住し、檀波羅蜜を行ふ。爾所の人の爲の故に、尸羅波羅蜜に住し、尸羅波羅蜜を行はず。羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪波羅蜜、般若波羅蜜も一切衆生の爲の故に、般若波羅蜜に住し、般若波羅蜜を行ふ。菩薩摩訶薩の大誓莊嚴は、衆生を(九)齊限して、

【一】品目富樓那とは今品及び次品に富樓那摩訶薩義を說くによる。宋本は莊嚴、大論は大莊嚴と云ふ、大誓莊嚴を說く爲なり。麗本は辨才品と云ふ。富樓那の廣辯才を現はせばなり。

【二】富樓那說法の要目を述ぶ。

【三】富樓那等（Pūrṇamaitrāyaṇī putra）。滿慈子と譯す、說法第一と稱せらる。

【四】大誓莊嚴。今品前半廣く說く。大論は悉く大莊嚴と云ひ、誓なし、文義能く適する如し。廣く布施等を行ずるも未だ一空に達せず。

【五】今品後半廣く發趣大乘を說く。大莊嚴更に進みて人空に入る。

【六】次の第十六品に乘大乘を說く。これ人空より法空に進む。

【七】大誓莊嚴は自行化他一切衆生の爲に六度を行ずるものなるを說く。大莊嚴と云ふ方可なり。

【八】爾所の人。某々若干人と云ふに同じ。

【九】齊限。制限なり。

我れ若干人を度すべく、餘人を度せずとせず。我れ若干人をして阿耨多羅三藐三菩提に至らしめ、餘人は至らざらしめんと言はず。是の菩薩摩訶薩は、普く一切衆生の爲の故に大誓莊嚴す。復是の念を作す、我れ當に自ら檀波羅蜜を具足し、亦一切衆生をして檀波羅蜜を行ぜしめ、自ら尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪波羅蜜を具足し、自ら般若波羅蜜を具足し、亦一切衆生をして般若波羅蜜を行ぜしむべし。

(一〇) 復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、檀波羅蜜を行ずる時、有ゆる布施、薩婆若に應ずる心にて、一切衆生と共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。舍利弗、是を菩薩摩訶薩、檀波羅蜜を行ずる時の檀波羅蜜大誓莊嚴と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、檀波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて布施し、聲聞辟支佛地に向はず。舍利弗、是を菩薩摩訶薩、檀波羅蜜を行ずる時の尸羅波羅蜜大誓莊嚴と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、檀波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて布施し、是の諸の施法に於て、信忍欲(樂)する、是を檀波羅蜜を行ずる時の羼提波羅蜜大誓莊嚴と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、檀波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて布施し、勤修して息まず。是を檀波羅蜜を行ずる時の毗梨耶波羅蜜大誓莊嚴と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、檀波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて布施し、心を攝して聲聞辟支佛意を起さず。是を檀波羅蜜を行ずる時の禪波羅蜜大

【一〇】六度各々に六度相應大莊嚴を説く。二乘布施等六事を行ずるも有量有限、自度及び他有緣を度するのみ故に大莊嚴と云はず。一に布施。

誓莊嚴と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩・檀波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて布施し、諸法を觀ずる幻の如く、施者を得ず、所施物を得ず、受者を得ず、是を檀波羅蜜を行ずる時の般若波羅蜜大誓莊嚴と名く。是の如く舍利弗、若し菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心にて、諸の波羅蜜の相を取らず得ずば、當に知るべし、是れ菩薩摩訶薩の大誓莊嚴なりと。【二】復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて布施し、一切衆生と共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是を菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時の檀波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時、是の諸法に於て信忍欲する、是を菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時の羼提波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時、勤修して息まず。是を菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時の毗梨耶波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時、聲聞辟支佛心を受けず。是を菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時の禪波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時、一切法を觀ずる幻の如く、亦是の戒有るを念せず、無所得を用ての故に。是を菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時の般若波羅蜜と名く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜を行ずる時、諸波羅蜜を攝す。是を以ての故に大誓莊嚴と名く。【三】復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて布施し、一切衆生と共に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是を菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を

【二】二に行戒。
【三】三に忍辱。

行ずる時の檀波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を行ずる時、聲聞辟支佛の心を受けず、但だ薩婆若心のみを受く。是を菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を行ずる時の尸羅波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、身心精進にして、休せず、息せず。是を菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を行ずる時の毘梨耶波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を行ずる時、心を一處に攝し苦事有りと雖、心散亂せず。是を菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を行ずる時の禪波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、諸法を空と觀じ、作者も無く、受者も無し、若し(三)呵罵割截する者有るも、心、幻の如く、夢の如し。是を菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜を行ずる時の般若波羅蜜と名く。(四)復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて布施し、身心をして懈怠せしめず。是を菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時の檀波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、始終具足し清淨に持戒す。是を菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時の尸羅波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて忍辱を修行す。是を菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時の羼提波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、心を攝し、欲を離れて、諸の禪定に入る。是を菩

【三】呵罵割截。呵責し罵辱し、肉體を斷截す。

【四】四に精進。

薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時の禪波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、一切諸法の相を取らず、相を取らざるに於ても亦著せず。是を菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時の般若波羅蜜と名く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩、毘梨耶波羅蜜を行ずる時、諸波羅蜜を攝す。〔一五〕復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、定心に布施し、心をして亂れしめず。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の檀波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて持戒し、禪定力の故に破戒の諸法入るを得しめず。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の尸羅波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、慈悲定の故に諸の惱害を忍ぶ。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の羼提波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、禪に於て味せず著せず、常に增進を求め、一禪より一禪に至る。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の毘梨耶波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、一切法に於て依止する所無く、亦禪に隨て生ぜず。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の般若波羅蜜と名く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時、諸波羅蜜を攝す。〔一六〕復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて布施し、內外の所有愛惜する所無く、與者受者及び財物を見ず。是を菩薩摩

〔一五〕五に禪定。
〔一六〕六に般若。

訶薩、般若波羅蜜を行ずる時の檀波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、持戒、破戒二事見ざるが故に、是を菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時の尸羅波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、訶者、罵者、打者、殺者を見ず。亦是の空を用て、能く忍辱するを見ず。是を菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時の羼提波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて、諸法畢竟空を觀じ、大悲心を以ての故に諸の善法を行ず。是を菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時の毗黎耶波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、薩婆若に應ずる心にて禪定に入り、諸禪の離相、空相、無相相、無作相を觀ず。是を菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時の禪波羅蜜と名く。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、諸波羅蜜を攝す。(一七)舍利弗、是の如きを名けて菩薩摩訶薩の大誓莊嚴と爲す。是の大誓莊嚴の菩薩をば、十方の諸佛歡喜し、大衆の中に於て稱名讃歎すらく、「某の國土、某の菩薩摩訶薩、大誓莊嚴し、衆生を成就し、佛國土を淨む」と。』

(一八)慧命舍利弗富樓那彌多羅尼子に問ふ、『云何が菩薩摩訶薩、大乘に發趣するや。』富樓那舍利弗に語る、『菩薩摩訶薩、六波羅蜜を行ずる時、(一九)諸の欲を離れ、諸の惡

【一七】六度大莊嚴を結びて諸佛の讃歎を明す。

【一八】發趣大乘を辨ず。大莊嚴更に進みて吾我相なきに至る、未だ法空を成ぜず。第一に禪、慈無量心に就て六度を說く。

【一九】先づ禪を說くは禪を行じ慈無量なるとき、大莊嚴破ることなければなり。

不善法を離れ、有覺有觀にして、離生喜樂ありて、初禪に入り乃至第四禪の中に入る。慈廣大無二無量なるを以て、(二〇)無怨無恨、(二一)無惱の心行、一方二三四方、四維上下に徧滿し一切世間に徧ず。悲喜捨心も亦是の如し。是の菩薩禪に入る時、(二二)起つ時、諸禪無量心及び(二三)枝、一切衆生と共に薩婆若に廻向す。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜に於て大乘に發趣すと名く。是の菩薩摩訶薩、禪無量心に住し、是の念を作す。「我れ當に一切種智を得べし、一切衆生の煩惱を斷ずる爲の故に當に法を說くべし」。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の檀波羅蜜と名く。若し菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心にて、初禪を修し、初禪に住す、二三四禪も亦是の如し。餘心、所謂聲聞辟支佛心を受けず。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の尸羅波羅蜜と名く。若し菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心にて、諸禪に入り、是の念を作す。「我れ一切衆生の煩惱を斷ずる爲の故に當に法を說くべし、此の諸心に欲樂忍す。」是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の羼提波羅蜜と名く。若し菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心にて、諸禪に入り、諸善根皆薩婆若に廻向し、勤修して息まず。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の毗黎耶波羅蜜と名く。若し菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心にて、四禪及び枝に入り、無常相、苦相、無我相、空相、無相相、無作相を觀じ、一切衆生と共に、薩婆若に廻向す。是を菩薩摩訶薩、禪波羅蜜を行ずる時の般若波羅蜜と名く。舍利

【二〇】無怨無恨。一切衆生の苦を拔くにあれば怨憎する所なく、皆愛子たり。
【二一】無惱の心行。衆生を惱害せざる慈心の作用。
【二二】起つ時。禪より出るなり。
【二三】枝。支分。派生せる諸定心。

弗、是を菩薩摩訶薩、大乘に發趣すと名く。

(三四)復次に、菩薩摩訶薩、大乘に發趣し、慈心を行ひ、是の念を作す、「我れ當に一切衆生を安樂にすべし。悲心に入り、我れ當に一切衆生を救濟すべし。喜心に入り、我れ當に一切衆生を度すべし。捨心に入り、我れ當に一切衆生をして(三五)諸漏盡を得しむべし」と。是を菩薩摩訶薩、無量心を行ずる時の檀波羅蜜と名く。復次に菩薩摩訶薩、是の諸禪無量心、聲聞辟支佛地に向はず、但だ薩婆若に廻向す。是を菩薩摩訶薩、無量心を行ずる時の尸羅波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、四無量心を行じ、聲聞辟支佛地に貪せず、但だ薩婆若に忍樂欲す。是を菩薩摩訶薩、無量心を行ずる時の羼提波羅蜜と名く。若し菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心にて、四無量心を行じ、但だ清淨行を行ず。是を菩薩摩訶薩、無量心を行ずる時の毗梨耶波羅蜜と名く。復次に菩薩摩訶薩、禪に入り無量心に入る時、亦禪に隨て無量心生せず。是を菩薩摩訶薩、無量心を行ずる時の方便般若波羅蜜と名く。舍利弗、是を菩薩摩訶薩大乘に發趣すと名く。(三六)復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、大乘に發趣し、(三七)一切種四念處を修し、乃至一切種八聖道分を修し、一切種三解脫門、乃至十八不共法を修す。是を菩薩摩訶薩大乘に發趣すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、內空の中の智慧、無所得を用ての

【三四】第二に無量心と六度とを辨ず、二者和合して發趣大乘たるを得ればなり。

【三五】諸漏盡。一切の漏煩惱滅盡。

【三六】第三に種々の發趣大乘相を說き、人空無所得の進むを示す。

【三七】一切種等。信行のものは無常苦を觀じ、法行のものは空無我を觀ずるも菩薩は一切を度せんとするを以てこれらの一切を修學す。

故に。乃至無法有法空の中の智慧、無所得を用ての故に。是を菩薩摩訶薩大乘に發趣すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、一切法の中に、亂ならず、定ならざるの智慧、是を菩薩摩訶薩大乘に發趣すと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、大乘に發趣す。常に非らず、無常に非らざるの智慧、樂に非らず、苦に非らず、實に非らず、虚に非らず、我に非らず、無我に非らざるの智慧、是を菩薩摩訶薩、大乘に發趣すと名く、無所得を用ての故に。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩の智、過去世に行せず、未來世に行せず、現在世に行せず、亦三世を知らざるに非ず。是を菩薩摩訶薩大乘に發趣すと名く、無所得を用ての故に。復次に、菩薩摩訶薩大乘智に發趣す、欲界に行せず、色界に行せず、無色界に行せず、亦欲界、色界、無色界を知らざるに非らず、無所得を用ての故に。舍利弗、是を菩薩摩訶薩大乘に發趣すと名く。復次に、菩薩摩訶薩大乘智に發趣す。世間法を行せず、出世間法を行せず、有爲法を行せず、無爲法を行せず、有漏法を行せず、無漏法を行せず、亦世間法、出世間法、有爲無爲、有漏無漏法を知らざるに非らず、無所得を用ての故に。舍利弗、是を菩薩摩訶薩大乘に發趣すと名く。』

(一)乘大乘品第十六

(二)爾の時、慧命舍利弗富樓那に問ふ、『云何が菩薩摩訶薩、大乘に乘ずと名くるや。』富樓那舍利弗に答へて言く、『菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、檀波羅蜜に乘ずるも、亦檀波羅蜜を得ず、亦菩薩を得ず、亦受者を得ず、(三)是の法無所得を用ての故に、是を菩薩摩訶薩檀波羅蜜に乘ずと名く。菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘黎耶波羅蜜、禪波羅蜜に乘じ、般若波羅蜜に乘ずるも、亦般若波羅蜜を得ず、亦菩薩を得ず、是の法無所得を用ての故に、是を菩薩摩訶薩、般若波羅蜜に乘ずと爲す。是の如く舍利弗、是を菩薩摩訶薩大乘に乘ずと爲す。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、(四)摩訶衍の一心薩婆若に應じ、四念處を修す、法壞するが故に。乃至一心薩婆若に應じ、十八不共法を修す、法壞するが故に、是れ亦得べからず。是の如く舍利弗、是を菩薩摩訶薩大乘に乘ずと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、是の念を作す。「菩薩但だ名字のみ有り、衆生得べからざるが故に」。是を菩薩摩訶薩大乘に乘ずと名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、是の念を作す。「色但だ名字のみ有り、色得べからざるが故に。受想行識但だ名字のみ有

〔一〕品目麗本、大論等乘乘に作る、意は同じ。富樓那三事を以て摩訶薩を説く。今第三の乘大乘を分別す。これ二空を成ずるなり。大論第四十六卷

〔二〕六度等一切不可得なりと觀るが大乘に乘ずる意なるを説く。

〔三〕是の法。前品智の無所得を云ひ、今法空の故に法の無所得を説く。

〔四〕摩訶衍(Mahāyāna)。大乘と譯す。

り、識得べからざるが故に。眼但だ名字のみ有り、眼得べからざるが故に。乃至意も亦是の如し。四念處但だ名字のみ有り、四念處得べからざるが故に。乃至八聖道分但だ名字のみ有り、八聖道分得べからざるが故に。内空但だ名字のみ有り、内空得べからざるが故に。乃至無法有法空但だ名字のみ有り、無法有法空得べからざるが故に。乃至十八不共法但だ名字のみ有り、十八不共法得べからざるが故に。諸法如但だ名字のみ有り、如得べからざるが故に。法相、法性、法位、實際も但だ名字のみ有り、實際得べからざるが故に。阿耨多羅三藐三菩提、及び佛但だ名字のみ有り、佛得べからざるが故に」。是の如く舍利弗、是を菩薩摩訶薩大乘に乘ずと名く。

【五】菩薩大乘を辨す。

(五)復次に舍利弗、菩薩摩訶薩、初發意より已來、菩薩の神通を具足し、衆生を成就し、一佛國より一佛國に至り、諸佛を恭敬し供養し、尊重し讃歎し、諸佛より法敎を聽受す、所謂菩薩の大乘なり。是の菩薩此の大乘に乘じ、一佛國より一佛國に至り、佛國土を淨め、衆生を成就す。初めより佛國の想無く、亦衆生の想無し。此の人不二法の中に住し、衆生の爲めに身を受け、其の所應に隨て、自ら其形を變じて之を敎化す。乃至一切智まで終に菩薩乘を離れず。是を菩薩乘と名く。是の乘、一切種智を得已りて法輪を轉ず。聲聞辟支佛及び天龍、鬼神、阿修羅、世間人民の轉ずる能はざる所なり。爾の時、十方如恒河沙等の諸佛、皆歡喜し、稱名し、讃歎し、是の言を作し給ふ。『某の方、某の國、某の菩薩摩訶薩、大乘に乘じ一切種智を得、

法輪を轉ず」と。舍利弗、是を菩薩摩訶薩大乘に乘ずと名く。」

卷の第五

(一)莊嚴品第十七

(二)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩の大莊嚴、何等か是れ大莊嚴、何等か菩薩能く大莊嚴するや。』佛須菩提に語り給はく、『菩薩摩訶薩、摩訶衍をもて大莊嚴とす。所謂檀那波羅蜜、乃至般若波羅蜜を莊嚴とし、四念處を莊嚴とし、乃至八聖道分、內空を莊嚴とし、乃至無法有法空、十力乃至十八不共法、及び一切種智を莊嚴とす。(三)身を變ずる、佛の莊嚴の如く、光明遍く三千大千國土を照し、亦東方如恒河沙等の國土を照す。南西北方、四維上下も亦復是の如し。三千大千國土、六種に震動す。亦東方如恒河沙等の諸の國土を動かす。南西北方、四維上下も亦復是の如し。是の菩薩摩訶薩、檀那波羅蜜摩訶衍大莊嚴に住すれば、是の三千大千國土を變じて(四)瑠璃と爲し、(五)化して轉輪聖王と作り、食を須てば食を與へ、飲を須てば飲を與へ、衣服、臥具、華香瓔珞、(六)擣香、(七)澤香、房舍、燈燭、醫藥、種種須つ所盡く之を給與し、與へ已りて爲に法を說く。所謂六波羅蜜に應ず。衆生是の法を聞く者、終

【一】品目大論に無縛無脫品に作る。先きに富樓那大莊嚴等を說くも、須菩提佛に決定を求むるため、此品に於て佛大莊嚴を說く。
【二】布施大莊嚴を說く。
【三】身を變ずる等。出家して度生の爲に佛身を化作す。
【四】瑠璃と爲し。國土映徹せる妙瑠璃たらしむ。
【五】化して轉輪等。在家に聖王となり、七寶車に乘じ光を放ち寶物を雨らす。
【六】擣香。乾餅香料。
【七】澤香。香水。

に六波羅蜜を離れず、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至る。是の如く須菩提、是を菩薩の摩訶薩摩訶衍大莊嚴と名く。須菩提、譬へば工なる幻師、若は幻師の弟子の(八)四衢道中に於て、大衆を化作し、(九)前に於て、食を須てば食を與へ、飲を須てば飲を與へ、乃至種種の須つ所、盡く之を給與するが如し。須菩提の意に於て云何、是の幻師、實に衆生有りて與ふる所有りや不や。』須菩提言さく、『不とよ世尊。』『須菩提、菩薩摩訶薩も亦是の如く、轉輪聖王を化作し、種種具足す。食を須てば食を與へ、飲を須てば飲を與へ、乃至種種須つ所盡く之を給與す。施す所有りと雖、實に與ふる所無し。何を以ての故に、須菩提、諸法相幻の如きが故に。

(一〇)復次に須菩提、菩薩摩訶薩、尸羅波羅蜜に住し、現に轉輪聖王の家に生じ、十善道を以て衆生を教化す。四禪、四無量心、四無色定、四念處、乃至十八不共法を以て、衆生を教化する有り。是の法を聞く者は、阿耨多羅三藐三菩提に至るまで、終に是の法を離れず。譬へば幻師、若は幻師の弟子の四衢道中に於て、大衆を化作し、十善道を以て教化して行はしめ、又四禪、四無量心、四無色定、四念處、乃至十八不共法を以て教化して行はしむるが如し。須菩提、汝の意に於て云何、是の幻師、實に衆生有て教へて十善道を行ひ、乃至十八不共法を行はしむるや不や。』須菩提言さく、『不とよ世尊。』『須菩提、菩薩摩訶薩も亦是の如く、十善道を以て衆生を教化して行はしめ、乃至十八不共法を

【八】四衢。四つ辻。
【九】前に於て。現前にの意。
【一〇】戒等五度の大莊嚴を説く。

（行はしむ）。實に衆生十善道、乃至十八不共法を行ふこと無し。何を以ての故に、諸法の相幻の如きが故に。須菩提、是を菩薩摩訶薩の大莊嚴と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜に住し、衆生を敎へて羼提波羅蜜を行はしむ。須菩提、云何が菩薩摩訶薩、羼提波羅蜜に住し、衆生を敎へて羼提波羅蜜を行はしむるや。須菩提、菩薩摩訶薩、初發意より以來、是の如き大莊嚴あり、若し一切衆生來りて罵詈し、刀杖をもて傷害するも、菩薩摩訶薩、此の中に於て（一）一念を起さず、亦一切衆生を敎へて此の忍辱を行はしむ。譬へば幻師、若は幻師の弟子の四衢道中に於て、大衆を化作し、忍辱を行はしむるが如し。餘は上說の如し。須菩提、是を菩薩摩訶薩の大莊嚴と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、毗梨耶波羅蜜に住し、一切衆生を敎へて、毗梨耶波羅蜜を行はしむ。須菩提、云何が菩薩摩訶薩、毗梨耶波羅蜜に住し、一切衆生を敎へて、毗梨耶波羅蜜を行はしむるや。須菩提、菩薩摩訶薩、薩婆若に應する心に、身心精進にして衆生を敎化す。譬へば幻師、若は幻師の弟子の四衢道中に於て、大衆を化作し、敎へて身心精進を行はしむるが如し。餘は上說の如し。是を菩薩摩訶薩の大莊嚴と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、禪那波羅蜜に住し、一切衆生を敎へて、禪那波羅蜜を行はしむ。須菩提、云何が菩薩摩訶薩、禪那波羅蜜に住し、一切衆生を敎へて、禪那波羅蜜を行はしむるや。須菩提、菩薩摩訶薩、諸法（二）等の中に住し、法の若は亂、若は定を見ず。是の如く須菩

【一】一念を起さず。罵者、罵事を怨む等の念。

【二】等の中。諸法無性にして平等の中なり。

提、菩薩摩訶薩、禪那波羅蜜に住し、一切衆生を敎へて、禪那波羅蜜を行はしむ。乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで、終に禪那波羅蜜を離れず。譬へば工なる幻師、若は幻師の弟子の四衢道中に於て大衆を化作し、敎へて禪那波羅蜜を行はしむるが如し。餘は上說の如し。須菩提、是を菩薩摩訶薩の大莊嚴と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜に住し、一切衆生を敎へて、般若波羅蜜を行はしむ。須菩提、云何が菩薩摩訶薩、般若波羅蜜に住し、一切衆生を敎へて、般若波羅蜜を行はしむるや。須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、法の(一三)此岸、彼岸を得る有る無し。是の如く菩薩摩訶薩、般若波羅蜜の中に住し、一切衆生を敎へて、般若波羅蜜を行はしむ。譬へば工なる幻師、若は幻師の弟子の四衢道中に於て、大衆を化作し、敎へて般若波羅蜜を行はしむるが如し。須菩提、是を菩薩摩訶薩の大莊嚴と名く。

(一四)復次に、須菩提、菩薩摩訶薩の大莊嚴は、十方如恒河沙等の國土の中の衆生、其の(一五)所應に隨て、自ら其の身を變じ、檀那波羅蜜、乃至般若波羅蜜に住し、亦衆生を敎へて、檀那波羅蜜、乃至般若波羅蜜を行はしむ。是の衆生是の法を行ひ、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで、終に是の法を離れず。須菩提、譬へば工なる幻師、若は幻師の弟子の四衢道中に於て、大衆を化作し、敎へて六波羅蜜を行はしむるが如し。餘は上說の如し。是の如く須菩提、是を菩薩摩訶薩の大莊嚴と名く。

【一三】此岸彼岸。迷と悟。
【一四】十方衆生通じて六度を行ふを明す。
【一五】所應。相當の場合。

(二六)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の大莊嚴は、薩婆若に應ずる心にて、是の念を生ぜず。我れ若干人に敎へて、檀那波羅蜜に住せしめ、若干人に敎へて檀那波羅蜜に住せしめずと。乃至般若波羅蜜も亦是の如し。是の念を生ぜず。我れ若干人に敎へて、四念處に住せしめ、若干人に敎へて、四念處に住せしめずと。乃至十八不共法も亦是の如し。亦是の念を生ぜず。我れ若干人に敎へて、須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果、辟支佛道、一切種智を得しめ、亦若干人に敎へて、須陀洹果乃至一切種智を得しめずと。是の念を生ず。我れ當に無量無邊阿僧祇の衆生をして、檀那波羅蜜、乃至般若波羅蜜に住せしめ、衆生をして四念處、乃至十八不共法に立たしめ、無量無邊阿僧祇の衆生をして、須陀洹果乃至一切種智を得しむべしと。譬へば工なる幻師、若は幻師の弟子の四衢道中に於て、大衆を化作し、敎へて六波羅蜜を行じ、乃至一切種智を得しむるが如し。餘は上說の如し。須菩提、是を菩薩摩訶薩の大莊嚴と名く。

(二七)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、我れ佛に從て聞く所の義の如くば、菩薩摩訶薩、大莊嚴無きを大莊嚴と爲す、諸法自相空の故に、所謂色、色相空なり。受想行識、識相空なり。眼眼相空、乃至意意相も空なり。色色相空、乃至法法相も空、眼識眼識相空、乃至意識、意識の相も空、眼觸眼觸相空、乃至意觸、意觸相も空、眼觸因緣生の受、受相空、乃至意觸因緣生の受、受相も空なり。

【二六】一切平等の度生が大莊嚴たるを明す。
【二七】空の故に無莊嚴の莊嚴たるを明し、以て大莊嚴の行じ易く得易きを示す。

く、脱無し。夢の如き受想行識は縛無く、脱無し。響の如く、影の如く、焔の如く、化の如き色受想行識は縛無く、脱無し。富樓那、過去の色は縛無く、脱無し。過去の受想行識は縛無く、脱無し。未來の色は縛無く、脱無し。未來の受想行識は縛無く脱無し。現在の色は縛無く、脱無し。現在の受想行識は縛無く、脱無し。何を以ての故に、縛無く脱無きや。是の色所有無きが故に、縛無く脱無し。受想行識所有無きが故に、縛無く脱無し。(三六)離の故に、寂滅の故に、不生の故に縛無く、脱無し。富樓那、善の色受想行識も亦縛無く、脱無し。不善の色受想行識縛無く、脱無し。無記の色受想行識縛無く、脱無し。世間出世間、有漏無漏の色縛無く、脱無し。受想行識も亦縛無く、脱無し。何を以ての故に、所有無きが故に、離の故に、寂滅の故に、不生の故に、縛無く、脱無し。富樓那、一切法も亦縛無く、脱無し。所有無きが故に、離の故に、寂滅の故に、不生の故に、縛無く、脱無し。富樓那、檀那波羅蜜は縛無く、脱無し。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜は縛無く、脱無し。所有無きが故に、離の故に、寂滅の故に、不生の故に縛無く、脱無し。富樓那、內空も亦縛無く、脱無し。乃至無法有法空も亦縛無く、脱無し。四念處縛無く、脱無し。乃至十八不共法も縛無く、脱無し。所有無きが故に、離の故に、寂滅の故に、不生の故に縛無く、脱無し。阿耨多羅三藐三菩提縛無く、脱無し。一切智、一切種智縛無く、脱無し。(三七)菩薩縛無く、脱

【三六】離、寂滅、不生。皆無所有と同理なり。

【三七】菩薩縛無く。實に煩惱ありて縛して墮落せしむるにあらず。脱無し實に無漏法ありて煩惱を破りて解脱するにもあらず。

無し。佛も亦縛無く、脱無し。所有無きが故に、離の故に、寂滅の故に、不生の故に縛無く、脱無し。冨樓那、諸法の如、法相、法性、法住、法位、實際、無爲法縛無く、脱無し。所有無きが故に、離の故に、寂滅の故に、不生の故に、縛無く、脱無し。冨樓那、是を菩薩摩訶薩の無縛無脱と名く。檀那波羅蜜、乃至般若波羅蜜、四念處、乃至一切種智縛無く、脱無し。是の菩薩摩訶薩、無縛無脱の檀那波羅蜜の中に住し、乃至無縛無脱の般若波羅蜜の中に住し、無縛無脱の四念處に住し、乃至無縛無脱の一切種智に住し、(三八)無縛無脱にして衆生を成就し、無縛無脱にして佛國土を淨め、無縛無脱にして諸佛を供養すべく、無縛無脱にして法を聽くべく、無縛無脱にして諸佛終に離れず、無縛無脱にして諸神通終に離れず、無縛無脱にして五眼終に離れず、無縛無脱にして陀羅尼門終に離れず。無縛無脱にして諸三昧終に離れず、無縛無脱にして道種智を生ずべく、無縛無脱にして一切種智を得べく、無縛無脱にして法輪を轉じ、無縛無脱にして衆生、三乘に安立す。是の如く、冨樓那、菩薩摩訶薩は、無縛無脱の六波羅蜜を行ず。當に知るべし、一切法縛無く、脱無し。所有無きが故に、離の故に、寂滅の故に、不生の故に。冨樓那、是を菩薩摩訶薩無縛無脱の大莊嚴と名く。』

【三八】縛脱實に縛脱なしと認むれば度生も供養も眞に成就するを説く。

(一)問乘品第十八

(二)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、(三)何等か是れ菩薩摩訶薩摩訶衍なる。(四)云何が當に知るべき、菩薩摩訶薩、大乘に發趣すと。(五)是の乘何の處に發し、是乘何の處に至り、何の處に住すべき。誰か當に是の乘に乘じて出づべき者ぞ。』佛須菩提に告げ給はく、『汝、何等か是れ菩薩摩訶薩摩訶衍なりやと問ふ。須菩提、(六)六波羅蜜、是れ菩薩摩訶薩摩訶衍なり。何等か六なるや。檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜なり。云何が檀那波羅蜜と名くるや。須菩提菩薩摩訶薩、(七)薩婆若に應ずるの心を以て、內外有ゆる布施、一切衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す、無所得を用ての故に。須菩提、是を菩薩摩訶薩の檀那波羅蜜と名く。云何が尸羅波羅蜜と名くるや。須菩提、菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心を以て、自ら(八)十善道を行ひ、亦他をして十善道を行はしむ、無所得を以ての故に。是を菩薩摩訶薩の尸羅波羅蜜と名く。云何が羼提波羅蜜と名くるや。須菩提、菩薩摩訶薩、薩婆若に

【一】品目大論摩訶衍品に作る。先きに摩訶薩を辨じて發趣大乘、乘乘とす。今謂ゆる大乘の法相位住等を詳にす。大乘即ち般若なり。
【二】問を擧げて先づ六度これ大乘なるを辨ず。
【三】大乘の法、法相を問ふ。十八十九の二品廣く辨ず。
【四】法位、發趣大乘を問ふ。二十品に辨ず。
【五】出到住乘を問ふ。第二十一品に辨ず。
【六】六度は大乘の體として一切を攝す。
【七】布施を說くに一切智相應等の五相を列ぬ。
【八】十善等。戒無量なるも十善は總相戒なるが故に此にこれを擧ぐ。

應ずる心を以て、自ら忍辱を具足し、亦他をして忍辱を行はしむ、無所得を以ての故に。是を菩薩摩訶薩の(八)羼提波羅蜜と名く。云何が毗黎耶波羅蜜と名くるや。須菩提、菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心を以て、(九)五波羅蜜を行じ、勤修息まず、亦一切衆生を五波羅蜜に安立す。無所得を以ての故に。是を菩薩摩訶薩の毗黎耶波羅蜜と名く。云何が禪那波羅蜜と名くるや。須菩提、菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心を以て、自ら(一〇)方便を以て諸禪に入り、(一一)禪に隨て生ぜず、又他を敎へて諸禪に入らしむ、無所得を以ての故に。是を菩薩摩訶薩の禪那波羅蜜と名く。云何が般若波羅蜜と名くるや。須菩提、菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心を以て、一切法に著せず、亦一切法性を觀ず、無所得を以ての故に。亦他をして一切法に著せず、一切法性を觀ぜしむ、無所得を以ての故に。是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜と名く。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と爲す。

(一二)復次に須菩提、菩薩摩訶薩、復摩訶衍有り。所謂内空、外空、内外空、空空、大空、第一義空、有爲空、無爲空、畢竟空、無始空、散空、性空、自相空、諸法空、不可得空、無法空、有法空、無法有法空なり。』須菩提佛に白して言さく、『何等をか内空と爲す。』佛言はく、『内法は眼耳鼻舌身意に名く。眼の眼とするは空なり、(一三)常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、(一四)性として

【九】五波羅蜜。精進に成ぜらるる他の施戒忍定慧の五なり。
【一〇】方便等。度生の爲に力を加ふるなり。
【一一】禪に隨て生ぜず。禪定の爲に定果の生報を受けず。
【一二】次に十八空これ大乘たるを說く。
【一三】非常非滅。斷常有無の二邊を離れ中に處るを云ふ。
【一四】性自爾。本有自性とするが如きも、緣生の故に性空なる性を云ふ。

自ら爾ればなり。耳の耳とするは空なり、鼻の鼻とするは空なり、舌の舌とするは空なり、身の身とするは空なり、意の意とするは空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を内空と名く。何等をか外空と爲す。外法は色聲香味觸法に名く。色の色とするは空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。聲の聲とするは空なり、香の香とするは空なり、味の味とするは空なり、觸の觸とするは空なり、法の法とするは空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を外空と名く。何等をか内外空と爲す。内外法は（一五）内六入、外六入に名く。内法の内法とするは空なり、常に非らず、滅にあらざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。外法の外法とするは空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を内外空と名く。何等をか空空と爲す。一切の法は空にして、是の空も亦空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を空空と名く。何等をか大空と爲す。東方の東方とする相は空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。南西北方四維上下とするは空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を大空と名く。何等をか第一義空と爲す。第一義とは涅槃に名く。涅槃とするは空なり、常に非ら

【一五】内六入。新譯には入を處と云ふ。六法の内とし外とすべきなきを内外空と云ふ。

ず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を第一義空と名く。何等をか有爲空と爲す。(一六)有爲法とは欲界、色界、無色界に名く。欲界の欲界とするは空なり、色界の色界とするは空なり、無色界の無色界とするは空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を有爲空と名く。何等をか無爲空と爲す。無爲法とは名けて(一七)無生相、無住相、無滅相と爲す。無爲法の無爲法とするは空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を無爲空と爲す。何等をか畢竟空と爲す。畢竟とは諸法の至竟不可得なるに名く、(一八)常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を畢竟空と名く。何等をか無始空と爲す。若し法初來の處不可得なるなり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を無始空と名く。何等をか散空と爲す。散とは諸法無滅に名く、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を散空と爲す。何等をか性空と爲す。一切法性、若は有爲法性、若は無爲法性、是の性聲聞辟支佛の所作に非らず、佛の所作に非らず、亦餘人の所作に非らず、是の性の性とするは空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を性空と名く。何等をか自相空と爲す。自相とは色の壞相、

【一六】有爲法。色心三科諸法に分つことあるも、今三界として擧ぐ。
【一七】無生相等。無爲を説くに生住滅三相に反するを例とす。
【一八】「畢竟の不可得なるは空なり」の句を加へる。以下例して知るべし。

受の受相、想の(一九)取相、行の作相、識の識相に名く。是の如き等の有爲無爲法は各各自相空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を自相空と名く。何等をか諸法空と爲す。諸法とは色受想行識、眼耳鼻舌身意、色聲香味觸法、眼界色界眼識界、乃至意界法界意識界に名く。是の諸法の諸法とするは空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を諸法空と爲す。何等をか不可得空と爲す。諸法を求むるに得べからず、是の不可得は空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を不可得空と名く。何等をか無法空と爲す。若は法の無なる是れ亦空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を無法空と名く。何等をか有法空と爲す。有法とは諸法和合の中、(二〇)自性相有るに名く。是の有法空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を有法空と名く。何等をか無法有法空と爲す。諸法の中法なきと、諸法和合の中自性相有ると、是の無法有法は空なり、常に非らず、滅に非らざるが故に。何を以ての故に、性として自ら爾ればなり。是を無法有法空と名く。

(二一)復次に須菩提、(二二)法の法相とするは空なり、無法の無法相とするは空なり、自法の自法相とする

【一九】取相。像を取るを想の相とするを云ふ。
【二〇】自性相。我は我たり彼は彼たる別法の如き性と相となり。
【二一】更に略して四空を說く。
【二二】法法相空とは一切法中法相の得べきなく、法中法を生ぜざるを云ふ。

は空なり、他法の他法相とするは空なり。何等をか法の法相とするは空なりと名くるや。法とは五陰に名く、五陰空なる是を法の法相空と名く。何等をか無法の無法相空と名くるや。(三三)無法は無爲法に名く、(無爲空なる)、是を無法の無法空と名く。何等をか自法の自法空と名くるや。諸法自法空なり、是の空、智の作に非らず、見の作に非らず、是を自法の自法空と名く。何等をか他法の他法空と名くるや。(三四)若は佛出で、若は佛出でず、法住、法相、法位、法性、如、實際、(三五)此を過ぐる諸法空なり、是を他法の他法空と名く。是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く。

(三六)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、(三七)所謂首楞嚴三昧、寶印三昧、師子遊戲三昧、妙月三昧、月幢相三昧、出諸法三昧 (三八) 三昧、觀頂三昧、畢法性三昧、畢幢相三昧、金剛三昧、入法印三昧、三昧王安立三昧、放光三昧、力進三昧、高出三昧、必入辯才三昧、釋名字三昧、觀方三昧、陀羅尼印三昧、無誑三昧、攝諸法海三昧、徧覆虛空三昧、金剛輪三昧、寶斷三昧、能照三昧、不求三昧、無住三昧、無心三昧、淨燈三昧、無邊明三昧、能作明三昧、普照明三昧、堅淨諸三昧三昧、無垢明三昧、歡喜三昧、電光三昧、無盡三昧、威

【三三】無法。先きには諸法の空無なを無法と云ひ、今は無爲の無相なるを無法と云ふ。

【三四】若は佛等。諸法空なること佛ありて說くと否とに關せず常に然り。

【三五】此を過ぐる。眞如と云ひて眞如に執するものは空なるも、かゝる執なき餘法存すとするなり。

【三六】次に諸三昧即ち禪波羅蜜これ大乘なるを說く。三昧第十行相品參照。以下大論第四十七卷。

【三七】今首楞嚴以下百八三昧を擧ぐ。

【三八】麗本大論には三昧の二字なし。

德三昧、離盡三昧、不動三昧、不退三昧、日燈三昧、月淨三昧、淨明三昧、能作明三昧、作行三昧、知相三昧、如金剛三昧、心住三昧、普明三昧、安立三昧、寶聚三昧、妙法印三昧、法等三昧、斷喜三昧、到法頂三昧、能散三昧、分別諸法句三昧、字等相三昧、離字三昧、斷緣三昧、不壞三昧、無種相三昧、無處行三昧、離朦昧三昧、無去三昧、不變異三昧、度緣三昧、集諸功德三昧、住無心三昧、淨妙華三昧、覺意三昧、無量辯三昧、無等等三昧、度諸法三昧、分別諸法三昧、散疑三昧、無住處三昧、一莊嚴三昧、生行三昧、一行三昧、不一行三昧、妙行三昧、達一切有底散三昧、入名語三昧、離音聲字語三昧、然炬三昧、淨相三昧、破相三昧、一切種妙足三昧、不喜苦樂三昧、無盡相三昧、多陀羅尼三昧、攝諸邪正相三昧、滅憎愛三昧、逆順三昧、淨光三昧、堅固三昧、滿月淨光三昧、大莊嚴三昧、能照一切世三昧、三昧等三昧、攝一切有諍無諍三昧、不樂一切住處三昧、如住定三昧、壞身衰三昧、壞語如虛空三昧、離著虛空不染三昧に名く。

(二九)云何が(三〇)首楞嚴三昧と名くるや、諸三昧の行處を知る、是を首楞嚴三昧と名く。云何が(三一)寶印三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧に印す、是を寶印三昧と名く。云何が(三二)師子遊戲三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の中に遊戲する師子の如し、是を師子遊戲三昧と名く。

【二九】以下百八三昧を釋す。
【三〇】首楞嚴。健相と譯す、諸三昧行相淺深多少を知り煩惱魔人の壞し難きものなり。
【三一】寶印。法寶三解脫門三法印般若を寶としこれに相應するを云ふ。
【三二】師子遊戲。諸三昧の出入遲速自在又は析伏神力自在なるを云ふ。

云何が(三三)妙月三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧を照す、淨月の如し、是を妙月三昧と名く。云何が(三四)月幢相三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の相を持す、是を月幢相三昧と名く。云何が(三五)出諸法三昧三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧を出生す、是を出諸法三昧三昧と名く。云何が(三六)觀頂三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の頂を觀ず、是を觀頂三昧と名く。云何が(三七)畢法性三昧と名くるや。是の三昧に住し、決定して法性を知る、是を畢法性三昧と名く。云何が(三八)畢幢相三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧幢を持す、是を畢幢相三昧と名く。云何が(三九)金剛三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧を持す、是を金剛三昧と名く。云何が(四〇)入法印三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸法印に入る、是を入法印三昧と名く。云何が(四一)三昧王安立三昧と名くるや。是の三昧に住し、一切諸三昧中安立して住する王の如し、是を三昧王安立三昧と名く。云何が(四二)放光三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く光を放つて(四三)諸三昧を照す、是を放光三昧と名く。云何が(四四)力進三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く力勢を作す、是を力進

【三三】妙月。淨滿月の夜闇を除くが如し。

【三四】月幢相。軍將の幢、寳を以て月像を作る將士これに隨ふ。諸法に通達して無礙なるに喩ふ。

【三五】出諸法三昧。三昧を增長せしむる時雨の如し。

【三六】觀頂。山頂能く諸方を觀るが如し。

【三七】畢法性。神足能く虛空に處る如く能く無量無二の法性を任持す。

【三八】畢幢相。最勝の三昧に入ること軍將幢を以て大相を表する如し。

【三九】金剛。諸法に通じて三昧の妙用ある金剛の硬きものを穿通するが如し。

【四〇】入法印。印信ありて入國する如く諸法實相畢竟空に入る。

【四一】三昧王安立。王正殿に在り群臣の朝する如く、この定に

三昧と名く。云何が(四五)高出三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧を增長す、是を高出三昧と名く。云何が(四六)必入辯才三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧を辯說す、是を必入辯才三昧と名く。云何が(四七)釋名字三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の名字を釋す、是を釋名字三昧と名く。云何が(四八)觀方三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の方を觀ず、是を觀方三昧と名く。云何が(四九)陀羅尼印三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の印を持す、是を陀羅尼印三昧と名く。云何が(五〇)無誑三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧に於て欺誑せず、是を無誑三昧と名く。云何が(五一)攝諸法海三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧を攝する大海水の如し、是を攝諸法海三昧と名く。云何が(五二)徧覆虛空三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧を徧覆する虛空の如し、是を徧覆虛空三昧と名く。云何が(五三)金剛輪三昧と名

於て坦然安住し十方を召せば悉く集り化佛を遣にして十方に至らしむるを云ふ。

【四二】放光。火遍處定により神力を得て種々色光を放ち冷熱他の意に隨ふ。

【四三】照諸三昧。色光智慧光を放ちて諸三昧に邪見無明なからしむ。

【四四】力進。諸法に信進念定慧の力を得て三昧自在なり定中能く衆生を化す。

【四五】高出。福德智慧悉く增長し諸三昧心に從ひて出づ。

【四六】必入辯才。辭辯相應して衆生の語言、經書名字分別して無礙なり。

【四七】釋名字。法空に住し名字を以て法義を辯し領解せしむ。

【四八】觀方。十方衆生を觀るに平等慈悲を以てす。又方は道理を云ひ諸三昧の理に契ふを云ふ。

【四九】陀羅尼印。諸三昧を分別して陀羅尼あるを云ふ。

【五〇】無誑。この三昧中三毒邪見迷悶なく錯誤なし。

【五一】攝諸法海。衆流海に歸する如く三乘諸三昧この中に入る。

【五二】徧覆虛空。無邊の虛空に光明音聲等充滿す。

【五三】金剛輪。諸法中無礙なるを金剛輪の所在無礙に喩ふ。又諸三昧の分界を分別す。

ぐるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の分を持す、是を金剛輪三昧と名く。云何が(五四)寶斷三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の煩惱垢を斷ず、是を寶斷三昧と名く。云何が(五五)能照三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く光明を以て諸三昧を顯照す、是を能照三昧と名く。云何が(五六)不求三昧と名くるや。是の三昧に住し、法として求むべき無し、是を不求三昧と名く。云何が(五七)無住三昧と名くるや。是の三昧に住し、一切三昧中法の住するを見ず、是を無住三昧と名く。云何が(五八)無心三昧と名くるや。是の三昧に住し、心心數法行ぜず、是を無心三昧と名く。云何が(五九)淨燈三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の中に於て明を作す燈の如し、是を淨燈三昧と名く。云何が(六〇)無邊明三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧に無邊明を作す、是を無邊明三昧と名く。云何が(六一)能作明三昧と名くるや。是の三昧に住し、卽時に能く諸三昧の爲に明を作す、是を能作明三昧と名く。云何が(六二)普照明三昧と名くるや。是の三昧に住し、卽ち能く諸三昧門を照す、是を普照明三昧と名く。云何が(六三)堅淨諸三昧三昧と名くるや。是の諸三昧に住し、能く諸三昧の相を堅淨す、是を堅淨諸三昧三昧と名く。云

【五四】寶斷。或は斷寶に作る。能く諸三昧煩惱の垢を除くに喩ふ。

【五五】能照。この三昧に十種の智慧を以て諸法を照らす。

【五六】不求。諸法幻化の如しと觀て所求なし。

【五七】無住。諸法念々無常にして停まる時なし。

【五八】無心。滅盡定又は無想定にして一切の心と心所との動用なし。

【五九】淨燈。燈は智慧を表す。煩惱の垢なきを淨と云ふ。

【六〇】無邊明。明は度生の身光と分別の慧光となり、能く十方世界無邊無數の諸法を照す。

【六一】能作明。能く諸三昧のために明と作る。

【六二】普照明。能く諸三昧の門を照らす。

【六三】堅淨。堅牢にして垢汙を離る。

何が(六四)無垢明三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の垢を除き、亦能く一切の三昧を照す、是を無垢明三昧と名く。云何が歡喜三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の喜を受く、是を歡喜三昧と名く。云何が(六五)電光三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧を照す電光の如し、是を電光三昧と名く。云何が(六六)無盡三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧に於て盡くるを見ず、是を無盡三昧と名く。云何が威德三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧に於て威德照然たり、是を威德三昧と名く。云何が(六七)離盡三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の盡くるを見ず、是を離盡三昧と名く。云何が(六八)不動三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧をして動かず(六九)戲れざらしむ、是を不動三昧と名く。云何が(七〇)不退三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の退くを見ず、是を不退三昧と名く。云何が(七一)日燈三昧と名くるや。是の三昧に住し、光を放つて諸三昧門を照す、是を日燈三昧と名く。云何が(七二)月淨三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧の暗を除く、是を月淨三昧と名く。云何が淨明三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧に於て四無礙智を得、是を淨明

【六四】無垢明。諸三昧の垢を除き一切を照らす。

【六五】電光。電に路を得る如く、この三昧に依て無始の失道を得。

【六六】無盡。不生不滅に入り無常等の相を滅す。

【六七】離盡。過去の善本功德必ず果報ありて失はれず。

【六八】不動。第四禪の欲動なき、四無色の色を離れ、滅盡の心心所を離れ、諸法實相の一切の動轉なき等を云ふ。

【六九】戲れ。妄計の戲論謬說。

【七〇】不退。不退の智に相應するもの、又は頂に墮せざるなり。

【七一】日燈。日出てゝ世界を照らすに喩ふ。

【七二】月淨。前半月に月の盈つる如く善根增長し、忍を得、生を度し、諸定の無明を除く。

【七三】能作明。般若に第一の智慧なり、故に般若相應の三昧を

三昧と名く。云何が(七三)能作明三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧門に於て能く明を作す、是を能作明三昧と名く。云何が作行三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧をして各所作有らしむ、是を作行三昧と名く。云何が(七四)知相三昧と名くるや。是の三昧に住し。諸三昧の知相を見る、是を知相三昧と名く。云何が如金剛三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸法に(七五)貫達し亦達するを見ず、是を如金剛三昧と名く。云何が(七六)心住三昧と名くるや。是の三昧に住し、心動ぜず、轉ぜず、惱せず、亦是の心有るを念ぜず、是を心住三昧と名く。云何が(七七)普明三昧と名くるや。是の三昧に住し、普く諸三昧の明を見る、是を普明三昧と名く。云何が安立三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧に於て安立して動ぜず、是を安立三昧と名く。云何が(七八)寶聚三昧と名くるや。是の三昧に住し、普く諸三昧を見ること寶聚を見るが如し、是を寶聚三昧と名く。云何が(七九)妙法印三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧に印す、無印を以て印するが故に、是を妙法印三昧と名く。云何が(八〇)法等三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸法等しくして法の等しからざる無きを觀ず、是を法等三昧と名く。云何が(八一)斷喜三昧と名

能作明と云ふ。
【七四】知相。諸三昧中に實智慧相あるを見るなり。
【七五】貫達し亦達す。貫達し亦達するを見ずとは無所得なるを以てなり。
【七六】心住。心相輕疾にして制し難きも、この三昧は心を攝して住せしむ。
【七七】普明。一切法に光明相あるを見、天眼慧眼を成就す。
【七八】寶聚。有ゆる國土七寶と成る。
【七九】妙法。佛菩薩の大功德智慧を妙法とす。
【八〇】法等。平等に衆生等と法等とあり。今は法平等なり。
【八一】斷喜。厭離心により一切世間樂なしとする三昧。
【八二】到法項。法とは菩薩の六波羅蜜にして、この三昧般若方便を得るを法の山頂に到ると云ふ。

くるや。是の三昧に住し、一切法中の喜を斷ず、是を斷喜三昧と名く。云何が（八二）到法頂三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸法の暗を滅し、亦諸三昧の上に在り、是を到法頂三昧と名く。云何が（八三）能散三昧と名くるや。是の三昧中に住し、能く諸法を破散す、是を能散三昧と名く。云何が（八四）分別諸法句三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧諸法句を分別す、是を分別諸法句三昧と名く。云何が（八五）字等相三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の字等を得、是を字等相三昧と名く。云何が（八六）離字三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧中乃至一字を見ず、是を離字三昧と名く。云何が（八七）斷緣三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の緣を斷ず、是を斷緣三昧と名く。云何が（八八）不壞三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸法の變異を得ず、是を不壞三昧と名く。云何が（八九）無種相三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸法の種種を見ず、是を無種相三昧と名く。云何が（九〇）無處行三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧處を見ず、是を無處行三昧と名く。云何が（九一）離蒙昧三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の微暗を離る、是を離蒙昧三昧と名く。云何が（九二）無去三昧と名くるや。是の三昧に住し、一

【八三】能散。散空相應三昧にして諸法を破して住せしめず。

【八四】分別等。樂說相應三昧なり。

【八五】字等相。諸字諸語皆平等なりとし罵詈讃歎に憎愛なし。

【八六】離字。字中に義あり、義中に字あるを見ず。

【八七】斷緣。三受に著せず、心滅して緣も亦滅す。

【八八】不壞。緣法性畢竟空相應の三昧なり。

【八九】無種相。諸法差別を見ず一相無相なりとす。

【九〇】無處行。三界三毒穢なれば住せず、涅槃も畢竟空なれば依處なし。

【九一】離蒙昧。諸三昧中に無明暗昧の微翳だになし。

【九二】無去。諸法去來の相を見ず。

【九三】不變異。諸法自相に在りて動かず、因變じて果となるにあらず。

切三昧の去相を見ず、是を無去三昧と名く。云何が（九三）不變異三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の變異相を見ず、是を不變異三昧と名く。云何が（九四）度緣三昧と名くるや。是の三昧に住し、一切三昧の緣境界を度す、是を度緣三昧と名く。云何が（九五）集諸功德三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の功德を集む、是を集諸功德三昧と名く。云何が（九六）住無心三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧に於て心入る所無し、是を住無心三昧と名く。云何が（九七）淨妙華三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧をして淨妙、華の如くなるを得しむ、是を淨妙華三昧と名く。云何が（九八）覺意三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の中七覺分を得、是を覺意三昧と名く。云何が（九九）無量辯三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸法の中に於て無量辯を得、是を無量辯三昧と名く。云何が（一〇〇）無等等三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の中無等等の相を得、是を無等等三昧と名く。云何が（一〇一）度諸法三昧と名くるや。是の三昧に住し、一切三昧を度す、是を度諸法三昧と名く。云何が（一〇二）分別諸法三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧及び諸法分別見をなす、是を分別諸法三昧と名く。云何が（一〇三）散疑三昧と名く

【九四】度緣。六塵大海を度り、一切三昧緣生の智慧を過ぐ。
【九五】集諸等。信より智慧に至るまで日夜修習息まざるなり。
【九六】住無心。諸法實相の中に在りて心に隨はず。
【九七】淨妙華。功德の華開き自ら莊嚴す。
【九八】覺意。諸三昧變じて無漏と成り七覺と相應す。
【九九】無量辯。樂說の辯無礙にして無量劫窮盡せず。
【一〇〇】無等等。一切衆生佛と等しく、一切法佛法と異らず。
【一〇一】度諸法。三解脫門に入りて三界を出で、三乘の衆生を度す。
【一〇二】分別諸法。分別慧相應にして善惡漏無漏等を分別す。
【一〇三】散疑。見諦無相三昧に疑を斷ずるもの、又は無生法忍相應により諸法の疑を斷じて見佛するを云ひ、又は諸佛の無礙解脫相應を云ふ。

るや。是の三昧に住し、諸法の疑を散ずるを得、是を散疑三昧と名く。云何が無住處三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸法の住處を見ず、是を無住處三昧と名く。云何が(一〇四)一莊嚴三昧と名くるや。是の三昧に住し、終に諸法の二相を見ず、是を一莊嚴三昧と名く。云何が生行三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸行生を見ず、是を生行三昧と名く。云何が(一〇五)一行三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の(一〇六)此岸(一〇七)彼岸を見ず、是を一行三昧と名く。云何が(一〇八)不一行三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の一相を見ず、是を不一行三昧と名く。云何が妙行三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の二相を見ず、是を妙行三昧と名く。云何が(一〇九)達一切有底散三昧と名くるや。是の三昧に住し、一切有に入り、一切三昧智慧通達し、亦所達無し、是を達一切有底散三昧と名く。云何が(一一〇)入名語三昧と名くるや。是の三昧に住し、一切三昧の名語に入る、是を入名語三昧と名く。云何が離音聲字語三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の音聲字語を見ず、是を離音聲字語三昧と名く。云何が(一一一)然炬三昧と名くるや。是の三昧に住し、威德照明炬の如し、是を然炬三昧と名く。云何が(一一二)淨相三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の相を淨む、是を淨相三昧

【一〇四】一莊嚴。諸法の一相を見ること無量なり。

【一〇五】一行。畢竟空相應三昧の中餘行の次第なし。

【一〇六】此岸。三昧の入相得相。

【一〇七】彼岸。三昧の出相滅相。

【一〇八】不一行。一行と異る餘の觀行。

【一〇九】達一切有底散。有は三有底は非想非々想にして無漏智慧により三界五蘊散滅し無餘涅槃に入る。

【一一〇】入名語。衆生諸法の語言名字を知り能く一切を化す。

【一一一】然炬。智慧の炬を燃し著せず錯らず。

【一一二】淨相。三十二相具足して又無相清淨なり。

と名く。云何が破相三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の相を見ず、是を破相三昧と名く。云何が（一三）一切種妙足三昧と名くるや。是の三昧に住し、一切諸三昧種皆具足す、是を一切種妙足三昧と名く。云何が（一四）不喜苦樂三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の苦樂を見ず、是を不喜苦樂三昧と名く。云何が無盡相三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧盡くるを見ず。是無盡相三昧と名く。云何が。多陀羅尼三昧と名くるや。是の三昧の住し、能く諸三昧を持す、是を多陀羅尼三昧と名く。云何が攝諸邪正相三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧に於て（一五）邪正の相を見ず、是を攝諸邪正相三昧と名く。云何が滅憎愛三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の憎愛を見ず、是を滅憎愛三昧と名く。云何が逆順三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸法諸三昧の（一六）逆順を見ず、是を逆順三昧と名く。云何が淨光三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の明垢を得ず、是を淨光三昧と名く。云何が堅固三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の堅固ならざるを得ず、是を堅固三昧と名く。云何が滿月淨光三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の滿足なること月の十五日の如し、是を滿月淨光三昧と名く。云何が大莊嚴三昧と名くるや。是の三昧に住し、（一七）大莊嚴し、諸三昧を成就す、是を大莊嚴三

【一三】一切種妙足。身家眷屬定慧諸功德具足す。
【一四】不喜苦樂。世の樂は過患多く眞樂にあらず、況んや苦を喜ばんや。
【一五】邪正の相。邪定聚正定聚不定聚の別若くは諸法の定相。
【一六】逆順を見す。自在にして逆を破し順を化す。
【一七】大莊嚴。七寶華香等を以て莊飾し、又莊嚴あるを見す。
【一八】一切世。衆生、五蘊、住處の三世間なり。

味と名く。云何が能照（二八）一切世三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧、及び一切法能く照す、是を能照一切世三昧と名く。云何が三昧等三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧に於て定亂の相を得ず、是を三昧等三昧と名く。云何が攝一切（二九）有諍無諍三昧と名くるや。是の三昧に住し、能く諸三昧をして有諍無諍を分別せざらしむ、是を攝一切有諍無諍三昧と名く。云何が不樂（三〇）一切住處三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の依處を見ず、是を不樂一切住處三昧と名く。云何が如住定三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧（三一）如相を過ぎず、是を如住定三昧と名く。云何が壞（三二）身衰三昧と名くるや。是の三昧に住し、身相を得ず、是を壞身衰三昧と名く。云何が壞語如虛空三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸三昧の語業を見ざる虛空の如し、是を壞語如虛空三昧と名く。云何が離著虛空不染三昧と名くるや。是の三昧に住し、諸法虛空の如く礙無きを見、亦是の三昧に染まず、是を離著虛空不染三昧と名く。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く。

【二九】有諍無諍。法是の如し是の如くならずと諍ふ、通達せざるが爲なり。

【三〇】一切住處。世間無常の故に樂はず、出世間無法にして樂はず。

【三一】如相を過ぎず。諸法實相なり、如なり、如を過ぎて存せず。

【三二】身衰。和合身の飢寒冷熱等。

〔一〕卷の第六

〔二〕廣乘品第十九

〔三〕佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩摩訶衍とは、所謂四念處なり。何等をか四となす。須菩提、菩薩摩訶薩〔四〕內身中〔五〕循身觀亦〔六〕身覺無し、不可得を以ての故に。〔七〕外身中、內外身中循身觀亦身覺無し、不可得を以ての故に。〔八〕勤めて精進し、一心に世間の〔九〕貪憂を除く。內受、內心、內法、外受、外心、外法、內外受、內外心、內外法、循法觀亦法覺無し、不可得を以ての故に、勤めて精進し、一心に世間の貪憂を除く。

〔一〇〕須菩提、菩薩摩訶薩、云何が內身中循身觀なるや。須菩提、若し菩薩摩訶薩行ずる時行を知り、住する時住を知り、坐する時坐を知り、臥する時臥を知り、身の行ずる所を知れば是の如く知る。須菩提、菩薩摩訶薩、是の如く內身中循身觀し、勤めて精進し、一心に世間の貪憂を除

【一】麗本は廣乘品終までを第五卷とす。宋元明本は今の如し。大論第四十八卷。

【二】品目丹本、大論は四念處品と云ふ。先づ四念處に就て大乘を辨じ、次に他の道品三三昧智十一等に就て述ぶ。

【三】四念處身受心法の內と外と內外との十二種觀を列ぬ。

【四】內身。自身を內とせば他身は外、九受處內、九不受處外、五根は內、五境は外等なり。

【五】循身觀。順次觀察して身の不淨衰老等を觀る。

【六】身覺無し。身の一異相を取り淨不淨瞋欲等を覺せず。

【七】外身等。或は身體に著し或は財寶を重んじ、或は兩者に著する三種邪行に對し內と外と內外とに觀す。

【八】勤精進。自の身心を離れんとするは難きが故に勤精進等と云ふ。

【九】貪憂。通じて五蓋を除くも貪根本の故に擧ぐ。

【一〇】內身觀を述ぶ。一に身威儀觀。

く、不可得を以ての故に。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、若は來り、若は去り、視瞻一心、屈伸俯仰、(一一)僧伽梨を服し、衣鉢を執持し、飲食、臥息、坐立、睡覺、語默、禪に入り禪より出づ。亦常に一心に、是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行し、內身中循身觀す、不可得を以ての故に。(一二)復次に須菩提、菩薩摩訶薩、內身中循身觀の時、一心に念じ、入息の時入息を知り、出息の時出息を知り、入息長き時入息の長きを知り、出息長き時出息の長きを知り、入息短き時入息の短きを知り、出息短き時出息の短きを知る。譬へば(一三)旋師、若は旋師の弟子の、繩長きとき長きを知り、繩短きとき短きを知るが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如く、一念入息の時入息を知り、出息の時出息を知り、入息長き時入息の長きを知り、出息長き時出息の長きを知り、入息短き時入息の短きを知り、出息短き時出息の短きを知る。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、內身中循身觀し、勤めて精進し、一心に世間の貪憂を除く、不可得を以ての故に。(一四)復次に須菩提、菩薩摩訶薩、身の四大を觀ず。是の念を作す、「身中地大水大火大風大有り。」譬へば屠牛師、若は屠牛弟子の刀を以て牛を殺し、分つて四分と作す、四分と作し已りて若は立ち、若は坐し、此の四分を觀ずるが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如く、般若波羅蜜を行ずる時、種種身の四大―地大水大火大風大―を觀ず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩內身中循身觀す、不可得を以ての故に。(一五)復次に須菩提、菩

【一一】僧伽梨(Saṃghāṭī)重複衣と譯す袈裟なり。
【一二】二に數息觀。
【一三】旋師。輕業師の如きもの。
【一四】三に四大觀。
【一五】四に身分三十六物等不淨を觀す。

薩摩訶薩、內身を觀じ、足より頂に至るまで薄皮を周帀し、種種の不淨身中に充滿す、是の念を作す、「身中髮毛、爪齒、薄皮、厚皮、筋肉、骨髓、脾腎、心膽、肝肺、小腸大腸、(一六)胃胞、屎尿、垢汗、淚涕、涎唾膿血、黃白痰癊、(一七)肪䐵、腦膜有り。」譬へば田夫の倉中、隔て丶雜穀を盛り、種種の稻麻黍粟豆麥を充滿す、明眼の人、倉を開けば、卽ち是は稻、是は麻、是は黍、是は粟、是は豆、是は麥なるを知り、分別して悉く知るが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如く是の身を觀じ、足より頂に至るまで薄皮を周帀し、種種の不淨身中に充滿す、髮毛、爪齒、乃至腦膜なりと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、內身を觀じ、勤めて精進し、一心に世間の貪憂を除く、不可得を以ての故に。

(一八)復次に須菩提、菩薩摩訶薩、若し棄死人の身を見る、一日二日五日に至り、膖脹靑瘀、膿汁流出す。自ら我身を念ふも亦是の如き相、是の如き法あり、未だ此法を脫せずと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、內身中循身觀し、勤めて精進し、一心に世間の貪憂を除く、不可得を以ての故に。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、若し是の棄死人の身を見る、(一九)若は六日、若は七日、烏鵄鵰鷲、豺狼狐狗、是の如き等の種種の禽獸、攫裂して之を食ふ。自ら我身を念ふ、是の如きの相、是の如きの法あり、未だ此の法を脫せずと。須菩提、菩薩摩訶薩、內身中循身觀し、勤めて精進し、一心に世間の貪憂を除く、不可得を以ての故に。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、

【一六】胃胞、或は胃脬に作る。
【一七】肪䐵、脂肪なり。
【一八】五に死人壞相不淨を觀す。
【一九】六七日を過ぎて親族守護せず、鳥畜殘害するを云ふ。

菩薩摩訶薩、若し是の棄死人の身を見る、種種の禽獸食ひ已りて不淨爛臭なり。自ら我身を念ふ、是の如き相、是の如き法あり、未だ此法を脱せずと、乃至世間の貪憂を除く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、若し是の棄死人の身を見る。骨璅血肉塗染し、筋骨相連る。自ら我身を念ふ、是の如き相、是の如き法あり、未だ此法を脱せずと、乃至世間の貪憂を除く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、若し是の棄死人の身を見る、骨璅血肉已に離れ、筋骨相連る。自ら我身を念ふ、是の如き相、是の如き法あり、未だ此法を脱せずと、乃至世間の貪憂を除く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、若し是の棄死人の身を見る、骨璅已に散りて地に在り、自ら我身を念ふ、是の如き相、是の如き法あり、未だ此法を脱せずと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、內身を觀じ、乃至世間の貪憂を除く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、若し此の棄死人の身を見る、骨散じて地に在り、脚骨處を異にし、蹲骨、髀骨、腰骨、肋骨、脊骨、手骨、項骨、髑髏各各處を異にす。自ら我身を念ふ、是の如き相、是の如き法あり、未だ此法を脱せずと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、內身を觀じ、乃至世間の貪憂を除く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、若し是の棄死人の骨、地に在る歲久しく、風吹き日曝し、色白くして貝の如きを見る。自ら我身を念ふ、是の如き相、是の如き法あり、未だ此法を脱せずと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、內身を觀じ、乃至世間の貪憂を除く、不可得を以ての故に。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、若し是の棄死人の骨、地に在る歲久しく、其色鴿の如く、腐朽爛壞、土と共に合するを見、自ら我身を念ふ、是の如き

相、是の如き法あり、未だ此法を脱せずと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、内身中循身觀し、勤めて精進し、一心に世間の貪憂を除く、不可得を以ての故に。外身、内外身も亦是の如し。受念處、心念處、法念處も亦是の如く廣く説くべし。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く。

(三〇)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂四正勤なり。何等をか四となす。須菩提、菩薩摩訶薩未だ生ぜざる諸惡不善法は不生の爲の故に、欲生ぜば勤めて精進し、心を攝して道を行じ、已に生じたる諸惡不善法は斷の爲の故に、欲生ぜば勤めて精進し、心を攝して道を行じ、未だ生ぜざる諸善法は生の爲の故に、欲生ぜば勤めて精進し、心を攝して道を行じ、已に生じたる諸善法は、住して失はず、修滿增廣の爲の故に、欲生ぜば勤めて精進し、心を攝して道を行ず。不可得を以ての故に。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く。

(三一)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂四如意分なり。何等をか四となす。欲定をもて斷行如意分を成就し修し、心定をもて斷行如意分を成就し修し、精進定をもて斷行如意分を成就し修し、(三二)思惟定をもて斷行如意分を成就し修す。不可得を以ての故に。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く。(三三)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂五根なり。何等をか五となす。(三四)信根

【三〇】四正勤これ大乘たるを説く。四法に慧多きを念處とし、精進多きを正勤と云ひ、定多きを四如意足と名づく。
【三一】四如意分これ大乘たるを説く。正勤意の如く事の辨ずるを如意分と名づく、分又は足と云ふ、如意因緣なり。
【三二】思惟定。觀三昧。
【三三】五根これ大乘と説く。

(二五)精進根、(二六)念根、(二七)定根、(二八)慧根なり。是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。(二九)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂五力なり。何等をか五となす。信力、精進力、念力、定力、慧力なり。是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。(三〇)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂七覺分なり。何等をか七となす。菩薩摩訶薩、念覺分を修すれば、離に依り、無染に依り涅槃に向ふ。擇法覺分、精進覺分、喜覺分、(三一)除覺分、定覺分、捨覺分、離に依り、無染に依り涅槃に向ふ。不可得を以ての故に。是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く。(三二)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂八聖道分なり。何等をか八となす、(三三)正見、(三四)正思惟、(三五)正語、(三六)正業、(三七)正命、(三八)正精進、(三九)正念、(四〇)正定なり。是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

(四一)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂三三昧なり。何等をか三となす。空、無相、無作三昧なり。空三昧とは諸法の自相空なるに名く、是を空解脱門と爲す。無相とは諸法の相を壞し、憶せず、念せざるに

【二四】信。道及び助道の善法を信ず。
【二五】精進。行者勤求息まず。
【二六】念。更に他念なく憶持するを云ふ。
【二七】定。一心念じて散ぜざるを云ふ。
【二八】慧。道助道に於て十六行等を觀ず。
【二九】五力これ大乘と説く。五力は五根增長して力用あるなり。
【三〇】七覺分これ大乘と説く。
【三一】除。輕安なり。
【三二】八聖道分これ大乘たるを説く。
【三三】正見。智慧、四念處慧根慧力擇法覺に同じ。
【三四】正思惟。四諦を觀じ無漏に相應し思惟籌量す。
【三五】正語。無漏智慧を以て口業を攝し、妄語兩舌惡口綺語等の口邪業を離る。

名く、是を無相解脱門と名く。無作とは諸法の中に、(四二)願を作さゞるに名く、是を無作解脱門と爲す。是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

(四三)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂苦智、集智、滅智、道智、盡智、無生智、法智、比智、世智、他心智、如實智なり。云何が苦智と名くるや、(四四)苦生せずと知る、是を苦智と名く。云何が(四五)集智と名くるや、集斷ずべしと知る、是を集智と名く。云何が滅智と名くるや、苦滅すと知る、是を滅智と名く。云何が道智と名くるや、八聖道分を知る、是を道智と名く。云何が盡智と名くるや、諸の婬恚癡盡くと知る、是を盡智と名く。云何が無生智と名くるや、諸有中生無しと知る、是を無生智と名く。云何が法智と名くるや、(四六)五陰本事を知る、是を法智と名く。云何が比智と名くるや、眼無常、乃至意識因緣生の受無常と知る、是を比智と名く。云何が世智と名くるや、因緣の名字を知る、是を世智と名く。云何が他心智と名くるや、他の衆生の心を知る、是を他心智と名く。云何が如實智と名くるや、諸佛の一切種智、是を如實智と名く。須菩提、是を菩薩摩

【三六】正業。身業を攝して邪を離る。
【三七】正命。利養の爲にする自讃占相等の五邪命を離れ無漏慧に應ず。
【三八】正精進。正方便とも云ふ、四正懃精進根精進力精進覺に同じ。
【三九】正念。念根念力念覺に同じ。
【四〇】正定。如意足定根定力定覺に同じ。
【四一】三解脱門これ大乘たるを説く。
【四二】願等。無作又無願と云ふ故なり。
【四三】十一智これ大乘たるを説く。
【四四】苦生ぜず。諸法苦聚あるは實生を執すればなり、無生なれば苦なし。
【四五】集は因なり。苦因惑業を云ふ。
【四六】五陰本事。色等諸法分別。

訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

(四七)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂三根—未知欲知根、知根、智者根—なり。云何が未知欲知根と名くるや。諸學人の未だ果を得ざる信根、精進根、念根、定根、慧根、是を未知欲知根と名く。云何が知根と名くるや。諸學人の果を得る信根、乃至慧根、是を知根と名く。云何が智者根と名くるや。(四八)諸無學人、若は阿羅漢、若は辟支佛、諸佛の信根、乃至慧根、是を智者根と名く。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

(四九)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂三三昧なり。何等をか三となす、有覺有觀三昧、無覺有觀三昧、無覺無觀三昧なり。云何が有覺有觀三昧と名くるや。諸欲を離れ、惡不善法を離れ、有覺有觀、離生喜樂、初禪に入る、是を有覺有觀三昧と名く。云何が無覺有觀三昧と名くるや。初禪、二禪の中間、是を無覺有觀三昧と名く。云何が無覺無觀三昧と名くるや。二禪より乃至非有想非無想定、是を無覺無觀三昧と名く。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。(五〇)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂十念なり。何等をか十となす。念佛、念法、念僧、念戒、念捨、念天、念善、念出入息、念身、念死なり。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

【四七】三根これ大乘たるを說く。
【四八】諸無學人。學地を超越せる聖者卽ち羅漢等なり。
【四九】三三昧これ大乘たるを說く。
【五〇】十念これ大乘たるを說く。

(五一)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂四禪、四無量心、四無色定、八背捨、九次第定なり。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

(五二)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂佛の十力なり。何等をか十となす。佛、(五三)如實に、一切法是處、不是處の相を知る、一力なり。(五四)如實に、他の衆生の過去、未來、現在諸業、諸受の法を知り、因緣を知り、報を知る、二力なり。如實に、諸禪解脫三昧定垢淨分別の相を知る、三力なり。如實に、他の衆生の諸根上下の相を知る四力なり。如實に、他の衆生の種種の欲解を知る、五力なり。如實に、世間の種種無數の性を知る、六力なり。如實に、一切至處道を知る、七力なり。種種の宿命相有り、因緣有り、一世、二世、乃至百千世、劫初劫盡我れ彼の衆生の中に在りて生ず、是の如き姓、是の如き名、是の如き飲食、苦樂、壽命長短にして、彼の中に死し、是の間に生じ、是の間に死し、還りて是の間に生ず、此の間に生じて、名、姓、飲食、苦樂、壽命長短も亦是の如しと知る、八力なり。佛の天眼淨、諸天眼に過ぎ、衆生の死時生時、端正と醜陋とを見る、若は大、若は小、若は惡道に墮し、若は善道に墮す、是の如き業因緣の受報として、是の諸の衆生惡身業成就し、惡口業成就し、惡意業成就し、聖人を誹毀す、邪見業因緣を受くるが故に、身壞し死する時惡道に入り、地獄の中に生じ、是の諸の衆生

【五一】四禪等諸定これ大乘なるを說く。
【五二】佛の十力これ大乘たるを說く。
【五三】第一力は法の當不當を知り法本法主たり。
【五四】第二力は業報異熟の因果を知る。

善身業成就し、善口業成就し、善意業成就し、聖人を謗毀せず、正見因緣を受くるが故に、身壞し死する時善道に入り、天上に生ずと見る、九力なり。佛、如實に、諸漏盡くるを知るが故に、無漏心解脫し、無漏慧解脫す、現在法の中、自證して是の法に入るを知る、所謂我が生已に盡き、梵行已に作し、今世より復後世を見ざるは、十力なり。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

（五五）復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂四無所畏なり。何等をか四となす。佛誠言を作す、我は是れ一切正智人なりと。若は沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆有りて、如實に難じて言く、是の法知らずと。乃至是の微畏相を見ず。是を以ての故に我れ安穩を得、無所畏を得、聖主の處に安住し、大衆の中に在りて師子吼し、能く梵輪を轉ず。諸の沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆實に轉ずる能はず、一の無畏なり。佛誠言を作す、我は一切漏盡すと。若は沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆有りて、如實に難じて言く、是れ漏盡きずと。乃至是の微畏相を見ず。是を以ての故に、我は安穩を得、無所畏を得、聖主の處に安住し、大衆の中に在りて師子吼し、能く梵輪を轉ず。諸の沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆實に轉ずる能はず、二の無畏なり。佛誠言を作す、我は障法を說くと。若は沙門婆羅門、若は天、

【五五】四無畏これ大乘たるを說く。佛一切智と漏盡と說障道と說盡苦道とに於て畏れなく懼りなし。非難に動轉せず。

若は魔、若は梵、若は復餘衆有りて、如實に難じて言く、是の法を受くるも道を障へずと。乃至是の微畏相を見ず。是を以ての故に、我は安隱を得、無所畏を得、聖主の處に安住し、大衆の中に在りて師子吼し、能く梵輪を轉ず。諸の沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆實に轉ずる能はず、三の無畏なり。佛誠言を作す、我が說く所、聖道にして能く世間を出づ、是の行能く苦を盡すと。若は沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆有りて如實に難じて言く、是の道を行じ、世間を出づる能はず、苦を盡す能はずと。乃至是の微畏相を見ず。是を以ての故に、我れ安隱を得、無所畏を得、聖主の處に安住し、大衆の中に在りて師子吼し、能く梵輪を轉ず。諸の沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆實に轉ずる能はず、四の無畏なり。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

(五六)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂四無礙智なり。何等をか四となす、(五七)義無礙、法無礙、辭無礙、樂說無礙なり。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

(五八)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂十八不共法なり。何等をか十八となす。一、諸佛身に失無し、二、口に失無し、三、念に失無し、四、(五九)異相無し、五、不定の心無し、六、(六〇)不知已

【五六】四無礙智これ大乘たるを說く。

【五七】義は法の相狀內容、法は體性言語名字、辭は名稱、樂說は文句說明。

【五八】十八不共法これ大乘たるを說く。

【五九】異相なし。衆生に遠近親疏を分別せず。

【六〇】不知已捨。又は不擇の捨と云ふ。知覺して捨離することあるも、知らずして捨せず、況や苦樂に著せんをや。

捨の心無し、七、(六一)欲滅無し、八、精進滅無し、九、念滅無し、十、慧滅無し、十一、解脱滅無し、十二、解脱知見滅無し、十三、一切身業智慧に隨て行ず、十四、一切口業智慧に隨て行ず、十五、一切意業智慧に隨て行ず、十六、智慧過去世を知見して無礙無障なり、十七、智慧未來世を知見して無礙無障なり、十八、智慧現在世を知見して無礙無障なり。須菩提、是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。

(六二)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の摩訶衍とは、所謂字等、語等、(六三)諸字入門なり。何等をか字等、語等、諸字入門と爲す。(六四)阿字門一切法、(六五)初めより生ぜざるが故に。羅字門一切法、(六六)垢を離るゝが故に。波字門一切法、(六七)第一義の故に。遮字門一切法、(六八)終に得べからざるが故に。諸法終らず、生ぜざるが故に。(六九)那字門諸法名を離れ、性相得ず失はざるが故に。(七〇)邏字門諸法、世間を度するが故に、亦愛枝因緣滅するが故に。(七一)陀字門諸法、善心生ずるが故に、

【六一】欲滅。善欲滅退衰滅す。

【六二】字門。これ大乘たるを說く。

【六三】諸字入門。字は字母にして音を表はす、字よく義に入る、故に門と云ふ。

【六四】阿 a 羅 ra 波 pa 遮 ca 那 na 邏 la 陀 da 婆 ba 荼 ḍa 沙 ṣa 和 va 多 ta 夜 ya 吒 ṭa 迦 ka 娑 sa 磨 ma 伽 ga 他 tha 闍 ja 簸 'sva 駄 dha 賒 'śa 呿 kha 叉 kṣa 哆 sta 若 jña 拖 rtha 婆 bha 車 cha 魔 sma 火 hva 嗟 tsa 伽 gha 咃 ṭha 拏 ṇa 頗 pha 歌 ska 醝 ysa 遮 'śca 咤 ṭa 荼 ḍha の四十二字を列ぬ、玄奘譯大般若には四十二字、大莊嚴經には四十六字、不空眞言には五十五字等あり。

【六五】初不生等は字母を語首又は語根とせるを擧げて示すのみ。阿提阿耨波陀を初不生と譯す。

【六六】垢は羅闍なり。故に羅と聞き離垢を思ふ。

【六七】第一義は波羅末陀を譯す。

【六八】不可得なるは諸行にあらざればなり。行は遮梨夜を譯す。

【六九】那は不と譯す。那と云へば不得不失不來不去等と知る。

【七〇】邏求は輕と譯す、邏と云へば離輕重相を知る。

【七一】陁摩は善と譯す、陁と云へば一切法善相を知る。

亦施相の故に。(七二)婆字門諸法、婆字離るゝが故に。(七三)茶字門諸法、茶字淨きが故に。(七四)沙字門諸法、六自在王性清淨の故に。(七五)和字門諸法語言道斷に入るが故に。(七六)多字門諸法、如相不動に入るが故に。(七七)夜字門諸法、如實不生に入るが故に。(七八)吒字門諸法、折伏不可得に入るが故に。(七九)迦字門諸法、作者不可得に入るが故に。(八〇)娑字門諸法(八一)時不可得に入るが故に、諸法時來轉するが故に。(八二)磨字門諸法、我所不可得に入るが故に。(八三)伽字門諸法、去者不可得に入るが故に。(八四)他字門諸法、處不可得に入るが故に。(八五)闍字門諸法、生不可得に入るが故に。(八六)簸字門諸法、簸字不可得に入るが故に。(八七)馱字門諸法、性不可得に入るが故に。(八八)賒字門諸法、定不可得に入るが故に、(八九)呿字門諸法、虛空不可得に入るが故に。(九〇)叉字門諸法、盡不可得に入るか故に。(九一)哆字門諸法、有不可得に入るが故に。(九二)若字門諸法、智

【七二】婆陀を譯して縛とす、婆と云へば無縛を知る。
【七三】茶闍他を譯して不熱とす、茶と云へば諸法無熱清淨を知る。
【七四】沙譯して六とす、故に人身六相清淨を知る。
【七五】和波他譯して語言とす。
【七六】多他譯して如とす。
【七七】夜他跋譯して如實とす。
【七八】吒婆譯して障礙とす。吒と云へば諸法障礙なきを知る。
【七九】迦邏迦譯して作者とす。
【八〇】娑婆（薩婆）譯して一切とす、故に娑と聞き一切法一切種不可得と知る。
【八一】娑摩耶を時と譯するが故に娑と聞き時不可得に入るか、但この義大論に見えず。
【八二】磨磨迦羅譯して我所とす。
【八三】伽陀譯して底とす、伽と聞き一切法底不可得を知る。
【八四】多陀阿伽陀譯して如去とす、故に如去不可得と知ると云ふ。
【八五】闍提闍羅譯して生老と云ふ。
【八六】簸は濕波なり、義の得べきなし。或は安穩性とす。
【八七】馱摩（達磨）譯して法と云ふ。
【八八】賒多譯して寂滅とす。
【八九】呿伽譯して虛空とす。
【九〇】叉耶譯して盡とす。
【九一】大論には阿利迦哆度求那を例とし哆字に法邊不可得を知るとす。
【九二】若那譯して智とす。

不可得に入るが故に。(九三)拖字門諸法、拖字不可得に入るが故に。(九四)婆字門諸法、破壞不可得に入るが故に。(九五)車字門諸法(九六)欲不可得に入るが故に。(九七)影の如く五陰も亦不可得の故に。(九八)摩字門諸法、摩字不可得に入るが故に。(九九)火字門諸法、喚不可得に入るが故に。(一〇〇)嗟字門諸法、嗟字不可得に入るが故に。(一〇一)伽字門諸法、厚不可得に入るが故に。(一〇二)他字門諸法、處不可得に入るが故に、(一〇三)拏字門諸法、不來、不去、不立、不坐、不臥に入るが故に。(一〇四)頗字門諸法、邊不可得に入るが故に。(一〇五)歌字門諸法、聚不可得に入るが故に。(一〇六)醝字門諸法、醝字不可得に入るが故に。(一〇七)遮字門諸法、行不可得に入るが故に。(一〇八)咤字門諸法、傴不可得に入るが故に。(一〇九)荼字門諸法、邊竟處不可得に入るが故に、終らず、生ぜざるが故に。荼を過ぎて(一一〇)字の說くべき無し。何を以ての故に、更に字無きが故に、諸字(一一一)無礙、無名、亦滅、說くべからず、示すべき無し。

【九三】拖字を含む阿利他は譯して義とす、拖を聞きて法義不可得を知る。
【九四】婆伽譯して破壞とす。
【九五】伽車提譯して去とす、一切法無所去を知る。
【九六】車陀譯して欲とす。
【九七】車耶譯して影とす。
【九八】阿濕摩譯して石とす。堅牢なり。
【九九】火婆夜譯して喚來とす。
【一〇〇】末嗟羅譯して慳とす。
【一〇一】伽那譯して厚とす。
【一〇二】他那譯して處とす。
【一〇三】拏譯して不とす。
【一〇四】頗羅譯して果とす。
【一〇五】歌大譯して衆又は聚とす。
【一〇六】醝字空とす。
【一〇七】遮羅地譯して行とす。
【一〇八】咤羅譯して岸とす。此岸彼岸區別不可得と知る。
【一〇九】波荼譯して必とす。以上字門の解、大論による、中に本文に通じ難きもの二三あり。
【一一〇】四十二字以外にあらばその支分なりと云ふ。但四十二字中母音は阿のみ又咤䇲等支派合成をも列ねたれば字母表として四十二字を見れば完からず。
【一一一】字一切の語に礙なし、國々異る故に定名なし、聞きて即ち盡く故に滅と云ふ。
【一一二】陀羅尼門二十功德を辨す。

べからず、見るべからず、書すべからず。須菩提、當に知るべし、一切諸法虛空の如し。(二二)須菩提、是を陀羅尼門と名く。所謂阿字の義、若は菩薩摩訶薩、是れ諸字門印、阿字印、若は聞き、若は受け、若は誦し、若は讀み、若は持し、若は他の爲に說く。是の如く知らば二十功德を得べし。何等をか二十となす。(二三)强識念を得、慚愧を得、堅固心を得、(二四)經の旨趣を得、智慧を得、樂說無礙を得、(二五)諸餘陀羅尼門を得易し、疑悔無き心を得、善を聞き喜ばず、惡を聞きて怒らざることを得、(二六)高からず下からず住し、心增無く減無きを得、善巧に衆生の語を知ることを得、巧に五陰、十二入、十八界、十二因緣、四緣、四諦を分別することを得、巧に衆生の諸根利鈍を分別することを得、巧に他心を知ることを得、巧に日月歲節を分別することを得、巧に天耳通を分別することを得、巧に宿命通を分別することを得、巧に生死通を分別することを得、能く巧に是處非處を說くことを得、巧に往來坐起等の身の威儀を知ることを得。須菩提、是れ陀羅尼門、字門、阿字門等なり。是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く、不可得を以ての故に。』

【二三】强識念。常に觀じて强く憶念す。
【二四】經の旨趣。佛の五種方便說法を知る。五とは諸法と何の爲と方便と理趣と大悲となり。
【二五】先きに正智大悲により樂說を得れば初節既に破る餘節破れ易し。
【二六】高からず等。憎愛斷を云ふ。

(一)發趣品第二十

(二)佛須菩提に告げ給はく、『汝問ふ、云何が菩薩摩訶薩大乘に發趣するやと。若し菩薩摩訶薩、六波羅蜜を行ずる時、(三)一地より一地に至る、是を菩薩摩訶薩大乘に發趣すと名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩、一地より一地に至るや。』佛言はく、(四)『菩薩摩訶薩、一切法來去の相無く、亦法若は來、若は去、若は至、若は不至有る無きを知る、諸法の相滅せざるが故に。菩薩摩訶薩、諸地に於て念せず、思惟せず、而も地業を修治し、亦地を見ず。何等か菩薩摩訶薩地業を治むるや。菩薩摩訶薩初地に住する時、十事を行ふ。(五)一には深心堅固、無所得を用ての故に。二には一切衆生の中に於て等心なり、衆生不可得の故に。三には布施、施者受者不可得の故に。四には善知識に親近し、亦自ら高うせず。五には法を求む、一切法不可得の故に。六には常に出家す、家不可得の故に。七には佛身を愛樂す、相好不可得の故に。八には法敎を演出す、諸法の分別不可得の故に。九には憍慢を破す、(六)生慧不可得の故に。十には實語、

【一】麗本はこれを第六卷の始とす。大論第四十九卷。この品第十八品に須菩提の問へる發趣大乘を答ふ。發趣とは大乘の向上して初地より二地に進むを云ふ。

【二】十地の地業を列ぬ。

【三】一地。大乘即地なり地に十分あり共地には乾慧乃至佛地の十、但菩薩地には歡喜、離垢、有光、增曜、難勝、現在、深入、不動、善根、法雲の十にして十地經等に說くもの是れなり。

【四】法來去なしと知り大悲精進方便力の故に善を修め勝地を求めて地と地相とを見ず。

【五】地業相は次に列ね釋す、參照。

【六】生慧。衆生と智慧と不可

諸語不可得の故に。菩薩摩訶薩、是の如く初地の中に住し、十事を修治し、地業を治む。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、二地の中に住し、常に八法を念ず。何等をか八となす。一には戒清淨、二には恩を知り恩を報ず、三には忍辱力に住す、四には歡喜を受く、五には一切衆生を捨てず、六には大悲心に入る、七には師を信じ恭敬し、諮受す、八には諸波羅蜜を勤求す。須菩提、是を菩薩摩訶薩、二地の中に住し、滿足すべき八法と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、三地の中に住して五法を行ず。何等をか五となす。一には多く學問して厭足無し、二には法施を淨め亦自ら高うせず、三には佛國土を淨め亦自ら高うせず、四には諸の世間の無量勤苦を受けて、以て厭ふことを爲さず、五には慚愧の處に住す。須菩提、是を菩薩摩訶薩三地の中に住し、滿足すべき五法と爲す。復次に須菩提、菩薩摩訶薩四地の中に住し、行を受け、十法を捨てざるべし。何等をか十となす。一には(七)阿練若住處を捨てず、二には少欲、三には知足、四には(八)頭陀の功德を捨てず、五には戒を捨てず、六には諸欲を穢惡とす、七には世間心を厭ふ、八には一切の所有を捨つ、九には心沒せず、十には一切の物を惜まず。須菩提、是を菩薩摩訶薩四地の中に住し、十法を捨てずと爲す。復次に須菩提、菩薩摩訶薩五地の中に住し、十二法を遠離すべし。何等をか十二となす。一には(九)親白衣を遠離す、二には比丘尼を遠離す、三には他家を慳惜することを遠離す、

なれば何ぞ我が持戒斷惑に憍らんや。

【七】阿練若（Araṇyaka）。寂靜と譯す。

【八】頭陀（Dhūta）。修治と譯す。十二法あり。

【九】親白衣。世俗に親近執著するなり。

四には無益の談處を遠離す、五には瞋恚を遠離す、六には自大を遠離す、七には懐人を遠離す、八には十不善道を遠離す、九には大慢を遠離す、十には自用を遠離す、十一には顚倒を遠離す、十二には婬怒癡を遠離す。須菩提、是を菩薩摩訶薩五地の中に住し、十二事を遠離すと爲す。復次に須菩提、菩薩摩訶薩六地の中に住し、當に六法を具足すべし。何等をか六となす。所謂六波羅蜜なり。復六法有り、爲すべからざる所なり。何等をか六となす。一には聲聞辟支佛の意を作さず、二には布施に憂心を生ずべからず、三には索むる所有るを見ては心沒せず、四には所有の物は布施す、五には布施の後心悔いず、六には深法を疑はず。須菩提、是を菩薩摩訶薩六地の中に住し、六法を滿具し、六法を遠離すべしと爲す。須菩提、菩薩摩訶薩七地の中に住し、二十法を遠離すべし、著すべからざる所なり。何等をか二十となす。一には我に著せず、二には衆生に著せず、三には壽命に著せず、四には衆數、乃至知者見者に著せず、五には斷見に著せず、六には常見に著せず、七には相を作すべからず、八には因見を作すべからず、九には名色に著せず、十には五陰に著せず、十一には十八界に著せず、十二には十二入に著せず、十三には三界に著せず、十四には著心を作さず、十五には願を作すべからず、十六には依止を作すべからず、十七には佛に依る見に著せず、十八には法に依る見に著せず、十九には僧に依る見に著せず、二十には戒に依る見に著せず。是の二十法著すべからざる所なり。復二十法の具足し滿ずべき有り。何等をか二十となす。一には空を具足す、二には無相を證す、三には無

作を知る、四には三分清淨、五には一切衆生の中に慈悲智具足す、六には一切の衆生を念せず、七には一切法等しく觀じ、是の中にも亦著せず、八には諸法實相を知り、是事も亦念せず、九には無生忍法、十には無生智、十一には諸法一相を說く、十二には分別の相を破す、十三には憶想を轉ず、十四には見を轉ず、十五には煩惱を轉ず、十六には等定慧地、十七には慧地意を調ふ、十八には心寂滅、十九には無礙智、二十には愛に染まず。須菩提、是を菩薩摩訶薩七地の中に住し、二十法を具足すべしと爲す。復次に須菩提、菩薩摩訶薩八地の中に住し、五法を具足すべし。何等をか五となす。衆生心に順入し、諸神通に遊戲し、諸佛の國を見る、見る所の佛國の如く自ら佛國を莊嚴す、如實に佛身を觀じ、自ら佛身を莊嚴す。是を五法具足し滿ずと名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩八地の中に住し、復五法を具足す。何等をか五となす。上下の諸根を知り、佛國土を淨め、如幻三昧に入り、常に三昧に入り、衆生所應の善根に隨て身を受く。是を菩薩摩訶薩八地の中に住し、五法を具足すと爲す。復次に須菩提、菩薩摩訶薩九地の中に住し、十二法を具足すべし。何等をか十二となす。無邊の國土、度する所の分を受け、菩薩所願の如きを得、諸天龍、(一〇)夜叉、(一一)乾闥婆の語を知りて說法を爲す、處胎成就し、家成就し、所生成就し、姓成就し、眷屬成就し、出生成就し、出家成就し、莊嚴佛樹成就し、一切諸善功德成滿し具足す。須菩提、是を菩薩摩訶薩九地の中に住し、十

【一〇】夜叉(Yakṣa)。苦活叉は捷疾と譯す。八部衆なり。
【一一】乾闥婆(Gandharva)。食香と譯す。八部衆なり。

二法を具足すべしと爲す。須菩提、十地の菩薩當に知るべし、佛の如しと。』

（一二）爾の時、慧命須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩、深心に地業を治むとするや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩、（一三）薩婆若に應ずる心に一切の善根を集む。是を菩薩摩訶薩深心に地業を治むと名く。』『云何が菩薩、一切衆生の中に於て等心なりとするや。』佛言はく、『若し菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心に四無量心を生ず。所謂（一四）慈悲喜捨なり。是を一切衆生の中に於て等心なりと名く。』『云何が菩薩、布施を修すとするや。』佛言はく、『菩薩一切衆生に施與し、（一五）分別する所無し。是を布施を修すと名く。』『云何が菩薩、善知識に親近すとするや。』佛言はく、『能く人をして薩婆若の中に入りて住せしむ、是の如く善知識に親近し、諮受し、恭敬し、供養す。是を善知識に親近すと名く。』『云何が菩薩（一六）法を求むとするや。』佛言はく、『菩薩、薩婆若に應ずる心に（一七）法を求め、聲聞辟支佛地に墮せず。是を法を求むと名く。』『云何が菩薩常に出家し、地業を治むとするや。』佛言はく、『菩薩世世（一八）雜心に出家せず、佛法中に出家し、能く障礙する者無し。是を常に出家し地業を治むと名く。』『云何が菩薩、佛身を愛樂し、

【一二】初地の業十事を釋す。

【一三】薩婆若に應ずる心。一切智に相應する願心、即ち未來成佛を願ふ。諸善戒定今後世の福樂の爲にせず只成佛の爲にす。

【一四】慈悲喜捨。衆生受樂を見て慈喜心を生じ佛樂を得しめんと、受苦を見て悲愍して一切苦を拔かんと、不苦不樂を見て捨心を發し衆生皆愛憎なからしめんとするなり。捨に捨財行施と捨結得道とあり。

【一五】分別する所なし。施者受者所施の三に於て分別憶想なきは出世の大施なり。

【一六】法に三あり無上法は涅槃、得涅槃方便は八正道、三に八正道を助くる一切の善語實語八萬四千の法蘊あり。

【一七】法を求め。書寫讀誦正憶念し解說教化するなり。

【一八】雜心出家。謂ゆる九十六種

地業を治むとするや。』佛言はく、『若し菩薩、佛の身相を見、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで、終に（一九）念佛を離れず。是を佛身を愛樂し、地業を治むと名く。』『云何が菩薩、法教を演出し、地業を治むとするや。』佛言はく、『若しは佛現在し、若は佛滅度の後、衆生の爲に說法し、（二〇）初も中も後も善く、（二一）妙義好語、（二二）淨潔、（二三）純具、所謂（二四）修多羅、乃至優波提舍なる、是を法教を演出して地業を治むと名く。』『云何が菩薩、憍慢を破り、地業を治むとするや。』佛言はく、『菩薩、是の憍慢を破るが故に、終に下賤の家に生ぜず。是を憍慢を破り地業を治むと名く。』『云何が菩薩實語に地業を治むとするや。』佛言はく、『菩薩所說の如く行ず。是を實語に地業を治むと名く。是を菩薩摩訶薩初住地の中に十事を修行し、地業を治むと爲す。』

（二五）『云何が菩薩、戒淸淨なりとするや。』『若し菩薩摩訶薩、聲聞、辟支佛心、及び諸の（二六）破戒、佛道を障ふる法を念ぜず。是を戒淸淨と名く。』『云何が菩薩、恩を知り恩を報ずとするや。』『若し菩薩摩訶薩、菩薩道を行じ、乃至小恩すら尚忘れず、何に況んや多をや。是を知恩報恩と名く。』『云何が菩薩、忍辱力に住すとするや。』『若し菩薩、一切衆

の外道中に出家する類なり。

【一九】念佛。佛を見、佛德を念じ佛行を行ふ。

【二〇】初中後。施を讃するは初、戒を讃するは中、人天に生ずるを後とするは在家三善。三界を厭ふは初、出家は中、離惑は後とするは出家三善。聲聞乘は初、獨覺乘は中、大乘實說を後とするは解脫三善。

【二一】妙義好語。義理深妙にして辭語具足す。

【二二】淨潔。正法を說き三垢を離る。

【二三】純具。六度八正道具足す。

【二四】修多羅等十二分教なり。

【二五】二地の八法を釋す。

【二六】破戒。總べて佛敎道德に背くもの。

生に於て瞋無く惱無し。是を住忍辱力と名く。』『云何が菩薩、歡喜を受くとするや。』『所謂衆生を成就し、此を以て喜と爲す。是を受歡喜と名く。』『云何が菩薩、一切衆生を捨てずとするや。』『若し菩薩の念、一切衆生を救はんと欲するが故に。是を不捨一切衆生と名く。』『云何が菩薩、大悲心に入るとするや。』『若し菩薩、是の如く念ず、我れ一一の衆生の爲の故に、如恒河沙等の劫、地獄の中に勤苦を受け、乃ち是の人佛道を得て、涅槃に入るに至るべしと。是の如きを名けて、一切十方衆生の爲に苦を忍ぶと爲す。是を入大悲心と名く。』『云何が菩薩、師を信じ恭敬し、諮受すとするや。』『若し菩薩、諸師に於て世尊の如く想ふ。是を信師恭敬諮受と名く。』『云何が菩薩、諸波羅蜜を勤求すとするや。』『若し菩薩、一心に諸波羅蜜を求めて異事無し。是を勤求諸波羅蜜と名く。是を菩薩摩訶薩、二地の中に住し、八法を滿足すと爲す。』

(三七)『云何が菩薩摩訶薩、多く學問し厭足無しとするや。』『諸佛所說の法、若は此の間の國土、若は十方の國土の諸佛所說の法、盡く聞持せんと欲す。是を多學問無厭足と名く。』『云何が菩薩、法施を淨むとするや。』『法施する所有り、乃ち阿耨多羅三藐三菩提をも求めざるに至る、何に況んや餘事をや。是を不求名利法施と名く。』『云何が菩薩、佛國土を淨むとするや。』『諸善根を以て淨佛國土に廻向す。是を淨佛國土と名く』。『云何が菩薩、世間無量の勤苦を受けて、以て厭ふことを爲さずとするや。』『諸の善根備具するが故に、能く衆生を成就し、亦佛土

【三七】三地中の五法を釋す。

を莊嚴し、乃ち薩婆若を具足するに至るまで、終に疲厭せず。是を受無量勤苦不以爲厭と名く。』『云何が菩薩、慚愧處に住すとするや。』『諸の聲聞辟支佛の意を恥づ。是を住慚愧處と名く。是を菩薩摩訶薩、三地の中に住し、五法を滿足すと爲す。』

（二八）『云何が菩薩、阿練若住處を捨てずとするや。』『能く聲聞辟支佛地を過ぐ、是を不捨阿練若住處と名く。』『云何が菩薩、欲少しとするや。』『乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るも尚欲せず、何に況んや餘欲をや。是を少欲と名く。』『云何が菩薩、足るを知るとするや。』（二九）『一切種智を得るのみ。是を知足と名く。』『云何が菩薩、頭陀の功德を捨てずとするや。』『諸の（三〇）深法忍を觀ず。是を不捨頭陀功德と名く。』『云何が菩薩、戒を捨てずとするや。』（三一）『戒相を取らざる、是を不捨戒と名く。』『云何が菩薩、諸欲を穢惡とするや。』『欲心生ぜざるが故に、是を穢惡諸欲と名く。』『云何が菩薩、世間心を厭ふとするや。』『一切法を知りて作さゞるが故に、是を厭世間心と名く。』『云何が菩薩一切所有を捨つるとするや。』『内外の諸法を惜まざるが故に、是を捨一切所有と名く。』『云何が菩薩、心沒せずとするや。』『二種識處に心生ぜざるが故に、是を心不沒と名く。』『云何が菩薩、一切物を惜まずとするや。』『一切物に於て著せず、念ぜず。是を不惜一切物と名く。是を菩薩四地の中に於て、十法を捨てずと爲す。』

【二八】四地中の十法を釋す。
【二九】知足は唯一の一切種智に滿足し他を求めず。
【三〇】深法忍。諸法無生に通達するなり。
【三一】戒相を取らず。諸法實相を見るが故に持戒を見ず況や破戒をや。

(三二)『云何が菩薩、親白衣を遠離すとするや。』『菩薩出家生ずる所、一佛國より一佛國に至り、常に出家し、頭を剃り染衣を著す。是を遠離親白衣と名く。』『云何が菩薩、比丘尼を遠離すとするや。』『比丘尼と共に住せず、乃至彈指の頃も亦念を生ぜず。是を遠離比丘尼と名く。』『云何が菩薩、他家を慳惜することを遠離すとするや。』『菩薩是の如く思惟す、我れ衆生を安樂にすべし、(三三)他今我を助け安樂なり、云何が慳を生ぜん。是を遠離慳惜他家と名く。』『云何が菩薩(三四)無益談處を遠離すとするや。』『若し談處有り或は聲聞辟支佛心を生ぜば、我れ當に遠離すべし。是を遠離無益談處と名く。』『云何が菩薩、瞋恚を遠離すとするや。』(三五)『瞋心、惱心、鬪心をして入るを得しめず。是を遠離瞋恚と名く。』『云何が菩薩(三六)自大を遠離すとするや。』『所謂內法を見ざるが故に、是を遠離自大と名く。』『云何が菩薩(三七)懱人を遠離すとするや。』『所謂外法を見ず。是を遠離懱人と名く。』『云何が菩薩、十不善道を遠離すとするや。』『是の十不善道能く八聖道を障ふ、何に況んや阿耨多羅三藐三菩提をや。是を遠離十不善道と名く。』『云何が菩薩(三八)大慢を遠離すとするや。』『是の菩薩、法の大慢を作すべき者を見ず。是を遠離大慢と名く。』『云何が菩薩、自用を遠離すと

【三二】五地中の十二法を釋す。

【三三】他今我を助け。自尚慳せず況や他をや。他助けざるをも等視す、況や助くるをや。

【三四】無益談處。綺語狂言の類。

【三五】瞋心。初生の反心、瞋心增長して打殺するを惱心と云ひ、惡口讒謗するを訟心と云ひ、增長して殺害等あるを鬪心と云ふ。

【三六】自大。憍心自ら高うするは身心有りとすればなり、內六處なければ自大なし。

【三七】懱人。人を蔑する慢心も他法別存すとすればなり。

【三八】大慢。劣を勝とし我に著す。十八空を行ずる時法の大小もなし況んや慢をや。

するや。』『是の菩薩、是の法の（三九）自ら用ふべき者を見ず。是を遠離自用と名く。』『云何が菩薩（四〇）顚倒を遠離すとするや。』『顚倒處得べからざるが故に、是を遠離顚倒と名く。』『云何が菩薩、婬怒癡を遠離すとするや。』『婬怒癡處見るべからざるか故に、是を遠離婬怒癡と名く。是を菩薩、五地の中に住し、十二法を遠離すと爲す。』

（四一）『云何が菩薩、六地の中に住し、六法、所謂六波羅蜜を具足すとするや。』『諸佛及び聲聞辟支佛、六波羅蜜の中に住し、能く彼岸に度る、是を六法を具足すと爲す。』『云何が菩薩、聲聞辟支佛意を作さずとするや。』『是の念を作す、聲聞辟支佛意は、阿耨多羅三藐三菩提に非らずと。』『云何が菩薩、布施に憂心を生せずとするや。』『是の念を作す、此れ阿耨多羅三藐三菩提に非らずと。』『云何が菩薩、索むる所有るを見て（四二）心沒せずとするや。』『是の念を作す、此れ阿耨多羅三藐三菩提に非らずと。』『云何が菩薩、所有の物は布施すとするや。』『菩薩初發心の時、布施するに、是れ與ふべきか、是れ與ふべからざるかを言はず。』『云何が菩薩、布施の後心悔いずとするや。』『慈悲力の故に。』『云何が菩薩、深法を疑はずとするや。』（四三）『信功德力の故に。是を菩薩、六地の中に住し、六法を遠離すと爲す。』

（四四）『云何が菩薩我に著せずとするや。』『畢竟無我の故に。』『云何が菩薩衆生に著せず、壽命に著せ

【三九】自ら用ふべきものを見ず。七種憍慢を拔き善法を樂めばなり。
【四〇】顚倒。法の常樂我淨を見る。
【四一】六地の六法を釋す。
【四二】心沒。悲惱憂苦するなり。
【四三】信功德力。福德大なる故に信力も大なり。
【四四】七地の二十法を釋す。大論第五十卷。

ず、衆數乃至知者見者に著せずとするや。』『是の諸法畢竟得べからざるが故に。』『云何が菩薩斷見に著せずとするや。』『法斷有る無く、諸法畢竟不生の故に。』『云何が菩薩常見に著せずとするや。』『若し法生ぜずば常と作さゞればなり。』『云何が菩薩相を取べからずとするや。』『諸の煩惱無きが故に。』『云何が菩薩因見を作すべからずとするや。』『諸見見るべからざるが故に。』『云何が菩薩名色に著せずとするや。』『名色處相無きが故に。』『云何が菩薩五陰に著せず、十八界に著せず、十二入に著せずとするや。』『是の諸法性無きが故に。』『云何が菩薩三界に著せずとするや。』『三界性無きが故に。』『云何が菩薩著心を作すべからずとするや。云何が菩薩願を作すべからずとするや。云何が菩薩依止を作すべからずとするや。』『是の諸法性無きが故に。』『云何が菩薩佛に依るの見に著せずとするや。』『依見を作せば佛を見ざるが故に。』『云何が菩薩法に依るの見に著せずとするや。』『法見るべからざるが故に。』『云何が菩薩僧に依るの見に著せずとするや。』『僧相無爲にして依るべからざるが故に。』『云何が菩薩戒に依るの見に著せずとするや。』『罪無罪著せざるが故に。是を菩薩七地の中に住し、二十法著すべからざる所と爲す。』『云何が菩薩(四五)空を具足すべしとするや。』『諸法(四六)自相空を具足するが故に。』『云何が菩薩(四七)無相を證すとするや。』『諸相を念ぜざるが故に。』『云何が菩薩無作を知る

【四五】空を具足。十八空又は人法二空又は畢竟空にして著せざるを云ふ。
【四六】自相空等。三種具足空皆これ自相空なり、七地中自相空を具足空とす。
【四七】無相證。無相即ちこれ涅槃の證すべきも修知分別具足すべからざるを云ふ。
【四八】三分清淨。三業等しく清淨なり。

とするや。』『三界の中に於て作さゞるが故に。』『云何が菩薩（四八）三分清淨とするや。』『十善道具足するが故に。』『云何が菩薩一切衆生の中、慈悲智具足すとするや。』（四九）『大悲を得るが故に。』『云何が菩薩一切衆生を念ぜずとするや。』『國土を淨め具足するが故に。』『云何が菩薩一切法等しく觀ずとするや。』『諸法に於て損益せざるが故に。』『云何が菩薩諸法の實相を知るとするや。』『諸法實相知る無きが故に。』『云何が菩薩無生忍とするや。』『諸法不生、不滅不作の爲の故に。』『云何が菩薩無生智とするや。』『名色不生を知るが故に。』『云何が菩薩諸法一相を說くとするや。』『心二相を行ぜざるが故に。』『云何が菩薩分別相を破すとするや。』『一切法分別せざるが故に。』『云何が菩薩（五〇）憶想を轉ずとするや。』『小大無量想轉ずるが故に。』『云何が菩薩（五一）見を轉ずとするや。』『聲聞辟支佛地に於て見を轉ずるが故に。』『云何が菩薩煩惱を轉ずとするや。』『諸の煩惱を斷ずるが故に。』『云何が菩薩（五二）等定慧地とするや。』『所謂一切種智を得るが故に。』『云何が菩薩、意を調ふとするや。』『三界に於て動ぜざるが故に。』『云何が菩薩心寂滅なりとするや。』『六根を制するが故に。』『云何が菩薩、無礙智なりとするや。』『佛眼を得るが故に。』『云何が菩薩、愛に染まずとするや。』（五三）『六塵を捨つるが故に。是を菩薩七地の中に住し、二

【四九】大悲。衆生緣法緣無緣の中、無緣の大悲を具足と云ふ。法性空實相空の悲なり。

【五〇】憶想を轉ず。內心諸法を憶想分別するを破す。

【五一】見を轉ず。先づ我見邊見等を轉じて悟り、法見涅槃見を轉じて二乘を過ぎ佛道に趣く。

【五二】等定慧地。初三地は慧多く定少く、次三地定多く慧少し。今二空による定慧等同なり。

【五三】六塵を捨つ。六塵中捨心を以て好惡相を取らざるなり。

十法を具足すと爲す。』

（五四）『云何が菩薩、衆生心に順入すとするや。』『菩薩一心を以て、一切衆生の心及び（五五）心數法を知る。』『云何が菩薩、諸神通に遊戲すとするや。』『是の神通を以て一佛國より一佛國に至り、亦佛國の想を作さゞるなり。』『云何が菩薩、諸佛國を觀ずとするや。』『自ら其の國に住し、無量の諸佛國を見る、亦佛國の想無し。』『云何が菩薩、見る所の佛國の如く、自ら其の國を莊嚴すとするや。』『轉輪聖王の地に住し、徧く三千大千國土に至り、以て自ら莊嚴す。』『云何が菩薩、如實に佛身を觀ずとするや。』『如實に（五六）法身を觀ずるが故に。是を菩薩、八地の中に住し、五法を具足すと爲す。』『云何が菩薩上下諸根を知るとするや。』『菩薩、佛の十方に住し、一切衆生の上下諸根を知る。』『云何が菩薩、佛國土を淨むとするや。』『衆生を淨むるが故に。』『云何が菩薩（五七）如幻三昧とするや。』『是の三昧に住し、能く一切事を成辦し、亦心相を生ぜず。』『云何が菩薩、常に三昧に入るとするや。』『菩薩（五八）報生三昧を得るが故に。』『云何が菩薩、衆生所應の善根に隨て身を受くとするや。』『菩薩衆生の善根を生ずべき所を知りて、身を受くることを爲して衆生を成就するが故に。是を菩薩、八地の中に住し、五法を具足すと爲す。』

【五四】八地中の五法を釋す。
【五五】心數法。心所卽ち種々の精神作用。
【五六】法身を觀ず。法身を見れば佛身を見る。法身は法空無性なり、因緣生の故に。
【五七】如幻三昧。幻人一處に在りて幻事世界に遍滿する如く菩薩この三昧中に十方に變化し布施敎化す。
【五八】報生三昧。果報得の定なれば眼色を見て勞せざるが如し。
【五九】九地の十二法を釋す。

(五九)『云何が菩薩、無邊の國土、度する所の分を受くとするや。』『十方無量國土の中の衆生、諸佛法度すべき所の者の如く、而も之を度脫す。』『云何が菩薩、所願の如きを得とするや。』『六波羅蜜を具足することを得るが故に。』『云何が菩薩、諸天龍、夜叉、乾闥婆の語を知るとするや。』『辭辯力の故に。』『云何が菩薩、胎生成就すとするや。』『菩薩世世常に化生するが故に。』『云何が菩薩家成就すとするや。』『常に大家に在りて生ずるが故に。』『云何が菩薩所生成就すとするや。』『若は刹利の家に生じ、若は婆羅門の家に生ずるが故に。』『云何が菩薩、姓成就すとするや。』『過去の菩薩所生の(六〇)姓の如く、此の中より生ずるが故に。』『云何が菩薩、眷屬成就すとするや。』『純ら諸菩薩摩訶薩、眷屬たるが故に。』『云何が菩薩、出生成就すとするや。』『生ずる時、光明徧く無量無邊の國土を照し、亦相を取らざるが故に。』『云何が菩薩、出家成就すとするや。』『出家の時、無量百千億の諸天侍從出家す、是の一切衆生必ず三乘に至る。』『云何が菩薩、莊嚴佛樹成就すとするや。』『是の菩提樹黃金を以て根と爲し、七寶を以て莖節枝葉と爲し、莖節枝葉の光明、徧く十方阿僧祇三千大千國土を照す。』『云何が菩薩、一切の諸善功德成滿具足すとするや。』『菩薩衆生清淨なれば、佛國も亦淨きをことを得。是を菩薩。九地の中に住し、十二法を具足すと爲す。』

(六一)『云何が菩薩、十地の中に住し、當に知るべし、佛の如しといふや。』『若し菩薩摩訶薩、六波羅

【六〇】姓の如く。七佛中三佛憍陳如を姓とし、三佛は迦葉姓、釋迦は瞿曇姓の類。
【六一】第十地の功德を釋す。
【六二】習。煩惱の餘習。

蜜、四念處、乃至十八不共法を具足し、一切種智具足し滿じて、一切煩惱及び(六二)習を斷す。是を菩薩摩訶薩、十地の中に住し、當に知るべし、佛の如しと爲す。須菩提、菩薩摩訶薩、是の十地の中に住し、方便力を以ての故に、六波羅蜜を行じ、四念處、乃至十八不共法を行じ、(六三)乾慧地、性地、八人地、見地、薄地、離欲地、已作地、辟支佛地、菩薩地を過ぎ、是の九地を過ぎ、佛地に住す。是を菩薩の十地と爲す。是の如く須菩提、是を菩薩摩訶薩大乘に發趣すと名く。』

【六三】乾慧地等。共の十地なり。

(一)出到品第二十一

(二)佛須菩提に告げ給はく、『汝が問ふ所、是の乘何處に出で、何處に至て住するかとは、』佛言はく、『是の乘三界の中より出で薩婆若の中に至て住す、不二の法を以ての故に。何を以ての故に、摩訶衍と薩婆若と是の二法倶に(三)合せず散ぜず、色無く形無く、對無く、一相所謂無相なればなり。若し人實際をして出でしめんと欲せば、是の人(四)無相法をして出でしめんと欲すと爲す。若し人如、法性、(五)不可思議性をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。若し人色空をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。若し人受想行識空をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、須菩提、色空の相三界を出でず、亦薩婆若に住せず。受想行識空の相三界を出でず、亦薩婆若に住せざればなり。所以は何ぞや。色色相空、受想行識識相空の故に。若し人眼空をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。若し人耳鼻舌身意空をして出でしめんと欲せ

【一】第十八品の問に答へ何處に出で何處に到るかを示す。

【二】出到を辨じて、三界を出で一切智に到るとす。而も空無相なれば實に出到の取るべきものなきを明す。

【三】合せず散ぜず。二法一ならざるが故に合せず、異ならざるが故に散ぜず。

【四】無相法に出入なし、是を出でしめんと欲するは妄想なり。

【五】不可思議性。即ち法性實際なり。法性とは心々所滅するを云ひ、或は法性涅槃を過ぎて有無思議すべからざるを云ひ或は一切佛法を云ふと。

ば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。若し人、乃至意觸因緣生の受空をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、須菩提、眼空三界を出でず、亦薩婆若に住せず。乃至意觸因緣生の受空三界を出でず、亦薩婆若に住せざればなり。所以は何ぞや。眼眼相空、乃至意觸因緣生の受、意觸因緣生の受相空の故に。若し人夢をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。若し人、幻燄響影化をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、須菩提、夢相三界を出でず、亦薩婆若に住せず。幻燄響影化相も亦三界を出でず、亦薩婆若に住せざればなり。須菩提、若し人、檀波羅蜜をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。若し人、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪波羅蜜、般若波羅蜜をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、檀波羅蜜相三界を出でず、亦薩婆若に住せず。尸羅波羅蜜乃至般若波羅蜜三界を出でず、亦薩婆若に住せず。所以は何ぞや。檀波羅蜜檀波羅蜜相空、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪波羅蜜、般若波羅蜜般若波羅蜜相空の故に。若し人內空をして出で、乃至無法有法空をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、須菩提、內空相乃至無法有法空相三界を出でず、亦薩婆若に住せざればなり。所以は何ぞや。內空、(六)內空性空、乃至無法有法

【六】內空性空。內法の空なりとする性も亦空なり。

空、無法有法空性空の故に。若し人四念處をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、四念處性三界を出でず、亦薩婆若に任せざればなり。所以は何ぞや。四念處性、四念處性空の故に。若し人四正勤、四如意足、五根、五力、七覺分、八聖道分をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、八聖道分性三界を出でず、亦薩婆若に任せざればなり。所以は何ぞや。八聖道分、八聖道分性空の故に。乃至十八不共法も亦是の如し。須菩提、若し人阿羅漢をして生處を出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。若し人辟支佛をして生處を出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。若し人多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀をして生處を出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、阿羅漢性、辟支佛性、佛性三界を出でず、亦薩婆若に任せざればなり。所以は何ぞや。阿羅漢性、阿羅漢性空、辟支佛性、辟支佛性空、佛性、佛性空の故に。若し須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果、辟支佛道、佛道、一切種智をして出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。上に說くが如し。若し人名字假名施設相、但だ語言有りて出でしめんと欲せば、是の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、名字空三界を出でず、亦薩婆若に任せざればなり。所以は何ぞや。名字相、名字相空の故に。乃至施設も亦是の如し。若し人不生不滅法、不垢不淨無作法をして出でしめんと欲せば、是

の人無相法をして出でしめんと欲すと爲す。何を以ての故に、不生乃至無作法性三界を出でず、亦薩婆若に住せざればなり。所以は何ぞや。不生性乃至無作性 性 空の故に。須菩提、是の因緣を以ての故に、摩訶衍三界の中より出で丶、薩婆若の中に住す、不動の故に。

(七)須菩提、汝が所問、是の乘何處に住すとは、須菩提、是の大乘住 處無し。何を以ての故に、一切法住相無きが故に。是の乘若し住するも法住に住せず。須菩提、譬へば法性の生ならず、滅ならず、垢ならず、淨ならず、相無く、作無く、住に非らず、不住に非らざるが如く、須菩提、是の乘も亦是の如し。住に非らず、不住に非らず。何を以ての故に、法性の相、乃至無作の相、住に非らず、不住に非らざればなり。所以は何ぞや。法性相性空の故に、乃至無作性、無作性性空の故に。諸餘の法も亦是の如し。須菩提、是の因緣を以ての故に、是の乘住 處無し、不住法、不動法を以ての故に。

(八)須菩提、汝が問ふ所、誰か當に是の乘に乘じて出づべき者ぞとは、人是の乘に乘じて出づる者有る無し。何を以ての故に、(九)是の乘及び出づる者、用ゆる所の法、及び出づる時、是の一切法皆所有無し。若し一切法所有無くんば、何等の法を用て出づべけん。何を以ての故に、我れ得べからず、乃至知者見者得べからず、(一〇)畢竟淨の故に。不可思議性得べからず、畢竟

【七】大乘は無住の住たるを明す。一切智に到り住すと云ふも定住なければなり。
【八】十八品に問へる能乘者を答へ實に乘者あるなきを述ぶ。
【九】乘は六波羅蜜、出者は菩薩用ゆる所の法は慈悲方便等。
【一〇】畢竟淨。性空の故に畢竟清淨なり。

浄の故に。陰入界得べからず、畢竟浄の故に。檀波羅蜜得べからず、畢竟浄の故に。乃至般若波羅蜜も得べからず、畢竟浄の故に。内空得べからず、畢竟浄の故に。乃至無法有法空も得べからず、畢竟浄の故に。四念處得べからず、乃至十八不共法も得べからず、畢竟浄の故に。須陀洹得べからず、乃至阿羅漢、辟支佛、菩薩、佛も得べからず、畢竟浄の故に。須陀洹果乃至阿羅漢果、辟支佛道、佛道、一切種智得べからず、畢竟浄の故に。不生不滅不垢不浄無起無作得べからず、畢竟浄の故に。過去世未來世現在世、生住滅得べからず、畢竟浄の故に。増減得べからず、畢竟浄の故に。何の法[一]得べからざるが故に得べからずとするか、法性得べからざるが故に得べからずとす。如、實際、不可思議性、法性、法位、檀波羅蜜得べからざるが故に得べからずとし、乃至般若波羅蜜も得べからざるが故に得べからずとす。内空得べからざるが故に得べからずとし、乃至無法有法空も得べからざるが故に得べからずとす。四念處得べからざるが故に得べからずとし、乃至十八不共法も得べからざるが故に得べからずとす。須陀洹得べからざるが故に、乃至佛も得べからざるが故に得べからずとし、須陀洹果得べからざるが故に得べからずとし、乃至佛道も得べからざるが故に得べからずとす。不生不滅、乃至不起、不作も得べからざるが故に得べからずとす。復次に、須菩提、初地得べからざるが故に得べからずとし、乃至第十地も得べからざるが故に得べからずとす、畢竟浄の故に。云何が初地

【一】不可得に二あり法あり智少くして不可得、大智推求するも不可得。今法無の故に不可得なり。

佛地、菩薩地、辟支佛地、已作地、離欲地、薄地、見地、八人地、性地、所謂乾慧地、乃至十地と爲す。內空の中初地得べからず、乃至無法有法空の中、初地得べからず、乃至無法有法空の中、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十地得べからず。何を以ての故に、須菩提、初地得に非らず、不得に非らず、乃至十地得に非らず、不得に非らず、畢竟淨の故に。內空乃至無法有法空の中、成就衆生得べからず、畢竟淨の故に。內空乃至無法有法空の中、淨佛國土得べからず、畢竟淨の故に。內空乃至無法有法空の中、五眼得べからず、畢竟淨の故に。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、一切諸法不可得なるを以ての故に、是の摩訶衍に乘じて、三界を出で薩婆若に住す。』

(一)卷の第七

(二)勝出品第二十二

慧命須菩提佛に白して言さく、(三)『世尊、摩訶衍、摩訶衍とは一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。世尊、是の摩訶衍、虚空と等し、虚空の無量無邊阿僧祇の衆生を受くる如く、摩訶衍も亦是の如く無量無邊阿僧祇の衆生を受く。世尊、是の摩訶衍、來處を見ず、去處を見ず、住處を見ず。是の摩訶衍、前際も得べからず、後際も得べからず、中際も得べからず、(四)三世等しく是れ摩訶衍なり。世尊、是を以ての故に、是の乘を摩訶衍と名く。』佛須菩提に告げ給はく、『是の如し是の如し、菩薩摩訶薩摩訶衍とは、謂ゆる六波羅蜜にして、檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜なり。是を菩薩摩訶薩摩訶衍と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩摩訶衍とは、一切陀羅尼門、一切三昧門なり。謂ゆる首楞嚴三昧乃至離著虚空不染三昧なり。是を菩薩摩訶薩摩訶衍と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩摩訶衍とは、謂ゆる四念處乃至十八不共法なり。是を菩薩摩訶薩摩訶衍と名く。

【一】麗本は第二十三品の終まで第六卷とし此に改卷せず。

【二】當品大乘の一切世間等に勝出することを明す。

【三】須菩提先きに五事を以て大乘を問ひ佛答を得、今大乘の力勢廣大を讚歎す。佛更に大乘義を説き給ふ。

【四】明本には三世の上に是名二字あり。

【五】諸法無常なるを以て大乘の勝出せるを說く。

(五)須菩提、言ふ所の如く、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し欲界に實、不虛妄、不異諦、不顚倒有るべく、常、不壞相、非無法有るべくんば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。須菩提、欲界は虛妄憶想分別和合名字等に一切無常相無法有るを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、色界無色界、若し實、不虛妄、不異諦、不顚倒有るべく、常、不壞相、非無法有るべくんば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。須菩提、色界無色界は虛妄憶想分別和合名字等に一切無常破壞相無法有るを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し色に實、不虛妄、不異諦、不顚倒有るべく、常、不壞相、非無法有るべくんば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。須菩提、色は虛妄憶想分別和合名字等に一切無常破壞相無法有るを以て、是を以ての故に是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。受想行識も亦是の如し。須菩提、若し眼乃至意、色乃至法、眼識乃至意識、眼觸乃至意觸、眼觸因緣生の受乃至意觸因緣生の受、若し實、不虛妄、不異諦、不顚倒有るべく、常、不壞相、非無法有るべくんば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。須菩提、眼乃至意觸因緣生の受は虛妄憶想分別和合名字等に一切無常破壞相無法有るを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。

(六)須菩提、若し法性、是れ有法にして(七)無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。須菩提、法性法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し如、實際、不可思議性、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。須菩提、如、實際、不可思議性法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し檀那波羅蜜、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。檀那波羅蜜法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。若し尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。尸羅波羅蜜乃至般若波羅蜜法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提若し內空乃至無法有法空、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。內空乃至無法有法空、法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し四念處乃至十八不共法、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。四念處乃至十八不共法、法非法無

【六】現象法のみならず、法性等も法の有とすべきなければ、これを無しとする大乘勝れたるを說く。

【七】無法。無爲空の故に無と云ふ。

きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し（八）性人法、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。性人法、法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し（九）八人法、須陀洹法、斯陀含法、阿那含法、阿羅漢法、辟支佛法、佛法、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能ばざるなり。八人法乃至佛法、法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し性地人、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。性地人、法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し八人須陀洹乃至佛、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。八人乃至佛法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し一切世間及び諸天人阿修羅、是れ有法にして無法に非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。一切世間及び諸天人阿修羅、法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し菩薩摩訶薩、初發心從り乃至（一〇）道場まで、其の中間の諸心に於て、若し是れ有法にして無法に

【八】性人法。性地の人法を云ふ。先きに一般に人空に就て説く。今諸地別說す。
【九】八人法等。第三八忍地以下の諸地を云ふ。
【一〇】道場。菩提、成佛を云ふ。

非ずば、是の摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。菩薩初發心より乃至道場まで、其の中間の諸心に於て、法非法無きを以て、是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し菩薩摩訶薩、(二)金剛の如き慧、若し是れ有法にして無法に非ずば、是の菩薩摩訶薩、一切の結使及び習、法非法無きを知り、一切種智を得る能はざるなり。須菩提、菩薩摩訶薩、金剛の如き慧は法非法無きを以て、是の故に菩薩は、一切の結使及び習、法非法無きを知り、一切種智を得。是を以ての故に摩訶衍は一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し諸佛の三十二相、是れ有法にして無法に非ずば、諸佛の威德照然、一切世間及び諸天人阿修羅に勝出する能はざるなり。須菩提、諸佛の三十二相は法非法無きを以て、是を以ての故に諸佛の威德照然、一切世間及び諸天人阿修羅に勝出す。須菩提、若し諸佛の光明、是れ有法にして無法に非ずば、諸佛の光明は普く恒河沙等の國土を照すこと能はざるなり。須菩提、諸佛の光明は法非法無きを以て、是を以ての故に諸佛は能く光明を以て普く恒河沙等の國土を照す。須菩提、若し諸佛の(三)六十種の莊嚴音聲、是れ有法にして無法に非ずば、諸佛六十種の莊嚴音聲を以て、偏く十方無量阿僧祇の國土に至ること能はざるなり。須菩提、諸佛の六

(二) 金剛の如き慧。菩薩最後心の勝慧、根本我を摧破するもの。

(三) 六十種の莊嚴音聲。密迹力士經には六十四種梵音を說く、これ八轉各々八德あればなり。八德は調和、柔軟、諦了、易解、無錯謬、無雌小、廣大、深遠なり。寶積經、秘密大乘經、莊嚴經、名義大集第二十等、潤澤、柔軟、悅意、可樂、清淨、離垢、乃至諸相具足の妙音六十ありと云ふ。

十種の莊嚴音聲、法非法無きを以て、是を以ての故に諸佛は能く六十種の莊嚴音聲を以て、徧く十方無量阿僧祇の國土に至る。須菩提、諸佛の法輪、若し是れ有法にして無法に非ざるべくば、諸佛は法輪を轉ずること能はざるべく、諸の沙門婆羅門、若は天若は魔、若は梵及び世間の餘衆、法の如く轉ずること能はざる所の者ならんや。須菩提、諸佛の法輪法非法無きを以て、是を以ての故に諸佛は法輪を轉ず、諸の沙門婆羅門、若は天若は魔、若は梵及び世間の餘衆は法の如く轉ずること能はざる所の者なり。須菩提、諸佛は衆生の爲に法輪を轉ず、是の衆生若し實に有法にして無法に非ずば、是の衆生をして無餘涅槃に於て般涅槃せしむる能はざるなり。須菩提、諸佛衆生の爲に法輪を轉ずるに、是の衆生法非法無きを以て、是を以ての故に能く衆生をして無餘涅槃の中に於て、已に滅し、今滅し當に滅すべからしむ。』

(一)等空品第二十三

(二)佛須菩提に告たまはく、『汝が言ふ所の(三)衍と空と等しきこと、是の如し、是の如し。須菩提、摩訶衍は虚空と等し。須菩提、(四)虚空に東方無く南方西方北方四維上下無きが如く、須菩提、摩訶衍も亦是の如く、東方無く南方西方北方四維上下無し。須菩提、虚空の長に非ず短に非ず方に非ず圓に非ざるが如く、須菩提摩訶衍も亦是の如く、長に非ず短に非ず方に非ず圓に非ず。須菩提、虚空の青に非ず黄に非ず赤に非ず白に非ず黒に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、青に非ず黄に非ず赤に非ず白に非ず黒に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと説く。須菩提、(五)虚空の過去に非ず未來に非ず現在に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、過去に非ず未來に非ず現在に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと説く。須菩提、虚空の増せず減せざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、増せず亦減せず。須菩提、虚空の垢無く淨無きが如く、摩訶衍も亦是の如く、垢無く淨無し。須菩提、虚空の生無く滅無く、住無く異無きが如く、摩訶衍も亦是の如く、生無く滅無く、住無く異無し。須菩提、(六)虚空

【一】品目、丹本宋元明本は含受品に作る。大乘の一切衆生を包含容受するを明すに名づく大論麗本本文の如し。大乘虚空に等しきを説くにより等空と名づく。
【二】前品に須菩提大乘虚空と等しと説くを印可し廣說す。
【三】衍。摩訶衍の略。
【四】虚空の無方無形無色の如く大乘も然り。
【五】空の非三世不增減無垢淨無生滅の如く大乘亦然り。
【六】空の非三性無見聞覺識不可知識見斷證修なる如く大乘亦然り。

の善に非ず不善に非ず、記に非ず無記に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、善に非ず不善に非ず、記に非ず無記に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。虛空の見無く聞無く、覺無く識無きが如く、摩訶衍も亦是の如く、見無く聞無く、覺無く識無し。虛空の知る可からず識る可からず、見る可からず斷つ可からず、證す可からず修す可からざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、知る可からず識る可からず、見る可からず斷つ可からず、證す可からず修す可からず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。(七)虛空の染相に非ず離相に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、染相に非ず離相に非ず。虛空の欲界に繫せず、色界に繫せず無色界に繫せざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、欲界に繫せず色界に繫せず無色界に繫せず。虛空の初發心無く、亦二三四五六七八九第十心無きが如く、摩訶衍も亦是の如く、初發心無く乃至第十心無し。虛空の乾慧地、性地、八人地、見地、薄地、離欲地、已辨地無きが如く、摩訶衍も亦是の如く、乾慧地、乃至(八)已作地無し。虛空の須陀洹果無く、斯陀含果無く、阿那含果無く、阿羅漢果無きが如く、摩訶衍も亦是の如く、須陀洹果無く、乃至阿羅漢果無し。虛空の聲聞地無く、辟支佛地無く、佛地無きが如く、摩訶衍も亦是の如く、聲聞地無く、乃至佛地無し。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。(九)虛空の色に非ず無色に非ず、可見に非ず不可見に非ず、有對に非ず無對に非ず、合に非ず散に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、色に非

【七】空の非染相離繫乃至佛地にあらざる如く大乘亦然り。
【八】已作地。已辨地に同じ。
【九】空の色等分別ならざる如く大乘も亦然り。

ず無色に非ず、可見に非ず不可見に非ず、有對に非ず無對に非ず、合に非ず散に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。須菩提、虛空の常に非ず無常に非ず、樂に非ず苦に非ず、我に非ず無我に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、常に非ず無常に非ず、樂に非ず苦に非ず、我に非ず無我に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。須菩提、虛空の空に非ず不空に非ず、相に非ず無相に非ず、作に非ず無作に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、空に非ず不空に非ず、相に非ず無相に非ず、作に非ず無作に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。須菩提、虛空の寂滅に非ず不寂滅に非ず、離に非ず不離に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、寂滅に非ず不寂滅に非ず、離に非ず不離に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。須菩提、虛空の闇に非ず明に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、闇に非ず明に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。須菩提、虛空の可得に非ず不可得に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、可得に非ず不可得に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。須菩提、虛空の可說に非ず不可說に非ざるが如く、摩訶衍も亦是の如く、可說に非ず不可說に非ず。是を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說く。須菩提、是の諸の因緣を以ての故に、摩訶衍と空と等しと說くなり。

(一〇)須菩提、汝が言ふ所の如く、虛空の無量無邊阿僧祇の衆生を受くるが如く、摩訶衍も亦無量無邊阿僧祇の衆生を受くること、是の如し是の如

【一〇】第廿品に須菩提の云へる空の含受する如く大乘も然ることを印可し廣說す。

し。須菩提、衆生（二）有ること無きが故に、當に知るべし虛空有ること無しと。虛空有ること無きが故に、當に知るべし摩訶衍も亦有ること無しと。是の因緣を以ての故に、摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受く。何を以ての故に、是の衆生、虛空、摩訶衍、是の法は皆不可得の故に。復次に須菩提、摩訶衍所有無きが故に、當に知るべし阿僧祇所有無しと。阿僧祇所有無きが故に、當に知るべし無量所有無しと。無量所有無きが故に、當に知るべし無邊所有無しと。無邊所有無きが故に、當に知るべし一切諸法所有無しと。是の因緣を以ての故に、須菩提、此の摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受く。何を以ての故に、是の衆生、虛空、摩訶衍、阿僧祇、無量、無邊、是の一切法不可得の故に。復次に須菩提、我、所有無く、乃至知者見者所有無きが故に、當に知るべし如、法性、實際、所有無しと。如、法性、實際、所有無きが故に、當に知るべし乃至無量無邊阿僧祇所有無しと。無量無邊阿僧祇所有無きが故に、當に知るべし一切法所有無しと。是の因緣を以ての故に、須菩提、是の摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受く。何を以ての故に、是の衆生、乃至知者見者、實際乃至無量無邊阿僧祇、是の一切法不可得の故に。復次に須菩提、我所有無く、乃至知者見者所有無きが故に、當に知るべし不可思議性所有無しと。不可思議性所有無きが故に、當に知るべし色受想行識所有無しと。色受想行識所有無きが故に、當に知るべし虛空所有無しと。虛空所有無きが故に、當に知るべし摩訶衍所有無しと。摩訶衍所有無きが故に、當に知るべし阿僧祇

【二】廣說皆虛空の無有、無所有を以て理由とす。

所有無しと。阿僧祇所有無きが故に、當に知るべし無量所有無しと。無量所有無きが故に、當に知るべし無邊所有無しと。無邊所有無きが故に、當に知るべし一切諸法所有無しと。是の因緣を以ての故に、須菩提、當に知るべし是の摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受くと。何を以ての故に、須菩提、我乃至知者見者等の一切法皆不可得の故に。復次に須菩提、我所有無く、乃至知者見者所有無きが故に、當に知るべし眼所有無く、耳鼻舌身意所有無し。眼乃至意所有無きが故に、當に知るべし虛空所有無しと。虛空所有無きが故に、當に知るべし摩訶衍所有無しと。摩訶衍所有無きが故に、當に知るべし阿僧祇所有無しと。阿僧祇所有無きが故に、當に知るべし無量所有無しと。無量所有無きが故に當に知るべし無邊所有無しと。無邊所有無きが故に、當に知るべし一切諸法所有無しと。是の因緣を以ての故に、須菩提、我乃至一切諸法、皆不可得の故に。復次に須菩提、我所有無く、乃至知者見者所有無きが故に、當に知るべし檀那波羅蜜所有無く、尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜所有無しと。般若波羅蜜所有無きが故に、當に知るべし虛空所有無しと。虛空所有無きが故に、當に知るべし摩訶衍所有無しと。摩訶衍所有無きが故に、當に知るべし無量無邊阿僧祇所有無しと。是の因緣を以ての故に、須菩提、是の摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受く。何を以ての故に、我衆生乃至一切諸法、皆不可得の故に、復次に須菩提、我所有無く、乃至知者見者所有無きが故に、當に知るべし內空所有無く、乃至無法有法空所有無しと。無法有法空所有無きが故に、當に知るべし

虛空所有無しと。虛空所有無きが故に、當に知るべし摩訶衍所有無しと。摩訶衍所有無きが故に、當に知るべし阿僧祇無量無邊所有無しと。阿僧祇無量無邊所有無きが故に、當に知るべし一切諸法所有無しと。是の因緣を以ての故に、須菩提、是の摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受く。何を以ての故に、我衆生乃至一切諸法、皆不可得の故に。復次に須菩提、我衆生乃至知者見者所有無きが故に、當に知るべし四念處所有無しと。四念處所有無きが故に、乃至十八不共法所有無し。十八不共法所有無きが故に、當に知るべし虛空所有無しと。虛空所有無きが故に、當に知るべし摩訶衍所有無しと。摩訶衍所有無きが故に、當に知るべし阿僧祇無量無邊所有無しと。阿僧祇無量無邊所有無きが故に、當に知るべし一切諸法所有無しと。是の因緣を以ての故に、須菩提、是の摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受く。何を以ての故に、我衆生乃至一切諸法皆不可得の故に。復次に須菩提、我衆生所有無く乃至知者見者所有無きが故に、當に知るべし性地所有無く、乃至已作地所有無しと。已作地所有無きが故に、當に知るべし虛空所有無しと。虛空所有無きが故に、當に知るべし摩訶衍所有無しと。摩訶衍所有無きが故に、當に知るべし阿僧祇無量無邊所有無しと。阿僧祇無量無邊所有無きが故に、當に知るべし一切諸法所有無しと。是の因緣を以ての故に、是の摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受く。何を以ての故に、我衆生乃至一切諸法皆不可得の故に。復次に須菩提、我衆生乃至知者見者所有無きが故に、當に知るべし須陀洹所有無しと。須陀洹所有無きが故に、當に知るべし斯陀含所有無しと。斯

陀含所有無きが故に、當に知るべし阿那含所有無しと。阿那含所有無きが故に、當に知るべし阿羅漢所有無しと。阿羅漢所有無きが故に、當に知るべし乃至一切諸法所有無しと。是の因緣を以ての故に、須菩提、是の摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受く。何を以ての故に、須菩提、我乃至一切諸法皆不可得の故に。復次に須菩提、我乃至知者見者所有無きが故に、當に知るべし聲聞乘所有無しと。聲聞乘所有無きが故に、當に知るべし辟支佛乘所有無しと。辟支佛乘所有無きが故に、當に知るべし佛乘所有無しと。佛乘所有無きが故に、當に知るべし聲聞人所有無しと。聲聞人所有無きが故に、當に知るべし須陀洹所有無しと。須陀洹所有無きが故に、乃至佛所有無しと。佛所有無きが故に、當に知るべし一切種智所有無しと。一切種智所有無きが故に、當に知るべし虛空所有無しと。虛空所有無きが故に、當に知るべし摩訶衍所有無しと。摩訶衍所有無きが故に、當に知るべし乃至一切諸法所有無しと。是の因緣を以ての故に、是の摩訶衍は無量無邊阿僧祇の衆生を受く。何を以ての故に、我乃至一切諸法皆不可得の故に。須菩提、譬へば涅槃性中に無量無邊阿僧祇の衆生を受くるが如く、是の摩訶衍も亦無量無邊阿僧祇の衆生を受く。是の因緣を以ての故に、須菩提、虛空の無量無邊阿僧祇の衆生を受くるが如く、是の摩訶衍も亦是の如く、無量無邊阿僧祇の衆生を受く。

〔三〕須菩提、汝が言ふ所の是の摩訶衍來處を見ず、去處を見ず、住處を見ずとのこと、是の如し是の如し。須菩提、是の摩訶衍來處を見ず、去處

【三】第廿二品に須菩提の言へる來處を見ず等の說を印可し

を見ず、住處を見ず。何を以ての故に、須菩提、一切諸法（三）不動相なるが故に。是の法來處無く、去處無く、住處無し。何を以ての故に。須菩提、色從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。受想行識從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、色法從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。受想行識法從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、色如從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。受想行識如從來する所無く、去る所無く、住する所も無し。須菩提、色性從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。受想行識性從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、色相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。受想行識相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、眼、眼法、眼如、眼性眼相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。耳鼻舌身意、意法、意如、意性、意相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。色聲香味觸法も亦是の如し。須菩提、地種、地種法、地種如、地種性、地種相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。水火風空識種、識種法、識種如、識種性、識種相も亦是の如し。須菩提、如、如法、如如、如性、如相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、實際、實際法、實際如、實際性、實際相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、不可思議、不可思議法、不可思議如、不可思議性、不可思議相從來する所無く、亦

て更に廣説し給ふなり。

【三】廣説皆不動な理由とす。

去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、檀那波羅蜜、檀那波羅蜜法、檀那波羅蜜如、檀那波羅蜜性、檀那波羅蜜相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜、般若波羅蜜法、般若波羅蜜如、般若波羅蜜性、般若波羅蜜相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、四念處、四念處法、四念處如、四念處性、四念處相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。乃至十八不共法も亦是の如し。須菩提、菩薩、菩薩法、菩薩如、菩薩性、菩薩相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。佛、佛法、佛如、佛性、佛相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。阿耨多羅三藐三菩提、阿耨多羅三藐三菩提の法と如と性と相と從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、有爲法、有爲法法、有爲法如、有爲法性、有爲法相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。須菩提、無爲法、無爲法法、無爲法如、無爲法性、無爲法相從來する所無く、亦去る所無く、亦住する所も無し。是の因緣を以ての故に、須菩提、是の摩訶衍の來處を見ず、去處を見ず、住處を見ず。

(一四)須菩提、汝が言ふ所の是の摩訶衍前際得べからず、後際得べからず(一五)中際得べからず、是の衍三世等しと名く、是を以ての故に、說て摩訶衍と名くとのこと、是の如し是の如し。須菩提、是の摩訶衍前際得べからず

【一四】第廿二品須菩提の前後中際得べからずとの說を印可し廣說し給ふ。

【一五】中際。現在世のこと。

後際得べからず、中際得べからず、是の衍三世等しと名く、是を以ての故に、說て摩訶衍と名く。何を以ての故に、須菩提、過去世は過去世空なり、未來世は未來世空なり、現在世は現在世空なり、(一六)三世等は三世等空なり、摩訶衍は摩訶衍空なり、菩薩は菩薩空なり。何を以ての故に、須菩提、是の空は一に非ず二に非ず三に非ず四に非ず五に非ず異に非ず。是を以ての故に、說て三世等と名く。是れ菩薩摩訶薩の摩訶衍なり。是の衍の中に等不等の相不可得なるが故に、染不染不可得、瞋不瞋不可得、癡不癡不可得、慢不慢不可得、乃至一切善法不善法不可得なり。是の衍の中に常不可得無常不可得、樂不可得苦不可得、實不可得空不可得、我不可得無我不可得、欲界不可得、色界不可得、無色界不可得、(一七)度欲界不可得、(一八)度色界不可得、(一九)度無色界不可得なり。何を以ての故に、是の摩訶衍は自法不可得なるが故に。須菩提、過去の色は過去の色空、未來現在の色は未來現在の色空なり。過去の受想行識は過去の受想行識空、未來現在の受想行識は未來現在の受想行識空なり。空の中の過去の色不可得なり。何を以ての故に、空の中の空も亦不可得なり、何に況んや空の中の過去の色得べけんや。空の中の未來現在の色不可得なり。何を以ての故に、空の中の空も亦不可得なり、何に況んや空の中の未來現在の色得べけんや。空の中の過去の受想行識不可得なり。何を以ての故に、空の中の空も亦不可得なり、何に況

【一六】三世等等。三世平等を大乘とするも平等も亦空なり不可得なり。
【一七】度欲界。欲界を超度し解脫すとす、初禪を得たるなり。
【一八】度色界。色界を超度し無色界を得たるを云ふ。
【一九】度無色界。三界の繫縛を離れ超界解脫せるを云ふ。

んや空の中の過去の受想行識得べけんや。空の中の未來現在の受想行識不可得なり、何を以ての故に、空の中の空も亦不可得なり、何に況んや空の中の未來現在の受想行識得べけんや。須菩提、過去の檀那波羅蜜不可得、未來の檀那波羅蜜不可得、現在の檀那波羅蜜不可得なり、三世の等の中の檀那波羅蜜も亦不可得なり、何を以ての故に、等の中の過去世不可得、未來世不可得、現在世不可得なり、等の中の等も亦不可得なり、何に況んや等の中の過去世未來世現在世得べけんや。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜も亦是の如し。復次に須菩提、三世の等の中の四念處不可得、三世の等の中の乃至十八不共法も亦不可得なり。何を以ての故に、等の中の過去世の四念處不可得、等の中の未來世の四念處不可得、等の中の現在世の四念處不可得なり、乃至十八不共法も亦是の如し、等の中の等も亦不可得なり、何に況んや等の中の過去世の四念處、未來世現在世の四念處得べけんや。等の中の等も亦不可得なり、何に況んや等の中の過去世乃至十八不共法得べけんや。未來現在世乃至十八不共法も亦是の如し。復次に須菩提、過去世の凡夫人不可得、未來世現在世の凡夫人不可得なり、三世の等の中の凡夫人も亦不可得なり。何を以ての故に、衆生不可得、乃至知者見者不可得なるが故に、過去世の聲聞辟支佛菩薩佛不可得、未來世現在世の聲聞辟支佛菩薩佛不可得、三世の等の中の聲聞辟支佛菩薩佛不可得なり。何を以ての故に、衆生不可得、乃至知者見者不可得なるが故に。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に住し、三世の等の相を學し、當に一切種智

を具足すべし。是を菩薩摩訶薩の摩訶衍と名く。謂ゆる三世の等の相の菩薩摩訶薩は是の衍の中に住し、一切世間及び諸天人阿修羅に勝り、薩婆若を成就す。』爾の時、須菩提佛に白して言さく『世尊、善い哉善い哉、是れ菩薩摩訶薩の摩訶衍なり。何を以ての故に、過去の諸の菩薩摩訶薩は是の衍の中に學して一切種智を得たり、未來の諸の菩薩摩訶薩も亦是の衍の中に學し、當に一切種智を得べし。世尊、今十方無量阿僧祇國土の中の諸の菩薩摩訶薩も亦是の衍の中に學して一切種智を得、是を以ての故に、世尊、是の衍は實に是れ菩薩摩訶薩の摩訶衍なり。』佛須菩提に告たまはく〔一〇〕『是の如し是の如し、過去未來現在の諸佛は、是の摩訶衍の中に學し、已に一切種智を得、當に得べく、今得たり。』

【一〇】如來此に印可し給へる意は世人或は染淨因緣なしと云ひ或は時到らば自得すとし、或は福德の成就によるとし、或は淨實の智慧によるとす。須菩提が此等を非因緣若くは少因緣として捨て具足因緣を說き三世菩薩皆大乘を學して佛道を成ずとするを讃じ給ふなり。

(一)會宗品第二十四

(二)爾の時、慧命富樓那彌多羅尼子佛に白して言さく、『世尊、佛は須菩提をして諸の菩薩摩訶薩の爲に般若波羅蜜を說かしむ、(三)今乃ち摩訶衍を說くことを爲すや。』須菩提佛に白して言さく、(四)『世尊、我れ摩訶衍を說き、將に般若波羅蜜を離るゝこと無からんとす、(五)離れたりとせんや不や。』佛言まはく、『不とよ、須菩提、汝摩訶衍を說く、般若波羅蜜に隨て般若波羅蜜を離れず。(六)何を以ての故に、(七)一切所有の善法、助道法、若は聲聞法、若は辟支佛法、若は菩薩法、若は佛法、是の一切法皆般若波羅蜜の中に攝入すればなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か諸の善法助道法聲聞法辟支佛法菩薩法佛法、皆般若波羅蜜の中に攝入するや。』佛須菩提に告たまはく、『謂ゆる(八)檀那波羅蜜尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜、四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分、空無相無作解脫門、佛十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法、(九)無錯謬法(一〇)相常捨行なり。須菩提、是の諸の餘の善法助道法、若は聲聞法、若は辟支佛法、若は菩薩

【一】第十八品以來廣く大乘を說く、般若波羅蜜と名異に義一なるを示すを會宗と云ふ。大論第五十二。

【二】富樓那は第十五品以下菩薩莊嚴を說く大乘と般若と一致することを疑はざるも新學鈍根の爲に疑なからしめんとして問ひ佛これを決す。

【三】般若を說かしむ、義宜しく般若を說くべし、これを措きて大乘を說くは何ぞ。

【四】須菩提は所說大乘これ般若とするに富樓那の疑難あるを以て所說に失ありやを問ふ。

【五】離れたりとせんや不やの一句は今意を以て補ふ。

【六】般若隨順の因緣を明す。

【七】一切所有。一切三乘の諸法

法、若は佛法も皆般若波羅蜜の中に攝入す。須菩提、若は菩薩摩訶薩の摩訶衍、若は般若波羅蜜、禪那波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜、若は色受想行識、眼色眼識、眼觸眼觸因緣生の諸受、乃至意法意識、意觸意觸因緣生の諸受、地種乃至識種、四念處乃至八聖道分、空無相無作解脫門及び諸の善法、若は有漏若は無漏、若は有爲若は無爲、若は苦諦集諦滅諦道諦、若は欲界若は色界若は無色界、若は內空乃至無法有法空、諸三昧門、諸陀羅尼門、佛十力乃至十八不共法、若は佛法、佛法性、如、實際、不可思議性、涅槃、是の一切諸法皆合せず散せず、色無く形無く、礙無く對無く一相謂ゆる無相なり。須菩提、此の因緣を以ての故に、汝の說く所の摩訶衍は般若波羅蜜に隨順す。何を以ての故に、須菩提、摩訶衍は般若波羅蜜に異ならず、般若波羅蜜は摩訶衍に異ならず、般若波羅蜜と摩訶衍とは二無く別無し。檀那波羅蜜は摩訶衍に異ならず、摩訶衍は檀那波羅蜜に異ならず、檀那波羅蜜と摩訶衍とは二無く別無し。乃至禪那波羅蜜も亦是の如し。須菩提、四念處は摩訶衍に異ならず、摩訶衍は四念處に異ならず、四念處と摩訶衍とは二無く別無し。乃至十八不共法も摩訶衍に異ならず、摩訶衍は十八不共法に異ならず、十八不共法と摩訶衍とは二無く別無し。此の因緣を以ての故に、須菩提、汝の摩訶衍を說くは卽ち是れ般若波羅蜜を說くなり。』

を云ふ。

【八】檀那等六度は菩薩法、四念處三十七道品三解脫門は三乘共法、十力乃至常捨行は佛法なり。

【九】無錯謬法。一切の過誤差謬を離る。

【一〇】相常捨行。或は恒住捨性と云ふ一心恒に法を失はざるなり。

(一)十無品第二十五

(二)慧命須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩(三)前際得べからず、後際得べからず、中際得べからざるなり。色無邊の故に、當に知るべし菩薩摩訶薩も亦無邊なりと。受想行識無邊の故に、當に知るべし菩薩摩訶薩も亦無邊なりと。色は是れ菩薩摩訶薩、是も亦得べからず。受想行識は是れ菩薩摩訶薩、是も亦得べからず。是の如く世尊、(四)一切種一切處に於て、菩薩を求むるも得べからず。世尊、我れ當に何等の菩薩摩訶薩に般若波羅蜜を敎ゆべきか。世尊、菩薩摩訶薩は但だ名字あるのみ、我の名字を說くも我は畢竟生ぜざるが如く、我の如く、諸法も亦是の如く自性無し。(五)何等の色も畢竟生ぜず、何等の受想行識も畢竟生ぜず。世尊、是れ畢竟生ぜずば、名けて色と爲さず。是れ畢竟生せずば、名けて受想行識と爲さず。世尊、若し畢竟不生の法ならば、當に是の般若波羅蜜を敎ゆべけんや。畢竟不生を離れて亦菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を行ずる無し。若し菩薩是の說を作すを聞き、心沒せず悔いず驚かず怖かず畏れずば、當に知るべし是の菩薩摩訶薩は能く般若波羅蜜を行じたりと。』

【一】上に菩薩人も菩薩名字も不可得とするも、今十種廣く分別して菩薩不可得を明す、故に十無と云ふ。

【二】菩薩無邊不可得なれば爲に說くべき菩薩なきを示すに三際不可得等の十を以てす。

【三】前際等三世不可得の義第廿三品に論ぜり、參照。

【四】一切種。一門乃至無量門一切の法差別なり。

【五】何等の色。一切の諸色法。

(六)舍利弗須菩提に問ふ、『何の因緣の故に、菩薩摩訶薩の前際得べからず、後際得べからず、中際得べからずと言ふや。須菩提、何の因緣の故に、色無邊の故に、當に知るべし菩薩も亦無邊なり。受想行識無邊の故に、當に知るべし菩薩も亦無邊なりと言ふや。須菩提、何の因緣の故に、色は是れ菩薩、是も亦得べからず、受想行識は是れ菩薩、是も亦得べからずと言ふや。須菩提、何の因緣の故に、一切種一切處に於て、菩薩得べからず、當に何等の菩薩に般若波羅蜜を敎ゆべきと言ふや。須菩提、何の因緣の故に、菩薩摩訶薩は但だ名字あるのみと言ふや。須菩提、何の因緣の故に、我の名字を說くも我は畢竟生せざるが如く、我の如く諸法も亦是の如く自性無し、何等の色も畢竟生せず、何等の受想行識も畢竟生せずと言ふや。須菩提何の因緣の故に、畢竟生せずば名けて色と爲さず、畢竟生せずば名けて受想行識と爲さずと言ふや。須菩提、何の因緣の故に、若し畢竟不生の法ならば、當に誰か是の般若波羅蜜を敎ゆべけんやと言ふや。須菩提、何の因緣の故に、畢竟不生を離れて亦菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を行ずること無しと言ふや。須菩提、何の因緣の故に、若し菩薩是の說を作すを聞きて心沒せず悔いず驚かず怖かず畏れず、若し能く是の如く行せば、是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行じたりと名くと言ふや。』

【六】舍利弗十種分別の因緣を問ふ。

(七)爾の時、須菩提舍利弗に報じて言く、『衆生有ること無きが故に、菩薩の前際得べからず。衆生空の故に、菩薩の前際得べからず。衆生離の故に、

【七】須菩提十種分別、第一三際不可得を明す。

菩薩の前際得べからず。舍利弗、色有ること無きが故に、菩薩の前際得べからず。受想行識有ること無きが故に、菩薩の前際得べからず。色空の故に、菩薩の前際得べからず。受想行識空の故に、菩薩の前際得べからず。色離の故に、菩薩の前際得べからず。受想行識離の故に、菩薩の前際得べからず。舍利弗、色の性無きが故に、菩薩の前際得べからず。受想行識の性無きが故に、菩薩の前際得べからず。舍利弗、檀那波羅蜜有ること無きが故に、菩薩の前際得べからず。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗黎耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜有ること無きが故に、菩薩の前際得べからず。何を以ての故に、舍利弗、空の中に前際得べからず、後際得べからず。中際得べからず。空は菩薩に異ならず、菩薩は前際に異ならず。舍利弗、空と菩薩と前際と是の諸法二無く別無し。是の因縁を以ての故に、舍利弗菩薩の前際得べからず。舍利弗、檀那波羅蜜空の故に、檀那波羅蜜離の故に、檀那波羅蜜性無きが故に、菩薩の前際得べからず。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗黎耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜空の故に、般若波羅蜜離の故に、般若波羅蜜性無きが故に、菩薩の前際得べからず。何を以ての故に、舍利弗、空の中に前際得べからず、後際得べからず、中際得べからず。空は菩薩に異ならず、菩薩は前際に異ならず。舍利弗、空と菩薩と前際と二無く別無し。是の因縁を以ての故に、舍利弗、菩薩の前際得べからず。復次に舍利弗、内空所有無きが故に、菩薩の前際得べからず。乃至無法有法空も所有無きが故に、菩薩の前際得べからず。内空空の故に、内空離の故に、内空性無きが故に、乃至無法有

法空も空の故に、離の故に、性無きが故に、菩薩の前際得べからず。餘は上に說ける如し。復次に舍利弗、四念處所有無きが故に、菩薩の前際得べからず。四念處空の故に、離の故に、性無きが故に、菩薩の前際得べからず。乃至十八不共法も所有無きが故に、菩薩の前際得べからず。十八不共法空の故に、離の故に、性無きが故に、菩薩の前際得べからず。餘は上に說ける如し。是の因緣を以ての故に、舍利弗、菩薩の前際得べからず。[八]復次に舍利弗、一切三昧門一切陀羅尼門有ること無きが故に、菩薩の前際得べからず、三昧門陀羅尼門空の故に、離の故に、性無きが故に、菩薩の前際得べからず。餘は上に說ける如し。復次に舍利弗、法性有ること無きが故に、菩薩の前際得べからず、法性空の故に、離の故に、性無きが故に、菩薩の前際得べからず。餘は上に說ける如し。復次に舍利弗、如有ること無きが故に、空の故に、離の故に性無きが故に、實際有ること無きが故に、空の故に、離の故に性無きが故に、不可思議性有ること無きが故に、空の故に、離の故に性無きが故に、菩薩の前際得べからず。餘は上に說ける如し。復次に舍利弗、聲聞有ること無きが故に、菩薩の前際得べからず。聲聞空の故に、離の故に性無きが故に、菩薩の前際得べからず。辟支佛有ること無きが故に、空の故に離の故に性無きが故に、菩薩の前際得べからず。佛有ること無きが故に、空の故に離の故に性無きが故に、菩薩の前際得べからず。阿耨多羅三藐三菩提有ること無きが故に、乃至性無きが故に、菩薩の前際得べからず。

【八】明本この處に卷を分ち第八の始とす。本文に十無品第二十五之餘と題す。

復次に、一切種智有ること無きが故に、乃至性無きが故に、菩薩の前際得べからず。(九)何を以ての故に、舍利弗、空の前際得べからず、後際得べからず、中際得べからず、菩薩得べからず。舍利弗、空は菩薩に異ならず、菩薩は前際に異ならず、空と菩薩と前際と是の諸法二無く別無し。是の因緣を以ての故に、舍利弗、菩薩の前際得べからず、後際中際も亦是の如し。

(一〇)舍利弗言ふ所の如く、色無邊の故に、當に知るべし菩薩も亦無邊なりと。受想行識無邊の故に、當に知るべし菩薩も亦無邊なりと。舍利弗、色は虛空の如く、受想行識は虛空の如し。何を以ての故に、舍利弗、虛空の邊得べからず、中得べからず、邊無く中無きが故に、但だ說きて虛空と名くるのみなるが如く、是の如く舍利弗、色の邊得べからず、中得べからず、是れ色空の故に、空の中に亦邊無く亦中無し。受想行識の邊得べからず、中得べからず、識空の故に、空の中に亦邊無く亦中無し。是の因緣を以ての故に、舍利弗、色無邊の故に、當に知るべし菩薩も亦無邊なりと。受相行識無邊の故に、當に知るへし菩薩も亦無邊なりと。乃至十八不共法も亦是の如し。

(一一)舍利弗言ふ所の如く、色は是れ菩薩、是も亦得べからず、受想行識は是れ菩薩、是も亦得べからずとは、舍利弗、色、色相空、受想行識、識相空、檀那波羅蜜、檀那波羅蜜相空なり。乃至、般若波

【九】總じて法空の故に菩薩空なるを明す。
【一〇】十分別第一、色等諸法無邊にして菩薩も無邊なれば邊中不可得なるを明す。
【一一】十分別中第三、五蘊等當體菩薩にして而も諸法の體相不可得なり菩薩不可得なるを說く。

羅蜜も亦是の如し。內空、內空相空、乃至無法有法空、無法有法空相空、四念處、四念處相空、乃至十八不共法、十八不共法相空、如法性實際不可思議性、不可思議性相空、三昧門、三昧門相空、陀羅尼門、陀羅尼門相空、一切智、一切智相空、道智、道智相空、一切種智、一切種智相空、聲聞乘、聲聞乘相空、辟支佛乘、辟支佛乘相空、佛乘、佛乘相空、聲聞人、聲聞人相空、辟支佛人、辟支佛人相空、佛、佛相空、空の中に色得べからず。受想行識得べからず。是の因緣を以ての故に、舍利弗、色は是れ菩薩、是も亦得べからず。受想行識は是れ菩薩、是も亦得べからざるなり。

〔三〕舍利弗言ふ所の如く、何の因緣の故に一切種一切處に於て菩薩得べからず、當に何等の菩薩に般若波羅蜜を敎ふべきやとは、舍利弗、色は色の中に得べからず、色は受の中に得べからず、受は受の中に得べからず、受は色の中に得べからず、受は想の中に得べからず、想は想の中に得べからず、想は色受の中に得べからず、想は行の中に得べからず、行は行の中に得べからず、行は色受想の中に得べからず、行は識の中に得べからず、識は識の中に得べからず、識は色受想行の中に得べからず。舍利弗、眼は眼の中に得べからず、眼は耳の中に得べからず、耳は耳の中に得べからず、耳は眼の中に得べからず、耳は鼻の中に得べからず、鼻は鼻の中に得べからず、鼻は眼耳の中に得べからず、鼻は舌の中に得べからず、舌は舌の中に得べからず、舌は眼耳鼻の中に得べからず、舌は身の中に得べからず、身は身の中に得

【三】十分別中第四、菩薩不可得の故に般若の所化とすべきものなきを示す。

べからず、身は眼耳鼻舌の中に得べからず、身は意の中に得べからず、意は眼耳鼻舌身の中に得べからず。六入六識六觸、六觸因緣生の受も亦是の如し。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法、一切三昧門、一切陀羅尼門、性法乃至辟支佛法、初地乃至第十地、一切智道種智一切種智も亦是の如し。須陀洹乃至阿羅漢、辟支佛、菩薩、佛も亦是の如し。菩薩は菩薩の中に得べからず、菩薩は般若波羅蜜の中に得べからず、般若波羅蜜は般若波羅蜜の中に得べからず、般若波羅蜜は菩薩の中に得べからず、般若波羅蜜の中に(一三)敎化所有無く得べからず、敎化の中に敎化所有無く得べからず、敎化の中に菩薩及び般若波羅蜜所有無く得べからず。舍利弗、是の如く一切法所有無く得べからず。是の因緣を以ての故に、一切種一切處に於て菩薩得べからず。當に何等の菩薩に般若波羅蜜を敎ふべきやと云ふ。

(一四)舍利弗言ふ所の如く、何の因緣の故に、菩薩摩訶薩は但だ(一五)假名有るのみと說くやとは、舍利弗、色は是れ假名、受想行識は是れ假名、色の名は色に非ず、受想行識の名は識に非ず。何を以ての故に、名の名相空なればなり。若し空なれば菩薩に非ず。是の因緣を以ての故に、舍利弗、菩薩は但だ假名有るのみ。復次に舍利弗、檀那波羅蜜は但だ名字有るのみ、名字の中に檀那波羅蜜有るに非ず、檀那波羅蜜の中に名字有るに非ず。是の因

【一三】能化の人法、所化の機別ありて、敎化の實とすべき所有あるも、今論ずる如くば實に敎化不可得なり。

【一四】十分別中第五、菩薩を敎ふとは假名施設に過ぎざるを說く。

【一五】假名。先きに名字と云ふに同じ、菩薩五蘊等の名を假設するなり。

縁を以ての故に、菩薩は但だ假名有るのみ。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜は但だ名字有るのみ、名字の中に般若波羅蜜有ること無く、般若波羅蜜の中に名字有ること無し。是の因縁を以ての故に、菩薩は但だ假名有るのみ。舍利弗、內空は但だ名字有るのみ、乃至無法有法空も但だ名字有るのみ、名字の中に內空無し、內空の中に名字無し。何を以ての故に、名字內空倶に得べからざればなり。乃至無法有法空も亦是の如し。是の因縁を以ての故に、舍利弗、菩薩は但だ假名有るのみ。舍利弗、四念處は但だ名字有るのみ、乃至十八不共法も但だ名字有るのみ、一切三昧門一切陀羅尼門乃至一切種智も亦是の如し。是の因縁を以ての故に、舍利弗、我れ菩薩は但だ假名有るのみと說く。

（一六）舍利弗言ふ所の如く、何の因縁の故に、我の名字を說くも我畢竟生ぜずとは、舍利弗、我は畢竟得べからず、云何が當に生有るべき。乃至知者見者は畢竟得べからず、云何が當に生有るべき。舍利弗、色は畢竟得べからず、云何が當に生有るべき。受想行識は畢竟得べからず、云何が當に生有るべき。眼は畢竟得べからず、乃至意觸因縁生の受は畢竟得べからず、云何が當に生有るべき。檀那波羅蜜は畢竟得べからず、乃至般若波羅蜜は畢竟得べからず、云何が當に生有るべき。內空は畢竟得べからず、乃至無法有法空は畢竟得べからず、云何が當に生有るべき。四念處は畢竟得べからず、乃至十八不共法は畢竟得

【一六】十分別中第六、名字空なるが如く人法畢竟不生なるを明す。

べからず、云何が當に生有るべき。諸三昧門諸陀羅尼門は畢竟得べからず、云何が當に生有るべき。聲聞乃至佛は畢竟得べからず、云何が當に生有るべき。是の因緣を以ての故に、舍利弗、我れ我の名字の如く、我も亦畢竟生せずと說く。(一七)舍利弗言ふ所の如く、我の如く諸法も亦是の如く自性無しとは、舍利弗、諸法は(一八)和合生の故に自性無し。舍利弗、何等か和合生にして自性無きや。舍利弗色は和合生にして自性無し、受想行識は和合生にして自性無し。眼は和合生にして自性無し、乃至意も和合生にして自性無し。色乃至法、眼界乃至法界、地種乃至識種、眼觸乃至意觸、眼觸因緣生の受、乃至意觸因緣生の受も和合生にして自性無し。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜も和合生にして自性無し。四念處乃至十八不共法も和合生にして自性無し。復次に舍利弗、一切法は常無く亦失せず。』舍利弗須菩提に問ふ、『何等の法か、常無く亦失せざるや。』須菩提言く、『色は常無く亦失せず、受想行識は常無く亦失せず。何を以ての故に、法若し常無ければ卽ち是れ動相、卽ち是れ空相なり。是の因緣を以ての故に、舍利弗、一切有爲法は常無く亦失せず。復次に舍利弗、若は有漏法若は無漏法、若は(一九)有記法若は無記法、常無く亦失せず。何を以ての故に、若し法常無ければ、卽ち是れ動相、卽ち是れ空相なり。是の因緣を以ての故に、舍利弗、一切(二〇)作法は常無く亦失せざるな

【一七】第六分別の中更に諸法無自性を明す。
【一八】和合生。衆緣の相應不相應によりて和合する爲に差別諸法となるを云ふ。
【一九】有記法。善若くは惡と記別せらるゝもの、無記法は善惡別つべからざるもの。
【二〇】作法。造作せらるゝもの卽ち有爲法なり。作者に約して作法と云ふ。

り。復次に舍利弗、一切法は常に非ず滅に非ず。』舍利弗言く、『何等の法か常に非ず滅に非ざるや。』須菩提言く、『色は常に非ず滅に非ず、何を以ての故に、（二一）性自ら爾るのみ。受想行識は常に非ず滅に非ず、何を以ての故に、性自ら爾るのみ。乃至意觸因緣生の受は常に非ず滅に非ず、何を以ての故に、性自ら爾るのみ。是の因緣を以ての故に、舍利弗、諸法は和合生にして自性無し。（二二）舍利弗言ふ所の如く、何の因緣の故に、色畢竟生せず、受想行識畢竟生せずとは、』須菩提言く、『色は作法に非ず、受想行識は作法に非ず。何を以ての故に、作者得べからざるが故に。舍利弗、眼は作法に非ず、何を以ての故に、作者得べからざるが故に。乃至意も亦是の如し。眼界乃至意觸因緣生の受も亦是の如し。復次に舍利弗、一切諸法は皆作に非ず、何を以ての故に、作者得べからざるが故に。是の因緣を以ての故に、舍利弗、色は畢竟生せず、受想行識は畢竟生せざるなり。

（二三）舍利弗言ふ所の如く、何の因緣の故に、畢竟生せずば、是を名けて色と爲さず、畢竟生せずば、是を名けて受想行識と爲さゞるやとは、』須菩提言く、『色の性空、是の空生無く滅無く、住無く異無し。受想行識の性空、是の空生無く滅無く、住無く異無し。眼乃至一切有爲法の性も空、是の空生無く滅無く、住無く異無し。是の因緣を以ての故に、舍利弗、畢竟生せずば是を色と名けず、畢

【二一】性自ら爾り：本然自性の存在を云ふが如きも無性の性にして自然論者の自爾任運を云ふにあらず。
【二二】第六分別中五蘊諸法畢竟不生の義を明す。
【二三】十分別中第七、畢竟不生なれば名けて五蘊等とすべきもののなきを明す。

竟生ぜずば是を受想行識と名けざるなり。

（三四）舍利弗言ふ所の如く、何の因緣の故に、畢竟不生の法ならば、當に是の般若波羅蜜を敎ふべけんやとは、』須菩提言く、『畢竟不生卽ち是れ般若波羅蜜、般若波羅蜜卽ち是れ畢竟不生、般若波羅蜜と畢竟不生とは二無く別無し。是の因緣を以ての故に、舍利弗、我れ、畢竟不生ならば當に是の般若波羅蜜を敎ふべけんやと說く。

（三五）舍利弗言ふ所の如く、何の因緣の故に、畢竟不生を離れて、菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を行ずる無しとは、』須菩提言く、『菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、畢竟不生の般若波羅蜜に異るを見ず、亦畢竟不生の菩薩に異るを見ず、畢竟不生及び菩薩は二無く別無し。畢竟不生の色に異るを見ず、何を以ての故に、是れ畢竟不生及び色は二無く別無ければなり。畢竟不生の受想行識に異るを見ず、何を以ての故に、畢竟不生と受想行識とは二無く別無ければなり。乃至一切種智も亦是の如し。是の因緣を以ての故に、舍利弗、畢竟不生を離れて、菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を行ずる無しとす。

（三六）舍利弗言ふ所の如く、何の因緣の故に、菩薩は是の說を作すを聞きて心沒せず悔いず驚かず怖かず畏れず、是を菩薩の般若波羅蜜を行ずと名くるやとは、』須菩提言く、『菩薩摩訶薩は諸法覺知相有り

【三四】十分別中第八、般若を敎ふる者なきを說く。

【三五】十分別中第九、畢竟不生を離れて菩提を行ずるなきを說く。

【三六】十分別中第十、菩薩なく菩提行なしとして驚怖せざるを明す。

と見ず、一切諸法を見るに、夢の如く響の如く幻の如く焰の如く影の如く化の如し。舍利弗、是の因緣を以ての故に、菩薩は是の說を作すを聞きて、心沒せず悔いず驚かず怖かず畏れざるなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、是の如く諸法を觀ず。是の時菩薩摩訶薩

(三七)色を受けず、色を示さず、色に住せず、色に著せず、亦是の色を言はず。受想行識も亦受けず、示さず住せず著せず、亦是の受想行識を言はず。眼受けず、示さず住せず著せず、亦是の眼を言はず。耳鼻舌身意受けず、示さず住せず著せず、亦是の意を言はず。檀那波羅蜜受けず、示さず住せず著せず、亦是の檀那波羅蜜を言はず。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜受けず、示さず住せず著せず、亦是の般若波羅蜜を言はず。內空受けず、示さず住せず、著せず、亦是の內空を言はず。乃至無法有法も亦是の如し。復次に世尊、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、四念處受けず、示さず住せず著せず、亦是の四念處を言はず、乃至十八不共法受けず、示さず住せず著せず、亦是の十八不共法を言はず、一切三昧門一切陀羅尼門、乃至一切種智受けず、示さず住せず著せず、亦是の一切種智を言はず。復次に世尊、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、色を見ず乃至一切種智を見ず。何を以ての故に、色不生是れ色に非ず、受想行識不生是れ識に非ず、眼不生是れ眼に非ず、耳

【三七】色を受けず。五蘊の五正觀行を明す。不受は五蘊無常の火に心を燒亂せず、不示は五蘊空として相を取らず、不住は五蘊に依止せず惱亂あるが故に、不著は身に寒熱病死あり心に憂愁恐怖ある故に著せず、不言は邪見を以て分別して常無常等を說かず。

鼻舌身意不生是れ意に非ず、檀那波羅蜜不生是れ檀那波羅蜜に非ず、乃至般若波羅蜜不生是れ般若波羅蜜に非ざればなり。何を以ての故に、色と不生とは二ならず別ならず、乃至般若波羅蜜と不生とは二ならず別ならざればなり。内空不生是れ内空に非ず、乃至無法有法空不生是れ無法有法空に非ず。何を以ての故に、内空乃至無法有法空と不生とは二ならず別ならざればなり。世尊、四念處不生、四念處に非ず。何を以ての故に、四念處と不生とは二ならず別ならざればなり。何を以ての故に、世尊、是の不生法は一に非ず二に非ず三に非ず異に非ず、是を以ての故に、四念處と不生とは二ならず別ならず。乃至十八不共法不生、十八不共法に非ず。何を以ての故に、十八不共法と不生とは二ならず別ならざればなり。何を以ての故に、世尊、是の不生法は〔三八〕一に非ず二に非ず三に非ず異に非ず、是を以ての故に、十八不共法不生、十八不共法に非ざるなり。世尊、如不生、是れ如に非ず、乃至不可思議性不生、是れ不可思議性に非ず。世尊、是の阿耨多羅三藐三菩提不生、一切智一切種智不生、是れ一切種智に非ず。何を以ての故に、是れ阿耨多羅三藐三菩提乃至一切種智と不生とは二ならず別ならざればなり。何を以ての故に、世尊、是の不生法は一に非ず二に非ず三に非ず異に非ず、是を以ての故に、乃至一切種智不生、一切種智に非ず。世尊、色不滅の相是れ色に非ず。何を以ての故に、色及び不滅の相二ならず別ならざればなり。何を以ての故に、世尊、是の不滅の法は一に非ず二に非ず三に非ず異に非ず、是を以ての故に、色不滅の相

〔三八〕一に非ず等。一相二相乃至多相等の決定相なきを云ふ。

是れ色に非ず。受相行識不滅の相是れ識に非ず。何を以ての故に、識及び不滅は二ならず別ならざればなり。何を以ての故に、世尊、是の不滅法は一に非ず二に非ず三に非ず異に非ず。是を以ての故に、識不滅是れ識に非ず檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、内空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法も亦是の如し。世尊、是を以ての故に、(二九)色無二の法數に入り、受想行識無二の法數に入る、乃至一切種智も無二の法數に入る。』

【二九】色無二の法數。色空によりて愛見を除くも偏空邪見に墮す、此二を離るゝを不二に入るとす。

(一)無生品第二十六

(二)爾の時、慧命舍利弗須菩提に語るらく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ諸法を觀ず。何等か是れ菩薩、何等か是れ般若波羅蜜、何等か是れ觀とする。』須菩提舍利弗に語るらく、『汝が問ふ所、何等か是れ菩薩とは、阿耨多羅三藐三菩提の爲に、是の人(三)大心を發す、是を以ての故に、名けて菩薩と爲す。亦一切法、一切種相を知り、是の中亦著せず、色相を知り、亦著せず、乃至十八不共法相を知り、亦著せず。』舍利弗須菩提に問ふ、『何等をか一切法相と爲すか。』須菩提言く、『若し名字因緣和合等を以て諸法を知り、是れ色、是れ聲香味觸法、是れ内是れ外、是れ有爲法是れ無爲法とせば、是の名字相の語言を以て諸法相を知る、是を諸法相を知ると名く。舍利弗問ふ所の如く、何等か是れ般若波羅蜜とは、(四)遠離の故に、是を般若波羅蜜と名く。何等の法か遠離なるや。陰界入を遠離し、檀那波羅蜜乃至禪那波羅蜜を遠離し内空乃至無法有法空を遠離す。是を以ての故に、遠離を般若波羅蜜と名く。復次に四念處を遠離し、乃至十八不共法を遠離し、一切智を遠離す。是の因緣を以ての故に、遠離を般若波羅蜜と名く。舍利

【一】菩薩般若義實に無量なるを以て重ねて不二無生に就て說く、故に無生品と云ふ。大論第五十三。

【二】菩薩般若の觀行、一切を知り一切を遠離するにあるを明す。

【三】大心。成佛を求むる心。無上菩提を求めて未だ得ざる衆生なるを以て菩薩と云ふ。

【四】遠離。大論には遠離の梵語阿羅蜜、度彼岸の波羅蜜と音近く義會ふを以て釋に用ふるものとす。

弗問ふ所の如く、何等か是れ觀とするとは、舍利弗、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、色を觀ずるに常に非ず無常に非ず、樂に非ず苦に非ず、我に非ず無我に非ず、空に非ず不空に非ず、相に非ず無相に非ず、作に非ず無作に非ず、寂滅に非ず不寂滅に非ず、離に非ず不離に非ずと。受想行識も亦是の如し。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法、一切三昧門、一切陀羅尼門、乃至一切種智、常に非ず無常に非ず、樂に非ず苦に非ず、我に非ず無我に非ず、空に非ず不空に非ず、相に非ず無相に非ず、作に非ず無作に非ず、寂滅に非ず不寂滅に非ず、離に非ず不離に非ずと觀ず。舍利弗、是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、諸法を觀ずと名く。

(五)舍利弗須菩提に問ふ、『何の因緣の故に、色不生是れ色に非ず、受想行識不生是れ識に非ず、乃至一切種智不生是れ一切種智に非ざるや。』須菩提言く、『色の色相空なり、色空の中色無く生無し、是の因緣を以ての故に、色不生是れ色に非ず、受想行識の識相空なり、識空の中識無く生無し、是の因緣を以ての故に、受想行識不生是れ受想行識に非ず。舍利弗、檀那波羅蜜の檀那波羅蜜相空なり檀那波羅蜜空の中檀那波羅蜜無く生無し、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗黎耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜の般若波羅蜜相空なり、般若波羅蜜空の中に般若波羅蜜無く生無し。是の因緣を以ての故に舍利弗、般若波羅蜜不生是れ般若波羅蜜に非ず、內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法、一切

【五】前品に說ける色不生是れ色に非ず等の文に就て問答說明す。無生觀により因中有果無果初生後生一異等を破す。自相空なり。

種智も亦是の如し。是の因緣を以ての故に、內空不生是れ內空に非ず、乃至一切種智不生是れ一切種智に非ざるなり。』舍利弗須菩提に問ふ、(六)『汝何の因緣の故に、色(七)不滅是れ色に非ず、受想行識不滅是れ識に非ず、乃至一切種智不滅是れ一切種智に非ずと言ふや。』須菩提答へて言く、『所有る色の所有は不滅、所有る受想行識の所有は不滅なり是れ一切法は皆合せず散せず、色無く形無く對無く、一相にして謂ゆる無相なり、眼乃至一切種智も亦是の如し。是の因緣を以ての故に、舍利弗、色不滅是れ色に非ず、受想行識不滅是れ識に非ず、乃至一切種智不滅是れ一切種智に非ずとす。』舍利弗須菩提に問ふ、(八)『何の因緣の故に色無二の法數に入り、受想行識無二の法數に入る、乃至一切種智も無二の法數に入ると言ふや。』須菩提答へて言く、(九)『色は無生に異ならず、無生は色に異ならず、色卽ち是れ無生、無生卽ち是れ色なり。受想行識は無生に異ならず、無生は識に異ならず、識卽ち是れ無生、無生卽ち是れ識なり、是の因緣を以ての故に、舍利弗、色無二の法數に入り、受想行識無二の法數に入る、乃至、一切種智も亦是の如し。』

(一〇)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、是の如く諸法を觀

【六】不生の次に不滅を說く。大論には前品不生不二不別と說くに從ひ無生觀に次ぐ不二觀なりとす。色の合散二相を破するを不二觀とす。散空なり。

【七】麗本と大論とは以下の不滅を不二とす。

【八】前品の終りを觀よ。

【九】色不生不滅を觀じ無生不二にして無生もなきを無二の法數に入るとす。

【一〇】須菩提舍利弗と問答終りて佛の證知を求む。

すれば、是の時に色無生を見る、(一一)畢竟淨の故に。受想行識無生を見る、畢竟淨の故に。我無生乃至知者見者無生を見る、畢竟淨の故に。檀那波羅蜜無生乃至般若波羅蜜無生を見る、畢竟淨の故に。內空無生乃至無法有法空無生を見る、畢竟淨の故に。四念處無生乃至十八不共法無生を見る、畢竟淨の故に。一切三昧一切陀羅尼無生を見る、畢竟淨の故に。乃至一切種智無生を見る、畢竟淨の故に。(一二)凡人凡人法無生を見る、畢竟淨の故に。須陀洹須陀洹法、斯陀含斯陀含法阿那含阿那含法、阿羅漢阿羅漢法、辟支佛辟支佛法、菩薩菩薩法、佛佛法無生を見る、畢竟淨の故に。』

(一三)舍利弗須菩提に語るらく、『我れ聞くが如くんば、須菩提の說く所の義、色は是れ不生、受想行識は是れ不生、乃至佛佛法は是れ不生なりと。若し爾らば今須陀洹須陀洹果、斯陀含斯陀含果、阿那含阿那含果、阿羅漢阿羅漢果、辟支佛辟支佛道を得べからず、菩薩摩訶薩は一切種智を得べからず、亦六道別異無く、亦菩薩摩訶薩(一四)五種菩提を得ず。須菩提、若し一切法不生相ならば、何を以ての故に、須陀洹は(一五)三結を斷ずる爲の故に道を修し、斯陀含は婬恚癡を薄くする爲の故に道を修し、阿那含は(一六)五下分結を斷ずる爲の故に

【一一】畢竟淨。前說の無生觀は柔順忍にして未だ畢竟淨ならず修習して無生無二不可得の忍に至るを畢竟清淨と云ふ。

【一二】凡人。麗本凡夫とす。

【一三】諸法不生にして得道有りや無きやを辨ず。

【一四】五種菩提。發心菩提、生死中に成佛心を發す。伏心菩提煩惱を降伏して諸度を行ず。明心菩提、三世諸法實相清淨を得。出到菩提、般若中方便具足し見佛得忍す。無上菩提成佛。

【一五】三結。身見、戒取、疑使。

【一六】五下分結。身見、戒取、疑貪、瞋。

道を修し、阿羅漢は（二七）五上分結を斷ずる爲の故に道を修し、辟支佛は（二八）辟支佛法の爲の故に道を修するや。何を以ての故に、菩薩摩訶薩は（二九）難行を作し、衆生の爲に種種の苦を受くるや。何を以ての故に、佛は阿耨多羅三藐三菩提を得るや。何を以ての故に、佛は法輪を轉ずるや。』須菩提舍利弗に語るらく、『我れ無生法をして所得有ら令めんと欲せず、我れ亦無生法の中に、須陀洹須陀洹果を得令めんと欲せず、乃至無生法の中に、阿羅漢阿羅漢果、辟支佛辟支佛道を得令めんと欲せず、我れ亦無生法の中に菩薩をして難行を作し、衆生の爲に種種の苦を受け令めんと欲せず、菩薩も亦難行の心を以て道を行ぜず。何を以ての故に、舍利弗、（三〇）難心苦心を生ぜば、無量阿僧祇の衆生を利益すること能はず。舍利弗、今菩薩は衆生を憐愍し、（三一）衆生に於て父母兄弟の想の如く、兒子及び己身の想の如く、是の如くして能く無量阿僧祇の衆生を利益す。無所得を以ての故に。所以は何ん、菩薩摩訶薩は是の如きの心を生ず應し、我の一切處一切種に不可得なるが如く、內外法も亦是の如しと。若し是の如きの想を生ずれば、則ち難心苦心無し。何を以ての故に、是の菩薩は一切處一切種一切法に於て受けざるが故に。舍利弗、我れ亦無生法の中に、佛をして阿耨多羅三藐三菩提を得令めんと欲せず、亦無生法の中に法輪を轉せ令

【二七】五上分結。掉擧、慢、無明、色愛、無色愛。

【二八】辟支佛法。聲聞法に似たるも利根にして少しく諸法實相に入る。

【二九】難行。菩薩諸行あるも難行苦行希有にして衆生感じ易ければ特にこれを擧ぐ。

【三〇】難心苦心。事を苦とし難ずる心、これあらば小事成せず況や佛道をや。

【三一】父母己身の想。强いて愛せず自然の愛なり、菩薩の大悲も亦然り。

めんと欲せず、亦無生法を以て道を得令めんと欲せず。』

(三二)舍利弗須菩提に語るらく、『今生法を以て道を得、無生法を以て道を得令めんと欲するや。』須菩提舍利弗に語るらく、『我れ生法を以て道を得令めんと欲せず。』舍利弗言く『今須菩提、無生法を以て道を得令めんと欲するや。』須菩提言く、『我れ亦無生法を以て道を得令めんと欲せず。』舍利弗言く、『須菩提說く所の如くば、知無く得無きや。』須菩提言く、(三三)『知有り得有るも二法を以てせず、今世間の名字を以ての故に知有り得有り、世間の名字の故に須陀洹乃至阿羅漢辟支佛諸佛有り、第一實義の中には知無く得無く、須陀洹無く乃至佛無し。』『須菩提、若し世間の名字の故に知有り得有らば、六道別異も亦世間の名字の故に有らん、第一實義を以てするに非ざらん。』須菩提言く、『是の如し是の如し、舍利弗、世間の名字の故に知有り得有るが如く、六道の別異も亦世間の名字の故に有り、第一實義を以てするに非ず。何を以ての故に、舍利弗、第一實義の中業無く報無く、生無く滅無く常無く苦無ければなり。』舍利弗須菩提に語るらく『不生法より生ずるか、生法より生ずるか。』須菩提言く、『我れ不生法をして生ぜ令めんと欲せず、亦生法をして生ぜ令めんと欲せず。』舍利弗言く、『何等の不生法をか生ぜ令めんと欲せざるや。』須菩提言く、『色は是れ不生法自性空、生ぜ令めんと欲せず、受想行識は是れ不生法自性空、生ぜ令めんと欲せ

【三二】諸法無生ならばこれを證するは生法なりや、無生法なりやを辨ず。生法は有爲、無生法は無爲なり。
【三三】知有り得有り。知道得果なり、これあるも生法不生法の二法によらず。

ず、乃至阿耨多羅三藐三菩提は是れ不生法自性空、生ぜ令めんと欲せず。』舍利弗須菩提に語るらく、『生より生ずるや、不生より生ずるや。』須菩提言く、『生より生ずるに非ず、不生より生ずるに非ず。何を以ての故に、舍利弗、生不生是の二法は合せず散せず、色無く形無く對無く、一相謂ゆる無相なり。舍利弗、是の因緣を以ての故に、生より生ずるにも非ず、亦不生より生ずるにも非ざるなり。』

(二四)爾の時、舍利弗須菩提に語るらく、『須菩提、無生法及び無生相を樂說するか。』須菩提舍利弗に語るらく、『我れ無生法を樂說し、亦無生相を樂說す。何を以ての故に、諸の無生法無生相、及び樂說の語言、是の一切法皆合せず散せず、色無く形無く對無く、一相謂ゆる無相なればなり。』舍利弗須菩提に語るらく、『汝は不生法を樂說し、亦不生相を樂說す、是の樂說の語言も亦生ぜざるや。』須菩提言く、『是の如し是の如し、舍利弗、何を以ての故に、舍利弗、色生ぜず受想行識生ぜず、眼生ぜず乃至意生ぜず、地種生ぜず乃至識種生ぜず、身行生ぜず口行生ぜず意行生ぜず、檀那波羅蜜生ぜず乃至一切種智生ぜず。是の因緣を以ての故に、舍利弗、我れ無生法を樂說し、亦無生相を樂說す、是の樂說の語言も亦生ずる無し。』

(二五)爾の時、舍利弗須菩提に語るらく、『須菩提、(二六)說法人の中に於て最も上に在るべし。何を以ての故に、須菩提、問ふ所に隨ひて皆能く答ふるや。』須菩提言く、『諸法所依無きが故に。』舍利弗須菩提

【二四】無生を說く語言も無生相なるを說く。
【二五】無所依淸淨なるを說く。
【二六】富樓那は說經第一なるが空相法門に於ては須菩提第一として讃ずるなり。

に語らく、『云何が諸法所依無きや。』須菩提言く、『色の性常に空にして(二七)内に依らず外に依らず兩の中間に依らず、受想行識の性常に空にして内に依らず外に依らず兩の中間に依らず、眼耳鼻舌身意の性常に空にして内に依らず外に依らず兩の中間に依らず、色の性常に空、乃至法の性常に空にして内に依らず外に依らず兩の中間に依らず、檀那波羅蜜の性常に空、乃至般若波羅蜜の性常に空にして内に依らず外に依らず兩の中間に依らず、内空の性常に空、乃至無法有法空の性常に空にして内に依らず外に依らず兩の中間に依らず。舍利弗、四念處の性常に空、乃至一切種智の性常に空にして内に依らず外に依らず兩の中間に依らず。是の因緣を以ての故に、舍利弗、一切諸法は所依無し、性常に空の故に。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、色受想行識を(二八)淨むべし、乃至一切種智を淨むべし。』(二九)舍利弗須菩提に問ふ、『菩薩摩訶薩云何が六波羅蜜を行ずる時に菩薩道を淨むるや。』須菩提言く、『世間檀那波羅蜜有り、出世間檀那波羅蜜有り、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜、世間有り出世間有り。』舍利弗須菩提に問ふ、『云何が世間檀那波羅蜜、云何が出世間檀那波羅蜜なるや。』須菩提言く、『若し菩薩摩訶薩施主と作りて能く沙門婆羅門貧窮乞人に施し、食を須には食を與へ、飲を須には飲を與へ、衣を須には衣を與へ、臥具牀榻房舍香華瓔珞醫藥種種須つ所の資生の物、若は妻子國

【二七】内に依らず等。内法空なれば内に依らず、外法空なれば外に依らず。中間無所有なれば兩の中間にも依らず、故に所依なし。

【二八】淨む。畢竟空ならしむるを云ふ。

【二九】六度淨を別説す。

土頭目手足支節等內外の物、盡く以て給施す。施す時に是の念を作す、我れ與へ彼れ取る、我れ慳貪ならず、我れ施主と爲り、我れ能く一切を捨つ、我れ佛の敎に隨ひて施し、我れ檀那波羅蜜を行ずと。是の施を作し已り、用て(三〇)法を得し、一切衆生とこれを共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向し、念言すらく、是の布施の因緣をもて衆生をして今世の樂を得令め、後涅槃の樂に入ることを得令むべしと。是の人布施に三礙有り。何をか三とする、我相と他相と施相となり。是の三相に著する布施、是を世間檀那波羅蜜と名く。何の因緣の故に世間と名くるや。世間の中に於て動かず出でず、是を世間檀那波羅蜜と名く。云何が出世間檀那波羅蜜と名くるや。謂ゆる(三一)三分淸淨なり。何等をか三となす、菩薩摩訶薩の布施する時、我れ得べからず、受者得べからず、施物得べからず、亦報を望まず、是を菩薩摩訶薩の三分淸淨檀那波羅蜜と名く。復次に舍利弗、菩薩摩訶薩の布施する時、一切衆生に施與するも、衆生も亦得べからず。此の布施を以て、阿耨多羅三藐三菩提に廻向するも、乃至微細の法相をも見ず。舍利弗、是を出世間檀那波羅蜜と名く。何を以ての故に名けて出世間と爲すや。世間の中に於て(三二)能く動き能く出づ、是の故に出世間檀那波羅蜜と名く。尸羅波羅蜜、所依有る是を世間尸羅波羅蜜と爲し、所依無き是を出世間尸羅波羅蜜と爲す。餘は檀那波羅蜜に說ける如し。羼提波羅蜜、毗黎耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜、所依有る是を世間と

【三〇】法を得し。この施事功德を成就すとす。
【三一】三分淸淨。我相他相施相の三礙なきなり、
【三二】能く動きは柔順忍を得るなり、能く出づは無生法忍を成ずなり。

名け、所依無き是を出世間と名く。餘は亦檀那波羅蜜に說ける如し。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時に菩薩道を淨む。』舍利弗須菩提に問ふ、『云何が菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提道と爲すや。』須菩提言く（三三）『四念處、是れ菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提道と爲す、乃至八聖道分、空解脫門無相解脫門無作解脫門、內空乃至無法有法空、一切三昧門一切陀羅尼門・佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲、舍利弗、是を名けて菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提道と爲す。』

（三四）爾の時、舍利弗須菩提を讃じて言く、『善い哉善い哉、何等の波羅蜜力なりや。』須菩提言く、『是れ般若波羅蜜力なり。所以は何ん、般若波羅蜜は能く一切諸善法、若は聲聞法辟支佛法菩薩法佛法を生ずるが故に。舍利弗、般若波羅蜜は能く一切諸善法、聲聞法辟支佛法菩薩法佛法を受くるがゆゑに、舍利弗、過去の諸佛は般若波羅蜜を行じて阿耨多羅三藐三菩提を得、未來の諸佛も亦般若波羅蜜を行じて、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べく、今現在十方諸佛國土の中の諸佛も亦是の般若波羅蜜を行じて阿耨多羅三藐三菩提を得。舍利弗、若し菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を說くを聞く時に疑はず難ぜざる、當に知るべし是の菩薩摩訶薩は菩薩道を行じたりと。菩薩道を行ずる者は一切衆生を救ふが故に、心一切衆生を捨てず、無所得を以ての故に。是の菩薩は常に是の念謂ゆる（三五）大悲念を離れざるべし。』舍利弗復問ふ『菩薩摩訶薩をして常に是の念、謂ゆる大悲念を離れ

【三三】三十七道品乃至大慈大悲は畢竟清淨にして菩提に近く法なり。
【三四】須菩提を讃じ併せて般若の妙力を明かにす。
【三五】大悲念。衆生緣法緣無緣の三悲。無緣は畢竟空より生ず。

ざらしめんと欲す、若し菩薩摩訶薩常に大悲念を離れずば、一切衆生をして皆當に菩薩と作ら令む。何を以ての故に、須菩提、一切衆生も亦諸念を離れざるが故に。』須菩提言く、『善い哉善い哉、舍利弗、汝我を難じて我が義を成ぜんと欲す。何を以ての故に、衆生無きが故に、念も亦無し、衆生の性無きが故に、念の性も亦無し、衆生の法無きが故に、念の法も亦無し、衆生離の故に、念も亦離なり、衆生空の故に、念も亦空なり、衆生知るべからざるが故に、念も亦知るべからず。舍利弗、色無きが故に、念も亦無し、色の性無きが故に、念の性も亦無し、色の法無きが故に、念の法も亦無し、色離の故に、念も亦離なり、色空の故に、念も亦空なり、色知るべからざるが故に、念も亦知るべからず、受想行識も亦是の如し。眼乃至意、色乃至法、地種乃至識種、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、内空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法、一切三昧門一切陀羅尼門、一切智一切種智、乃至阿耨多羅三藐三菩提知るべからざるが故に、念も亦知るべからず。舍利弗、菩薩摩訶薩は是の道を行じ、我れ是の念謂ゆる大悲念を離れざらしめんと欲す。』爾の時、佛須菩提を讃じて言はく、『善い哉善い哉、是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり、其れ説くこと有る者は亦是の如く説くべし。汝が説く所の般若波羅蜜は皆是れ佛意を承くるが故に、菩薩摩訶薩にして般若波羅蜜を學するもの、當に汝が所説の如く學すべし。』須菩提の是の般若波羅蜜品を説く時、三千大千國土六種に震動し、東に湧き西に沒し西に湧き東に沒し、南に湧き北に沒し北に湧き南に沒し、中に湧き邊に沒し邊に湧き中に沒す。爾の時佛微笑

佛須菩提に告たまはく、『我れ此の國土に於て般若波羅蜜を說くが如く、東方無量阿僧祇國土の中の諸佛も、亦諸の菩薩摩訶薩の爲に般若波羅蜜を說き、南西北方四維上下も亦是の般若波羅蜜を說く。是の般若波羅蜜品を說く時、十二那由他の諸〻の天人無生法忍を得、十方の諸佛の是の般若波羅蜜を說く時、無量阿僧祇の衆生も亦阿耨多羅三藐三菩提心を發す。』

し給ふ。須菩提佛に白して言さく、『佛何の因緣の故に微笑したまふや。』

(一)天王品第二十七

(二)爾の時、三千大千世界諸の(三)四天王天等、各無數百千億の諸天と倶に來りて會中に在り、三千大千世界の諸の(四)釋提桓因等諸の(五)忉利天、(六)須夜摩天王等の諸の(七)夜摩天、(八)珊兜率陀天王等の諸の兜率陀天、(九)須涅蜜陀天王等の諸の妙化天(一〇)婆舍跋提天王等の諸の自在行天、各無數百千億の諸天と倶に來りて會中に在り、三千大千世界の諸の梵天王等、乃至(一一)首陀婆諸天等、各無數百千億の諸天と倶に來りて會中に在り、是の諸の四天王天乃至首陀婆諸天、(一二)業報生身の光明、佛の(一三)常光に於て百分千分千萬億分の一にも及ぶこと能はず、乃至算數譬喩を以て比を爲すべからず、世尊の光明は最勝最妙最上第一なり、諸天業報の光明は佛光の邊に在りては照さず現れず、譬へば(一四)燋炷を閻浮檀金に比するが如し。

【一】品目 麗本問住品とし丹本宋本大論は天主品とす四天王梵釋諸天來會し帝釋等般若に住するを問ふ品なり。大論第五十四。

【二】諸天來集を明す。

【三】四天王。護世の多聞、持國增長、廣目なり。

【四】釋提桓因 (Śakrodevendra)。天主帝釋。

【五】忉利 (Trāyastriṃśa)。三十三天。

【六】須夜摩天(Suyāmadeva)。妙天と譯す。

【七】夜摩(Yāma)。時分と譯す。

【八】珊兜率天(Saṃtuṣita)。妙足と譯す。

【九】須涅蜜陀(Sunirmāṇaratideva。)化樂と譯す。

【一〇】婆舍跋提(Vaśavartina)。他化自在天と云ふ。

【一一】首陀婆(Śuddhāvāsa)。淨居と譯す。

【一二】業報生身。勝德の果報として得たる天人の身、各々光明あり。

【一三】常光。佛に神通光と常光とあり、常光は佛身として常に具ふる光明。

【一四】燋炷。松明の火。

（一五）爾の時、釋提桓因大德須菩提に白さく、『是の三千大千世界の諸の四天王天乃至首陀婆諸天、一切和合して須菩提の般若波羅蜜の義を說くを聽かんと欲す。須菩提、菩薩摩訶薩は（一六）云何が般若波羅蜜の中に住すべきや、（一七）何等か是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なるや、（一八）云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずべきや。』須菩提釋提桓因に語て言く、（一九）『憍尸迦、我れ今佛意に承順し、佛神力を承け、諸の菩薩摩訶薩の爲に般若波羅蜜を說き、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜の中に住すべき所の如くすべし。諸天子、今阿耨多羅三藐三菩提心を發さゞる者は、應に發心すべし。諸天子、若し聲聞の（二〇）正位に入らば、是の人は阿耨多羅三藐三菩提心を發す能はず。何を以ての故に、（二一）生死と障隔を作すが故に。是の人、若し阿耨多羅三藐三菩提心を發せば、我れも亦隨喜せん。所以は何ん、上人は更に上法を求むべく、我れ終に其の功德を斷たず。憍尸迦、何等か是れ般若波羅蜜なりやとは、菩薩摩訶薩は薩婆若に應ずる心に、色無常を念じ、色苦を念じ、色空を念じ、色無我を念じ、色病の如く、（二二）敗癰瘡の如く、箭の身に入れば痛惱衰壞憂畏安からざるが如く念ず、無所得を以ての故に。受想行識も亦是の如し。眼耳鼻舌身意、地種水火風空識種、無常乃至憂畏不安を觀ず、是も亦無所得の故に。色寂滅を觀じ、

【一五】帝釋の問に對へて般若波羅蜜を說く。
【一六】云何…住。深入究竟住を問ふ。
【一七】何等…般若。般若の體を問ふ。
【一八】云何…行。初入方便行を問ふ。
【一九】憍尸迦(Kauśika)。帝釋の別名。
【二〇】正位。小乘四果の如き已に聖道に入るもの。
【二一】漏盡力により後生なしとするが故生死と障隔すと云ふ。
【二二】敗癰瘡。大論疽癰瘡とし前後合して五蘊の十五惡を擧ぐるものとす。

不生不滅不垢不淨を離る。受想行識も亦是の如し。地種乃至識種寂滅を觀じ、不生不滅不垢不淨を離る、無所得を以ての故に。復次に憍尸迦、菩薩摩訶薩は薩婆若に應ずる心に、無明の緣によりて諸行あり、乃至老死の因緣によりて大苦聚集ありと觀ず、無所得を以ての故に。無明滅するが故に諸行滅す、乃至、生滅するが故に老死滅す、老死滅するが故に憂悲苦惱大苦聚滅するを觀ず、無所得を以ての故に。復次に憍尸迦、菩薩摩訶薩は薩婆若に應ずる心に、四念處を修す、無所得を以ての故に。乃至、佛の十力十八不共法を修す、無所得を以ての故に。復次に憍尸迦、菩薩摩訶薩は薩婆若に應ずる心に、檀那波羅蜜を行ず、無所得を以ての故に。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜を行ず、無所得を以ての故に。復次に憍尸迦、菩薩摩訶薩は、般若波羅蜜を行ずる時に是の觀を作す、但だ諸法は諸法と共相因緣し、潤益增長し分別校計す。是の中に我無く我所無し。(三)菩薩の廻向心は阿耨多羅三藐三菩提心の中に在らず、阿耨多羅三藐三菩提心は廻向心の中に在らず、廻向心は阿耨多羅三藐三菩提心の中に於て得べからず、阿耨多羅三藐三菩提心は廻向心の中に於て得べからず。菩薩は一切法を觀ずと雖も、亦法として得べき無し、是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜と名く。釋提桓因大德須菩提に問ふ『云何が菩薩の廻向心は阿耨多羅三藐三菩提心の中に在らざる、云何が阿耨多羅三藐三菩提心は廻向心の中に在らざる、云何が廻向心は阿耨多羅三藐三菩提心の中に於て得べからざる、云何が阿耨多羅三藐三菩提心は廻向心の

【三】廻向義を分別す。

中に於て得べからざるや。』須菩提釋提桓因に語て言く、『憍尸迦、廻向心、阿耨多羅三藐三菩提心は心に非ず、是れ心相に非ず、非心相の中に廻向すべからず、是の非心相は常に非心相、不可思議相は常に不可思議相なり、是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜と名く。』爾の時、佛須菩提を讃じて言はく、善い哉善い哉、須菩提、汝諸の菩薩摩訶薩の爲に般若波羅蜜を說き、諸の菩薩摩訶薩の心を安慰す。』須菩提佛に白して言さく『世尊、(二四)我れ恩を報ずべし、恩を報ぜざるべからず、過去の諸佛及び諸の弟子は、諸の菩薩の爲に六波羅蜜を說きて(二五)示教利喜し、世尊も爾の時亦中に在りて學し、阿耨多羅三藐三菩提を得たまへり、我れも今亦諸の菩薩の爲に六波羅蜜を說きて示教利喜し、阿耨多羅三藐三菩提を得しむべし。』

(二六)爾の時、須菩提釋提桓因に語て言く、『憍尸迦、汝今當に聽くべし、菩薩摩訶薩般若波羅蜜の中に住すべき所、住すべからざる所の如く。憍尸迦、(二七)色の色空、受想行識の受想行識空、菩薩の菩薩空、是の色空と菩薩空とは二ならず別ならず、受想行識空と菩薩空とは二ならず別ならず。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に是の如く住すべし。復次に眼の眼空、乃至意の意空、菩薩の菩薩空、眼空乃至菩薩空は二ならず別ならず、六塵も亦是の如し。地種の地種空、乃至識種の識種空、菩薩の菩薩空、憍尸迦、地

【二四】般若を說くを得るは三寶の恩なり、恩を報じて示教すべしとなり。
【二五】示教利喜。說法の四事、示とは善惡を分別す、教は捨惡行善せしむ、利は得ざるを得しめ退沒を引導す、喜は獎歡讃歎するなり。
【二六】般若の住すべき所を示す。
【二七】色の色空。色の色とすべき相空なり。

種空乃至識種空、菩薩空は二ならず別ならず。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に是の如く住すべし。無明の無明空、乃至老死の老死空、無明滅の無明滅空、乃至老死滅の老死滅空、菩薩の菩薩空、憍尸迦、無明空乃至老死空、無明滅空乃至老死滅空、菩薩空は二ならず別ならず。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に是の如く住すべし。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、内空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法、一切三昧門一切陀羅尼門、聲聞乘辟支佛乘佛乘、聲聞辟支佛菩薩佛も亦是の如し。一切種智の一切種智空、菩薩の菩薩空、一切種智空、菩薩空は二ならず別ならず。憍尸迦、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に是の如く住す應し。』

(三八)爾の時、釋提桓因須菩提に問ふ、『云何が菩薩般若波羅蜜の中に住すべからざる所ぞ。』須菩提言く、『憍尸迦、菩薩摩訶薩は(三九)色の中に住すべからず、有所得を以ての故に。受想行識の中に住すべからず、有所得を以ての故に。眼の中に住すべからず、乃至意の中に住すべからず、色の中に住すべからず、乃至法の中に住すべからず、眼識乃至意識、眼觸乃至意觸、眼觸因緣生の受乃至意觸因緣生の受の中に住すべからず、有所得を以ての故に。地種乃至識種の中に住すべからず、有所得を以ての故に。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、四念處乃至十八不共法の中に住すべからず、有所得を以ての故に。須陀洹果に住すべからず、有所得を以ての故に。乃至阿羅漢果辟支佛道菩薩佛道一切種智に住すべからず、有所得を

【三八】一切有所得に住すべからざるを明す。
【三九】色中等。色に住せばこれ實有とする有所得なり般若に合せず。

以ての故に。復次に憍尸迦、菩薩摩訶薩、色は是れ常として住すべからず、色は是れ無常として住すべからず、受想行識も亦是の如し。色は若は樂若は苦、若は淨若は不淨、若は我若は無我、若は空若は不空、若は寂滅若は不寂滅、若は離若は不離として住すべからず、有所得を以ての故に。受想行識も亦是の如し。復次に憍尸迦、菩薩摩訶薩は（三〇）須陀洹果無爲相、斯陀含果無爲相、阿那含果無爲相、阿羅漢果無爲相に住すべからず、辟支佛道無爲相、佛道無爲相に住すべからず。（三一）須陀洹福田に住すべからず、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛、佛福田に住すべからず。復次に憍尸迦、菩薩摩訶薩は初地の中に住すべからず、有所得を以ての故に。乃至第十地の中に住すべからず、有所得を以ての故に。復次に、菩薩摩訶薩は初發心の中に住し、我れ當に檀那波羅蜜を具足すべくも住すべからず、乃至我れ當に般若波羅蜜を具足すべくも住すべからず。六波羅蜜を具足して當に菩薩位に入るべくも住すべからず、菩薩位に入り已りて當に阿鞞跋致地に住すべくも住すべからず。菩薩は當に五神通を具足すべくも住すべからず、有所得を以ての故に。菩薩は五神通に住し已りて、我れ當に無量阿僧祇の佛國土に遊び、諸佛を禮敬し供養し法を聽き、法を聽き已りて他人の爲に說くべし、菩薩摩訶薩は是の如きも住すべからず、有所得を以ての故に。衆生を成就し佛道に入らしむるも住すべからず、無量阿僧祇の佛土の諸佛の所に到りて尊重愛

【三〇】須陀洹等の聖果無爲とせば相の取著なく住すべからず有爲ならば虛誑にして住すべからず。

【三一】須陀洹等の聖果に福田果報無量なりと說くを以て菩薩此に住せんとすべからず。

敬供養し、香華瓔珞(三二)塗香擣香幢旛華蓋百千億種の寶衣を以て諸佛を供養するも住すべからず、有所得を以ての故に。我れ當に無量阿僧祇の衆生をして阿耨多羅三藐三菩提心を發さしむべし、是の如きも菩薩は住すべからず、我れ當に五眼肉眼天眼慧眼法眼佛眼を生ずべくも住すべからず、我れ當に一切三昧門を生ずべくも住すべからず、欲する所に隨て諸三昧に遊戲するも住すべからず、我れ一切陀羅尼門を得べくも住すべからず、我れ當に佛の十力を得べくも住すべからず、我れ當に四無所畏四無礙智十八不共法を得べくも住すべからず、我れ當に大慈大悲を具足すべくも住すべからず、我れ當に三十二相を具足すべくも住すべからず、我れ當に八十隨形好を具足すべくも住すべからず、有所得を以ての故に。是れ(三三)八人、是れ(三四)信行の人、是れ法行の人、是の如きも住すべからず、須陀洹(三五)七世の生を極むるも住すべからず、(三六)家家住すべからず、須陀洹(三七)命終り垢盡くるも住すべからず、須陀洹(三八)中間涅槃に入るも住すべからず、是の人斯陀含果證に向ふも住すべからず、是の人(三九)斯陀含一來涅槃に入るも住すべからず、是の人(四〇)阿那含果證に向ふも住すべからず、斯陀含(四一)一種にも

【三二】塗香擣香。澤香搗香に作る。

【三三】八人。見諦道、八忍地。

【三四】信行法行は預流の初位に隨信と隨法と兩者あり。隨信は鈍根にして他敎を信じて行じ、隨法は自から法敎を觀て行ず。

【三五】七世。九品の思惑七生を潤すと云ひ初果の最長七世生とす。

【三六】家家。三世生巳りて涅槃に入る初果の家家と云ふ。

【三七】命終等。今世に漏盡羅漢を得るなり。

【三八】中間涅槃。現世に涅槃を得るものを除き、その他は中間に涅槃に入るとす。

【三九】欲界の六結を斷じ天上人間に一往來するを斯陀含と云ふ。人間に來りて涅槃に入るを一來と云ふ。

【四〇】欲界の第七結を斷するを

住すべからず、是の人(四二)阿那含(四三)彼間涅槃に入るも住すべからず、是の人阿羅漢果證に向ふも住すべからず、是の人阿羅漢今世無餘涅槃に入るも住すべからず、是の辟支佛にも住すべからず、聲聞辟支佛地を過ぎ我れ當に菩薩地に住すべくも住すべからず、道種智の中に住すべからず、有所得を以ての故に。一切種一切法を知り已りて諸の煩惱及び習を斷ずるも住すべからず、佛は阿耨多羅三藐三菩提を得て當に法輪を轉ずべくも住すべからず、佛事を作し無量阿僧祇の衆生を度し涅槃に入るも住すべからず、四如意足の中に住すべからず、(四四)是の三昧に入り住すること如恒河沙等の劫壽なるも住すべからず、我れ當に壽命無央數劫なるを得べくも住すべからず、三十二相一一相百福を以て莊嚴するも住すべからず、我が一國土十方恒河沙等の國土の如きも住すべからず、我が三千大千世界純ら是れ金剛なるも住すべからず、我が菩提樹是の如きの香を出すべく、衆生聞く者婬欲瞋恚愚癡有ること無く、亦聲聞辟支佛心も無く、是の一切の人は必ず當に阿耨多羅三藐三菩提を得べく、若し衆生是の香を聞く者は、身病意病皆悉く除盡するも住すべからず、我が世界の中に色受想行識の名字有ること無からしむべくも住すべからず、我が世界の中に檀那

阿那含に向ふと云ふ。

【四一】一種。第八結を斷ずるを一種子と云ふ。

【四二】阿那含。不還と譯す、此に死して復た來生せず、色無色界に於て涅槃に入る。

【四三】彼間涅槃。七種不還あり、中般は欲色の中有に涅槃し、生般は色界の初生に、有行般は色界に生じ加行せる後に、無行般は色界生後多功行なくして、上流般は色界に二生已上を受けて後に、無色般は欲界より直ちに無色に生じて般涅槃し、現般は欲界現身に般涅槃す。前六を彼間涅槃と云ふ。

【四四】是の三昧。四如意三昧を云ふ。

波羅蜜の名字有ること無く、乃至般若波羅蜜の名字有ること無からしむべく、我が世界の中に四念處の名字有ること無く、乃至十八不共法の名字有ること無く、亦須陀洹の名字無く乃至佛の名字有ること無からしむべくも住すべからず、有所得を以ての故に、諸佛は阿耨多羅三藐三菩提を得る時、一切諸法無所得の故に。是の如く憍尸迦、菩薩は般若波羅蜜の中に於て住すべからず、有所得を以ての故に。』

(四五)爾の時、舍利弗心に念ずらく、「菩薩云何が般若波羅蜜の中に住すべきや」と、須菩提舍利弗の心の所念を知り、舍利弗に語りて曰く、『汝の意に於て云何、諸佛何れの所に住するや。』舍利弗須菩提に語るらく、『諸の佛法住處有ること無し、諸佛は色の中に住せず、受想行識の中に住せず、有爲性の中に住せず、無爲性の中に住せず、四念處の中に住せず、乃至十八不共法の中に住せず、一切種智の中に住せず。』『舍利弗、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に是の如く住すべし、諸佛の諸法の中に住するが如く、住に非ず、不住に非ず。舍利弗、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に是の如く學すべし。我れ當に不住法に住すべきが故に。』

(四六)爾の時、會中に諸天子有りて是の念を作す、「諸夜叉の語言字句所説尚ほ了知すべし、須菩提の説く所の(四七)「語言論議解釋般若波羅蜜は了かに知るべからず」と。須菩提諸天子の心に念ずる所を知り

【四五】無所住の住たる、諸佛の如くなるを明かにす。
【四六】説法の執すべきものもなきを示す。
【四七】語言等。言説平易なるも皆趣幽玄にして了知し難し。

て、諸天子に語るらく、『解せず知らずや。』諸天子言く、『大德、解せず知らず』と。須菩提諸天子に語るらく、『汝等法を知らざるべく、我れ論說する所無く、乃至我れ一字をも說かず、亦聽者も無し。何を以ての故に、諸字は般若波羅蜜に非ず、般若波羅蜜の中に聽者無し、諸佛の阿耨多羅三藐三菩提に字無く說無し。諸天子、佛化人を化作し、是の化人復四部衆、比丘比丘尼優婆塞優婆夷を化作し、化人は四部衆の中に於て說法するが如き、汝の意に於て云何、是の中に說者有り、聽者有り、知者有りや不や。』諸天子言く、『不とよ、大德。』須菩提言く、『一切法は皆化の如く、此の中に說者無く聽者無く、知者無し。諸天子、譬へば人夢中に佛の說法を見るが如し。汝の意に於て云何、是の中に說者有り、聽者有り、知者有りや不や。』諸天子言く、『不とよ、大德。』須菩提諸天子に語るらく、『一切法皆夢の如くして說く無く、聽く無く知者無し。諸天子、譬へば二人大深〔四八〕澗に在り、各一面に住して佛法衆を讃ずるに、二響有りて出づるが如し。諸天子の意に於て云何、是の二響展轉相解するや不や。』諸天子の言く、『不とよ、大德。』須菩提諸天子に語るらく、『一切法も亦是の如く說く無く、聽く無く知者無し。諸天子、譬へば工なる幻師の四衢道中に於て佛及び四部衆を化作し、中に於て法を說くが如し。諸天子の意に於て云何、是の中に說者有り、聽者有り、知者有りや不や。』諸天子言く、『不とよ、大德。』須菩提諸天子に語るらく、『一切諸法は幻の如く、說者無く聽者無く知者無しと。』爾の時、諸天子心に念ずらく、『須菩提の說く

〔四八〕澗。溪谷なり。

所解し易からしめむと欲して、深を轉じ妙を轉ず」と。須菩提諸天子の心に念ずる所を知り、諸天子に語て言く『色は深に非ず妙に非ず、受想行識は深に非ず妙に非ず。色の性は深に非ず妙に非ず、受想行識の性は深に非ず妙に非ず。眼の性乃至意の性、色の性乃至法の性、眼界の性乃至意界の性、眼識乃至意識、眼觸乃至意觸、眼觸因緣生の受乃至意觸因緣生の受、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、内空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法、一切諸三昧門一切陀羅尼門、乃至一切種智一切種智の性は深に非ず妙に非ず。』諸天子復是の念を作す、「是の所說の法の中に色を說かず、受想行識を說かず、眼乃至意觸因緣生の受を說かず、檀那波波羅乃至般若波羅蜜を說かず、内空乃至無法有法空を說かず、四念處乃至十八不共法を說かず、陀羅尼門三昧門乃至一切種智を說かず。須陀洹果乃至阿羅漢果を說かず、辟支佛道を說かず、阿耨多羅三藐三菩提道を說かず。是の法の中に名字語言を說かず」と。須菩提諸天子の心に念ずる所を知り、諸天子に語て言く、『是の如し是の如し、諸天子、是の法の中に諸佛の阿耨多羅三藐三菩提は不可說の相なり、是の中に說者無く聽者無く知者無し、是を以ての故に、諸天子、善男子善女人は須陀洹果に住せんと欲し、須陀洹果を證せんと欲する者、是の人は（四九）是の忍を離れず。斯陀含阿那含阿羅漢果辟支佛道佛道に住せんと欲し、證せんと欲するも、是の忍を離れず。是の如く諸天子、菩薩摩訶薩は初發心より般若波羅蜜の中に（五〇）是の

【四九】是の忍。說聽なく法の住すべきものなしとするを云ふ。

【五〇】是の如く住す。一切法說聽なく諸觀滅し、語言斷する故に不可說不可聽不可知にして一切法に受なく著なし。

如く住することを作すべし、(五二)と說く無く聽く無きを以ての故に。』

【五二】明本此句に第八卷終る。

(一)卷の第八

(二)幻聽品第二十八

(三)爾の時、諸天子心に念ずらく、「何等の人を用ひて須菩提の所說を聽かしむべきか」と。須菩提諸天子の心に念ずる所を知り、諸天子に語りて言く、『幻化人の法を聽くが如く、我れ是の如きの人を用ゆべし。何を以ての故に、是の如き人は聞く無く、聽く無く、知る無く、證する無きが故に。』諸天子須菩提に語るらく、『是の衆生幻の如く、聽法者も亦幻の如く、衆生化の如く、聽法者も亦化の如くなるや。』『是の如し、是の如し諸天子、衆生幻の如く、聽法者も亦幻の如し、衆生化の如く、聽法者も亦化の如し。諸天子、我は幻の如く夢の如し、衆生乃至知者見者も亦幻の如く夢の如し。諸天子、色は幻の如く夢の如く、受想行識は幻の如く夢の如し、眼乃至意觸因緣生の受は幻の如く夢の如く、內空乃至無法有法空、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜は幻の如く夢の如し。諸天子、四念處乃至十八不共法は幻の如く夢の如く、須陀洹果は幻の如く夢の如く、斯陀含果阿那含果阿羅漢果、辟支佛道は幻の如く夢の如し。諸天子、佛道は幻の如く夢の如し』。爾の時、諸天子須菩提に問ふ『汝佛道を說く幻の如く夢の

【一】明本卷第九に作る。
【二】品目丗本大論幻人聽法品に作る、具略の別なり意同じ。般若無著を知れば聽者も幻人の如きを再說し、これを問法に堪ふる機とす、その機四人あり。大論第五十五。
【三】衆生も諸法も聖果も幻夢の如くなるを說く。

如くならば、汝涅槃を說くも亦幻の如く夢の如くなりや。』須菩提諸天子に語るらく、『我れ佛道を說く幻の如く夢の如し、我れ涅槃を說くも亦幻の如く夢の如し。若し(四)法の涅槃に勝る者有りとも、我れ亦復た幻の如く夢の如しと說くべし。何を以ての故に、諸天子、是れ幻夢と涅槃とは二ならず別ならざればなり。』

(五)爾の時、慧命舍利弗、摩訶目犍連、摩訶拘絺羅、摩訶迦旃延、富樓那彌多羅尼子、摩訶迦葉及び無數千菩薩須菩提に問ふ、『般若波羅蜜は是の如く(六)甚深にして、見難く解し難く知り難く(七)寂滅微妙なり。誰か當に受くべき者ぞ。』爾の時、阿難諸の大弟子及び諸の菩薩に語るらく、(八)『阿鞞跋致の諸の菩薩摩訶薩は、能く是の甚深にして見難く解し難く知り難き、寂滅微妙の般若波羅蜜を受く。正見成就の人、漏盡の阿羅漢、所願已に滿じたるものも亦能く之を受く。復次に善男子善女人多く佛を見たてまつり、諸佛の所に於て多く供養し、善根を種ゑ、善知識に親近して利根有り、是の人能く受け、是の法非法なりと言はず。』須菩提言く、『空を以て色を分別せず、色を以て空を分別せず、受想行識も亦是の如し。無相無作を以て色を分別せず、色を以て無相無作を分別せず、受想行識も亦是の如し。無生

【四】法の涅槃に勝る。佛涅槃は人法の最上なればこれに勝るものなきも假設して比試するのみ。

【五】深般若を受くるもの四人あるを說き終に受者も不可得なるを示す。

【六】甚深等。諸法定相なきを甚深と云ひ、思惟觀行滅するを難見と云ひ、不著般若を難解難知と云ふ。

【七】寂滅微妙。三毒戲論を離るるを寂滅と云ひ、智慧妙味滿足するを微妙と云ふ。

【八】受者四人あるを明す、一に不退の菩薩、二に漏盡の羅漢、三に三種學人正見成就せる者、四に未だ不退を得ざるも福德利根にして智慧清淨なる者。

無滅寂滅離を以て色を分別せず、色を以て無生無滅寂滅離を分別せず、受想行識も亦是の如し。眼乃至意觸因緣生の受も亦是の如し。檀波羅蜜乃至般若波羅蜜、內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法、一切三昧門一切陀羅尼門、須陀洹乃至阿羅漢辟支佛佛、一切智、空を以て一切智を分別せず、一切智を以て空を分別せず。空を以て一切種智を分別せず、一切種智を以て空を分別せず。無相無作無生無滅寂滅離も亦是の如し。』須菩提諸天子に語りて言く、『是の般若波羅蜜の中に法として示す可き無く、法として說く可き無し。若し法として示す可き無く、法として說く可き無くんば、受人も亦得べからざるなり。』爾の時、舍利弗須菩提に語りて言く、『般若波羅蜜の中には廣く三乘の敎及び菩薩を(九)攝取するの法、初發意地より乃至十地、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、四念處乃至八聖道分、佛の十力乃至十八不共法、菩薩を護持するの敎を說く。菩薩摩訶薩は是の如く般若波羅蜜を行じ、常に(一〇)化生して神通を失せず、諸佛の國に遊びて善根を具足し、其の欲する所に隨ひて諸佛を供養し、卽ち願の如くなることを得。諸佛の所に從ひて法敎を聽受し、薩婆若に至るまで初めより斷絕せず。未だ曾て三昧を離れざるの時、當に(一一)捷疾辯(一二)利辯(一三)不盡辯(一四)不可斷辯(一五)隨應辯(一六)義辯(一七)一切世間最上辯を得べし。』須菩提言く、『是の如し是の如し、舍利弗の言ふが

【九】攝取。利益し增長せしむるを云ふ。

【一〇】化生。說般若行の報として化生し胎卵濕生を受けず。

【一一】捷疾辯。一切法を辯じて無礙なり。

【一二】利辯。深く實相に入り鈍ならず。

【一三】不盡辯。實相を辯じて無邊無盡なり。

【一四】不可斷辯。般若に戲論なければ問難斷絕せらるゝことなし。

如く、般若波羅蜜には廣く三乘の敎、及び菩薩を護持するの敎を說き、乃至菩薩摩訶薩は一切世間最上辯を得。不可得なるが故に。我乃至知者見者も不可得、色受想行識、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜も不可得、內空乃至無法有法空も不可得、四念處乃至八聖道分、佛の十力乃至一切種智も不可得なるが故に。』舍利弗須菩提に語らく、『何の因緣の故に、般若波羅蜜の中に廣く三乘を說きて而も不可得なるや。何の因緣の故に、般若波羅蜜の中に菩薩を護持し、何の因緣の故に、菩薩摩訶薩の捷疾辯乃至一切世間最上辯を得るも不可得なるが故なりとするや。』須菩提舍利弗に語りて言く、『內空を以ての故に、般若波羅蜜は廣く三乘を說きて不可得とし、外空乃至無法有法空の故に、廣く三乘を說きて不可得とす。內空の故に菩薩を護持し、乃至一切世間最上辯不可得なるが故なりとし、外空乃至無法有法空の故に菩薩を護持し、乃至一切世間最上辯不可得なるが故なりとす。』

【一五】隨應辯。汙愛なき故に應機の法を說く。

【一六】義辯。涅槃に趣くことを說く。

【一七】一切世間最上辯。大乘を說くを云ふ。

(一)散華品第二十九

(二)爾の時、釋提桓因及び三千大千世界の中の四天王天乃至(三)阿迦尼吒諸天是の念を作す、「慧命須菩提法雨を雨さんとす、我等は寧ろ華を化作し、佛菩薩摩訶薩比丘僧、須提菩及び般若波羅蜜の上に散ずべし」と。卽時に釋提桓因及び三千大千世界の中の諸天華を化作し、佛菩薩摩訶薩比丘僧及び須菩提の上に散じ、亦般若波羅蜜に供養す。是の時三千大千世界の華悉く虚空の中に周徧し、華臺を化成す、端嚴殊妙なり。須菩提心に念ずらく、「是の諸天子の散ずる所の華、天上に曾て是の如きの華是に比する華を見ず、是の化華は(四)樹生の華に非ず、是れ諸天子の散ずる所の華は(五)心樹より生じ、樹生の華に非ず」と。釋提桓因は須菩提の心に念ずる所を知り、須菩提に語りて言く、『大德、是の華は生華に非ず、亦心樹より生じたるに非ず。』須菩提釋提桓因に語りて言く、『憍尸迦、汝是の華は生華に非ず、亦心樹より生じたるに非ずと言ふか。憍尸迦、若し生法に非ずば名けて華と爲さず。』釋提桓因須菩提に語りて言く、『大德、但だ是の華生ぜざるや、色も亦生ぜず、受想行識も亦生ぜざるや。』須菩提言く、『憍尸迦、但だ是の華の生ぜざるのみに非

【一】諸天供養の散華に因みて不生假名を説くが故に散華と名づく。

【二】華の不生なる如く諸法不生なるを説く。

【三】阿迦尼吒(Akaniṣṭha)。色究竟と譯す。

【四】樹生の華に非ず。諸法無生の故に無生の化華を供養す。

【五】心樹。麗本意樹に作る。天樹を云ふ、諸天隨意に得る所なるが故なり。

ず、色も亦生ぜず、若し生ぜずば是れ名けて色と爲さず。受想行識も亦生ぜず、若し生ぜずば是れ名けて識と爲さず。六入六識六觸因緣生の諸受も亦是の如し。檀那波羅蜜生ぜず、若し生ぜずば是れ檀那波羅蜜と名けず。乃至般若波羅蜜も生ぜず、若し生ぜずば是れ般若波羅蜜と名けず。内空生ぜず、若し生ぜずば是れ内空と名けず。乃至無法有法空も生ぜず、若し生ぜずば是れ無法有法空と名けず。四念處生ぜず、若し生ぜずば是れ四念處と名けず。乃至十八不共法も生ぜず、若し生ぜずば是れ十八不共法と名けず。乃至一切種智も生ぜず、若し生ぜずば是れ一切種智と名けず。』

(六)爾の時、釋提桓因是の念を作す、「慧命須菩提は、其の智甚深にして(七)假名を壞せずして、而も(八)諸法の相を說く」と。釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、慧命須菩提は云何が假名を壞せずして諸法の相を說くや。』佛釋提桓因に告げたまはく、『色は但だ假名なり、須菩提も亦假名を壞せずして諸法の相を說く。受想行識は但だ假名なり、須菩提も亦假名を壞せずして諸法の相を說く。所以は何かん、是れ諸法の相は壞不壞無きが故に、須菩提の說く所も亦壞不壞無し。眼乃至意觸因緣生の諸受も亦是の如し。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、内空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法も亦是の如し、須陀洹果乃至阿羅漢果、辟支佛道、菩薩道、佛道、一切智一切種智も亦是の如し。須陀洹乃至阿羅漢、辟支佛、佛は是れ但だ假名なり、須菩提は假名を壞せずして諸法の相

【六】不壞假名諸法實相を說き般若の學を明かにす。
【七】假名。五蘊等因緣和合の法に名字を假設するは俗諦、實相は第一義諦なり。
【八】諸法の相。麗本諸法の實相とす、下皆同じ。

を說く。何を以ての故に、是の諸法の相は壞不壞無きが故に、須菩提の說く所も亦壞不壞無し。是の如く、憍尸迦、須菩提は假名を壞せずして諸法の相を說く。』須菩提釋提桓因に語りて言く、『是の如し是の如し、憍尸迦、佛の說きたまふ所の如く諸法は但だ假名なり。菩薩摩訶薩は當に是の知を作すべし、諸法は但だ假名なり、是の如く般若波羅蜜を學すべし。憍尸迦、菩薩摩訶薩の是の如く學を作すをば、(九)色を學せず、受想行識を學せずと爲す。何を以ての故に、色の當に學すべき者を見ず、受想行識の當に學すべき者を見ざればなり。菩薩摩訶薩の是の如く學するをば、檀那波羅蜜を學せずと爲す。何を以ての故に、檀那波羅蜜の當に學すべき者を見ざればなり。乃至般若波羅蜜を學せず。何を以ての故に、般若波羅蜜の當に學す可き者を見ざればなり。是の如く學するをば、內空乃至無法有法空を學せずと爲す。何を以ての故に、內空乃至無法有法空の當に學すべき者を見ざればなり。是の如く學するをば、四念處乃至十八不共法を學せずと爲す。何を以ての故に、四念處乃至十八不共法の當に學すべき者を見ざればなり。是の如く學するをば、須陀洹果乃至一切種智を學せずと爲す。何を以ての故に、須陀洹果乃至一切種智の當に學すべき者を見ざればなり。』爾の時、釋提桓因須菩提に語りて言く、『菩薩摩訶薩は何の因緣の故に色を見ず、乃至一切種智を見ざるや。』須菩提言く、『色は色空、乃至一切種智は一切種智空なり。憍尸迦、色空は色空を學せず、乃至一切種智空は一切種智空を學せ

【九】色を學せず。假名法中色の定色とすべきなければ色を學せりとすべきものなしとするは色を學せるなり。

ず。憍尸迦、若し是の如く空を學せずば、是を空を學すと名く。不二を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は、色空を學す、不二を以ての故に、乃至一切種智空を學す。不二を以ての故に、若し色空を學せば、不二の故に、乃至一切種智空を學す。不二の故に、是の菩薩摩訶薩は、能く檀那波羅蜜を學す。不二の故に、乃至能く般若波羅蜜を學す。不二の故に、能く四念處を學す。不二の故に、乃至能く十八不共法を學す。不二の故に、能く須陀洹果を學す。不二の故に、乃至能く一切種智を學す。不二の故に、是の菩薩は、能く無量無邊阿僧祇の佛法を學す。若し能く無量無邊阿僧祇の佛法を學せば、是の菩薩は、色の爲に學を增さず、色の爲に學を減ぜず、乃至一切種智の爲に學を增さず、一切種智の爲に學を減ぜず。若し色の爲に學を增減せず、乃至一切種智の爲に學を增減せずんば、是の菩薩は、色の爲に學を受けず、色の爲に學を滅せず、亦受想行識の爲に學を受けず、亦爲に學を滅せず、乃至一切種智も亦爲に學を受けず、亦爲に學を滅せず。』舍利弗須菩提に語るらく、『菩薩摩訶薩は、是の如く學して、色を受くるが爲に學せず、色を滅するが爲に學せず、乃至一切種智も、亦受くるが爲に學せず、亦滅するが爲に學せざるや。』須菩提言く、『是れ色は受くべからず、亦色を受くる者も無し、乃至一切種智は受くべからず、亦受くる者も無し、內外空の故に。是の如く、舍利弗、菩薩摩訶薩は、一切法を受けざるが故に、能く一切種智に到る。』是の時、舍利弗は須菩提に語るらく、『菩薩摩訶薩は、是の如く、般若波羅蜜を學して、能く一切種智に到るや。』須菩提言く、『菩薩摩訶薩は、

是の如く般若波羅蜜を學して、能く一切種智に到る、一切法を受けざるが故に。』舍利弗須菩提に語るらく、『若し菩薩摩訶薩、一切法に於て學を受けず滅せずば、菩薩摩訶薩は、云何が能く一切種智に到らんや。』須菩提言く、『菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずるや、色の生ずることを見ず、色の滅することを見ず、色の受くることを見ず、色の受けざることを見ず、色の垢なることを見ず、色の淨なることを見ず、色の增すことを見ず、色の減ずることを見ず。何を以ての故に、舍利弗、色の色性、空なるが故に。受想行識も亦生ずることを見ず、亦滅することを見ず、亦受くることを見ず、亦受けざることを見ず、亦垢なることを見ず、亦淨なることを見ず、亦增すことを見ず、亦減ずることを見ず。何を以ての故に、識の識性、空なるが故に。乃至、一切種智も亦生ずることを見ず、亦滅することを見ず、亦受くることを見ず、亦受けざることを見ず、亦垢なることを見ず、亦淨なることを見ず、亦增すことを見ず、亦減ずることを見ず。何を以ての故に、一切種智の一切種智性、空なるが故に。是の如く、舍利弗、菩薩摩訶薩は、一切法（一〇）生ぜず滅せず、（一一）受けず捨てず、（一二）垢ならず淨ならず、合せず散せず、增せず減せずと爲すが故に。般若波羅蜜を學して、能く一切種智に到る。學する所無く、到る所無きが故に。』

【一〇】生ぜず滅せず。諸法の生相を破するが故に不生、諸法無常相を破するが故に不滅。
【一一】受けず捨てず。種々過罪を觀る故に不受、種々利益を觀る故に不捨。
【一二】垢ならず淨ならず。性常に清淨の故に不垢、能く著心を生ずる故に不淨。

(一三)爾の時、釋提桓因舍利弗に語るらく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を何處に於て求むべきや。』舍利弗言く、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を當に(一四)須菩提品の中に於て求むべし。』釋提桓因須菩提に語るらく、『是れ汝が神力、舍利弗をして言はしむ。菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を當に須菩提品の中に於て求むべしと。』須菩提釋提桓因に語るらく、『我が神力に非ず。』釋提桓因須菩提に語るらく、『是れ誰れの神力なりや。』須菩提言く、『是れ(一五)佛の神力なり。』釋提桓因言く、『一切法皆(一六)受處無し。何を以ての故に、是れ佛の神力なりと言ふや、無受處の相を離れて如來得べからず、如を離れて如來亦得べからざればなり。』須菩提釋提桓因に語りて言く、『是の如し是の如し、憍尸迦、無受處相を離れて如來得べからず、如を離れて如來亦得べからず、無受處相の中に如來得べからず、如の中に如來得べからず、色如の中に如來如得べからず、如來如の中に色如得べからず、色法相の中に如來法相得べからず、如來法相の中に色法相得べからず、受想行識法相の中、乃至一切種智も亦是の如し。憍尸迦、如來は色如の中に合せず散せず、受想行識如の中に合せず散せず。如來は色如を離れて合せず散せず、受想行識如を離れて合せず散せず。乃至一切種智も亦是の如し。如來は色法相の中に合せず散せず、受想行識法相の中に合せず散せず。如來は離色法相

【一三】須菩提の說法も佛力に由る、これ無所受なるが爲なるを說く。

【一四】須菩提品。本經須菩提所說を云ふ。須菩提解空能く般若を明かにすればなり。聖典としては須菩提品の前出を示すとも云ふべし。

【一五】佛の神力。諸法不可得に立つ說法なれば須菩提の自力にあらずして佛力なりとす。

【一六】受處。受相ある定法。

の中に合せず散せず。離受想行識法相の中に合せず散せず。乃至一切種智も亦是の如し。憍尸迦、是の如き等の一切法の中に合せず散せざる、是れ佛神力の用、受くる所の法無きが故に。(一七)憍尸迦の言ふが如く、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を當に(一八)何處に於て求むべきやとは、憍尸迦、色の中に般若波羅蜜を求むべからず、亦色を離れて般若波羅蜜を求むべからず、受想行識の中に求むべからず、亦受想行識を離れて求むべからず。何を以ての故に、是れ般若波羅蜜、色受想行識、是の一切の法は、皆合せず散せず、色無く形無く、對無く一相、謂ゆる無相なればなり。乃至一切種智の中に般若波羅蜜を求むべからず、亦一切種智を離れて般若波羅蜜を求むべからず。何を以ての故に、是れ般若波羅蜜、一切種智、是の一切の法は皆合せず散せず、色無く形無く、對無く一相、謂ゆる無相なればなり。何を以ての故に、般若波羅蜜は色に非ず、亦色を離るゝに非ず、受想行識に非ず、亦受想行識を離るゝに非ず、乃至一切種智に非ず、亦一切種智を離るゝに非ず。般若波羅蜜は色如に非ず、亦色如を離るゝに非ず、受想行識如に非ず、亦受想行識如を離るゝに非ず。般若波羅蜜は色法に非ず、亦色法を離るゝに非ず、受想行識法に非ず、亦受想行識法を離るるに非ず。乃至一切種智如に非ず、亦一切種智如を離るゝに非ず。般若波羅蜜は一切種智法に非ず、亦一切種智法を離るゝに非ず。何を以ての故に、憍尸迦、是の一切法は、皆所有無く得べからざれば

【一七】以下般若は一法の中にも一法を離れても求むべからざるを明す。

【一八】何處。先に舍利弗は須菩提品中にと云へるが、今須菩提は義を以て説明す。

なり。所有無く得べからざるを以ての故に、般若波羅蜜は色に非ず、亦色を離るゝに非ず、色如に非ず、亦色如を離るゝに非ず、色法に非ず、亦色法を離るゝに非ず、乃至一切種智に非ず、亦一切種智を離るゝに非ず、一切種智如に非ず、亦一切種智如を離るゝに非ず、一切種智法に非ず、亦一切種智法を離るゝに非ざればなり。』

（一九）釋提桓因須菩提に語るらく、『是の（二〇）摩訶波羅蜜は是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり、無量波羅蜜無邊波羅蜜は是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり。諸の須陀洹須陀洹果は是の般若波羅蜜の中より學成す。乃至諸の阿羅漢阿羅漢果、諸の辟支佛辟支佛道、諸の菩薩摩訶薩は皆是の般若波羅蜜の中より學成す。能く衆生を成就し、佛國土を淨め、阿耨多羅三藐三菩提を得る、皆是より學成す。』須菩提釋提桓因に語りて言く、『是の如し是の如し、憍尸迦、是の摩訶波羅蜜は是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり、無量波羅蜜無邊波羅蜜は、是れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり、是の中より須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道を學成す。諸の菩薩摩訶薩は是の般若波羅蜜の中より學成し、能く衆生を成就し、佛國土を淨め、阿耨多羅三藐三菩提を得る、已に得たり、今得、當に得べし。憍尸迦、色大なるが故に、般若波羅蜜も亦大なり。何を以ての故に、是の色の前際得べからず、後際得べからず、中際得べからざればなり。受想行識大なるが故に、般若波羅蜜も亦大なり。何

【一九】帝釋般若の大無量無邊を讃するに對し須菩提これを廣説す。

【二〇】摩訶波羅蜜（Mahāpāramitā）。大度彼岸と譯す。

を以ての故に、受想行識の前際得べからず、後際得べからず、中際得べからざればなり。乃至一切種智も亦是の如し。是の因縁を以ての故に、憍尸迦、是の摩訶波羅蜜は是の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜なり。憍尸迦、色無量なるが故に、般若波羅蜜無量なり。何を以ての故に、色の量得べからざるが故に。憍尸迦、譬へば虚空の量の得べからざるが如し、色も亦是の如く量得べからず。虚空無量なるが故に、般若波羅蜜無量なり、受想行識、乃至一切種智無量なるが故に、般若波羅蜜無量なり。何を以ての故に、一切種智の量得べからざればなり。譬へば虚空の量の得べからざるが如く、一切種智も亦是の如く量得べからず。虚空無量なるが故に、一切種智無量なり。一切種智無量なるが故に、般若波羅蜜無量なり。是の因縁を以ての故に、憍尸迦、是の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜無量なり。憍尸迦、色無邊なるが故に、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜無邊なり。何を以ての故に、憍尸迦、是の色の前際得べからず、後際得べからず、中際得べからざればなり。受想行識無邊なるが故に、般若波羅蜜無邊なり。何を以ての故に、受想行識の前際後際中際皆得べからざるが故に。乃至一切種智無邊なるが故に、般若波羅蜜無邊なり。何を以ての故に、一切種智の前際後際中際皆得べからざるが故に。是の因縁を以ての故に、憍尸迦、是の般若波羅蜜無邊、色無邊、乃至一切種智無邊なり。復次に憍尸迦、緣無邊なるが故に、般若波羅蜜無邊なり。』『須菩提、云何が(三)緣無邊なるが故に、般若波羅蜜無邊なるや。』須菩提言く、『一切無邊の法を緣ずるが故に、般若

【三】緣。緣して思量す、緣慮なり。

波羅蜜無邊なり。』『云何が一切無邊の法を緣ずるが故に、般若波羅蜜無邊なるや。』須菩提言く、『無邊法性を緣ずるが故に、般若波羅蜜無邊なり。復次に憍尸迦、無邊如を緣ずるが故に、般若波羅蜜無邊なり。』釋提桓因言く、『云何が無邊如を緣ずるが故に、般若波羅蜜無邊なるや。』須菩提言く、『如無邊なるが故に、緣も亦無邊なり。緣無邊なるが故に、如も亦無邊なり。此の因緣を以ての故に、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜無邊なり。復次に憍尸迦、衆生無邊なるが故に、般若波羅蜜無邊なり。』釋提桓因須菩提に問ふ、『云何が衆生無邊なるが故に、般若波羅蜜無邊なるや。』須菩提言く、『汝の意に於て云何、何等の法をか衆生と名くるや。』釋提桓因言く、『法の衆生と名くるもの有ること無し、假名の故に衆生と爲す。此の名字本法有ること無く、亦所趣無きも、强ひて爲して名を作す。憍尸迦、汝の意に於て云何、是の般若波羅蜜の中に衆生實に有りと說くや不や。』釋提桓因言く、『無きなり。』『憍尸迦、若し般若波羅蜜の中に實に有ることを說かずば、衆生無邊も亦得べからざるなり。憍尸迦、汝の意に於て云何、諸佛は恒河沙の劫壽に、衆生と衆生の名字とを說くとも、頗る衆生法有り生有り滅有りや不や。』釋提桓因言く、『不とよ。何を以ての故に、衆生本より已來常に淸淨なるが故に。是の因緣を以ての故に、憍尸迦、衆生無邊なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無邊なりと。』

三歎品第三十

(二)爾の時、(三)諸天王及び諸天、諸梵王及び諸梵天、(四)伊賒那天及び諸(五)神僊並に諸(六)天女同時に(七)三反稱歎す、『快い哉快い哉、慧命須菩提の說く所の法は、皆是れ(八)佛出世間の因緣、(九)恩力もて是の敎を演布す。若し菩薩摩訶薩有りて、是の般若波羅蜜を行じて遠離せざれば、我が輩是の人を視て(一〇)佛の如くす。何を以ての故に、(一一)是の般若波羅蜜の中に法の得べき無しと雖も、謂ゆる色受想行識乃至一切種智、而も三乘の敎、謂ゆる聲聞乘辟支佛乘佛乘有ればなり。』爾の時、佛諸天子に告げたまはく、『是の如し是の如し、諸天子、汝が言ふ所の如く、是の般若波羅蜜の中に法の得べき無しと雖も、謂ゆる色受想行識乃至一切種智、而も三乘の敎、謂ゆる聲聞乘辟支佛乘佛乘有り。諸天子、若し菩薩摩訶薩

【一】品目宋本丹本大論顧視品とす。佛普く在會の大衆諸天を觀察顧眄し給ふ故に顧視と名づく。又諸天三反稱歎するが故に三歎と名づく。大論第五十六。

【二】諸天須菩提所說の般若を讃じ行人を尊重すべきを說く。

【三】諸天王。四天王三十三天王乃至梵天王。

【四】伊賒那(Īśāna)。自在主と譯す。大自在天王並びにその眷屬を云ふ。

【五】神僊。人と天部と二種の僊あり。

【六】天女。帝釋夫人舍脂等諸天女。

【七】三反稱歎。歡喜の至りにて鄭重讃稱するなり。

【八】佛出世間の因緣。佛は三界の迷流を斷たんが爲に出づ、これを斷つは般若に因ればなり。

【九】恩力。慈悲の恩德力。

【一〇】佛の如くす。法を尊重するが故に深法般若を行ずるものを佛と等しく供養す。

【一一】般若空にして三乘ある故に斷ならず、三乘あるを著せざれば常ならず、般若三乘の二事中、定相を取らざるなり。

有りて、是の般若波羅蜜を行じて遠離せざれば、是の人を視るに當に佛の如くすべし、無所得を以ての故に。』『何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中に廣く三乘の敎、謂ゆる聲聞乘辟支佛乘佛乘を說くや。檀那波羅蜜の中に佛得べからず、檀那波羅蜜を離れて佛亦得べからず。乃至般若波羅蜜の中にも佛得べからず、般若波羅蜜を離れて佛亦得べからず。內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法一切種智も亦是の如くなればなり。』佛諸天子に語りたまはく、『菩薩摩訶薩、若し能く是の一切法、謂ゆる檀那波羅蜜乃至一切種智を學せば、是の事を以ての故に、當に是の菩薩摩訶薩を視ること佛の如くすべし。諸天子

(三)我れ昔(三)然燈佛の時に於て、華嚴城內四衢道中に佛を見たてまつり法を聞きて、卽ち檀那波羅蜜行を離れず、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜行を離れず、內空乃至無法有法空四念處乃至八聖道分を離れず、四禪四無量心四無色定、一切三昧門一切陀羅尼門を離れず、四無所畏佛十力四無礙智十八不共法大慈大悲及び餘の無量諸佛法行を離れざることを得たり、無所得を以ての故に。是の時に然燈佛は我に記す、當來世一阿僧祇劫を過ぎて當に佛と作り、(四)釋迦牟尼多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀鞞侈遮羅那修伽度路伽憊無上士調御丈夫天人師佛世尊と號すべしと。』爾の時、諸天子佛に白して言さく、『世尊、甚だ稀有なり、是の般若

【三】我れ昔等　世尊自己成佛の本事を引きて記す。
【三】然燈佛。提和竭羅（Dīpaṃkara）燃燈或は錠光と云ふ。本と釋尊に授記せる古佛なり。
【四】釋迦等（Śākyamuni-tathāgata-arhan-samyaksaṃbuddha-vidyācaraṇa (saṃpanna)-sugata-lokavid）。能仁寂默如來應供正徧智明行足善逝世間解と譯す。

波羅蜜は能く諸の菩薩摩訶薩をして薩婆若を得しむ。色に於て取らず捨てざるが故に、受想行識に於て取らず捨てざるが故に、乃至一切種智に於て取らず捨てざるが故に。』

(二五)爾の時、佛(二六)四衆和合の比丘比丘尼優婆塞優婆夷及び諸の菩薩摩訶薩、並に四天王天乃至阿迦尼吒諸天、皆會坐せるを觀じ、(二七)普く觀じ已りて佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、若は菩薩摩訶薩、若は比丘若は比丘尼、若は優婆塞若は優婆夷、若は諸天子若は諸天女、(二八)是の般若波羅蜜に於て、若し聽受し持し、親近し讀誦し、他の爲に說き、正憶念して薩婆若心を離れずば、諸天子、是の人(二九)魔若は魔天、其の(三〇)便を得ること能はず。何を以ての故に、是の善男子善女人は諦かに色空を了知す、空は空の便を得ること能はず、無相は無相の便を得ること能はず、無作は無作の便を得ること能はず。諦かに受想行識空を了知す、空は空の便を得ること能はず、乃至無作は無作の便を得ること能はず。乃至諦かに一切種智空を了知す、空は空の便を得ること能はず、乃至無作は無作の便を得ること能はず。何を以ての故に、是の諸法は自性得べからず、事として便を得べき無し、誰か惱を受くる者ぞ。復次に憍尸迦、(三一)善男子善女人は人非人、

【二五】佛帝釋諸天に般若の功德を說く。

【二六】四衆和合。比丘等僧俗男女の和合せる教團なり。

【二七】普觀。一座の大衆を顧視すれば衆自輕せず能く法を聽く

【二八】是の般若は十方諸佛所說の語言名字書寫經卷にして實相智慧を宣示するものなり。

【二九】魔。自在天王なり、廣くは煩惱と五蘊と死魔と天魔とあり。佛菩薩は三界を脫するを以て魔界を滅する怨敵とす。

【三〇】便り。菩薩道力少さが故に誘惑惱亂し恐怖し愛着せしむるを云ふ。

【三一】今菩薩とさす善男子善女人とし、持讀等の功德の及ぶ所を示すと俱に空觀によらずして四無量心を述ぶ、人非人の怨害小にして魔怨の如く大ならざればなり。

其の便を得ること能はず。何を以ての故に、是の善男子善女人は一切衆生の中に善く慈悲喜捨心を修す、無所得を以ての故に。復次に憍尸迦、是の善男子善女人は終に橫死せず。何を以ての故に、是の善男子善女人は檀那波羅蜜を行じ、一切衆生に於て等心供給するが故に。復次に憍尸迦、三千大千國土の四天王天、三十三天、夜摩天、兜率陀天、化樂天、他化自在天、梵天、光音天、徧淨天、廣果天、是の諸天の中に阿耨多羅三藐三菩提心を發す者有り。未だ是の般若波羅蜜を聞かず、受持し親近せざる是の諸天子、今應に聞きて受持し親近し讀誦し正憶念し、薩婆若心を離れざるべし。復次に憍尸迦、諸の善男子善女人、是の般若波羅蜜を聞きて受持し親近し讀誦し正憶念し、薩婆若心を離れずば、是の諸の善男子善女人、若は空舍に在り、若は曠野に、若は人住處に在りて、終に怖畏せず。何を以ての故に、是の善男子善女人は內空に於て明かなり、無所得を以ての故に。外空乃至無法有法空に於て明かなり、無所得を以ての故に。』

〔三一〕爾の時、三千大千國土中の諸の四天王天、三十三天、夜摩天、兜率陀天、化樂天、他化自在天乃至首陀婆諸天、佛に白して言さく、『世尊、是の善男子善女人は能く般若波羅蜜を受持し、親近し讀誦し正憶念して、薩婆若心を離れずば、我等常に當に守護すべし。何を以ての故に、世尊、菩薩摩訶薩の因緣を以ての故に、〔三三〕三惡道を斷じ、〔三四〕天人貧を斷じ、諸の災患

【三一】諸天般若行者を守護すべきを說く。
【三三】三惡道を斷じ等。菩薩十不善を遮すればなり。
【三四】天人貧。人天の善道に於て、貧窮困乏なるを云ふ。

疾病飢餓を斷ず。菩薩の因緣を以ての故に、便ち十善道世間に出で、四禪四無量心四無色定、檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜、內空乃至無法有法空、四念處乃至一切種智有り。菩薩の因緣を以ての故に、世間便ち刹利大姓婆羅門大姓、居士大家諸王及び轉輪聖王、四天王天乃至阿迦尼吒天に生ずること有り。菩薩の因緣を以ての故に、須陀洹須陀洹果、乃至阿羅漢阿羅漢果、辟支佛辟支佛道有り。菩薩の因緣を以ての故に、衆生を成就し佛國土を淨むる有り、便ち諸佛世に出現する有り、便ち法輪を轉ずる有り、佛寶法寶比丘僧寶有ることを知る。世尊、是の因緣を以ての故に、一切世間の諸天及び人阿修羅は、是の菩薩摩訶薩を守護すべし。』佛釋提桓因に語りたまはく、『是の如し是の如し、憍尸迦、菩薩摩訶薩の因緣を以ての故に、三惡道を斷じ、乃至三寶世に出現す。是を以ての故に、諸天及び人阿修羅は、常に是の菩薩摩訶薩を守護し、供養し恭敬し、尊重し讚歎すべし。憍尸迦、是の菩薩摩訶薩を供養し恭敬し尊重し讚歎せば、即ち是れ我を供養するなり。是を以ての故に、是の諸の菩薩をば、摩訶薩諸天及び人阿修羅は常に守護し、供養し恭敬し、尊重し讚歎すべし。憍尸迦、若は三千大千國土の中に滿つる聲聞辟支佛、譬へば竹葦稻麻叢林の如くなるを、若し善男子善女人有りて、供養し恭敬し、尊重し讚歎するも、初發心の菩薩摩訶薩を供養し恭敬し、尊重し讚歎するに(二五)如かず、六波羅蜜所得の福德を離れず。何を以ての故

【二五】如かず。菩薩初發心なるも三事二乘に優る。一に薩婆若心を以て般若を行ず、二に六度諸功德を離れず、三に三惡道を斷じ三乘を出生す。

に、聲聞辟支佛の因緣を以てせざるが故に、菩薩摩訶薩及び諸佛の世に出現する有り、菩薩摩訶薩の因緣有るを以ての故に、聲聞辟支佛諸佛の世に出現する有り、是を以ての故に、憍尸迦、是の諸の菩薩摩訶薩をば、一切世間の諸天及び人阿脩羅は常に守護し、供養し恭敬し、尊重し讃歎すべし。』

(一)滅諍品第三十一

(二)爾の時、釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、甚だ奇にして希有なり。諸の菩薩摩訶薩、是の般若波羅蜜を若し聞き、受持し親近し讀誦し、他の爲に說き、正憶念する時には、是の如く今世に功德を得、亦衆生を成就し佛土を嚴淨し、一佛國より一佛國に至りて諸佛を供養するに、欲する所の供養の具意に隨て卽ち得、諸佛に從つて法を聞き、阿耨多羅三藐三菩提を得るに至るまで終に中忘せず、亦家成就し、母成就し、眷屬成就し、相成就し、光明成就し、眼成就し、耳成就し、三昧成就し、陀羅尼成就することを得。是の菩薩方便力を以ての故に、身を變じて佛の如く一國土より一國土に至る、無佛の處に到りて檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜を讚じ、四禪四無量心四無色定を讚じ、四念處乃至十八不共法を讚ず。方便力を以て、而して爲に法を說き、三乘法を以て衆生を度脫す、謂ゆる聲聞辟支佛佛乘なり。世尊、快い哉、希有なり。是の般若波羅蜜を受くれば、已に五波羅蜜乃至十八不共法を總攝すと爲すや。亦須陀洹果乃至阿羅漢果、辟支佛道佛道一切智一切種智を攝するや。』佛釋提桓因に告げたまはく、『是の如し是の如し、憍尸迦、是の般若波羅蜜を受くれば、已に五波羅蜜乃至一切種智を總攝すと爲す。復次に憍尸迦、是の般若波羅蜜を受持し、

【一】品目、宋本丹本現功德品とし、大論滅諍亂とす。現世功德を說き般若の善惡諸法の諍亂を滅するに依るとするものなり。

【二】現世功德を說く。

親近し讀誦し、他の爲に說き、正憶念せば、是の善男子善女人の得る所の㈢今世の功德、汝一心に諦聽せよ。』釋提桓因言さく、『唯、世尊、敎を受けん』と。佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、若し外道㈣諸梵志、若は魔、若は魔民、若は㈤增上慢人有りて、菩薩の般若波羅蜜心を乖錯し破壞せんと欲し、是の諸人適此の心を生ずるも、卽時に滅し去りて終に㈥願に從はず。何を以ての故に、憍尸迦、菩薩摩訶薩は長夜に檀那波羅蜜を行じ、尸羅羼提毗梨耶禪那般若波羅蜜を行ず。衆生長夜に貪諍するを以ての故に、菩薩は悉く內外の物を捨てゝ衆生を檀那波羅蜜の中に安立す。衆生長夜に破戒するを以ての故に、菩薩は悉く內外の法を捨てゝ衆生を戒に安立す。衆生長夜に鬪諍するを以ての故に、菩薩は悉く內外の法を捨てゝ衆生を忍辱に安立す。衆生長夜に懈怠するを以ての故に、菩薩は悉く內外の法を捨てゝ衆生を精進に安立す。衆生長夜に亂心するを以ての故に、菩薩は悉く內外の法を捨てゝ衆生を禪那に安立す。衆生長夜に愚癡なるを以ての故に、菩薩は悉く內外の法を捨てゝ衆生を般若波羅蜜に安立す。衆生長夜に愛結を爲すが故に生死に流轉す、是の菩薩摩訶薩は方便力を以て衆生の愛結を斷じ、衆生を四禪四無量心四無色定、四念處乃至八聖道分、空無相無作三昧に安立し。衆生を須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道佛道に安立す。憍尸迦、是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行じ、現世の功德と後世の功德とを得と

【三】佛更に現世功德を得る點を廣說せんとす。
【四】諸梵志。一切出家の外道。
【五】增上慢人。禪定を得るも聖道に暗く實相空を聞き忿惱する者。
【六】願に從はず。惡心滅し魔の爲に錯亂を成すに至らず。

爲す。阿耨多羅三藐三菩提を得、法輪を轉じ、所願滿足して無餘涅槃に入る、憍尸迦、是を菩薩摩訶薩の後世の功德と爲す。復次に憍尸迦、善男子善女人、是の般若波羅蜜を若し聞き、受持し親近し讀誦し、他の爲に說き、正憶念せば、其の所住處は魔若は魔民、若は外道梵志、增上慢人、般若波羅蜜を輕毀し難問し破壞せんと欲するも、終に成ずること能はず。其の人の惡心轉た滅して功德轉た增す、是の般若波羅蜜を聞くが故に、漸く三乘道を以て衆苦を盡すことを得。憍尸迦、譬へば藥有り(七)摩祇と名く、蛇有り飢て行きて食を索め、(八)蟲を見て噉はんと欲するに蟲藥所に趣く、藥の氣力の故に、蛇は前むこと能はずして、卽ち自ら還り去るが如し。何を以ての故に、是の藥力能く毒に勝るを以ての故に。憍尸迦、摩祇の藥は是の如き力あり。若し善男子善女人、是の般若波羅蜜を若し、受持し親近し讀誦し、他の爲に說き正憶念せば、若し種種の鬪諍起り來りて破壞せんと欲する者有るも、般若波羅蜜の威力を以ての故に、所起の處に隨ひて卽ち疾く消滅し、其の人は卽ち善心を生じて功德を增益す。何を以ての故に、是の般若波羅蜜は能く諸法の諍亂を滅する。何等をか諸法とする。謂ゆる婬怒癡、無明乃至大苦聚、(九)諸蓋結使纏、我見人見衆生見、斷見常見、垢見淨見、有見無見、是の如きの一切の諸見。(一〇)慳貪犯戒瞋恚懈怠亂意無智、常想樂想淨想我想、是の如き等の愛行。色に著し、受想行識に著し、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪

【七】摩祇（Māgha）。藥の名。
【八】蟲。蝦蟇の類を云ふ。
【九】諸蓋結使纏。五蓋十結九十八使十纏等あり、孰れも煩惱なり。
【一〇】慳貪乃至無智。六弊にして六度に反す。

那波羅蜜般若波羅蜜に著し、內空外空內外空乃至無法有法空に著し、四念處乃至十八不共法に著し、一切智一切種智に著し、涅槃に著するなり。是の一切法の諍亂盡く能く消滅して增長せしめず。

【二】諸天諸佛の擁護により善法轉增の功德を明す。

(二)復次に憍尸迦、三千大千國土の中の諸の四天王天、諸の釋提桓因、諸の梵天王乃至阿迦尼吒天は、常に是の善男子善女人の能く般若波羅蜜を受持し、供養し讀誦し、他の爲に說き、正憶念する者を守護す。十方現在の諸佛も亦共に、是の善男子善女人の能く般若波羅蜜を聞き、受持し供養し讀誦し、他の爲に說き、正憶念する者を擁護す。是の善男子善女人は不善法を滅し、善法轉た增す、謂ゆる檀那波羅蜜轉た增す、無所得を以ての故に。乃至般若波羅蜜轉た增す、無所得を以ての故に。內空轉た增す、乃至無法有法空轉た增す、無所得を以ての故に。四念處乃至十八不共法轉た增す、無所得を以ての故に。諸三昧門諸陀羅尼門、一切智一切種智轉た增す、無所得を以ての故に。是の善男子善女人の說く所の人皆信受し、親友堅固にして無益の語を說かず、瞋恚の覆ふ所と爲らず、憍慢慳貪嫉妬の覆ふ所と爲らず。是の人自ら殺生せず、人を敎へて不殺生ならしめ、不殺生の法を讚じ、亦不殺生の者を歡喜し讚歎す。自ら不與取を遠離し、亦人を敎へて不與取を遠離せしめ、不與取を遠離する法を讚じ、亦不與取を遠離する者を歡喜し讚歎す。自ら邪婬せず、人を敎へて邪婬せしめず、不邪婬の法を讚じ、亦不邪婬の者を歡喜し讚歎す。自ら妄語せず、人を敎へて妄語せざらしめ、不妄語の法を讚じ、亦不妄語の者を歡喜し讚歎す。兩舌惡

口、無利益語も亦是の如し。自ら貪らず、人を敎へて貪らざらしめ、不貪の法を讃じ、亦不貪の者を歡喜し讃歎す。不瞋惱不邪見も亦是の如し。自ら檀那波羅蜜を行じ、人を敎へて檀那波羅蜜を行ぜしめ、檀那波羅蜜の法を讃じ、亦檀那波羅蜜を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら尸羅波羅蜜を行じ、人を敎へて尸羅波羅蜜を行ぜしめ、尸羅波羅蜜の法を讃じ、亦尸羅波羅蜜を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら羼提波羅蜜を行じ、人を敎へて羼提波羅蜜を行ぜしめ、羼提波羅蜜の法を讃じ、亦羼提波羅蜜を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら毘梨耶波羅蜜を行じ、人を敎へて毘梨耶波羅蜜を行ぜしめ、毘梨耶波羅蜜の法を讃じ、亦毘梨耶波羅蜜を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら禪那波羅蜜を行じ、人を敎へて禪那波羅蜜を行ぜしめ、禪那波羅蜜の法を讃じ、亦禪那波羅蜜を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら般若波羅蜜を行じ、人を敎へて般若波羅蜜を行ぜしめ、般若波羅蜜の法を讃じ、亦般若波羅蜜を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら内空を修し、人を敎へて内空を修せしめ、内空の法を讃じ、亦内空を修する者を歡喜し讃歎す。乃至自ら無法有法空を修し、人を敎へて無法有法空を修せしめ、無法有法空の法を讃じ、亦無法有法空を修する者を歡喜し讃歎す。自ら一切三昧に入り、人を敎へて一切三昧に入らしめ、一切三昧の法を讃じ、亦一切三昧に入る者を歡喜し讃歎す。自ら陀羅尼を得、人を敎へて陀羅尼を得しめ、陀羅尼の法を讃じ、亦陀羅尼を得る者を歡喜し讃歎す。自ら初禪に入り、人を敎へて初禪に入らしめ、初禪の法を讃じ、亦初禪に入る者を歡喜し讃歎す。二禪三禪四禪も亦是の如し。自ら慈心に入

り、人を敎へて慈心に入らしめ、慈心に入る法を讃じ、亦慈心に入る者を歡喜し讃歎す。悲喜捨心も亦是の如し。自ら無邊空處に入り、人を敎へて無邊空處に入らしめ、無邊空處の法を讃じ、亦無邊空處に入る者を歡喜し讃歎す。無邊識處、無所有處、非有想非無想處も亦是の如し。自ら四念處を修し、人を敎へて四念處を修せしめ、四念處の法を讃じ、亦四念處を修する者を歡喜し讃歎す。四正勤、四如意足、五根五力、七覺分八聖道分も亦是の如し。自ら空無相無作三昧を修し、人を敎へて空無相無作三昧を修せしめ、空無相無作三昧の法を讃じ、亦空無相無作三昧を修する者を歡喜し讃歎す。自ら八（二）背捨に入り、人を敎へて八背捨に入らしめ、八背捨の法を讃じ、亦八背捨に入る者を歡喜し讃歎す。自ら九次第定に入り、人を敎へて九次第定に入らしめ、九次第定の法を讃じ、亦九次第の定に入る者を歡喜し讃歎す。自ら佛の十力四無所畏、四無礙智、大慈大悲、十八不共法を修するも亦是の如し。自ら（三）不錯謬法常捨法を行じ、人を敎へて不錯謬法常捨法を行ぜしめ、不錯謬法常捨法を讃じ、亦不錯謬法常捨法を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら一切種智を得、人を敎へて一切種智を得しめ、一切種智の法を讃じ、亦一切種智を得る者を歡喜し讃歎す。是の菩薩摩訶薩の六波羅蜜を行ずる時に、有らゆる布施を衆生と共に已に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す、無所得を以ての故に。有らゆる持戒、忍辱、精進、禪定、智慧を衆生と共に已に阿耨多羅三藐三菩提に廻向す、無所得を以ての故に。是の善男子善女人、是の

【二】背捨。麗本解脫に作る。
【三】不錯謬。麗本無錯謬、大論不謬錯に作る。

如く六波羅蜜を行ずる時に是の念を作す、「我れ若し布施せずば、當に貧窮の家に生れ、衆生を成就し、佛國土を淨むること能はず、亦一切種智を得ること能はざるべし。我れ若し持戒せずば、當に三惡道に生じ、尙人身をも得ざるべし。況んや能く衆生を成就し、佛國土を淨め、一切種智を得んや。我れ若し忍辱を修せざれば、則ち當に諸根毀壞し、色具足せず、菩薩の具足せる色身ありて衆生見る者必ず阿耨多羅三藐三菩提に至ることを得る能はず、亦具足色身を以て衆生を成就し、佛國土を淨むることを得、一切種智を得ること能はず。我れ若し懈怠せば菩薩道を得ること能はず、亦衆生を成就し、佛國土を淨むること得、一切種智を得ること能はず。我れ若し亂心せば、諸の禪定を生ずることを得る能はず。此の禪定を以て衆生を成就し、佛國土を淨め、一切種智を得ること能はず。我れ若し智無ければ、方便智を得、方便智を以て聲聞辟支佛地を過ぎ、衆生を成就し、佛國土を淨め、一切種智を得ること能はず」と。是の菩薩復(一四)是の思惟を作す、「我れ慳貪に隨ふが故に、檀那波羅蜜を具足せざることあるべからず。犯戒に隨ふが故に、尸羅波羅蜜を具足せざることあるべからず。瞋恚に隨ふが故に、羼提波羅蜜を具足せざることあるべからず。懈怠に隨ふが故に、毗梨耶波羅蜜を具足せざることあるべからず。亂意に隨ふが故に、禪那波羅蜜を具足せざることあるべからず。癡心に隨ふが故に、般若波羅蜜を具足せざることあるべからず。若し檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨

【一四】煩惱未斷の故に時に慳等を起す、その時思惟して其心を省み、若し布施せずば四功德を失ふ、方便して布施を具足すべし等とすべし。

耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を具足せずば、我れ終に一切種智を成就すること能はず」と。是の如きの善男子善女人、是の般若波羅蜜を受持し、親近し讀誦し、他の爲に說き、正憶念して、亦薩婆若心を離れずば、是の今世後世の功德を得。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、希有なり、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を薩婆若心に廻向することを爲すが故に、亦高心せざることを爲すが故に。』佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、云何ぞ菩薩摩訶薩は、薩婆若心に廻向することを爲すが故に、亦高心せざることを爲すが故にといふや。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩、若し世間の檀那波羅蜜を行じ、諸佛辟支佛聲聞、及び諸の貧窮乞匃行路人に布施するも、是の菩薩方便無きが故に高心を生ず。若し世間の尸羅波羅蜜を行ずるも、我れ尸羅波羅蜜を行じたり、我れ能く尸羅波羅蜜を具足したりと言はゞ、方便無きが故に高心を生ず。我れ羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜を行じ、我れ般若波羅蜜を行ずるも、我れ般若波羅蜜を修したりと言はゞ、是れ世間の般若波羅蜜なるを以ての故に、方便無きが故に高心を生ず。世尊、菩薩は世間の四念處を修する時、自ら念言すらく、「我れ四念處を修す、我れ四念處を具足す」と、方便力無きが故に高心を生ず。我れ四正勤四如意足、五根五力、七覺分八聖道分を修す、自ら念言すらく、「我れ空無相無作三昧を修し、我れ一切三昧門を修し、當に一切陀羅尼門を得べし、我れ佛十力四無所畏十八不共法を修し、我れ當に衆生を成就することを得べし、我れ當に佛國土を淨むべし、我れ當に一切種智を得べし」と。吾我に著し方便力無

きが故に高心を生ず。世尊、是の如きの菩薩摩訶薩は世間の善法を行じ、吾我に著するが故に高心を生ず。世尊、若し菩薩摩訶薩出世間の檀那波羅蜜を行ずれば、施者を得ず、受者を得ず、施物を得ず。是の如きの菩薩摩訶薩は出世間の檀那波羅蜜を行じて、薩婆若に廻向することを爲すが故に、亦高心を生ぜず。尸羅波羅蜜を行ずるも、尸羅得べからず。羼提波羅蜜を行ずるも、羼提得べからず。毗棃耶波羅蜜を行ずるも、毗棃耶得べからず。禪那波羅蜜を行ずるも、禪那得べからず。般若波羅蜜を行ずるも、般若得べからず。四念處を修するも、四念處得べからず。乃至十八不共法を修するも、十八不共法得べからず。大慈大悲を修するも、大慈大悲得べからず。乃至一切種智を修するも、一切種智得べからず。世尊、是の如きの菩薩摩訶薩は、般若波羅蜜を薩婆若に廻向することを爲すが故に、亦高心を生ぜざることを爲すが故にといふ。』（一五）

【一五】明本此に第九卷終る。

(一)卷の第九

(二)寶塔大明品第三十二

(三)爾の時、佛釋提桓因に告げたまはく、『若し善男子善女人有りて是の深般若波羅蜜を聞き、受持し親近し讀誦し正憶念し、薩婆若心と離れずば、兩陣戰ふ時、是の善男子善女人は般若波羅蜜を誦するが故に、軍陣中に入るも終に(四)命を失はず刀箭も傷けず。何を以ての故に、是の善男子善女人は、長夜に六波羅蜜を行じ、自ら婬欲の刀箭を除き、亦他人の婬欲の刀箭をも除く、自ら瞋恚の刀箭を除き、亦他人の瞋恚の刀箭をも除く、自ら愚癡の刀箭を除き、亦他人の愚癡の刀箭をも除く、自ら邪見の刀箭を除き、亦他人の邪見の刀箭をも除く、自ら(五)纏垢の刀箭を除き、亦他人の纏垢の刀箭をも除く、自ら諸結使の刀箭を除き、亦他人の結使の刀箭をも除く。憍尸迦、是の因縁を以て、是の善男子善女人は、刀箭の傷くる所と爲らず。復次に憍尸迦、是の善男子善女人、是の深般若波羅蜜を聞き、受持し、親近し、讀誦し、正憶念して、薩婆若心と離れずば、若は毒藥を以て熏ずるも、若は(六)蠱道を以てするも、若は火坑を以て

【一】明本等卷第十に作る。
【二】品目丹本寶塔品、麗本大明品、大論寶塔校量品に作る。般若は大明呪にして持誦の功德大なること寶塔建立の比にあらざるを述ぶ。大論第五十七。
【三】般若受持の功德は傷害を免がれ煩惱を除くを述ぶ。
【四】命を失はず。必定報は免れ難きも不定報は免るべく不失命の益ありとす。
【五】纏垢。纏縛垢汚するもの煩惱を云ふ。
【六】蠱道。左道なり呪咀厭勝の法にて調伏するなり。

するも、若は深水を以てするも、若は刀殺せんと欲するも、若は是の毒を與ふるも、是の如きの衆惡皆傷くること能はず。何を以ての故に、是の般若波羅蜜は是れ（七）大明呪、是れ無上呪なればなり。若し善男子善女人、是の明呪中に於て學べば、自ら身を惱まさず、亦他を惱まさず、亦兩つながら惱まさず。何を以ての故に、是の善男子善女人は我を得ず、衆生を得ず、壽命を得ず、乃至知者見者皆得べからず、色受想行識得べからず、乃至一切種智も亦得べからず、得べからざるを以ての故に、自ら身を惱まさず、亦他を惱まさず、亦兩つながら惱まさざるなり。是の大明呪を學ぶが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得、一切衆生の心を觀て、意に隨ひて說法す。何を以ての故に、過去の諸佛も、是の大明呪を學びて阿耨多羅三藐三菩提を得たり、當來の諸佛も、是の大明呪を學びて當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし、今現在の諸佛も、是の大明呪を學びて阿耨多羅三藐三菩提を得ればなり。復次に憍尸迦、般若波羅蜜、若し但だ經卷を書寫し、舍に於て供養するのみにして、受けず讀まず、誦せず說かず、正憶念せざる有るも、是の處、若は人若は非人、其の便を得ること能はず。何を以ての故に、是の般若波羅蜜は三千世界中の四天王諸天乃至阿迦尼吒諸天子、及び十方無量阿僧祇世界中の諸の四天王天、乃至阿迦尼吒諸天等の守護する所なるが故に、是の般若波羅蜜の（八）所止する處は、諸天皆來りて供養し恭敬し、尊重し讚歎し、禮拜

【七】大明呪。外道の呪を明呪と云ふに比して大明呪とし、諸佛成就の勝法なるを示す。これ煩惱の靈病は勿論禪定佛道涅槃の諸著をも滅する明呪なり。無上呪も亦例して知るべし。

【八】所止。安置せらるゝこと。

し已りて去る。是の善男子善女人は但だ般若波羅蜜經卷を書寫し、舍に於て供養するのみにして受けず讀まず、誦せず說かず正憶念せざるも、今世に是の如きの功德を得。譬へば若は人若は畜生來りて(九)菩提樹下に入るが如し、諸邊內外設ひ人非人有りて惡意をもて來たるも、其の便を得ること能はず。何を以ての故に、是の處は過去の諸佛、中に於て阿耨多羅三藐三菩提を得、未來の諸佛、現在の諸佛も亦中に於て阿耨多羅三藐三菩提を得、佛を得已りて、一切衆生に無恐無畏を施し、無量阿僧祇の衆生をして天上人中の福樂を受けしめ、亦無量阿僧祇の衆生をして須陀洹果を得、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得しむ。(一〇)般若波羅蜜力を以ての故に、是の處だに恭敬し禮拜し、華香瓔珞擣香澤香幡蓋妓樂もて供養せらるゝを得。』

(一一)釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、若し善男子善女人、般若波羅蜜を書寫し、華香瓔珞乃至妓樂もて供養すると、若し人有りて佛の(一二)般涅槃の後、若は(一三)舍利を供養し、若は塔を起して供養し恭敬し尊重し讚歎し、華香瓔珞乃至伎樂もて供養すると、是の二の何れの者か福を得ること多きや。』佛釋提桓因に告げたまはく、『我れ(一四)還て汝に問はん、意に隨つて我に答へよ、汝の意に

【九】菩提樹等。佛その樹下に般若に依りて成道せる力勢により威德あるを云ふ。

【一〇】般若等。菩提樹尙功德あり況や般若は諸佛の母なり供養少功ならんや。

【一一】般若供養と舍利供養との功德を比較す。慧根多きは般若を、信根强きは舍利を供養すればなり。

【一二】般涅槃(Parinirvāṇa)。入滅、圓寂と譯す。

【一三】舍利等。遺身なり、滅後の骨灰を安置し塔婆を建てゝ供養すること頗る盛なり。

【一四】還て汝に問はん。四問答體の中反問法なり。

於て云何。佛の一切種智を得、及び是の身を得るが如きは、何れの道より學びて、是の一切種智を得、是の身を得たるや。』釋提桓因佛に白して言さく、『佛は般若波羅蜜中より學びて一切種智及び（一五）相好身を得たまへり。』佛 釋提桓因に告げたまはく、『是の如し是の如し、憍尸迦、佛は般若波羅蜜中より學びて一切種智を得たり。憍尸迦、是の相好身を以て名けて佛と爲さず、一切種智を得るが故に名けて佛と爲す。憍尸迦、是の佛の一切種智は般若波羅蜜中より生ず、是を以ての故に、憍尸迦、是の佛身は一切種智所依の處にして、佛は是の身に因て一切種智を得たり。善男子當に是の思惟を作すべし、是の身は一切種智所依の處なりと。是の故に我れ涅槃の後に、舍利當に供養を得べし。復次に憍尸迦、善男子善女人、若し是の般若波羅蜜を聞き、書寫し受持し親近し讀誦し正憶念し、華香瓔珞擣香澤香幢蓋伎樂もて恭敬し供養し尊重し讚歎せば、是の善男子善女人は則ち一切種智を供養すと爲す。是を以ての故に、憍尸迦、若し善男子善女人有りて、是の般若波羅蜜を書し、若し受持し親近し讀誦し說き正憶念し、供養し恭敬し尊重し讚歎し、華香瓔珞乃至伎樂をもてすると、若し復善男子善女人有りて、佛の般涅槃の後に舍利を供養し、塔を起して恭敬し、尊重し讚歎し、華香乃至妓樂をもてするとは、若し善男子善女人有りて、是の般若波羅蜜を書持し、供養し恭敬し尊重し讚歎し、華香瓔珞乃至伎樂をもてするもの、是の人福を得ること多し。何を以ての故に、是の般若波羅蜜中に五波羅蜜を生じ、內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不

【一五】相好身。三十二相八十種好具足せる佛身なり。

共法を生じ、一切三昧一切禪定一切陀羅尼門皆般若波羅蜜中より生じ、衆生を成就し佛國土を淨むる皆般若波羅蜜中より生じ、刹利大姓婆羅門大姓居士大家皆般若波羅蜜中より生じ、四天王天乃至阿迦尼吒天、須陀洹乃至阿羅漢辟支佛、諸の菩薩摩訶薩諸佛、諸佛の一切種智皆般若波羅蜜の中より生ずればなり。』

〔二六〕般若を重んずる利益の多きを知るもの少きを說く。

〔二六〕爾の時、釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、閻浮提人は是の般若波羅蜜を供養せず恭敬せず尊重せず讚歎せず、供養せば利益する所多きことを知らずと爲すや。』佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、汝の意に於て云何、閻浮提中幾所の人か、佛を信じて壞せず、法を信じて壞せず、僧を信じて壞せざるや。幾所の人か佛に於て疑無く、法に於て疑無く、僧に於て疑無きや。幾所の人か佛に於て決了し、法に於て決了し、僧に於て決了するや。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、閻浮提の人は佛法僧に於て不壞信を得るもの少く、佛法僧に於て疑無く決了するもの亦少し』と。『憍尸迦、汝の意に於て云何、閻浮提に幾所の人か、三十七品三解脫門八背捨九次第定四無礙智六神通を得るや。閻浮提に幾所の人か、三結を斷ずるが故に須陀洹道を得、幾所の人か三結を斷じ、亦婬恚癡を薄うするが故に斯陀含道を得るや。幾所の人か五下分結を斷ずるが故に阿那含道を得るや。幾所の人か五上分結を斷ずるが故に阿羅漢道を得るや。閻浮提に幾所の人か辟支佛を求め、幾所の人か阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、閻浮提中の

少所の人、三十七道品を得、乃至少所の人、阿耨多羅三藐三菩提心を發すのみ。』佛釋提桓因に告げて言はく、『是の如し是の如し、憍尸迦、少所の人、佛を信じて壞せず、法を信じて壞せず、僧を信じて壞せず。少所の人、佛に於て疑無く、法に於て疑無く、僧に於て疑無し。少所の人、佛に於て決了し、法に於て決了し、僧に於て決了す。憍尸迦、亦少所の人、三十七品三解脫門、八背捨九次第定四無礙智六神通を得。憍尸迦、亦少所の人、三結を斷じて須陀洹を得、三結を斷じ、亦婬瞋癡を薄うして斯陀含を得、五下分結を斷じて阿那含を得、五上分結を斷じて阿羅漢を得。少所の人、辟支佛を求め、是の中に於て亦少所の人、阿耨多羅三藐三菩提心を發す。發心中に於て亦少所の人、菩薩道を行ず。何を以ての故に、是の衆生は前世に佛を見ず、法を聞かず、比丘僧を供養せず、布施せず持戒せず、忍辱せず、精進せず、禪定せず智慧無く、內空外空乃至無法有法空を聞かず、亦四念處乃至十八不共法を聞かず修せず、亦諸三昧門諸陀羅尼門を聞かず修せず、亦一切智一切種智を聞かず修せず。憍尸迦、是の因緣を以ての故に、當に知るべし、少所の衆生は佛を信じて壞せず、法を信じて壞せず、僧を信じて壞せず、乃至少所の衆生は辟支佛道を求め、是の中に於て少所の衆生は阿耨多羅三藐三菩提心を發し、發心中に於て少所の衆生は菩薩道を行じ、是の中に於て少所の衆生は阿耨多羅三藐三菩提を得と。憍尸迦、我れ佛眼を以て見るに、東方無量阿僧祇の衆生、阿耨多羅三藐三菩提心を發し、菩薩道を行ず。是の衆生は般若波羅蜜方便力を遠離するが故に、若は一、若は二、阿鞞

跋致地に住し、多くは聲聞辟支佛地に墮す。南西北方四維上下も亦復た是の如し。是を以ての故に、憍尸迦、善男子善女人の發心して阿耨多羅三藐三菩提を求むる者は、應に般若波羅蜜を聞き、受持し親近し讀誦し（一七）説き（一八）正憶念すべし。受持し親近し讀誦し説き正憶念し已らば、應に經卷を書し恭敬し供養し尊重し讃歎し、華香瓔珞乃至伎樂もてすべし。（一九）諸餘の善法もて般若波羅蜜中に入る者も亦聞きて受持し、乃至正憶念すべし。何等か是れ諸餘の善法なるや、謂ゆる檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜內空外空乃至無法有法空、諸三昧門諸陀羅尼門、四念處乃至十八不共法大慈大悲なり。是の如き等の無量の諸善法は皆般若波羅蜜中に入る、是も亦應に聞きて、受持し乃至正憶念すべし。何を以ての故に、是の善男子善女人は當に是の如く念ずべければなり、佛本と菩薩たりし時に是の如く行じ是の如く學す、謂ゆる般若波羅蜜、禪那波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜、內空乃至無法有法空、諸三昧門諸陀羅尼門、四念處乃至十八不共法大慈大悲なり。是の如き等の無量の諸佛法、我等も亦隨ひて學すべし。何を以ての故に、般若波羅蜜は是れ我等の尊ぶ所、禪那波羅蜜乃至無量諸餘の善法も亦是れ我等の尊ぶ所、此は是れ諸佛の（二〇）法印、諸の辟支佛、阿羅漢、阿那含、斯陀含、須陀洹の法印なればなり。諸佛は是の般若波羅蜜を學し、乃至一切種智をもて彼岸に度

【一七】説き。解説し精勤修學するなり。
【一八】正憶念。理の如く正しく憶念思惟するなり。
【一九】諸餘の善法もて。大論にはこれ法華經密迹經等義般若經に同じきものを指すとせり。
【二〇】法印。佛法たる證據。

ることを得、諸の辟支佛阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹も亦是の般若波羅蜜を學し、乃至一切智もて彼岸に度ることを得たり。是を以ての故に、憍尸迦、若し善男子善女人、若は佛在世、若は般涅槃の後、應に般若波羅蜜に依止すべし、禪那波羅蜜毗黎耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜、乃至一切種智にも亦依止すべし。何を以ての故に、是の般若波羅蜜乃至一切種智は、是れ諸の聲聞辟支佛菩薩摩訶薩及び一切世間の天人阿修羅の依止すべき所なればなり。

(二)憍尸迦、若し善男子善女人有りて、佛の般涅槃の後に、佛を供養せんが爲の故に七寶の塔を作る、高さ一由旬なり、天香天華天瓔珞天擣香天澤香天衣天幢蓋天伎樂をもて供養し、恭敬し尊重し讃歎せば、憍尸迦、汝の意に於て云何、是の善男子善女人は是の因緣によりて福を得ること多きや不や。』釋提桓因世尊に言さく、『甚だ多し甚だ多し。』佛言はく、『是の善男子善女人、是の般若波羅蜜を聞き、書寫し受持し親近し正憶念して、薩婆若心を離れず、亦恭敬し尊重し讃歎し、若は華香瓔珞擣香澤香幢蓋伎樂もて供養せんに、是の善男子善女人の福德多きには如かず。』佛憍尸迦に告げたまはく、『一七寶塔を(三)置き、若し善男子善女人、佛を供養するが故に佛の般涅槃の後に、七寶の塔を起して閻浮提に滿て、皆高さ一由旬ならしめ、恭敬し尊重し讃歎し、華香瓔珞幢蓋伎樂もて供養せば、憍尸迦、汝の意に於て云何、是の善男子善女人は、福を得ること多きや不や。』釋提桓因言さく、『世尊、其の福甚だ多

【二】寶塔の功德よりも般若の功德大なるを說く。
【三】置き。さし置きて更に大なる比較をなす。

し。』佛言はく、『是の善男子善女人、前の如く般若波羅蜜を供養する、其の福の甚だ多きには如かず。憍尸迦、復一閻浮提の中に滿つる七寶の塔を置き、若し善男子善女人有りて、佛を供養するが故に、佛の般涅槃の後に、七寶の塔を起して四天下に滿て、皆高さ一由旬ならしめ、供養すること前の如くせば、憍尸迦、汝の意に於て云何、是の善男子善女人、其の福多きや不や。』釋提桓因言さく、『世尊、甚だ多し。』佛言はく、『是の善男子善女人、般若波羅蜜を書持し、恭敬し尊重し讃歎し、華香乃至伎樂もて供養する、其の福の甚だ多きには如かず。憍尸迦、復四天下の中に滿つる七寶の塔を置き、若し善男子善女人有りて、佛を供養するが故に、佛の般涅槃の後に、七寶の塔を起して小千世界に滿て、皆高さ一由旬ならしめ、供養すること前の如くせば、憍尸迦、汝の意に於て云何、是の善男子善女人、其の福多きや不や。』釋提桓因言さく、『世尊、甚だ多し。』佛言はく、『是の善男子善女人、是の般若波羅蜜を書し、受持し恭敬し尊重し讃歎し、華香乃至伎樂もて供養する、其の福の甚だ多きには如かず。憍尸迦、復小千世界の中に滿つる七寶の塔を置き、若し善男子善女人有りて、佛を供養するが故に、佛の般涅槃の後に、七寶の塔を起して〔三〕二千中世界に滿て、皆高さ一由旬ならしめ、供養するも前の如きの故に、般若波羅蜜を供養する、其の福の甚だ多きには如かず。復二千中世界の七寶の塔を置き、若し善男子善女人有りて、佛を供養するが故に、佛の般涅槃の後に、七寶の塔を起して三千大千

【三】二千中世界。小世界一千を一中界とし中界一千を以て二千中世界と云ふ。

世界に滿て、皆高さ一由旬ならしめ、形壽を盡して天華天香天瓔珞乃至天の伎樂もて供養せば、汝の意に於て云何、是の善男子善女人は、福を得ること多きや不や。』釋提桓因言さく、『世尊、甚だ多し。』佛言はく、『是の善男子善女人、是の般若波羅蜜を書持し、恭敬し尊重し讚歎し、華香乃至伎樂もて供養する、其の福の甚だ多きには如かず。復三千大千世界の中の七寶の塔を置き、若し三千大千世界の中の衆生、一々の衆生佛を供養するが故に、佛の般涅槃の後に、各七寶の塔を起し、恭敬し尊重し讚歎し、華香乃至伎樂もて供養するも、若し善男子善女人有りて、般若波羅蜜を書持し乃至正憶念し、薩婆若心を離れず、亦恭敬し尊重し讚歎し、華香瓔珞乃至伎樂もて供養せば、是の人の福を得ること甚だ多し。』釋提桓因佛に白して言さく、『是の如し是の如し、世尊、若し人、是の般若波羅蜜を供養し恭敬し尊重し讚歎せば、則ち過去未來現在の諸佛を供養すと爲す。世尊、若し十方如恒河沙等の世界の中の衆生、一々の衆生、佛を供養するが故に、佛の般涅槃の後に各七寶の塔を起し、高さ一由旬ならしめ、是の人若は一劫、若は減一劫、恭敬し尊重し讚歎し、華香乃至伎樂もて供養せば、世尊、是の善男子善女人の福を得ること多きや不や。』佛言はく、『甚だ多し。』釋提桓因言さく、『若し善男子善女人有りて、是の般若波羅蜜を書持し、乃至正憶念し、亦恭敬し尊重し讚歎し、華香乃至伎樂もて供養せば、其の福大に多し。何を以ての故に、世尊、一切の善法は皆般若波羅蜜中に入ればなり。謂ゆる十善道四禪四無量心四無色定、三十七品三解脫門空無相無作、四諦苦諦集諦滅諦道

諦、六神通八背捨九次第定、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜、内空乃至無法有法空、諸三昧門諸陀羅尼門、佛の十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法、一切智道種智一切種智なり。世尊、是を一切諸佛法印と名く、是の法中に一切の聲聞及び辟支佛過去未來現在の諸佛は、是の法を學して彼岸に度ることを得。』

(一)述成品第三十三

爾の時、佛釋提桓因に告げたまはく、『是の如し是の如し、憍尸迦、是の諸の善男子善女人は是の般若波羅蜜を書し、經卷を持し、受學し親近し讀誦し說き正憶念し、加ふるに復華香瓔珞擣香澤香幢蓋伎樂を供養して、當に無量無數不可思議不可稱量無邊の福德を得べし。何を以ての故に、諸佛の一切智一切種智、皆般若波羅蜜の中より生じ、諸の菩薩摩訶薩の禪那波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜も皆般若波羅蜜の中より生じ、內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法も皆般若波羅蜜の中より生じ、諸佛の五眼も皆般若波羅蜜の中より生じ、衆生を成就し佛國土を淨むるも、道種智一切種智諸佛法も、皆般若波羅蜜の中より生じ、聲聞乘辟支佛乘佛乘も皆般若波羅蜜の中より生ず。是を以ての故に、憍尸迦、善男子善女人の是の般若波羅蜜を書し經卷を持し、親近し讀誦し說き正憶念し、加ふるに復華香乃至伎樂を供養するの、(二)前の七寶の塔を供養するに過出すること、百分千分萬分百千萬分するも一にも及ばず、乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。何を以ての故に、憍尸迦、若し般若波羅蜜世に在れば、十善道四禪四無量心四無色定、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、四念處乃至十八不共法、一切

〔一〕品目大論には述誠に作る。述成とは前に帝釋般若を供養する福德の大なるを說く、今佛印可して書寫受持して世に在らしむる功德を說く。

〔二〕塔供養の德、持般若の德に劣ること百千萬分一のみにあらず。

智一切種智皆世に現れ、若し般若波羅蜜〔三〕世に在れば、世間便ち刹利大姓婆羅門大姓居士大家、四天王天乃至阿迦尼吒諸天、須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道、菩薩摩訶薩無上佛道、法輪を轉じ、衆生を成就し佛國土を淨むること有ればなり。』

【三】世に在れば。般若の體は有佛無佛を論ぜず常然たるも、今は經卷受持の般若あるを云ふ。

(一)勸持品第三十四

(二)爾の時、三千大千世界の有らゆる四天王天乃至阿迦尼吒天、釋提桓因諸天に語て言く、『是の般若波羅蜜を受くべし、持すべし、親近すべし、讀誦し說き正憶念すべし。何を以ての故に、若し般若波羅蜜を受持し乃至正憶念するが故に、一切修習する所の善法當に具足滿し、諸天衆を增益し、(三)阿修羅を減損すべし。諸天子、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念するが故に、(四)佛種斷せず、法種斷せず、僧種斷せず。佛種法種僧種斷せざるが故に、便ち檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜有りて皆世に現はれ、四念處乃至十八不共法、菩薩道皆世に現はれ、須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道佛道、須陀洹乃至佛皆世に現はるればなり。』

(五)爾の時、佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、汝當に是の般若波羅蜜を受けて持し、讀誦し說き正憶念すべし。何を以ての故に、若し諸の阿修羅心に欲を生じて、三十三天と共に闘へば、憍尸迦、汝爾の時に當に般若波羅蜜を誦念すべし、諸の阿修羅の惡心卽ち滅して、更に復生せざれば

【一】品目大論勸受持品とす。この品諸天の讃說を擧げ、更に功德を述べ受持因緣を說く。大論第五十八。

【二】諸天の讃說。

【三】阿修羅を非天と譯し神話により諸天と闘戰するものとす、天力增せば善法增し阿修羅の惡法滅す。

【四】佛種斷せず等。般若により三寶不斷の德あり。

【五】帝釋に受持因緣功德を示す。

【六】五衰。諸天命終せんとする時五死相現す、一に華鬘萎え二に腋下汗出で、三に蠅來り身に著く、四に他天已が座處に坐するを見、五に自ら本座

なり。憍尸迦、若し諸の天子天女に（六）五衰の相現はるれば、時に當に（七）不如意處に墮すべし、汝當に其の前に於て般若波羅蜜を讀誦すべし、是の諸の天子天女般若波羅蜜を聞く功德の故に還て本處に生ず。何を以ての故に、般若波羅蜜を聞くは大利益有るが故に。復次に憍尸迦、若は善男子善女人、若は諸の天子天女有りて、是の般若波羅蜜を聞くのみなるも是の功德を以ての故に、漸く當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。何を以ての故に、憍尸迦、過去の諸佛及び弟子、皆是の般若波羅蜜を學して阿耨多羅三藐三菩提を得、無餘涅槃に入り、憍尸迦、未來世の諸佛、今現在十方の諸佛及び弟子も、皆是の般若波羅蜜を學して阿耨多羅三藐三菩提を得、無餘涅槃に入ればなり。何を以ての故に、憍尸迦、是の般若波羅蜜は一切の善法、若は聲聞法、若は辟支佛法、若は菩薩法、若は佛法を攝すればなり。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、般若波羅蜜は是れ大明呪なり、（八）無上明呪なり、無等等明呪なり。何を以ての故に、世尊、是の般若波羅蜜は能く一切の不善法を除き、能く一切の善法を與ふればなり。』佛釋提桓因に語りて言はく、『是の如し是の如し、憍尸迦、般若波羅蜜は是れ大明呪なり、無上明呪なり、無等等明呪なり。何を以ての故に、憍尸迦、過去の諸佛は是の明呪に因るが故に阿耨多羅三藐三菩提を得、未來世の諸佛、今現在十方の諸佛も亦是の明呪に因りて阿耨多羅三藐三菩提を得、是の明呪に因

【七】不如意處。惡處なり。

【八】無上明呪。諸呪中功德最大の故に大明呪と云ひ、無上と云ひ、無等等と云ふ。その功德は一切の不善を除き一切の善法を與ふるに在り。

るが故に、世間便ち十善道有り、便ち四禪四無量心四無色定有り、便ち檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、四念處乃至十八不共法有り、便ち法性如法相法住法位實際有り、便ち五眼、須陀洹果乃至阿羅漢果、辟支佛道佛道、一切智一切種智有ればなり。憍尸迦、(九)菩薩摩訶薩の因緣の故に、十善世間に出で、四禪四無量心乃至一切種智、須陀洹乃至諸佛世間に出づること、譬へば滿月照明すれば、星宿も亦能く照明するが如し。是の如く憍尸迦、一切世間の善法正法十善乃至一切種智、若し諸佛出でざる時は皆菩薩より生ず。是の菩薩摩訶薩の方便力は皆般若波羅蜜より生ず。菩薩摩訶薩は是の方便力を以ての故に、檀那波羅蜜乃至禪那波羅蜜、內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法を行じて、聲聞辟支佛地を證せず、亦能く衆生を成就し佛國土を淨め、壽命成就し國土成就し、菩薩の眷屬成就し一切種智を得る、皆般若波羅蜜より生ず。復次に憍尸迦、若し善男子善女人、般若波羅蜜を聞きて、受持し親近し乃至正憶念せば、是の人、當に今世後世の功德成就することを得べし。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、何等をか是の善男子善女人般若波羅蜜を受持し乃至正憶念せば、今世後世に得る功德とする。』佛釋提桓因に告げたまはく、『若し善男子善女人有りて、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念せば、終に毒に中りて死せず、兵刄も傷けず、水火も害せず、乃至(一〇)四百四病も中ること能はざる所なり。其の(一一)宿命業報を除く。復

【九】菩薩摩訶薩の因緣。般若に因りて十善乃至諸佛を出す、般若は菩薩に屬するが故に菩薩の因緣と云ふ。

【一〇】四百四病。四大相侵す、水風起るが故に、冷病二百二、

次に憍尸迦、若し官事の起る有れば、是の善男子善女人は般若波羅蜜を讀誦するが故に、往いて官所に到るも官譴責せず。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の威力の故に。若し善男子善女人、是の般若波羅蜜を讀誦して王所若は太子大臣所に到れば、王及び太子大臣は皆歡喜し問訊し、和意もて與に語る。何を以ての故に、是の諸の善男子善女人は、常に慈悲喜捨の心有りて衆生に向ふが故に。憍尸迦、若し善男子善女人、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念せば、是の如き等の種種今世の功德を得。憍尸迦、何等をか是の善男子善女人後世に得る功德とするとは、是の善男子善女人は、終に十善道四禪四無量心四無色定、六波羅蜜、四念處乃至十八不共法を離れず、是の人終に三惡道に墮せずして、身を受くること（二）完具なり、終に貧窮下賤工師（三）除廁人擔死人の家に生ぜず、常に三十二相を得、常に諸の現在佛國に化生することを得、終に菩薩の神通を離れず、若し一佛國より一佛國に至りて諸佛を供養し法教を聽受せんと欲すれば、卽ち意に隨つて遊ぶ所の佛國を得、能く衆生を成就し佛國土を淨め、漸く阿耨多羅三藐三菩提を得。憍尸迦、是を後世の功德と名く。是を以ての故に、憍尸迦、善男子善女人は當に是の般若波羅蜜を受持し、親近し讀誦し說き正憶念し、華香乃至伎樂もて供養し、常に薩婆若心を離れざるべし。是の善男子善女人は乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至り、今世後世の功德成就することを得。』

老衰老るが故に、熱病二百二。
【一】宿命等。過去の決定業報は轉除する能はずとす。

【二】完具。人身として諸根完具せり。
【三】除廁人。卑賤の掃除夫なり。

(一)遣異品第三十五

(二)爾の時、諸の外道梵志來りて佛所に向ひ、(三)佛の短を求めんと欲す。是の時、釋提桓因心に念ずらく、「是の諸の外道梵志來りて佛所に向ひ、佛の短を求めんと欲す、我れ今當に佛より受くる所の般若波羅蜜を誦念し、是の諸の外道梵志等をして、終に中道にして疑斷を作すこと能はざらしめ、般若波羅蜜を説かしむべし」と。釋提桓因は是の念を作し已りて、卽ち般若波羅蜜を誦念す。是の時に諸の外道梵志は遙に佛を繞り、道を復して還去る。時に舍利弗心に念ずらく、「是の中何の因緣ありてか諸の外道梵志は遙に佛を繞り道を復して還去るや」と。佛舍利弗の心の念を知りて舍利弗に告げたまはく、『是れ釋提桓因般若波羅蜜を誦念す、是の因緣を以ての故に、諸の外道梵志は遙に佛を繞り道を復して還去る。舍利弗、我れ是の諸の外道梵志の(四)一念善心をも見ず、是の諸の外道梵志は惡心を持ちて來り、佛の短を索めんと欲す。舍利弗、我れ般若波羅蜜を説く時に、一切世間若は天、若は魔、若は梵、若は沙門衆婆羅門衆中に惡意を持ちて來り、能く短を得る者有るを見ず。何を以ての故に、舍利弗、是の三千大千世界中の諸の

【一】品目丹本大論梵志品に作る。外道梵志害するを得ざる現證を擧ぐ。異心の異道を遣去するを以て遣異と云ふ也。
【二】外道惡魔の難する能はざるを説く。
【三】佛の短。相好業事説法等の短所缺點。今殊に靈山に於ける諸法空なりとする般若の缺點。
【四】一念善心等。若し善心あらば度せらるべきも、惡心邪見のみありて定相を求むるが故に遮遣せらる。

四天王天乃至阿迦尼吒天、諸の聲聞辟支佛、諸の菩薩摩訶薩、是の般若波羅蜜を守護すればなり。所以は何かん、是の諸天人は皆般若波羅蜜中より生ずるが故に。復次に舍利弗、十方如恒河沙等の世界の中の諸佛、及び聲聞辟支佛菩薩摩訶薩諸天龍鬼神等、皆是の般若波羅蜜を守護すればなり。所以は何かん、是の諸佛等は皆般若波羅蜜の中より生ずるが故に。』爾の時、惡魔心に念ずらく、「今佛の四衆現前し集會し、亦欲界色界の諸天子有り、是の中に必ず菩薩摩訶薩有りて(五)受記し、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし、我れ寧ろ佛所に至りて其の意を破壞すべし」と。是の時に惡魔は四種兵を化作して佛所に至る。爾の時釋提桓因心に念ずらく、「是の(六)四種兵、或は是れ惡魔の化作して來り佛に向はんと欲するならん。何を以ての故に、是の四種兵の嚴飾は(七)頻婆娑羅王の四種兵も類せざる所、(八)波斯匿王の四種兵も亦類せず、(九)諸釋子の四種兵も亦類せず、(一〇)諸梨昌の四種兵も皆亦類せず、此は是れ惡魔の化作せる四種兵なり。是の惡魔は長夜に佛の便を求めて、衆生を惱まさんと欲す。我れ寧ろ般若波羅蜜を誦念すべし」と。釋提桓因は卽時に般若波羅蜜を誦念す、惡魔は其の誦する所を聞きて漸漸に道を復して還去る。

(一一)爾の時、會中の四天王諸天子乃至阿迦尼吒諸天子は、天華を虛空中に

【五】受記。成佛すべしとの記別を受くるなり。

【六】四種兵。象兵、馬兵、車兵、步兵を四兵と云ふ。

【七】頻婆娑羅(Bimbisāra)。影堅と譯す。當時摩伽陀の王なり。

【八】波斯匿(Prasenajit)。勝軍と譯す。當時憍薩羅の王なり。

【九】諸釋子。北方釋迦種族を云ふ。

【一〇】梨昌。離車又は栗呫毗に作る(Licchavi)又跋耆(Vajji)とも云ふ、摩伽陀東北の國なり。

【一一】諸天般若の久住を願ふ。

化作し、而して佛の上に散じて是の言を作す、『世尊、願くは般若波羅蜜をして閻浮提に久住せしめたまへ。所以は何かん、閻浮提の人般若波羅蜜を受持せば、(二)所住の時に隨て、佛寶住して滅せず、法寶、僧寶も亦住して滅せざればなり。』爾の時、十方如恒河沙等の世界の中の諸天も亦皆華を散じ、而して是の言を作す、『世尊、願くは般若波羅蜜をして、閻浮提に久住せしめたまへ。若し般若波羅蜜久住せば、佛法僧も亦當に久住すべし、亦(三)分別して菩薩摩訶薩道を知る。復次に所在の住處、善男子善女人有りて般若波羅蜜經卷を書持せば、是の處は則ち照明と爲り已りて、衆冥を離るればなり。』佛釋提桓因等の諸の天子に告げたまはく、『是の如し是の如し、憍尸迦及び諸天子、閻浮提の人、般若波羅蜜を受持し、所住の時に隨て佛寶是の如く住し、法寶、僧寶も亦是の如く住し、乃至所在の住處、善男子善女人有りて般若波羅蜜經卷を書持せば、是の處は則ち照明と爲り已りて衆冥を離る。』爾の時、諸天子は天華を化作して佛の上に散じて是の言を爲す、『世尊、若し善男子善女人有りて、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念せば、魔若は魔天は其の便を得ること能はず。世尊、我等も亦當に是の善男子善女人を擁護すべし。何を以ての故に、若し善男子善女人、般若波羅蜜を受持し、乃至正憶念せば、我等は是の人を視るに卽ち是れ佛とし、若は佛に次ぐとすればなり。』是の時釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、善男子善女人の般若波羅蜜を受持し、乃至正憶念する者は當に知るべ

【二】所住の時。般若止住流布の間。

【三】分別。般若法空清淨を明かにして菩薩の道も知らるべきなり。

し、是の人は先の世に佛所に於て功德を爲すこと多く、諸佛に親近し供養し、善知識の爲に護らる。何を以ての故に、諸佛の一切智は當に般若波羅蜜中より求むべく、般若波羅蜜も亦當に一切智中より求むべければなり。所以は何かん、般若波羅蜜は一切智に異ならず、一切智は般若波羅蜜に異ならず、般若波羅蜜と一切智とは二ならず別ならざればなり。是の故に、我等は是の人を視るに、卽ち是れ佛とし、若は佛に次ぐとす。』佛釋提桓因に告げて言はく、『是の如し是の如し、憍尸迦、諸佛の一切智は卽ち是れ般若波羅蜜、般若波羅蜜は卽ち是れ一切智なり。何を以ての故に、憍尸迦、諸佛の一切智は皆般若波羅蜜中より生じ、般若波羅蜜は一切智に異ならず、一切智は般若波羅蜜に異ならず、般若波羅蜜と一切智とは二ならず別ならざればなり。』

(一)阿難稱譽品第三十六

(二)爾の時、慧命阿難佛に白して言さく、『世尊、何を以て檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜乃至十八不共法を稱譽せずして、但だ般若波羅蜜のみを稱譽したまふや。』佛阿難に告げたまはく、『般若波羅蜜は五波羅蜜乃至十八不共法に於て(三)尊導たり。阿難、汝の意に於て云何、(四)薩婆若に廻向せざる布施は檀那波羅蜜と稱することを得るや不や。』『不とよ、世尊。』『薩婆若に廻向せざる尸羅羼提毘梨耶禪那智慧は、是れ般若波羅蜜と稱することを得るや不や。』『不とよ、世尊。』『是を以ての故に、般若波羅蜜は五波羅蜜乃至十八不共法に於て尊導たり、是の故に稱譽す。』阿難佛に白して言さく、『世尊、云何が布施は薩婆若に廻向して檀那波羅蜜と作り、乃至般若波羅蜜と作るや。』佛阿難に告げたまはく、『無二法を以て布施、薩婆若に廻向せば、是を檀那波羅蜜と名け、不生不可得を以ての故に、薩婆若に廻向せば布施是を檀那波羅蜜と名く。乃至無二法を以て智慧、薩婆若に廻向せば、是を般若波羅蜜と名け、不生不可得を以ての故に、薩婆若に廻向せば、智慧是を般若波羅蜜と名く。』阿難佛に白して言さく、『世尊、云何が不

【一】品目麗本尊導に作る。初段阿難は般若を稱譽する所以を問ふ。佛は諸法の尊導たる故なりとするを以て名づく。後段更に受持般若の功德盡きざるを明す。

【二】般若を稱譽するは諸法の最尊なるによることを説く。

【三】尊導。最尊の導師。般若は出三界を導き三乘に到らしむればなり。

【四】薩婆若に廻向せずば有限の一定法となり大ならず度脱を得す。

二法を以て薩婆若に廻向せば、布施是を檀那波羅蜜と名け、乃至不二法を以て薩婆若に廻向せば、智慧是を般若波羅蜜と名くるや。』佛阿難に告げたまはく、『色不二法なるを以ての故に、受想行識不二法なるが故に、乃至阿耨多羅三藐三菩提不二法なるが故に。』『世尊、云何が色不二法、乃至阿耨多羅三藐三菩提は不二法なるや。』佛言はく、『色色相空なり。何を以ての故に、檀那波羅蜜と色とは二ならず別ならず、乃至、阿耨多羅三藐三菩提と檀那波羅蜜とは二ならず別ならざればなり。五波羅蜜も亦是の如し。是を以ての故に、阿難、但だ般若波羅蜜のみを稱譽す、五波羅蜜乃至一切種智に於て尊導たり。阿難、譬へば大地に種を以て中に散くに〔五〕衆緣の和合を得て便ち生ず、是の諸の種子は地に依て而して生ずるが如く、是の如く阿難、五波羅蜜は般若波羅蜜に依りて生ずることを得、四念處乃至一切種智も亦般若波羅蜜に依て生ずることを得。是を以ての故に、阿難、般若波羅蜜は五波羅蜜乃至十八不共法に於て尊導たり。』

【五】衆緣。麗本大論は因緣に作る。
【六】爾餘の功德を廣說す。
【七】功德未盡とは實に般若の德無量なればなり。

〔六〕爾の時、釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、佛の說きたまへる、善男子善女人の般若波羅蜜を受持し、乃至正憶念する者の〔七〕功德は未だ盡くさず。何を以ての故に、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念せば、則ち三世諸佛の阿耨多羅三藐三菩提を受くればなり。所以は何かん、薩婆若を得んと欲すれば、當に般若波羅蜜中より求むべく、般若波羅蜜を得んと欲すれば、當に薩婆若中より求むべければ

なり。世尊、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念するが故に、十善道は世間に現はれ、四禪四無量心四無色定乃至十八不共法は世間に現はる。般若波羅蜜を受持し乃至正憶念するが故に、世間便ち刹利大姓婆羅門大姓居士大家、四天王天乃至阿迦尼吒諸天有り。般若波羅蜜を受持し乃至正憶念するが故に、便ち須陀洹乃至阿羅漢辟支佛菩薩摩訶薩有り。般若波羅蜜を受持し乃至正憶念するが故に、諸佛は世間に出づ。』爾の時、佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、善男子善女人、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念せば、我れ但だ爾所の功徳有るのみと說かず。何を以ての故に、憍尸迦、是の善男子善女人、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念し、薩婆若心を離れずば、(八)無量の戒(九)品成就し、無量の定品慧品解脱品解脱知見品成就す。復次に憍尸迦、是の善男子善女人、能く般若波羅蜜を受持し、乃至正憶念し、薩婆若心を離れずば、當に知るべし、是の人を佛の如しと爲す。復次に憍尸迦、一切聲聞辟支佛の有らゆる戒品、定品智品解脱品解脱知見品は、是の善男子善女人の戒品乃至解脱知見品に及ばざること、百分千分百千萬億分、乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。何を以ての故に、是の善男子善女人は、聲聞辟支佛地中に於て、(一〇)心解脱することを得て更に大乘法を求めざるが故に。復次に憍尸迦、若し善男子善女人有りて、般若波羅蜜經卷を書持し、

【八】無量の戒。名字戒は毗尼中の二百五十、略說戒は八萬四千、廣說戒は無量無邊、一日受より盡未來に至るまで種々あるを無量の戒と云ふ。
【九】品は麗本、大論衆に作る。下同じ。
【一〇】心解脱す。生死煩惱の縛著を離るゝも廣度衆生なきを大乘法を求めずと云ふ。
【一一】供養に効他模倣と深心供養とあり、般若を知るは深心供養の故に二世功徳を得べし。

(二)供養し恭敬し尊重し、華香瓔珞乃至伎樂もて供養するも、亦今世後世の功德を得。』爾の時釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、是の善男子善女人は、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念し、薩婆若心を離れずして、般若波羅蜜を供養し恭敬し尊重し、華香乃至伎樂もてせば、我れ常に當に是の人を守護すべし。』

【三】膽力增長等の功德あるを説く。

(三)佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、是の善男子善女人、是の般若波羅蜜を讀誦し説かんと欲する時に、無量百千の諸天皆來りて法を聽く。是の善男子善女人般若波羅蜜法を説くや、諸天其の膽力を益す。是の諸の法師、若し疲極して法を説くことを欲せずば、諸天其の膽力を益すが故に便ち能く更に説く。善男子善女人は是の般若波羅蜜を受け、乃至正憶念し、華香乃至伎樂もて供養するが故に、亦是の今世の功德を得。復次に憍尸迦、是の善男子善女人は、四部衆の中に於て般若波羅蜜を説く時、心に怯弱無く、若し論難有らんも亦畏想無し。何を以ての故に、是の善男子善女人は、般若波羅蜜の爲に護持せらるゝが故に。般若波羅蜜の中に亦一切法を分別して、若は世間若は出世間、若は有漏若は無漏、若は善若は不善、若は有爲若は無爲、若は聲聞法、若は辟支佛法、若は菩薩法、若は佛法とす。善男子善女人は内空に住し、乃至無法有法空に住するが故に、能く般若波羅蜜を難ずる者有るを見ず、亦難を受くる者を見ず、亦般若波羅蜜をも見ざるなり。是の如きの善男子善女人は、般若波羅蜜の爲に護持せらるゝが故に、能く難壞する者有ること無し。復次に善男子善女人は、般若波羅蜜を受持し乃至正憶念する時に、沒せず畏れ

ず怖かず。何を以ての故に、是の善男子善女人は、是の法の沒する者、恐怖する者を見ざればなり。憍尸迦、善男子善女人、般若波羅蜜を受持し、乃至正憶念し、華香供養し、乃至旛蓋もてせば、亦是の今世の功德を得。復次に憍尸迦、善男子善女人、般若波羅蜜を受持し、乃至正憶念し、經卷を書持し、華香供養し、乃至旛蓋もてせば、是の人は父母の爲に愛せられ、宗親知識に念ぜられ、諸の沙門婆羅門に敬せられ、十方の諸佛及び菩薩摩訶薩、辟支佛阿羅漢乃至須陀洹に愛敬せられ、一切世間若は魔若は梵及び阿修羅等皆亦愛敬す。是の人檀那波羅蜜を行ずるや、檀那波羅蜜斷絕する時有ること無く、尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜も亦斷絕する時有ること無し。內空を修して斷ぜず、乃至無法有法空を修して斷ぜず、四念處を修して斷ぜず、乃至十八不共法を修して斷ぜず、諸三昧門を修して斷ぜず、諸陀羅尼門を修して斷ぜず、諸の菩薩の神通を修して斷ぜず、衆生を成就し佛國土を淨めて斷ぜず、乃至一切種智を修して斷ぜず、是の人亦能く難論毀謗を降伏す。善男子善女人、般若波羅蜜を受持し、乃至正憶念し、薩婆若心を離れず、經卷を書持し、華香供養し、乃至旛蓋もてせば、亦是の今世後世の功德を得。復次に憍尸迦、善男子善女人の經卷を書持せば、所住の處に在りて、三千大千世界の中の有ゆる諸の四天王天の阿耨多羅三藐三菩提心を發す者、皆是の處に來到して般若波羅蜜を見、受けて讀誦し說き供養し禮拜して還去る。

(三)三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天、梵衆天梵輔天梵會天大梵天

【三】四天王天三十三天乃至他化自在天はこれ六欲天なり、梵衆天以下は色界諸天、中に

光天少光天無量光天光音天淨天少淨天無量淨天徧淨天無蔭行天福德天廣果天の阿耨多羅三藐三菩提心を發す者、皆是の處に來到して般若波羅蜜を見、受けて讀誦し說き供養し禮拜して還去る。（一四）淨居諸天謂ゆる無誑天無熱天妙見天喜見天色究竟天、皆是の處に來到して是の般若波羅蜜を見、受けて讀誦し說き供養し禮拜して還去る。復次に憍尸迦、十方世界の中の諸の四天王天、乃至廣果天の阿耨多羅三藐三菩提心を發すもの、及び淨居天並に餘の（一五）諸天、龍鬼神、乾闥婆、阿修羅、迦樓羅、緊那羅、摩睺羅伽も亦來りて般若波羅蜜を見、受けて讀誦し說き供養し禮拜して還去る。是の善男子善女人は應に是の念を作すべし、「十方世界の中の諸の四天王天、乃至廣果天の阿耨多羅三藐三菩提心を發すもの、及び淨居天並に餘の諸天、龍鬼神乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽來りて般若波羅蜜を見、受けて讀誦し說き供養し禮拜す、我れ則ち法を施し已ぬ」と。憍尸迦、三千大千世界の中の有ゆる諸の四天王天乃至阿迦尼吒天及び十方世界の中の諸の四天王天乃至阿迦尼吒天の阿耨多羅三藐三菩提心を發す者は、是の善男子善女人を護持し、（一六）諸惡便を得ること能はず、其の宿命重罪を除く。憍尸迦、是の善男子善女人も亦是の今世の功德を得。謂ゆる諸天子阿耨多羅三藐三菩提心を發して、皆是の處に來到す。何を以ての

於て大梵天まで初禪、無量光天まで二禪、無量淨天まで三禪、以下第四禪なり。

【一四】淨居諸天。無誑等を五淨居と云ふ。第四禪最上の妙果なり。

【一五】諸天等。天龍八部衆なり乾闥婆(Gandharva)尋香と譯し、迦樓羅(Garuḍa)金翅鳥と云ひ、緊那羅(Kiṃnara)明本那を陀に作る、人非人と譯す。摩睺羅伽(Mahoraga)大腹行と譯す。

【一六】諸惡。惡鬼惡緣疾疫災患等。

故に、憍尸迦、諸天子は阿耨多羅三藐三菩提心を發し、一切衆生を救護し、一切衆生を捨てず、一切衆生を安樂にせんと欲するが故に。』

(一七)爾の時、釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、善男子善女人は云何が當に知るべきや、諸の四天王天乃至阿迦尼吒天來り、及び十方世界の中の諸の四天王天乃至阿迦尼吒天來りて般若波羅蜜を見、受けて讀誦し說き供養し禮拜する時を。』佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、若し善男子善女人、(一八)大淨光明を見ば、必ず大德諸天有りて來り、般若波羅蜜を見、受けて讀誦し說き、供養し禮拜する時と知らん。復次に憍尸迦、善男子善女人、若し異妙香を聞かば、必ず大德諸天有りて來り、般若波羅蜜を見、受けて讀誦し說き、供養し禮拜する時と知らん。復次に、憍尸迦、善男子善女人(一九)淨潔を行ずるが故に、諸天其の處に來到し、般若波羅蜜を見、受けて讀誦し說き供養し歡喜し禮拜す。是の中に(二〇)小鬼の輩あれば卽時に出去す、是れ大德諸天の威德に堪任すること能はざるが故に。是の大德諸天來るを以ての故に、是の善男子善女人は(二一)大心を生ず。是を以ての故に、般若波羅蜜所住の處には、四面諸の不淨有るべからずして、當に燈を然じ、衆の名香を燒き、衆の名華を散じ、衆香を地に塗り、衆の蓋幢旛もて種種に嚴飾すべし。復次に憍尸迦、善男子善女人は法を說く時、終に疲極する

【一七】諸天出現擁護する時を知覺すべき緣を述ぶ。
【一八】大淨光明。住處淸淨の故に諸天來らば大光明あり異香薰ずべし。
【一九】淨潔。淸淨潔齋にして住處衣服等を淨むるなり。
【二〇】小鬼。諸惡を事とする舊住の惡緣を指す。
【二一】大心。心廣大淸淨となる。

こと無くして、自ら身輕く心の樂しきを覺へ、法に隨ひて偃息し、(三二)臥覺安隱にして、諸の惡夢無く、(三三)夢中に諸佛の三十二相八十隨形好あり、比丘僧に恭敬し圍繞せられ、而して爲に法を說くを見、諸佛の邊に在りて法敎、謂ゆる六波羅蜜、四念處乃至十八不共法を聽受し、六波羅蜜義を分別し、四念處乃至十八不共法を分別し、亦其の義を分別するを見る。亦菩提樹の莊嚴殊妙なるを見、諸の菩薩の菩提樹下に趣きて、阿耨多羅三藐三菩提を得ることを見、諸佛の成じ已て法輪を轉ずることを見、百千萬の菩薩共に集りて法を論議し、應に是の如く薩婆若を求むべく、應に是の如く衆生を成就すべく、應に是の如く佛國土を淨むべしとするを見る。亦十方無數百千萬億の諸佛を見、亦其の名號を聞く、某の方、某の國、某の佛、若干百千萬の菩薩、若干百千萬の聲聞に恭敬し圍繞せられて說法するを見る。復十方無數百千萬億の諸佛の般涅槃を見、復無數百千萬億の諸佛の(三四)七寶の塔を見、諸塔を供養し恭敬し尊重し讚歎し、華香乃至旛蓋もてするを見る。憍尸迦、是の善男子善女人は是の如きの善夢を見、臥して安く覺めて安く、諸天其の氣力を益し、自ら身體輕便なるを覺え、大に飮食衣服臥具湯藥に貪著せず、(三五)四供養に於て其の心の輕微なることは、譬へば比丘坐禪し、坐禪より起つに、心定と合し飮食を貪らずして、其の心の輕微なるが如し。何を以ての故に、憍尸迦、諸の天法は應に諸味の精を以て其の氣力を益すべきが

【三二】臥覺安隱。內外惡緣を離るゝが故に臥も安く覺も安し。
【三三】夢中。夢の惡なるなく善夢のみを見る。
【三四】七寶の塔。滅後供養の窣塔婆なり。
【三五】四供養。上述の飮食、衣服、臥具、湯藥なり。

故に、十方の諸佛及び龍鬼神阿修羅乾闥婆迦樓羅緊那羅摩睺羅伽、亦其の氣力を益す。是の如く憍尸迦、善男子善女人今世に是の如きの功德を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を受持し、親近し讀誦し說き正憶念して、亦薩婆若心を離れざるべし。憍尸迦、善男子善女人、受持し乃至正憶念すること能はずと雖も、當に經卷を書持し恭敬し供養し尊重し讚歎し、華香瓔珞乃至旛蓋もてすべし。憍尸迦、若し善男子善女人、是の般若波羅蜜を聞き、受持し讀誦し說き正憶念し、經卷を書寫して恭敬し供養し尊重し讚歎し、華香乃至旛蓋もてせば、是の善男子善女人の功德甚だ多くして、十方の諸佛及び弟子衆を供養し恭敬し尊重し讚歎し、衣服飲食臥具湯藥もてし、諸佛及び弟子般涅槃の後に七寶の塔を起し、恭敬し供養し尊重し讚歎し、華香乃至旛蓋もてするに勝る。』(三六)

【三六】宋元明本第十の終とす。

(一)卷の第十

(二)舍利品第三十七

(三)佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、若し閻浮提に滿つる佛舍利を一分と作し、復人有りて般若波羅蜜經卷を書して一分と作さば、二分の中汝何所を取るや。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、若し閻浮提に滿つる佛舍利を一分と作し、般若波羅蜜經卷を一分と作さば、二分の中我れ寧ろ般若波羅蜜經卷を取らん。何を以ての故に、世尊、我れ佛舍利に於て恭敬せざるに非ず、尊重せざるに非ず、世尊、舍利は般若波羅蜜の中より生じ、般若波羅蜜に(四)修熏せらるゝを以ての故に、是の舍利は供養恭敬尊重讃歎を得ればなり。』爾の時舍利弗釋提桓因に問ふ、『憍尸迦、是の般若波羅蜜は取るべからず、色無く形無く對無く一相にして謂ゆる無相なり、汝云何が(五)取らんと欲するや。何を以ての故に、是の般若波羅蜜は取ることを爲さゞるが故に出で、捨つることを爲さゞるが故に出で、增減聚散損益垢淨を爲さゞるが故に出づ。是の般若波羅蜜は(六)諸佛法を與へず、凡人法

【一】宋元明本卷第十一に作る。
【二】品目麗本法稱品、大論校量舍利品に作る、舍利と般若經卷との供養利益の比較を說き般若法を稱揚す。大論第五十九。
【三】般若經卷は不二を示す、舍利の尊ぶべきも般若に依るが故に、般若を重んずることを說く。
【四】修熏。修治熏染せらるゝと云ふ。
【五】取らんと。般若無相ならば取捨なし、舍利を置き經卷を取るは何ぞと難ず。帝釋俗諦に依て取捨するに過ぎざるを明かにせんとするなり。
【六】諸佛法を與へず等。般若に依り佛法一を加へず凡愚法一を減ぜざるべし。

を捨てず、辟支佛法阿羅漢法學法を與へず、凡人法を捨てず、無爲性を與へず、有爲性を捨てず、內空乃至無法有法空を與へず、四念處乃至一切種智を與へず、凡人法を捨てざればなり。』釋提桓因舍利弗に語るらく、『是の如し是の如し、舍利弗、若し人有りて是の般若波羅蜜諸佛法を與へず、凡人法を捨てず、乃至一切種智を與へず、凡人法を捨てずと知らば、是の菩薩摩訶薩能く般若波羅蜜を行じ、能く般若波羅蜜を修す。何を以ての故に、般若波羅蜜は二法相を行ぜざるが故に。不二法相は是れ般若波羅蜜なり。不二法相は是れ禪波羅蜜乃至檀波羅蜜なり。』爾の時佛釋提桓因を讃じて言はく、『善い哉善い哉、憍尸迦、汝の所說の如く、般若波羅蜜は二法相を行ぜざるが故に、不二法相は是れ般若波羅蜜なり、不二法相は是れ禪波羅蜜乃至檀波羅蜜なり。憍尸迦、若し人（七）法性の二相を得んと欲する者は、是の人般若波羅蜜の二相を得んと欲すと爲す。何を以ての故に、憍尸迦、法性と般若波羅蜜とは二無く別無く、乃至檀波羅蜜も亦是の如し。若し人實際不可思議性の二相を得んと欲する者は、是の人般若波羅蜜の二相を得んと欲すと爲す。何を以ての故に、般若波羅蜜と不可思議性とは二無く別無ければなり。

（八）釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、一切世間人及び諸天阿修羅、應に般若波羅蜜を禮拜し供養すべし。何を以ての故に、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に學して阿耨多羅三藐三菩提を得ればな

【七】法性の二相。法性實在し定性ありとするを云ふ、これ法性に契はず般若に合せず。
【八】般若即ち佛として尊ぶべきを說く。

り。世尊、我れ常に(九)善法堂上に在て坐す、若し我れ座に在らざる時は、諸の天子來りて我を供養するが故に、我が坐せる處たるが爲に禮を作し繞り竟て還去る。諸天子は是の念を作す、釋提桓因は是處に在りて坐し、諸の三十三天の爲に法を說けるが故に。是の如く世尊、在所の處に是の般若波羅蜜經卷を書し、受持し讀誦し、他の爲に演說せば、是處をば十方世界の中の諸天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽皆來りて般若波羅蜜を禮拜し供養し已りて去る。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中に諸佛を生じ、及び一切衆生の(一〇)樂具を生ずるが故に。諸佛舍利も亦是の一切種智の(一一)住處の因緣たるのみ。是を以ての故に、世尊、二分の中に我れ般若波羅蜜を取る。復次に世尊、我れ若し般若波羅蜜を受持し讀誦し、(一二)心深く法の中に入らば、我れ是の時に怖畏相を見ず。何を以ての故に、世尊是の深般若波羅蜜は相無く貌無く言無く說無ければなり。世尊、相無く貌無く言無く說無きは是れ般若波羅蜜、乃至是れ一切種智なり。世尊、般若波羅蜜若し有相にして無相に非ざるべくんば、(一三)諸佛は一切法相無く貌無く言無く說無しと知りて、阿耨多羅三藐三菩提を得、弟子の爲に、諸法も亦相無く貌無く言無く說無しと說くべからず。世尊、般若波羅蜜は實に是れ相無く貌無く言無く說無きを以ての故に、諸佛は一切諸法相無く貌無く言無く

【九】善法堂。忉利天上說法の道場。
【一〇】樂具。福德を云ふ、これ快樂の因緣なり。在家福德を事とし舍利等を尊ぶ。
【一一】住處の因緣。舍利は一切種智身の止住せるに緣て尊ばるるのみ。
【一二】心深。無二法に住するなり、深心供養これなり。
【一三】般若有相ならば諸法無相を知らず、成佛を得ず、無相法輪を轉ずるを得ず。

說無しと知りて、阿耨多羅三藐三菩提を得、弟子の爲に、諸法も亦相無く貌無く言無く說無しと說く。是を以ての故に、世尊、是の般若波羅蜜をば一切世間諸天人阿修羅は應に恭敬し供養し、尊重し讃歎し、香華瓔珞乃至旛蓋を以てすべし。復次に世尊、若し人有りて般若波羅蜜を受持し、親近し讀誦し說き、正憶念し及び書寫し、華香乃至旛蓋もて供養せば、是の人は地獄畜生餓鬼道の中に墮せず、聲聞辟支佛地に墮せず、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得て常に諸佛を見たてまつり、一佛國より一佛國に至りて諸佛を供養し恭敬し尊重し讃歎し、華香乃至旛蓋を以てす。復次に世尊、三千大千世界に滿つる佛舍利を一分と作し、般若波羅蜜經卷を書して一分と作さば、是の二分の中、我れ（一四）故に般若波羅蜜を取らん。何を以ての故に、世尊、是の般若波羅蜜の中に諸佛舍利を生ず。是を以ての故に、舍利は供養恭敬尊重讃歎を得、是の善男子善女人は、舍利を供養し恭敬するが故に、天上人中の福樂を受けて常に三惡道に墮せず、所願の如く漸く三乘法を以て涅槃に入る。是の故に世尊、若は現在佛を見る有り、若は般若波羅蜜經卷を見るも等しくして異ること無し。何を以ての故に、世尊、是の般若波羅蜜と佛とは二無く別無きが故に。

（一五）復次に世尊、佛（一六）三事の示現に住し、（一七）十二部經修多羅祇夜乃至優波提舍を說きたまふが如

【一四】故に。分別は俗諦上のことにして、般若本なるを以てこれを取る。

【一五】般若の論說は、諸佛々力に等しきを說き、爾餘の功德に及ぶ。

【一六】三事の示現。三示導とも譯す。神通、說法、教誡の三神變なり。

【一七】十二部經。所說の修多羅、祇夜、受記、伽陀、優陀那、因緣、阿波陀那、如是語、本生、方廣、未曾有、論議なり。初品を參照せよ。

く、復善男子善女人有りて、是の般若波羅蜜を受持し誦說せんに、等しくして異ること無し。何を以ての故に、世尊、是の般若波羅蜜の中に三事示現及び十二部經修多羅乃至優波提舍を生ずるが故に。復次に世尊。十方諸佛は三事の示現に住し、十二部經修多羅乃至優波提舍を說くと、復人有りて般若波羅蜜を受け、他人の爲に說くと、等しくして異ること無し。何を以ての故に、般若波羅蜜の中に諸佛を生じ、亦十二部經修多羅乃至優波提舍を生ずればなり。復次に世尊、若し十方如恒河沙等の世界の中の諸佛を供養し、恭敬し尊重し讃歎し、華香乃至旛蓋を以てする有ると、復人の般若波羅蜜經卷を書し、恭敬し尊重し讃歎し、華香乃至旛蓋を以てする有ると、其の福正に等し。何を以ての故に、十方の諸佛は皆般若波羅蜜の中より生ずればなり。復次に世尊、善男子善女人、是の般若波羅蜜を聞き、受持し讀誦し、正憶念し、亦他人の爲に說かば、是の人は地獄道畜生餓鬼道に墮せず、亦聲聞辟支佛地に墮せず。何を以ての故に、當に知るべし、是の善男子善女人は正に阿惟越致地の中に住するが故に、是の般若波羅蜜は一切苦惱衰病を遠離すればなりと。復次に世尊、若し善男子善女人有りて是の般若波羅蜜經卷を書し、受持し親近し供養し恭敬し尊重し讃歎せば、是の人は諸の恐怖を離る。世尊、譬へば負債人の國王に親近し左右に供給せば、債主反て更に是の人を供養し恭敬し、是の人復畏怖せざるが如し。何を以ての故に、世尊、此の人は王に依近し憑恃して力有るが故に。是の如く世尊、諸佛の舍利は般若波羅蜜に修熏せらるゝが故に供養恭敬を得。世尊、當に知るべし、般若波羅蜜

は王の如く、舍利は負債人の如しと。負債人は王に依るが故に供養を得、舍利も亦般若波羅蜜の修熏に依るが故に供養を得。世尊、當に知るべし、諸佛の一切種智も亦般若波羅蜜の修熏を以ての故に成就することを得と。是を以ての故に、世尊、二分の中に我れ般若波羅蜜を取る。何を以ての故に、世尊、般若波羅蜜の中に諸佛舍利三十二相を生じ、般若波羅蜜の中に亦佛の十力四無所畏四無礙智、十八不共法大慈大悲を生じ、世尊、般若波羅蜜の中に五波羅蜜を生じ、便ち波羅蜜の名字を得、般若波羅蜜の中に諸佛の一切種智を生ずればなり。

(一八)復次に世尊、所在の三千大千世界の中に、若し般若波羅蜜を受持し供養し恭敬し尊重し讃歎する有らば、是の處若は人若は非人其の便を得る能はずして、是の人漸漸に涅槃に入ることを得。世尊、般若波羅蜜は大利益を爲す、是の如く三千大千世界の中に於て能く佛事を作す。世尊、所住の處に在りて般若波羅蜜有らば則ち佛有りと爲す。世尊、譬へば(一九)無價摩尼珠寶の所住の處に在りては非人其の便を得ざるが如し。若し男子女人熱病有りて是の珠を以て身上に著くれば熱病即時に除き愈ゆ、若は風熱有り、若は冷病有り、若は雜熱風冷病有りて珠を以て身上に著くれば皆悉く除き愈ゆ。若し闇中に是の珠あれば能く明らかならしめ、熱き時は能く涼かならしめ、寒き時は能く溫かならしめ、珠の所在の處、其の地は寒からず熱からず、時節和適す。其の處亦諸餘の(二〇)毒螫無し、若

【一八】般若ある處に功德あること如意珠の如きを說く。
【一九】無價摩尼。價額量るべからざるを無價とす、摩尼は如意珠なり。
【二〇】毒螫。毒害する惡蟲刺針、

し男子女人、毒蛇の爲に螫さるゝも珠を以て之を示さば毒卽ち除滅す。復次に世尊、若し男子女人、眼痛膚翳盲瞽あるも珠を以て之を示さば卽時に除き愈ゆ、若し癩瘡惡腫有るも、珠を以て身上に著くれば病卽ち除き愈ゆ。復次に世尊、是の摩尼珠寶所在の水中、水隨て一色を作す、若し靑き物を以て裹て水中に著くれば、水の色則ち靑と爲り。若し黃赤白紅縹の物をもて裹て水中に著くれば、水隨て黃赤白紅縹色と作る、是の如き等の種種の色の物をもて裹て水中に著くれば、水隨て種種の色と作る。世尊、若し水濁れるも珠を以て水中に著くれば水卽ち淸らかと爲る。是の珠其の德是の如し。』爾の時、阿難釋提桓因に問ひて言く、『憍尸迦、是の摩尼珠寶、是を天上の寶と爲んや、是を閻浮提の寶と爲んや。』釋提桓因阿難に語りて言く、『是れ天上の寶なり、閻浮提の人も亦是の寶有れども、但だ功德相少くして具足せず、天上の寶は淸淨輕妙にして譬喩を以て比を爲すべからず。復次に世尊、是の摩尼寶、若し篋中に著くれば寶を擧げて出すも、其の功德篋を熏ずるが故に人皆愛敬す、是の如く世尊、所住の處に在りて、般若波羅蜜經卷を書する有れば、是の處則ち衆惱の患無きこと、亦摩尼寶所著の處則ち衆難無きが如し。

(三)世尊、佛般涅槃の後、舍利供養を得るは皆是の般若波羅蜜の力、禪波羅蜜乃至檀波羅蜜、內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法、一切智法相法住法位法性實際不可思議性一切種智、是の諸の功德の力なり。善男子善女人是の念を作す、是の佛舍利は一切智一切種智、

【三】更に舍利の般若修熏により供養さるべく、般若の大德を讚す。

大慈大悲、(三二)斷一切結使及び習、(三三)常捨行不錯謬法等の諸佛功德の住處なりと。是を以ての故に、舍利は供養を得。世尊、舍利は是れ諸功德寶波羅蜜の住處、不垢不淨波羅蜜の住處、不生不滅波羅蜜の住處、不入不出波羅蜜、不增不損波羅蜜、不來不去不住波羅蜜なり。是の佛舍利は是れ諸法相波羅蜜の住處なり。是の諸法相波羅蜜を以て熏修するが故に舍利は供養を得。復次に世尊、三千大千世界の中に滿つる舍利、如恒河沙等の諸の世界、其の中に滿つる舍利を置きて一分と作し、人有り般若波羅蜜經卷を書して一分と作さば、二分の中、我れ般若波羅蜜を取らん。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中に諸佛舍利を生じ、是の般若波羅蜜に修熏せらるゝが故に舍利は供養を得ればなり。世尊、若し善男子善女人ありて、舍利を供養し恭敬し尊重し讚歎せば、其の功德報、邊を得べからずして、人中天上の福樂を受く。謂ゆる刹利大姓婆羅門大姓居士大家、四天王天處乃至他化自在天中に福樂を受く、亦是の福德の因緣を以ての故に、當に苦を盡すことを得べし。若し是の般若波羅蜜を受けて讀誦し說き、正憶念せば、是の人は能く禪波羅蜜を具足し、乃至能く檀波羅蜜を具足し、能く四念處を具足し、乃至能く十八不共法を具足し、聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位に住す、菩薩位に住し已りて菩薩の神通を得、一佛國より一佛國に至る。是の菩薩は衆生の爲の故に身を受け、其の所應に隨ひて衆生を成就す。若は轉輪聖王と作り、若は刹利大姓と作り、若は婆

【三二】斷一切結使及び習。一切煩惱を斷じ並びにその習氣をも捨て去れるを云ふ。

【三三】常捨行。新に恒住捨性と譯す。恒に平等の捨德に住するなり。

羅門大姓と作りて衆生を成就す。是を以ての故に、世尊、我れ輕慢を爲して恭敬せざるが故に舍利を取らざるにあらず。善男子善女人般若波羅蜜を供養せば、則ち舍利を供養することゝ爲るを以ての故のみ。復次に世尊、人有りて十方無量阿僧祇諸世界中、現在佛の(二四)法身色身を見んと欲せば、是の人は應に般若波羅蜜を聞き、受持し讀誦し正憶念し、他人の爲に演說すべし。是の如きの善男子善女人は、當に十方無量阿僧祇世界の中の諸佛の法身色身を見るべし。是の善男子善女人は、般若波羅蜜を行ずるも、亦應に法相を以て(二五)念佛三昧を修すべし。復次に善男子善女人、現在諸佛を見んと欲せば、當に是の般若波羅蜜を受け、乃至正憶念すべし。

(二六)復次に世尊、二種の法相あり、有爲の諸の法相と、無爲の諸の法相となり。云何が(二七)有爲の諸の法相なる。謂ゆる內空の中の智慧、乃至無法有法空の中の智慧、四念處の中の智慧、乃至八聖道分の中の智慧、佛の十力四無所畏四無礙智、十八不共法の中の智慧、善法の中不善法の中、有漏法の中無漏法の中、世間法の中出世間法の中の智慧、是を有爲の諸の法相と名づく。云何が無爲の諸の法相と名くる。若し法生無く滅無く住無く異無く垢無く淨無く增無く減無きは諸法の自性なり。云何が諸法の自性と名くる。諸法所有の性無き是れ諸法の自性なり、是を無爲の諸の法相と名づく。爾

【二四】法身、色身。十八不共法等諸佛德を法身とし三十二相等相好身を色身と云ふ。
【二五】念佛三昧。法身色身を觀ずるなり。
【二六】般若一切法を攝するを明す、故に般若を見れば諸佛を見ることゝもなるなり。
【二七】有爲等。十八空三十七道品乃至十八不共法等なり。先無今有有已還無を有爲の作相とす。これに反し生滅作相なきは無爲なり。

の時、佛釋提桓因に告げたまはく、『是の如し是の如し、憍尸迦、過去の諸佛は是の般若波羅蜜に因て阿耨多羅三藐三菩提を得たまへり、過去諸佛の弟子も亦般若波羅蜜に因て須陀洹道乃至阿羅漢辟支佛道を得たり、未來現在世十方無量阿僧祇の諸佛も、是の般若波羅蜜に因て阿耨多羅三藐三菩提を得ん、未來現在諸佛の弟子も亦是の般若波羅蜜に因て須陀洹道乃至辟支佛道を得ん。何を以ての故に、般若波羅蜜の中に廣く三乘の義を說くや。無相法を以ての故に、無生無滅法の故に、無垢無淨法の故に、無作無起不入不出不增不損不取不捨法の故に、(三八)俗法を以ての故に、第一義に非ざればなり。何を以ての故に、是の般若波羅蜜は此に非ず彼に非ず、高に非ず下に非ず、等に非ず不等に非ず、相に非ず無相に非ず、世間に非ず出世間に非ず、有漏に非ず無漏に非ず、有爲に非ず無爲に非ず、善に非ず不善に非ず、過去に非ず未來に非ず現在に非ず。何を以ての故に、憍尸迦、般若波羅蜜は聲聞辟支佛法を取らず、亦凡人法を捨てざればなり。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、一切衆生の心を知るも、亦衆生を得ず、乃至知者見者をも亦得ず。是の菩薩色を得ず、受想行識を得ず、眼乃至意を得ず、色乃至法を得ず、眼觸因緣生の受乃至意觸因緣生の受を得ず、四念處乃至十八不共法を得ず、阿耨多羅三藐三菩提を得ず、諸佛法を得ず佛を得ず。何を以ての故に、般若波羅蜜は法を得ることを爲さゞるが故に出づればなり。何を以ての故に、般若波羅蜜

【三八】俗法を以ての故に等。般若に三乘を廣說するは無所得無相乃至不取不捨を方便となす故なり、皆これ世俗諦に由る第一義諦より說くにあらず。

性所有無く得べからず、所用の法得べからず、處も亦得べからざればなり。』佛釋提桓因に告げたまはく『是の如し是の如し、憍尸迦、汝の說く所の如し、菩薩摩訶薩は長夜に般若波羅蜜を行ずるに阿耨多羅三藐三菩提得べからず、何に況んや菩薩及び菩薩法をや。』

【三九】般若を明導として六度を圓具すべきを說く。

(三九)爾の時、釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は但だ般若波羅蜜のみを行じ、餘の波羅蜜を行ぜざるや。』佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、菩薩は盡く六波羅蜜法を行ず。無所得を以ての故に。檀波羅蜜を行ずるも施者を得ず受者を得ず財物を得ず、尸羅波羅蜜を行ずるも戒を得ず持戒人を得ず破戒人を得ず、乃至般若波羅蜜を行ずるも智慧を得ず智慧人を得ず無智慧人を得ず。憍尸迦、菩薩摩訶薩の布施を行ずる時、般若波羅蜜は爲に明導と作り、能く檀波羅蜜を具足す。菩薩摩訶薩の持戒を行ずる時、般若波羅蜜は爲に明導と作り、能く尸羅波羅蜜を具足す。菩薩摩訶薩の忍辱を行ずる時、般若波羅蜜は爲に明導と作り、能く羼提波羅蜜を具足す、菩薩摩訶薩の精進を行ずる時、般若波羅蜜は爲に明導と作り、能く毗梨耶波羅蜜を具足す。菩薩摩訶薩の禪那を行ずる時、般若波羅蜜は爲に明導と作り、能く禪波羅蜜を具足す。菩薩摩訶薩の諸法を觀ずる時、般若波羅蜜は爲に明導と作り、能く般若波羅蜜を具足す。一切法無所得を以ての故に、謂ゆる色乃至一切種智あり。憍尸迦、譬へば閻浮提の諸樹、種種の葉、種種の華、種種の果、種種の色、其の蔭差別無きが如く、諸波羅蜜般若波羅蜜の中に入り、薩婆若に至れば差別無き

こと亦是の如し、無所得を以ての故に。』

(三〇)釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、般若波羅蜜は大功德成就す。世尊、般若波羅蜜は一切功德成就す。世尊、般若波羅蜜は無量功德成就し、無邊功德成就し、無等功德成就す。世尊、若し善男子善女人有りて、是の般若波羅蜜經卷を書し、恭敬し供養し尊重し讚歎し、華香乃至旛蓋を以てし、般若波羅蜜に說く所の如く正憶念すると、復善男子善女人有りて、般若波羅蜜經卷を書して他人に與ふると、其の福何所か多しと爲すや。』佛釋提桓因に告げたまはく、『憍尸迦、我れ還て汝に問はん、汝の意に隨て我れに報へよ。若し善男子善女人有りて、諸佛舍利を供養し恭敬し尊重し讚歎し、華香乃至旛蓋を以てすると、若し復人有りて、舍利を分つこと芥子許の如くし、他人に與へて供養し恭敬し尊重し讚歎し、華香乃至旛蓋を以てせしむると、其の福何所か多しと爲す。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、我れ佛より聞ける法の中の義の如くば、善男子善女人有りて、自ら舍利を供養し乃至旛蓋を以てするも、若し復人有りて、舍利を分つこと芥子許の如くし、他人に與へて供養せしむるも、其の福德甚だ多し。世尊、佛は是の福衆生を利するを見るが故に、

(三一)金剛三昧の中に入りて、金剛身を碎きて末舍利と作す。何を以ての故に、人有り佛滅度の後、佛舍利の乃至芥子許の如くなるを供養するも、其の福報無邊にして乃至苦を盡せばなり。』佛釋提桓因

【三〇】般若の大功德は自行と他作と倶に無邊なるを說く。

【三一】金剛三昧等。佛は衆生福田たるが爲に三昧中にその身を芥子の如く分散して供養せしむるを云ふ。

に告げたまはく、『是の如し是の如し、憍尸迦、若し善男子善女人、般若波羅蜜經卷を書し、供養し恭敬し華香乃至旛蓋を以てするも、若し復人有りて般若波羅蜜經卷を書し、他人に與へて學せしむるも、是の男子女人其の福甚だ多し。復次に憍尸迦、善男子善女人、般若波羅蜜の中の義の如く、他人の爲に說き開示し分別し解し易からしむれば、是の善男子善女人は前の善男子善女人の功德に勝る。從て般若波羅蜜を聞く所、當に其の人を視ること佛の如く、亦高勝梵行人の如くすべし。何を以ての故に、當に知るべし般若波羅蜜は卽ち是れ佛なり、般若波羅蜜は佛と異ならず、佛は般若波羅蜜と異ならず、過去未來現在の諸佛は皆般若波羅蜜の中より學し、阿耨多羅三藐三菩提及び高勝梵行人を得、高勝梵行人とは謂ゆる阿惟越致なり。菩薩摩訶薩も亦是の般若波羅蜜を學して、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし、聲聞人は是の般若波羅蜜を學して阿羅漢道を得、辟支佛道を求むる人は是の般若波羅蜜を學して辟支佛道を得、菩薩は是の般若波羅蜜を學して菩薩位に入ることを得。是を以ての故に、憍尸迦、善男子善女人現在佛を供養し恭敬し尊重し讚歎し華香乃至旛蓋を以てせんと欲せば、當に般若波羅蜜を供養すべし。我れ是の利を見る、(三)初めて阿耨多羅三藐三菩提を得るの時是の念を作す、誰か供養し恭敬し尊重し讚歎し、依止して住す可き者あると。憍尸迦、我れ一切世間の中に於て、若は天若は魔若は梵若は沙門婆羅門の中に我と等しき者を見ず、何に況んや勝るゝ者有らんや。又自ら思念すらく、我が得る所の法、自ら作佛

【三】成道最初の敬法供養を說く。

を致す、我れ是の法を供養し、恭敬し尊重し讃歎し依止し住すべし。何等か是の法なる、謂ゆる般若波羅蜜なり。憍尸迦、我れ自ら是の般若波羅蜜を供養し、恭敬し尊重し讃歎し已て依止し住せん。何に況んや善男子善女人阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲して、而も般若波羅蜜を供養し、恭敬し尊重し讃歎し華香瓔珞乃至旛蓋を以てせざらんや。何を以ての故に、般若波羅蜜の中に諸の菩薩摩訶薩を生じ、諸の菩薩摩訶薩の中に諸佛を生ずればなり。是を以ての故に、憍尸迦、善男子善女人若は佛道を求め、若は辟支佛道を求め、若は聲聞道を求めば、皆應に般若波羅蜜を供養し恭敬し、尊重し讃歎し、華香乃至旛蓋をもてすべし。』

(一)十善品第三十八

(二)佛釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、若し善男子善女人有りて、一閻浮提人を敎へ十善道を行ぜしめば、汝の意に於て云何。是の因緣を以ての故に福を得ること多きや不や。』答て言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『善男子善女人般若波羅蜜經卷を書持し、他人に與へ讀誦し說か令むることの福を得ること多きに如かず。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中に廣く諸の(三)無漏法を說けばなり。善男子善女人は是の中に從て學する、已に學し今學し當に學すべし、(四)正法位中に入る、已に入り今入り當に入るべし、須陀洹果を得る、已に得今得當に得べし、乃至阿羅漢果辟支佛道を求むるも亦是の如し。諸の菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を求めて正法位中に入る、已に入り今入り當に入るべし、阿耨多羅三藐三菩提を得る、已に得今得當に得べし。憍尸迦、何等か是れ無漏法なる。謂ゆる四念處乃至八聖道分四聖諦、內空乃至無法有法空、佛の十力乃至十八不共法なり。善男子善女人は是の法を學して阿耨多羅三藐三菩提を得る、已に得今得當に得べし。憍尸迦、若し善男子善女人有りて、一人に敎へて須陀洹果を得しめば、是の人福德を得ること

【一】品目麗本法施品、大論校量法施品に作る。十善を施すよりも他の諸善法よりも般若を施すの最勝なるを明す。大論第六十。

【二】如恒河沙國土の衆生に十善を行ぜしむるよりも般若受持の功德あるを說く。

【三】無漏法等。無漏に依り三乘を成じ涅槃に入る十善道の流轉に勝る。

【四】正法位。無漏聖道の證悟に入るを云ふ。

一閻浮提人に敎へて十善道を行せしむるに勝る。何を以ての故に、憍尸迦、一閻浮提人に敎へて十善道を行せしむるも、地獄畜生餓鬼の苦を離れず、憍尸迦、一人に敎へて須陀洹果を得しむれば、三惡道を離るゝ故に、乃至阿羅漢辟支佛道も亦是の如し。憍尸迦、若し善男子善女人、一閻浮提の人に敎へて須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を得しむるも、善男子善女人、一人に敎へて阿耨多羅三藐三菩提を得しむるの福を得ること多きに如かず。何を以ての故に、憍尸迦、(五)菩薩の因緣を以ての故に、須陀洹乃至阿羅漢辟支佛を生じ、菩薩の因緣を以ての故に諸佛を生ず。是の因緣を以ての故に、憍尸迦、當に知るべし、善男子善女人は般若波羅蜜經卷を書し、他人に與へて書持し讀誦し說かしめば福を得ること多し。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中に廣く諸の善法を說き、是の善法の中に學して、便ち刹利大姓婆羅門大姓居士大家、四天王天乃至非有想非無想天を出生す。便ち四念處乃至一切種智有り、便ち須陀洹乃至阿羅漢辟支佛有り、便ち諸佛有り。憍尸迦、一閻浮提の人を置き、若し善男子善女人有りて、四天下國土の中の衆生に敎へて十善道を行せしめば、汝の意に於て云何。是の人、是の因緣を以ての故に福を得ること多きや不や。』答て言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『善男子善女人、般若波羅蜜經卷を書し、他人に與へて書持し讀誦し說かしむるの福を得ること多きに如かず。餘は上に說けるが如し。憍尸迦、四天下國土の中の衆生を置き、若し小千國土の中の

【五】菩薩の因緣。諸佛も菩薩より生じ佛に依て須陀洹辟支佛あり三乘皆菩薩より生ずと云ふ。

衆生に敎へて十善道を行ぜしむるとも亦是の如し。憍尸迦、小千國土の中の衆生を置き、若し二千の中國土の中の衆生に敎へて十善道を行ぜしむるに、若し善男子善女人有りて、般若波羅蜜經卷を書し、他人に與へて書持し讀誦し說か令めば、是の人福を得ること多し、餘は上に說けるが如し。憍尸迦、二千の中國土の中の衆生を置き、若し三千大千國土の中の有らゆる衆生に敎へて十善道を行ぜしむるに、復人有り、般若波羅蜜經卷を書し、他人に與へて書持し讀誦し說かしめば、是の人福德多し。憍尸迦、三千大千國土の中の衆生を置き、若し如恒河沙等の國土の中の有らゆる衆生に敎へて十善道を行ぜしむるに、若し復人有り、般若波羅蜜經卷を書し、他人に與へて書持し讀誦せしめば其の福多し、餘は上に說けるが如し。

(六)復次に憍尸迦、人有り、一閻浮提の衆生に敎へて四禪四無量心四無色定五神通に立たしめば、汝の意に於て云何。是の善男子善女人は福德多きや不や。』釋提桓因言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『不とよ、是の善男子善女人、般若波羅蜜經卷を書し、他人に與へて書持し讀誦し說かしむるの福を得ること多きに如かず。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中に廣く諸の善法を說けばなり、餘は上に說けるが如し。憍尸迦、閻浮提の中の衆生を置き、復四天下國土の中の衆生、小千國土の中の衆生、二千の中國土の中の衆生、三千大千國土の中の衆生を置き、憍尸迦、若し人有りて十方如恒河沙等の國土の中の衆生に敎へて、四禪四無量

【六】十善の如く四禪等を施すも般若を施すに如かざるを說き正憶念を明す。

心四無色定五神通に立たしめば、汝の意に於て云何。是の人は福德多きや不や。』答へて言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『善男子善女人、般若波羅蜜經卷を書し、他人に與へて書持し讀誦し、說かしむるの福を得ること多きに如かず。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中に廣く諸の善法を說けばなり、餘は上に說けるが如し。復次に憍尸迦、若し善男子善女人有りて、是の般若波羅蜜を受け、持し讀誦し說き正憶念せば、是の人の福德は、閻浮提の人に敎へて十善道を行ぜしめ、四禪四無量心四無色定五神通に立たしむるに勝る。正憶念とは般若波羅蜜を受持し、親近し乃至正憶念し、二法を以てせず、不二法を以てせず。禪波羅蜜・毗梨耶波羅蜜・羼提波羅蜜・尸羅波羅蜜・檀波羅蜜を受持し、親近し乃至正憶念し、二法を以てせず、不二法を以てせず。阿耨多羅三藐三菩提の爲に正憶念し、內空乃至一切種智二法を以てせず、不二法を以てせざるなり。

【七】般若の義を分別するの自から正憶念するに勝ることを明す。

(七)復次に憍尸迦、若し善男子善女人有りて、他人の爲に種種の因緣をもて、般若波羅蜜の義を演說し、開示し分別して解し易からしむ。憍尸迦、何等か是れ般若波羅蜜の義なる。憍尸迦、般若波羅蜜の義とは二相を以て觀ずべからず、不二相を以て觀ずべからず、有相に非ず無相に非ず、入らず出でず、增せず損せず、垢ならず淨ならず、生ぜず滅せず、取らず捨てず、住ならず不住に非ず、實に非ず虛に非ず、合に非ず散に非ず、著に非ず不著に非ず、因に非ず不因に非ず、法に非ず不法に非ず、如に非ず不如に非ず、實際に非ず不實際に非ず。

憍尸迦、若し善男子善女人、能く是の般若波羅蜜の義を以て、他人の爲に種種の因緣もて演說し、開示し分別して解し易からしめば、是の善男子善女人の得る所の福德甚だ多し。自ら般若波羅蜜を受持し、親近し讀誦し說き正憶念するに勝る。復次に憍尸迦、善男子善女人、自ら般若波羅蜜を受持し、親近し讀誦し說き正憶念し、亦他人の爲に種種の因緣もて般若波羅蜜の義を演說し、開示し分別して解し易からしめば、是の善男子善女人の得る所の功德甚だ多し。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、善男子善女人は是の如く般若波羅蜜の義を演說し、開示し分別して解し易からしむべし。』佛釋提桓因に語りて言はく、『是の如し憍尸迦、是の善男子善女人、是の如く般若波羅蜜の義を演說し、開示し分別して、解し易からしむべし。憍尸迦、善男子善女人、是の如く般若波羅蜜の義を演說し、開示し分別して解し易からしめば、無量無邊阿僧祇の福德を得。若し善男子善女人有りて、十方無量阿僧祇の諸佛を供養し、其の壽命を盡して其の所須に隨ひ、恭敬し尊重し讚歎し、華香乃至旛蓋もて供養するも、若し復善男子善女人有りて、種種因緣もて他人の爲に廣く般若波羅蜜の義を說き、開示し分別して解し易からしめば、是の善男子善女人の功德甚だ多し。何を以ての故に、諸の過去未來現在の佛、皆是の般若波羅蜜の中に於て學して阿耨多羅三藐三菩提を得べく、已に得今得當に得べければなり。復次に憍尸迦、若し善男子善女人、無量無邊阿僧祇劫に於て檀那波羅蜜を行ずるも、善男子善女人、般若波羅蜜を以て、他人の爲に其の義を演說し、開示し分別して解し易からしむる、其の福の甚

だ多きに如かず、無所得を以ての故に。

（八）云何が有所得と名く。憍尸迦、若し菩薩摩訶薩有所得を用ての故に布施せば、布施の時に是の念を作す、我れ與へ彼れ受く施す所の（九）物ありと、是を（一〇）得檀那と名く、波羅蜜を得ず。我れ持戒す、是れ是の（一一）戒と、是を得戒と名く、波羅蜜を得ず。我れ忍辱し、是の人の爲に忍辱すと、是を得忍辱と名く、波羅蜜を得ず。我れ精進し、是の事の爲に勤めて精進すと、是を得精進と名く、波羅蜜を得ず。我れ禪那を修す、修する所は是れ禪那と、是を（一二）得禪那と名く、波羅蜜を得ず。我れ慧を修す、修する所は是れ慧と、是を（一三）得慧と名く、波羅蜜を得ず。憍尸迦、是の善男子善女人是の如く行ずれば、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を具足することを得ず。」釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は云何が修して、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を具足するや。』佛釋提桓因に告げたまはく、『菩薩摩訶薩の布施する時、與者を得ず、受者を得ず、施す所の物を得ず、是の人は檀那波羅蜜を具足することを得。乃至般若波羅蜜を修する時、（一四）智を得ず、修する所の智を得ず、是の人は般若波羅蜜を具足することを得。憍尸迦、是を菩薩摩訶薩

【八】有所得の六度を具足せざると、具足六度とを辨ず。
【九】物あり。物量の多少を定め我所有を分施せる所とするを云ふ。
【一〇】得檀那。有所得の布施なり。
【一一】戒と。戒の法體行相を定め戒の多少を云ふ律儀なり
【一二】得禪那。有所得の禪定にして禪人禪法を執す。
【一三】得慧。有所得の知慧にして慧人慧法を執す。
【一四】智を得ず。我れ慧を得たりとする智を得ざる意なり。

の檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜を具足すと爲す。善男子善女人、是の如く般若波羅蜜を行じ、當に他人の爲に其の義を演說し、開示し分別して解し易からしめ、禪那波羅蜜毗黎耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜、其の義を演說し開示し分別して解し易からしむべし。何を以ての故に、憍尸迦、未來世當に善男子善女人の般若波羅蜜を說かんと欲し、而して相似せる般若波羅蜜を說くこと有るべし、善男子善女人有りて、阿耨多羅三藐三菩提心を發すも、是の相似の般若波羅蜜を聞きて正道を失はん。善男子善女人、應に是の人の爲に具足して般若波羅蜜の義を演說し、開示し分別して解し易からしむべし。』

(一五)釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ相似の般若波羅蜜なる。』(一六)佛言はく、『善男子善女人、有所得の般若波羅蜜を說く、是を相似の般若波羅蜜と爲す。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、云何が善男子善女人、有所得の般若波羅蜜を說く、是を相似の般若波羅蜜と爲すや。』佛言はく、『善男子善女人、有所得の般若波羅蜜を說くとは、(一七)色無常を說きて是の言を作す、能く是の如く行ずれば是れ般若波羅蜜を行ずと、行者色無常を求むる、是を相似の般若波羅蜜を行ずと爲す。受想行識無常を說きて是の言を作す、能く是の如く行ずれば是れ般若波羅蜜を行ずと、行者受想行識無常を求むる、是を相似の般若波羅蜜を行ずと爲す。眼無常を

【一五】相似般若を廣說す。相似とは言同にして義異り著心取相するなり。
【一六】宋元明本第十一卷終り佛以下卷第十二となし、下善品三十八の餘とす。
【一七】色無常等。色は無常なりと、無常觀を般若行とし無常の定相を見る故に無相不二に合せず、相似たり。

說き乃至意無常を說き、色無常を說き乃至法無常を說き、眼界無常、色界眼識界無常、乃至意界法界意識界無常を說き、地種無常を說き乃至識種無常を說き、眼識界無常を說き乃至意識界無常を說き、眼觸無常を說き乃至意觸無常を說き、眼觸因緣生の受無常を說き乃至意觸因緣生の受無常を說く。廣說すること五陰の如し。色苦を說き乃至意觸因緣生の受苦を說き、色無我を說き乃至意觸因緣生の受無我を說く、皆五陰に說くが如し。行者檀波羅蜜を行ずる時、爲に色無常苦無我を說き、乃至意觸因緣生の受無常苦無我を說く。尸羅波羅蜜乃至般若波羅蜜のときも亦是の如し。四禪四無量心四無色定を行ずるに、爲に無常苦無我を說き、四念處を行ずるに、爲に無常苦無我を說き、乃至薩婆若を行ずる時、爲に無常苦無我を說く、是の如きの教を作して、能く是の如く行ずる、是を般若波羅蜜を行ずと爲す。憍尸迦、是を相似の般若波羅蜜と名く。復次に憍尸迦、若し是の善男子善女人、當來世に相似の般若波羅蜜を說き、是の言を作す、汝善男子善女人、般若波羅蜜を修行す、汝般若波羅蜜を修行する時、當に初地を得べし、乃至當に十地を得べし。禪波羅蜜乃至檀波羅蜜も亦是の如しと。行者相似有所得を以て、總相を以て、是の般若波羅蜜を修す。憍尸迦、是を相似の般若波羅蜜と名く。復次に憍尸迦、善男子善女人は般若波羅蜜を說かんと欲して是の言を作す、汝善男子善女人、般若波羅蜜を修行し已ぬ、當に聲聞辟支佛地を過ぐべしと、是を相似の般若波羅蜜と名く。復次に憍尸迦、善男子善女人、佛道を求むる者の爲に是の如く說く、汝善男子善女人、般若波羅蜜を修行し已て、菩薩

位に入り無生法忍を得、無生忍を得已て便ち菩薩神通に住し、一佛國より一佛國に至り、諸佛を供養し恭敬し尊重し讃歎すと。是の如く說く者、是を相似の般若波羅蜜と名く。復次に憍尸迦、善男子善女人佛道を求むる者の爲に是の如く說く、汝善男子善女人、是の般若波羅蜜を學し、受持し讀誦し說き、正憶念せば、當に無量無邊阿僧祇の功德を得べしと。是の如く說く者、是を相似の般若波羅蜜と名く。復次に善男子善女人、佛道を求むる者の爲に是の如く說く、過去・未來・現在諸佛の功德善本の如きは、初發心より佛を成得するに至るまで都て合集し、阿耨多羅三藐三菩提に廻向すと、是の如く說く者、是を相似の般若波羅蜜と名く。』

【一八】不相似の般若即ち眞實の般若を說く。

（一八）釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、云何が善男子善女人、佛道を求むる者の爲に、相似の般若波羅蜜を說かずとするや。』佛言はく、『若し善男子善女人、佛道を求むる者の爲に般若波羅蜜を說かば、善男子、汝般若波羅蜜を修行して色無常を觀ずること莫れ。何を以ての故に、色は色性空なり、是の色性法に非ず、若し法に非ずば即ち名けて般若波羅蜜と爲す、般若波羅蜜の中に色は常に非ず無常に非ず。何を以ての故に、是の中色すら尚不可得なり、何に況んや常無常をや。憍尸迦、善男子善女人の是の如く說く者、是を相似の般若波羅蜜を說かずと名く。受想行識も亦是の如し。復次に憍尸迦、善男子善女人は佛道を求むる者の爲に說く、汝善男子般若波羅蜜を修行し、諸法に於て過ぐる所有ること莫く、住する所有ること莫れ。何を以ての故に、般若波羅蜜の中

に法の過ぐ可く住す可きもの有ること無ければなり。所以は何かん、一切法自性空なり、自性空は是れ法に非ず、若し法に非ずば卽ち是れ般若波羅蜜なり、般若波羅蜜の中に法の入る可く出づる可く、生ず可く滅す可きもの有ること無ければなり。憍尸迦、是の善男子善女人是の如く說く、是を相似の般若波羅蜜を說かずと名く。廣說すること上の如く、相似と相違する、是を相似の般若波羅蜜を說かずと名く。是の如く憍尸迦、善男子善女人は應に是の如く般若波羅蜜の義を演說すべし。若し是の如く般若波羅蜜の義を說かば、得る所の功德前者に勝る。

【一九】諸聖果を得しむるよりも般若を施す功德の大なるを明す。

(一九)復次に憍尸迦、閻浮提の中の有らゆる衆生をして、皆敎へて須陀洹を得しむ、汝の意に於て云何。是の人福を得ること多きや不や。』答へて言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子善女人は般若波羅蜜を以て他人の爲に種種因緣もて其の義を演說し、開示し分別して解し易からしめ、是の如く言んには如かず。善男子善女人、汝來りて是の般若波羅蜜を受け、勤めて讀誦し說き正憶念し、般若波羅蜜の中の所說の如く行ぜよと。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中に諸須陀洹を出生すればなり。憍尸迦、閻浮提の中の衆生を置き、復四天下の衆生、小千國土、二千中國土、三千大千國土の衆生を置きて、若し人有りて十方如恒河沙等の國土の中の衆生に敎へて、盡く敎へて須陀洹を得しめば、汝の意に於て云何、是の人福を得ること多きや不や。』答て言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子善女人は般若波羅蜜を以て、他

人の爲に種種の因緣もて其の義を演說し、開示し分別して解し易からしめ、是の如く言んには如かず、善男子善女人、汝來りて是の般若波羅蜜を受け、勤めて讀誦し說き正憶念し、般若波羅蜜の中の所說の如く行ぜよと。何を以ての故に、是の般若波羅蜜中に諸須陀洹を出生すればなり。復次に憍尸迦、若し善男子善女人有りて、閻浮提中の人に敎へて斯陀含阿那含阿羅漢を得しめば、汝の意に於て云何是の人福を得ること多きや不や。』答て言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子善女人は般若波羅蜜を以て、他人の爲に種種因緣もて其の義を演說し、開示し分別して解し易からしめ、是の如く言んには如かず。善男子、汝來りて是の般若波羅蜜を受け、勤めて讀誦し說き正憶念し、般若波羅蜜の中の所說の如く行ぜよと。何を以ての故に、般若波羅蜜の中に諸の斯陀含阿那含阿羅漢を出生するが故に、乃至十方如恒河沙等の國土の中の衆生も亦是の如し。復次に憍尸迦、若し善男子善女人、一閻浮提中の衆生に敎へて辟支佛道を得しめば、汝の意に於て云何、是の人福を得ること多きや不や。』答て言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子善女人は般若波羅蜜を以て、他人の爲に種種因緣もて其の義を演說し、開示し分別して解し易からしめ、是の如く言んには如かず。善男子、汝來りて是の般若波羅蜜を受け、勤めて讀誦し解說し正憶念し、般若波羅蜜の中の所說の如く行ぜよと。何を以ての故に、般若波羅蜜の中に諸の辟支佛道を出生するが故に。四天下乃至十方如恒河沙等の國土の中の衆生も亦是の如し。復次に憍尸迦、善男子善女人、一閻浮提中の衆生に敎へて、阿耨

多羅三藐三菩提心を發さしめば、汝の意に於て云何、是の人福を得ること多きや不や。』答へて言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子善女人は般若波羅蜜を以て、他人の爲に種種因縁もて其の義を演說し、開示し分別して解し易からしめ、亦是の如く言んには如かず。汝當に般若波羅蜜の中に隨て學すべし、當に一切智法を得べし。汝若し一切智法を得ば、汝便ち般若波羅蜜を修行し、增益し、具足することを得。若し般若波羅蜜を修行し、增益し、具足することを得ば、汝當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。何を以ての故に、憍尸迦、般若波羅蜜の中に諸の初發意の菩薩摩訶薩を生ずるが故に、乃至十方如恒河沙等の國土も亦是の如し。復次に憍尸迦、善男子善女人、一閻浮提中の衆生に敎へて、阿惟越致地に住せしめば、汝の意に於て云何、是の人福德多きや不や。』答へて言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子善女人は般若波羅蜜を以て、他人の爲に種種因縁もて其の義を演說し、開示し分別して解し易からしめ、是の如く言んには如かず。〔三〇〕善男子、汝來りて是の般若波羅蜜を受け、乃至般若波羅蜜の中の所說の如く行ぜば、汝便ち一切智法を得、一切智法を得已りて乃至便ち阿耨多羅三藐三菩提を得。何を以ての故に、般若波羅蜜の中に諸の菩薩摩訶薩の阿惟越致地を生ずるが故に、乃至十方如恒河沙等の國土も亦是の如し。復次に憍尸迦、一閻浮提中の衆生、發意して阿耨多羅三藐三菩提を求めんに、若し善男子善女人有りて、是の人の爲に廣く般若波羅蜜及び其の義を說き、解し開示し分別して是の如く言ふ。

【三〇】諸本は汝來善男子に作る。今前文の體に從ふ。

汝來れ、善男子、是の般若波羅蜜を受け、乃至般若波羅蜜の中の所説の如く行じ、學し已らば、汝當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。復人有りて、一阿惟越致の菩薩の爲に般若波羅蜜及び其の義を演説し、解し開示し分別して是の如く言ふ。汝來り、是の般若波羅蜜を受け、乃至般若波羅蜜の中の所説の如く行じ、學し已らば、汝當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。是の善男子得る所の功德甚だ多し、乃至十方如恒河沙等の國土の中も亦是の如し。復次に憍尸迦、若し一閻浮提中の衆生有りて、皆阿惟越致阿耨多羅三藐三菩提を得んとするに、復善男子善女人有りて、般若波羅蜜を以て、是の人の爲に其の義を演説す。是の中に於て一菩薩有り、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲す。若し善男子善女人有りて、此の菩薩の爲に般若波羅蜜及び其の義解を説かば、是の人の功德最も多し。乃至十方如恒河沙等の國土も亦是の如し。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩、轉轉して阿耨多羅三藐三菩提に近づく者の如きは、是の如く轉轉して敎へて、檀波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪波羅蜜般若波羅蜜を行ぜしむべし。內空乃至無法有法空、四念處乃至八聖道分、佛の十力四無所畏、四無礙智十八不共法を敎ふべし。亦應に衣服臥具飮食湯藥を供養し、其の所須に隨ふべし。是の善男子善女人(三二)法施財施を供養す、是の菩薩の得る所の功德前者に勝る。何を以ての故に、世尊、是の菩薩摩訶薩は疾く阿耨多羅三藐三菩提を得るが故に。』爾の時、慧命須菩提釋提桓因に語りて言く、『善い哉善い哉、憍尸迦、汝を(三三)聖弟子と爲す、

【三二】法施財施。般若を説き又衣服等を給すればなり。

諸の菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提を爲す者を安慰し、法施財施を以て、(三)法の應に爾るべきを利益す。何を以ての故に、菩薩の中に諸佛聖衆を生ずればなり。若し菩薩にして阿耨多羅三藐三菩提心を發さゞる者は、是の菩薩六波羅蜜乃至十八不共法を學すること能はず。若し六波羅蜜乃至十八不共法を學せずば、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず。若し阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はざる者は、則ち聲聞辟支佛無し。是を以ての故に、憍尸迦、諸の菩薩摩訶薩は六波羅蜜乃至十八不共法を學す、六波羅蜜乃至十八不共法を學する時、阿耨多羅三藐三菩提を得、阿耨多羅三藐三菩提を得るが故に、地獄・畜生・餓鬼道を斷ず、世間便ち刹利大姓婆羅門・大姓居士大家・四天王天・乃至非有想非無想天有り、乃至檀波羅蜜・尸羅波羅蜜・羼提波羅蜜・毗梨耶波羅蜜・禪波羅蜜般若波羅蜜、內空乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法、世に出現す、聲聞乘・辟支佛乘・佛乘・皆世に現はる。』

【三】聖弟子。眞の佛弟子には衆生利益を事とし菩提心を進ましむべきなり。

【三】菩提心を加護し敎養するは、最も宜しきを得たるを云ふ。

(一)卷の第十一

(二)隨喜品第三十九

(三)爾の時、彌勒菩薩摩訶薩は慧命須菩提に語るらく、『菩薩摩訶薩有り(四)福德を隨喜して、一切衆生と之を(五)共にし、阿耨多羅三藐三菩提に(六)廻向す、無所得を以ての故に。若は聲聞辟支佛の福德、若は一切衆生の福德、(七)若は布施若は持戒若は修定(八)若は隨喜よりも、是の菩薩摩訶薩の福德を隨喜して、一切衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向するは、(九)其の福最上第一、最妙無上にして與に等しきもの無し。何を以ての故に、聲聞辟支佛、及び一切衆生の布施持戒修定隨喜は、(一〇)自調の爲、(一一)自淨の爲、(一二)自度の爲の故に。(一三)謂ゆる四

【一】宋元明本此に分卷せず。

【二】品目丹本、大論隨喜廻向品に作る。隨喜の功德を說く。隨喜とは贊成なり。大論第六十一。

【三】不取相の隨喜福德を明す。

【四】福德を隨喜し。諸衆生の有ゆる功德福業を贊成し倶行するなり。

【五】共にし。隨喜倶行の全體を平等に共有す。

【六】廻向。因を廻して果に、小を廻して大に向はしむるあり。今は自作隨喜の善を廻して佛に向はしむ。この廻向の當然行はるゝは無所得に住すればなり。

【七】若は布施…修定。一般に最も親しき施戒定の三福業事を擧ぐ。大般若經に依れば次下文の四念處等も此に列ねらるべし。

【八】若は隨喜。これ衆生の隨喜にして自度心有所得心の故に最大の隨喜力とならず。

【九】其の福。菩薩の隨喜福德は廣度心無所得なる故に他の自作隨喜の福德に同じからず。

【一〇】自調。持戒、正語正業正命に就て自己を調ふるなり。

【一一】自淨。修禪、正念正定に就て淨む。

【一二】自度。智慧、正見正思惟正方便に依て度す。三學八聖道皆自己を離れず。或は三福業に於て布施を自調とし、持戒

念處乃至八聖道分空無相無作あり。菩薩、福德を隨喜し、阿耨多羅三藐三菩提に廻向するは、是の功德を持て (一四) 一切衆生を調へんが爲、一切衆生を淨めんが爲、一切衆生を度せんが爲の故に起せばなり。』 爾の時、慧命須菩提彌勒菩薩に白して言さく、(一五)『諸の菩薩摩訶薩は十方無量無邊阿僧祇の國土の中の無量無邊阿僧祇の諸の滅度せる (一六) 佛を念じ、(一七) 初發心より乃ち阿耨多羅三藐三菩提を得るに至り、無餘涅槃に入り乃ち法盡に至るまで、(一八) 其の中間に於ける諸善根六波羅蜜に應じ、(一九) 及び諸聲聞人の善根、若は布施福德、持戒修定福德、及び (二〇) 諸學人の無漏善根、無學人の無漏善根、(二一) 諸佛戒衆、定衆慧衆解脫衆解脫知見衆、一切智大慈大悲、及び餘の無量阿僧祇の諸 (二二) 佛法、及び諸佛の說く所の法、(二三) 是の法の中に學びて須陀洹果を得、乃至阿羅漢果辟支佛道を得、菩薩摩訶薩の位に入り、(二四) 及

を自淨とし、修定を自度とするもその意を得べし。

【一三】この一句は或は前文修定の下に屬して可なり。修定を近緣とせる無漏法が三十七道品三解脫門等なり。此にこの法皆自度を離れざるを示す。

【一四】一切衆生を調へ、淨め、度せん。自調自淨自度に反する廣度衆生心にして、無所得なればなり。

【一五】諸佛の福德を隨喜し廻向せんに過去事、所取相の如きかを問ふ。彌勒は二故を以て否定す。一は過去已滅無餘、二は諸佛功德は三界戲論を超越するが故なり。

【一六】佛を念じ。隨喜德を作さんとするに、佛は福德の本主なるが故に念するなり。

【一七】初發心…法盡に至る。一佛の始終にして佛身の功德。

【一八】其の中間。初發心より入滅法盡の間。その間佛菩薩共不共の諸善。

【一九】所化聲聞等の福德。

【二〇】諸學人。二乘得道して未だ漏盡せざるを云ふ。漏盡せる者を無學人とす。

【二一】諸佛戒衆等。佛の成就せる完全なる戒等の五分。

【二二】佛法。初品に說く十力十八不共法等。

【二三】是の法の中等。所說の十二部經等の遺法により滅後得道するもの。

【二四】在世滅後の天人乃至畜生の種種福德。

び餘の衆生の種うる諸善根、是の諸善根一切の（二五）和合せる隨喜の功德を阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、最上第一最妙無上にして與に等しきもの無し。是の如く隨喜し已りて、是の隨喜の福德を持て、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。（二六）若し善男子有りて菩薩乘を行ずる者、是の念を作す、我が（二七）是の心阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是れ（二八）心緣事を生ず。若し善男子（二九）相を取て阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、所念の如く得べきや不や。』彌勒菩薩須菩提に語るらく、『是の善男子菩薩乘を行じて、阿耨多羅三藐三菩提に廻向する（三〇）心は是れ緣事なり。若し善男子相を取らば所念の如きを得ず。』須菩提彌勒菩薩に語るらく『若し諸緣諸事所有無くば、是の善男子の菩薩乘を行ずる者、相を十方諸佛の諸善根、初發心より乃ち法盡に至るまで、及び聲聞の諸善根、學・無學の善根に取り、一切の和合せる隨喜の功德を阿耨多羅三藐三菩提に廻向するは、相無きを以ての故に、（三一）是の菩薩は將に顚倒たる無からんか、（三二）無常を常と謂ふは、（三三）想顚倒心顚倒見顚倒、不淨を淨と

【二五】和合、在世滅後自他凡聖の一切善を合集す。

【二六】上來隨喜福德を辨じ以下正しく問ふ。

【二七】是の心、隨喜する心なり。

【二八】心は隨喜心。緣とは隨喜心の所緣、謂ゆる一切諸佛及び衆生の作せる功德、事とは所緣の本、功德の住處、謂ゆる諸佛衆生山林精舍等。

【二九】相を取て、心と緣と事との實有を認むるなり。

【三〇】是の如き所緣の事ありとし、心も緣も事も相を取るは廻向成ぜず。

【三一】緣事無所有無相なるに佛凡功德の相を取るは顚倒ならん。卽ち隨喜念佛は顚倒に陷るべし。

【三二】無常等、常樂我淨の四倒を擧ぐ、その顚倒なる如く無相に取相するも顚倒なるべしと例說せるなり。

【三三】想顚倒等、顚倒の三種分別なり。想より心となり見となり身見邊見邪見等となる。見道に見を斷じ、學地に心と想とを滅す。

謂ひ、苦を謂ひて樂と爲し、無我を我と謂ふは、想顚倒心顚倒見顚倒なり。(三四)若は緣の如く、事の如く、阿耨多羅三藐三菩提と爲すも亦是の如く、廻向心も亦是の如く、檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提毗梨耶禪那、般若波羅蜜、乃至十八不共法も亦是の如くならん。(三五)若し爾らば、何等か是れ緣、何等か是れ事、何等か是れ阿耨多羅三藐三菩提、何等か是れ善根、何等か是れ隨喜心廻向阿耨多羅三藐三菩提なるや。』

(三六)彌勒菩薩須菩提に語るらく、『若し諸の菩薩摩訶薩、(三七)久しく六波羅蜜を行じ、多く諸佛を供養し善根を種ゑ、(三八)善知識と相隨ひ、善く自相空法を學せば、是の諸の菩薩是の緣、是の事、諸佛の諸善根隨喜の福德、相を取らずして阿耨多羅三藐三菩提に廻向す、(三九)不二法を以てして不二法に非ず、相に非ず不相に非ず、可得法に非ず不可得法に非ず、淨に非ず垢に非ず、生に非ず滅に非ざる法、是を阿耨多羅三藐三菩提に廻向すと名く。若し諸の菩薩久しく六波羅蜜を行せず、多く諸佛を供養せず、善根を種ゑず、善知識と相隨せず、善く自相空法を學せずば、是の菩薩、是の諸緣是の諸事、諸佛の諸善根隨喜の福德、諸心相を取りて阿耨多羅三藐三菩提に廻向す、是を廻向と名けず。須菩提、是の如きの般若波羅蜜の義乃至一切種智の義、謂ゆる內空乃至無法

【三四】若は緣の如く。無顚倒に陷らずして緣事無所有なりとせば、その如く菩提も廻向も無所有にして、善法も功德も隨喜もなかるべし。

【三五】顚倒たらずして無所有たり、緣事等に何ぞと問ふなり。

【三六】諸法空無相なり、不取相卽ち不二非不二これなりと答へ廻向を明にす。

【三七】久しく等。無相にして諸法を壞せず隨喜するは過去久修行により軟化せるを要す。

【三八】善知識等。今世に好師同學を要す。

【三九】不二法等。不取相の方便を說明す。

有法空は新學の菩薩の爲に說くべからず。何を以ての故に、是の菩薩〔四〇〕所有の少許りの信樂恭敬淸淨心、皆忘失すればなり。當に阿毗跋致の菩薩摩訶薩の前に在りて說くべし、若は善知識の爲に護られ、若は久しく諸佛を供養し諸善根を種うる有り、是の人の爲に是の如きの般若波羅蜜の義乃至一切種智の義、謂ゆる內空乃至無法有法空を說くべし、是の人は是の法を聞きて沒せず驚かず畏れず怖かざればなり。須菩提、菩薩摩訶薩は福德を隨喜して、應に是の如く阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべし、〔四一〕謂ゆる菩薩は心を用て隨喜の福德を阿耨多羅三藐三菩提に廻向す、是の心〔四二〕盡滅し變離す、是の緣、是の事、是の諸善根も亦盡滅し變離す。是の中〔四三〕何等か是れ隨喜心、何等か是れ諸緣、何等か是れ諸事、何等か是れ諸善根ありて、阿耨多羅三藐三菩提に隨喜廻向せんや。〔四四〕二心倶ならず、是の心性も亦廻向を得べからず。菩薩云何が隨喜心もて、阿耨多羅三藐三菩提に廻向せんや。若し菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、是の如く是の般若波羅蜜法有ること無く、乃至檀波羅蜜も亦法有ること無く、色法有ること無く、受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提も法有ること無しと知る。菩薩摩訶薩は應に是の如く功德を隨喜し、阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべし。若し能く是の如く廻向する、是を功德を隨喜して

【四〇】少福德者は空と聞き空に著して福德の要なしとし善業を忘失するを云ふ。

【四一】上來隨喜の義を明にし以下雜義を釋す、刹那滅と二心不和合等なり。

【四二】盡滅等。用ふる所の心は念念に盡滅變化し離去して住する時なし。

【四三】諸緣事も已に滅し隨喜心も今滅し、等く過去に入り實相分別なし、廻向の廻向とすべきものなきを正廻向とす。

【四四】二心倶ならず。同時に二心倶起和合せず。隨喜心に菩提心なく心相空なり。

阿耨多羅三藐三菩提に廻向すと名づく。』

(四五)爾の時、釋提桓因須菩提に語りて言く、『新發意の菩薩、是の事を聞き、將に驚懼怖畏する無からんや。須菩提、云何が新發意の菩薩、諸善根を作し、阿耨多羅三藐三菩提に廻向し、復云何が福德を隨喜し、阿耨多羅三藐三菩提に廻向するや。』須菩提釋提桓因に語らく、『若し(四六)新發意の菩薩、般若波羅蜜を行ずるも、是の般若波羅蜜を(四七)受けず、無所得を以ての故に、無想の故に。乃至檀那波羅蜜も亦是の如し。多く內空を信解し、乃至多く無法有法空を信解し、多く四念處乃至十八不共法を信解し、常に善知識と相隨し、是の善知識爲に六波羅蜜の義を說き、開示し分別し是の如く敎授して、常に般若波羅蜜を離れざらしめ、乃ち(四八)菩薩法位に入ることを得るに至るまで、終に般若波羅蜜を離れず、乃至檀那波羅蜜を離れず、四念處乃至十八不共法を離れざらしめ、亦魔事を敎語し、種種の魔事を(四九)聞き已りて增せず減せず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は一切法を受けざるが故に。是の菩薩、亦常に諸佛を離れず、乃至菩薩位を得、中に於て善根を種う、是の善根を以ての故に、(五〇)菩薩の家に生じ、乃ち阿耨多羅三藐三菩提を得るに至るまで、終に是の善根を離れず。復次に(五一)新發意の

【四五】新學も學すべき眞實無上の廻向を述ぶ。

【四六】新學に久修行の宿善なきも利根にして無相を信解すると、善知識能く導くとによりて驚怖せざるを說く。

【四七】受けず。相を得ず所得なく著せず。

【四八】菩薩法位。菩薩の正性離生を云ふ。

【四九】聞き已りて增せず。知識の魔事を敎ふるを聞き實相を修習すれば、空の破せらるゝなく增益するなし。

【五〇】菩薩の家。諸佛無上道を離れず、善根を修むる處。

【五一】次に新學の上善隨喜廻向を說く。

菩薩摩訶薩は、過去十方無量阿僧祇の國土の中に於ける諸佛の（五二）生死道を斷じ、（五三）諸戲論道を斷じ、盡く（五四）重擔を棄て、（五五）聚落の刺を滅し、（五六）諸有結を斷じ、（五七）正智もて解脱を得たる、及び弟子所作の功德、是の中に於て若は刹利大姓婆羅門大姓居士大家四天王天乃至淨居天の種うる所の善根、是の一切を和合し稱量するに、隨喜心最上第一最妙無上にして與に等しきもの無きを以て、應に隨喜し、隨喜し已りて阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべし。』爾の時、彌勒菩薩須菩提に語るらく、『若し新發意の菩薩摩訶薩、諸佛及び弟子の諸善根を念じ隨喜せる功德は、最上第一最妙無上にして與に等しき無く、隨喜し已りて阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべくんば、（五八）云何が菩薩、想顛倒心顛倒見顛倒に墮せざるや。』須菩提言く、『若し菩薩摩訶薩、諸佛及び僧を念ずれば、是の中に於て佛想を生ぜず僧想を生ぜず善根想無し、是の心を用て阿耨多羅三藐三菩提に廻向す、是の心中亦心想を生ぜず。菩薩是の如く廻向せば想顛倒せず心顛倒せず見顛倒せず。若し菩薩摩訶薩、諸佛及び僧の善根を念じて相を取り、相を取り已りて阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、菩薩の是の如きを名けて想顛倒心顛倒見顛倒と爲す。若し菩薩摩訶薩、是の心を用て諸佛及び僧の諸善根を

【五二】生死道を斷じ。無餘涅槃に入る。
【五三】諸戲論道を斷じ。差別の法相を取らず空三昧に住す。
【五四】重擔。五蘊を云ふ、これを棄つる二あり、有餘涅槃にその煩惱を捨て、無餘涅槃にその果體を捨つ。
【五五】聚落の刺。在家の欲刺即ち五欲。
【五六】諸有結。欲刺は五下分結、諸有結の斷ずるは五上分結を斷ずるなり。
【五七】正智。實相金剛三昧相應の智を云ふ。解脱を得たるまでは諸佛の德なり。
【五八】須菩提の說ける廻向正邪を混ずるを以てこれを問へるなり。

念せば、是の心念ずる時、即ち盡滅するを知る。若し盡滅せば（五九）是の法廻向することを得べからず、所用の廻向心も亦是れ盡滅相、（六〇）所廻向の處及び法も亦是の相の如し。若し是の相の如く廻向せば、是を正廻向と名け邪廻向に非ず。菩薩摩訶薩は應に是の如く阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべし。（六一）復次に若し菩薩摩訶薩、過去諸佛の善根及び弟子の善根、是の中に凡夫人の法を聞きて種うる善根、若は諸天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅摩睺羅伽の法を聞きて種うる善根、若は刹利大姓婆羅門大姓居士大家四天王天乃至阿迦尼吒天の法を聞きて種うる善根、阿耨多羅三藐三菩提心を發すもの、是の一切の福德を和合し稱量するに、隨喜せる功德は最上第一最妙無上にして與に等しき無く、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是の時菩薩、若し是の如く是の諸法盡滅し、所廻向の處及び法も亦自性空なりと知り、能く是の如く廻向せば、是を眞に阿耨多羅三藐三菩提に廻向すと名く。復次に若し菩薩、是の如く法有ること無きを知らば能く法を廻向す。何を以ての故に、一切法自性空の故に。若し是の如く廻向せば、是を正しく阿耨多羅三藐三菩提に廻向すと名く。是の如く菩薩摩訶薩、般若波羅蜜乃至檀那波羅蜜を行ずれば、想顚倒・心顚倒・見顚倒に墮せず。何を以ての故に、菩薩は是の廻向に著せず、亦諸善根を以て菩提心に廻向する處を見ざればなり。是を菩薩摩訶薩の無上廻向と名く。

【五九】是の法。前に云ふ心緣事功德なり。

【六〇】所廻向處。無上菩提を云ふその不可得なる、盡滅の不可得なるが如し。

【六一】新學の隨喜の眞正無上廻向を述ぶ。

（六二）復次に菩薩摩訶薩は、所起の福德、五陰十二入十八界を離るゝを知り、亦（六三）般若波羅蜜も是れ離相、乃至檀那波羅蜜も是れ離相、乃至無法有法空も是れ離相、四念處乃至十八不共法も是れ離相なるを知る。是の如く菩薩摩訶薩（六四）隨喜心もて福德を起し、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。復次に若し菩薩摩訶薩、隨喜の福德には隨喜福德の自性離るゝを知り、亦諸佛も佛性を離れ、諸善根も亦善根性を離れ、菩提心の菩提心性も亦離れ、廻向の廻向性も亦離れ、菩薩の菩薩性も亦離れ、般若波羅蜜の般若波羅蜜性も亦離れ、禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜の檀那波羅蜜性も亦離れ、乃至十八不共法の十八不共法性も亦離るゝを知る。菩薩摩訶薩は應に是の如く離相般若波羅蜜を行ず。是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜の中に隨喜の福德を生ずと名く。復次に菩薩摩訶薩、過去滅度の諸佛の諸善根、若し廻向せんと欲せば、是の如く廻向して是の念を作すべし、諸佛の滅度相の如く、諸善根相も亦是の如く滅度す、法相も亦是の如し、我れ心を用て廻向せば、是の心相も亦是の如し。若し能く是の如く廻向せば、當に知るべし、是を阿耨多羅三藐三菩提に廻向すと。是の如く廻向せば、想顚倒心顚倒見顚倒に墮せず。若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、諸佛の善根相を取りて阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、是を名けて廻向と爲さず。何を以ての故に、諸の過去佛及び善根は（六五）相緣に非ず

【六二】現在福業の空離相を說き、正廻向を辨ず。
【六三】般若…是れ離相。般若等の諸法を行ずるも諸法また空にして相の取るべきなし。
【六四】隨喜心等。如實に離相を了知せる隨喜心なり
【六五】相緣、無相緣。有相無相は二邊なり、之を離るるを中道實相とし、有無二相を斥く。

無相緣に非ざればなり。若し菩薩摩訶薩、是の如く相を取ることを作さば、是を善根もて阿耨多羅三藐三菩提に廻向すと名けず。是の如きの菩薩摩訶薩は想顚倒心顚倒見顚倒に墮す。若し菩薩摩訶薩諸佛及び諸善根及び諸心相を取らざれば、是を諸善根を以て阿耨多羅三藐三菩提に廻向すと名く。是の如きの菩薩摩訶薩は想顚倒心顚倒見顚倒に墮せず。』爾の時、彌勒菩薩須菩提に問ふ、『云何が菩薩摩訶薩諸善根に於て相を取り、阿耨多羅三藐三菩提に廻向すること能はざるや。』須菩提言く、『是の事を以ての故に當に知るべし、菩薩摩訶薩の學ぶ所の般若波羅蜜の中に、應に(六六)般若波羅蜜方便力有るべし、若し是の福德、般若波羅蜜を離るれば阿耨多羅三藐三菩提に廻向することを得ずと。何を以ての故に、般若波羅蜜の中に諸佛得べからず、諸善根得べからず、阿耨多羅三藐三菩提に廻向する心も亦得べからざればなり。是の中に於て菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時に是の如く思惟すべし、過去の諸佛及び弟子の身皆滅す、諸善根も亦滅す、我れ今相を取りて諸佛の諸善根及び諸心を分別し、是の取相を以て阿耨多羅三藐三菩提に廻向するは諸佛の許さゞる所なりと。何を以ての故に、取相は所得有るが故に、謂ゆる過去諸佛に於て相を取り分別す、是の故に菩薩摩訶薩諸善根を以て阿耨多羅三藐三菩提に廻向せんと欲するも、得有るべからず相を取るべからず、是の如く廻向す。若し取相を得ること有りて諸佛に廻向せば大利益有りと說かず。何を以ての故に、

【六六】**般若波羅蜜方便力**。般若無相は眞實にして力あるを云ふ、般若に別相定實の力あるにあらず。

是の廻向は毒を雜ふるが故に。譬へば(六七)美食に毒を雜ふるが如し、好色好香有りて人の貪る所と爲ると雖も、而も其の中に毒を雜ふ、愚癡の人は之を食ひて歡喜し、其の好色香美を貪りて口にす可きも、(六八)飯消せんと欲する時、若は死若は死に等しき苦を受く。若し善男子善女人(六九)諦に受せず(七〇)諦に取相せず、(七一)諦に讀誦せず(七二)中義を解せずば、是の如く他に敎へて言く、汝善男子、過去未來現在十方の諸佛、初發意より以來阿耨多羅三藐三菩提を得るに至り、無餘涅槃に入り乃至法盡まで、其の中間に於て般若波羅蜜を行ずる時に作せる諸善根、禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜を行ずる時に作せる諸善根、四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分、佛十力を修し乃至十八不共法を修する時に作せる諸善根、佛國土を淨め衆生を成就するに作せる諸善根、及び諸佛の戒衆定衆慧衆解脱衆解脱知見衆、一切種智、無錯謬法常捨行、及び諸弟子是の中に種うる所の善根、及び諸佛に記せられ當に辟支佛と作るべき(善根)、是の中に諸天龍阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽等の種うる所の善根、是の諸の福德を稱量和合し隨喜して阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是の廻向は取相を以て法を得るが故に毒を雜ふる食の如し、法を得る者は終に正廻向無し。何を以ての故に、是の得法毒を雜へ

【六七】食は隨喜福德に、毒は取相に、好色は人天の福樂に、好香は名譽富貴勢力に喩ふ。

【六八】飯消せん。食物の消化せんとするを云ひ、無常破壞に喩ふ。

【六九】諦に受せず。般若を受くるも愚にして語言に著し、その義を取らず。

【七〇】諦に取相せず。法の如く分別せず錯謬に陷る。この取相は前後文に云ふ所と異る。

【七一】諦に讀誦せず。受ること具足せず、又は句文を忘失す。

【七二】中義を解せず。正中の經意を得ざるなり。

相有り動有り戯論有ればなり、若し是の如く廻向せば則ち佛を謗り、佛教に隨はず、法說に隨はずと爲す。是の善男子善女人、佛道を求めんとせば應に（七三）是の如く學すべし。過去未來現在の諸佛、初發意より乃至法盡まで、及び弟子の般若波羅蜜を行ずる時に作せる善根、乃至一切種智を修する、餘は上に說ける如し。（七四）云何が諸善根を阿耨多羅三藐三菩提に廻向するは正廻向なるや。佛道を求むる善男子善女人有りて、般若波羅蜜を行じて諸佛を謗らんと欲せざる者は、諸の福德を修し、應に是の如く廻向すべし。諸佛の知る所の如く無上智慧を以て是の（七五）諸善根相、是の諸善根性（を知り）、我も亦是の如く隨喜し、諸佛の知る所の如く、我も亦是の如く阿耨多羅三藐三菩提に廻向し、菩薩道を求むる善男子善女人は應に是の如く阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべしと。若し是の如く廻向せば則ち佛を謗らず、佛の所敎の如く佛の法說の如しと爲す、是の菩薩摩訶薩の廻向には則ち毒を雜ふること無し。

（七六）復次に佛道を求むる善男子善女人の般若波羅蜜を行ずる時、諸善根を是の如く廻向すべし、（七七）色、欲界に繫せず色界に繫せず無色界に繫せざるが如く、繫せざる法は、過去と名けず未來と名けず現在と名けず。受想行識、欲界に繫せず色界に繫せず無色界に繫せざるが

【七三】是の如く學すべし。前者に反し次に云ふ如く正廻向たる樣になせとなり。

【七四】此に略陳せる諸善根の正廻向となるを明さんとす。

【七五】諸善根相…性。一切智人の中には佛第一たり、佛所知の善根は是れ實相なりとするを云ふ。

【七六】諸法三界に繫せざるが故に三世に攝せず、これを以て廻向するの眞正廻向たるを說く。

【七七】色欲界に繫せず等。三界繫縛心を以てするが故に色三界に墮す、若し墮せずば界繫なく過未あることなし。

如く、繫せざる法は、過去未來現在と名けず。十二入十八界も亦是の如し。般若波羅蜜、欲界に繫せず色界に繫せず無色界に繫せざる如く、繫せざる法は、過去未來現在と名けず。禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜も亦是の如く、內空乃至無法有法空も亦是の如し。四念處、欲界に繫せず色界に繫せず無色界に繫せざる如く、繫せざる法は、過去未來現在と名けず。乃至八聖道分も亦是の如く、佛の十力乃至十八不共法も亦是の如し。如如、法性法相法住法位實際、不可思議性、戒定慧解脫解脫知見衆、一切種智、無錯謬法、常捨行、欲界に繫せず色界に繫せず無色界に繫せざる如く、繫せざる法は、過去未來現在と名けず。是の廻向所廻向處に行者の繫せざる皆亦是の如し、是の諸佛も亦繫せず、諸善根も亦繫せず、是の諸聲聞辟支佛の善根も亦繫せず、繫せざる法は、過去未來現在と名けず。若し菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、是の如く色、三界に繫せず、繫せざる法は、過去未來現在と名けずと知り、若し法、過去未來現在と名けずば、取相有所得法を以て阿耨多羅三藐三菩提に廻向す可からず。何を以ての故に、是の(七八)色生無し、若し法生無ければ則ち法無く、無法の中に廻向すべからざればなり。受想行識も亦是の如し。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、四念處乃至無錯謬法、常捨行三界に繫せず、繫せざる法は、亦過去未來現在に非ず。若し過去未來現在法に非ざれば、取相有所得の法を以て阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべからず。何を以ての故に、是の法生無し、若し生無ければ則ち法無し、無法の中に廻

【七八】色生無し　色實相の初後生相不可得なること、破生品を見よ。

向すべからざればなり。菩薩摩訶薩是の如く廻向せば則ち毒を雜ふる無きなり。若し佛道を求むる善男子善女人、取相を以て法を得、諸善根を以て阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、是を邪廻向と名く。若し邪廻向せば諸佛の稱譽せざる所なり。是の邪廻向を以ては檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜を具足すること能はず、四念處乃至八聖道分、內空乃至無法有法空、佛の十力乃至無錯謬法常捨行を具足すること能はず、淨佛國土成就衆生を具足すること能はず。若し佛國土を淨め衆生を成就すること能はざれば、則ち阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず。何を以ての故に、是の廻向は毒を雜ふるが故に。復次に菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、應に是の念を作すべし、諸佛所知の諸善根廻向、是れ眞廻向なるが如く、我も亦是の法相を以て廻向すべしと、是を正廻向と名く。』爾の時、佛須菩提を讃じたまはく、『善い哉善い哉、汝の爲す所の如きは（七九）佛事を爲作し、諸の菩薩摩訶薩の爲に（八〇）所應の廻向の法を說けり、（八一）無相無得無出無垢無淨、無法性自相空常自性空、（八二）如法性如實際なるを以ての故に。

（八三）須菩提、若し三千大千國土の中の衆生、皆十善道四禪四無量心四無色定五神通を行ぜば、須菩提の意に於て云何、是の衆生の福を得ること多きや不や。』『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子

【七九】佛事を爲作し。佛は廣度衆生を事とす、今佛の說化を助くるを云ふ。
【八〇】所應の廻向。無顚倒の隨喜廻向を云ふ。
【八一】無相。假名相法相無相相の三あり。假名は屋舍等の和合法、無明によりて有なり。法相は蘊處界等肉眼に有、慧眼には無なり。此二を離るゝを無相相と云ふ。此三相を離るるを無相とす。
【八二】如法性如。眞如法性不虛妄性の意。
【八三】廻向の福德甚大なるを述ぶ。

善女人、諸善根に於て心著せず、阿耨多羅三藐三菩提に廻向せんには如かず。須菩提、是の善男子善女人の福德は、最上第一最妙無上にして與に等しき無し。復次に須菩提、若は三千大千國土の中の衆生、皆須陀洹乃至阿羅漢辟支佛を得、若は善男子善女人有りて、形壽を盡して供養し恭敬し、尊重し讃歎し、衣服飮食臥具醫藥もて所須を供給せば、須菩提の意に於て云何。是の善男子善女人は、是の因緣の故に福德を得ること多きや不や。』『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子善女人、諸善根に於て心著せず、阿耨多羅三藐三菩提に廻向せんには如かず、最上第一最妙無上にして與に等しき無し。』復次に須菩提、若し三千大千國土の中の衆生、皆阿耨多羅三藐三菩提心を發し、十方如恒河沙等の國土の中の一一の衆生、如恒河沙等の劫に是の菩薩を恭敬し、尊重し讃歎し供養し、衣服飮食臥具醫藥もて所須を供給せば、須菩提の意に於て云何。是の善男子善女人は、是の因緣の故に福を得ること多きや不や』。『甚だ多し、世尊、無量無邊阿僧祇も譬喩を以て比を爲すべからず。世尊、若し是の福德、（四）形有らば十方如恒河沙等の國土も受けざる所なり。』佛須菩提に告げたまはく、『善い哉善い哉、汝の言ふ所の如し、爾りと雖も善男子善女人、諸善根に於て心著せず、阿耨多羅三藐三菩提に廻向せんには如かず、最上第一最妙無上にして與に等しき無し。是の無著の廻向功德を前の功德に比するに、百倍千倍百千萬億倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。何を以ての故に、是の善男子善女人、取相得法して十善道四禪四無

【四】形有らば。福德が形像色體を有せばの意。

量心四無色定五神通を行じ、取相得法して須陀洹を供養し恭敬し尊重し讃歎し、衣服飲食臥具醫藥もて所須を供給し、乃至相を取りて菩薩を供養するが故に。』爾の時、四天王天二萬の諸天子と與に合掌し佛を禮して是の言を作す、『世尊、菩薩摩訶薩の最大廻向は方便力を以ての故に、無所得を以ての故に、無相法を以ての故に、(八五)無覺法を以ての故に、諸善根を阿耨多羅三藐三菩提に廻向するなり。是の如き廻向は二法に墮せず。』爾の時、釋提桓因も亦無數百千億三十三天及び餘の諸天子と與に、天華瓔珞擣香澤香天衣旛蓋鼓天伎樂を持て、以て佛を供養して是の言を作す、『世尊、菩薩摩訶薩の最大廻向は方便力を以ての故に、無所得を以ての故に、無相法を以ての故に、無覺法を以ての故に、諸善根を阿耨多羅三藐三菩提に廻向するなり、是の如き廻向は二法に墮せず。』須夜摩天王千の天子と與に、刪兜率陀化樂他化自在諸天王各千の天子と倶に佛を供養し已りて是の言を作す、『世尊、菩薩摩訶薩の最大廻向は方便力を以ての故に、無所得を以ての故に、無相法を以ての故に、無覺法を以ての故に、諸善根を阿耨多羅三藐三菩提に廻向するなり、是の如き廻向は二法に墮せず。』爾の時、諸の梵天無數百千那由他諸天と倶に佛所に詣で、頭面して佛足を禮し、大音聲を發して是の言を作す、『未曾有なり、世尊、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の護る所と爲り、方便力を以ての故に、前の善男子善女人の取相有所得なる者に勝る。』光音天乃至阿迦尼吒天無數百千億那由他の諸天と倶に佛所に詣で、頭面して佛足を禮し、大音聲を發して是の言を作す、『未

【八五】無覺法。思作諸覺分別なきなり。

曾有なり、世尊、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の護る所と爲り、方便力を以ての故に、前の善男子善女人の取相有所得なる者に勝る。』爾の時、佛四天王天乃至阿迦尼吒諸天子に告げたまはく、『若し三千大千國土の中の有らゆる衆生、皆阿耨多羅三藐三菩提心を發さば、是の一切菩薩、過去未來現在の諸佛、及び聲聞辟支佛の諸善根、初發意より乃至(八六)法住まで、其の中間に於ける有らゆる善根、幷に餘の一切衆生の有らゆる善根、謂ゆる布施持戒忍辱精進一心智慧、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、戒衆定衆慧衆解脱衆解脱知見衆、是の如き等の諸餘無量の佛法を念じ、一切和合し隨喜し、隨喜し已りて阿耨多羅三藐三菩提に廻向す、取相有所得を以ての故に。復善男子善女人有りて、阿耨多羅三藐三菩提心を發し、過去未來現在の諸佛及び聲聞辟支佛、初發意より乃至法住まで、其の中間に於ける有らゆる善根、幷に餘の一切衆生の有らゆる善根、謂ゆる布施持戒忍辱精進一心智慧、檀那波羅蜜乃至無量の諸佛法を念じ、一切和合し稱量す、無所得を以ての故に、無二法の故に、無相法の故に、不著法の故に、無覺法の故に、是は最上の隨喜、第一最妙無上にして與に等しき無き隨喜なり。隨喜し已りて阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是の善男子善女人の功德の前の善男子善女人の功德に勝ること、百倍千倍百千萬億倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。』

(八七)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、世尊は善男子善女人の諸善根を和合し稱量し隨喜し廻

【八六】法住。法住盡の意即ち法滅なり。

【八七】隨喜廻向の最上無與等の大功德なるを明す。

向する、最上第一最妙無上與に等しき無しと說きたまふ。世尊、云何が隨喜を最上乃至與に等しき無しと名くるや。』佛言はく、『若し善男子善女人、過去未來現在の諸法に於て取らず捨てず、念せず念せざるに非ず、得ず得ざるに非ず、(八八)是の諸法の中にも亦法の生ずる者滅する者、若は垢若は淨有ること無く、諸法は增せず減せず、來らず去らず、合せず散せず、入らず出でず、過去未來現在の諸法相、如如相、法性法住法位の如く、我も亦是の如く隨喜し、隨喜し已りて阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是の如き廻向は最上第一最妙無上にして與に等しき無し。須菩提(八九)是の隨喜の法は餘の隨喜に比するに、百倍千倍百千萬億倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。復次に須菩提、佛道を求むる善男子善女人過去未來現在の諸佛及び聲聞辟支佛に於て、初發心より乃至法住まで、其の中間に於ける有らゆる善根、若は布施乃至智慧、檀那波羅蜜乃至無量の諸佛法、及び餘の一切衆生の有らゆる善根、若し隨喜せんと欲すれば是の如く隨喜し、是の念を作すべし。布施は(九〇)解脫と等し、戒忍精進禪智は解脫と等し、色は解脫と等し、受想行識も亦解脫と等し、內空は解脫と等し、乃至無法有法空も亦解脫と等し、四念處は解脫と等し、乃至八聖道分も亦解脫と等し、佛の十力は解脫と等し、乃至一切種智も亦解脫と等し、戒衆

【八八】是諸法中等。一切法得べからず念すべからざるが故に取らず捨てず、諸法實相中に入ればなり。

【八九】是の隨喜等。餘は有量、有盡、雜毒、不定にして生死に隨ふ。是は無量、無盡、無毒、決定し、作佛に到り、涅槃に隨ふ。

【九〇】解脫と等し。有爲無爲二種解脫あるも、慧眼を以て觀れば有爲も無爲に屬し諸法分別は虛妄にして一切如實なるが故に諸法解脫と等しと云ふ。

定衆慧衆解脱衆解脱知見衆も亦解脱と等し、隨喜は解脱と等し、過去未來現在の諸法は解脱と等し、十方の諸佛は解脱と等し、諸佛の廻向は解脱と等し、(九二)諸佛は解脱と等し、諸佛の滅度は解脱と等し、諸佛の弟子聲聞辟支佛は解脱と等し、諸佛の弟子の滅度は解脱と等し、諸佛の法相は解脱と等し、諸の聲聞辟支佛の法相は解脱と等し、一切の諸法相も亦解脱と等し。我れ是の諸善根相を以て、隨喜の功德を阿耨多羅三藐三菩提に廻向するも亦解脱と等し、不生不滅の故に。須菩提、是を諸の菩薩摩訶薩の隨喜の功德は、最上第一最妙無上にして與に等しき無しと名く。須菩提、菩薩、是の隨喜の功德を成就せば、當に疾く阿耨多羅三藐三菩提を得べし。復次に須菩提、十方如恒河沙等の現在の諸佛及び諸の弟子、若し佛道を求むる善男子善女人有りて、形壽を盡して、是の諸佛及び弟子を供養し、一切の所須を供養し、恭敬し尊重し讃歎し、衣服飮食臥具醫藥もてし、是の諸佛滅度の後晝夜勤修し、供養し恭敬し、尊重し讃歎し、華香乃至旛蓋伎樂もてす、取相有所得を以ての故に。持戒忍辱精進禪定智慧す、取相有所得を以ての故に。復善男子善女人有りて、發意して阿耨多羅三藐三菩提を求め、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じ、相を取らざるを以て所得の法無く、方便力もて諸善根を阿耨多羅三藐三菩提に廻向す、是の福德最上第一最妙無上にして與に等しき無く、前の福德に勝ること百倍千倍百千萬億倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩の檀那波羅蜜

【九二】この諸佛は在世の能化を云ふ。

尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行ずる時、方便力を以ての故に諸善根を阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべし、相を取らざるを以て所得の法無きが故に。』

(一)照明品第四十

(二)爾の時、慧命舍利弗佛に白して言さく、『世尊、(三)是の般若波羅蜜。』佛言はく、『是の般若波羅蜜。』『世尊、般若波羅蜜は能く(四)一切法を照す、(五)畢竟淨の故に。世尊、應に般若波羅蜜を(六)禮すべし。世尊、般若波羅蜜は(七)三界に著せず。世尊、般若波羅蜜は一切(八)助道法中最上なり。世尊、般若波羅蜜は安穩なり、能く一切の怖畏苦惱を斷ずるが故に。世尊、般若波羅蜜は能く光明を與ふ、(九)五眼を莊嚴するが故に。世尊、般若波羅蜜は能く邪見に墮する衆生を示導す、(一〇)二邊を離るゝが故に。世尊、般若波羅蜜は是れ(一一)一切種智なり、一切の煩惱及び習を斷ずるが故に。世尊、般若波羅蜜は是れ諸の菩薩摩訶薩の母なり、能く諸佛法を生ずるが故に。世尊、

【一】品目丹本大度品、第三段に般若を大度とするを明すが故なり。照明とは第一段に般若を讃じて能照一切の德を明すが故なり。大論第六十二。

【二】般若を讃じて供養を明かにし、般若の導者たるを說く。

【三】舍利弗前品の隨喜甚深を聞き歡喜して是般若と讃じ、佛も印可して是般若と云ひ給へるなり。

【四】一切法を照す。遍く過去、未來、現在、無爲、不可說の五種一切法藏を明にす。

【五】畢竟淨。諸法實相に戲論垢濁なければ畢竟清淨なり。

【六】禮す。能護救苦の法なるが故に禮す。

【七】三界に著せず。百八煩惱六十二見等斷盡するが故に三毒の淤泥なく三界に著せざるなり。

【八】助道法中最上。四念處等三十七品の分別も般若の妙慧を本とすればなり。

【九】五眼。肉眼天眼の世間眼と慧眼法眼佛眼の出世間眼となり。

【一〇】二邊。苦樂の二邊、又は有無の二邊。

【一一】一切種智。二顚倒を離れ、一切智所見の實相を諸法に修行し成就せる佛智なり。

般若波羅蜜は〔一二〕生ぜず滅せず、自相空の故に。世尊、般若波羅蜜は〔一三〕生死を遠離す、常に非ず滅に非ざるが故に。世尊、般若波羅蜜は救無き者の護と作る、一切珍寶を施すが故に。世尊、般若波羅蜜は力を具足す、能く破壞するもの無きが故に。世尊、般若波羅蜜は能く〔一四〕三轉十二行法輪を轉ず、一切諸法は轉ぜず還らざるが故に。世尊、般若波羅蜜は能く諸法の性を示す、無法有法空なるが故に。世尊、應に云何が般若波羅蜜を供養すべきや。』佛言はく、『當に世尊を供養する如くすべし、般若波羅蜜を禮すること當に世尊を禮するが如くすべし。何を以ての故に、世尊は般若波羅蜜に異ならず、般若波羅蜜は世尊に異ならず、世尊は卽ち是れ般若波羅蜜、般若波羅蜜は則ち是れ世尊なり。是の般若波羅蜜の中に諸佛菩薩辟支佛、阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹を出生し、般若波羅蜜の中に十善道四禪四無量心四無色定五神通、內空乃至無法有法空、四念處乃至八聖道分を生じ、是の般若波羅蜜の中に佛の十力十八不共法大慈大悲一切種智を生ずればなり。』爾の時、釋提桓因心に念ずらく、〔一五〕「何の因緣の故に舍利弗是の事を問ふや」と、念じ已りて舍利弗に語るらく、『何の因緣の故に是の事を問ふや』と。舍利弗、釋提桓因に語りて言はく、『憍尸迦、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜に守護せられ、〔一六〕漚和拘舍

【一二】生ぜず等。生滅を諸法の相とするも自相空なれば不生不滅なり。

【一三】生死等。斷常は諸見を生じ諸見は煩惱を生じ、煩惱生死の苦を引くが故に非常非斷に生死を離る。

【一四】三轉十二行。轉法輪卽ち說法相なり、初中後に知斷修證を成就するに在り。

【一五】舍利弗漏盡離欲の人なるに頻に般若を讚じ供養を問ふは偏執に似たり故に問ふなり。

【一六】漚和拘舍羅(Upāyakauśalya)。方便善巧と譯す。

羅力を以ての故に、過去未來現在の諸佛に於て、初發心より乃至法住まで、其の中間に於て作す所の善根、一切和合し隨喜して阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。（一七）是の因縁を以ての故に我れ是の事を問ふ。憍尸迦、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜の檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提毗梨耶禪那波羅蜜に勝ること、譬へば生盲人若は千若は百千あるも、而も前導無ければ能く（一八）道に趣き城に入ること能はざるが如し。憍尸迦、五波羅蜜も亦是の如し。般若波羅蜜を離るれば、盲の導き無くして道に趣くこと能はざるが如く、一切種智を得ること能はず。憍尸迦、若し五波羅蜜般若波羅蜜の將導を得れば、是の時五波羅蜜を名けて（一九）有眼と爲す。般若波羅蜜の將導、波羅蜜の名字を得。』釋提桓因舍利弗に語るらく、『言ふ所の如く、般若波羅蜜五波羅蜜を將導するが故に波羅蜜の名字を得とするも、舍利弗、若し檀那波羅蜜の助無くんば五波羅蜜は波羅蜜の名字を得ず、若し尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜無くんば五波羅蜜は波羅蜜の名字を得ず。若し爾らば何を以ての故に獨り般若波羅蜜のみを讚するや。』舍利弗言く、『是の如し是の如し、憍尸迦、檀那波羅蜜無くんば五波羅蜜は波羅蜜の名字を得ず、尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜無くんば五波羅蜜は波羅蜜の名字を得ず、但だ菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に住してのみ能く檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那

【一七】是の因縁。般若は菩薩を護りて廻向功徳を爲さしめ尚般若無相を失はざるは希有なり。これを因縁とす。

【一八】道…城。道は十地菩薩道八正道。城は一切種智涅槃妙果に喩ふ。

【一九】有眼。布施も罪福等を信ずるに依る、然るに布施中の智慧眼は客として有るのみ。客なければ無眼となる。

波羅蜜を具足す。是を以ての故に、憍尸迦、般若波羅蜜は五波羅蜜の中に於て、最上第一最妙無上にして與に等しき無し。』

（三〇）舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が應に般若波羅蜜を生ずべきや。』佛舍利弗に告げたまはく『色不生の故に般若波羅蜜生ず、受想行識不生の故に般若波羅蜜生ず、檀那波羅蜜不生の故に般若波羅蜜生ず、乃至禪那波羅蜜不生の故に般若波羅蜜生ず、內空乃至無法有法空、四念處乃至八聖道分、佛の十力乃至一切智一切種智不生の故に般若波羅蜜生ず。是の如きの諸法不生の故に般若波羅蜜應に生ずべし。』舍利弗言さく、『世尊、云何が色不生の故に般若波羅蜜生じ、乃至一切の諸法不生の故に般若波羅蜜應に生ずべきや。』佛言はく、『色は（三一）不起不生不得不失の故に、乃至一切の諸法は不起不生不得不失の故に、般若波羅蜜を生ず。』舍利弗佛に白して言さく、『是の如く生ずる般若波羅蜜は、何等の法と合するや。』佛言はく、『與に合する所無し、是を以ての故に、般若波羅蜜と名くることを得。』『世尊、何等の法と合せざるや。』佛言はく、『不善法と合せず善法と合せず、世間法と合せず出世間法と合せず、有漏法と合せず無漏法と合せず、有罪法と合せず無罪法と合せず、有爲法と合せず無爲法と合せず。何を以ての故に、般若波羅蜜は諸法を得ることを爲さゞるが故に生ず、是を以ての故に諸法に於て合する所無し』と。爾

【三〇】行者如何に般若を生ずるかを明す。

【三一】不起等。色等因緣和合の故に起る、色實有とするは虛妄なり。實の起なきが故に不生、不生の故に不得、不得の故に不失なり。これを知れば般若生ず。

の時、釋提桓因佛に白して言さく、(三二)『世尊、是の般若波羅蜜は亦薩婆若とも合せざるや。』佛言はく、『是の如し、憍尸迦、般若波羅蜜は亦薩婆若とも合せず、亦得ず。』釋提桓因言さく、『世尊、云何が般若波羅蜜、亦薩婆若に合せず、亦得ざるや。』佛言はく、『般若波羅蜜は名字の如くならず、相の如くならず、起作法合の如くならず。』釋提桓因言さく、『今云何が合するや。』佛言はく、『若し菩薩摩訶薩の(三三)不取不受不住不著不斷の如き、是の如きの合も亦合する所無し。是の如く、憍尸迦、般若波羅蜜は一切法と合するも亦合する所無し。』爾の時、釋提桓因、佛に白して言さく、『未曾有なり、世尊、是の般若波羅蜜は一切法不起不生不得不失の爲の故に生ずとは。』須菩提佛に白して言さく、(三四)『世尊、若し菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時に是の念を作す、般若波羅蜜若は一切法と合し若は合せずと。是の菩薩摩訶薩は則ち般若波羅蜜を捨て、般若波羅蜜を遠離す。』佛須菩提に告げたまはく、『復因緣有りて菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を捨て、般若波羅蜜を遠離す。若し菩薩摩訶薩是の念を作す、是の般若波羅蜜は所有無く空虛にして堅固ならずと。是の菩薩摩訶薩は則ち般若波羅蜜を捨て般若波羅蜜を遠離す。須菩提、是の因緣を以ての故に般若波羅蜜を捨離す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊

【三二】分別諸法と合せざるも一切智とは合すべしとして、疑ふなり。これ一切智に對する愛あるが爲なり

【三三】不取等。相虛誑の故に取相せず、法常無常にあらざるが故に不受、縛著動轉の故に不住、變化生苦の故に不著、解脫實に滅するものなきが故に不斷なり。

【三四】二種の般若遠離を擧ぐ、一は合も合なしとせず、或は合とし或は不合と定むるもの、二は無所有の故に不確なりとするものなり。これ有無の二執を出です。

般若波羅蜜を信じて何法をか信せずと爲すや。』佛須菩提に告げたまはく、(三五)『般若波羅蜜を信ずれば則ち色を信せず、受想行識を信せず、眼乃至意を信せず、色乃至法を信せず、眼界乃至意識界を信せず、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜を信せず、內空乃至無法有法空を信せず、四念處乃至八聖道分を信せず、佛の十力乃至十八不共法を信せず、須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を信せず、菩薩道を信せず、阿耨多羅三藐三菩提乃至一切種智を信せず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が般若波羅蜜を信ずる時、色乃至一切種智を信せざるや。』佛須菩提に告げたまはく、『色不可得の故に般若波羅蜜を信じて色を信せず、乃至一切種智不可得の故に般若波羅蜜を信じて一切種智を信せず、是を以ての故に、須菩提、般若波羅蜜を信ずる時、色を信せず、一切種智を信せざるなり。』

(三六)須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜を名けて(三七)摩訶波羅蜜と爲す。』『須菩提、何の因緣の故に、是の般若波羅蜜を名けて摩訶波羅蜜と爲すや。』須菩提言さく、『世尊、是の般若波羅蜜は(三八)色大を作さず色小を作さず、受想行識大を作さず小を作さず、眼乃至意、色乃至法、眼識界乃至意識界大を作さず小を作さず、檀那波羅蜜乃至禪那波羅蜜大を作さず小を作さず、內空乃至無法有

【三五】般若は不可得を信ずるが故に一切法の定實にして信ずべき者ありと信ぜざるなり。
【三六】般若の大度たる所以を明す。
【三七】摩訶波羅蜜。大度と譯す。
【三八】色大を作さず等。凡愚恣に大小を作し數量一異を作り、長縮し放慢となる、般若を行ずればかゝる一切の分別を離る。かゝる想を起すに由て般若を行ずるにあらず。

法空大を作さず小を作さず、四念處乃至阿耨多羅三藐三菩提大を作さず小を作さず、諸佛法大を作さず小を作さず、諸佛大を作さず小を作さず。是の般若波羅蜜は（二九）色合を作さず色散を作さず、受想行識合を作さず散を作さず、乃至諸佛合を作さず散を作さず。色無量を作さず色非無量を作さず、乃至諸佛無量を作さず非無量を作さず。色廣を作さず色狹を作さず、乃至諸佛廣を作さず狹を作さず。色有力を作さず色無力を作さず、乃至諸佛有力を作さず無力を作さず。世尊、是の因緣を以ての故に、是の般若波羅蜜を摩訶波羅蜜と名く。世尊、若し新發意の菩薩摩訶薩（三〇）若し般若波羅蜜を遠離せず、禪那波羅蜜を遠離せず、毗梨耶波羅蜜を遠離せず、羼提波羅蜜を遠離せず、尸羅波羅蜜を遠離せず、檀那波羅蜜を遠離せずして、（三一）是の如く念ず、是の般若波羅蜜は色大を作さず、色小を作さず、乃至諸佛大を作さず小を作さず、色合を作さず散を作さず、色無量を作さず色非無量を作さず、色有力を作さず色無力を作さず、乃至諸佛有力を作さず無力を作さずと。世尊、菩薩摩訶薩若し是の如く知れば是を般若波羅蜜を行せずと爲す。何を以ての故に、是の般若波羅蜜は相に非ざればなり。謂ゆる色の大小を作し乃至諸佛の大小を作す、色の有力無力乃至諸佛の有力無力をなす。世尊、是の菩薩摩訶薩は有所得を以ての故に大過失あり、謂ゆる般若波羅蜜を行

【二九】色合を作さず等。色に於て集散等を作さゞるなり。

【三〇】但だ般若を行ずれば心散亂して調順せず、多く疑悔邪見を生じて般若を失ふも五度と和合して行へば調柔にして衆事を辨ず、故に新學の六度其行を述ぶ。

【三一】是の如く念ず。六度を遠離せずと云ふも次の如く色不作大不作小等の想念を起す、不作とするもかゝる想は空想に著する失なり。

する時に色大を作し色小を作し、乃至諸佛有力を作し無力を作す。何を以ての故に、(三)所得の相有る者は阿耨多羅三藐三菩提無し。所以は何かん、衆生生せざるが故に般若波羅蜜生せず、色生せざるが故に般若波羅蜜生せず、乃至佛生せざるが故に般若波羅蜜生せず。衆生性無きが故に般若波羅蜜性無し、色性無きが故に般若波羅蜜性無し、乃至佛性無きが故に般若波羅蜜性無し、衆生は法に非ざるが故に般若波羅蜜は法に非ず、色は法に非ざるが故に般若波羅蜜は法に非ず、乃至佛は法に非ざるが故に般若波羅蜜は法に非ず。衆生空なるが故に般若波羅蜜空なり、色空なるが故に般若波羅蜜空なり、乃至佛空なるが故に般若波羅蜜空なり。衆生離なるが故に般若波羅蜜離なり、色離なるが故に般若波羅蜜離なり、乃至佛離なるが故に般若波羅蜜離なり。衆生有ること無きが故に般若波羅蜜有ること無し、色有ること無きが故に般若波羅蜜有ること無し、乃至佛有ること無きが故に般若波羅蜜有ること無し。衆生不可思議なるが故に般若波羅蜜不可思議なり、色不可思議なるが故に般若波羅蜜不可思議なり、乃至佛不可思議なるが故に般若波羅蜜不可思議なり。衆生滅せざるが故に般若波羅蜜滅せず、色滅せざるが故に般若波羅蜜滅せず、乃至佛滅せざるが故に般若波羅蜜滅せず。衆生知るべからざるが故に般若波羅蜜知るべからず、色知るべからざるが故に般若波羅蜜知るべからず、乃至佛知るべからざるが故に般若波羅蜜知るべからず。衆生力成就せざるが故に

【三】所得の相。六度に依止して色の大小を作さゞると、大小を作すと、六度に依止せずして色の大小を作さゞると、作すと、四者皆空有の所得相にして般若に應ぜず。

般若波羅蜜力成就せず、色力成就せざるが故に般若波羅蜜力成就せず、乃至佛力成就せざるが故に般若波羅蜜力成就せざるなり。世尊、是の因緣を以ての故に、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を名けて摩訶波羅蜜と爲す。」

〔一〕信毀品第四十一

〔二〕爾の時、慧命舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩有りて是の般若波羅蜜を信解する者、何處より來りて是の間に生じ、阿耨多羅三藐三菩提心を發し來ること幾時と爲すや、幾佛を供養すと爲すや、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じ來り、幾時か能く隨順して深般若波羅蜜の義を解することを爲すや。』佛舍利弗に告げたまはく、『是の菩薩摩訶薩は十方の諸佛を供養し、來りて是の間に生ず。是の菩薩阿耨多羅三藐三菩提心を發し、來ること無量無邊阿僧祇百千萬億劫なり。是の菩薩摩訶薩は初發心より常に檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じ、無量無邊不可思議阿僧祇諸佛を供養し、來りて是の間に生ず。舍利弗、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を若は見若は聞きて是の念を作す、我れ佛を見佛に從ひて法を聞くと。舍利弗、是の菩薩摩訶薩は能く隨順して深般若波羅蜜の義を解す、無相無二無所得を以ての故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜は聞くべく見るべきや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の般若波羅蜜は聞者有ること無く、見者有ること無し、

【一】品目、丹本泥梨品、大論信謗品に作る。般若の信謗を明し、謗法墮獄を說く。

【二】無量劫來十方佛を供養せるもの般若を信ずる佛の如くなるを說く。

【三】諸法鈍の故に。三界凡夫の分別に於て利鈍あり、六識を利とし六境を鈍とす、色等の法は鈍に慧は利なり、布施乃至佛に鈍に般若は利なり、法實に聞見なきも利人に對して云ふのみ。

般若波羅蜜の聞く無く見る無きも　(三)諸法鈍の故に。禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜も聞く無く見る無し、諸法鈍の故に。內空も聞く無く見る無し、諸法鈍の故に。乃至無法有法空も聞く無く見る無し、諸法鈍の故に。四念處も聞く無く見る無し、諸法鈍の故に。乃至八聖道分も聞く無く見る無し、諸法鈍の故に。佛の十力乃至十八不共法も聞く無く見る無し、諸法鈍の故に。須菩提、佛及び佛道も聞く無く見る無し、諸法鈍の故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の菩薩は幾時か佛道を行じ、能く是の如きの深般若波羅蜜を習行するや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の中應に分別して說くべし。須菩提、菩薩摩訶薩有り、　(四)初發意に深般若波羅蜜禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜を習行す、方便力を以ての故に、　(五)法に於て破壞する所無く、諸法の利益無き者を見ず、亦終に六波羅蜜を遠離せず、亦諸佛を遠離せず、一佛世界より一佛世界に至り、若し善根力を以て諸佛を供養せんと欲せば意に隨ひて卽ち得、終に母人の腹中に生ぜず、終に諸の神通を離れず、終に諸の煩惱及び聲聞、辟支佛心を生ぜず、一佛世界より一佛世界に至りて衆生を成就し佛國土を淨む。須菩提、是の如き等の諸の菩薩摩訶薩は能く深般若波羅蜜を習行す。

(六)須菩提、菩薩摩訶薩有り、多く諸佛を見、若は無量百千萬億劫、諸佛に從ひて行ずる所の布施持

【四】或る菩薩は新學なるも般若を信じて功德あり。

【五】法に於て…利益等。諸法空にして有、一法として無用無利なるなし、これ般若方便の力なり。

【六】他の菩薩は久しく修行を行ずるも有所得にして般若に反し惡報を受く。

戒忍辱精進一心智慧、皆有所得を以ての故に、是の菩薩は深般若波羅蜜を說くを聞く時、便ち衆中より起ちて去り、深般若波羅蜜及び諸佛を恭敬せず。是の菩薩は今此の衆中に在りて坐し、此の甚深の般若波羅蜜を聞くも、樂はざるが故に、便ち捨て去る。何を以ての故に、是の善男子善女人等は先世に深般若波羅蜜を聞きし時棄捨して去り、今世に深般若波羅蜜を聞くも亦棄捨して去る、身心和せず是の人愚癡因緣業を種う、是の愚癡因緣罪を種うるが故に深般若波羅蜜を說くを聞きて呰毀す、深般若波羅蜜を呰毀するが故に卽ち是れ過去未來現在諸佛の一切智一切種智を呰毀す、是の人三世諸佛の一切智を呰毀するが故に破法業を起す、破法業の因緣集るが故に無量百千萬億歲(七)大地獄の中に墮す、是の破法人の輩は一大地獄より一大地獄に至り、若は(八)火劫起る時は他方の大地獄の中に至り生じて彼の間に在り、一大地獄より一大地獄に至り、彼の間、若し火劫起る時は復他方の大地獄の中に至り生じて彼の間に在り、一大地獄より一大地獄に至る。是の如く十方に徧じ、彼の間若し火劫起るが故に、彼れより死するも、破法の業因緣未だ盡きざるが故に、還て是の間の大地獄の中に來りて此の間に生じ、亦一大地獄より一大地獄に至りて無量の苦を受く。此の間火劫起る時は復十方の他の國土に生じ、(九)畜生中に生じて破法罪業の苦を受く、地獄の中に說が如し。重罪轉た薄らぎ

【七】大地獄。八あり各十六小地獄ありと說く、中に就て無間卽ち阿鼻最大なりとす。

【八】火劫。壞劫となればこの世界大火猛然として燒壞するを云ふ。罪滅せざるもの他處の地獄に入る。

【九】畜生中。獄苦久しくして罪少しく滅すれば畜中に轉じて苦を受く。

て或は人身を得るも(一〇)生盲人の家に生じ、(一一)旃陀羅の家に生じ、除廁擔死人種種下賤の家に生ず、若は無眼若は一眼若は(一二)瞎眼無舌無耳無手なり、所生の處は佛無く法無く佛弟子無きの處なり。何を以ての故に、破法業を種ゑて積集し厚重し具足するが故に是の果報を受く。』爾の時、舍利弗佛に白して言さく、『世尊、(一三)五逆罪と破法罪と相似なりや。』佛舍利弗に告げたまはく、(一四)『相似なりと言ふべからず。所以は何かん、若し人有りて、是の甚深の般若波羅蜜を説くを聽く時、毀呰して般若波羅蜜を信ぜずして是の言を作す、是の法を學すべからず、是は法に非ず善に非ず佛敎に非ず、諸佛は是の語を説かずと、是の人は自ら般若波羅蜜を毀呰し、亦他人を敎へて般若波羅蜜を毀呰せしむ、自ら其の身を壞し、亦他人の身を壞し、自ら毒を飮みて身を殺し、亦他人に毒を飮ましむ、自ら其の身を失ひ、亦他人の身を失ふ、自ら深般若波羅蜜を知らず信ぜず毀呰し、亦他人に敎へて信ぜず知らざらしむ。舍利弗、是の如きの人は我れ其の名字をも(一五)聽聞せず、何に況んや眼見共住をや。何を以ての故に、當に知るべし是の人を名けて法を汚す人と爲す、(一六)衰濁に墮せる(一七)黑性と爲す。是の如きの人、若し其の言

【一〇】生盲人。前世般若を見るを欲せざるが故に今人となるも生れながら盲なり。
【一一】旃陀羅(Caṇḍāla)、屠種と譯す。除糞者擔死人等賤種に般若を聞くを樂はざる餘報として今も聞かずとす。
【一二】瞎眼。病によりて見る能はざるもの。
【一三】五逆罪。殺父、殺母、出佛身血、殺阿羅漢、破和合僧。
【一四】不相似。般若を信ぜざるの罪遙に大なるを云ふ。
【一五】聽聞せず。聽聞するを欲せざるなり、その名を讀するあるもこれに聽かざるなり。
【一六】衰濁 衣食を美にするも體に色力なく、勞作するも財産日に耗するを云ふ。
【一七】黑性。善を白とし、不善を黑とす。惡性なり。

を聴く有りて其の語を信用せば、亦是の如きの苦を受く。舍利弗、若し人般若波羅蜜を破せば、當に知るべし是を名けて壞法人と爲す。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、世尊は壞法の人の受くる所の重罪を說き、是の人の受くる所の身體の大小を說きたまはざるや。』佛舍利弗に告げたまはく、『是の人の受身の大小を說く須からず。何を以ての故に、是の破法人、若し自の受くる所の身の大小を聞かば便ち當に熱血を吐き、若は死し若は死苦に近づくべし。若し是の破法人是の如きの身是の如きの重罪あるを聞かば、是の人便ち大に愁憂し、箭の心に入るが如く、漸漸(一八)乾枯して是の念を作す。破法罪の故に是の如きの大醜身を得、是の如きの無量の苦を受くと。是を以ての故に、佛は舍利弗の是の人の受くる所の身體の大小を問ふを聽さず。』舍利弗佛に白して言さく、『願はくは佛之を說き、未來世の爲に明誡を作し、破法業積集の故に、是の如きの大醜身を得、是の如きの苦を受くることを知らしめたまへ。』佛舍利弗に告げたまはく、『後世の人、若し是の破法業積集し厚重し具足し、大地獄中に久久無量の苦を受くることを聞かば、是の久久無量の苦を聞く時、未來世の爲に明誡と作すに足る。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、若し(一九)白淨性の善男子善女人、是の法を聞かば(二〇)依止と作すに足る、寧ろ身命を失ふとも法を破らず。自ら念ずらく、我れ若し法を破らば當に是の如きの苦を受くべしと。』』

【一八】乾枯。死に近く身の枯槁憔悴せるなり。
【一九】白淨性。善良淸淨の人。
【二〇】依止。依憑止住、護持の意。

（三一）爾の時須菩提佛に白して言さく、『世尊、善男子善女人は應に好で身口意業を攝し、是の如きの諸苦を受け、或は佛を見ず或は法を聞かず、或は僧に親近せず、或は無佛國土の中に生じ、或は人中に生じて貧窮の家に墮し、或は人其の言を信受せざること無かるべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、積集口業を以ての故に是の如きの破法重罪有りや。』佛須菩提に告げたまはく、『積集口業を以ての故に是の破法重罪あり。須菩提、是の愚癡人は佛法中に在りて出家し受戒するも、深般若波羅蜜を破し毀呰して受けず。須菩提、若し般若波羅蜜を破し般若波羅蜜を毀呰せば、則ち十方諸佛の一切智を破すと爲す、一切智を破するが故に則ち佛寶を破すと爲す、佛寶を破するが故に法寶を破す、法寶を破するが故に僧寶を破す、三寶を破するが故に則ち世間の正見を破す、世間の正見を破するが故に則ち四念處を破し乃至一切種智法を破す、一切種智法を破するが故に則ち無量無邊阿僧祇の罪を得、無量無邊阿僧祇の罪を得已れば、則ち無量無邊阿僧祇の憂苦を受く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の愚癡人は是の深般若波羅蜜を毀呰し破壞するに幾の因緣有りや。』佛須菩提に告げたまはく、（三二）『四の因緣有りて、是の愚癡人は是の深般若波羅蜜を毀呰し破す。』須菩提言さく、『世尊、何等をか四とする。』佛言はく、『是の愚癡人は魔の使ふ所と爲るが故に深般若波羅蜜を毀呰し破壞せんと欲す、是を初因緣と名く。是の愚癡人は深法を信ぜず、信ぜず解せざれば心清淨なることを得ず、是の第二の因緣の故に、

【三一】三業を攝し謗法すべからざるを説く。大論第六十三。
【三二】四因緣。後に云ふ魔緣、不信緣、惡友緣、憍慢緣なり。

是の愚癡人は深般若波羅蜜を毀呰し破壞せんと欲す。是の愚癡人は惡知識と相隨し、心沒し懈怠し、堅く五受陰に著す、是の第三の因緣の故に、是の愚癡人は深般若波羅蜜を毀呰し破壞す。是の愚癡人は多く瞋恚を行じ、自ら高くして人を輕ず、是の第四の因緣の故に、是の愚癡人は深般若波羅蜜を毀呰し破壞せんと欲す。須菩提、是の四の因緣を以ての故に、愚癡人は深般若波羅蜜を破壞せんと欲す。』

(二三)須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の深般若波羅蜜、勤めて精進せず、不善根を種ゑ、惡友相得る人は、信じ難く解し難し。』佛言はく、『是の如し、須菩提、是の深般若波羅蜜、勤めて精進せず、不善根を種ゑ、惡友相得る人は、信じ難く解し難し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜は云何が甚深にして信じ難く解し難きや。』『須菩提、色は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ色なればなり。受想行識は(二四)不縛不解なり。何を以ての故に、(二五)無所有性是れ受想行識なればなり。檀那波羅蜜は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ檀那波羅蜜なればなり。尸羅波羅蜜は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ尸羅波羅蜜なればなり。羼提波羅蜜は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ羼提波羅蜜なればなり。毗梨耶波羅蜜は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ毗梨耶波羅蜜なればなり。禪那波羅蜜は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ禪那波羅蜜なればなり。般若波羅蜜は不縛不解なり。

【二三】般若の信解し難きを說く。
【二四】不縛不解。第十七莊嚴品に無縛無脫を說くに同じ、見よ。
【二五】無所有性。定實の自性として有とすべきものなし、故に縛も脫も實ならず。

何を以ての故に、無所有性是れ般若波羅蜜なればなり。須菩提、内空は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ内空なればなり。乃至無法有法空は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ無法有法空なればなり。四念處は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ四念處なればなり。乃至一切智一切種智は不縛不解なり。何を以ての故に、無所有性是れ一切智一切種智なればなり。須菩提、色の本際は不縛不解なり。何を以ての故に、本際無所有性是れ色なればなり。受想行識乃至一切種智の本際は不縛不解なり。何を以ての故に、本際無所有性是れ一切種智なればなり。須菩提、色の後際は不縛不解なり。何を以ての故に、後際は無所有性是れ色なればなり。受想行識乃至一切種智の後際は不縛不解なり。何を以ての故に、後際無所有性是れ一切種智なればなり。須菩提、現在の色は不縛不解なり。何を以ての故に、現在無所有性是れ色なればなり。受想行識乃至現在一切種智は不縛不解なり。何を以ての故に、現在無所有性是れ一切種智なればなり。須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜、勤めて精進せず、善根を種ゑず、惡友相得、懈怠して進むこと少く、喜んで忘れ、(三六)巧便慧無き、此の如き人は實に信じ難く解し難し。』『是の如し是の如し、須菩提、是の般若波羅蜜、勤めて精進せず、善根を種ゑず、惡友相得て魔に繫屬せられ、懈怠し進むこと少く、喜んで忘れ、巧便慧無き、此の如き人は實に信じ難く解し難し。何を以ての故に、(三七)色淨なれば果も亦淨、受想行識淨なれば果

【三六】巧便慧。善巧方便の智慧なり。

【三七】色淨等。小乘には色に不淨苦空無常無我を觀ず。然るに

も亦淨、乃至阿耨多羅三藐三菩提淨なれば、果も亦淨なればなり。復次に須菩提、色淨なるが故に、卽ち般若波羅蜜淨なり、般若波羅蜜淨なれば卽ち色淨なり。受想行識淨なれば卽ち般若波羅蜜淨なり、般若波羅蜜淨なれば卽ち受想行識淨なり。乃至一切種智淨なれば卽ち般若波羅蜜淨なり、般若波羅蜜淨なれば卽ち一切種智淨なり。色淨なると般若波羅蜜淨なるとは、(二八)無二無別無斷無壞なり、乃至一切種智淨なると般若波羅蜜淨なるとは、無二無別無斷無壞なり。復次に須菩提、不二淨なるが故に色淨なり、不二淨なるが故に乃至一切種智淨なり。何を以ての故に、是の不二淨、色淨乃至一切種智淨は無二無別なるが故に。我淨衆生淨乃至知者見者淨の故に、色淨受想行識淨乃至一切種智淨なり。色淨乃至一切種智淨の故に、我衆生乃至知者見者淨なり。何を以ての故に、是の我衆生乃至知者見者淨と色淨乃至一切種智淨とは、不二不別無斷無壞なればなり。』

『(二九)復次に須菩提、(三〇)婬淨なるが故に、色淨乃至一切種智淨なり。何を以ての故に、婬淨と色淨乃至一切種智淨とは不二不別なればなり。瞋癡淨なるが故に、色淨乃至一切種智淨なり。何を以ての故に、瞋癡淨と色淨乃至一切種智淨とは不二不別なればなり。復次に須菩提、(三一)無明淨なるが故に諸行

不淨は初門にして、十六聖行觀にも入らず、淨不淨を越えて畢竟淨なるが故に色淨果淨等と云ふ。

(二八)無二等。實相に異なく、別なければ、無二無別と云ひ、不離不散の故に無斷無壞と云ふ。

(二九)更に三毒雜染法等に就て淨を明す。

(三〇)婬淨。三毒垢穢不淨と說くも、實性不可得に於て淨ならざるなければなり。

(三一)無明淨等。無明等十二緣起法の生死の染法とするに對し今淨を述ぶ。

淨なり、諸行淨なるが故に識淨なり、識淨なるが故に名色淨なり、名色淨なるが故に六入淨なり、六入淨なるが故に觸淨なり、觸淨なるが故に受淨なり、受淨なるが故に愛淨なり、愛淨なるが故に取淨なり、取淨なるが故に有淨なり、有淨なるが故に生淨なり、生淨なるが故に老死淨なり、老死淨なるが故に般若波羅蜜淨なり、般若波羅蜜淨なるが故に乃至檀那波羅蜜淨なり、檀那波羅蜜淨なるが故に內空淨なり、內空淨なるが故に乃至無法有法空淨なり、無法有法空淨なるが故に四念處淨なり、四念處淨なるが故に乃至一切智淨なり、一切智淨なるが故に一切種智淨なり。何を以ての故に、是の一切智淨と一切種智淨とは、不二不別無斷無壞なればなり。復次に須菩提、般若波羅蜜淨なるが故に色淨なり、乃至般若波羅蜜淨なるが故に一切智淨なり、是の般若波羅蜜淨と一切智淨とは不二不別なるが故に。須菩提、禪那波羅蜜淨なるが故に乃至一切智淨なり、毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜淨なるが故に乃至一切智淨なり、內空淨なるが故に乃至一切智淨なり、四念處淨なるが故に乃至一切智淨なり。復次に須菩提、一切智淨なるが故に乃至般若波羅蜜淨なり。是の如く一一先に說けるが如し。復次に須菩提、有爲淨なるが故に無爲淨なり、何を以ての故に、有爲淨と無爲淨とは、不二不別無斷無壞なるが故に。復次に須菩提、過去淨なるが故に未來現在淨なり、未來淨なるが故に過去現在淨なり、現在淨なるが故に過去未來淨なり。何を以ての故に、過去未來淨と現在淨とは、不二不別無斷無壞なるが故に。』

(一)巻の第十二

(二)歎淨品第四十二

(三)爾の時、舍利弗佛に白して言さく、『世尊、(四)是の淨甚深なりや。』佛言はく、(五)『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『何の法か淨なるが故に是の淨甚深なるや。』佛言はく、(六)『色淨なるが故に是の淨甚深なり、受想行識淨なるが故に、四念處淨なるが故に、乃至八聖道分淨なるが故に、佛の十力淨なるが故に、乃至十八不共法淨なるが故に、菩薩淨佛淨なるが故に、一切智一切種智淨なるが故に是の淨甚深なり。』『世尊、是の淨(七)明なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『何の法か淨なるが故に是の淨明なるや。』佛言はく、『般若波羅蜜淨なるが故に是の淨明なり、乃至檀那波羅蜜淨なるが故に是の淨明なり、四念處乃至一切智淨な

【一】首題宋元明本卷第十四に作る。大論第六十三の續き。
【二】諸法畢竟淨にして無礙なるべきことを歎說するが故に品目とす。
【三】舍利弗佛と問答して諸法の甚深淨なるを明す。
【四】是の淨。淨に世間淨と實相淨とあり。世淨に智淨と緣淨とありて一切の心々所は緣より生じ智によりて緣を知るとす。實相淨は智と緣とを離れ諸法實相本來清淨とす、今この實相を信ずれば福大、謗すれば罪大なり、故に讃じて是の淨甚深と云ふ。
【五】畢竟淨等。一切法著する所なく、淨體、諸佛不著清淨なり、舍利弗の所見に過ぐるを示して畢竟清淨と說き給ふなり。以下の往復皆これに類す。
【六】色淨。色法の觀行斷じて本淨なるを云ふ。
【七】明。明了なり、戲論を破り智慧の光明を與ふ。佛に淨明に就て舍利弗の所見に過ぐるを示さんが爲に更に畢竟淨等と云ふ、前に同じ。

るが故に是の淨明なり。』『世尊、是の淨(八)相續せざるや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『何の法か相續せざるが故に、是の淨相續せざるや。』佛言はく、『色(九)去らず相續せざるが故に是の淨相續せず、乃至一切種智去らず相續せざるが故に是の淨相續せず。』『是の淨(一〇)無垢なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『何の法か無垢なるが故に、是の淨無垢なるや。』佛言はく、『色性常に淨なるが故に是の淨無垢なり、乃至一切種智性常に淨なるが故に是の淨無垢なり。』『世尊、是の淨(一一)無得無著なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『何の法か無得無著なるが故に、是の淨無得無著なるや。』佛言はく、『色無得無著なるが故に是の淨無得無著なり、乃至一切種智無得無著なるが故に是の淨無得無著なり。』『世尊、是の淨(一二)無生なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『何の法か無生なるが故に是の淨無生なるや。』佛言はく、『色無生なるが故に是の淨無生なり、乃至一切種智無生なるが故に、是の淨無生なり。』『世尊、是の淨(一三)欲界中に生ぜざるや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『云何が是の淨欲界中に生ぜざるや。』佛言はく、『欲界性不可得なるが故に、是の淨欲界中に生ぜず。』『世尊、是の淨

【八】不相續。空等三昧を以て善法を捨て命盡き無餘涅槃を得しむるを云ふ。
【九】去らず。五蘊等の去るべきものなきを云ふ。
【一〇】無垢。百八煩惱も遮覆汚染する能はざるを云ふ。
【一一】無得無著。見道得果、行善得忍を得とし、無生忍に執するを著とす。この得著なきを云ふ。
【一二】無生。空にして相を取らず三業を起作せざれば三界生ぜざるを云ふ。
【一三】欲界等。三界自性不可得の故に不生なるを明す。

色界中に生ぜざるや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『云何が是の淨色界中に生ぜざるや。』佛言はく、『色界性不可得なるが故に、是の淨色界中に生ぜず。』『世尊、是の淨無色界中に生ぜざるや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『云何が是の淨無色界中に生ぜざるや。』佛言はく、『無色界性不可得なるが故に、是の淨無色界中に生ぜず。』『世尊、是の淨(一四)無知なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『云何が是の淨無知なるや。』佛言はく、『諸法(一五)鈍なるが故に是の淨無知なり。』『世尊、無知にして是の(一六)淨淨なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『云何が色無知にして是の淨淨なるや。』佛言はく、『色自性空なるが故に、色無知にして是の淨淨なり。』『世尊、受想行識無知にして是の淨淨なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『云何が受想行識無知にして是の淨淨なるや。』佛言はく、『受想行識自性空なるが故に、無知にして是の淨淨なり。』『世尊、一切法淨なるが故に是の淨淨なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『云何が一切法淨なるが故に是の淨淨なるや。』佛言はく、『一切法不可得なるが故に、一切法淨にして是の淨淨なり。』『世尊、是の般若波羅蜜薩婆若に於て(一七)無益無損なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さ

【一四】無知。無差別の空に於て知あることなし。

【一五】鈍なるが故に。四十品參照。法の分別を離るゝを云ふ。

【一六】淨淨。智淨緣淨の相待差別の淨にあらず、實相清淨なるを云ふ。

【一七】無益無損。前來問答して罪福を云ふも、般若の損益含著すべきものなきを云ふ。

く、『云何が般若波羅蜜、薩婆若に於て無益無損なるや。』佛言はく、『法常住なるが故に、般若波羅蜜薩婆若に於て無益無損なり。』『世尊、是の般若波羅蜜の淨、諸法に於て(一八)所受無きや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』舍利弗言さく、『云何が般若波羅蜜の淨、諸法に於て所受無きや。』佛言はく、『法性不動なるが故に、是の般若波羅蜜の淨諸法に於て所受無し。』

(一九)爾の時、慧命須菩提佛に白して言さく(二〇)『世尊、我淨なるが故に色淨なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』須菩提言さく、『何の因緣を以て、我淨なるが故に色淨畢竟淨なるや。』佛言はく、『我所有無きが故に色所有無く畢竟淨なり。』『世尊、我淨なるが故に受想行識淨なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』須菩提言さく、『何の因緣の故に、我淨受想行識淨畢竟淨なりや。』佛言はく、『我所有無きが故に受想行識所有なく畢竟淨なり。』『世尊、我淨なるが故に檀那波羅蜜淨、我淨なるが故に尸羅波羅蜜淨、我淨なるが故に羼提波羅蜜淨、我淨なるが故に毗梨耶波羅蜜淨、我淨なるが故に禪那波羅蜜淨なりや。世尊、我淨なるが故に般若波羅蜜淨なりや。世尊、我淨なるが故に四念處淨なりや。世尊、我淨なるが故に乃至八聖道分淨なりや。世尊、我淨なるが故に佛の十力淨なりや。世尊、我淨なるが故に乃至十八不共法淨なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』須菩提言さく、

【一八】所受無し。諸觀戲論を滅し言語道斷するが故に受なし。
【一九】須菩提淨相を說き佛證し給ふ。
【二〇】我空解し易きも法空解し難し、故に別說す。本來無所有に於て我有なりと取るが爲に色有り、故に我空なれば法も空なるも、我空を觀するとき法空となるにあらず、故に畢竟淨と云ふなり。

『何の因緣の故に、我淨にして檀那波羅蜜淨、我淨にして乃至十八不共法淨なるや。』佛言はく、『我所有無きが故に、檀那波羅蜜所有無きが故に淨、乃至十八不共法所有無きが故に淨なり。』『世尊、我淨なるが故に須陀洹果淨、我淨なるが故に斯陀含果淨、我淨なるが故に阿那含果淨、我淨なるが故に阿羅漢果淨、我淨なるが故に辟支佛道淨、我淨なるが故に佛道淨なりや。』佛言はく、『畢竟淨なればなり。』須菩提言さく、『何の因緣の故に、我淨にして須陀洹果淨、斯陀含果淨、阿那含果淨、阿羅漢果淨、辟支佛道淨、佛道淨なるや。』佛言はく、(二一)『自相空なるが故に。』『世尊、我淨なるが故に一切智淨なりや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』須菩提言さく、『何の因緣の故に、我淨なるが故に一切智淨なるや。』佛言はく、(二二)『無相無念なるが故に。』『世尊、(二三)二淨を以ての故に無得無著なりや。』佛言はく、『畢竟淨なればなり。』須菩提言さく、『何の因緣の故に、二淨を以ての故に無得無著、是の淨畢竟淨なるや。』佛言はく、『無垢無淨なるが故に。』『世尊、我無邊なるが故に色淨受想行識淨なりや。』佛言はく、『畢竟淨なればなり。』須菩提言さく、『何の因緣の故に、我無邊なるが故に色淨受想行識淨なるや。』佛言はく、(二四)『畢竟空無始空なるが故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩能く

【二一】自相空なるが故。前に無所有を云ふも、今聖果無爲法の故に自相空とし、無生無滅無邪行を示す。

【二二】無相は無相三昧、無念は無相三昧をも念ぜざるなり。菩薩の深著を除かんが爲なり。

【二三】二淨。二法清淨即ち名字清淨と不二法清淨即ち眞實清淨なり。二法清淨は色心分別して諸法の垢と淨とを分つが故に無得無著完全ならず。

【二四】畢竟空は畢竟淨に同じ、我無邊と說くを以 衆生無始なるを以て無始空を說く。

(三五)是の如く知らば、是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜と名くるや。』佛言はく、『畢竟淨なるが故に。』須菩提言さく、『何の因緣の故に、若し菩薩摩訶薩能く是の如く知らば、是を菩薩摩訶薩の般若波羅蜜と名くるや。』佛言はく、(三六)『道種を知るが故に。』(三七)『世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるには、方便力を以ての故に是の念を作すや、色色を知らず、受想行識受想行識を知らず、過去法過去法を知らず、未來法未來法を知らず、現在法現在法を知らずと。』佛言はく、(三八)『菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、方便力を以ての故に是の念を作さず、(三九)我れ彼の人に施與す、我れ持戒すること是の如く持戒す、我れ忍を修すること是の如く忍を修す、我れ精進すること是の如く精進す、我れ入禪すること是の如く入禪す、我れ智慧を修すること是の如く智慧を修す、我れ福德を得ること是の如く福德を得、我れ當に菩薩法位中に入るべし、我れ當に佛國土を淨め衆生を成就すべし、我れ當に一切種智を得べしと。須菩提、是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに、方便力を以ての故に諸の憶想分別無し、內空外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空諸法空自相空なるが故に。須菩提、是を菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずるに方便力を以ての故に所礙無しと名く。』

【三五】是の如く知る。畢竟空と知る故に無知なり。無知即般若なるやと問ふ。

【三六】道種 法眼を以て度生の爲に差別するを云ふ、今著心を破せんが爲に畢竟空を說く故に、畢竟空卽ち道種智なりとす。

【三七】度生の方便によりて外法畢竟空を觀するにあるやを遮ぶ。

【三八】外法空を觀するのみならず、內心觀も亦同く方便力により無所得なるべきを說く。

【三九】施者受者施相を念ずる布施は所得あるを以て般若方便にあらず。持戒等亦然り。

(三〇)爾の時、釋提桓因須菩提に問ふ、『云何が是れ菩薩道を求むる善男子の礙法なるや。』須菩提釋提桓因に報へて言く、『憍尸迦、菩薩道を求むる善男子善女人有り(三一)心相を取る。謂ゆる檀那波羅蜜の相を取り、尸羅波羅蜜の相、羼提波羅蜜の相、毗黎耶波羅蜜の相、禪那波羅蜜の相、般若波羅蜜の相を取り、内空の相、外空内外空乃至無法有法空の相を取り、四念處の相乃至八聖道分の相を取り、佛の十力の相乃至十八不共法の相を取り、(三二)諸佛の相を取り、諸佛に於て善根を種うる相を取り、是の一切の福德の和合に相を取り、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。憍尸迦、是を菩薩道を求むる善男子善女人の礙法と名く。

(三三)是の法を用ての故に、礙無くして般若波羅蜜を行ずる能はず。何を以ての故に、憍尸迦、是の(三四)色相廻向すべからず、受想行識相廻向すべからず、乃至一切種智相廻向すべからず。復次に憍尸迦、若し菩薩摩訶薩他人に阿耨多羅三藐三菩提を示敎し利喜せんとせば、應に一切諸法の(三五)實相を示敎し利喜すべし。若し菩薩道を求むる善男子善女人、檀那波羅蜜を行ずる時、應に是の分別を作して言ふべからず、我れ施與す、我れ持戒す、我れ忍辱す、我れ精進す、我れ禪定に入る、我れ智慧を修す、我れ内空外空内外空を行ず、乃至我れ無法有法空

【三〇】礙相を明して無礙の眞般若行を說く。大論第六十四。

【三一】心相を取る。慳心施心を分別し、慳心を捨てゝ施心を取るの類なり。

【三二】諸佛…種うる相。隨喜品に述べたる過去以來の諸佛を念じて種うる諸善を善として執す。

【三三】是の法。取相の礙法を指す。

【三四】色相廻向すべからず。色相の如き定法なくば廻向なしと思ふべきも、實は定法ならば更に廻向するも廻向とならざるなり。

【三五】實相。憶想分別を滅したるを云ふ。

を行ず、我れ四念處を修す、乃至我れ阿耨多羅三藐三菩提を行ずと。善男子善女人は應に是の如く他人に阿耨多羅三藐三菩提を示敎し利喜すべし。若し是の如く阿耨多羅三藐三菩提を示敎し利喜せば（三六）自ら錯謬無く、亦佛の所說の法の如く示敎し利喜して、是の善男子善女人をして一切礙法を遠離せしむ。』爾の時、佛須菩提を讃じたまはく、『善い哉善い哉。汝の諸の菩薩の爲に諸の礙法を說けるが如し。須菩提、汝今更に我が微細の礙相を說くを聞け、汝須菩提、一心に好く聽け。』佛須菩提に告げたまはく、『善男子善女人あり、阿耨多羅三藐三菩提心を發し、相を取りて諸佛を念ず、須菩提、（三七）有る可き所の相皆是れ礙相なり。又諸佛に於て初發意より乃至法住まで、其中間に於て有らゆる善根、相を取りて憶念し、相を取りて憶念し已りて、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。須菩提、有る可き所の相皆是れ礙相なり。又諸佛及び弟子に於て有らゆる善根及び餘の衆生の善根、相を取りて阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。須菩提、有る可き所の相皆是れ礙相なり。何を以ての故に、應に相を取りて諸佛を憶念すべからず、亦應に相を取りて諸佛の善根を憶念すべからざるが故に。』須菩提佛に白して言さく、（三八）『世尊、是の般若波羅蜜は甚深なり。』佛言はく、『一切法（三九）常に離るゝが故に。』須菩提言さく、『世尊、我れ當に般若波羅蜜を禮すべし。』佛須菩提に告げ給はく、『是

【三六】自ら錯謬等。かゝる示敎は二の利あり、自に謬りなく、他を化して佛法に契ふなり。

【三七】有相は有限なり雜毒なり、障礙なり。諸佛は無相般若より出でゝ又無相なり、相を取るべからず。

【三八】須菩提の言は讃歎なるも、佛更に意を明にせんために甚深の義を答ふ。

【三九】常に離る。常に一切の相を離る。

の般若波羅蜜無起無作なるが故に能く（四〇）得る者有ること無し。』須菩提言さく、『世尊、一切諸法も亦知る可からず、得可からざるや。』佛言はく、『一切法（四一）一性にして二性に非ず。須菩提、是の一法性、是れも亦無性なり。是の無性即ち是れ性なり。是の性不起不作なり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、若し諸法一性謂ゆる無性無起無作なることを知れば卽ち一切の礙相を遠離す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜は難知難解なり。』佛言はく、（四二）『言ふ所の如く、是の般若波羅蜜は見る者無く聞く者無く、知る者無く識る者無く、得る者無し。』『世尊、是の般若波羅蜜不可思議なり。』佛言はく、『言ふ所の如く、是の般若波蜜蜜は心より生ぜず、色受想行識より生ぜず、乃至十八不共法より生ぜず。』

【四〇】得る者…なし。前に須菩提般若を解し得たり禮せんと云ふが如きを以て諸佛も得るなしと說く。

【四一】一性。畢竟空なり。無性なり。

【四二】須菩提に知解し難きのみならず、一切知見するものなしとす。

(一)無作品第四十三

(二)須菩提佛に白して言さく、『是の般若波羅蜜(三)無所作なりや。』佛言はく、(四)『作者不可得なるが故に、色不可得、乃至一切法不可得なるが故に。』『世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を(五)行ぜんと欲せば、應に云何が行ずべきや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、(六)色を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。受想行識を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。乃至一切種智を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。色、常無常を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。乃至一切種智、常無常を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。色若は苦若は樂を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。乃至一切種智若は苦若は樂を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。色是れ我非我なりと行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。乃至一切種智、是れ我非我なりと行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。色、淨不淨を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。乃至一切種智、淨不淨を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を

【一】品目大論無作實相品、丹本面各千佛品に作る。無作眞に般若を行ずることを明し、中段に諸天十方に各千佛を見ることを説く。

【二】前品に佛般若の無作なるを説くが故に、須菩提無作の作行を疑ひ、佛これを明す。

【三】無所作等。作ならば斷惑修善もなかるべし。

【四】作者等。佛一切法不可得にして知者すらなし、況んや作者あらんや、何ぞ更に所作の得べきものあらんやと答ふるなり。

【五】行ぜん…行ず。作者なく所作なくば行じて般若を得る所以を問ふ。

【六】色を行ぜざる。色を分別し常無常等の差別を見るべからず、この妄見なきが般若を行ずるなり。

行ずるなり。何を以ての故に、是の色所有性無し、云何ぞ常無常苦樂我無我淨不淨有らん。受想行識も亦所有性無し、云何ぞ常無常乃至淨不淨有らん。乃至一切種智も亦所有性無し、云何ぞ常無常乃至淨不淨有らん。復次に須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、色(七)不具足を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。受想行識不具足を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。乃至一切種智不具足を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。何を以ての故に、(八)色不具足なる者、是を色と名けず、是の如く亦行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。受想行識不具足なる者、是を識と名けず、是の如く亦行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。乃至一切種智不具足なる者、是を一切種智と名けず、是の如く亦行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。』

(九)須菩提佛に白して言さく、『未曾有なり、世尊、善く菩薩道を求むる善男子善女人の礙不礙の相を説きたまふ。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、佛は善く菩薩道を求むる善男子善女人の礙不礙の相を説く。復次に須菩提、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、(一〇)色不礙を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。受想行識不礙を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。眼不礙を行ぜざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。耳鼻舌身不礙

【七】不具足。無常觀を以て、常を破する如き相待を云ふ。

【八】色不具足等。色の色たるは不具足を離れたる實相なり、常若くは無常なるが爲にあらず。

【九】不礙これ道なりとするを斥け、不礙相を行ぜざるもの不礙を知るとす。

【一〇】色不礙を行ぜざる。礙に非道、不礙は道なりとすれば、心無礙相に偏す、これを行ぜざるが般若を行ずるなり。

を行せざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。意不礙を行せざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。檀那波羅蜜不礙を行せざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。尸羅波羅蜜不礙を行せざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。羼提波羅蜜不礙を行せざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。毗梨耶波羅蜜不礙を行せざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。禪那波羅蜜不礙を行せざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。般若波羅蜜不礙を行せざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。乃至一切種智不礙を行せざる、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。須菩提、菩薩摩訶薩の是の如く般若波羅蜜を行ずる時、色は是れ不礙なりと知り、受想行識は是れ不礙なりと知り、乃至一切種智は是れ不礙なりと知り、須陀洹果不礙なりと知り、斯陀含果不礙なりと知り、阿那含果不礙なりと知り、阿羅漢果不礙なりと知り、辟支佛道不礙なりと知り、阿耨多羅三藐三菩提道不礙なりと知る。』

(二)爾の時慧命須菩提佛に白して言さく、『未曾有なり、世尊、是の甚深の法、若し說くも亦不增不減なり、若し說かざるも亦不增不減なり。』佛須菩提に語たまはく、『是の如し是の如し。是の甚深の法、若し說くも亦不增不減なり、若し說かざるも亦不增不減なり。譬へば佛形壽を盡して(三)虛空を若は讃じ若は毀するに、讃ずる時も亦不增不減なり、毀する時も亦不增不減なるが如し。須菩提、(三)幻人若し讃ずる時も不增不減なり、毀する時も亦不增不減なり。讃ずる時も喜ばず、毀する時も憂へざるが如し。須菩提、諸法の法相も亦是の如し。若し說くも

【二】說不說によりて、般若に增減なきを明す。
【三】虛空。諸法實相の般若に喩ふ。
【三】幻人。般若の行者に喩ふ。

亦本の如くにして異ならず、說かざるも亦本の如くにして異ならざるなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、諸の菩薩摩訶薩の爲す所（一四）甚だ難し。是の般若波羅蜜を修行する時に憂へず喜ばず、而も能く般若波羅蜜を習し、阿耨多羅三藐三菩提に於ても亦轉還せず。何を以ての故に、世尊、般若波羅蜜を修すること虛空を修するが如く、虛空中般若波羅蜜無く禪那無く毗黎耶無く羼提無く尸羅無く檀那波羅蜜無きが如し。虛空中色無く受想行識なく、亦內空外空內外空乃至無法有法空無く、四念處無く乃至八聖道分無く、佛の十力無く乃至十八不共法無く、須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果無く、辟支佛道無く、阿耨多羅三藐三菩提無きが如し。般若波羅蜜を修するも亦是の如し。世尊、應に是の諸の菩薩摩訶薩の能く（一五）大誓莊嚴することとを禮すべし。世尊、是の人（一六）衆生の爲に大誓莊嚴勤精進するゝこと、虛空の爲に大誓莊嚴勤精進するが如し。世尊、是の人（一七）衆生を度せんと欲するは、虛空を度せんと欲するが如し。世尊、是の諸の菩薩摩訶薩の大誓莊嚴すること、虛空に等しき衆生の爲に大誓莊嚴するが如し。世尊、是の人大誓莊嚴して衆生を度せんと欲するは虛空を擧ぐるが如しと爲す。世尊、諸の菩薩摩訶薩は大精進力を得て、衆生を度せんと欲するが故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發す。世尊、諸の菩薩摩訶薩は大誓

【一四】甚だ難し。微細相も認めずして能く善を修するは信受し難し、況んや能く行ふをや。故に甚難と云ふ。

【一五】大誓莊嚴等。菩薩弘誓の鎧を被て、能く難事を爲す故にこれを禮拜せんとするなり。その弘誓は下文に虛空の爲に等と云ふ如し。

【一六】衆生の爲に。定慧今後世の樂を得しめ利益するを云ふ。

【一七】衆生を度せん。三乘涅槃を得しむるを云ふ。これ虛空の生滅苦樂縛脫なきが如し。

莊嚴して、衆生を度せんと欲するが故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發す。世尊、諸の菩薩摩訶薩は大勇猛にして、如虚空等の衆生を度せんが爲の故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發す。何を以ての故に、世尊、若し三千大千世界の中に滿つる諸佛、譬へば竹葦甘蔗稻麻叢林の如くならん、諸佛、若は一劫若は減一劫常に法を說き、一一の佛無量無邊阿僧祇の衆生を度して涅槃に入らしめんに、世尊、是の(一八)衆生性も亦不滅亦不增なり。何を以ての故に、衆生所有無きが故に、衆生離るゝが故に。乃至十方國土の中の諸佛の度する所の衆生も亦是の如し。世尊、是の因緣を以ての故に我是の如く說く。是の人、衆生を度せんと欲するが故に阿耨多羅三藐三菩提心を發すは、虚空を度せんと欲すと爲すと。』是の時

(一九)一比丘有り、是の言を作す、『我れ當に般若波羅蜜を禮すべし、般若波羅蜜中、法生ずること無く、法滅すること無しと雖も、而も戒衆定衆慧衆解脫衆解脫知見衆有り、而も諸の須陀洹・諸の斯陀含・諸の阿那含・諸の阿羅漢・諸の辟支佛・諸の佛有り、而も佛寶・法寶・比丘僧寶有り、而も轉法輪有ればなり』と。

(二〇)爾の時、釋提桓因須菩提に語るらく、『若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を習せんとせば、爲に何の法を習するや。』須菩提釋提桓因に語りて言く、『憍尸迦、是の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を習せんとせば、爲に空を習す。』釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、若し善男子善女人、是の般若波羅蜜を受持

【一八】衆生性等。假名衆生には定相なく增減なし。諸佛無量衆生を度して一衆生を滅せざるなり。

【一九】畢竟空相を聞き、比丘讚喜し讚說するなり。

【二〇】般若行者の守護を辨ず。

し親近し讀誦し說き正憶念せば、我れ當に(二二)何等の護をか作すべき。』爾の時、須菩提釋提桓因に語りて言く、(二三)『汝頗し是の法の守護すべき者を見るや不や。』釋提桓因言く、『不とよ、須菩提、我れ是の法の守護すべき者を見ず。』須菩提言く、『憍尸迦、若し善男子善女人、般若波羅蜜中の所說の如く行ずれば卽ち是れ守護なり、謂ゆる所說の如き般若波羅蜜の行を常に遠離せず。是の善男子善女人、若は人若は非人其の便を得ず。當に知るべし是の善男子善女人は般若波羅蜜を遠離せずと。憍尸迦、若し人般若波羅蜜を行ずる菩薩を護せんと欲せば、虛空を護せんと欲すと爲す。憍尸迦、汝の意に於て如何、汝能く夢餤影響幻化を護するや不や。』釋提桓因言く、『護することを得ず。』『若し人般若波羅蜜を行ずる諸の菩薩摩訶薩を護せんと欲するも亦是の如し。徒に自ら疲苦するのみ。憍尸迦、汝の意に於て云何、能く佛の所化を護するや不や。』釋提桓因言く、『護すること能はず。』『若し人般若波羅蜜を行ずる諸の菩薩摩訶薩を護せんと欲するも亦是の如し。憍尸迦、汝の意に於て云何、能く法性實際如不可思議性を護するや不や。』釋提桓因言く、『護すること能はず。』『若し人般若波羅蜜を行ずる諸の菩薩摩訶薩を護せんと欲するも亦是の如し。』爾の時、釋提桓因須菩提に問へらく、(二四)『云何が菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行じ、諸法夢の如く餤の如く影の如く響の如く幻の如

【二二】何等の護。帝釋歡喜して所須の衞護を與へんとするなり。

【二三】須菩提は般若無相にして護られず、又無量德ありて恩を待たざるを明す。

【二四】諸法如夢と說くに人の實とせざる夢幻を以て五陰の實在を認むべからざるを明さんとす。然るに夢に著するものあり、故にこの問となる。

く化の如きを知見するや。諸の菩薩摩訶薩の知見する所の如きが故に（二四）夢を念せず（二五）是夢を念せず（二六）用夢を念せず（二七）我夢を念せず、燄影響幻化も亦是の如くなるや。須菩提言く、『憍尸迦、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じて、色を念せず是色を念せず用色を念せず我色を念せずば、是の菩薩摩訶薩も亦能く夢を念せず是夢を念せず用夢を念せず我夢を念せず、乃至化も亦化を念せず是化を念せず用化を念せず我化を念せず、受想行識も亦是の如し。乃至一切智も一切智を念せず是一切智を念せず用一切智を念せず我一切智を念せず。是の菩薩摩訶薩も亦能く夢を念せず是夢を念せず用夢を念せず我夢を念せず、乃至化も亦是の如し。是の如きは、憍尸迦、菩薩摩訶薩の諸法夢の如く燄の如く影の如く響の如く幻の如く化の如きを知るとす。』

（二八）爾の時、佛の神力の故に、三千大千國土の中の諸の四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天、梵身天梵輔天梵衆天大梵天少光天乃至淨居天、是の一切の諸天、天の旃檀香を以て遙に佛の上に散じ、來つて佛所に詣で頭面佛足を禮し卻いて一面に住す。爾の時、四天王天釋提桓因及び三十三天梵天王乃至諸の淨居天、佛の神力の故に東方千佛の説法も亦（二九）是の相の如く是の名字の如きを見る。是の般若波羅

【二四】夢を念せず。夢と云ふ一法ありて睡眠時に生すと執す。

【二五】是夢を念せず。夢の好惡等を分別し夢に由ると執す

【二六】用夢を念せず。夢の好惡に喜憂する等を云ひ、夢に屬すと執す。

【二七】我夢を念せず。我れ夢に依て諸法の相を知る等と云ふ。夢に依ると執す。

【二八】諸天佛力に依て十方に千佛を見るを明し、未來彌勒會上の説法を示す。

【二九】是の相…是の名字。諸佛に在て帝釋問ひ須菩提答ふるを云ふ。

蜜品を說く諸の比丘を皆須菩提と字け、般若波羅蜜品を難問する者を皆釋提桓因と字く。南西北方四維上下も亦是の如く各各千佛現ず。爾の時、佛須菩提に告げ給はく、『彌勒菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提を得る時も、亦當に(三〇)是の處に於て般若波羅蜜を說くべし。(三一)賢劫中の諸の菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提を得る時も、亦當に是の處に於て般若波羅蜜を說くべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、彌勒菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提を得る時、(三二)何の相(三三)何の因、何の義を用ひて是の般若波羅蜜の義を說くや。』佛須菩提に告げ給はく、『彌勒菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提を得る時、色常に非ず無常に非ず、當に是の如く說法すべし。色苦に非ず樂に非ず、色我に非ず無我に非ず、色淨に非ず不淨に非ず、當に是の如く說法すべし。色縛に非ず解に非ず、當に是の如く說法すべし。受想行識常に非ず無常に非ず乃至縛に非ず解に非ず、當に是の如く說法すべし。色過去に非ず色未來に非ず色現在に非ず、當に是の如く說法すべし。受想行識も亦是の如し、色畢竟淨なり、當に是の如く說法すべし。受想行識畢竟淨なり、當に是の如く說法すべし。乃至一切智畢竟淨なり、當に是の如く說法すべし。

(三四)須菩提佛に白して言さく、『世尊、(三五)是の般若波羅蜜清淨なりや。』佛言はく、(三六)『色清淨なる

(三〇)是の處。耆闍崛山を指す。

(三一)賢劫。或は賢聖劫と云ふ、小乘には五佛出世と說くことあるも、大乘には現在の千佛次第して出世する時を云ふ。

(三二)何の相。非常非無常等の無相。

(三三)何の因。何の義。畢竟淨の故に因とし、清淨を義とす。前に廣說する所の如し。

(三四)般若清淨の義を明かにす。

(三五)須菩提の意、般若の第一清淨を讚するに在り。

(三六)佛更にその義を示し、因果相似の故に色淨なれば般若も淨なりとす。

が故に般若波羅蜜清淨なり。受想行識清淨なるが故に般若波羅蜜清淨なり。』『世尊、云何が色清淨なるが故に般若波羅蜜清淨なるや。云何が受想行識淸淨なるが故に般若波羅蜜清淨なるや。』佛言はく、『若し色〔三七〕不生不滅不垢不淨ならば、是を色清淨と名く。受想行識不生不滅不垢不淨ならば、是を受想行識清淨と名く。復次に須菩提、虛空清淨なるが故に般若波羅蜜清淨なり。』『世尊、云何が虛空清淨なるが故に般若波羅蜜清淨なるや。』佛言はく、『虛空不生不滅なるが故に清淨なり。般若波羅蜜も亦是の如し。復次に須菩提、色不汚なるが故に般若波羅蜜清淨なり。受想行識不汚なるが故に般若波羅蜜清淨なり。』『世尊、云何が色不汚なるが故に般若波羅蜜清淨なるや、受想行識不汚なるが故に般若波羅蜜清淨なるや。』佛言はく、『虛空汚すべからざるが故に虛空清淨なるが如し。』『世尊、云何が虛空不可汚の故に虛空清淨なるが如くなるや。』佛言はく、『虛空〔三八〕不可取なるが故に虛空清淨なり、虛空清淨なるが故に般若波羅蜜清淨なり。復次に須菩提、虛空可說なるが故に般若波羅蜜清淨なり。』『世尊、云何が虛空可說なるが故に般若波羅蜜清淨なるや。』佛言はく、『虛空中に〔三九〕一聲出づるに因る。〔四〇〕般若波羅蜜も亦虛空可說の如きが故に清淨なり。須菩提、虛空不可說な

〔三七〕不生等。業因緣を失はずして、諸法生相の定實なるものを得ざるを不生不滅とし、常に汚染せざるを不垢不淨とす。

〔三八〕不可取。無色無形にして取るべからざれば汚すべからず、般若も邪見汚す能はず、惡事壞する能はず。

〔三九〕一聲。山谷の響と口中の聲倶に空より發す。二聲倶に不實なるも、聲を實とし響を虛とす。

〔四〇〕般若……可說。十二部經廣說するが如きを云ふ。

るが故に般若波羅蜜清淨なり。』『世尊、云何が虚空不可説なるが故に般若波羅蜜清淨なるや。』佛言はく、『虚空(四一)無可説の如きが故に般若波羅蜜清淨なり。復次に虚空不可得の如きが故に般若波羅蜜清淨なり。』『世尊、云何が虚空不可得の如きが故に般若波羅蜜清淨なるや。』佛言はく、『虚空所得の相無きが如く、般若波羅蜜も亦虚空無所得の如くなるが故に清淨なり。復次に須菩提、一切法不生不滅不垢不淨なるが故に般若波羅蜜清淨なり。』『世尊、云何が一切法不生不滅不垢不淨なるが故に般若波羅蜜清淨なるや。』佛言はく、『一切法畢竟清淨なるが故に般若波羅蜜清淨なり。』

(四二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し善男子善女人是の般若波羅蜜を受持し親近し正憶念する者、終に眼を病まず、耳鼻舌身も亦終に病まず、(四三)身形殘なく亦衰老せず、終に横死せず、無數百千萬諸天四天王天乃至淨居諸天悉く皆隨從して聽受す。(四四)六齋日、月の八日二十三日十四日二十九日十五日三十日諸天衆會す。善男子善女人の法師と爲る者、在所に般若波羅蜜を説く處に、皆悉く來集す。是の善男子善女人は大衆中に在りて是の般若波羅蜜を説き、無量無邊阿僧祇不可思議不可稱量の福德を得。』佛須菩提に告げ給ふ、『是の如し是の如し、是の善男子善女

【四一】無可説。空無作にして一切の音響を離るゝが如し、第一義畢竟空は言説を離る。
【四二】受持般若の別益を明す。以下大論第六十五。
【四三】身形殘。根壞傷損せる不具なり。
【四四】六齋日。月の六日本文の如し、大論云ふ、これ惡日にして人に衰凶あり、受戒齋施せば惡鬼便を得ずと。但元と布薩の日にて小月は八日十四日二十三日廿九日、大月は八日十五日廿三日三十日なるを合して六齋日とせるに至れるなり。

人、若し六齋日、月の八日二十三日十四日二十九日十五日三十日、諸天衆の前に在りて是の般若波羅蜜の義を說かば、是の善男子善女人は無量無邊阿僧祇不可思議不可稱量の福德を得。何を以ての故に、須菩提、般若波羅蜜は是れ大珍寶なり。何等か是れ大珍寶なるや。是の般若波羅蜜は(四五)能く地獄畜生餓鬼及び人中の貧窮を拔き、能く刹利大姓婆羅門大姓居士大家を與へ、能く四天王天處乃至非有想非無想處を與へ、能く須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提を與ふ。何を以ての故に、是の般若波羅蜜の中に十善道四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を廣說し、內空乃至無法有法空を廣說し、佛の十力乃至一切種智を廣說す。是の中より學して刹利大姓・婆羅門大姓・居士大家に出生し、四天王天三十三天・夜摩天・兜率陀天・化樂天・他化自在天・梵身天・梵輔天・梵衆天・大梵天・光天・少光天・無量光天・光音天・淨天・少淨天・無量淨天・徧淨天・(四六)阿那婆迦天・得福天・廣果天・無想天・(四七)阿浮訶那天・不熱天・快見天・妙見天・阿迦尼吒天・虛空無邊處天・識無邊處天・無所有處天・非有想非無想處に出生し、是の法の中に學して須陀洹果・斯陀含果・阿那含果・阿羅漢果を得、辟支佛道を得、阿耨多羅三藐三菩提を得ればなり。是を以ての故に須菩提、般若波羅蜜を名けて大珍寶と爲す。珍寶波羅蜜中、法の若は生若は滅、若は垢若は淨若は取、若は捨を得可き有る無し。珍寶波羅蜜も亦、法

【四五】拔苦與樂の慈悲利益あることを示す。

【四六】阿那婆迦天(Anabhraka)。第四禪の初天、無雲と譯す。

【四七】阿浮訶那天(Avṛha)。五淨居の一、無煩と譯す。

の若は善若は不善、若は世間若は出世間、若は有漏若は無漏、若は有爲若は無爲有る無し。是を以ての故に、須菩提、是を無所得珍寶波羅蜜と名く。須菩提、是の珍寶波羅蜜法の能く染汙するもの有る無し。何を以ての故に、所用の染法不可得なるが故に。須菩提、是を以ての故に無染珍寶波羅蜜と名く。須菩提、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、亦(四八)是の如く知らず、亦是の如く分別せず、亦是の如く得可からず、亦是の如く戲論せず。是を能く般若波羅蜜を修行すと爲す。亦能く諸佛を禮覲して一佛國より一佛國に至り、諸佛を供養し恭敬し尊重し讃歎す。諸佛刹に遊びて衆生を成就し佛國土を淨む。須菩提、是の般若波羅蜜諸法に於て(四九)力有ること無く力に非ざること無し。亦受無く亦與無く、不生不滅不垢不淨不増不減なり。是の般若波羅蜜は亦過去に非ず未來に非ず現在に非ず、欲界を捨てず欲界に住せず、色界を捨てず色界に住せず、無色界を捨てず無色界に住せず。是の般若波羅蜜は檀那波羅蜜を與へず亦捨てず、尸羅波羅蜜を與へず亦捨てず、羼提波羅蜜を與へず亦捨てず、毗梨耶波羅蜜を與へず亦捨てず、禪那波羅蜜を與へず亦捨てず、般若波羅蜜を與へず亦捨てず、內空を與へず亦捨てず、乃至無法有法空を與へず亦捨てず、四念處を與へず亦捨てず、乃至八聖道分を與へず亦捨てず、佛の十力を與へず亦捨てず、乃至十八不共法を與へず亦捨てず、須陀洹果を與へず亦捨てず、乃至阿羅漢果を與へず亦捨てず、辟支佛道を與へず亦捨てず、乃至一切智を與

【四八】是の如く知らず等。般若の相を取らず著せず分別せず、定相得べからざれば法愛なく、戲論を斷ずるを云ふ。

【四九】力有ること無く等。定相なければ無力、實相能く降魔成道すれば力に非ること無し。

へず亦捨てず。是の般若波羅蜜は阿羅漢法を與へず凡人法法を捨てず、辟支佛法を與へず阿羅漢法を捨てず、佛法を與へず辟支佛法を捨てず。是の般若波羅蜜は亦無爲法を與へず有爲法を捨てず。何を以ての故に。(五〇)若は諸佛有るも若は諸佛無きも、是の諸の法相常住にして不異なり、法相法住法位常住にして不謬不失なるが故に。(五一)爾の時、諸天子虚空中に立て大音聲を發し、踊躍歡喜し、(五二)漚鉢羅華波頭摩華拘物頭華分陀利華を以て、而して佛の上に散じ、是の如きの言を作す、「我等閻浮提に於いて(五三)第二の法輪轉を見る」と、是の中に無量百千の天子無生法忍を得。佛須菩提に告げ給はく、『是の法輪轉(五四)第一轉に非ず第二轉に非ず、是の般若波羅蜜(五五)轉を爲さず還を爲さゞるが故に出づ。(五六)無法有法空なるが故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が無法有法空なるが故に、般若波羅蜜轉を爲さず還を爲さゞるが故に出づるや。』佛言はく、(五七)『般若波羅蜜

【五〇】有佛無佛法相常然を明す。特に常無常を分別せば實相に異り錯謬に陷る。

【五一】諸天讃じて第二法輪とし、無相に轉還なきを明す。

【五二】漚鉢羅(Utpala)、青蓮と譯す。波頭摩(Padma)。蓮華と譯す。拘物頭(Kumuda)。黄蓮と譯す。分陀利(Puṇḍarīka)。白蓮と譯す。

【五三】第二の法輪轉。鹿野苑の初轉法輪に對し、般若の説法に無量諸天無生法忍を得たるを云ふ。

【五四】第一轉に非ず等。轉法輪も果報涅槃も畢竟空なるが故に定實法輪の思想を破す。

【五五】轉を爲さず還を爲さず。世間の生法を轉とし、滅法を還とす。無起無作の故に轉なく還なしとす。

【五六】無法空の故に還を爲さず、有法空の故に轉を爲さゞるなり。

【五七】佛空を以て答ふるは實は有空亦有亦空非有非空の四門著すれば皆邪なり、著せざれば四皆正憶念なり。無法有法空は非有非空を破するに在るも、前三句を以て破れば尚涅槃に執す、故に今自相空を以て答ふるなり。

般若波羅蜜相空なり、乃至檀那波羅蜜檀那波羅蜜相空なり、內空內空相空なり、乃至無法有法空無法有法空相空なり、四念處四念處相空なり、乃至八聖道分八聖分道相空なり、佛の十力佛の十力相空なり、乃至十八不共法十八不共法相空なり、須陀洹果須陀洹果相空なり、斯陀含果斯陀含果相空なり、阿那含果阿那含果相空なり、阿羅漢果阿羅漢果相空なり、辟支佛道辟支佛道相空なり、一切種智一切種智相空なり。』須菩提佛に白して言さく『世尊、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜は、是れ摩訶波羅蜜なり。何を以ての故に、一切法自性空なりと雖も、而も諸の菩薩摩訶薩般若波羅蜜に因りて阿耨多羅三藐三菩提を得、亦法の轉法輪を得可きものなく、亦法の轉ず可きもの無く、亦法の還る可きもの無し、是の般若波羅蜜中に、亦法の見る可きものも有ること無し。何を以ての故に、是の法得可からず、若は轉若は還一切法畢竟不生なるが故に。何を以ての故に、是の空相轉ずること能はず還ること能はず、無相相轉ずること能はず還ること能はず、無作の相轉ずること能はず還ること能はず、若し能く是の如く般若波羅蜜を說き、(五八)教照し(五九)開示し分別し(六〇)顯現し解釋し淺易にし、能く是の如く敎ふる者有らば、是を淸淨にして般若波羅蜜を說くと名く。(六一)亦說者無く亦受者無く亦證者無し、若し說無く受無く

【五八】教照。或は教詔に作る、論に照は智慧の明を以て照らして知らしむることとす。
【五九】開示。般若の門を開き道非道を示す。
【六〇】顯現。機に對し讃毀して解を與ふるを以て說者その佛意を顯すなり。
【六一】實相空にして無說なれば受者なし、無受なれば得果し證する者なし、無證なれば煩惱するものなし、無滅なれば福田もなし。
【六二】畢定福田。有餘涅槃をいふ。諸法無餘涅槃に同じきを畢定と云ふ。

證なくば亦滅者無し、是の說法中(六二)亦畢定福田無し。

(一)百波羅蜜徧歎品第四十四

(二)爾の時、慧命須菩提佛に白して言さく、(一)『世尊、(三)無邊波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『虚空の如く無邊なるが故に。』(二)『世尊、(四)等波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『諸法等しきが故に。』(三)『世尊、(五)離波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『畢竟空なるが故に。』(四)『世尊、(六)不壞波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不可得なるが故に。』(五)『世尊、(七)無彼岸波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『(八)無名無身なるが故に。』(六)『世尊、(九)空種波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『入出息不可得なるが故に。』(七)『世尊、(一〇)不可說波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『覺觀不可得

【一】品目 麗本單に遍歎品、丹本百波羅蜜品、大論諸波羅蜜品に作る。前品佛大珍寶波羅蜜の義を說くを以て須菩提も讃じて大度とせり、今品更に種種法門より般若を觀て讃歎し、佛一々その義を示す、これ偏歎品と名づくる所以、經に九十一波羅蜜を列ね、殆ど百に近し、諸波羅蜜又は百波羅蜜と名づくる所以なり。

【二】須菩提無邊等の義を讃す、此に列ぬる所十七。

【三】無邊。義廣く全品に通ずるも、別しては常無常等の邊を離れ、邊際なく虛空の如きを云ふ。

【四】等。法忍を得て諸法平等を觀る。

【五】離。諸煩惱諸法を離る。

【六】不壞。定實の法相を取著せざるが故に難者破壞する能はず。

【七】無彼岸。此岸の生死を離れ煩惱の變河を度り涅槃に至るべしとし彼岸を執する行者あり故に般若は無彼岸と云ふ。

【八】無名無身。涅槃の名色を離る、を云ふ。

【九】空種。虛空なり、空若し實在せば入出息を得べきも、念々生滅して息得べからず、空得べからざるを空種波羅蜜と云ふ。

【一〇】不可說。法空實なれば覺觀尋伺なし、故に言說なきを云ふ。

なるが故に。』(八)『世尊、(一一)無名波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『受想行識不可得なるが故に。』(九)『世尊、(一三)不去波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不來なるが故に。』(一〇)『世尊、(一二)無移波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不可伏なるが故に。』(一一)『世尊、(一四)盡波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法畢竟盡なるが故に。』(一二)『世尊、不生波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不滅なるが故に。』(一三)『世尊、不滅波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不生なるが故に。』(一四)『世尊、(一五)無作波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『作者不可得なるが故に。』(一五)『世尊、無知波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『知者不可得なるが故に。』(一六)『世尊、(一六)不到波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『生死不可得なるが故に。』(一七)『世尊、(一七)不失波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不失なるが故に。』(一八)(一八)『世尊、夢波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『乃至夢中所見不可得なるが故に。』(一九)『世

【一一】無名。名は色に對する心法なり、般若を慧とせて名に屬するも色を離れて受想等不可得なれば無名とす。
【一三】不去。一切法不來不去なるを不去波羅蜜と名く。
【一二】無移。般若には常住の法藏にして人天の代破することなきを云ふ。
【一四】盡。三世不盡にして盡不可得なるを畢竟盡として盡波羅蜜と云ふ。
【一五】無作。作は衆生作と法作となり。生物的と自然的なり。生空にして作者なく、法は鈍くして作相なし、故に無作とす。
【一六】不到。空慧眼より觀れば生死不可得にして後世到る處なきを云ふ。
【一七】不失。實相を離るれば諸法皆失す、般若に依て失はれざるなり。
【一八】以下廿六波羅蜜多く染法の不實不可得に就て般若を明す。

尊、響波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、(一九)『聞聲者不可得なるが故に。』(二〇)『世尊、影波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、(二〇)『鏡面不可得なるが故に。』(二一)『世尊、燄波羅蜜なり。』佛言はく、(二一)『水流不可得なるが故に。』(二二)『世尊、幻波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、術事不可得なるが故に。』(二三)『世尊、不垢波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『諸の煩惱不可得なるが故に。』(二四)『世尊、(二二)無淨波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、煩惱虛誑なるが故に。』(二五)『世尊、不汙波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、(二三)『處不可得なるが故に。』(二六)『世尊、不戲論波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切の戲論破るゝが故に。』(二七)『世尊、(二四)不念波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切の念破るゝが故に。』(二八)『世尊、(二五)不動波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『法性常住なるが故に。』(二九)『世尊、(二六)無染波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法妄解なるを知るが故に。』(三〇)『世尊、(二七)不起波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法無分別なるが故に。』(三一)『世尊、寂滅波羅

【一九】聞聲者不可得。響を虛とし聲を實とするも、聲も聞者も不可得にして響の虛なるに同じ。

【二〇】鏡面。影は虛にして面像と鏡とは實なりとするも、實は不可得なり。

【二一】水流等。陽燄に日光と風塵とは實とするも水流の不可得なるが如し。

【二二】淨は煩惱なきなり。煩惱虛誑なれば淨の淨とすべきものなきは無垢に同じ。

【二三】處。六根六境等の諸煩惱の依緣する處をいふ。

【二四】不念。諸法空にして憶なく念想なきを云ふ。

【二五】不動。法性に住すれば議論に動かされず、煩惱に覆はれず、心沮喪憂惱せざるなり。

【二六】無染。愛染なきは勿論妄解の一切法を離るゝなり。

【二七】不起。一切法に分別なければ惑なく業なく後世生起せざるを云ふ。

蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法相不可得なるが故に。』(三二)『世尊、(二八)無欲波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『欲不可得なるが故に。』(三三)『世尊、無瞋波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『瞋恚不實なるが故に。』(三四)『世尊、無癡波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『無明黑闇(二九)滅なるが故に。』(三五)『世尊、無煩惱波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『分別憶想虛妄なるが故に。』(三六)『世尊、無衆生波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『衆生無所有なるが故に。』(三七)『世尊、(三〇)無斷波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『諸法不起なるが故に。』(三八)『世尊、(三一)無二邊波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『離二邊なるが故に。』(三九)『世尊、(三二)不破波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不相離なるが故に。』(四〇)『世尊、(三三)不取波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『過聲聞辟支佛地なるが故に。』(四一)『世尊、(三四)不分別波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『諸の妄想不可得なるが故に。』(四二)『世尊、(三五)無量波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『諸の法量不可得なるが故に。』(四三)『世尊、虛空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法無所有なるが故に。』

【二八】無欲。欲を離れたるにあらず、欲本來不可得なる故に欲なし、無瞋等これに例して知るべし。

【二九】滅なるが故に。本來無なるを云ふ斷盡するが故にあらず。

【三〇】無斷。諸法不起無作なれば自然に斷す、斷すべき斷なし。

【三一】無二邊。苦樂有無、常無常等、無量の二邊本來無なるを云ふ。

【三二】不破。麗本不壞に作る、不壞波羅蜜は前に第四に擧げたり。今は一切法定異相なく不離なり、一切法の實相これ般若なれば不破とす。

【三三】不取。一切法を取らざるが故に二乘解脫の淨法も超過して取らず。

【三四】不分別。分別すべき妄想本來無なるを云ふ。

【三五】無量。法不可得なれば法の量も不可得なるを云ふ。廣大量り難きのみにあらず。

(三六)(四四)『世尊、(三七)無常波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、(三八)『一切法破壞なるが故に。』(四五)『世尊、苦波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法苦惱相なるが故に。』(四六)『世尊、無我波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不著なるが故に。』(四七)『世尊、空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不可得なるが故に。』(四八)『世尊、無相波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不生なるが故に。』(四九)『世尊、內空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『內法不可得なるが故に。』(五〇)『世尊、外空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『外法不可得なるが故に。』(五一)『世尊、內外空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『內外法不可得なるが故に。』(五二)『世尊、空空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『空空法不可得なるが故に。』(五三)『世尊、大空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不可得なるが故に。』(五四)『世尊、第一義空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『涅槃不可得なるが故に。』(五五)『世尊、有爲空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『有爲法不可得なるが故に。』(五六)『世尊、無爲空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『無爲法不可得なるが故に。』(五七)『世尊、畢竟空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『諸法畢竟不可得なるが故に。』(五八)『世尊、無始空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『諸法無始不可得なるが故に。』(五九)『世尊、散空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『散法不可得な

【三六】以下四十八波羅蜜諸出世間淨法に就て明す。

【三七】無常。般若に無常觀ありて無常波羅蜜と云ふにあらず一切法無常なればなり。以下例して知るべし。

【三八】一切法破壞、有爲を離れて無爲なし、一切破壞と說く。

るが故に。』(六〇)『世尊、性空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『有爲無爲性不可得なるが故に。』(六一)『世尊、諸法空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不可得なるが故に。』(六二)(三九)『世尊、無所得空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『無所有なるが故に。』(六三)『世尊、自相空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『諸法自相離なるが故に。』(六四)『世尊、無法空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『無法不可得なるが故に。』(六五)『世尊、有法空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『有法不可得なるが故に。』(六六)『世尊、無法有法空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『無法有法不可得なるが故に。』(六七)『世尊、(四〇)念處波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『身受心法不可得なるが故に。』(六八)『世尊、正勤波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『善不善法不可得なるが故に。』(六九)『世尊、如意足波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『四如意足不可得なるが故に。』(七〇)『世尊、根波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『五根不可得なるが故に。』(七一)『世尊、力波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『五力不可得なるが故に。』(七二)『世尊、覺波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『七覺分不可得なるが故に。』(七三)『世尊、道波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『八聖道分不可得なるが故に。』(七四)『世尊、無作波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『無作不可得なるが故に。』(七五)『世尊、(四一)

【三九】大論にはこの無所得空の一節なし。

【四〇】念處波羅蜜。身受心法の四法縁處本來不可得なるを云ふ。正勤以下般若に至る皆同意なり。

【四一】空波羅蜜。これ前の無作、後の無相と倶に三解脱門に就て列ぬ。前の四十七の空、四十八の無相は聖行觀として擧ぐるなり。

空波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『空相不可得なるが故に。』(七六)『世尊、無相波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『寂滅相不可得なるが故に。』(七七)『世尊、背捨波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『八背捨不可得なるが故に。』(七八)『世尊、定波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『九次第定不可得なるが故に。』(七九)『世尊、檀那波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『慳貪不可得なるが故に。』(八〇)『世尊、尸羅波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『破戒不可得なるが故に。』(八一)『世尊、羼提波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『忍不忍不可得なるが故に。』(八二)『世尊、毗梨耶波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『懈怠精進不可得なるが故に。』(八三)『世尊、禪那波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『定亂不可得なるが故に。』(八四)『世尊、(四二)般若波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『癡慧不可得なるが故に。』(八五)『世尊、(四三)十力波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法不可伏なるが故に。』(八六)『世尊、四無所畏波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、(四四)『道種智不沒なるが故に。』(八七)『世尊、(四五)無礙智波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切諸法無障無礙なるが故に。』(八八)『世尊、(四六)佛法波羅蜜是れ般若波羅蜜

【四二】般若を以て般若を讃ずるは般若に常住のものと五度と共行せる動的のものとあり。須菩提は動的の有用般若が無明を破し智慧を與ふるを讃し、佛は常住に就て癡も慧も不可得なりとす。

【四三】十力。般若を行じて菩薩の十力を得るも、是を以て十力と云ふにあらず、本來一切伏破されざれば十力波羅蜜と云ふなり。

【四四】道種智。衆生の涅槃を得る道を明かにする法眼を云ふ。この智増益して沒せず、故に無畏なり。

【四五】無礙智。獨り四無礙のみならず一切實相に合して無礙なるを云ふ。

【四六】佛法。佛の十力四無畏四無礙大慈大悲等を云ふ。

なり。』佛言はく、『過一切法なるが故に。』(八九)『世尊、(四七)如實說波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切語如實なるが故に。』(九〇)『世尊、(四八)自然波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、『一切法中自在なるが故に。』(九一)『世尊、(四九)佛波羅蜜是れ般若波羅蜜なり。』佛言はく、(五〇)『知一切法一切種智なるが故に。』

【四七】如實說。多陀阿伽陀波羅蜜を云ふ。或は如來、或は如實知と云ふ。

【四八】自然。佛を云ふ。後身自然に作佛すればなり。佛自在力を成ずるもの般若なればなり。

【四九】佛。如來の覺知說化なり。

【五〇】知一切等。諸法の平等差別を知了するを云ふ。

巻の㈠第十三

㈡經耳聞持品第四十五

㈢爾の時釋提桓因是の念を作す、若し善男子善女人般若波羅蜜經を聞く耳を得たる者も、是の人前世に佛に於いて功德を作し㈣善知識と相隨ふ、何に況んや受持し親近し讀誦し正憶念し說の如く行ぜんをや。當に知るべし是の善男子善女人多く諸佛に親近し、能く聽受し親近し讀誦し、乃至正憶念し說の如く修行し、能く問ひ能く答ふることを得と。當に知るべし是の善男子善女人前世に於いて多く諸佛に供養し親近せるが故に、是の深般若波羅蜜を聞きて驚かず怖かず畏れずと。當に知るべし是の人亦無量億劫に於いて檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜をも行ぜりと。爾の時舍利弗佛に白して言さく、「世尊、若し善男子善女人有りて是の深般若波羅蜜を聞きて驚かず怖かず畏れず、聞き已りて受持し親近し說の如く習行せば、當に知るべし是の善男子善女人は阿惟越致菩薩摩訶薩の如しと。何を以ての故に、世尊、是の般若波羅蜜甚深なればなり。若し先世に久しく檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波

【一】首題宋元明本第十五に作る。
【二】品目麗本聞持品、丹本耳品、大論歎信行品に作る。品初般若を聞く耳を得るものの前世功德を說く故に名づく。廣くは般若の聞持信行を讚するなり。以下大論第六十六。
【三】般若を聞持するとせざるとの福罪を辨じ、般若の禮すべき所以を說く。
【四】善知識等。今世に好師同學等に遇ふを云ふ。

羅蜜を行ぜざれば。終に深般若波羅蜜を信解すること能はず。世尊、若し善男子善女人有りて深般若波羅蜜を呰毀する者、當に知るべし是の人前世にも亦深般若波羅蜜を呰毀すと。何を以ての故に。是の善男子善女人深般若波羅蜜を說くを聞く時、信樂有ること無く心淸淨ならざればなり。是の善男子善女人先世に諸佛及び弟子に、云何が應に檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行ずべきか、云何が應に內空を修すべきか、乃至云何が應に無法有法空を修すべきか、云何が應に四念處を修すべきか、乃至云何が應に八聖道分を修すべきか、云何が應に佛の十力を修すべきか、乃至云何が應に十八不共法を修すべきかを難ぜず問はず。』釋提桓因舍利弗に語るらく、『是の深般若波羅蜜、若し善男子善女人有りて久しく檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行ぜず、內空外空乃至無法有法空を行ぜず、四禪四無量心四無色定を行ぜず、四念處乃至八聖道分を行ぜず、佛の十力乃至十八不共法を行ぜず。是の如きの人是の般若波羅蜜を信解せざるも何の怪しむ可きこと有らんや。大德舍利弗、我般若波羅蜜を禮す。般若波羅蜜を禮するは是れ一切智を禮するなり。』佛釋提桓因に告げて言はく、『是の如し是の如し、憍尸迦、般若波羅蜜を禮するは是れ一切智を禮するなり。何を以ての故に。憍尸迦、諸佛の一切智は皆般若波羅蜜より生ず。一切智は卽ち是れ般若波羅蜜なればなり。是を以ての故に、憍尸迦、善男子善女人一切智に住せんと欲せば當に般若波羅蜜に住すべし。若し善男子善女人道種智を生ぜんと欲せば當に般若波羅蜜を習行

すべし。一切の諸の結及び習を斷せんと欲せば當に般若波羅蜜を習行すべし。善男子善女人法輪を轉ぜんと欲せば當に般若波羅蜜を習行すべし。善男子善女人須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果を得んと欲せば當に般若波羅蜜を習行すべし。辟支佛道を得んと欲せば當に般若波羅蜜を習行すべし。衆生に敎へて須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を得しめんと欲せば當に般若波羅蜜を習行すべし。若し善男子善女人衆生に敎へて阿耨多羅三藐三菩提を得しめんと欲し、若し（五）比丘僧を總攝せんと欲せば當に般若波羅蜜を習行すべし。』

（六）釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、云何が般若波羅蜜禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜に住すと名くるや。云何が內空外空乃至無法有法空に住するや。云何が四禪四無量心四無色定五神通に住するや。云何が四念處乃至八聖道分に住するや。云何が佛の十力乃至十八不共法に住するや。世尊菩薩摩訶薩云何が般若波羅蜜乃至檀那波羅蜜、內空乃至十八不共法を習行するや。』佛釋提桓因に語りて言はく、『善い哉善い哉、憍尸迦、汝能く樂みて是の事を問ふ。皆是れ佛神力なり。憍尸迦、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、若し（七）色中に住せざるを般若波羅蜜を習行すと爲す。若し受想行識中に住せざるを般若波羅蜜を習行すと爲す。眼耳鼻舌身意色聲香味觸法眼界乃至意識界も亦是の如し。憍尸迦、若

【五】比丘僧を總攝。大師として大衆を統理するなり。

【六】般若行者の住不住を明す。

【七】色中に住せず等。色の無常苦等の過罪を見るが故に色に住せず、故に般若を習行す。凡夫は色を見て色に著し煩惱を起し般若を失ふ。

し菩薩摩訶薩般若波羅蜜中に住せざるを般若波羅蜜を習すと爲し、禪那波羅蜜中に住せざるを禪那波羅蜜を習すと爲し、毗梨耶波羅蜜中に住せざるを毗梨耶波羅蜜を習すと爲し、羼提波羅蜜中に住せざるを羼提波羅蜜を習すと爲し、尸羅波羅蜜中に住せざるを尸羅波羅蜜を習すと爲し、檀那波羅蜜中に住せざるを檀那波羅蜜を習すと爲す。是の如く憍尸迦、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜中に住せざるを般若波羅蜜を習すと爲すと名く。憍尸迦、內空中に住せざるを內空を習すと爲し、乃至無法有法空中に住せざるを無法有法空を習すと爲し、四禪中に住せざるを四禪を習すと爲し、四無量心中に住せざるを四無量心を習すと爲し、四無色定中に住せざるを四無色定を習すと爲し、五神通中に住せざるを五神通を習すと爲し、四念處中に住せざるを四念處を習すと爲し、乃至八聖道分中に住せざるを八聖道分を習すと爲し、佛の十力中に住せざるを佛の十力を習すと爲し、乃至十八不共法中に住せざるを十八不共法を習すと爲す。何を以ての故に。憍尸迦、是の菩薩(八)色の住す可く習す可き處を得ず、乃至十八不共法に十八不共法の住す可く習す可き處を得ざればなり。復次に憍尸迦、菩薩摩訶薩(九)色を習せず。若し色を(一〇)習せざれば是を色を習すと名く。受想行識乃至十八不共法も亦是の如し。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩(一一)色の前際得可からず、中際得可からず、後際得可からざればなり。乃至十八不共法も

【八】色の住處を得ざれば習處をも得ざるなり。

【九】色を習せず。色に住せざるが故に色相を取らざるを云ふ。

【一〇】習せざれば……習す。取相せざれば……法を正しく觀る、卽ち般若に合するの意。

【一一】色の前際等。念念滅して住せず、三世一切の色不可得な

亦是の如し。』

(一二)舍利弗佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜甚深なり。』佛言はく『(一三)色如甚深なるが故に般若波羅蜜甚深なり。受想行識如甚深なるが故に般若波羅蜜甚深なり。乃至十八不共法も亦是の如し。』舍利弗言さく、『世尊、是の般若波羅蜜(一四)測量す可きこと難し。』佛言はく、『色測量す可きこと難きが故に般若波羅蜜測量す可きこと難し。受想行識乃至十八不共法測量す可きこと難きが故に般若波羅蜜測量す可きこと難し。』『世尊、是の般若波羅蜜無量なり。』佛言はく、『色無量なるが故に般若波羅蜜無量なり。受想行識乃至十八不共法無量なるが故に般若波羅蜜無量なり。』佛舍利弗に告げたまはく(一五)『若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、色甚深を行ぜざるを般若波羅蜜を行ずと爲す。受想行識を行ぜず、乃至十八不共法甚深を行ぜざるを般若波羅蜜を行ずと爲す。何を以ての故に。色甚深相を(一六)色に非ずと爲し、受想行識乃至十八不共法甚深相を十八不共法に非ずと爲せばなり。是の如く(一七)行ぜざるを般若波羅蜜を行ずと爲す。舍利弗、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、色(一八)難測量を行ぜざるを般若波羅

り習し任すべきなし。

【一二】般若を甚深とし、不退菩薩のみに說かるべきを明す。

【一三】色如甚深等。色差別を以て未だ深とせず。如實の故に、甚深なり、般若の慧眼これを觀る故に甚深なり。

【一四】難可測量。甚深にしてその底を盡くさず、無量なり。

【一五】舍利弗般若を甚深無量とし如何に行ずべきやを疑ふ意あり、故にかゝる深無量に縛せらるゝは新學凡夫般若に合せざるが爲なり久行の菩薩には特に甚深とすべきものなしとす、是甚深を行ぜざるなり。

【一六】色に非ず。色の淺深量無量等の相を以て分別せらるゝは眞の色に非ず。

【一七】特に甚深なりと驚歎する所なきを行ぜざるなと云ふ。

【一八】難測量を行す。舍利弗の云へる如く測量し難しと驚歎するを云ふ。

蜜を行ずと爲し、受想行識を行せず、乃至十八不共法難測量を行せざるを般若波羅蜜を行ずと爲す。何を以ての故に。色難測量相を色に非ずと爲し、受想行識乃至十八不共法難測量相を十八不共法に非ずと爲せばなり。舍利弗、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、色無量を行せざるを般若波羅蜜を行ずと爲し、受想行識を行せず、乃至十八不共法無量を行せざるを般若波羅蜜を行ずと爲す。何を以ての故に。色是れ無量相を色に非ずと爲し、受想行識乃至十八不共法無量相を十八不共法に非ずと爲せばなり。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜〔一九〕甚深なり。甚深の相見難く解し難く思量す可からず。應に新發意の菩薩の前に在りて說くべからず。何を以ての故に。新發意の菩薩是の甚深般若波羅蜜を聞かば、或は當に驚怖し、心に疑悔を生じ、是の甚深般若波羅蜜を信ぜず行ぜざるべければなり。當に阿惟越致の菩薩摩訶薩の前に在りて說くべし。是の菩薩是の甚深般若波羅蜜を聞きて驚かず怖かず、心に疑悔せずんば則ち能く信行せん。』釋提桓因舍利弗に問はく、『若し新發意の菩薩摩訶薩の前に在りて是の深般若波羅蜜を說かば、何等の過有りや。』舍利弗釋提桓因に報へて言はく、『憍尸迦、若し新發意の菩薩の前に在りて是の深般若波羅蜜を說かば、或は當に驚怖し〔二〇〕呰毀し信ぜざるべし。是の新發意の菩薩或は是の處に有らんに、若し新發意の菩薩是の深般若波羅蜜を聞き、毀呰し信ぜずんば〔二一〕三惡道の業

【一九】甚深っ舍利弗佛の遮意を聞き取相せざる般若を甚深と云ふ、自から前の甚深と同じからず。

【二〇】呰毀。怖畏疑悔より進みて心定まらば毀謗するに至る。

を種ゑ、是の業の因緣の故に、久久に阿耨多羅三藐三菩提を得難からむ。』〔二二〕釋提桓因舍利弗に問はく、『頗し未受記の菩薩摩訶薩是の深般若波羅蜜を聞き驚かず怖かざる者有りや不や。』舍利弗言はく、『是の如し、憍尸迦、若し菩薩摩訶薩有りて是の深般若波羅蜜を聞きて驚かず怖かずんば、當に知るべし是の菩薩阿耨多羅三藐三菩提の記を受くるを得ること久しからず、〔二三〕一佛兩佛を過ぎざらんと。』佛舍利弗に告げたまはく、『是の如し是の如し。是の菩薩摩訶薩久しく發意して六波羅蜜を行じ、多く諸佛を供養し、是の深般若波羅蜜を聞き、驚かず怖かず畏れず、聞きて卽ち受持し、般若波羅蜜中の所說の如く行ず。』爾の時舍利弗佛に白して言さく、『世尊、我譬喩を說かんと欲す。菩薩道を求むる善男子善女人、〔二四〕夢中に般若波羅蜜を修行し禪定に入り勤精進し忍辱を具足し戒を守護し布施を行じ、內空外空を修行し乃至道場に坐するが如くならんに、當に知るべし〔二五〕是の善男子善女人阿耨多羅三藐三菩提に近しと。何に況んや菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲して〔二六〕覺時に實に般若波羅蜜を修行し禪定に入り勤精進し忍辱を具足し戒を守護し布施を行せんに、而も疾に阿耨多羅三藐三菩提を成じ道場に坐せざらんや。世尊、善男子善女人善根成就して般若波羅蜜

〔二一〕暫く三惡道を舉ぐ、先に地獄品に說く如し、久く生死に住すべし。

〔二二〕受記せざるものにして般若に驚動せず信受する類を明し、種種譬喩を以て說く。

〔二三〕一佛等。受記せざるも驚かざるものは殆ど一二佛を經て受記するものに限る。

〔二四〕夢中等。眞心の充分なる所作ならざるを云ふ。

〔二五〕如夢相似の輕微なる行者すら受記に近し。

〔二六〕覺時。夢に反し實心の充分なる發心を云ふ。

を聞くことを得、受持し乃至說の如く行ぜば、(二七)當に知るべし、是の菩薩摩訶薩久しく發意し善根を種ゑ多く諸佛を供養し善知識と相隨ふと。(二八)是の人能く般若波羅蜜を受持し、乃至正憶念せば、當に知るべし、是の人近く阿耨多羅三藐三菩提の記を受くべしと。當に知るべし、是の善男子善女人阿惟越致の菩薩摩訶薩の如く、阿耨多羅三藐三菩提に於いて動轉せず、能く深般若波羅蜜を得、得已りて能く受持し讀誦し乃至正憶念す。世尊、譬へば人の(二九)百由旬若は二百三百四百由旬の(三〇)曠野險道を過ぎんと欲するが如し。先づ(三一)諸相若は放牧者若は疆界若は園林、是の如き等の諸の相を見るが故に城邑聚落に近きを知る。是の人是の相を見已りて是の念を作す、我が所見の相の如くならば、當に知るべし城邑聚落遠からずと、心に安隱を得、(三二)賊難惡蟲飢渴を畏れず。世尊、菩薩摩訶薩も亦是の如し。若し是の深般若波羅蜜を得、受持し讀誦し乃至正憶念せば、當に知るべし近く阿耨多羅三藐三菩提の記を受くること久しからずと。當に知るべし是の菩薩摩訶薩應に聲聞辟支佛地に墮することを畏るべからず。是の諸先相所謂甚深般若波羅蜜なり。聞くことを得、見ることを得、受持し乃至正憶念することを得るが故に。』佛舍利弗に告げたまはく、『是

【二七】宿因深廣なるを知るべしとす。

【二八】進みて當果已に受記し若くは近く受記すべしと知るべきを說く。

【二九】百由旬等。欲界、色界、無色界と聲聞辟支佛道とに喩ふ。

【三〇】曠野險道は世間に喩ふ。

【三一】諸相。城邑に近き相なれば世間を脫し般若を信ずるに喩ふ。放牧者は能化の道人に、疆界は三乘諸法の分別に、園林は佛道定慧の樂に、聚落は柔順忍に、邑は無生法忍に、城は佛果に喩ふ。

【三二】賊は六十二邪見に、惡蟲は貪瞋煩惱に、飢渴は眞慧と定解脫とを得ざるに喩ふ。

の如し、汝更に樂みて說く者ならば便ち說け。』『世尊、譬へば人（三三）大海を見んと欲し發心して往趣し、樹相を見ず山相を見ざるが如し。是の人未だ大海を見ずと雖も大海遠からざるを知る。何を以ての故に。大海の處平かにして（三四）樹相無く山相無きが故に。是の如く世尊、菩薩摩訶薩是の深般若波羅蜜を聞き受持し乃至正憶念する時、未だ佛前に劫數の記若は百劫千劫百千萬億劫を受けずと雖も、是の菩薩自ら近く阿耨多羅三藐三菩提の記を受くること久しからざるを知る。何を以ての故に。我れ是の深般若波羅蜜を聞き受持し讀誦し乃至正憶念することを得るが故に。世尊、譬へば初春諸樹の（三五）故葉已に墮つるが如し。當に知るべし此樹（三六）新葉華果出在すること久しからず。何を以ての故に。是の諸樹の先相を見るが故に、今久しからずして華葉果出づるを知る。是の時閻浮提の人樹の先相を見て皆悉く歡喜す。世尊、菩薩摩訶薩是の深般若波羅蜜を聞くことを得、受持し讀誦し乃至正憶念し說の如く行ぜば、當に知るべし、是の菩薩善根成就し多く諸佛を供養すと。是の菩薩應に是の念を作すべし、先世の善根の追ふ所、阿耨多羅三藐三菩提に趣くと。是の因緣を以ての故に、是の深般若波羅蜜を見ることを得、聞くことを得、受持し讀誦し乃至正憶念し說の如く行ぜば、是の中の諸天子曾て佛を見る者歡喜し踊躍して是の念を作して言はく、先の諸の菩薩摩訶薩も

【三三】大海。無上菩提、佛果に喩ふ。

【三四】樹相なく山相なき。般若經等に喩ふ。

【三五】故葉已に墮つ。煩惱邪見滅す。

【三六】新葉は般若等の經に、華は不退位に、果は無上道に喩ふ。

亦是の如きの受記先相有り、今是の菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提の記を受くるも亦久しからず。世尊譬へば(三七)母人懷妊するが如し。身體苦重にして行歩便ならず、坐起安からず、眠食轉た少く語言を喜ばず、本習する所を厭ふ、苦痛を受くるが故に。異母人有り其先相を見て當に產生久しからざるを知るべし。菩薩摩訶薩も亦是の如し。善根を種ゑ多く諸佛を供養し、久しく六波羅蜜を行じ、善知識と相隨ひ、善根成就し深般若波羅蜜を聞くことを得、受持し讀誦し乃至正憶念し說の如く行ぜば、諸人も亦是の菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提の記を得ること久しからざるを知る。』佛舍利弗に告げて言まはく、『善い哉善い哉、汝の樂說する所、皆是れ佛力なり。』

(三八)爾の時須菩提佛に白して言さく、『希有なり世尊、諸の多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀善く諸の(三九)菩薩摩訶薩事を(四〇)付す。』佛須菩提に告げたまはく(四一)『諸の菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提心を發し、多くの衆生を安隱にし、無量の衆生をして樂を得しめ、憐愍して諸の天人を饒益するが故に、是の諸の菩薩菩薩道を行ずる時、(四二)四事を以て無量百千の衆生を攝す。所謂(四三)布施愛語利益同事なり。亦十善道を以て衆生を成就す。自ら初禪を行じ、亦他

【三七】母人は行者に、所娠は無上道に、苦重等の產相は般若を習行するに、習する所を厭ふは世欲に著せざるに喩ふ。

【三八】佛意善く菩薩事を付するを明す。

【三九】菩薩摩訶薩事。空觀と善德とを云ふ。

【四〇】付す。佛說を阿難彌勒に付囑するの類なり。

【四一】佛善付の因緣を明す。

【四二】四事。四攝法にして布施等なり。

【四三】布施は財法二施、愛語は隨意愛語と他の愛する所を說くとを云ひ、利益は二世の利を與へ說法救濟し、過患を退治し、同事は他の所行に同じて善に導くを云ふ。

人に教へて初禪を行ぜしめ、乃至自ら非有想非無想處を行じ、亦他人に教へて乃至非有想非無想處を行ぜしめ、自ら檀那波羅蜜を行じ、亦他人に教へて檀那波羅蜜を行ぜしめ、自ら尸羅波羅蜜を行じ、亦他人に教へて尸羅波羅蜜を行ぜしめ、自ら羼提波羅蜜を行じ、亦他人に教へて羼提波羅蜜を行ぜしめ、自ら毗梨耶波羅蜜を行じ、亦他人に教へて毗梨耶波羅蜜を行ぜしめ、自ら禪那波羅蜜を行じ、亦他人に教へて禪那波羅蜜を行ぜしめ、自ら般若波羅蜜を行じ、亦他人に教へて般若波羅蜜を行ぜしむ。是の菩薩般若波羅蜜を得て方便力を以て衆生に教へて須陀洹果を得しめ、自ら〔四四〕內に於て證せず、衆生に教へて斯陀含果阿那含果阿羅漢果を得しめ、自ら內に於て證せず、衆生に教へて辟支佛道を得しめ、自ら內に於いて證せず、自ら六波羅蜜を行じ、亦無量百千萬の諸の菩薩に教へて六波羅蜜を行ぜしめ、自ら阿惟越致地に住し、亦他人をして阿惟越致地に住せしめ、自ら佛國土を淨め、又他人をして佛國土を淨めしめ、自ら衆生を成就し、亦他人をして衆生を成就せしめ、自ら菩薩の神通を得、亦他人をして菩薩の神通を得しめ、自ら陀羅尼門を淨め、亦他人をして陀羅尼門を淨めしめ、自ら樂說辯才を具足し、亦他人をして樂說辯才を具足せしめ、自ら〔四五〕色成就を受け、亦他人をして色成就を受けしめ、自ら三十二相を成就し、亦他人をして三十二相を成就せしめ、自ら〔四六〕童眞地を成就し、亦

【四四】內に於て證せず。福慧力增長せるが故に自證に住せずして他を化す。

【四五】色成就。物質差別を執せざる妙色具足なり。

【四六】童眞地。鳩摩羅伽或は究摩羅浮多と云ふ、初發心より婬欲を斷じて菩薩道を行ずるものなり。

他人をして童眞地を成就せしめ、自ら佛の十力を成就し、亦他人をして佛の十力を成就せしめ、自ら四無所畏を行じ、亦他人をして四無所畏を行ぜしめ、自ら十八不共法を行じ、亦他人に敎へて十八不共法を行ぜしめ、自ら大慈大悲を行じ、亦他人をして大慈大悲を行ぜしめ、自ら一切種智を得、亦他人に敎へて一切種智を得しめ、自ら一切の結使及び習を離れ、亦他人に敎へて一切の結使及び習を離れしめ、自ら法輪を轉じ、亦他人をして法輪を轉ぜしむ。』

(四七)須菩提佛に白して言さく『希有なり世尊、諸の菩薩摩訶薩(四八)大功德を成就す。所謂一切衆生の爲に般若波羅蜜を行じ、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲す。世尊、云何が諸の菩薩摩訶薩般若波羅蜜を具足し修行するや。』佛須菩提に告げたまはく『若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、(四九)色增相を見ず亦滅相を見ず、受想行識增相を見ず亦滅相を見ず、乃至一切種智增相を見ず亦滅相を見ず。諸の菩薩摩訶薩此の時般若波羅蜜を具足す。復次に須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、是れ法此れ非法を見ず、是れ過去法是れ未來現在法を見ず、是れ善法不善法有記法無記法を見ず、是れ有爲法無爲法を見ず、欲界色界無色界を見ず、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を見ず、乃至一切種智を見ず、是の如く菩薩摩訶薩般若波羅蜜を具足し修行す。何を以ての故に。諸法無相なるが故に。諸法空(五〇)欺誑にして

【四七】般若具足を明す。
【四八】大功德。前に說ける自行敎他の德なり。
【四九】色增相等。緣生畢竟空なれば諸法に生滅增減を見ず。
【五〇】欺誑。諸法有相の眞實ならざるを云ふ。

〔五一〕堅固なる無く、〔五二〕覺者なく壽命者無し。』須菩提言さく『世尊、世尊の〔五三〕所說不可思議なり。』佛須菩提に告げたまはく『色不可思議なるが故に所說不可思議なり。受想行識不可思議なるが故に所說不可思議なり。六波羅蜜不可思議なるが故に所說不可思議なり。乃至一切種智不可思議なるが故に所說不可思議なり。須菩提、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、色は是れ不可思議、受想行識は是れ不可思議なりと知り、乃至一切種智は是れ不可思議なりと知れば、是の菩薩則ち般若波羅蜜を具足すること能はず。』

〔五四〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の深般若波羅蜜、誰か當に信解すべき者ぞ。』佛言はく、『若し菩薩摩訶薩有りて、久しく六波羅蜜を行じ善根を種ゑ、多く諸佛に親近し供養し善知識と相隨ふ。是の菩薩能く深般若波羅蜜を信解す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩久しく六波羅蜜を行じ善根を種ゑ、多く諸佛に親近し供養し善知識と相隨ふや。』佛言はく、『若し菩薩摩訶薩〔五五〕色を分別せず、〔五六〕色相を分別せず、〔五七〕色性を分別せず、受想行識を分別せず、識相を分別せず識性を分別せず、眼耳鼻舌身意、色聲香味觸法、眼界乃至意識界も亦是の如く、欲界色界無色界を分別せ

【五一】堅固なる無く。無常無實なるを云ふ。

【五二】覺者無く。苦樂を受くる衆生なきを云ふ。

【五三】所說の般若不可思議なるは五蘊六度諸法不可思議なればなり。故に佛は不可思議相にも住すべからざるを說く。

【五四】般若を信解する者を明す。

【五五】色を分別せず。色の四大若くは四大所造色等を分別せざるなり。

【五六】色相。可見可聞好醜長短等。

【五七】色性。色の常性、四大の堅濕軟動等の性を云ふ。

ず、三界相性を分別せず、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、內空乃至無法有法空、四念處乃至八聖道分、佛の十力乃至十八不共法を分別せず、檀乃至十八不共法相を分別せず、十八不共法性を分別せず、道種智を分別せず、道種智相性を分別せず、一切種智を分別せず、一切種智相を分別せず、一切種智性を分別せず。何を以ての故に、須菩提、色不可思議、受想行識不可思議、乃至一切種智不可思議なればなり。是の如く須菩提、是れを菩薩摩訶薩久しく六波羅蜜を行じ善根を種ゑ、多く諸佛に親近し供養し善知識と相隨ふと名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、色(五八)甚深なるが故に般若波羅蜜甚深なり。受想行識甚深乃至一切種智甚深なるが故に般若波羅蜜甚深なり。世尊、是の般若波羅蜜は(五九)珍寶聚なり。須陀洹果寶有るが故に、斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提寶有るが故に、四禪四無量心四無色定五神通四念處乃至八聖道分、佛の十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法一切智一切種智寶有るが故に。世尊、是の般若波羅蜜は(六〇)清淨聚なり。色清淨なるが故に般若波羅蜜は清淨聚なり。受想行識清淨乃至一切種智清淨なるが故に般若波羅蜜は清淨聚なり。』(六一)須菩提言さく、『世尊甚だ怪しむべし。是の般若波羅蜜を說く時多く留難有り。』佛言はく、『是の如し、須菩提、是の甚深般若波羅蜜多く留難有り。是の事を以ての故に、善男子善女人若し是の般若

【五八】甚深等。第四十二の歎淨品に說く。

【五九】珍寶。聖果は煩惱を滅し諸願を滿足せしむるが故に。

【六〇】清淨。空にして著せざれば邪過なく正淨なり。

【六一】留難に妨げられざる爲に道に修行すべきを明す。留難とは般若を壞障する邪魔なり。四十七品以下に廣說す。

波羅蜜を書せんと欲する時は應に疾に書すべし。若し讀誦し思惟し說き正憶念し修行する時も、亦應に疾に修行すべし。何を以ての故に。是の甚深般若波羅蜜を、若し書し讀誦し思惟し說き正憶念し修行する時、諸難をして起らしめんと欲せざるが故に。善男子善女人、若し能く一月に書を成せんとせば當に勤めて書すべし。若は二月三月四月五月六月七月、若は一歲に書を成せんとせば、當に勤めて書すべし。讀誦思惟說正憶念修行をば、若し一月に成就することを得、乃至一歲に成就することを得んと欲せば、當に勤めて成就すべし。何を以ての故に。須菩提此の珍寶中多く難の起ることあるが故に。』須菩提言さく、『世尊、此の甚深般若波羅蜜中、惡魔喜んで留難を爲すが故に書せしむることを得ず、讀誦し思惟し說き正憶念し修行せしむることを得ざるや。』佛、須菩提に告げたまはく、『惡魔は是の深般若波羅蜜を留難し、書し讀誦し思惟し說き正憶念し修行することを得ざらしめんと欲すと雖も、亦是の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を書し乃至修行することを破壞すること能はず。』

(六二)爾の時、舍利弗、佛に白して言さく、『世尊、誰の力の故に、惡魔をして菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜を書し、乃至修行するを留難すること能はざらしむるや。』佛言はく、

(六三)『佛力の故に、惡魔は菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜を書し乃至修行するを留難すること能はず。舍利弗、亦是の十方國土現在の諸佛力の故なり。是の諸佛は是の菩薩を擁護し念ずるが故に、魔をして菩薩摩訶薩を留難し、般若波羅蜜を書成就し乃至修行

【六二】佛力により留難されざるを明す。

【六三】佛力。現在釋尊の力。

せざらしむること能はざらしむ。何を以ての故に。十方國土中現在無量無邊阿僧祇の諸佛是の菩薩の深般若波羅蜜を書し乃至修行するを擁護し念ずる、(六四)法應に爾るべく、亦能く留難を作すこと無ければなり。舍利弗、善男子善女人應に是の念を作すべし、我れ是深般若波羅蜜を書し乃至修行するは、皆是れ十方諸佛の力なりと。』舍利弗言さく、『世尊、若し善男子善女人有りて是の深般若波羅蜜を書し乃至修行するは、皆是れ佛力の故ならば、當に是の人は是れ諸佛の護る所なりと知るべきや。』佛言はく、『是の如し是の如し。舍利弗、當に知るべし、若し善男子善女人有りて是の深般若波羅蜜を書し乃至修行するは、皆是れ佛力の故なりと。當に知るべし亦是れ諸佛の護る所なりと。』舍利弗言さく、『世尊、十方現在無量無邊阿僧祇の諸佛皆識り、皆(六五)佛眼を以て是の善男子善女人の深般若波羅蜜を書する時乃至修行する時を見る』佛言はく、『是の如し是の如し。舍利弗、十方現在無量無邊阿僧祇の諸佛皆識り、皆佛眼を以て是の善男子善女人の深般若波羅蜜を書する時乃至修行する時を見る。舍利弗、是の中菩薩道を求むる善男子善女人、若し是の深般若波羅蜜を書し受持し讀誦し正憶念し説の如く修行せば、當に知るべし是の人は阿耨多羅三藐三菩提に近づくこと久しからずと。舍利弗、善男子善女人是の深般若波羅蜜を書し受持し讀誦し乃至正憶念せば、是の人は深般若波羅蜜に於て信解相多く、亦是の深般若波羅蜜を供養し恭敬し尊重し讚歎

【六四】法應に等。諸佛は同道にして般若を母とす、般若行者を護るは當然なり。

【六五】佛眼。これ佛眼所攝の天眼にして能く三世無量の衆生を見る。

し、香華瓔珞乃至旛蓋を以て供養す。舍利弗、諸佛皆識り、皆佛眼を以て是の善男子善女人を見る。是の善男子善女人の供養の功德、當に大利益大果報を得べし。舍利弗、是の善男子善女人は是の供養の功德因緣を以ての故に終に惡道の中に墮せず、乃至阿惟越致地に至るまで終に諸佛を遠離せず。舍利弗、是の善男子善女人は是の善根の因緣の故に。乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで終に六波羅蜜を遠離せず、終に內空乃至無法有法空を遠離せず、終に四念處乃至八聖道分を遠離せず、終に佛の十力乃至阿耨多羅三藐三菩提を遠離せず。

(六六)舍利弗、是の深般若波羅蜜は佛の般涅槃の後、當に(六七)南方國土に至るべし。是の中の比丘比丘尼優婆塞優婆夷は、當に是の深般若波羅蜜を書し、當に受持し讀誦し思惟し說き正憶念し修行すべし。是の善根の因緣を以ての故に、終に惡道の中に墮せず、天上人中の樂を受け、六波羅蜜を增益し、諸佛を供養し恭敬し尊重し讃歎し、漸く聲聞辟支佛佛乘を以て涅槃を得。舍利弗、是の深般若波羅蜜は南方より當に轉じて西方に至るべし。所在の處是の中の比丘比丘尼優婆塞優婆夷は、當に是の深般若波羅蜜を書し、當に受持し讀誦し思惟し說き正憶念し修行すべし。是の善根の因緣を以ての故に、終に惡道の中に墮せず、天上人中の樂を受け、六波羅蜜を增益し、諸佛を供養し恭敬し尊重し讃歎し、漸く聲聞辟支佛佛乘を以て涅槃を得。舍利弗、是の深般若波羅

【六六】滅後般若の流通得益を明す。

【六七】南方等、佛東方に出で經法次第して南西北方に行はるべしとす。これ日月の循行する如く、般若無著にして一處に住せざるを表するも、空法の南方より西方北方に流布せる歷史に照して考ふべきものなり。

蜜は西方より當に轉じて北方に至るべし。所在の處是の中の比丘比丘尼優婆塞優婆夷は、當に是の深般若波羅蜜を書し、當に受持し讀誦し思惟し說き正憶念し修行すべし。是の善根の因緣を以ての故に、終に惡道の中に墮せず、天上人中の樂を受け、六波羅蜜を增益し、諸佛を供養し恭敬し尊重し讚歎し、漸く聲聞辟支佛佛乘を以て而して涅槃を得。舍利弗、是の深般若波羅蜜は是の時北方に當に佛事を作すべし。何を以ての故に。舍利弗、我が法（六八）盛なる時滅相有ること無し。舍利弗、我れ已に念ず、（六九）是の善男子善女人是の深般若波羅蜜を受け乃至修行し、是の善男子善女人能く是の深般若波羅蜜を書し恭敬し供養し尊重し讚歎し華香乃至旛蓋もてせば、舍利弗、是の善男子善女人は此の善根の因緣を以ての故に、終に惡道の中に墮せず、天上人中の樂を受け、六波羅蜜を增益し、諸佛を供養し恭敬し尊重し讚歎し、漸く聲聞辟支佛佛乘を以て而して涅槃を得。何を以ての故に。舍利弗、我れ佛眼を以て是の人を見、我れ亦稱譽し讚歎し、十方國土の中の無量無邊阿僧祇の諸佛も亦佛眼を以て是の人を見、亦稱譽し讚歎すればなり。」舍利弗佛に白して言さく、『世尊、是の深般若波羅蜜は、後時（七〇）當に北方に在りて廣く行はるべきや。』佛言はく、『是の如し是の如し。舍利弗、是の深般若波羅蜜は後時北方に在りて當に廣く行はるべし。舍利弗、後時北方に於て、是の善

【六八】盛なる時。在世佛法興盛にして法滅を見れず　五百歲後正法漸滅す。

【六九】般若を受持憶念修行するは利根人にして、次の書し恭敬し讚歎するは鈍根人なり。

【七〇】北方。特に北方を論するを大論には北方廣大なると山地冷え三毒少く柔軟にして信根有力なるに由るとするも、亦此經北方流布の實際に基くものとも見ゆ。

男子善女人、若は是の深般若波羅蜜を聞き、若は書し受持し讀誦し思惟し說き正憶念し、說の如く修行せば、當に知るべし、是の善男子善女人は久しく大乘心を發し、多く諸佛を供養し善根を種ゑ、久しく善知識と相隨ふ。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、後時北方に當に幾所の善男子善女人の佛道を求むる有りて、深般若波羅蜜を書し乃至說の如く修行すべきや。』佛舍利弗に告げ給はく、『後時北方に多く佛道を求むる善男子善女人有りと雖も、少く是の深般若波羅蜜を聞きて、沒せず驚かず怖かず畏れざるものあるのみ。何を以ての故に。(七一)是の人は多く諸佛に親近し供養し、多く諸佛に諮問すればなり。是の人は必ず能く般若波羅蜜禪那波羅蜜毘黎耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜を具足し、四念處を具足し、乃至十八不共法を具足せん。舍利弗、是の善男子善女人は善根純熟の故に、能く多く衆生を利益し、阿耨多羅三藐三菩提を爲さん。何を以ての故に。我れ今是の善男子善女人の爲に薩婆若に應ずる法を說く。過去の諸佛も亦是の善男子善女人の爲に(七二)薩婆若に應ずる法を說けり。此の因緣を以ての故に、是の人は後に生るる時續いて阿耨多羅三藐三菩提心を得、亦他人の爲に阿耨多羅三藐三菩提の法を說く。是の善男子善女人皆(七三)一心に和合す。魔若は魔民阿耨多羅三藐三菩提心を沮壞すること能はず。何に況んや惡行人深般若波羅蜜を行ずる者を毀呰し、能く其の阿耨多羅三藐三菩提心を壞せんや。舍利弗、是の菩薩道

【七一】是の人。少許の般若の信者を云ふ、般若を信ずるの奇特なるを示す。
【七二】薩婆若に應ずる法。大乘成佛の敎なり。
【七三】一心和合。慳貪嫉妬瞋恚なく譏謗せざれば和合す。四十七品に兩過不和を細說す。

を求むる諸の善男子善女人は是の深般若波羅蜜を聞きて（七四）大法喜法樂を得、亦（七五）多人を善根に立て、阿耨多羅三藐三菩提を爲す。（七六）是の善男子善女人は我が前に於て誓願を立つ。我れ菩薩道を行ずる時、當に無數百千萬億の衆生を度し、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめ、示教利喜し乃至阿惟越致地に受記せしむべしと。我れ其の心を知り、我れ亦隨喜す。是の善男子善女人は亦過去諸佛の前に於ても誓願を立て、我が菩薩道を行ずる時、當に無數百千萬億の衆生を度し、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめ、示教利喜し乃至阿惟越致地に受記せしむべしと。諸の過去佛も亦其の心を知り而して隨喜せり。舍利弗、是の諸の善男子善女人（七七）爲す所の心大、受くる所の色聲香味觸法も亦大、亦能く（七八）大施し、能く大施し已りて大善根を種ゑ、大善根を種ゑ已りて大果報を得、衆生を攝せんが爲の故に身を受け、能く衆生中に於て內外所有の物を捨つ。是の善根の因緣を以て發願して他方國土に生ぜんと欲す。現在の諸佛の深般若波羅蜜を說く處、諸佛の前に於て、是の深般若波羅蜜を聞き已りて、亦彼に於て百千萬億の衆生を示教し利喜し、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしむ。』舍利弗佛に白して言さく、『希有なり世尊、佛は過去未來現在法に於て法として知らざる無く、（七九）法如相として知

【七四】大法喜法樂。久遠來佛法を愛し、信慧力多きが故に般若を聞き、喜樂大にして慈悲を發す。

【七五】多人。多數衆生を敎化するを云ふ。

【七六】諸佛行者の立願を知見し給ふを明す。

【七七】爲す所の心大。行者佛の知見を聞き過去來の願を知り、精進の深心を以て福德を行ふを云ふ。

【七八】大施。疑悔なき大心を以て內外一切を施捨するを云ふ。

【七九】法如相。法性眞如實際の一切を云ふ。

らざる無く、(八〇)衆生の行、事として知らざるなし。今佛は悉く過去の諸佛及び菩薩聲聞を知り、亦今現在十方諸佛國土の菩薩及び聲聞をも知り、亦未來の諸佛及び菩薩聲聞をも知る。世尊、未來世に善男子善女人有りて勤めて六波羅蜜を求め、受持し讀誦し乃至修行せば、得有りや不得有りや。』佛舍利弗に告げたまはく、『若し善男子善女人一心に精進して勤求せば、當に六波羅蜜に應ずる諸經を得べし。』舍利弗佛に白して言さく、『善男子善女人の是の如く勤行する者、當に是れ六波羅蜜に應ずる深經を得べき耶。』佛語りたまはく、『舍利弗、是の善男子善女人は、是の(八一)六波羅蜜に應ずる深經を得。何を以ての故に。善男子善女人は阿耨多羅三藐三菩提の爲の故に、衆生の與めに、説法し示敎し利喜し六波羅蜜に任せしむ。是の因緣を以ての故に、是の善男子善女人は後身に轉生して、易く六波羅蜜に應ずる深經を得、得已りて六波羅蜜に説く所の如く修行し精勤して息まず、乃至佛國土を淨め衆生を成就して阿耨多羅三藐三菩提を得。』

【八〇】衆生の行、機の心所行業果報因緣等。

【八一】六波羅蜜に應ずる深經、般若經等なり。

(一)魔事品第四十六

(二)爾の時慧命須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の善男子善女人は阿耨多羅三藐三菩提心を發し、六波羅蜜を行じ、衆生を成就し佛國土を淨む。佛は已に讃歎して其の功德を說く。世尊、云何が是の善男子善女人は佛道を求めて諸の留難を生ずるや。』佛須菩提に告げたまはく、『樂說辯(三)卽生せざれば、當に知るべし、是れ菩薩の(四)魔事なりと。』須菩提言さく、『世尊、何の因緣の故に、樂說辯卽生せざれば是れ菩薩の魔事なりや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩有りて、般若波羅蜜を行ずる時、六波羅蜜を具足することを難ず。是の因緣を以ての故に、樂說辯卽生せざれば是れ菩薩の魔事なり。復次に須菩提、樂說辯(五)卒に起らば、當に知るべし、亦是れ菩薩の魔事なりと。』『世尊、何の因緣の故に、樂說辯卒に起らば、復是れ魔事なりや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜を行じ樂說法に著す。是の因緣を以ての故に、樂說辯卒に起らば、當に知るべし、是れ菩薩の魔事なりと。復次に須菩提、是の般若波羅蜜經を書する時、(六)偃蹇傲慢なれば、當

【一】魔事とは行者の被ふる留難なり。本品以下これを細說するが故に名づく。大論第六十八卷。

【二】般若の說明書寫讀念等の態度に起る障難を明す。

【三】卽生。速疾に說法を始むるなり。說かざれば聽者は法師の怖畏、不知、若くは過失とし、供養なきため又は聽衆を輕侮するため等の念を生ずるを魔事とす。

【四】魔事。魔は奪命の義にして煩惱、五蘊、死、天子の四ありとす。

【五】卒に起る。濫說するは法に著し憍慢に基き法を輕んずるに至るを以て難とす。

【六】偃蹇。橫臥驕傲なり、我心

に知るべし、是れ菩薩の魔事なりと。復次に須菩提、此の經を書する時、(七)戲笑(八)亂心せば、當に知るべし、是れ菩薩の魔事なりと。復次に須菩提、若し是の經を書する時、輕笑して敬せざれば、當に知るべし、是れ菩薩の魔事なりと。復次に須菩提、若し是の經を書する時、心亂れて定まらざれば、當に知るべし、是れ菩薩の魔事なりと。復次に須菩提、是の經を書する時、(九)各各和合せざれば、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。復次に須菩提、善男子善女人は是の念を爲す、我れ是の(一〇)經中に滋味を得ざれば、卽ち棄捨し去らんと。當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。復次に須菩提、般若波羅蜜を受持し讀誦し說き若は正憶念する時、偃蹇傲慢なれば、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。復次に須菩提、若し般若波羅蜜經を受持する時、親近し正憶念する時、(一一)轉相形笑せば、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。復次に須菩提、若し般若波羅蜜經を受持し讀誦し正憶念し修行する時、共に相輕蔑せば、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。若し般若波羅蜜を受持し讀誦し乃至正憶念する時、心を散亂せば、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。若し般若波羅蜜を受持し讀誦し乃至正憶念する時、心和合せざれば、當に知るべし。是れを菩薩の魔事と爲すと。」須菩提佛に白して言さく、(一二)『世尊、世

憍慢心より法を敬はざるを云ふ。

【七】戲笑するは、輕心瞋心により、敬せざるによる。

【八】亂心。散漫心にて心を一に攝せず。

【九】各各和合せず。前云ふ如き種種因緣皆不和合なり。

【一〇】各品空のみを說き興味なしと云ふを指す。

【一一】轉相形笑。互に笑ふ。前の戲笑に同じ。

【一二】般若の妙味を滋味なしと

せるが故にその因緣を明かにす。

尊は善男子善女人是の念を作す、我れ經中に滋味を得ざれば便ち棄捨し去らん、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと說きたまふ。世尊、何の因緣の故に、菩薩は經中に滋味を得ざれば便ち棄捨し去るや。』佛言はく、『是の菩薩摩訶薩は前世に久しく般若波羅蜜禪那波羅蜜毗黎耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜を行せず。是の人は是の般若波羅蜜を說くを聞きて、便ち座より起ち、是の念を作して言く、我れ般若波羅蜜の中に於いて（一三）記無しと、心淸淨ならず、便ち座より起ち去る。當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何の因緣の故に、（一四）授記を與へざれば、是の般若波羅蜜を說くを聞く時、便ち座より起ち去るや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩未だ（一五）法位の中に入らざれば、諸佛は阿耨多羅三藐三菩提の記を與授せず。復次に須菩提、般若波羅蜜を說くを聞く時、菩薩は是の念を作す、我れ是の中に（一六）名字無しと、心淸淨ならず、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。』須菩提言さく、『何の因緣の故に、是の深般若波羅蜜の中に是の菩薩の名字を說かざるや。』佛言はく、『未受記の菩薩は諸佛名字を說かず。復次に須菩提、是の菩薩摩訶薩は是の念を作す、是の般若波羅蜜の中に我が生處の名字、若は聚落城邑無しと。是の人は般若波羅蜜を聽聞することを欲せず、便ち會中よ

【一三】記無し。新學信薄きが故に佛記を與へざるを怒る。

【一四】授記。或は受記に作る。何時何處に何某として成道すと記說せらるるなり。

【一五】法位。慧眼無生忍を得るを云ふ。

【一六】名字無し。總じて成佛すと云はるるも何某として別說されざるなり。

り起ち去る、是の人(一七)念を起す所の時の如く、念念に一劫を卻き、(一八)甫めて當に更に勤精進して阿耨多羅三藐三菩提を求むべし。

(一九)復次に須菩提、菩薩(二〇)餘經を學して般若波羅蜜經を棄捨せば、終に薩婆若に至ること能はず。善男子善女人は其の根を捨てて而かも枝葉に攀づと爲す。當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ餘經、善男子善女人の學する所、薩婆若に至ること能はざるや。』佛言はく、『是れ聲聞の應に行ずべき所の經、謂ゆる(二一)四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分空無相無作解脫門なり。善男子善女人は是の中に住して、須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果を得、是を聲聞の所行、薩婆若に至ること能はずと名く。是の如きの善男子善女人は、般若波羅蜜を捨てて是の餘經に親近す。何を以ての故に。須菩提(二二)是の般若波羅蜜の中、諸の菩薩摩訶薩を出生し、世間出世間法を成就すればなり。須菩提、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を學する時、亦世間出世間法をも學す。須菩提、譬へば(二三)狗の大家に從ひて食を求めず、反つて作務者に從ひて索むるが如し。是の如く須菩提、當來世に善男子善女人有りて、深般若波羅蜜を捨て而して枝葉に攀ぢ、聲聞辟支佛の應

【一七】念を起す所の時。般若に反する念を起す時の多少に從ひ一念に一劫その罪を償ふ。
【一八】甫めて。辛うじて人身を得るに至りての意。
【一九】般若を捨てて小乘を取るの魔事たるを明す。
【二〇】餘經。小乘三藏等を云ふ。
【二一】四念處等。小乘所說の內容なり、この法般若にも說くも小乘は方便なく自の解脫のみを期する法門なり。
【二二】般若の根本たるを明す、般若は大全にして了義なり。
【二三】狗等。狗は主の爲に守る。主に食を求め、客奴に求むべからず。世出世法を成就せんとせば般若に求むべし。

に行ずべき所の經を取る。當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。須菩提、譬へば人有りて象を見ることを得んと欲し、見已りて反つて其の跡を觀るが如し。須菩提、汝の意に於て云何、是の人を〔三四〕黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』佛言はく、『諸の佛道を求むる善男子善女人も亦復た是の如く、深般若波羅蜜を得て棄捨し去り、聲聞辟支佛の應に行ずべき所の經を取る。須菩提、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。須菩提、譬へば人の大海を見んと欲して、反つて〔三五〕牛跡の水を求め、是の念を爲すが如し、大海の水能く此れと等しきや不やと。須菩提、汝の意に於て云何、是の人を黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』佛言はく、『當來世に佛道を求むる善男子善女人有りて、亦是の如く深般若波羅蜜を得て棄捨し去り、聲聞辟支佛の應に行ずべき所の經を取る。當に知るべし、是も亦菩薩の魔事なりと。須菩提、譬へば工匠、若は工匠の弟子、帝釋の勝殿を擬作せんと欲して、日月の宮殿を揆則とするが如し。須菩提、汝の意に於て云何、是の人を黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』『是の如く須菩提、當來世に福德薄き善男子善女人の佛道を求むる者有りて、是の深般若波羅蜜を得て便ち棄捨し去り、聲聞辟支佛の應に行ずべき所の經中に於て薩婆若を求む。須菩提、汝の意に於て云何、是の人を黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』佛言はく、『當に知るべし、是れ菩薩の魔事なりと。須菩提、譬へば人有りて轉輪聖王を見んと欲し、見て而

〔三四〕黠。智慧聰明なり。
〔三五〕牛跡の水。牛の足跡の水、少水を云ふ。

して識らず、後諸の小國王を見て、其の相貌を取りて、是の如く言ふが如し、轉輪聖王と此れと何ぞ異らんと。須菩提、汝の意に於て云何、是の人を黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』『須菩提、當來世に福德薄き善男子善女人の佛道を求むる者有りて、此の深般若波羅蜜を得て棄捨し去り、聲聞辟支佛の應に行ずべき所の經を取り、持つて薩婆若を求む。須菩提、汝の意に於て云何、是の人を黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』『當に知るべし、是も亦菩薩の魔事なりと。須菩提、譬へば飢人の(二六)百味の食を得て、棄捨し去りて、反つて(二七)六十日穀飯を食ふが如し。須菩提、汝の意に於て云何、是の人を黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』佛言はく、『當來世に佛道を求むる善男子善女人有りて、深般若波羅蜜を聞くことを得て棄捨し去り、聲聞辟支佛の應に行ずべき所の經を取り、持つて薩婆若を求む。汝の意に於て云何、是の人を黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』『當に知るべし、是も亦菩薩の魔事なりと。須菩提、譬へば人の(二八)無價摩尼珠を得て、反りて持つて水精珠に比するが如し。須菩提、汝の意に於て云何、是の人を黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』佛言はく、『當來世に佛道を求むる善男子善女人有りて、深般若波羅蜜を聞くことを得て棄捨し去り、聲聞辟支佛の應に行ずべき所の經を取りて、持つて薩婆若を求む。是の人を黠と爲すや不や。』須菩提言さく、『不黠と爲す。』

【二六】百味。上妙の美膳を云ふ。
【二七】六十日穀。玄奘は稴稗と譯す。六十日程にて早熟する米の一種にして味粗なり。
【二八】無價。價値量るべからざる無上なるを云ふ。

『當に知るべし、是れも亦菩薩の魔事なりと。

（二九）復次に須菩提、是の佛道を求むる善男子善女人、是の般若波羅蜜を書する時、樂說すること（三〇）法事の如くならずば、般若波羅蜜を書成することを得ず。所謂色聲香味觸法を樂說し、持戒禪定無色定を樂說し、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜を樂說し、四念處乃至阿耨多羅三藐三菩提を樂說す。何を以ての故に、須菩提、是の般若波羅蜜の中に樂說相無ければなり。須菩提、般若波羅蜜は不可思議相なり。般若波羅蜜は不生不滅相なり。般若波羅蜜は不垢不淨相なり。般若波羅蜜は不亂不散相なり。般若波羅蜜は無說無示相なり。般若波羅蜜は無言無義相なり。般若波羅蜜は無所得相なり。何を以ての故に、須菩提、般若波羅蜜の中に是の諸法無ければなり。須菩提、若し善男子善女人の菩薩道を求むる者有りて、是の般若波羅蜜經を書する時、是の（三一）諸法を以て心を散亂せば、當に知るべし、是も亦菩薩の魔事なりと。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜は書す可きや。』佛言はく、『書す可からず。何を以ての故に。般若波羅蜜は自性無きが故に。禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜乃至一切種智自性無きが故に。若し自性無ければ、是を名けて法と爲さず。無法、無法を書すること能はざるなり。須菩提、若し菩薩道を求むる善男子善女人、是の念を作し、（三二）無法は是れ深

【二九】般若書寫讀誦修業の魔事を明す。

【三〇】法事の如くならず、般若實相の如くならず、定相を執するを云ふ。

【三一】諸法。前の色聲、戒定、六度等の法を云ふ。

【三二】無法。定相なく書すべからざる無法の故に般若を書成す

般若波羅蜜なりとせば、當に知るべし、卽ち是れ菩薩の魔事なりと。』『世尊、是の菩薩道を求むる善男子善女人は、字を用て般若波羅蜜を書し、自ら我れ是の般若波羅蜜を書すと念じ、字を以て般若波羅蜜に著す。當に知るべし、是も亦菩薩の魔事なりと。何を以ての故に。世尊、是の般若波羅蜜は文字無く、禪那波羅蜜毗黎耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜も文字有ること無し。世尊、色は文字無く、受想行識も文字無く、乃至一切種智も文字無ければなり。世尊、若し菩薩道を求むる善男子善女人、文字無くして般若波羅蜜に著し、乃至文字無くして一切種智に著せば、當に知るべし、是も亦菩薩の魔事なりと。讀誦し說き正憶念し、說の如く修行するも亦是の如し。』『復次に須菩提、佛道を求むる善男子善女人の是の般若波羅蜜を書する時、若は(三三)國土の念起り、聚落の念起り、城邑の念起り、方の念起り、若は其の師を謗毀するを聞きて(三四)念を起し、若は父母兄弟姉妹諸餘の親里を念じ、若は賊を念じ、若は(三五)旃陀羅を念じ、若は衆女を念じ、若は婬女を念ず、是の如き等の種種の諸餘の異念留難せば、惡魔復其の念を益して、般若波羅蜜を書するを破壞し・讀誦し說き正憶念し說の如く修行するを破壞す。須菩提、當に知るべし、是も亦菩薩の魔事なりと。復次に須菩提、佛道を求むる善男子善女人、名譽恭敬布施供養、謂ゆる衣服飮食臥牀病藥

べし、然るに無にして書成せざるを般若とせば無に滯る故に魔事なり。

【三三】國土の念。この國貧にして不安、彼の國富安なりとする類なり、聚落城邑方の念も亦例して知るべし。

【三四】念。般若を捨てて師を助けんとする如きを云ふ。

【三五】旃陀羅(Caṇḍāla)。屠種暴厲と譯す、穢惡の賤民なり。

種種の樂具を得て、善男子善女人、是の般若波羅蜜經を書し、受持し讀誦し乃至正憶念する時、是の事に愛著せば、般若波羅蜜を書成し、乃至正憶念することを得ず、當に知るべし、是も亦菩薩の魔事なりと。復次に須菩提、佛道を求むる善男子善女人の般若波羅蜜を書し乃至說の如く修行する時、惡魔は方便もて〔三六〕諸餘の深經を持つて是の菩薩摩訶薩に與ふ。方便力有る者は應に惡魔の與ふる所の諸餘の深經に貪著すべからず。何を以ての故に。是の經は人をして薩婆若に至らしむること能はざるが故に。是の中に方便無き菩薩摩訶薩は、是の諸餘の深經を聞きて便ち深般若波羅蜜を捨す。須菩提、我れ是の般若波羅蜜の中に於て、諸の菩薩摩訶薩の方便道を廣說す。諸の菩薩摩訶薩は當に是の中より求むべし。須菩提、若し善男子善女人、菩薩道を求めて是の深般若波羅蜜を捨し、魔の與ふる所の聲聞辟支佛の深經の中に於て方便道を求めば、當に知るべし、亦是れ菩薩の魔事なりと。」

【三六】諸餘の深經。聲聞經の類、先きに餘經と云ふに同じ。

(一)巻の第十四

(二)兩不和合過品第四十七

(三)復次に須菩提、聽法人般若波羅蜜を書持し、讀誦し問義し正憶念せんと欲するも、說法人懈惰して爲に說くことを欲せざれば、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲す。須菩提、說法の人、心懈惰せず、般若波羅蜜を書持せしめんと欲するも、聽法者之を受くることを欲せず、二心和せざれば、當に知るべし、是を魔事と爲す。復次に須菩提、聽法人般若波羅蜜を書持し讀誦し乃至正憶念せんと欲するも、說法者他方に至らんと欲せば、當に知るべし、是を魔事と爲す。須菩提、說法人般若波羅蜜を書持せしめんと欲するも、聽法者他方に至らんと欲し、二心和せざれば、當に知るべし、是を魔事と爲す。復次に須菩提、說法人(四)布施、衣服、飲食、臥具、醫藥、資生の物を貴重し、聽法人少欲知足にして(五)遠離を行じ、念を攝して精進一心智慧を行じ、兩ながら和合せざれば、般若波羅蜜を書持し讀誦し問義し正憶念することを得ず。當に知るべし是を魔事と爲す。須菩提、說法人少欲知足にして遠離を行じ、念を攝して精進一心智慧を行じ、聽法者布施、衣服

【一】宋元明本第十六に作る。
【二】品目丹本大論兩不和合品とし、麗本兩過品に作る、意同じ、說聽兩者の心和合せざる過失が魔事なりとす。大論第六十八の續き。
【三】說聽兩者一致せざる相を明す。
【四】布施等利養を重んずるを云ふ。
【五】遠離。身他人を離るる最近半里。心五欲五蓋を離るるを云ふ。

飲食、臥具、醫藥、資生の物を貴重し、兩ながら和合せざれば、般若波羅蜜を書持し讀誦し問義し正憶念することを得ず。當に知るべし是を魔事と爲す。復次に須菩提、說法者十二(六)頭陀を受く、一には(七)作阿練若、二には常乞食、三には(八)納衣、四には(九)一坐食、五には(一〇)節量食、六には(一一)中後不飲漿、七には(一二)塚間住、八には(一三)樹下住、九には(一四)露地住、十には(一五)常坐不臥、十一には(一六)次第乞食、十二には(一七)但三衣なり、聽法人十二頭陀を受けず、阿練若を作さず乃至但三衣を受けず、兩ながら和合せざれば、般若波羅蜜を書持し、讀誦し問義し正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事となす。須菩提、聽法者十二頭陀を受け、阿練若を作し乃至但三衣を受くるも、說法人十二頭陀を受けず、阿練若を作さず乃至但三衣を受けず、兩ながら和合せざれば、般若波羅蜜を書持し、讀誦し問義し正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。

【六】頭陀(Dhūta)。修治と譯す。戒の莊嚴たるべき衣食住の條件にして通常十二とす、或は乞食を隨得乞食、次第乞食の二として十三とす。
【七】阿練若(Araṇyaka)。寂靜處に住する身遠離行なり。
【八】納衣。著納衣とも云ふ。糞掃衣を著せるなり。
【九】一坐食。一日一齋食をなす。
【一〇】節量食。一食にも暴食すれば行道を妨ぐる故に節量す。
【一一】中後不飲漿。午後漿菓蜜等を飲用せざるなり。
【一二】塚間住。墓處死尸散亂し悲泣の聲あり、無常觀じ易きを以て止住す。
【一三】樹下住。佛の誕生成道轉法輪入滅皆樹下に在るを念じ、屋舍の欲を治するために樹下に住す。
【一四】露地住。樹下にも雨濕鳥屎毒蟲等あるを以て空曠の地に止住す。
【一五】常坐不臥。坐は食の消化と氣息の調和とによく睡魔を去り心を攝して法を觀するに適す。
【一六】次第乞食。貧富を擇ばざるなり。
【一七】但三衣。在家の種種の衣服を蓄ふると、尼乾外道の無衣裸形とに異り、安陀會、僧伽黎、鬱多羅僧の三衣を用ふ。

（一八）復次に須菩提、說法者信有り善有り、深般若波羅蜜を書受し乃至正憶念せんと欲するも、聽法者信無く戒を破り惡行し、深般若波羅蜜を書受し乃至正憶念することを欲せざれば、當に知るべし、是を魔事と爲す。須菩提、聽法者信有り善有り、說法者信なく戒を破り惡行し、兩ながら和合せざれば當に知るべし、是を魔事と爲す。復次に須菩提、說法者能く一切施し、心悋惜せざるも、聽法者悋惜して捨てざれば、當に知るべし、是を魔事と爲す。須菩提、聽法者一切能く施して、心悋惜せざるも、說法者法を悋みて施さず、兩ながら和合せざれば、般若波羅蜜を書持し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。復次に須菩提、聽法者說法人に衣服、飮食、臥具、醫藥、資生の所須を供養せんと欲するも、說法者之を受くることを欲せざれば、當に知るべし、是を魔事と爲す。須菩提、說法者聽法人に衣服乃至資生の所須を供給せんと欲するも、聽法者之を受くることを欲せず、兩ながら和合せざれば、般若波羅蜜を書持し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。復次に須菩提、說法者（一九）易悟なるも、聽法人闇鈍なれば、當に知るべし、是を魔事となす。須菩提、聽法若易悟なるも、（二〇）說法人闇鈍にして、兩ながら和合せざれば、般若波羅蜜を書持し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。

【一八】更に兩不和合の相を廣說す。大論第六十九。
【一九】易悟。容易に通悟す、解義者なるを云ふ。
【二〇】說法人闇鈍。誦經師にして解義堪能ならざるを云ふ。
【二一】十二部經次第義。修多羅、祇夜、和伽羅那、伽陀、優陀那、尼陀那、阿波陀那、伊帝日多伽、闍陀伽、毘佛略、阿浮陀達摩、優波提舍の十二、卽ち一切經の各の義理なり。

復次に須菩提、說法者(三二)十二部經次第義、所謂修多羅乃至優婆提舍を知るも、聽法者十二部經次第義を知らざれば、當に知るべし、是を魔事と爲す。聽法者十二部經次第義を知るも、說法人十二部經次第義を知らず、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。復次に須菩提、說法者六波羅蜜を成就するも、聽法人六波羅蜜を成就せず、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す、聽法者六波羅蜜有るも、說法人六波羅蜜無く、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。復次に須菩提、說法者六波羅蜜に於いて方便力有るも、聽法人六波羅蜜に於いて方便力無く、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。聽法者六波羅蜜に於いて方便力有るも、說法人六波羅蜜に於いて方便力無く、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。復次に須菩提、說法者陀羅尼を得るも、聽法人陀羅尼無く、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。聽法者陀羅尼を得るも、說法者陀羅尼無く、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。復次に須菩提、說法者般若波羅蜜を書持し讀誦し乃至正憶念せしめんと欲するも、聽法人般若波羅蜜を書持し讀誦し乃至正憶念せんと欲せず、兩

つながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念せず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。聽法者般若波羅蜜を書し讀誦し說かんと欲するも、說法者般若波羅蜜を書せしむることを欲せず、乃至說かしむることを欲せず、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、說法者(三二)貪欲瞋恚睡眠(三三)掉悔疑を離るるも、聽法人貪欲瞋恚睡眠掉悔疑あらば、當に知るべし、是を魔事と爲す。聽法者貪欲瞋恚睡眠掉悔疑を離るるも、說法人貪欲瞋恚睡眠掉悔疑ありて、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し、乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、是の深般若波羅蜜を書し乃至正憶念する時、或は人有り、來りて三惡道中の苦劇を說く、「汝何ぞ是の身に於いて(三四)苦を盡して涅槃に入らざるや、何ぞ是の阿耨多羅三藐三菩提を用ひんや」と、爲めに兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、是の深般若波羅蜜を書し受持し讀誦し說き正憶念する時、或は人有り、來りて四天王諸天を讚じ、三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天梵天乃至非有想非無想天を讚じ、初禪乃至非有想非無想定を讚じ、是の言を爲す、「善男子、欲界中五欲快樂を受く。色界中禪を受け樂を生ず。無色界中寂滅樂を受く。(三五)是の事も亦無

【三二】貪欲等、五蓋なり。

【三三】掉は掉擧、散亂治まらざるなり。

【三四】苦を盡して。三惡道を畏れこれを解脱するを云ふ、大乘を捨て小果を期するなり。

【三五】是の事も。諸天樂も變盡を免れざれば速に須陀洹等を得よとは又小果を期するなり。

常苦空無我變相盡相散相離相滅相なり。汝何ぞ是の身中に於いて須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を取らざるや、何ぞ是の世間生死中、種種の苦を受けて阿耨多羅三藐三菩提を求むることを用ひんや」と、爲めに兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、說法者一身に累無く自在無礙なるも、聽法人多く人衆を將ゐ、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是を魔事と爲す。聽法者一身に累無く自在無礙なるも、說法者多く人衆を將ゐ、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、說法者是の如く言ふ、「[二六]汝能く我が意に隨はば、當に汝に般若波羅蜜を與へ、書し讀誦し說き正憶念せしむべし。若し我意に隨はずんば、則ち汝に與へじ」と、兩つながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し讀誦し說き正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、聽法者追隨して其の意の如きを得んと欲するも、說法者聽かず、兩つながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、說法者財利を得んと欲するが故に、般若波羅蜜を與へ、書持し乃至正憶念せしむるも、聽法者[二七]是の因緣を以ての故に、從ひ受くることを欲せず、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜

【二六】汝能く我意に隨はば。行住一切說者の意に隨はしめんとし、聽者は法門を求むるのみにしてこの衆事を行ふ能はざれば、一致せず。

【二七】是の因緣。財利の因緣也。

を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。聽法者財利の爲めの故に、般若波羅蜜を書し讀誦せんと欲するも、說法者是の因緣を以ての故に、與ふることを欲せず、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し讀誦し說くことを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、說法者他方危命の處に至らんと欲するも、聽法者隨ひ去ることを欲せず、兩つながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。聽法者他方危命の處に至らんと欲するも、說法者去ることを欲せず、兩つながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、說法者他方饑餓穀貴無水の處に至らんと欲するも、聽法者隨ひ去ることを欲せず、兩つながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。聽法者他方饑餓穀貴無水の處に至らんと欲するも、說法者去ることを欲せず、兩つながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、說法者他方豐樂の處に至らんと欲し、聽法者隨從し去ることを欲するも、說法者言はく、「善男子、汝利益の爲めの故に我に追隨す。汝善く自ら思惟せよ。(二八)若は得若は不得後悔せしむること無かれ」と、是の少因緣を以ての故に、兩ながら和合せず、聽法者之れを聞き心に厭ひ是の念を作す、是れを(二九)拒逆と爲す、我と相隨ふことを

【二八】若は得等。利養を得るとも得ざるとも意に介せず後悔なきを期せよ。

欲せざるなりと、便卽ち止りて去らず、兩つながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、說法者曠野〔三〇〕賊怖旃陀羅怖獵師怖惡獸毒蛇怖を過ぎんと欲し、聽法者隨逐して去らんと欲するも、說法者言はく、「善男子、汝何を用て彼に到るや。彼の中に多く諸の怖、賊怖乃至毒蛇怖有り」と、聽法者之れを聞き、其の般若波羅蜜を與へ書持し乃至正憶念することを欲せざるを知り、心に厭ひ追隨することを欲せず、是の少因緣を以ての故に兩ながら和合せざれば、當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、說法者多く檀越有り、數往きて問訊す。是の因緣を以ての故に聽法者に語る、「我因緣有り應に往きて彼に到るべし」と、聽法人其の意を知り、卽ち止りて去らず、兩ながら和合せざれば、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。

〔三一〕復た次に須菩提、惡魔〔三二〕比丘の形像を作して來り、方便もて般若波羅蜜を破壞し、書持し讀誦し說き正憶念せしむることを得ず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何の因緣の故に惡魔、比丘の形像を作して、方便もて般若波羅蜜を破壞し、書持し乃至正憶念せしむることを得ざるや。』佛言はく、『惡魔、比丘の形像を作して來り、善男子善女人の心を壞し、般若波羅蜜を遠離せしめ、是の言

〔二九〕拒逆と爲す。隨從を謝絕せんが爲にかかる說明を爲すものとす。

〔三〇〕賊怖等、遠國に至る曠野を過ぐる中の諸怖を擧ぐ。

〔三一〕惡魔變化して妨礙するを說く。

〔三二〕大沙門の形をなし威德を具し多くの經卷を携へ來りて誘惑す。

を作す、「我が説く所の經は卽ち是れ般若波羅蜜なり。是の經は般若波羅蜜に非ず」と。須菩提、是の中（三三）諸の比丘を破壞する時、未受記の菩薩有り、卽ち疑惑に墮す。疑惑に墮するが故に深般若波羅蜜を書せず受けず持せず乃至正憶念を作さず。和合せざれば、般若波羅蜜を書成し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復た次に須菩提、惡魔比丘身を作して菩薩の所に到り、是の如く言ふ（三四）「若し菩薩般若波羅蜜を行ぜんには、實際に於て證を作し、須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を得よ」と。是を以て和合せざれば、般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復次に須菩提、是の深般若波羅蜜を説く時、多く魔事有りて起り、般若波羅蜜を留難す。是れを魔事と爲す。菩薩摩訶薩應に覺知し、知り已りて遠離すべし。』須菩提言さく、『世尊、何等か是れ魔事、菩薩を留難し、應に覺知し、知り已りて遠離すべきや。』佛言はく、（三五）『般若波羅蜜に似たる諸の魔事起る。禪那波羅蜜に似、毗梨耶波羅蜜に似、羼提波羅蜜に似、尸羅波羅蜜に似、檀那波羅蜜に似たる魔事起る。菩薩當に覺知し、知り已りて遠離すべし。復次に須菩提、聲聞辟支佛の應に行ずべき所の經、是れ菩薩摩訶薩の魔事なり。應に覺知し、知り已りて之れを遠離すべし。復次に須菩提、內空外空乃至無法有法空、四念處乃至八聖道分、空無相無作解脫門、是の法を用て

【三三】諸の比丘等。鈍根の菩薩は邪見を生じ、利根未受記の菩薩は疑惑に陷る。

【三四】若し般若空を學せば證果すべし、證せずば何ぞ佛と作らん、布施持戒等を修し證果の時空を用ふべきのみと、小果に導く誘惑なり。

【三五】六度に相似せるものを以て誘惑するを云ふ。

須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を得。是の如き等の諸經を、惡魔比丘の形像を作して、方便もて菩薩摩訶薩に與ふ。是を以て和合せざるが故に、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復た次に須菩提、惡魔、佛身を作し金色の丈光もて、菩薩の所に至る。是の【三六】菩薩貪著す。貪著の因緣の故に薩婆若を耗減す。是の不和合の故に、般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復た次に須菩提、惡魔佛身及び比丘僧と作りて菩薩の前に到る。是の菩薩貪著の意を起し是の念を作す、我れ當來世に於ても亦た當に是の如く比丘僧に從ひ說法を爲すべし。是の菩薩魔身に貪著するが故に、薩婆若を耗減し、般若波羅蜜を書成することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。復た次に須菩提、惡魔化して無數百千萬億の菩薩と作り檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じ、善男子善女人に指示す。善男子善女人見已りて貪著す。貪著するが故に薩婆若を耗減す。深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得ず。當に知るべし、是れを魔事と爲す。何を以ての故に。是の深般若波羅蜜中色有ること無く、受想行識有ること無く、乃至阿耨多羅三藐三菩提無ければなり。須菩提、是の般若波羅蜜若し色有ること無く、乃至阿耨多羅三藐三菩提無ければ、是の中に佛無く聲聞無く辟支佛無く菩薩無し。何を以ての故に。一切諸法自性空なるが故に。

【三六】菩薩貪著。小菩薩佛身を見るべからざるもの、偶ま魔に惑されて變化の好相を見るが故に著して眞道に遠ざかる。

【三七】般若尊勝なるが故に魔障留難起ることを譬說す。

【三七】復次に須菩提、善男子善女人、是の深般若波羅蜜を書し受け讀誦し說き正憶念する時、多く留難の起るあり。須菩提、譬へば閻浮提中の珍寶金銀瑠璃硨磲碼碯珊瑚等難多く賊多きが如し。是の如く須菩提、善男子善女人、是の深般若波羅蜜を書し乃至正憶念する時、多く怨賊有り多く留難起る。』須菩提佛に白して言さく『是の如く世尊、閻浮提中の珍寶金銀瑠璃硨磲碼碯珊瑚等賊多く難多し。世尊、善男子善女人も亦是の如く、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念する時、多く怨賊有り、多く留難起り、多く魔事有り。何を以ての故に。是の愚癡人魔の使する所と爲り、善男子善女人、是の深般若波羅蜜を書し乃至正憶念する時、破壞して遠離せしむ。世尊、是の愚癡人智少く慧少し。是の善男子善女人、深般若波羅蜜を書し乃至正憶念する時、破壞して遠離せしむ。是の愚癡人心に大法を樂まず。是の故に是の深般若波羅蜜を書せず、受けず、讀まず、誦せず、正憶念せず、說の如く修行せず、亦他人を壞して、深般若波羅蜜を書し乃至說の如く修行することを得ざらしむ。』佛言はく、『是の如し、是の如し。須菩提、新に大乘の意を發す善男子善女人魔の使する所と爲り、善根を種ゑず、諸佛を供養せず、善知識に隨はざるが故に、深般若波羅蜜を書せず乃至正憶念せず、而も留難を作す。是の善男子善女人智少なく慧少なく心に大法を樂まず。是の故に深般若波羅蜜を書し乃至正憶念すること能はず。魔事起るが故に。須菩提、若し善男子善女人能く是の深般若波羅蜜を書し乃至正憶念する時、魔事起らず、能く禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜を具足し

能く四念處乃至一切種智を具足す。須菩提、當に知るべし、佛力の故に、是の善男子善女人能く是の深般若波羅蜜を書し乃至正憶念し、亦た能く禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜を具足し、內空乃至無法有法空を具足し、四念處乃至八聖道分、佛の十力乃至一切種智を具足すと。須菩提、十方現在無量無邊阿僧祇の諸佛も亦た善男子善女人を助けて、是の深般若波羅蜜を書し乃至正憶念することを得しむ。十方阿毘跋致の諸菩薩摩訶薩も、亦た是の善男子善女人の深般若波羅蜜を書し乃至正憶念するを擁護し祐助す。』

(一)佛母品第四十八

(二)佛須菩提に告げたまはく、『譬へば母人子有るが如し。若は五若は十若は二十若は三十若は四十若は五十若は百若は千、母中に病を得んに、諸子各各勤めて救療を求め、是の念を爲す、「我等云何が母をして安隱にして諸の患苦不樂の事無からしめんや。風寒冷熱蚊虻蛇(三)虺母身を侵犯す。是れ我等の憂なり」と。其の諸子等常に樂具を求めて其の母を供養す。所以は何ん。我等を生育し我に世間を示せばなり。是の如く須菩提、佛常に(四)佛眼を以て是の深般若波羅蜜を視る。何を以ての故に。是の深般若波羅蜜能く世間相を示せばなり。十方現在の諸佛も亦た佛眼を以て常に是の深般若波羅蜜を視る。何を以ての故に。是の深般若波羅蜜能く諸佛を生じ、能く諸佛に一切種智を與へ、能く世間相を示せばなり。是を以ての故に諸佛常に佛眼を以て是の深般若波羅蜜を視、又般若波羅蜜を以て能く禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜を生じ、能く內空乃至無法有法空を生じ、能く四念處乃至八聖道分を生じ、能く佛の十力乃至一切種智を生ず。是の如く般若波羅蜜は能く斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛諸佛を生ず。須菩提、所有諸佛已に阿耨多羅三藐三菩提を得、今得、當に得べし。皆深般若波羅蜜の因

【一】般若を母に喩へ、子の母の恩を思ふ如く、般若は諸佛の母なるが故に、佛は恩を知り慈悲の故に行者を守護するを明かす。大論第六十九の續き。
【二】般若諸佛を生じ世間を示すが故に受持すべきを說く。
【三】虺は蝮蛇、まむしの一種。
【四】佛眼…視る。諸佛寂滅に住するも無緣の慈悲を以て般若を重んじ行者を守る。

縁に因るが故に得るなり。須菩提、若し佛道を求むる善男子善女人は、當に是の深般若波羅蜜を書し乃至正憶念すべし。諸佛常に佛眼を以て是の人を視る。須菩提、是の菩薩道を求むる善男子善女人をば、諸の十方佛常に守護して、阿耨多羅三藐三菩提を退せざらしむ。』

〔五〕須菩提佛に白して言さく、『世尊の所說の如く般若波羅蜜能く諸佛を生じ能く世間相を示す。世尊、般若波羅蜜云何が能く諸佛を生じ、云何が能く世間相を示し、云何が諸佛般若波羅蜜より生じ、云何が諸佛世間相を說きたまふや。』〔六〕佛須菩提に告げたまはく、『是の深般若波羅蜜中佛の十力乃至十八不共法一切種智を生ず。須菩提、是の〔七〕諸法の因縁を得るが故に名けて佛と爲す。須菩提、是を以ての故に深般若波羅蜜能く諸佛を生ず。須菩提、諸佛五陰を說く。是れ世間相なり。』須菩提言さく、『世尊、云何が深般若波羅蜜中五陰相を說き、云何が深般若波羅蜜中五陰如を示すや。』須菩提、般若波羅蜜〔八〕五陰の破を示さず、五陰の壞を示さず、生を示さず、滅を示さず、垢を示さず、淨を示さず、增を示さず、減を示さず、入を示さず、出を示さず、過去を示さず、未來を示さず、現在を示さず。何を以ての故に。空相破せず壞せず、無相相無作相破せず壞せず、不起法不生法無所有法性法破せず壞せず、相是の如く示す。是の如く須菩提、佛深般若波羅蜜

【五】須菩提四問して佛その義を明す。

【六】以下三答、第三諸佛般若より生するを答へざるは第一問答般若諸佛を生すると同意なればなり。

【七】諸法の因緣。法性の性自性なく衆緣より生するを見得す。

【八】五陰を示すは破壞生滅等の相を示すにあらず空無相にして破なく生なきを明す、これ相を示すなり。小乘に五陰破壞を世間とするに異る。

を說きて能く世間相を示す。復た次に須菩提（九）諸佛般若波羅蜜に因りて悉く無量無邊阿僧祇の衆生の心に行ずる所を知る。須菩提、是の深般若波羅蜜中、衆生無く、衆生の名無く、色無く、色の名無く、受想行識無く、受想行識の名無く、眼無く乃至意無く、眼識無く乃至意識無く、眼觸無く、乃至意觸無く、乃至一切種智無く、一切種智の名無し。是の如く須菩提。是の深般若波羅蜜は能く世間相を示す。須菩提、是の深般若波羅蜜も亦た色を示さず、受想行識を示さず、乃至一切種智を示さず。何を以ての故に。須菩提、是の深般若波羅蜜中尚ほ般若波羅蜜無し。何に況んや色乃至一切種智をや。復た次に須菩提、所有衆生の名數、若は有色若は無色、若は有想若は無想、若は非有想若は非無想、若は此間國土若は徧十方國土、是の諸の衆生若は攝心し若は亂心せば、是の攝心是の亂心を佛實の如く知る。須菩提、云何が佛衆生の攝心亂心相を知るや。法相を以ての故に知る。何等の法相を用ての故に知るや。須菩提是の法相中尚ほ法相の相無し。何に況や攝心亂心有らんや。須菩提、是の法相を以ての故に佛衆生の攝心亂心を知る。復た次に須菩提、佛衆生の攝心亂心を知る。云何が知るや。須菩提、（一〇）盡相を以ての故に知る。無染相を以ての故に知る。滅相を以ての故に知る。斷相を以ての故に知る。寂相を以ての故に知る。離相を以ての故に知る。是の如く須菩提、（一一）佛般若波羅蜜に因りて衆生の攝心亂

【九】五陰世間を說くに心法知り難きが故に細說す。

【一〇】盡とは無常を觀ずる慧。無染とは世間一切の染汚を離る、滅とは結使を滅す、斷とは無漏道斷を云ひ、寂とは斷じて已りて涅槃寂滅を云ひ、離とは迷悟差別を離る。

【一一】佛の知るは般若實相の智慧に因ることを說く。

心を知る。復た次に須菩提、佛般若波羅蜜に因りて衆生の染心を知り、實の如く染心を知り、瞋心癡心、實の如く瞋心癡心を知る。『須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が佛衆生の染心を知り、實の如く染心を知り、瞋心癡心實の如く瞋心癡心を知りたまふ。』佛須菩提に告げたまはく、『染心如實相なれば則ち染心相無し。何を以ての故に。如實相中心心數法尚ほ得べからず。何に況んや當に染心不染心を得べけんや。須菩提、瞋心癡心如實相なれば則ち瞋心相無く癡心相無し。何を以ての故に。如實相中心心數法尚ほ得べからず。何に況んや當に瞋心不瞋心癡心不癡心を得べけんや。是の如く須菩提、佛は般若波羅蜜に因りて、衆生の染心を實の如く染心と知り、瞋心癡心を實の如く瞋心癡心と知る。復た次に須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、衆生の無染心を實の如く無染心と知り、無瞋心無癡心を實の如く無瞋心無癡心と知る。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が衆生の無染心を實の如く無染心と知り、無瞋心を實の如く無瞋心と知り、無癡心を實の如く無癡心と知りたまふや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の心無染相中染相不染相得べからず。何を以ての故に。須菩提、〔三〕二心俱ならざるが故に。是の如く須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、衆生の無染心を實の如く無染心と知る。須菩提、是の無瞋心無癡心相中癡心不癡心得べからず。何を以ての故に。二心俱なるざるが故に。是の如く須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、衆生の無瞋心無癡心を實の如く知る。復た次に須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、是の衆生の廣心を

【三】二心倶ならざるが故。心念は生滅し染中不染得べからざる如きを云ふ。

實の如く廣心と知る。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が佛般若波羅蜜に因りて、是の衆生の廣心を實の如く廣心と知りたまふや。』『須菩提、佛諸の衆生の心相不廣不狹不增不減不來不去なるを知る。(三)心相離るるが故に。是の心不廣不狹乃至不來不去なり。何を以ての故に。是の心性無なるが故に。誰か廣を作し誰か狹を作し乃至來去せん。是の如く須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、是の衆生の廣心を實の如く廣心と知る。復た次に須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、是の衆生の大心を實の如く大心と知る。』須菩提佛に白して言さく『世尊、云何が佛般若波羅蜜に因りて、是の衆生の大心を實の如く大心と知りたまふや。』佛須菩提に告げたまはく『佛般若波羅蜜に因りて、衆生心の來相去相を見ず、衆生心の生相滅相住相異相を見ず。何を以ての故に。是の諸の心性無きが故に。誰か來り誰か去り誰か生滅住異せんや。是の如く須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、是の衆生の大心を實の如く大心と知る。復た次に須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、衆生の(四)無量心を實の如く無量心と知る。』須菩提、佛に白して言さく、『世尊、云何が佛般若波羅蜜に因りて、衆生の無量心を實の如く無量心と知りたまふや。』佛須菩提に告げたまはく、『佛般若波羅蜜に因りて、是の衆生心の住を見ず不住を見ざるを知る。何を以ての故に。是の無量心相依止無きが故に。誰か住不住の處有らん。是の如く須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、衆生の無量心を實の如く無量心と知る。復た次に

【三】心相離るるが故。心法廣狹增減の相を離るるを云ふ。
【四】無量心。廣心大心を云ふ。又無量衆生を緣じ涅槃無量法を緣ずるを以て無量と云ふ。畢竟取相なき故に無量なり。

須菩提、佛般若波羅蜜に因りて衆生の〔二五〕不可見心を實の如く不可見心と知る。』須菩提佛に白して言さく『世尊、云何が佛般若波羅蜜に因りて、衆生の不可見心を實の如く不可見心と知りたまふや。』佛須菩提に告げたまはく、『衆生心是れ無相、佛實の如く無相と知る。自相空なるが故に。復た次に須菩提、佛衆生心五眼見る能はざるを知る。是の如く須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、衆生の不可見心を實の如く不可見心と知る。

〔二六〕復た次に須菩提。佛深般若波羅蜜に因りて、衆生の心數〔二七〕出沒し屈伸することを實の如く知る。』『世尊、云何が佛般若波羅蜜に因りて、衆生の心數出沒し屈伸することを實の如く知りたまふや。』佛言はく『一切衆生心數の出沒屈伸等皆色受想行識に依りて生ず。須菩提、佛是の中に於いて衆生心數の出沒屈伸するを知る。所謂〔二八〕神及び世間〔二九〕常なり、是の事實餘は妄語なり、〔三〇〕是の見色に依る。神及び世間〔三一〕無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見色に依る。神及び世間〔三二〕常亦た無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見色に依る。神及び世間〔三三〕非常非無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見色に依る。神及び世間常なり、是の事實餘は妄語

【二五】不可見心。心或は骨相身體諸緣中に在りて見るべしと云ふも皆虛妄にして不可見なり。

【二六】續きて如實に心法を知ることを明し、十四邪見を辨ず。

【二七】出沒屈伸等。邪見煩惱に沒在すると怖れて出離するとを云ふ。大論第七十。

【二八】神。憶想分別して自我とし精神とするものを云ふ。神及び世間は三世間に通ずるも主として衆生世間を云ふ。

【二九】常。此に常、無常、常亦無常、非常非無常の四見を擧ぐ。邊無邊の四見、身神同異二見死後有無四見と倶に十四邪見を列ぬ。常我あり福德により果報あり行道により解脫

なり、(二四)是の見受に依る。神及び世間無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見受に依る。神及び世間常亦た無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見受に依る。神及び世間非常非無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見受に依る。神及び世間常なり、是の事實餘は妄語なり、(二五)是の見想に依る。神及び世間無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見想に依る。神及び世間常亦た無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見想に依る。神及び世間非常非無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見想に依る。神及び世間常なり、是の事實餘は妄語なり、(二六)是の見行に依る。神及び世間無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見行に依る。神及び世間常亦た無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見行に依る。神及び世間非常非無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見行に依る。神及び世間常なり、是の事實餘は妄語なり、(二七)是の見識に依る。神及び世間非常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見識に依る。神及び世間常亦た無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見識に依る。神及び世間非常非無常なり、是の事實餘は妄語なり、是の見識に依る。(二八)世間有邊なり、是の事實餘は妄語なり、是

すとするを常見と云ふ。

【二〇】是の見色に依る。常見等色に依る唯物的議論なるを云ふ。

【二一】無常。所作皆現前の名利あるのみ、心の常在するものなしとす。

【二二】常亦た無常。神に微細常住なると、生存中活動し死するとき滅するものとありと説く。

【二三】非常非無常。倶に罪福因果を充分に説明し難き爲に兩非論をなす。

【二四】是の見受に依る。感覺論的常無常論を云ふ。

【二五】是の見想に依る。憶想取相による能感的常無常論なり。

【二六】是の見行に依る。心所活動による主觀作用論を云ふ。

【二七】是の見識に依る。識體に就て常無常を云ふ。主觀實在論なり。

の見色に依る。世間無邊なり、是の事實餘は妄語なり。是の見色に依る。世間有邊無邊なり、是の事實餘は妄語なり、是の見色に依る。世間非有邊非無邊なり、是の事實餘は妄語なり、是の見色に依る。受想行識に依るも亦た是の如し。(二九)神即ち是の身なり、是の見色に依る。神異に身異なり、是の見色に依る。受想行識に依るも亦た是の如し。(三〇)死後去るが如き有り、是の事實餘は妄語なり、是の見色に依る。死後去るが如き無し、是の事實餘は妄語なり、是の見色に依る。死後或は去るが如き有り或は去るが如き無し、是の事實餘は妄語なり、是の見色に依る。死後去るが如き有るに非ず去るが如き無きに非ず、是の事實餘は妄語なり、是の見色に依る。受想行識に依るも亦た是の如し。(三一)是の如く須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、衆生の出沒屈伸を實の如く知る。

(三二)復た次に須菩提、佛色相を知る。云何が色相を知るや。如壞せず、分別無く、相無く憶無く、戲論無く得無きが如く、色相も亦た是の如し。須菩提、佛受想行識相を知る。云何が受想行識相を知るや。如相壞せず分別無く、相無く憶無く、戲論無く得無きが如く、受想行識相も亦た是の如し。是の如く須菩提、佛衆生如相及び衆生心數出沒屈伸如相、五陰如相諸行如相、即

【二八】世間有邊。三世間の中主として五陰國土の二世間に就て邊無邊の四見を明す。具さには時間的に常無常、有始無始、空間的に邊無邊論の別あり。

【二九】神即ち是の身。肉體精神の同異二種邪見を列ぬ。身滅すれば神も滅す、故に同なりとす。

【三〇】死後去るが如き有り。死後有無の四種邪見を列ぬ。

【三一】上述の諸見外道悉に分別するも五陰に緣依するのみ、而も五陰空なり常無常なし、これ如實知なり。

【三二】佛知の正見世間を說く。

ち一切法如相を知る。何等か是れ一切法如相なりや。所謂六波羅蜜如相なり。六波羅蜜如相は即ち是れ三十七品如相。三十七品如相は即ち是れ十八空如相なり。十八空如相は即ち是れ八背捨如相なり。八背捨如相は即ち是れ九次第定如相なり。九次第定如相は即ち是れ佛の十力如相なり。佛の十力如相は即ち是れ四無所畏無礙智大慈大悲乃至十八不共法如相なり。十八不共法如相は即ち是れ一切種智如相なり。一切種智如相は即ち是れ善法不善法世間法出世間法有漏法無漏法如相なり。有漏法無漏法如相は即ち是れ過去未來現在諸法如相なり。過去未來現在諸法の如相は即ち是れ有爲法無爲法如相なり。有爲法無爲法如相は即ち是れ須陀洹果如相なり。須陀洹果如相は即ち是れ斯陀含果如相なり。斯陀含果如相は即ち是れ阿那含果如相なり。阿那含果如相は即ち是れ阿羅漢果如相なり。阿羅漢果如相は即ち是れ辟支佛道如相なり。辟支佛道如相は即ち是れ阿耨多羅三藐三菩提如相なり。阿耨多羅三藐三菩提如相は即ち是れ諸佛如相なり。諸佛如相は皆是れ一如相なり。不二不別不盡不壞、是れを一切諸法如相と名く。佛般若波羅蜜に因りて、是の如相を得。是の因緣を以ての故に、般若波羅蜜能く諸佛を生じ、能く世間相を示す。是の如く須菩提、佛一切法の如相非不如相、不異相を知る。是の如相を得るが故に（三三）佛を如來と名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の諸法如相非。不如相・不異相甚深なり。世尊、諸佛是の如きを用て人の爲めに阿耨多羅三藐三菩提を說く。世尊、誰か能く是れを信解する者ぞ。唯（三四）阿毗跋致菩薩及び（三五）具足正見人（三六）漏盡阿羅漢有るのみ。何を

【三三】諸法如に隨順して相違せ

以ての故に。是の法甚深なるが故に。』佛須菩提に告げたまはく、(三七)『是の如無盡相の故に甚深なり。』須菩提言さく、『何の法か無盡相の故に甚深なりや。』佛言はく、『一切法無盡の故に。是の如く須菩提、佛是の一切諸法如を得已りて衆生の爲めに說く。』

ざるは諸佛如なり、故に諸佛は衆生の爲に如實の法を說く。

【三四】阿毗跋致菩薩は無生法忍を得て受記せる者。信じて不退に近きものも此に攝す。

【三五】具足正見人は佛を信じ三乘道に在るもの。

【三六】漏盡阿羅漢は一切法不受の故に能信の一たり。

【三七】是の如無盡、一切法無盡なるが故に如も無盡なり。

(一)問相品第四十九

(二)爾の時、三千大千國土中の、所有欲界の天子色界の天子、遙に華香を散じ來りて佛の所に至り、佛足を頂禮し、却きて一面に住し、佛に白して言さく、『世尊、所說の般若波羅蜜甚深なり。何等か是れ深般若波羅蜜相なりや。』佛欲界色界の諸天子に告げたまはく、『諸天子、(三)空相是れ深般若波羅蜜相なり。(四)無相無作無起無生無滅、無垢無淨・無所有法(五)無相無所依止虚空相是れ深般若波羅蜜相なり。諸天子、是の如き等の相、是れ深般若波羅蜜相なり。佛衆生の爲めに(六)世間法を用ての故に說く、第一義に非ず。諸天子、是の諸相一切世間天人阿修羅破壞すること能はず。何を以ての故に。是の一切世間天人阿修羅も亦た是れ相なるが故に。諸天子、相相を破すること能はず、相相を知ること能はず、相無相を知ること能はず、無相相を知ること能はず、是の相是の無相、相無相皆知る所無し。謂ゆる知相、知者知法皆不可得なるが故に。何を以ての故に。諸天子、是の諸相色の作に非ず、受想行識の作に非ず、檀那波羅蜜の作に非ず、尸羅波羅蜜・羼提波羅蜜・毗梨耶波羅蜜・禪那

【一】諸天深般若の相を問ふに答ふ。大論第七十の續き。

【二】般若の空無相を明にす。この義先きに處處に說くも亦有と說き果報罪福を說くことあるを以て、諸天決を求むるなり。

【三】空相。内空外空等の諸空なり。

【四】無相。空なれば男女好醜等なきを云ふ。後世に著せず所願なきを無作と云ふ。無作の故に起らざるを無起とす。

【五】前の無相は三解脫門の一にして外相なきを主とし、今の無相は一切法相なき空を云ふ。

【六】世間法等。空ならば說くべ

波羅蜜・般若波羅蜜の作に非ず、內空の作に非ず、外空の作に非ず、內外空の作に非ず、無法空の作に非ず、有法空の作に非ず、有法無法空の作に非ず、四念處の作に非ず、乃至一切種智の作に非ず。諸天子、是の相、（七）人の所有に非ず、非人の所有に非ず、世間に非ず、出世間に非ず、有漏に非ず、無漏に非ず、有爲に非ず、無爲に非ず。』佛復た諸天子に告げたまはく『譬へば人有りて、何等か是れ虛空の相なりやと問ふが如し、是の人正問と爲すや不や。』諸天子言さく、『世尊、此れ正問ならず。何を以ての故に。世尊、此の虛空は相の說く可きもの無く、虛空は無爲無起なるが故に。』佛欲界色界の諸天子に告げたまはく、『有佛無佛、（八）相性常住にして、佛實の如く相性を得るが故に、名けて如來と爲す。』諸天子佛に白して言さく、『世尊、世尊の得たまふ所の諸相性甚深なり。（九）是の相を得たまへるが故に無礙智を得て是の相中に住したまひ、般若波羅蜜を以て諸法の自相を集めたまふ。』諸天子言さく、『希有なり世尊、是の深般若波羅蜜は是れ諸佛の常に道を行ぜらるる處なり、是の道を行じて阿耨多羅三藐三菩提を得、阿耨多羅三藐三菩提を得已りて、一切法相若は色相若は受想行識相乃至一切種智相に通達したまふ。』佛言はく、『是の如し是の如し。諸天子、（一〇）惱壞相は是れ

からず、空等を說くは何故なりやの疑あるを以てこの義を示さんが爲に俗諦に於て示すとす。第一義眞諦に於て示すとす第一義眞諦より云へば空の空と說くべきものならず。

【七】人は菩薩諸佛を含み、非人は諸天を云ふ。

【八】相性常住。佛最上なるが故に是の相を作すべしとするものあるを以て無佛にてもこの相常住なりとす。

【九】諸法實相に住して通達無礙、能く諸法の別相を說く。

【一〇】惱壞は惱亂破壞にして色法の別相とするも、この相空無相を知ること完きを無相を得とし眞に相を知るとす。

色相なり、佛是の無相を得。覺は受相、〔一〕取は想相、起作は行相、了別は識相なり、佛是の無相を得。能捨は檀那波羅蜜相、〔二〕無熱惱は尸羅波羅蜜相、不變異は羼提波羅蜜相、不可伏は毗梨耶波羅蜜相、攝心は禪那波羅蜜相。捨離は般若波羅蜜相なり、佛是の無相を得。心嬈惱する所なきは是れ四禪四無量心四無色定の相なり、佛是の無相を得。出世間は三十七品の相なり。佛是の無相を得。苦は無作脫門の相、離は空脫門の相、寂滅は無相脫門の相なり、佛是の無相を得。勝は十力の相、不恐怖は無所畏の相、徧知は四無礙智の相、餘人無得は十八不共法の相なり、佛是の無相を得。愍念衆生は大慈大悲の相、實は無錯謬の相、無所取は常捨の相、現了知は一切種智の相なり、佛是の無相を得。是の如く諸天子、佛一切諸法の無相を得。是の因緣を以ての故に佛を無礙智と名く。』

〔三〕爾の時、佛須菩提に告げたまはく、『般若波羅蜜は是れ〔四〕諸佛の母なり。般若波羅蜜能く世間相を示す。是の故に佛は是の法に依止して住し、是の法を供養し恭敬し尊重し讚歎す。何等か是れ法なりや。所謂般若波羅蜜なり。諸佛は般若波羅蜜に依止して住し、是の般若波羅蜜を恭敬し供養し尊重し讚歎す。何を以ての故に。是の般若波羅蜜諸佛を出生すればなり。佛〔五〕作人を知る。若し

〔一〕取。取相にして想像するなり。

〔二〕無熱惱。持戒清涼安穩の德を云ふ。

〔三〕般若は佛母にして諸佛の依止供養する所、能く世間相を示し、世間空を示すを述ぶるなり。

〔四〕諸佛の母等。第四十八佛母品を見よ。

〔五〕作人を知る。他の恩を作すを知るを云ふ。故に知作人として能く恩を報じ般若を尊重す。或は佛作人を知らずと云ふは、一切法無作とするを云ふなり。

人正しく作人を知る者を問はば、正答佛に過ぐる無し。何を以ての故に。須菩提、佛作人を知るが故に佛の乘來する所の法、佛の從來する所の道、阿耨多羅三藐三菩提を得る是の乘是の道、佛還つて恭敬し供養し尊重し讃歎し受持し守護す。須菩提、是れを佛作人を知ると名く。復た次に須菩提、佛一切法無作相を知る。作者所有無きが故に。一切法無起相、形事不可得なるが故に。須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、一切法無作相を知る。(一六)亦た是の因緣を以ての故に佛作人を知る。復た次に須菩提、佛般若波羅蜜に因りて、一切法不生を得。無所得を以ての故に。是の因緣を以ての故に般若波羅蜜能く諸佛を生じ、能く世間相を示す。』須菩提言さく、(一七)『世尊、若し一切法知る者無く見る者無くば、云何が般若波羅蜜能く諸佛を生じ能く世間相を示すや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し、是の如し、一切法實に知る者無く見る者無し。云何が知る者無く見る者無きや。(一八)一切法空虛誑不堅固なり。是の故に一切法知る者無く見る者無し。復た次に須菩提、一切法云何が知る者無く見る者無きや。一切法依止無く、(一九)所繫無し。是を以ての故に一切法知る者なく見る者無し。是の如く須菩提、般若波羅蜜能く諸佛を生じ、能く世間相を示す。色を見ざるが故に世間相を示し、受想行識を見ざるが故に世間相を示し、乃至一切種智を見ざるが故に世間相を示す。是の如く須菩提、般若波

【一六】無作を知るは般若の恩なれば又無作に於て作人を知るとも說く。
【一七】問の意は法鈍にして知見なきに般若獨り知見するやを質す。
【一八】知見なきのみならず、法空なり、何ぞ無知無見を咎めんやと答ふ。
【一九】所繫無し。實相は繫せられず、三界を超出す。

羅蜜能く諸佛を生じ、能く世間相を示す。」須菩提言さく、「世尊、云何が色を見ざるが故に般若波羅蜜世間相を示し、受想行識乃至一切種智を見ざるが故に世間相を示すや。」佛須菩提に告げたまはく、「若し色に緣りて識を生ぜざれば。(二〇)是れを色相を見ざるが故に示すと名く。受想行識に緣りて識を生ぜず、乃至一切種智に緣りて識を生ぜざれば、是れを一切種智相を見ざるが故に示すと名く。是の如く須菩提、是の深般若波羅蜜能く諸佛を生じ能く世間相を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜云何が能く諸佛を生じ能く世間相を示すや。須菩提、般若波羅蜜は(二一)世間空を示す。云何が世間空を示すや。五陰世間空を示し、十二入世間空を示し、十八界世間空を示し、十二因緣世間空を示し、我見根本六十二見世間空を示し、十善道世間空を示し、四禪四無量心四無色定世間空を示し、三十七品世間空を示し、六波羅蜜世間空を示し、內空世間空を示し、外空世間空を示し、內外空世間空を示し、無法空世間空を示し、有法空世間空を示し、無法有法空世間空を示し、有爲性世間空を示し、無爲性世間空を示し、佛の十力世間空を示し、十八不共法世間空を示し、乃至一切種智世間空を示す。是の如く須菩提、般若波羅蜜能く諸佛を生じ能く世間相を示す。復た次に須菩提、佛是の般若波羅蜜に因りて、世間空を示し、(二二)世間空を知り、世間空を覺り、世間空を思惟し、世間空を分別す。是の如く須菩提、般若

【二〇】識なければ色の惱壞相も亦無なり、色無相はこれ色なしと示すとの意なり。

【二一】世間空。五陰乃至一切種智の空なり。空を示すが故に法に愛著するにあらざるを明す。

【二二】單に傳說經文によらず內心に籌量覺知分別せるを云ふ。

波羅蜜能く諸佛を生じ、能く世間相を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は〔二三〕佛に世間空を示す。云何が佛に世間空を示すや。五陰世間の空を示し乃至一切種智世間の空を示す。是の如く須菩提、般若波羅蜜能く諸佛を生じ、能く世間相を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の〔二四〕不可思議を示す。云何が世間の不可思議を示すや。五陰世間の不可思議乃至一切種智世間の不可思議を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の〔二五〕離を示す。云何が世間の離を示すや。五陰世間の離を示し乃至一切種智世間の離を示す。是の如く須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の離を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の寂滅を示す。云何が世間の寂滅を示すや。五陰世間の寂滅を示し乃至一切種智世間の寂滅を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の畢竟空を示す。云何が世間の畢竟空を示すや。五陰世間の畢竟空を示し乃至一切種智世間の畢竟空を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の性空を示す。云何が世間の性空を示すや。五陰世間の性空を示し乃至一切種智世間の性空を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の無法空を示す。云何が世間の無法空を示すや。五陰世間の無法空を示し乃至一切種智世間の無法空を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の有法空を示す。云何が世間の有法空を示すや。五陰世間の有法空を示し乃至一切種智世間の有法空を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の無法有法

〔二三〕佛に世間空を示す。以下般若諸佛を生ずるを明かにす。
〔二四〕不可思議。空にして心相取著すべきものなきなり。
〔二五〕離は分散なり。寂滅、畢竟空皆同事なり。

空を示す。云何が世間の無法有法空を示すや。五陰世間の無法有法空を示し乃至一切種智世間の無法有法空を示す。復た次に須菩提、般若波羅蜜は佛に世間の〔二六〕獨空を示す。云何が世間の獨空を示すや。五陰世間の獨空を示し乃至一切種智世間の獨空を示す。是の如く須菩提、般若波羅蜜は能く諸佛を生じ、能く佛世間相を示す。須菩提、是の深般若波羅蜜は世間相を示す。所謂〔二七〕今世後世相を生ぜず。何を以ての故に。諸法用て今世後世相を生ずべきもの無きが故に。』

〔二八〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜は〔二九〕大事の爲の故に起る。世尊、是の般若波羅蜜は不可思議事の爲の故に起る。世尊、是の般若波羅蜜は不可稱事の爲の故に起る。世尊、是の般若波羅蜜は無量事の爲の故に起る。世尊、是の般若波羅蜜は無等等事の爲の故に起る。』佛言はく『是の如し是の如し。須菩提、般若波羅蜜は大事の爲の故に起り、不可思議事の爲の故に起り、不可稱事の爲の故に起り、無量事の爲の故に起り、無等等事の爲の故に起る。須菩提、云何が是の般若波羅蜜大事の爲の故に起るや。須菩提、諸佛の大事とは所謂一切衆生を救ひ一切衆生を捨てざるなり。須菩提、云何が是の般若波羅蜜不可思議事の爲の故に起るや。須菩提、不可思議事とは、

〔二六〕獨空。十八空は相待空なるが待なく因なきを獨空と云ふ。

〔二七〕今世後世相。斷見者は但今世相を說き、常見者は今世の我心來世に入るを說くを云ふ般若は二邊を離るゝが故にこの相を生ぜず。

〔二八〕般若大事等のために起るを說く。

〔二九〕大事。一切衆生の大苦を破し無上菩提を與ふるを云ふ。衆生の爲に五事を受く、諸の勞苦を受くると、寂靜樂を捨つると、惡人と事を共にすると、人に接對すると、大衆會に入るとなり。

所謂（三〇）諸佛法（三一）如來法（三二）自然人法（三三）一切智人法なり。是を以ての故に須菩提、諸佛般若波羅蜜不可思議事の爲の故に起る。須菩提、云何が般若波羅蜜不可稱事の爲の故に起るや。須菩提、一切衆生中能く佛法如來法自然人法一切智人法を思惟し稱量するもの有ること無し。是を以ての故に須菩提、般若波羅蜜不可稱事の爲の故に起る。須菩提、云何が般若波羅蜜無量事の爲の故に起るや。須菩提、一切衆生中能く佛法如來法自然人法一切智人法を量るもの有ること無し。是を以ての故に須菩提、般若波羅蜜不可量事の爲の故に起る。須菩提、云何が般若波羅蜜無等等事の爲の故に起るや。須菩提、一切衆生中能く佛と等しき者有ること無し。何に況んや過ぐるをや。是を以ての故に須菩提、般若波羅蜜無等等事の爲の故に起る。』須菩提佛に白して言さく、

（三四）『世尊、但に佛法如來法自然人法一切智人法のみ不可思議不可稱無有量無等等事起るや。』佛須菩提に告げたまはく『是の如し是の如し。佛法如來法自然人法一切智人法不可思議不可稱無有量無等等なれば色も亦た不可思議不可稱無有量無等等なり。受想行識も亦た不可思議不可稱無有量無等等なり。乃至一切種智法性法相も不可思議不可稱無有量無等等なり。是の中

【三〇】諸佛法。一切無明睡眠中に覺り來るを云ふ。

【三一】如來法。過去佛諸法の如を得今佛もその道により如より來るを云ふ。

【三二】自然人法。聲聞の如く他より聞かず、自知自覺なるを云ふ。

【三三】一切智人法。辟支佛も自然得なるも一切智を具足せざるに佛は一切智を具するを云ふ。以上四は般若相應の佛の妙勝を示す。

【三四】四法のみ妙勝なるが故に不思議なるかの疑を決して、一切法も皆不可得なるが故に然るを明す。

【三五】以下「無等等なるが故に量得べからず」に至るもの宋元明本は色不可得故不可思議等三百五十三字に作り、文異る

心心數法得可からず。復た次に須菩提、(三五)色不可思議是も亦た不可得なり、乃至色無等等是も亦た不可得なり、受想行識乃至一切種智無等等、是も亦た不可得なり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何の因緣もて色不可思議乃至無等等是も亦た不可得、受想行識乃至一切種智無等等是も亦た不可得なりとするや。』佛須菩提に語りたまはく、『色の量不可得なるが故に、受想行識の量不可得なるが故に、乃至一切種智の量不可得なるが故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何の因緣もて色の量不可得、乃至一切種智の量不可得なりや。』佛須菩提に告げたまはく『色不可思議なるが故に。乃至色無等等なるが故に量不可得なり。乃至一切種智不可思議なるが故に、乃至一切種智無等等なるが故に量得べからず。須菩提、汝の意に於いて云何。不可思議乃至無等等寧ろ得可きや不や。色受想行識乃至一切種智は寧ろ得可きや不や。』須菩提言さく、『世尊、不可得なり。』『是を以ての故に須菩提、一切法不可思議乃至無等等なり。亦た是の如く須菩提、是の諸佛法も不可思議不可稱無有量無等等なり。須菩提、(三六)是れを諸佛法不可思議乃至無等等と名く。須菩提、是の諸佛法不可思議、思議相に過ぐるが故に、不可稱、稱に過ぐるが故に、無有量、量に過ぐるが故に、無等等、等等に過ぐるが故に。須菩提、是の因緣の故に一切法も亦た不可思議乃至無等等なり。須菩提、不可思議は(三七)是の義不可思議なるに名け、不可稱は是の義不可稱なるに名

も意大差なし、今大論に合する麗本の文を取る。

【三六】如上の說明を總結す。

【三七】是の義不可思議。是の法不可思議も亦得べからざるも、思議相を過ぐる義趣を名けて不思議と云ふ、不思議も執すべからず。

け、無有量は是の義不可量なるに名け、無等等は是の義無等等なるに名く。須菩提、是の諸佛法不可思議乃至無等等なり。不可思議は虚空の思議す可からざるが如く、不可稱は虚空の稱す可からざるが如く、無有量は虚空の量有ること無きが如く、無等等は虚空の無等等なるが如し。須菩提、是れを諸佛法不可思議乃至無等等と名く。佛法是の如く無量なれば、一切世間（三八）天・人・阿修羅能く思議し籌量する者無し。』

（三九）是の諸佛法不可思議不可稱無有量無等等品を説く時、五百の比丘一切法不受の故に漏盡き心解脱を得、阿羅漢を得。（四〇）二十比丘尼も亦た一切法を受けざるが故に漏盡き阿羅漢を得。六萬の優婆塞三萬の優婆夷諸法中（四一）塵を遠け垢を離れ、諸法中法眼生ず。（四二）二十の菩薩摩訶薩無生法忍を得て、是の（四三）賢劫中に於いて當に受記すべし。

【三八】天人阿修羅。三善道者尚量るべからず、況や三惡道をや。
【三九】聞經の得益を明す。
【四〇】二十。丹本は二千に作る。大論は尼の慧少きが故に比丘の如く漏盡を得るもの多からずと解せり。
【四一】塵を遠け。在家鈍根、淺慧なれば漏盡する能はず、信根を増益し塵垢を遠離するのみ。
【四二】二十。丹本二千に作る。
【四三】賢劫中。釋尊及び後佛授記するを云ふ。

(一)巻の第十五

(二)大事起成辦品第五十

(三)爾の時、須菩提、佛に白して言さく、『世尊、是の深般若波羅蜜大事の爲めの故に起る、不可思議事の故に起る、不可稱事の故に起る、無有量事の故に起る。世尊、是の深般若波羅蜜無等等事の故に起る』佛須菩提に告げ給はく、『是の如し、是の如し、是の深般若波羅蜜大事の爲めの故に起る、乃至無等等事の故に起る。何を以ての故に。般若波羅蜜の中、五波羅蜜を含受し、般若波羅蜜の中内空外空、乃至無法有法空を含受し、四念處乃至八聖道分を含受し、是の深般若波羅蜜の中佛の十力、乃至一切種智を含受すればなり。譬へば(四)灌頂せる王の國土中に尊きが如し、諸の官事有るも皆大臣に委す、國王安樂無事にして自ら恣にす。是の如く須菩提、有ゆる聲聞辟支佛法、若は菩薩法、若は佛法、一切皆般若波羅蜜の中に有れば、般若波羅蜜能く其の事を(五)成辦す。是を以ての故に須菩提、般若波羅蜜大事の爲めの故に起る、乃至無等等事の故に起る。

【一】宋元明本第十七に作る。
【二】品目丹本大論大事起品とし、麗本成辦品とす。前品所說の般若甚深の因緣を大事乃至無等等が爲とすることを重說し讃歎す。大論第七十一。
【三】般若甚深なるは能く他の五度乃至一切法を包含し諸法を成辦するによるを明す。
【四】灌頂。四大海水を頂に灌ぐ、即位を云ふ。王は佛に、官事は衆生の濟度に、大臣は般若に譬ふ。
【五】成辦。諸法般若に包含され和合し隨喜方便廻向せらるるが故に佛道に至るを云ふ。

(六)復次に、須菩提、是の般若波羅蜜色を取らず、色に著せざるが故に能く成辦す。受想行識取らず、著せざるが故に能く成辦す。乃至一切種智取らず、著せざるが故に能く成辦す。須陀洹果、乃至阿羅漢果、辟支佛道、乃至阿耨多羅三藐三菩提取らず、著せざるが故に能く成辦す。』須菩提、佛に白して言さく、『云何が色取らず著せざるが故に、般若波羅蜜能く成辦す、云何が受想行識、乃至阿耨多羅三藐三菩提取らず、著せざるが故に、般若波羅蜜能く成辦するや。』佛、須菩提に告げ給はく、(七)『汝が意に於て云何、頗し是の色の取るべく著すべきを見るや不や。』須菩提言さく、『不とよ世尊。』『須菩提汝が意に於て云何、頗し受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提取るべく著すべきを見るや不や。』須菩提言さく、『不とよ世尊。』佛言はく、『善い哉善い哉、須菩提、我も亦是の色取るべく著すべきを見ず、見ざるが故に取らず、取らざるが故に著せず。我も亦受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提、及び一切種智取るべく著すべきを見ず、見ざるが故に取らず、取らざるが故に著せず。須菩提、我も亦佛法、如來法、自然人法、一切智人法取るべく著すべきを見ず、見ざるが故に取らず、取らざるが故に著せず。是を以ての故に須菩提、諸の菩薩摩訶薩、色も亦取るべからず著すべからず。受想行識、乃至佛法、如來法、自然人法、一切智人法も亦取るべからず著すべからず。』

【六】不取不著の故に含受たり成辦するを明す、初めて染するを取と云ふ、續きて愛を生ずるを著と云ふ。

【七】この說明法を四答中の反問答と云ふ。

(八)爾の時、欲色界の諸天子、佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜甚深にして見難く、解し難く、思惟比類すべからず。微妙善巧智慧寂滅を知る者知るべし。能く是の般若波羅蜜を信ずる者は當に知るべし、是の菩薩多く諸佛に供養し、多く善根を種ゑ、善知識と相隨ひ、能く深般若波羅蜜を信解すと。世尊、若し三千大千國土中の有ゆる衆生、皆(九)信行法行の人、八人、須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛の若は(一〇)智、若は斷を作すも、是の菩薩一日、深般若波羅蜜を行じ、忍欲し、思惟し、籌量するに如かず。何を以ての故に、是の信行法行の人、八人、須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛の若は智、若は斷は卽ち是れ菩薩摩訶薩の(一一)無生法忍なればなり。』佛、欲色界の諸天子に告げたまはく、『是の如し是の如し。諸天子、若し信行法行の人、八人、須陀洹、乃至阿羅漢、辟支佛は卽ち是れ菩薩摩訶薩の無生法忍なり。諸天子、若し善男子善女人是の深般若波羅蜜を聞き、書持し、受け、讀誦し、說き正憶念せば、是の善男子善女人、疾に涅槃を得ること、聲聞辟支佛乘を求むる善男子善女人の深般若波羅蜜を遠離し、餘經を行ずる、若は一劫、若は(一二)減一劫なるに勝る。何を以ての故に、是の深般若波羅蜜の中に廣

【八】諸天子、般若及び行者を讃歎す。
【九】信行法行。入道者の鈍を隨他信とし利を法行とし自ら法を見て解すとす。又これ情的信仰と知的解入との別なり。利鈍を云ふは主意にあらず。
【一〇】智は十智。斷は有學卽ち學人の斷と、無學卽ち無學の斷との二に分つ。
【一一】無生法忍なれば諸賢聖の智斷劣らざるが如し、彼等の如かざるは分別あり方便大悲なければなり。故に菩薩の無生忍尙賢聖の智斷を含受して勝るとす。
【一二】減一劫。一劫よりも少きの意なるが又一日に比して長時を示す。

く(三)上妙の法を說く。是れ信行法行の人、八人、須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛の學ぶべき所、菩薩摩訶薩も亦學ぶべき所、學び已りて阿耨多羅三藐三菩提を得ればなり。』是の時欲色界の諸天子倶に聲を發して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜を摩訶波羅蜜と名く。世尊、是の般若波羅蜜を不可思議不可稱無有量無等等波羅蜜と名く。信行法行の人、八人、是の深般若波羅蜜を學して、須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛を成就することを得。是の深般若波羅蜜を學して、菩薩摩訶薩を成ずることを得。是の深般若波羅蜜の中に學せば、阿耨多羅三藐三菩提を得。是の深般若波羅蜜も亦增さず、亦減ぜず。』是の時、欲色界の諸天子、佛足を頂禮し、佛を遶りて去る。是を去ること遠からずして忽然として現せず、各本處に還る。

(四)須菩提、佛に白して言さく、『世尊若し菩薩摩訶薩、是の深般若波羅蜜を聞きて卽時に信解する者、何處より終り來りて是の間に生ずるや。』佛、須菩提に告げ給はく、『若し菩薩摩訶薩、是の深般若波羅蜜を聞きて卽時に信解し、沒せず、却せず、難せず、疑はず、悔いず、歡喜し樂んで聽き、聽き已て憶念して是の深般若波羅蜜を遠離せず、若は行、若は住、若は坐、若は臥、終に廢忘せず、常に法師に隨ふ。譬へば新生の犢子其の母を離れざるが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如く、深般若波羅蜜を聞かんが爲の故に、終に法師に遠離せず、乃至是の深般若波羅蜜を得て、口誦

【三】上妙の法。三道の學して佛果に至るべき法なるを云ふ。
【四】深般若を信解する者の宿善を明す。これに上中下三機あり、上機は前世に此の人界若くは他佛世界に般若を聞解し修行せるものなり。

し、心解し、正見し、通達す。須菩提、當に知るべし、是の菩薩人道中より終り、還て是の間の人中に生ず。何を以ての故に、是の佛道を求むる者、前世の時に深般若波羅蜜を聞き、書持し、恭敬し、尊重し、讃歎し、華香乃至旛蓋もて供養せり。是の因緣を以ての故に、人中に命終りて還て人中に生じ、是の深般若波羅蜜を聞き卽時に信解す。』須菩提、佛に白して言さく、『世尊、頗し菩薩摩訶薩有りて是の如きの功德成就し、他方世界に諸佛を供養し、彼に於て命終り來て是の間に生じ、深般若波羅蜜を聞きて卽時に信解し、書持し、讀誦し、正憶念す、是の者有りや不や。』佛言はく、『有り、菩薩是の如きの功德成就し、他方世界に諸佛を供養し、彼に於て命終り來りて是の間に生じ、是の深般若波羅蜜を聞きて卽時に信解し、書持し、讀誦し、正憶念す。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩他方諸佛の所より、是深般若波羅蜜を聞き、信解し、書持し、讀誦し、說き正憶念し、彼の間に於いて終り來りて此の間に生ずればなり。當に知るべし、是の人は是れ先世に功德成就せることを。復次に、須菩提、菩薩有り、彌勒菩薩摩訶薩より、是の深般若波羅蜜を聞き、是の善根因緣を以ての故に來りて此間に生ず。

(二五)須菩提、復菩薩摩訶薩有り、前世の時に深般若波羅蜜を聞くと雖、(二六)中事を問はざれば、來りて人中に生じ、是の深般若波羅蜜を聞くも、心に疑悔有りて悟り難し。須菩提、是の如きの菩薩、當に知るべし、先世に是

【二五】中下の行人を明す。下は聞きて義を問はず、中は聞きて問ふも行ふ能はず。上は前に說く如く聞解し能く行す。

【二六】中事　般若說法中の義理。

の深般若波羅蜜を聞くと雖、問はざるが故に今續いて疑悔し悟り難し。須菩提、若し菩薩先世に禪那波羅蜜を聞くと雖、中事を問はざれば、今世に般若波羅蜜を聞く時、問はざるが故に續いて疑悔を生ず。須菩提、若し菩薩先世に毘黎耶波羅蜜を聞くと雖、中事を問はざれば、今世に般若波羅蜜を聞くも、問はざるが故に續いて復疑悔す。須菩提、若し菩薩先世に羼提波羅蜜を聞くと雖、中事を問はざれば、今世に般若波羅蜜を聞くも、問はざるが故に續いて復疑悔す。須菩提、若し菩薩先世に尸羅波羅蜜を聞くと雖、中事を問はざれば、今世に般若波羅蜜を聞くも、問はざるが故に續いて復疑悔す。須菩提、若し菩薩先世に檀那波羅蜜を聞くと雖、中事を問はざれば、今世に般若波羅蜜を聞くも、問はざるが故に續いて復疑悔す。復次に須菩提、菩薩摩訶薩先世に內空、外空、內外空、乃至無法有法空を聞くと雖、中事を問はざれば、來りて人中に生じ、是の深般若波羅蜜を聞くも、問はざるが故に續いて復疑悔し悟り難し。復次に須菩提、菩薩摩訶薩先世に四念處乃至八聖道分、四禪、四無量心、四無色定、五神通、佛の十力、乃至一切種智を聞くと雖、中事を問はざれば、來りて人中に生じ、是の深般若波羅蜜を聞くも、問はざるが故に續いて復疑悔し悟り難し。(一七)復次に、須菩提、菩薩摩訶薩先世に深般若波羅蜜を聞き、中事を問ひて而も行ぜざれば、捨身して生ずる時、是の深般若波羅蜜を聞くこと、若は一日、二日、三日、四日、五日、其の心堅固にして能く壞する者無きも、若し所聞を離

【一七】以下、中人聞解せるものを明す。この人信解あり暫く堅固なるも後信樂する能はず。

る時は便ち退失す。何を以ての故に、先世是の深般若波羅蜜を聞く時、中事を問ふと雖、說の如く行ぜざればなり。是の人或る時は聞かんと欲し、或る時は聞かんと欲せず、心輕くして固からず、志亂れて定まらず。譬へば輕毛の風に隨つて東し、西するが如し。須菩提、當に知るべし、是の菩薩發意すること久しからず、善知識と相隨せず、多く諸佛を供養せず、先世に是の深般若波羅蜜を書せず、讀せず、誦せず、正憶念せず、般若波羅蜜を學せず、禪那波羅蜜を學せず、毗梨耶波羅蜜を學せず、羼提波羅蜜を學せず、尸羅波羅蜜を學せず、檀那波羅蜜を學せず、內空乃至無法有法空を學せず、四念處乃至八聖道分を學せず、四禪、四無量心、五神通、佛の十力を學せず、乃至一切種智を學せず。是の如く須菩提、當に知るべし是の菩薩摩訶薩新に大乘意を發すも信少なく樂少なきが故に、是の深般若波羅蜜を書すること能はず、受持し、讀誦し、說き正憶念すること能はず。須菩提、若し佛道を求むる善男子善女人、是の深般若波羅蜜を書せず、受持讀誦せず、說かず、正憶念せざれば亦深般若波羅蜜の護る所とならず、乃至一切種智の護る所と爲らず。是の人亦說の如く深般若波羅蜜を行ぜず、乃至說の如く一切種智を行ぜず。是の人或は二地、若は聲聞地、若は辟支佛地に墮す。何を以ての故に、是の善男子善女人、是の深般若波羅蜜を書せず、讀せず、誦せず、說かず、正憶念せざればなり。是の人も亦深般若波羅蜜の護る所と爲らず、亦說の如く行ぜず。是を以ての故に是の善男子善女人、二地の中に於て當に一地に墮すべし。』

(一)譬喩品第五十一

(二)佛、須菩提に告げ給はく、『譬へば大海の中にて(三)船破壞するが如し、其の中の人若し木を取らず器物を取らず、浮嚢を取らず、死屍を取らざれば、須菩提、當に知るべし是の人彼岸に到らず、海中に沒して死す。須菩提、若し船破るる時、其の中の人木を取り、器物、浮嚢、死屍を取らば、當に知るべし、是の人終に沒死せず安穩無礙にして彼岸に到ることを得。須菩提、佛道を求むる善男子善女人も亦復是の如し。若し但だ信樂のみ有りて、深般若波羅蜜に依らず、書せず、讀せず、誦せず、正憶念せず、禪那波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜に依らず、書せず、讀せず、誦せず、正憶念せず、乃至一切種智に依らず、書せず、讀せず、誦せず、正憶念せざれば、須菩提、當に知るべし是の善男子中道にして衰耗す、是の人未だ一切種智に到らず、(四)聲聞辟支佛地に於て證を取る。須菩提、若し佛道を求むる善男子善女人有り、阿耨多羅三藐三菩提の爲めの故に、(五)信有り、忍有り、淨心有り、深心有り、欲有り、解有り、捨有り、精進有り、是の人深般若波羅蜜に依り、書持し、讀誦し、說き正憶念す。是の善男子善女人阿耨多

【一】前品所說中下人は般若に護られずして退轉す。今譬喩を以て般若の護持を要することを明す。
【二】船、瓶、老年、等を譬說す。
【三】船は行者の身に浮嚢等は般若方便に譬ふ。
【四】聲聞獨覺の小果を證して進まざるに至る。
【五】信忍等次第して深し、信は罪福因果を信じ六度を以て成佛すると信ず。忍は忍許安住

羅三藐三菩提の爲めの故に、諸の信、忍、淨心、深心、欲、解、捨、精進有り、深般若波羅蜜の護る所と爲り、乃至一切種智の護る所と爲る。深般若波羅蜜の爲めに守護せらるるが故に、乃至一切種智の爲めに守護せらるるが故に終に中道にして衰耗せず。聲聞辟支佛地を過ぎて能く佛國土を淨め、衆生を成就し、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。須菩提、譬へば男子女人(六)坏瓶を持て、水を若は河、若は井、若は池、若は泉に取るが如し。當に知るべし是の瓶久しからずして爛壞す。何を以ての故に、是の瓶未熟なるが故に還て(七)地に歸す。是の如く須菩提、善男子善女人、阿耨多羅三藐三菩提心を爲す有り、信有り、忍有り、淨心有り、深心有り、欲有り、解有り、捨有り、精進有りと雖、般若波羅蜜方便力の守護する所と爲らず、禪那波羅蜜、毗棃耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜の守護する所と爲らず、內空、乃至無法有法空、四念處乃至八聖道分、佛の十力乃至一切種智の守護する所と爲らず。須菩提當に知るべし、是の人中道にして衰耗し、聲聞辟支佛地に墮す。須菩提、譬へば男子女人(八)熟瓶を持て水を若は河、若は井、若は池、若は泉より取るが如し。當に知るべし、是の瓶水を持つこと安穩なり。何を以ての故に、是の瓶成熟せるが故に。是の如く須

するなり。忍するも邪疑斷ぜざれば心濁る。淨心は清くして濁らざるなり。深心は淨心淺からざるを云ふ。一心に餘事を捨て、無上道を得んと欲するを欲と云ふ。餘は小事、無上道の大事たるを了知するを解と云ふ。欲解定りて、財と惡とを捨つるを捨と云ふ。捨によりて勇猛なるを精進と云ふ。

【六】坏瓶。火にかけざる土器の瓶、菩薩道に喩ふ。火は般若方便なり。水は六度功德に譬ふ。

【七】地に歸す。原の土と化す。

【八】熟瓶。火にかけたる陶瓶。淨菩薩道に喩ふ。

菩提、善男子善女人、阿耨多羅三藐三菩提を求め、諸の信、忍、淨心、深心、欲、解、捨、精進有れば、般若波羅蜜方便力の守護する所となり、禪定、精進、忍辱、持戒、布施、乃至一切種智の守護する所と爲るが故に。須菩提、當に知るべし、是の人中道にして衰耗せず、聲聞辟支佛地を過ぎ、能く佛國土を淨め、衆生を成就し、阿耨多羅三藐三菩提を得。須菩提、譬へば大海邊の(九)船未だ莊治せず、便ち(一〇)財物を持て上に著くるが如し。須菩提當に知るべし、是の船中道にして壞沒し、人船財物(一一)各一處に在り、是の賈客方便力無きが故に、其の重寶を亡ふ。是の如く須菩提、是の佛道を求むる善男子善女人、阿耨多羅三藐三菩提の爲めにする心有り、信、忍、淨心、深心、欲、解、捨、精進有りと雖、般若波羅蜜方便力の守護する所と爲らず、乃至一切種智の守護する所と爲らざるが故に。當に知るべし是の人中道にして衰耗して大珍寶を失ふ、大珍寶とは所謂一切種智なり、衰耗とは聲聞辟支佛地に墮するなり。須菩提、譬へば人智有り、方便して海邊に大船を莊治し、然る後水中に推著して、財物を持て上に著け、船に上りて去るが如し。當に知るべし是の船中道にして沒壞せず、必ず安穩にして所至の處に到ることを得ん。是の如く須菩提善男子善女人、阿耨多羅三藐三菩提の爲めに、信、忍、淨心、深心、欲解、捨、精進有り、般若波羅蜜方便力の守護する所と爲り、禪定、精進、忍辱、持戒、布施、乃至一切種智の守護する所と爲るが故に、當に知るべし、

【九】船未だ莊治せず。菩薩の方便なきに喩ふ。
【一〇】財物。信等の功徳に喩ふ。
【一一】各一處。異處なり。本願に反して人天二乘等に墮するなり。

是の菩薩阿耨多羅三藐三菩提に到ることを得て、中道にして聲聞辟支佛地に墮せず。須菩提、譬へば(二)人有り年百二十歲、年耆い根熟し、又風冷熱病、若は雜病有るが如し、須菩提、汝が意に於て云何、是の人能く(三)牀より起つや不や。』須菩提言さく『能はず。』佛言はく『是の人或は能く起つ者有りや云何。』須菩提言さく『是の人能く起つと雖、遠く若は十里、若は二十里に行くこと能はず、其老病を以ての故に。是の如く須菩提、善男子善女人、阿耨多羅三藐三菩提の爲めにする心有り、信忍、淨心、深心、欲、解、捨、精進有りと雖も、般若波羅蜜方便力の守護する所と爲らず、乃至一切種智の守護する所と爲らざるが故に、當に知るべし、是の人中道にして聲聞辟支佛地に墮す。何を以ての故に、般若波羅蜜方便力の守護する所と爲らざるが故に。須菩提、老に向ふ人百二十歲年耆い根熟し、又風冷熱病、若は雜病有るが如し。是の人而も起つて行かんことを欲す、兩の健人有り、各一腋に扶けて老人に語つて言はく、所難有ること莫れ、至らんと欲する所に隨つて我等二人終に相捨てずと。是の如く須菩提、若し善男子善女人阿耨多羅三藐三菩提の爲めに、信、忍、淨心、深心、欲、解、捨、精進有り、般若波羅蜜方便力の護る所と爲り、乃至一切種智の護る所と爲るが故に。當に知るべし、是の人中道にして聲聞辟支佛地に墮せず、能く是の處、所謂阿耨多羅三藐三菩提に到る。』

(四)爾の時、佛復須菩提を讚して言はく、『善い哉、善い哉、須菩提、汝諸

【二】老病人。信等功德ある菩薩六十二邪見等を斷ぜざるを老年とし、百八煩惱等を斷ぜざるを病ありとす。

【三】牀。病床なり、三界に喩ふ。

【四】佛須菩提を印可して更に

菩薩摩訶薩の爲めに、佛に是の事を問ふ。須菩提、若し佛道を求むる善男子善女人有り、初發意より以來、(一五)我我所心を以て布施し、持戒し、忍辱し、精進し、禪定し、智慧す。是の善男子善女人、布施の時是の念を作す、我は是れ施主なり、我れ是の人に施す、我れ是の物を施す、我れ戒を持す、我れ忍を修す、我れ精進す、我れ禪定に入る、我れ智慧を修すと。是の善男子善女人、是の施有り是れ我が施なりと念ず。乃至是の慧有り是れ我が慧なりと念ず。何を以ての故に、檀那波羅蜜中是の如き分別無し。此彼岸を遠離するは是れ檀那波羅蜜相なればなり。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜中是の如きの分別無し、何を以ての故に、此彼岸を遠離するは、是れ般若波羅蜜相なればなり、(一六)是の人此岸を知らず、彼岸を知らず、是の人檀那波羅蜜を爲さず、乃至一切種智の護る所と爲らざるが故に、聲聞辟支佛地に墮し、薩婆若に到ること能はず。須菩提、云何が佛道を求むる人方便無きや。須菩提、佛道を求むる人初發心より已來方便無く、布施、持戒、忍辱、精進、禪定を行ひ、智慧を修す。是の人是の如きの念を作す、我れ布施す、是の人に施す、是の物を用て施す、我れ持戒し、忍辱を修し、勤精進し、禪定に入り、智慧を修し、是の如く智慧を修すと。是の人是の施有り、是れ我が施なりと念ず、是の施を以て自ら高うす。是の戒有り、是れ我が戒なりと念ず、是の戒を以て自ら高うす。是の忍有り是れ我が忍なりと念ず、

失行の因縁を說く。

【一五】我我所心。我れは是れ施主なりとは我、是れ我が施なりとは我所なり。

【一六】然るに是の人方便なく內我我所心あり外一切法空を觀ぜず取相するを云ふ。

是の忍を以て自ら高うす。是の精進有り、是れ我が精進なりと念ず、是の精進を以て自ら高うす。是の禪定有り、是れ我が禪定なりと念ず、此の禪定を以て自ら高うす。是の智慧有り、是れ我が智慧なりと念ず、此の智慧を以て自ら高うす。何を以ての故に、檀那波羅蜜中是の如きの分別無ければなり。此彼岸を遠離するは、是れ檀那波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ尸羅波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ羼提波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ毘梨耶波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ禪那波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ般若波羅蜜相なり。何を以ての故に、般若波羅蜜中是の憶念分別無ければなり。是の佛道を求むる善男子善女人此岸を知らず、彼岸を知らず。此の人(二七)檀那波羅蜜の護る所と爲らず、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜の護る所と爲らず、乃至一切種智の護る所と爲らざるが故に、或は聲聞道中に墮し、或は辟支佛道中に墮し、薩婆若に到ることを得ること能はず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜方便力の守護する所と爲らざるが故に、或は聲聞地に墮し、或は辟支佛道中に墮す。須菩提、云何が菩薩摩訶薩般若波羅蜜方便力の護る所と爲るが故に、聲聞辟支佛道中に墮せず、疾に阿耨多羅三藐三菩提を得るや。須菩提、菩薩初めより已來、方便力を以て布施し、我我所心無くして布施し、乃至我我所心無くして智慧を修す。是の人是の念を作さず、我れ是の施有り。是れ我が施なりと、是の施を以て自ら高うせず。

【二七】五波羅蜜に功徳を得、般若波羅蜜に智慧を得、二因緣を以て道を失はざるを守護せらると云ふ。

乃至般若波羅蜜も亦是の如し。是の菩薩我れ布施すと念せず、我れ是の人に施し、是の物を用て施すと念せず。我れ持戒す、是の戒有りと念せず。我れ忍辱す、是の忍辱有りと念せず。我れ精進す、是の精進有りと念せず。我れ禪定す、是の禪定有りと念せず。我れ智慧を修す、是の智慧有りと念せず。何を以ての故に、是の檀那波羅蜜中是の如きの分別無ければなり。此彼岸を遠離するは、是れ檀那波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ尸羅波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ羼提波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ毗棃耶波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ禪那波羅蜜相なり。此彼岸を遠離するは、是れ般若波羅蜜相なり。何を以ての故に、是の般若波羅蜜中是の如きの憶念分別無ければなり。(一八)是の菩薩摩訶薩此岸を知り、彼岸を知る。此の人檀那波羅蜜の護る所と爲る、尸羅波羅蜜の護る所と爲る、羼提波羅蜜の護る所と爲る、毗棃耶波羅蜜の護る所と爲る、禪那波羅蜜の護る所と爲る、般若波羅蜜の護る所と爲る、乃至一切種智の護る所と爲るが故に、聲聞辟支佛地に墮せず、薩婆若に到ることを得。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜方便力の護る所と爲るが故に、聲聞辟支佛地に墮せず。疾に阿耨多羅三藐三菩提を得。』

【一八】是の菩薩方便ありて、內我我所心なく外一切法空を觀じ取相せず般若方便乃至一切種智に護らるゝを云ふ。

(一)善知識品第五十二

(二)爾の時、慧命須菩提佛に白して言さく、『世尊、(三)新學の菩薩摩訶薩、云何が般若波羅蜜、禪那波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜を學ぶべき』と。佛、須菩提に告げ給はく、『新學の菩薩摩訶薩、若し般若波羅蜜、禪那、精進、忍辱、持戒、檀那波羅蜜を學せんと欲せば、先づ當に善知識の能く是の深般若波羅蜜を說く者に親近し、供養すべし。是の人(四)是の教を作す、汝善男子、有ゆる布施を一切阿耨多羅三藐三菩提に廻向せよ、善男子、有ゆる持戒、忍辱、精進、禪定、智慧を一切阿耨多羅三藐三菩提に廻向せよ、汝色を是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと以ふこと莫れ、受想行識を是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと以ふこと莫れ。檀那波羅蜜、是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと以ふこと莫れ、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと以ふこと莫れ。內空、乃至無法有法空、是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと以ふこと莫れ、四念處、四正勤、四如意足、五根、五力、七覺分、八聖道分是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと以ふこと莫れ、四禪、四無量心、四無色定、五神通、是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと以ふこと莫れ、佛の十力、乃至十八不共法、

【一】品目麗本單に知識品に作る。この品新學は般若に通ずる善知識に近くべきを明し、知識の教說を示す。
【二】佛、善知識の教化を說く。
【三】新學等。新發意なるも亦般若の氣味を得て施等の功德に著せざるものなり。
【四】無上菩提に廻向して相を取るべからざるを教ふ。

是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと以ふこと莫れ。所以は何、色を取らざれば便ち阿耨多羅三藐三菩提を得、受想行識を取らざれば便ち阿耨多羅三藐三菩提を得、檀那波羅蜜、乃至般若波羅蜜を取らざれば便ち阿耨多羅三藐三菩提を得、內空、乃至無法有法空、四念處乃至十八不共法を取らざれば、便ち阿耨多羅三藐三菩提を得ればなり。善男子、是の深般若波羅蜜を行ずる時、色を貪ること莫れ。何を以ての故に、善男子、是れ色は貪るべき者に非ざればなり。受想行識を貪ること莫れ。何を以ての故に、受想行識は貪るべき者に非ざればなり。善男子、檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜を貪ること莫れ、內空、乃至無法有法空を貪ること莫れ。四念處、乃至八聖道分を貪ること莫れ、四禪、四無量心、四無色定、五神通を貪ること莫れ。佛の十力、乃至一切種智を貪ること莫れ。何を以ての故に、一切種智は貪るべき者に非ざればなり。善男子、須陀洹果、乃至阿羅漢果を貪ること莫れ、辟支佛道を貪ること莫れ、菩薩法位を貪ること莫れ、阿耨多羅三藐三菩提を貪ること莫れ。何を以ての故に、阿耨多羅三藐三菩提は貪るべき者に非ざればなり。所以は何、(五)諸法性空なるが故に』。

(六)須菩提、佛に白して言さく、『世尊、諸菩薩摩訶薩能く(七)難事を爲す。一切性空法中に於て阿耨多羅三藐三菩提を求め、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲す』。佛言はく『是の如し是の如し、須菩提菩薩摩訶薩能く難事を爲す、

【五】諸法性空：新學菩薩に教ふるに法空不取不著を以てするは高きに過ぐるが如し。大論性空に大菩薩の所得と小菩薩の所學とあり。小菩薩柔順忍

一切性空法中に於て阿耨多羅三藐三菩提を求め、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲す。須菩提、諸菩薩摩訶薩、世間を（八）安穩ならしめんが爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發す。世間を（九）樂ましめんが爲めの故に、世間を（一〇）救はんが爲めの故に、世間の（一一）歸の爲めの故に、世間の（一二）依處の爲めの故に、世間の（一三）洲の爲めの故に、世間の（一四）將導の爲めの故に、世間の（一五）究竟道の爲めの故に、世間の（一六）趣の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發す。須菩提、云何が菩薩摩訶薩世間を安穩ならしめんが爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得る時、六道の衆生を拔出して（一七）無畏の岸、涅槃の處に著せしむ。須菩提、是を菩薩摩訶薩、世間を安穩ならしめんが爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すと爲す。云何が菩薩摩訶薩、世間を樂ましめんが爲めの故に阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得る時、衆生種種の憂苦愁惱を拔出して、無畏の岸、涅槃の處に著せしむ。須菩提、是を菩薩摩訶薩世間を樂しめんが爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すと爲す。云何が菩薩摩訶薩、世間を救はんが

を以て空を學するを云ふとせり。

【六】菩薩の性空を知り無上道心を發すこと甚難希有なるを明す。

【七】難事。煩惱未だ斷ぜず、大悲未だ具せず、不退未だ得ずして性空に住し化他道心を得るは甚だ難し。

【八】安隱。此に安隱等九故を擧ぐ、安隱とは能く一切の煩惱を破り決して變ぜず、道を作つる故に多世常に安きこと良藥疾を根治して安きが如し。

【九】樂。安隱にして今後世樂なるを云ふ、涅槃の樂なり。

【一〇】救。諸佛説法能く罪惡因緣の促迫を救護するを云ふ。

【一一】歸。房舍に歸る如く佛に歸す、卽ち佛は衆生の憂苦を除く。

【一二】依處。依止に二あり、愛見

爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。須菩提、菩薩摩訶薩・阿耨多羅三藐三菩提を得る時、衆生を生死中の種種の苦より救ひ、亦是の苦を斷ぜんが爲の故に、而も說法を爲す、衆生法を聞き、漸く三乘を以て度脫を得。須菩提、是を菩薩摩訶薩衆生を救はんが爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すと爲す。云何が菩薩摩訶薩世間の歸の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得る時、衆生、生老病死相。憂悲愁惱法より拔出して、無畏の岸、涅槃の處に著せしむ。須菩提、是を菩薩摩訶薩世間の歸の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すと爲す。云何が菩薩摩訶薩。世間の依處の爲めの故に阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得る時、衆生の爲めに一切法無依處なることを說く。須菩提、是を菩薩摩訶薩世間の依處の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すと爲す。』須菩提、佛に白して言さく、『世尊、云何が一切法無依處なりや。』佛言はく、『色相續せず、卽ち是れ色無生なり、色無生なれば卽ち是れ色不滅なり、色不滅なれば卽ち是れ色無依處なり。受想行識、乃至一切種智も亦是の如し。須菩提、是を菩薩摩訶薩世間依處の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すと爲す。云何が菩薩摩訶薩

煩惱を以て有爲法に依ると淸淨智慧を以て涅槃に依らとなり、卽ち見思所依の誤謬を示し無依止とするを依處とす。

【三】洲。衆生四流に沒す、八正の船を以て涅槃の洲に著せしむ、前後際不可得に喩ふるものとす。

【四】將導。衆生を引接導化するを云ふ。

【五】究竟道。諸法實相なり。

【六】趣。歸に同じ、下に特に廣說す。

【七】無畏。一切智漏盡等四無畏の境なり。

世間究竟道の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。須菩提、菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提を得る時、衆生の爲めに是の如きの法を説く、色究竟相是れ色に非ず。受想行識、乃至一切種智究竟相、是れ一切種智に非ず。須菩提、究竟相の如く、一切法相も亦是の如し。』須菩提言さく『世尊、若し一切法相究竟相の如くならば、云何ぞ諸菩薩摩訶薩、皆阿耨多羅三藐三菩提を得べき。何を以ての故に、世尊、色究竟相中分別有ること無く、受想行識究竟相中分別有ること無く、乃至一切種智究竟相中分別有ること無し。』佛、須菩提に告げ給はく、『是の如し是の如し、色究竟相中分別有ること無く、受想行識、乃至一切種智究竟相中分別有ること無し。所謂是れ色、是れ受想行識、乃至是れ一切種智なりと。』所謂是れ色、乃至是れ一切種智なりと。須菩提、是を菩薩摩訶薩の難事と爲す。是の如く諸法寂滅相を觀じ、而も心沒せず、却せず。何を以ての故に、菩薩摩訶薩是の念を作せばなり、「是の諸深法我れ應に是の如く、阿耨多羅三藐三菩提を知得すべし。是の如き寂滅微妙法當に衆生の爲めに説くべし」と。是を菩薩摩訶薩世間究竟道の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すと爲す。云何が菩薩摩訶薩世間の洲の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。須菩提、若し江河大海四邊水斷ぜば、是を名けて洲と爲す。須菩提、色も亦是の如く前後際斷ず、受想行識も前後際斷ず、乃至一切種智前後際斷ず。是の前後際斷ずるを以ての故に一切法も亦斷ず。須菩提、是の一切法前後際斷ずるが故に卽ち是れ寂滅、卽ち是れ妙寶なり。所謂空無所得、愛盡無餘、離欲涅槃なり。須菩提、若し菩

薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得る時、寂滅微妙の法を以て衆生の爲めに說かば、須菩提是を菩薩摩訶薩世間の洲の爲めの故に阿耨多羅三藐三菩提心を發すと爲す。云何が菩薩摩訶薩、世間の將導の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得る時、衆生の爲めに色不生、不滅、不垢、不淨を說き、受想行識不生、不滅、不垢、不淨を說き。十二入、十八界、四念處、乃至八聖道分、四禪、四無量心、四無色定、五神通不生、不滅、不垢、不淨を說き。須陀洹果、乃至阿羅漢果辟支佛道不生、不滅、不垢、不淨を說き、佛の十力、乃至一切種智不生、不滅、不垢、不淨を說く。須菩提、是を菩薩摩訶薩世間の將導の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すと爲す。

〔一八〕云何が菩薩摩訶薩、世間の趣の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得る時、衆生の爲めに〔一九〕色趣空を說き、受想行識趣空を說き、乃至一切種智趣空を說く。衆生の爲めに色〔二〇〕非趣非不趣を說く。何を以ての故に、是の色空相、趣に非らず不趣に非らざればなり。受想行識相非趣非不趣を說く、何を以ての故に、是の受想行識空相、趣に非らず不趣に非らざればなり。乃至一切種智・非趣、非不趣（を說く）。何を以ての故に、是れ一切種智空相、趣に

〔一八〕世間の趣を廣說す。趣は安隱等と同義なるも代表として趣に就て說くなり。

〔一九〕色趣空。諸相の究竟相は空にして色等終に空に歸するを云ふ。

〔二〇〕非趣非不趣。色等皆和合假名にして實ならざれば趣不趣に依て空なり有なるにあらず。

非らず不趣に非らざればなり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩世間の趣の爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發す。何を以ての故に、(二)一切法空に趣けばなり。(三)是の趣過ぎず。何を以ての故に、空の中に趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法(三)無相に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、無相の中に趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法無作に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、無作の中に趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法無起に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、無起中趣非趣不可得なるが故に。須菩提一切法無所有、不生、不滅、不垢、不淨に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、無所有、不生、不滅、不垢、不淨中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法夢に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、夢中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法幻に趣き、響に趣き、影に趣き、化に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、是の化等の中に趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法無量無邊に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、無量無邊中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法(四)不與不取に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、不與不取中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法不擧不下に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に不擧不下中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法不增不減に趣き、是

【二】一切法等。趣の爲に發心するは一切法趣空ならざるなきが故なり。

【三】是の趣過ぎず。是の空が出過するなきも空は偏無にあらず、不可得なるを云ふなり。

【三】無相等以下空の如く無相無作等も亦然るを明す。

【四】不與不取等。空等に趣き趣も不可得なるが如く與擧下增減去來入出合散著斷等の動相に在りても皆然るを明す。空

趣過ぎず。何を以つての故に、無增無滅中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法不來不去に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、不來不去中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法不入不出、不合不散、不著不斷に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、不著不斷中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法我、衆生壽命、人、起使起、作使作、知者見者に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、我乃至知者見者畢竟不可得なればなり。云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法常に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、常畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法樂淨我に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、樂淨我畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法無常苦不淨無我に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、無常苦不淨無我畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法欲事に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、欲事畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法瞋事癡事見事に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、瞋事癡事見事畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法如に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、如中無來無去なるが故に。須菩提、一切法法性、實際、不可思議性に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、法性實際不可思議性中無來無去なるが故に。須菩提、一切法平等に趣き、是の趣過ぎず。

の故に不可得なるのみならず、與も取も不可得なり。人我常樂三毒如法性三科六度佛法皆然り、孰れも中心となりて一切法の所趣たるも還も亦不可得なり。

何を以ての故に、平等中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法不動相に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、不動相中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法色に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、色畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法受想行識に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、受想行識畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。十二入十八界も亦是の如し。須菩提、一切法檀那波羅蜜に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、檀那畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法尸羅波羅蜜に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、尸羅畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法羼提波羅蜜に趣き、此の趣過ぎず。何を以ての故に、羼提畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法毗梨耶波羅蜜に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、毗梨耶畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法禪那波羅蜜に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、禪那畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法般若波羅蜜に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、般若畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法內空に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、內空畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法外空に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、外空畢竟不可得なればなり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法內外空に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、

內外空畢竟不可得なり、云何が當に趣非趣有るべき。乃至一切法無法有法空に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、無法有法空畢竟不可得なり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法四念處、乃至八聖道分に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に　四念處乃至八聖道分畢竟不可得なり、云何が當に趣非趣有るべき。須菩提、一切法佛十力、乃至一切種智に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、一切種智中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果、辟支佛道に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に須陀洹果、乃至辟支佛道中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法阿耨多羅三藐三菩提に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、阿耨多羅三藐三菩提中趣非趣不可得なるが故に。須菩提、一切法須陀洹、乃至佛に趣き、是の趣過ぎず。何を以ての故に、須陀洹乃至佛中趣非趣不可得なるが故に。』

（二五）須菩提、佛に白して言さく、『世尊是の深般若波羅蜜、誰か能く信解する者ぞ。』佛、須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩有り、先に諸佛の所に於て、久しく六波羅蜜を行じ、善根純熟して、無數百千萬億の諸佛を供養し、善知識と相隨す、是の輩人能く是の深般若波羅蜜を信解す。』『須菩提佛に白して言さく、『世尊、能く是の深般若波羅蜜を信解する者、何等の性、何等の相、何等の貌有りや。』佛言はく、『欲瞋癡（二六）斷離す、是れ性相貌な

【二五】深細の般若を信ずるは久行純熟の三毒斷離せるものなるを明す。

【二六】斷離。斷に根本的に斷すると薄少ならしむるとあり、今は薄少斷なり。而も斷と煩惱とを分別せざるが故に煩惱卽斷なるを離と云ふ。

り。是の菩薩摩訶薩は即ち能く深般若波羅蜜を信解す。」

(一)趣一切智品第五十三

(二)須菩提、佛に白して言さく、『世尊、是の諸菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜を解する者、當に何所に趣くべき。』佛、須菩提に告げたまはく、『是の菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜を解し、當に(三)一切種智に趣くべし。』須菩提、佛に白して言さく、『世尊、是の菩薩摩訶薩、能く一切種智に趣く者は、則ち一切(四)衆生の歸趣する所と爲る、般若波羅蜜を修するが故に。世尊、般若波羅蜜を修するは、卽ち是れ(五)一切法を修するなり。世尊、(六)所修無きは是れ般若波羅蜜を修するなり。(七)不受修(八)壞修は是れ般若波羅蜜を修するなり。』佛、須菩提に告げ給はく、『何等の法壞するが故に、般若波羅蜜を壞修と爲すや。』『世尊、(九)色壞するが故に、般若波羅蜜を壞修と爲す。受想行識、十二入、十八界壞するが故に、般若波羅蜜を壞修と

【一】品目麗本趣智品に作る。因果常住に對して前に非趣非不趣とせるも、今無著心を以て般若行者の一切智に趣くを明す。

【二】一切種智に趣く者所歸たり。壞修を受けざるを明す。

【三】一切趣智に趣く。これ實に般若の行果と云ふにあらず。般若を修すれば諸法に障礙なし、一切種智は無障解脱なれば、趣果の言を借りて云ふのみ。

【四】衆生の歸趣。窮子父母に歸するが如く般若を解する菩薩は無生に大悲ある故に所歸趣となる。

【五】一切法を修す。般若諸法を解して實に契ふを以て眞に一切を修することとなる。

【六】所修無。定實の可得なるものなきが故に所修とすべきものなし。

【七】不受修。諸觀行皆過失あるが故に觀ぜりとせざるなり。

【八】壞修。所觀に於て一切法常なく散壞すとするを云ふ。

【九】色壞等。壞修の壞とするは染淨一切法なるを明す。

爲す。我乃至知者見者壞するが故に、般若波羅蜜を壞修と爲す。世尊、檀那波羅蜜壞するが故に、般若波羅蜜を壞修と爲す。乃至般若波羅蜜壞するが故に般若波羅蜜を壞修と爲す。內空乃至無法有法空、四念處、乃至十八不共法、須陀洹果、乃至一切種智壞するが故に、般若波羅蜜を壞修と爲す。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、色壞するが故に、般若波羅蜜を壞修と爲し、乃至一切種智壞するが故に、般若波羅蜜を壞修と爲す。』爾の時、佛須菩提に告げ給はく（一〇）『是の深般若波羅蜜中阿毗跋致菩薩摩訶薩、應に驗知すべし。若し菩薩摩訶薩、是の深般若波羅蜜の中に於て著せざれば、當に知るべし是れ阿毗跋致なり。禪那波羅蜜、乃至檀那波羅蜜中に著せず、四念處、乃至一切種智中に著せざれば、當に知るべし是れ阿毗跋致なり。

（一一）若し阿毗跋致の菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜を行ずる時、（一二）他語を以て堅要と爲さず、亦（一三）他の教行に隨はざれば、阿毗跋致の菩薩摩訶薩欲心瞋心癡心の牽く所と爲らず。若しは阿毗跋致の菩薩摩訶薩、六波羅蜜を（一四）遠離せず、若しは阿毗跋致の菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜を說くを聞く時、心驚かず、沒せず、怖かず、畏れず悔いず、歡喜し、樂聞し、受持し、讀誦し、正憶念し、說の如く行ず。須菩提、當に知るべし是の菩薩先世に已に是の深般若波羅蜜中の事を聞き已りて、受持し、讀誦し、說き正憶念す。何を以

【一〇】般若行者の不退なるを知るは不著にあるを明す。
【一一】不退菩薩の般若に習熟せる相を明す。
【一二】他語。在家欲樂の不淨語、出家外道の邪見語、皆諸法實相に反するを云ふ。故に堅實肝要とせず。
【一三】他の教行。有爲の不實相を云ふ。
【一四】遠離せず。善法果報を知りて愛樂すればなり。

ての故に、是の菩薩摩訶薩、大威德有るが故に、是の深般若波羅蜜を聞き、心驚かず、怖かず、畏れず、沒せず、悔いず、歡喜し、樂聞し、受持し、讀誦し、正憶念す。』須菩提、佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜を聞きて驚かず、怖かず、乃至正憶念せば、世尊、是の菩薩摩訶薩云何が、是の般若波羅蜜を行ずるや。』佛言はく、（一五）『一切種智に隨順する心にて、是の菩薩摩訶薩應に（一六）是の如く般若波羅蜜を行ずべし。』『世尊、云何が一切種智に隨順する心と名け、是の菩薩摩訶薩、應に是の如く般若波羅蜜を行ずべしとするや。』佛言はく、『空を以て隨順す。是を菩薩摩訶薩深般若波羅蜜を行ずと爲す。無相、無作、無所有、不生、不滅、不垢、不淨を以て隨順す。是の菩薩摩訶薩、應に是の如く般若波羅蜜を行ずべし。夢、幻、焰、響、化の如きを以て隨順す。是れ般若波羅蜜を行ずるなり。』須菩提、佛に白して言さく、『佛、空を以て隨順し、乃至夢の如く、幻の如く隨順し、應に是の如く般若波羅蜜を行ずべきことを說きたまふ。世尊、是の菩薩摩訶薩は何の法を行ずるや。若は色、若は受想行識、乃至一切種智なりや。』佛、須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩色を行せず、受想行識を行ぜず、乃至一切種智を行ぜず。何を以ての故に、是の菩薩行

（一五）一切種智に隨順する心。未だ一切種智を得ざるも畢竟空に隨順する心を云ふなり。

（一六）是の如く。空の如く畢竟無相無作虛空無生無滅無垢無淨如夢等も亦然るなり。

（一七）作法無く。色等の有爲作を出過し虛妄とすればなり。無作の故に壞法無し。

（一八）從來する所無く。六度より果して來るともせざるなり

（一九）去る所無く。別に佛法中に向て出入すとすべきものもなし。

（二〇）色は卽ち是れ薩婆若。般若は一法も行ぜず得ざるが故に一色一香中道ならざるなく一切智ならざるなし。

ずる處（一七）作法無く、壞法無く、（一八）從來する所無く、亦（一九）去る所無く。住處無し。是の法數ふべからず、量有る無く、若は無數無量なり。是の法得べからず、色を以て得べからず、乃至一切種智を以て得べからず。何を以ての故に、（二〇）色は即ち是れ薩婆若、薩婆若は即ち是れ色なり。乃至一切種智は即ち是れ薩婆若。薩婆若は即ち是れ一切種智なり。（二一）若は色如相、乃至一切種智如相、是皆れ一如にして無二、無別なり。色如相、薩婆若如相、一如にして無二、無別なり、乃至一切種智も亦是の如し。

【二一】以下重ねて色是れ薩婆若の故を示す。色如相一切智如相無二一如なるが故なりと。

摩訶般若波羅蜜經卷第一

〔麗芥〕〔宋薑〕〔元薑〕〔明薑〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

序品第一

如是我聞。一時佛住王舍城耆闍崛山中共摩訶比丘僧大數五千分。皆是阿羅漢諸漏已盡無復煩惱心得好解脫慧得好解脫。其心調柔軟摩訶那伽所作已辦。棄擔能擔逮得已利。盡諸有結正智已得解脫。唯阿難在學地得須陀洹。復有五百比丘尼優婆塞優婆夷等。皆得聖諦。復有菩薩摩訶薩。皆得陀羅尼及諸三昧行空無相無作已得等忍得無礙陀羅尼。悉是五通。言必信受無復懈怠。已捨利養名聞。說法無所悕望。度深法忍得無畏力過諸魔事。一切業障悉得解脫。巧說因緣法。從阿僧祇劫以來發大誓願。顏色和悅常先問訊所語不麤。於大衆中而無所畏無數億劫說法巧出。解了諸法如幻如焰如水中月如虛空如響如揵闥婆城如夢如影如鏡中像如化。得無礙無所畏。悉知衆生心行所趣。以微妙慧而度脫之。意無罣礙大忍成就如實巧度。願受無量諸佛國土念無量國土。諸佛三昧常現在前。能請無量諸佛。能斷種種見纏及諸煩惱。遊戲出生百千三昧。諸菩薩如是等種種無量功德成就。其名曰颰陀婆羅菩薩。罽那伽羅菩薩。導師菩薩。那羅達菩薩。星得菩薩。水天菩薩。主天菩薩。大意菩薩益意菩薩。增意菩薩。不虛見菩薩。善進菩薩。勢勝菩薩。常懃菩薩。不捨精進菩薩。日藏菩薩。不缺意菩薩。觀世音菩薩。文殊師利菩薩。執寶印菩薩。常舉手菩薩。彌勒菩薩。如是等無量百千萬億那由他諸菩薩摩訶薩一切菩薩。皆是補處紹尊位者。爾時世尊自敷師子座結跏趺坐直身繫念在前。入三昧王三昧一切三昧悉入其中是時世尊。從三昧安詳而起。以天眼觀視世界舉身微笑。從足下千輻相輪中放六百萬億光明。足十指兩踝兩蹲兩膝兩髀腰脊腹脅背臍心胸德字。肩臂手十指項口四十齒。鼻兩孔。兩眼兩耳。白毫相肉髻。各各放六百萬億光明。從是諸光出大光明。徧照三千大千國土。從三千大千國土徧照東方如恒河沙等諸佛

譯號三本俱作姚秦三藏法師鳩摩羅什共僧叡譯十四字每卷皆同○佛同作婆伽婆三字○心上同無其字○正智已同作以正智○唯下元有除字○得三本俱作見○作宋作得○悕宋明俱作希○事同作行○巧同作善○以元作已○語三本俱作言○而同作得○揵同作乾○罣宋作絓○國土三本俱作世界下同○颰同作跋○那下同有那字○大宋作天○懃三本俱作勤○彌勒同作慈氏○量宋明俱作數○身宋作體○臍同作齊○鼻兩宋明俱作兩鼻

以宋明俱作放

踊三本俱作涌下同

三上同有此字○能明作得

化下元有自字

國土。南西北方四維上下亦復如是。若有衆生遇斯光者必得阿耨多羅三藐三菩提。光明出過東方如恒河沙等諸佛國土。南西北方四維上下亦復如是。爾時世尊舉身毛孔皆亦微笑而放諸光。徧照三千大千國土。復至十方如恒河沙等諸佛國土。若有衆生遇斯光者。必得阿耨多羅三藐三菩提。爾時世尊以常光明徧照三千大千國土。亦至東方如恒河沙等諸佛國土。乃至十方亦復如是。若有衆生遇斯光者。必得阿耨多羅三藐三菩提。爾時世尊出廣長舌相徧覆三千大千國土熙怡微笑。從其舌根放無量千萬億光。是一一光化成千葉金色寶華。是諸花上皆有化佛。結跏趺坐說六波羅蜜。衆生聞者必得阿耨多羅三藐三菩提。復至十方如恒河沙等諸佛國土皆亦如是。爾時世尊故在師子座入師子遊戲三昧。以神通力感動三千大千國土。六種震動。東踊西沒西踊東沒。南踊北沒北踊南沒。邊踊中沒中踊邊沒。地皆柔軟令衆生和悅。是三千大千國土中。地獄餓鬼畜生及八難處。即時解脫得生天上。從四天王天處乃至他化自在天處。是諸天人自識宿命。皆大歡喜來詣佛所。頭面禮佛足却住一面。如是十方如恒河沙等國土地皆六種震動。一切地獄餓鬼畜生及八難處即時解脫。得生天上齊第六天。爾時三千大千國土衆生。盲者得視聾者得聽。瘂者能言狂者得正。亂者得定裸者得衣。飢渴者得飽滿。病者得愈形殘者得具足。一切衆生皆得等心相視如父如母如兄如弟如姊如妹。亦如親族及善知識是時衆生等行十善業道淨修梵行。無諸瑕穢恬然快樂。譬如比丘入第三禪皆得好慧。持戒自守不嬈衆生。爾時世尊在師子座上。坐於三千大千國土中。其德特尊光明色像威德巍巍。遍至十方如恒河沙等諸佛國土。譬如須彌山王光色殊特衆山無能及者。爾時世尊以常身示此三千大千國土一切衆生。是時首陀會天梵衆天。他化自在天化樂天兜率陀天夜摩天三十三天四天王天。及三千大千國土人與非人。以諸天花天瓔珞天澤香天末香。天靑蓮花赤蓮花白蓮花紅蓮花天樹葉香持詣佛所。是諸天花乃至天樹葉香以散佛上。所散寶花於此三千大千國土上。在虛空中化成大臺。是花臺邊垂諸瓔珞雜色花蓋五色繽紛。是諸花蓋瓔珞遍滿三千大千世界。以是花蓋瓔珞嚴飾故。此三千大千國土皆作金色。及十方如恒河沙等諸佛國土皆亦如是。爾時三千大千國土及十方衆生各各自念佛獨爲我說法不爲餘人。爾時世尊在師子座熙怡微笑光從口出。遍照三

是三本俱作爾○國宋作界元明俱作世界二字○次國三本俱作世界二字○彼上同有爾時二字○彼國同作彼界○緣上同有何字○於三本俱作諸○間同作界○又宋明俱作及○國三本俱作諸佛世界四字○婆下同有是中有三字○今宋作令次同○國三本俱作世界二字下同○心下同無以字○色下同無光明二字○共宋明俱作時○塗上三本俱有燒香二字○幢同作旛○言下同無世尊二字○牟宋作文下同○菩上三本俱有化字○蜜下元有若字○聞此法宋明俱作若有聞○儀三

千大千國土。以此光故此間三千大千國土中衆生。皆見東方如恒河沙等諸佛及僧。彼間如恒河沙等國土中衆生。亦見此間三千大千國土中釋迦牟尼佛及諸大衆。南西北方四維上下亦復如是。是時東方過如恒河沙等諸佛國土。其國最在邊國名多寶。佛號寶積。今現在爲諸菩薩摩訶薩說般若波羅蜜。彼國有菩薩名曰普明見大光明見地大動又見佛身。到寶積佛所白佛言。世尊。今何因緣。有此光明照於世間地大震動又見佛身。寶積佛報普明言。善男子。西方度如恒河沙等國。有世界名娑婆。佛號釋迦牟尼。今現在欲爲諸菩薩摩訶薩說般若波羅蜜。是其神力。是時普明菩薩白寶積佛言。世尊。我今當往見釋迦牟尼佛禮拜供養。及見彼諸菩薩摩訶薩紹尊位者。皆得陀羅尼及諸三昧。於諸三昧而得自在。佛告普明。欲往隨意宜知是時。爾時寶積佛。以千葉金色蓮花與普明菩薩。而告之曰。善男子。汝以此花散釋迦牟尼佛上。生彼娑婆國中諸菩薩難勝難及。汝當一心以遊彼國。爾時普明菩薩從寶積佛受千葉金色光明蓮花。與無數出家在家菩薩及諸童男童女俱共發引皆供養恭敬尊重讚歎東方諸佛。持諸花香瓔珞澤香末香塗香衣服幢蓋。向釋迦牟尼佛所到已頭面禮佛足一面立白佛言。世尊。寶積如來致問。世尊。少惱少患起居輕利氣力安樂不。又以此千葉金色蓮花供養世尊。爾時釋迦牟尼佛受是千葉金色蓮花。以散東方如恒河沙等諸國土中佛。所散寶花滿東方如恒河沙等諸佛國土。一一花上皆有菩薩。結跏趺坐說六波羅蜜。聞此法者必至阿耨多羅三藐三菩提。諸出家在家菩薩及諸童男童女。頭面禮釋迦牟尼佛足各以供養具供養恭敬尊重讚歎釋迦牟尼佛。是諸出家在家菩薩及諸童男童女。各各以善根福德力故。得供養釋迦牟尼佛多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀。南方度如恒河沙等諸佛國土。其國最在邊國名離一切憂。佛號無憂德。菩薩名離憂。西方度如恒河沙等諸佛國土。其國最在邊國名滅惡。佛號寶山。菩薩名儀意。北方度如恒河沙等諸佛國土。其國最在邊國名勝。佛號勝王。菩薩名德勝下方度如恒河沙等諸佛國土。其國最在邊國名善。佛號善德。菩薩名花上。上方度如恒河沙等諸佛國土。其國最在邊國名喜。佛號喜德。菩薩名德喜。如是一切皆如東方。爾時是三千大千國土。皆成爲寶花遍覆地。懸繒幡蓋香樹花樹皆悉莊嚴。譬如花積世界普花佛國。妙德菩薩。善住意菩薩。及餘大威神諸菩薩皆在彼住。爾時佛知一切世界若天

本俱作義○是同作此○地上同有其字○佛國同作世界○天下魔下梵下宋明俱無世界二字○及三本俱作若○揵同作乾○修同作脩○集下元無佛知衆會已集六字○種下三本俱無智字次同○禪下元無那字○懃三本俱作勤○相同作想下同○閡同作礙○蜜下同無菩薩摩訶薩五字次同

地下同有欲字○惟越同作鞞跋下同施下同無時字戒下時宋作者元明俱無行上元有欲字

世界若魔世界若梵世界若沙門婆羅門。及天若揵闥婆人阿修羅等。及諸菩薩摩訶薩紹尊位者。一切皆集。佛知衆會已集。佛告舍利弗菩薩摩訶薩欲以一切種智知一切法。當習行般若波羅蜜。舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩云何欲以一切種智知一切法。當習行般若波羅蜜。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩以不住法住般若波羅蜜中。以無所捨法應具足檀那波羅蜜。施者受者及財物不可得故。罪不罪不可得故。應具足尸羅波羅蜜。心不動故。應具足羼提波羅蜜。身心精進不懈怠故。應具足毘梨耶波羅蜜。不亂不味故。應具足禪那波羅蜜。於一切法不著故。應具足般若波羅蜜。菩薩摩訶薩以不住法住般若波羅蜜中不生故。應具足四念處四正懃四如意足五根五力七覺分八聖道分。空三昧無相三昧無作三昧。四禪四無量心四無色定八背捨八勝處九次第定十一切處。九相。脹相壞相血塗相膿爛相青相噉相散相骨相燒相。念佛念法念僧。念戒念捨念天。念入出息念死十想。無常想苦想無我想食不淨想一切世間不可樂想死想不淨想斷想離欲想盡想。十一智。法智比智他心智世智苦智集智滅智道智盡智無生智如實智三三昧。有覺有觀三昧。無覺有觀三昧。無覺無觀三昧。三根。未知欲知根知根知已根。舍利弗。菩薩摩訶薩欲遍知佛十力四無所畏四無閡智。十八不共法大慈大悲。當習行般若波羅蜜。菩薩摩訶薩欲具足道慧。當習行般若波羅蜜。菩薩摩訶薩。欲以道慧具足道種慧。當習行般若波羅蜜。欲以道種慧具足一切智。當習行般若波羅蜜。欲以一切智具足一切種智當習行般若波羅蜜。欲以一切種智斷煩惱習當習行般若波羅蜜。舍利弗。菩薩摩訶薩應如是學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲上菩薩位。當學般若波羅蜜。欲過聲聞辟支佛地住阿惟越致地。當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩。欲住六神通。當學般若波羅蜜。欲知一切衆生意所趣向。當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩欲勝一切聲聞辟支佛智慧。當學般若波羅蜜。欲得諸陀羅尼門諸三昧門。當學般若波羅蜜。一切求聲聞辟支佛人布施時欲以隨喜心過其上者。當學般若波羅蜜。一切求聲聞辟支佛人持戒時。欲以隨喜心過其上者。當學般若波羅蜜。一切求聲聞辟支佛人。三昧智慧解脫解脫知見。欲以隨喜心過其上者。當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩行少施少戒少忍少進少禪少智。欲以方便力迴向故而得無

童眞三本俱作鳩摩羅伽四字○佛下明無著字元空間○等下三本俱本諸佛二字○羅下同有波羅蜜二字○植同作殖○盡下明無著字○發一宋明俱作一發元作發發○薩下三本俱有摩訶薩三字○不可宋明俱作無所○法上實上三本俱有諸法二字

扸同作析

滅下同無者字○坐下宋明俱有能令二字○遍元明俱作悉○虛上三本俱有中字○牛下明有當學般若波羅蜜七字

量無邊功德者．當學般若波羅蜜．菩薩摩訶薩欲行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜．當學般若波羅蜜．菩薩摩訶薩欲使世世身體與佛相似．欲具足三十二相八十隨形好．當學般若波羅蜜．欲生菩薩家．欲得童眞地．欲得不離諸佛者．當學般若波羅蜜．欲以諸善根供養諸佛．恭敬尊重讚歎隨意成就．當學般若波羅蜜．欲滿一切衆生所願飮食衣服臥具塗香車乘房舍牀榻燈燭等．當學般若波羅蜜．復次舍利弗．菩薩摩訶薩欲使如恒河沙等國土衆生．立於檀那波羅蜜．立於尸羅羼提毘梨耶禪那般若波羅蜜．當學般若波羅蜜．欲植一善根於佛福田中．至得阿耨多羅三藐三菩提不盡者．當學般若波羅蜜．復次舍利弗．菩薩摩訶薩欲令十方諸佛稱讚其名．當學般若波羅蜜．復次舍利弗．菩薩摩訶薩欲一發意到十方如恒河沙等諸佛國土．當學般若波羅蜜．復次舍利弗．菩薩摩訶薩欲發一音使十方如恒河沙等諸佛國土聞聲．當學般若波羅蜜．復次舍利弗．菩薩欲使諸佛國土不斷者．當學般若波羅蜜．復次舍利弗．菩薩摩訶薩欲住內空外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空自相空諸法空不可得空無法空有法空無法有法空．當學般若波羅蜜．菩薩摩訶薩欲知諸法因緣次第緣緣緣增上緣．當學般若波羅蜜．復次舍利弗．菩薩摩訶薩欲知諸法如法性實際．當學般若波羅蜜．舍利弗．菩薩摩訶薩應如是住般若波羅蜜．復次舍利弗．菩薩摩訶薩欲數知三千大千國土中大地諸山微塵．當學般若波羅蜜．菩薩摩訶薩扸一毛爲百分．欲以一分毛盡擧三千大千國土中大海江河池泉諸水．而不嬈水性．當學般若波羅蜜．三千大千國土中諸火一時皆然．譬如劫盡燒時．菩薩摩訶薩欲一吹令滅者．當學般若波羅蜜．三千大千國土中諸大風起．欲吹破三千大千國土及諸須彌山如摧腐草．菩薩摩訶薩欲以一指障其風力令不起者．當學般若波羅蜜．菩薩摩訶薩欲一結跏趺坐．遍滿三千大千國土虛空．當學般若波羅蜜．菩薩摩訶薩欲以一毛擧三千大千國土中諸須彌山王．擲過他方無量阿僧祇諸佛國土不嬈衆生．欲以一食供養十方各如恒河沙等諸佛及僧．當學般若波羅蜜．欲以一衣花香瓔珞末香塗香燒香燈燭幢幡花蓋等．供養諸佛及僧．當學般若波羅蜜．復次舍利弗．菩薩摩訶薩欲使十方各如恒河沙等國土中衆生．悉具於戒三昧智慧解脫解脫知見．令得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果．

如三本倶作作
化下同有自字
得同作能
人同作者次同
可得宋明倶作
著○味明作昧
法上三本倶有
諸法二字
心下同無者字
者同作處
忘下同無者字
○多羅宋明倶
作妬路元作多
路○憂三本倶
作優○廣上同
無方字○持下
元明倶無者字
○人上元無他

乃至令得無餘涅槃。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜布施時應如是分別。如是布施得大果報如是布施得生剎利大姓婆羅門大姓居士大家。如是布施得生四天王天處三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。因是布施得入初禪二禪三禪四禪無邊空處無邊識處無所有處非有想非無想處。因是布施得生八聖道分。因是布施能得須陀洹道乃至佛道。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜布施時。以慧方便力故。能具足檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩云何布施時。以慧方便力故。具足檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。佛告舍利弗。施人受人財物不可得故。能具足檀那波羅蜜。罪不罪不可得故。具足尸羅波羅蜜。心不動故。具足羼提波羅蜜。身心精進不懈怠故。具足毗梨耶波羅蜜。不亂不味故。具足禪那波羅蜜。知一切法不可得故。具足般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲得過去未來現在諸佛功德當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲到有爲無爲法彼岸當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩欲知過去未來現在諸法如法相無生際者。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲在一切聲聞辟支佛前欲給侍諸佛。欲爲諸佛內眷屬。欲得大眷屬。欲得菩薩眷屬。欲淨報大施。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲不起慳心破戒心瞋恚心懈怠心亂心癡心者。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲使一切衆生立於布施福處持戒福處修定福處勸導福處。欲令衆生立於財福法福者。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲得五眼當學般若波羅蜜。何等五眼。肉眼天眼慧眼法眼佛眼。菩薩摩訶薩欲以天眼見十方如恒河沙等國土中諸佛。欲以天耳聞十方諸佛所說法。欲知諸佛心。當學般若波羅蜜。欲聞十方諸佛所說法。聞已乃至阿耨多羅三藐三菩提不忘者。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲見過去未來諸佛國土。及見現在十方諸佛國土當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲聞十方諸佛所說。十二部經修多羅祇夜受記經伽陀優陀那因緣經阿波陀那如是語經本生經方廣經未曾有經論議經。諸聲聞等聞與不聞。盡欲誦受持者。當學般若波羅蜜。十方如恒河沙等世界中。諸佛所說法已說今說當說。聞已欲一切信持自行亦爲他人說。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩過去諸

字○已說三本俱作說已○諸下同有佛字○照下同無者字○寶下同無名字○蜜下同無菩薩摩訶薩五字○儀下同無者字

薩下同有摩訶薩三字

欲上三本俱有若字

薩下同無摩訶薩三字

佛已說。未來諸佛當說。欲聞聞已自利亦利他人。當學般若波羅蜜。十方如恒河沙等諸世界中間闇處。日月所不照處。欲持光明普照者。當學般若波羅蜜。十方如恒河沙等世界中。無有佛名法名僧名。欲使一切衆生皆得正見。聞三寶名者。當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩。欲令十方如恒河沙等諸世界中衆生。以我力故盲者得視聾者得聽。狂者得念。裸者得衣。飢渴者得飽滿。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩若欲令十方如恒河沙等世界中衆生諸在三惡趣者。以我力故皆得人身。當學般若波羅蜜。欲令十方如恒河沙等世界中衆生。以我力故立於戒三昧智慧解脫解脫知見。令得須陀洹果乃至阿耨多羅三藐三菩提。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲學諸佛威儀者。當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩欲得如象王視觀。當學般若波羅蜜。菩薩作是願。使我行時離地四指足不蹈地。我當共四天王天乃至阿迦尼吒天無量千萬億諸天衆。圍遶恭敬至菩提樹下。當學般若波羅蜜。我當於菩提樹下坐四天王天乃至阿迦尼吒天。以天衣爲座。當學般若波羅蜜。我得阿耨多羅三藐三菩提時。行住坐臥處欲使悉爲金剛。當學般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲出家日卽成阿耨多羅三藐三菩提。卽是日轉法輪。轉法輪時無量阿僧祇衆生。遠塵離垢諸法中得法眼淨。無量阿僧祇衆生一切法不受故。諸漏心得解脫。無量阿僧祇衆生於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉。當學般若波羅蜜。我得阿耨多羅三藐三菩提時。以無量阿僧祇聲聞爲僧。我一說法時。便於座上盡得阿羅漢。當學般若波羅蜜。我當以無量阿僧祇菩薩摩訶薩爲僧我一說法時。無量阿僧祇菩薩。皆得阿惟越致。欲得壽命無量光明具足。當學般若波羅蜜。我成阿耨多羅三藐三菩提時。世界中無婬欲瞋恚愚癡。亦無三毒之名。一切衆生成就如是智慧善施善戒善定善梵行善不嬈衆生。當學般若波羅蜜。使我般涅槃後法無滅盡。亦無滅盡之名。當學般若波羅蜜。我得阿耨多羅三藐三菩提時。十方如恒河沙等世界中衆生聞我名者。必得阿耨多羅三藐三菩提。欲得如是等功德者。當學般若波羅蜜。

品目上明無經名下同

修三本俱作脩

轉下同有於字斷下亦同○念上同有意字

幻下同有師字

頗下元無有字

毀呰宋明俱作訾毀

色即乃至是識三本俱作空即是色色即是空空即是受想行識受想行識即是空二十二字

摩訶般若波羅蜜經奉鉢品第二

佛告舍利弗.若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.能作是功德.是時四天王皆大歡喜.意念言.我等當以四鉢奉上菩薩.如前天王奉先佛鉢.三十三天乃至他化自在天亦皆歡喜.意念言.我等當給侍供養菩薩.減損阿修羅種.增益諸天衆.三千大千國土.四天王天乃至阿迦尼吒天皆大歡喜.意念言我等當請是菩薩轉法輪.舍利弗.是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.增益六波羅蜜時.諸善男子善女人.各各歡喜念言.我等當爲是人作父母妻子親族知識.爾時四天王天乃至阿迦尼吒天皆大歡喜.各自念言.我等當作方便.令是菩薩離於婬欲.從初發意常作童眞.莫使與色欲共會.若受五欲障生梵天.何況阿耨多羅三藐三菩提.以是故舍利弗.菩薩摩訶薩斷婬欲出家者.應得阿耨多羅三藐三菩提非不斷.舍利弗白佛言.世尊.菩薩摩訶薩要當有父母妻子親族知識耶.佛告舍利弗.或有菩薩有父母妻子親族知識.或有菩薩從初發心斷婬欲修童眞行.乃至得阿耨多羅三藐三菩提不犯色欲.或有菩薩方便力故受五欲已.出家得阿耨多羅三藐三菩提.譬如幻師若幻弟子.善知幻法幻作五欲.於中共相娛樂.於汝意云何.是人於此五欲頗有實受不.舍利弗言不也世尊.佛告舍利弗.菩薩摩訶薩以方便力故化作五欲.於中受樂成就衆生亦復如是.是菩薩摩訶薩不染於欲.種種因緣毀呰五欲.欲爲燒然欲爲穢惡.欲爲毀壞欲爲如怨.是故舍利弗.當知菩薩爲衆生故受五欲.舍利弗白佛言.菩薩摩訶薩云何應行般若波羅蜜.佛告舍利弗.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.不見菩薩不見菩薩字.不見般若波羅蜜亦不見我行般若波羅蜜.亦不見我不行般若波羅蜜.何以故.菩薩菩薩字性空.空中無色無受想行識.離色亦無空.離受想行識亦無空.色即是空空即是色受想行識即是空.空即是識.何以故.舍利弗.但有名字故謂爲菩提.但有名字故謂爲菩薩.但有名字故謂爲空.所以者何.諸法實性.無生無滅無垢無淨故.菩薩摩訶薩如是行.亦不見生亦不見滅.亦不見垢亦不見淨.何以故.名字是因緣和合作法.但分別憶想假名說.是故菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.不見一切名字.不見故不著.

○品目下同無細註下同
字上同無名字
衆上同有如字
麻稻茅宋明俱作葦甘蔗稻麻叢林七字元作葦稻麻三字○目下三本俱無揵字下同○千下元無億字次同
千下三本俱無億字○國土宋明俱作佛界元作世界

摩訶般若波羅蜜經習應品第三 丹本名爲習相應品

佛告舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應如是思惟。菩薩但有名字佛亦但有字般若波羅蜜亦但有字。色但有字受想行識亦但有字。舍利弗。如我但有字。一切我常不可得。衆生壽者命者生者養育衆數人者作者使作者起者使起者受者使受者。知者見者。是一切皆不可得。不可得空故。但以名字說菩薩摩訶薩亦如是行般若波羅蜜。不見我不見衆生。乃至不見知者見者。所說名字亦不可見。菩薩摩訶薩作如是行般若波羅蜜。除佛智慧。過一切聲聞辟支佛上。用不可得空故。所以者何。是菩薩摩訶薩諸名字法。名字所著處。亦不可得故。舍利弗。菩薩摩訶薩能如是行。爲行般若波羅蜜。譬如滿閻浮提竹麻稻茅。諸比丘其數如是。智慧如舍利弗目揵連等。欲比菩薩行般若波羅蜜智慧百分不及一。千分百千億分乃至算數譬喩所不能及。何以故。菩薩摩訶薩用智慧度脱一切衆生故。舍利弗。置滿閻浮提如舍利弗目揵連等。若滿三千大千國土如舍利弗目揵連等。復置是事。若滿十方如恒河沙等國土。如舍利弗目揵連等智慧。欲比菩薩行般若波羅蜜智慧。百分不及一千分百千億分乃至算數譬喩所不能及。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜一日修智慧。出過一切聲聞辟支佛上。舍利弗白佛言。世尊。聲聞所有智慧。若須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛智慧佛智慧。是諸衆智無有差別。不相違背無生性空。若法不相違背無生性空。是法無有別異。云何世尊言。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜一日修智慧出過聲聞辟支佛上。佛告舍利弗。於汝意云何。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜一日修智慧。心念我行道慧益一切衆生。當以一切種智知一切法。度一切衆生。諸聲聞辟支佛智慧。爲有是事不。舍利弗言。不也世尊。舍利弗。於汝意云何。諸聲聞辟支佛頗有是念我等當得阿耨多羅三藐三菩提度一切衆生。令得無餘涅槃不。舍利弗言。不也世尊。佛告舍利弗。以是因緣故。當知諸聲聞辟支佛智慧。欲比菩薩摩訶薩智慧。百分不及一千分百千億分。乃至算數譬喩所不能及。舍利弗。於汝意云何。諸聲聞辟支佛頗有是念。我行六波羅蜜成就衆生莊嚴國土具佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。度脱無量阿僧祇衆生。令得涅槃不。舍利弗言。不也世尊。佛告

住三本俱作至意同作心次同

識下三本俱有界字下同明明作名

舍利弗。菩薩摩訶薩能作是念。我當行六波羅蜜乃至十八不共法。成阿耨多羅三藐三菩提。度脫無量阿僧祇衆生令得涅槃。譬如螢火蟲不作是念。我力能照閻浮提普令大明。諸阿羅漢辟支佛亦如是不作是念。我等行六波羅蜜乃至十八不共法。得阿耨多羅三藐三菩提。度脫無量阿僧祇衆生令得涅槃。舍利弗。譬如日出時。光明遍照閻浮提。無不蒙明者。菩薩摩訶薩亦如是。行六波羅蜜乃至十八不共法。得阿耨多羅三藐三菩提。度脫無量阿僧祇衆生令得涅槃。舍利弗白佛言。云何菩薩摩訶薩。過聲聞辟支佛地。住阿惟越致地淨於佛道。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩從初發意行六波羅蜜。住空無相無作法。能過一切聲聞辟支佛地住阿惟越致地淨於佛道。舍利弗白佛言。菩薩摩訶薩住何等地。能爲諸聲聞辟支佛作福田。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩從初發意行六波羅蜜。乃至坐道場。於其中間。常爲諸聲聞辟支佛作福田。何以故。以有菩薩摩訶薩因緣故。世間諸善法生。何等是善法。所謂十善道五戒八分成就齋。四禪四無量心四無色定。四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。盡現於世。以菩薩因緣故。六波羅蜜十八空佛十力四無所畏四無礙智。十八不共法大慈大悲一切種智。盡現於世。以菩薩因緣故。有剎利大姓婆羅門大姓居士大家。四天王天乃至非有想非無想天。皆現於世。以菩薩因緣故。有須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛佛皆現於世。舍利弗白佛言。菩薩摩訶薩淨畢施福不。佛言不也。何以故。本已淨畢故。舍利弗。菩薩摩訶薩爲大施主。施何等。施諸善法。何等善法。十善道五戒乃至十八不共法一切種智。以是施與。舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩云何習應般若波羅蜜與般若波羅蜜相應。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩習應色空。是名與般若波羅蜜相應。習應受想行識空。是名與般若波羅蜜相應。復次舍利弗。菩薩摩訶薩習應眼空。是名與般若波羅蜜相應。習應耳鼻舌身心空。是名與般若波羅蜜相應。習應色空。是名與般若波羅蜜相應。習應聲香味觸法空。是名與般若波羅蜜相應。習應眼界空色界空眼識界空。是名與般若波羅蜜相應。習應耳聲識。鼻香識。舌味識。身觸識。意法識界空。是名與般若波羅蜜相應。習應苦空。是名與般若波羅蜜相應。習應集滅道空。是名與般若波羅蜜相應。習應無明空。是名與般若波羅蜜相應。習應行識名色六入觸受愛取有生老死空。是名與般若波羅蜜相應。習應一切諸法空。若有爲若無爲。是名與般若波羅蜜

色不三本俱作非色
空不同作非空

無上同有亦字

應下明無者字

相應。復次舍利弗。菩薩摩訶薩習應性空。是名與般若波羅蜜相應。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜習應七空。所謂性空自相空諸法空無所得空無法空有法空無法有法空。是名與般若波羅蜜相應。佛告舍利弗菩薩摩訶薩習應七空時。不見色若相應若不相應。不見受想行識若相應若不相應。不見色若生相若滅相。不見受想行識若生相若滅相。不見色若垢相若淨相。不見受想行識若垢相若淨相。不見色與受合。不見受與想合。不見想與行合。不見行與識合。何以故。無有法與法合者。其性空故。舍利弗色空中無有色。受想行識空中無有識。舍利弗。色空故無惱壞相。受空故無受相。想空故無知相。行空故無作相。識空故無覺相。何以故。舍利弗。色不異空。空不異色。色卽是空。空卽是色。受想行識亦如是。舍利弗。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨不增不減。是空法非過去非未來非現在。是故空中無色無受想行識。無眼耳鼻舌身意。無色聲香味觸法。無眼界乃至無意識界。亦無無明亦無無明盡。乃至亦無老死亦無老死盡。無苦集滅道。亦無智亦無得。亦無須陀洹無須陀洹果。無斯陀含無斯陀含果。無阿那含無阿那含果。無阿羅漢無阿羅漢果。無辟支佛無辟支佛道。無佛亦無佛道。舍利弗。菩薩摩訶薩如是習應。是名與般若波羅蜜相應。舍利弗是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。不見般若波羅蜜若相應若不相應。不見檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜若相應若不相應。亦不見色若相應若不相應。不見受想行識若相應若不相應。不見眼乃至意色乃至法。眼色識界乃至意法識界。若相應若不相應。不見四念處乃至八聖道分。佛十力乃至一切種智。若相應若不相應。如是舍利弗。當知菩薩摩訶薩與般若波羅蜜相應。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時空不與空合。無相不與無相合。無作不與無作合。何以故。空無相無作。無有合與不合。舍利弗。菩薩摩訶薩如是習應。是名與般若波羅蜜相應。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。入諸法自相空。入已色不作合不作不合。受想行識不作合不作不合。色不與前際合。何以故不見前際故。色不與後際合。何以故。不見後際故。色不與現在合。何以故。不見現在故。受想行識亦如是。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜前際不與後際合後際不與前際合現在不與前際後際合前際後際亦不與現在合。三際名空故。舍利弗。菩薩摩訶薩如是習應者。是名與般若波羅蜜相應。復次舍利弗。

菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.薩婆若不與過去世合.何以故.過去世不可見.何況薩婆若與過去世合.薩婆若不與未來世合.何以故.未來世不可見.何況薩婆若與未來世合.薩婆若不與現在世合.何以故.現在世不可見.何況薩婆若與現在世合.舍利弗.菩薩摩訶薩如是習應.是名與般若波羅蜜相應.復次舍利弗.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.色不與薩婆若合.色不可見故.受想行識亦如是.眼不與薩婆若合.眼不可見故.耳鼻舌身意亦如是.色不與薩婆若合.色不可見故.聲香味觸法亦如是.舍利弗.菩薩摩訶薩如是習應.是名與般若波羅蜜相應.復次舍利弗.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.檀那波羅蜜不與薩婆若合.檀那波羅蜜不可見故.乃至般若波羅蜜亦如是.四念處不與薩婆若合.四念處不可見故.乃至八聖道分亦如是.佛十力乃至十八不共法.不與薩婆若合.佛十力乃至十八不共法不可見故.舍利弗.菩薩摩訶薩如是習應.是名與般若波羅蜜相應.復次舍利弗.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.佛不與薩婆若合.薩婆若不與佛合.菩提不與薩婆若合.薩婆若不與菩提合.何以故.佛即是薩婆若.薩婆若即是佛.菩提即是薩婆若.薩婆若即是菩提.舍利弗.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜如是習應.是名與般若波羅蜜相應.復次舍利弗.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.不習色有不習色無.受想行識亦如是.不習色有常.不習色無常.受想行識亦如是.不習色苦不習色樂.受想行識亦如是.不習色我不習色非我.受想行識亦如是.不習色寂滅不習色不寂滅.受想行識亦如是.不習色空不習色非空.受想行識亦如是.不習色有相不習色無相.受想行識亦如是.不習色有作不習色無作.受想行識亦如是.是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.不作是念.我行般若波羅蜜.不行般若波羅蜜.非行非不行般若波羅蜜.舍利弗.菩薩摩訶薩如是習應.是名與般若波羅蜜相應.復次舍利弗.菩薩摩訶薩不爲般若波羅蜜故行般若波羅蜜.不爲檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜故行般若波羅蜜.不爲阿惟越致地故行般若波羅蜜.不爲成就衆生故行般若波羅蜜.不爲淨佛國土故行般若波羅蜜.不爲佛十力四無所畏四無礙智十八不共法故行般若波羅蜜.不爲內空故行般若波羅蜜.不爲外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空諸法空自相空不可得空無法空有法空無法有法空故行般若波羅蜜.不爲如法性實際故行般若波羅蜜.何以

國土三本俱作世界

亦下同有復字
通同作智

初元作終

故．是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．不壞諸法相故．如是習應是名與般若波羅蜜相應復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．不爲如意神通故行般若波羅蜜．不爲天耳故．不爲他心智故．不爲宿命智故．不爲天眼故．不爲漏盡神通故行般若波羅蜜．何以故．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜尙不見般若波羅蜜．何況見菩薩神通．舍利弗．菩薩摩訶薩如是行．是名與般若波羅蜜相應．復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．不作是念．我以如意神通飛到東方．供養恭敬如恒河沙等諸佛．南西北方四維上下亦如是．復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．不作是念．我以天耳聞十方諸佛所說法．不作是念．我以他心智知十方衆生心所念．不作是念．我以宿命通知十方衆生宿命所作．不作是念．我以天眼見十方衆生死此生彼．舍利弗．菩薩摩訶薩如是行．是名與般若波羅蜜相應．亦能度無量阿僧祇衆生．舍利弗．菩薩摩訶薩能如是行般若波羅蜜．惡魔不能得其便．世間衆事所欲隨意．十方各如恒河沙等諸佛．皆悉擁護是菩薩．令不墮聲聞辟支佛地．四天王天乃至阿迦尼吒天．皆亦擁護是菩薩不令有礙．是菩薩所有重罪現世輕受．何以故．是菩薩摩訶薩用普慈加衆生故．舍利弗．菩薩摩訶薩如是行．是名與般若波羅蜜相應．復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．疾得諸陀羅尼門諸三昧門．所生處常値諸佛．乃至阿耨多羅三藐三菩提初不離見佛．舍利弗．菩薩摩訶薩如是習應．是名與般若波羅蜜相應．復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．不作是念．有法與法若合若不合若等若不等．何以故．是菩薩摩訶薩不見是法與餘法．若合若不合．若等若不等．舍利弗．菩薩摩訶薩如是習應．是名與般若波羅蜜相應．復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．不作是念．我當疾得法性若不得．何以故．法性非得相故．舍利弗．菩薩摩訶薩如是習應．是名與般若波羅蜜相應．復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．不見有法出法性者．如是習應．是名與般若波羅蜜相應．復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．不作是念．法性分別諸法．如是習應．是名與般若波羅蜜相應．復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．不作是念是法能得法性若不得．何以故．是菩薩不見用是法能得法性若不得．舍利弗．菩薩摩訶薩如是習應．是名與般若波羅蜜相應．復次舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．法性不與空合．空不與法性合．如是習應．是名與般若波羅蜜相應．復次舍利弗．菩薩摩

訶薩行般若波羅蜜時．眼界不與空合．空不與眼界合．色界不與空合．空不與色界合．眼識界不與空合．空不與眼識界合．乃至意界不與空合．空不與意界合．法界不與空合．空不與法界合．意識界不與空合．空不與意識界合．是故舍利弗．是空相應名爲第一相應．舍利弗．空行菩薩摩訶薩．不墮聲聞辟支佛地．能淨佛土成就衆生．疾得阿耨多羅三藐三菩提．舍利弗．諸相應中般若波羅蜜相應．爲最第一最尊最勝最妙爲無有上．何以故．是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜相應．所謂空無相無作故．當知是菩薩如受記無異若近受記．舍利弗．菩薩摩訶薩如是相應者．能爲無量阿僧祇衆生作益厚．是菩薩摩訶薩亦不作是念．我與般若波羅蜜相應．諸佛當授我記．我當近受記．我當淨佛土我得阿耨多羅三藐三菩提當轉法輪．何以故．是菩薩摩訶薩不見有法出於法性者．亦不見有法行般若波羅蜜．亦不見有法諸佛授記．亦不見有法得阿耨多羅三藐三菩提．何以故．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．不生我相衆生相．乃至知者見者相．何以故．衆生畢竟不生不滅故．衆生無有生無有滅．若法無有生相無有滅相．云何有法當行般若波羅蜜．如是舍利弗．菩薩摩訶薩不見衆生故．爲行般若波羅蜜．衆生不受故衆生空故．衆生不可得故衆生離故．爲行般若波羅蜜．舍利弗．菩薩摩訶薩於諸相應中．爲最第一相應．所謂空相應．是空相應勝餘相應．菩薩摩訶薩如是習空．能生大慈大悲．菩薩摩訶薩．如是習相應．不生慳心．不生犯戒心．不生瞋心．不生懈怠心．不生亂心．不生無智心

摩訶般若經卷第一

土上三本俱有國字

當下宋明俱有得字元有當字○土宋明俱作世界二字○性下同無者字

相應三本俱作空

末題若下同有波羅蜜三字下至九卷皆同

摩訶般若波羅蜜經卷第二

〔麗芥〕〔宋薑〕〔元薑〕〔明薑〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

往生品第四

舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。能如是習相應者。從何處終來生此間。從此間終當生何處。佛告舍利弗。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。能如是習相應者。或從他方佛國來生此間。或從兜率天上來生此間。或從人道中來生此間。舍利弗。從他方佛國來者。疾與般若波羅蜜相應。與般若波羅蜜相應故。捨身來生此間。諸深妙法皆現在前。後還與般若波羅蜜相應。在所生處常値諸佛。舍利弗。有一生補處菩薩。兜率天上終來生是間。是菩薩不失六波羅蜜。隨所生處。一切陀羅尼門諸三昧門。疾現在前。舍利弗。有菩薩人中命終還生人中者。除阿惟越致。是菩薩根鈍不能疾與般若波羅蜜相應。諸陀羅尼門諸三昧門。不能疾現在前。舍利弗。汝所問菩薩摩訶薩。與般若波羅蜜相應。從此間終當生何處者。舍利弗。此菩薩摩訶薩。從一佛國至一佛國。常値諸佛終不離諸佛。舍利弗。有菩薩摩訶薩不以方便入初禪乃至第四禪。亦行六波羅蜜。是菩薩摩訶薩得禪故生長壽天。隨彼壽終來生是間。得人身値遇諸佛。是菩薩諸根不利。舍利弗。有菩薩摩訶薩入初禪乃至第四禪。亦行般若波羅蜜。不以方便故捨諸禪生欲界。是菩薩諸根亦鈍。舍利弗。有菩薩摩訶薩。入初禪乃至第四禪。入慈心乃至捨。入虛空處乃至非有想非無想處。修四念處乃至八聖道分。行佛十力乃至大慈大悲。是菩薩用方便力不隨禪生。不隨無量心生。不隨四無色定生。在所有佛處於中生。常不離般若波羅蜜行。如是菩薩賢劫中當得阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。有菩薩摩訶薩入初禪乃至第四禪。入慈心乃至捨。入虛空處乃至非有想非無想處。以方便力故。不隨禪生。還生欲界。若刹利大姓。婆羅門大姓。居士大家|生。爲成就衆生故。舍利弗。有菩薩摩訶薩入初禪乃至第四禪。入慈心乃至捨。入虛空處乃至非有想非無想處。以方便力故。不隨禪生。或生四天王

家下三本俱無生字

梵上宋明俱有諸字○舍上三本俱無復次二字

道下同無分字○果上宋明俱

天處。或生三十三天。夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。於是中成就衆生亦淨佛土常値諸佛。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故入初禪。此間命終生梵天處作大梵王。從梵天處遊一佛國至一佛國。在所有諸佛得阿耨多羅三藐三菩提。未轉法輪者勸請令轉。舍利弗。有菩薩摩訶薩一生補處行般若波羅蜜。以方便力故入初禪乃至第四禪。入慈心乃至捨。入虛空處乃至非有想非無想處。修四念處乃至八聖道分。入空三昧無相無作三昧。不隨禪生。生有佛處修|梵行。若生兜率天上隨其壽終具足善根不失正念。與無數百千億萬諸天圍繞恭敬來生此間。得阿耨多羅三藐三菩提。|復|次舍利弗。有菩薩摩訶薩得六神通不生欲界色界無色界。從一佛國至一佛國。供養恭敬尊重讚歎諸佛。舍利弗。有菩薩摩訶薩遊戲神通。從一佛國至一佛國。所至到處無有聲聞辟支佛乘。乃至無二乘之名。舍利弗。有菩薩摩訶薩遊戲神通。從一佛國至一佛國。所至到處其壽無量。舍利弗。有菩薩摩訶薩遊戲神通。從一國土至一國土。所至到處有無佛法僧處。讚佛法僧功德。諸衆生用聞佛名法名僧名故。於此命終生諸佛前。舍利弗。有菩薩摩訶薩初發意時得初禪乃至第四禪。得四無量心。得四無色定。修四念處乃至十八不共法。是菩薩不生欲界色界無色界中常生有益衆生之處。舍利弗。有菩薩摩訶薩初發意時行六波羅蜜。上菩薩位得阿惟越致地。舍利弗。有菩薩摩訶薩初發意時。便得阿耨多羅三藐三菩提轉法輪。與無量阿僧祇衆生作益厚。已入無餘涅槃。是佛般涅槃後餘法若住一劫若減一劫。舍利弗。有菩薩摩訶薩初發意時與般若波羅蜜相應。與無數百千億菩薩。從一佛國至一佛國。爲淨佛國土故。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。得四禪四無量心四無色定。遊戲其中入初禪。從初禪起入滅盡定。從滅盡定起乃至入四禪。從四禪起入滅盡定從滅盡定起入虛空處。從虛空處起入滅盡定。從滅盡定起乃至入非有想非無想處。從非有想非無想處起入滅盡定。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故入超越定。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。修四念處乃至十八不共法。不取須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。以方便力爲度衆生故起八聖道分以是八聖道|分令得須陀洹果乃至辟支佛道。佛告舍利弗。一切阿羅漢辟支佛|果及智。是菩薩摩訶薩無生法忍。舍利|弗。是菩薩摩訶薩|如是行般若波羅蜜。|當|知|是阿惟越致

有諸字○弗下三本俱有當知二字○薩下元無如是二字○蜜下宋明俱無當知二字元無當知是三字○兜上元無莊嚴二字○修宋作作○懃三本俱作勤下同人元作其妙下同有佛字○已同作以不宋明俱作淸緣下同無舍利弗三字○不淨元作罪一字○得上同無若字次同○口上意上並三本俱有

地中住。舍利弗。有菩薩摩訶薩住六波羅蜜。莊嚴兜率天道。當知是賢劫中菩薩。舍利弗。有菩薩摩訶薩修四禪乃至十八不共法。未證四諦。當知是菩薩一生補處。舍利弗。有菩薩摩訶薩無量阿僧祇劫。修行得阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。有菩薩摩訶薩住六波羅蜜。常懃精進利益衆生。不說無益之事。舍利弗。有菩薩摩訶薩行六波羅蜜。常懃精進利益衆生。從一佛國至一佛國。斷衆生三惡道。舍利弗。有菩薩摩訶薩住六波羅蜜。以檀那爲首安樂一切衆生。須飲食與飲食。衣服臥具瓔珞花香房舍燈燭。隨人所須盡給與之。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。變身如佛爲地獄中衆生說法。爲畜生餓鬼中衆生說法。舍利弗。有菩薩摩訶薩行六波羅蜜時變身如佛。遍至十方如恒河沙等諸佛國土。爲衆生說法。亦供養諸佛及淨佛國土。聞諸佛說法。觀採十方淨妙國相。而已自起殊勝國土。其中菩薩摩訶薩。皆是一生補處。舍利弗。有菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。成就三十二相。諸根淨利。諸根淨利故。衆人愛敬。以愛敬故。漸以三乘法而度脫之。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應學身清淨口清淨。舍利弗。有菩薩摩訶薩行六波羅蜜時得諸根淨。以是淨根而不自高亦不下他。舍利弗。有菩薩摩訶薩從初發心。住檀那波羅蜜尸羅波羅蜜乃至阿惟越致地。終不墮三惡道。舍利弗。有菩薩摩訶薩。從初發心乃至阿惟越致地。當不捨十善行。舍利弗。有菩薩摩訶薩。住檀那波羅蜜尸羅波羅蜜中。作轉輪聖王。安立衆生於十善道。亦以財物布施衆生。舍利弗。有菩薩摩訶薩。住檀那波羅蜜尸羅波羅蜜。無量千萬世作轉輪聖王。値遇無量百千諸佛。供養恭敬尊重讚歎。舍利弗。有菩薩摩訶薩。常爲衆生以法照明。亦以自照乃至阿耨多羅三藐三菩提。終不離照明。舍利弗。是菩薩摩訶薩。於佛法中已得尊重。舍利弗。以是故菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。身口意不淨不令妄起。舍利弗白佛言。世尊。云何菩薩身業不淨口業不淨意業不淨。佛告舍利弗。若菩薩摩訶薩作是念。是身是口是意。如是取相作緣。舍利弗。是名身口意不淨。舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不得身不得口不得意。舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。若得身若得口若得意。用是得身口意故。能生慳心犯戒心瞋心懈心亂心愚心。當知是菩薩行六波羅蜜時。不能除身口意麤業。舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩。云何除身口意麤業。佛告舍利弗。若菩薩摩訶薩不得身口意。如是菩薩摩訶薩。能除身口意麤業。復

次舍利弗。若菩薩摩訶薩從初發意行十善道。不生聲聞心不生辟支佛心。如是菩薩摩訶薩能除身口意麤業復次舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜淨佛道時。行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜。是名菩薩摩訶薩除身口意麤業。舍利弗白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩佛道。佛告舍利弗。佛道者。若菩薩摩訶薩不得身不得口不得意。不得檀那波羅蜜。不得尸羅波羅蜜不得羼提波羅蜜。不得毘梨耶波羅蜜。不得禪那波羅蜜。不得般若波羅蜜。不得聲聞不得辟支佛。不得菩薩不得佛。舍利弗。是名菩薩摩訶薩佛道。所謂一切諸法不可得故。舍利弗。有菩薩摩訶薩。行六波羅蜜時無能壞者。舍利弗白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩行六波羅蜜時無能壞者。佛告舍利弗。若菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。不念有色乃至識不念有眼乃至意。不念有色乃至法。不念有眼界乃至意識界。不念有四念處乃至八聖道分。不念有檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。不念有佛十力乃至十八不共法。不念有須陀洹果乃至阿羅漢果。不念有辟支佛乃至阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。菩薩摩訶薩如是行增益六波羅蜜。無能壞者。舍利弗。有菩薩摩訶薩住般若波羅蜜中具足智慧。用是智慧常不墮惡道。不生弊惡人中。不作貧窮人。所受身體不爲人天阿修羅所憎惡。舍利弗白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩智慧。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩用是智慧成就見十方如恒河沙等諸佛聽法見僧。亦見嚴淨佛土。菩薩摩訶薩以是智慧。不作佛想不作菩薩想。不作聲聞辟支佛想。不作我想不作佛國想。用是智慧。行檀那波羅蜜亦不得檀那波羅蜜。乃至行般若波羅蜜亦不得般若波羅蜜。行四念處亦不得四念處。乃至行十八不共法亦不得十八不共法。舍利弗。是名菩薩摩訶薩智慧。用是智慧能具足一切法。亦不得一切法。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。淨於五眼肉眼天眼慧眼法眼佛眼。舍利弗白佛言世尊云何菩薩摩訶薩肉眼淨。佛告舍利弗。有菩薩肉眼見百由旬。有菩薩肉眼見二百由旬。有菩薩肉眼見一閻浮提。有菩薩肉眼見二天下三天下四天下。有菩薩肉眼見小千國土。有菩薩肉眼見中千國土。有菩薩肉眼見三千大千國土。舍利弗。是爲菩薩摩訶薩肉眼淨。舍利弗白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩天眼淨。佛告舍利弗。有菩薩摩訶薩天眼見一切四天王天所見。見三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天所見。見梵天王所見乃至阿迦尼吒天所見。菩

不得二字○菩上元無若字○是下三本俱無名字

意識三本俱作法

修同作脩下同

名同作爲

結下三本俱有有字○我元作衆○疑下同有齊字○名下同有爲字

爲宋作於

不三本俱作未

薩天眼所見者。四天王天乃至阿迦尼吒天所不知不見。舍利弗是菩薩摩訶薩天眼。見十方如恒河沙等諸國土中衆生死此生彼。舍利弗是名菩薩摩訶薩天眼淨。舍利弗白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩慧眼淨。佛告舍利弗。慧眼菩薩不作是念。有法若有爲若無爲。若世間若出世間。若有漏若無漏。是慧眼菩薩。亦無法不見無法不聞。無法不知無法不識。舍利弗。是名菩薩摩訶薩慧眼淨。舍利弗白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩法眼淨。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩。以法眼知是人隨信行。是人隨法行。是人無相行。是人行空解脫門。是人行無相解脫門。是人行無作解脫門得五根。得五根故得無間三昧。得無間三昧故得解脫智。得解脫智故斷三結我見疑戒取。是人名須陀洹。是人得思惟道。薄婬恚癡當得斯陀含。增進思惟道。斷婬恚癡得阿那含。增進思惟道。斷色染無色染無明慢掉得阿羅漢。是人行空無相無作解脫門得五根。得五根故得無間三昧。得無間三昧故得解脫智。得解脫智故知所有集法皆是滅法。作辟支佛。是爲菩薩摩訶薩法眼淨。復次舍利弗。菩薩摩訶薩知是菩薩初發意。行檀那波羅蜜乃至行般若波羅蜜。成就信根精進根善根。純厚用方便力故。爲衆生受身。若生刹利大姓。若生婆羅門大姓。若生居士大家。若生四天王天處。乃至他化自在天處。是菩薩於其中住成就衆生。隨其所樂皆給施之。亦淨佛國土値遇諸佛。供養恭敬尊重讚歎。乃至阿耨多羅三藐三菩提。亦不墮聲聞辟支佛地。是名菩薩摩訶薩法眼淨。復次舍利弗。菩薩摩訶薩。知是菩薩於阿耨多羅三藐三菩提退。知是菩薩於阿耨多羅三藐三菩提不退。知是菩薩受阿耨多羅三藐三菩提記。知是菩薩未受阿耨多羅三藐三菩提記。知是菩薩到阿惟越致地。知是菩薩未到阿惟越致地。知是菩薩具足神通。知是菩薩未具足神通。知是菩薩以具足神通。飛到十方如恒河沙等世界。見諸佛供養恭敬尊重讚歎。知是菩薩未得神通當得神通。知是菩薩當淨佛土不淨佛土。是菩薩成就衆生未成就衆生。是菩薩爲諸佛所稱譽所不稱譽。是菩薩親近諸佛不親近諸佛。是菩薩壽命有量壽命無量。是菩薩得佛時。比丘衆有量比丘衆無量。是菩薩得阿耨多羅三藐三菩提時。以菩薩爲僧。不以菩薩爲僧。是菩薩當修苦行難行。不修苦行難行。是菩薩一生補處。未一生補處。是菩薩受最後身。未受最後身。是菩薩能坐道場。不能坐道場。是菩薩有魔無魔。如是舍利弗。是爲菩薩摩訶薩法眼淨。舍利弗白佛言。世尊。云何菩

閡同作礙下同

陵明作凌〔炎三本俱作焰

世宋明俱作設

名下元無字字

薩摩訶薩佛眼淨。佛告舍利弗。有菩薩摩訶薩求佛道心。次第入如金剛三昧。得一切種智。爾時成就十力四無所畏四無閡智十八不共法。大慈大悲。是菩薩摩訶薩用一切種智。一切法中無法不見無法不聞。無法不知無法不識。舍利弗。是爲菩薩摩訶薩。得阿耨多羅三藐三菩提時佛眼淨。如是舍利弗。菩薩摩訶薩欲得五眼。當學六波羅蜜。何以故。舍利弗。是六波羅蜜中攝一切善法。若聲聞法辟支佛法菩薩法佛法。舍利弗。若有實語能攝一切善法者。般若波羅蜜是。舍利弗。般若波羅蜜能生五眼。菩薩學五眼者。得阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。修神通波羅蜜。以是神通波羅蜜受種種如意事。能動大地。變一身爲無數身。無數身還爲一身。隱顯自在。山壁樹木皆過無閡。如行空中。履水如地。陵虛如鳥。出沒地中如出入水。身出烟炎。如大火聚。身中出水如雪山水流。日月大德威力難當而能摩捫。乃至梵天身得自在。亦不著是如意神通。神通事及己身皆不可得。自性空故。自性離故。自性無生故。不作是念。我得如意神通。除爲薩婆若心。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。得如意神通智證。是菩薩以天耳淨過於人耳。聞二種聲天聲人聲。亦不著是天耳神通。天耳與聲及己身皆不可得。自性空故。自性離故。自性無生故。不作是念。我有是天耳。除爲薩婆若心。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。得天耳神通智證。是菩薩。如實知他衆生心若欲心。如實知欲心離欲心。如實知離欲心瞋心。如實知瞋心離瞋心。如實知離瞋心癡心。如實知癡心離癡心。如實知離癡心渴愛心。如實知渴愛心無渴愛心。如實知無渴愛心有受心。如實知有受心無受心。如實知無受心攝心。如實知攝心散心。如實知散心小心。如實知小心大心。如實知大心定心。如實知定心亂心。如實知亂心解脫心。如實知解脫心不解脫心。如實知不解脫心有上心。如實知有上心無上心。如實知無上心亦不著是心。何以故。是心非心相。不可思議故。自性空故。自性離故。自性無生故。不作是念。我得他心智證。除爲薩婆若心。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。得他心神通智證。是菩薩以宿命智證通。念一心乃至百心。念一日乃至百日。念一月乃至百月。念一歲乃至百歲。念一劫乃至百劫無數百劫無數千劫無數百千劫。乃至無數百千萬億劫世。我是處。如是姓。如是名字。如是生。如是食。如是久住。如是壽限。如是長壽。如是受苦樂。我是中死生彼處。彼處死生是處。有相有因緣

神下三本俱有通字
聖上元無賢字次同〇謗毀同作毀謗

怠宋明俱作息

亦不著是宿命神通。宿命神通事及己身。皆不可得。自性空故。自性離故。自性無生故。不作是念。我有是宿命神通。除爲薩婆若心。如是舍利弗。菩薩摩訶薩。行般若波羅蜜時。得宿命神智證。是菩薩以天眼。見衆生死時生時端正醜陋。惡處好處。若大若小。知衆生隨業因緣。是諸衆生身惡業成就口惡業成就意惡業成就故。謗毀賢聖人受邪見因緣故。身壞墮惡道生地獄中。是諸衆生。身善業成就口善業成就意善業成就。不謗毀賢聖人。受正見因緣故。命終入善道生天上。亦不著是天眼通。天眼通事及己身皆不可得。自性空故。自性離故。自性無生故。不作是念。我有是天眼神通。除爲薩婆若心。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。得天眼神通智證。亦見十方如恒河沙等世界中衆生生死。乃至生天上。四神通亦如是。是菩薩摩訶薩漏盡神通。雖得漏盡神通。不墮聲聞辟支佛地。乃至阿耨多羅三藐三菩提。亦不依異法。亦不著是漏盡神通。漏盡神通事及己身皆不可得。自性空故。自性離故。自性無生故。不作是念。我得漏盡神通。除爲薩婆若心。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。得漏盡神通智證。如是舍利弗。菩薩摩訶薩。行般若波羅蜜時具足神通波羅蜜。具足神通波羅蜜已。增益阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住檀那波羅蜜淨薩婆若道。畢竟空不生慳心故。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住尸羅波羅蜜淨薩婆若道。畢竟空罪不罪不著故。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住羼提波羅蜜淨薩婆若道。畢竟空不瞋故。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住毗梨耶波羅蜜淨薩婆若道。畢竟空身心精進不懈怠故。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住禪那波羅蜜淨薩婆若道。畢竟空不亂不味故。舍利弗。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住般若波羅蜜淨薩婆若道。畢竟空不生癡心故。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住六波羅蜜淨薩婆若道。畢竟空故。不來不去故。不施不受故。非戒非犯故。非忍非瞋故。不進不怠故。不定不亂故。不智不愚故。爾時菩薩摩訶薩。不分別布施不布施持戒犯戒。忍辱瞋恚。精進懈怠。定心亂心。智慧愚癡。不分別毀害輕慢恭敬。何以故。舍利弗。無生法中無有受毀者。無有受害者。無有受輕慢恭敬者。舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。得如是諸功德。聲聞辟支佛所無有得。是功德具足成就衆生淨佛國土。得一切種智。復次舍利弗。菩薩摩訶薩。行般若波羅蜜時。一切衆生中生

等心。一切衆生中生等心。已得一切諸法等。得一切諸法等已。立一切衆生於諸法等中。是菩薩摩訶薩。現世爲十方諸佛所愛念。亦爲一切菩薩一切聲聞辟支佛所愛念。是菩薩在所生處。眼終不見不愛色。乃至意不覺不愛法。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。不減於阿耨多羅三藐三菩提。說是般若波羅蜜品時。三百比丘從座起。以所著衣上佛。發阿耨多羅三藐三菩提心。佛爾時微笑。種種色光從口中出。爾時慧命阿難。從座起整衣服合掌右膝著地。白佛言。佛何因緣微笑。佛告阿難。是三百比丘。從是已後六十一劫當作佛。皆號名大相。是三百比丘捨此身當生阿閦佛國。及六萬欲天子皆發阿耨多羅三藐三菩提心。於彌勒佛法中出家行佛道。是時佛之威神故。此間四部衆見十方面各千佛。是十方國土嚴淨。此娑婆國土所不及。爾時十千人作願。我等修淨願行。修淨願行故當生彼佛世界。爾時佛知是善男子深心。而佛微笑。種種光從口中出。阿難。整衣服合掌白佛。佛何因緣微笑。佛告阿難。汝見是十千人不。阿難言見。佛言。是十千人於此壽終。當生彼世界終不離諸佛。後當作佛皆號莊嚴王佛

念上元無愛字次同○終明作中
整宋明俱作正
已三本俱作以
佛同作復

摩訶般若波羅蜜經歎度品第五

爾時慧命舍利弗。慧命大目揵連。慧命須菩提。慧命摩訶迦葉。如是等諸多知識比丘。及諸菩薩摩訶薩。諸優婆塞優婆夷。從座起合掌白佛言。世尊。摩訶波羅蜜是菩薩摩訶薩般若波羅蜜。尊波羅蜜。第一波羅蜜。勝波羅蜜。妙波羅蜜。無上波羅蜜。無等波羅蜜。無等等波羅蜜。如虛空波羅蜜。是菩薩摩訶薩般若波羅蜜。世尊。自相空波羅蜜。是菩薩摩訶薩般若波羅蜜。世尊。自性空波羅蜜。是菩薩摩訶薩般若波羅蜜。諸法空波羅蜜。無法有法空波羅蜜。開一切功德波羅蜜。成就一切功德波羅蜜。不可壞波羅蜜。是諸菩薩摩訶薩般若波羅蜜。諸菩薩摩訶薩。行是般若波羅蜜無等等布施。具足無等等檀那波羅蜜。得無等等身。得無等等法。所謂阿耨多羅三藐三菩提。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜亦如是。世尊。本亦復行此般若波羅蜜。具足無等等六波羅蜜。得無等等法。得無等等色。得無等等受想行識。佛轉無等等法輪。過去佛亦如是。行此般若

切下三本俱有法字○世上同有唯字
來下宋明俱有往字○來下三本俱有往字○
頗梨琉明作玻瓈瑠
亦明作六
花明作蓋
大下元無寶字

波羅蜜具足無等等布施乃至轉無等等法輪未來世佛亦行此般若波羅蜜當作無等等布施乃至當轉無等等法輪以是故世尊菩薩摩訶薩欲度一切彼岸當習行般若波羅蜜世尊是行般若波羅蜜菩薩摩訶薩一切世間天及人阿修羅應當禮敬供養佛告衆弟子及諸菩薩摩訶薩如是如是諸善男子是行般若波羅蜜者一切世間天及人阿脩羅應當作禮恭敬供養何以故因菩薩來故出生人道天道刹利大姓婆羅門大姓居士大家轉輪聖王四天王天乃至阿迦尼吒天出生須陀洹乃至阿羅漢辟支佛諸佛因菩薩來故世間便有飮食衣服臥具房舍燈燭摩尼眞珠頗梨琉璃珊瑚金銀等諸寶物生舍利弗世間所有樂具若人中若天上若離欲樂是一切樂具皆由菩薩有何以故舍利弗菩薩摩訶薩行菩薩道時住亦波羅蜜自行布施亦以布施成就衆生乃至自行般若波羅蜜亦以般若波羅蜜成就衆生舍利弗是故菩薩摩訶薩爲安樂一切衆生故出現於世

摩訶般若波羅蜜經舌相品第六

爾時世尊出舌相遍覆三千大千世界從其舌相出無數無量色光明普照十方如恒河沙等諸佛世界是時東方如恒河沙等世界中無量無數諸菩薩見是大光明各各白其佛言世尊是誰力故有是大光明普照諸佛世界諸佛告諸菩薩言諸善男子西方有世界名娑婆是中有佛名釋迦牟尼是其舌相出大光明普照東方如恒河沙等諸佛世界南西北方四維上下亦復如是爲諸菩薩摩訶薩說般若波羅蜜故是時諸菩薩各白其佛言我欲往供養釋迦牟尼佛及諸菩薩摩訶薩幷欲聽般若波羅蜜諸佛告諸菩薩善男子汝自知時是時諸菩薩摩訶薩持諸供養具無量華花幢幡瓔珞衆香金銀寶花向娑婆世界詣釋迦牟尼佛所爾時四天王諸天乃至阿迦尼吒諸天各持天上天香末香澤香天樹香葉香天種種蓮花青赤紅白向釋迦牟尼佛所是諸菩薩摩訶薩及諸天所散諸花於三千大千世界虛空中化成四柱大寶臺種種異色莊嚴分明是時釋迦牟尼佛衆中有十萬億人皆從座起合掌白佛言世尊我等於未來世中亦當得如是法如今釋迦牟尼佛弟子侍從大衆說法亦爾是時佛知善男子至心於一切諸法不生不滅不出不作得是法忍佛便微笑種種色光從口中出阿難白

佛言。世尊。何因緣故微笑。佛告阿難。是衆中十萬億人於諸法中得無生忍。是諸人於未來世過六十八億劫當作佛。劫名花積。佛皆號覺花

摩訶般若波羅蜜經三假品第七

爾時佛告慧命須菩提。汝當敎諸菩薩摩訶薩般若波羅蜜。如諸菩薩摩訶薩所應成就般若波羅蜜。卽時諸菩薩摩訶薩及聲聞大弟子諸天等作是念。慧命須菩提。自以智慧力。當爲諸菩薩摩訶薩說般若波羅蜜耶。爲是佛力。慧命須菩提。知諸菩薩摩訶薩大弟子諸天心所念。語慧命舍利弗。諸佛弟子所說法。所敎授。皆是佛力。佛所說法。法相不相違背。是善男子。學是法得證此法。佛說如燈。舍利弗。一切聲聞辟支佛。實無是力能爲菩薩摩訶薩說般若波羅蜜。爾時慧命須菩提白佛言。世尊。所說菩薩菩薩字。何等法名菩薩。世尊。我等不見是法名菩薩。云何敎菩薩般若波羅蜜。佛告須菩提。般若波羅蜜亦但有名字。名爲般若波羅蜜。菩薩菩薩字亦但有名字。是名字不在內不在外不在中間。須菩提。譬如說我名。和合故有。是我名不生不滅。但以世間名字故說。如衆生壽者命者生者養育者。衆數人作者使作者。起者使起者。受者使受者。知者見者等。和合法故有。是諸名不生不滅。但以世間名字故說。般若波羅蜜菩薩菩薩字亦如是。皆和合故有。是亦不生不滅。但以世間名字故說。須菩提。譬如身和合故有。是亦不生不滅。但以世間名字故說。須菩提。譬如色受想行識。亦和合故有。是亦不生不滅。但以世間名字故說。須菩提。般若波羅蜜菩薩菩薩字亦如是。皆是和合故有。是亦不生不滅。但以世間名字故說。須菩提。譬如眼和合故有。是亦不生不滅。但以世間名字故說。是眼不在內不在外不在中間。耳鼻舌身意和合故有。是亦不生不滅。但以世間名字故說。色乃至法亦如是。眼界和合故有。是亦不生不滅。但以世間名字故說。乃至意識界亦如是。須菩提。般若波羅蜜菩薩菩薩字亦如是。皆和合故有。是亦不生不滅。但以世間名字故說。是名字不在內不在外不在中間。須菩提。譬如內身名爲頭。但有名字。項肩臂脊脇髀腨脚。皆和合故有。是法及名字亦不生不滅。但以名字故說。是名字亦不在內亦不在外不在中間。須菩提。般若波羅蜜菩薩菩薩字亦

諸三本俱作敎
力上元無是字
薩下三本俱無字字
脇三本俱作肋○腨同作踌○皆同作是

是上同無如字

蜜下同有般若波羅蜜五字

如是．皆和合故有．但以名字故說．是亦不生不滅．不在內不在外不在中間．須菩提．譬如外物草木枝葉莖節如是一切但以名字故說．是法及名字亦不生不滅．非內非外非中間住．須菩提．般若波羅蜜菩薩菩薩字亦如是．皆和合故有．是法及名字亦不生不滅．非內非外非中間住．須菩提．譬如過去諸佛名．和合故有．是亦不生不滅．但以名字故說．是亦非內非外非中間住．般若波羅蜜菩薩菩薩字亦如是．須菩提．譬如夢響影幻燄．佛所化皆是和合故有．但以名字說．是法及名字不生不滅．非內非外非中間住．般若波羅蜜菩薩菩薩字亦如是．如是須菩提．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．名假施設．受假施設．法假施設．如是應當學．復次須菩提．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．不見色名字是常．不見受想行識名字是常．不見色名字無常．不見受想行識名字無常．不見色名字樂．不見色名字苦．不見色名字我．不見色名字無我．不見色名字空．不見色名字無相．不見色名字無作．不見色名字寂滅．不見色名字垢．不見色名字淨．不見色名字生．不見色名字滅．不見色名字內．不見色名字外．不見色名字中間住．受想行識亦如是．眼色眼識眼觸．眼觸因緣生諸受．乃至意法意識意觸．意觸因緣生諸受亦如是．何以故．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．般若波羅蜜字．菩薩菩薩字．有爲性中亦不見．無爲性中亦不見．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．是法皆不作分別．是菩薩行般若波羅蜜．住不壞法中．修四念處時．不見般若波羅蜜．不見般若波羅蜜字．不見菩薩．不見菩薩字．乃至修十八不共法時．不見般若波羅蜜．不見般若波羅蜜字．不見菩薩．不見菩薩字．菩薩摩訶薩如是行般若波羅蜜時．但知諸法實相．諸法實相者．無垢無淨．如是須菩提．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．當作是知名字假施設．知假名字已．不著色不著受想行識．不著眼乃至意．不著色乃至法．不著眼識．乃至不著意識．不著眼觸．乃至不著意觸．不著眼觸因緣生受．若苦若樂若不苦不樂．乃至不著意觸因緣生受．若苦若樂若不苦不樂．不著有爲性．不著無爲性．不著檀那波羅蜜．尸羅波羅蜜．羼提波羅蜜．毗黎耶波羅蜜．禪那波羅蜜．般若波羅蜜．不著三十二相．不著菩薩身．不著菩薩肉眼．乃至不著佛眼．不著智波羅蜜．不著神通波羅蜜．不著內空．乃至不著無法有法空．不著成就衆生．不著淨佛國土．不著方便法．何以故．是諸法無著者．無著法．無著處．皆無故．如是須菩提．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．不著一切法．便增益檀那波羅蜜尸羅波

國三本俱作土次同

忘下同無失字

羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。入菩薩位得阿惟越致地。具足菩薩神通遊一佛國至一佛國成就衆生。恭敬尊重讚歎諸佛。爲淨佛國土。爲見諸佛供養供養之具善根成就故隨意悉得。亦聞諸佛所說法。聞已乃至阿耨多羅三藐三菩提終不忘失得諸陀羅尼門諸三昧門。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。當知諸法名假施設。須菩提。於汝意云何色是菩薩不。受想行識是菩薩不。不也世尊。眼耳鼻舌身意是菩薩不。不也世尊。色聲香味觸法是菩薩不。不也世尊。眼識乃至意識是菩薩不。不也世尊。須菩提。於汝意云何。地種是菩薩不。不也世尊。水火風空識種是菩薩不。不也世尊。於須菩提意云何。無明是菩薩不。不也世尊。乃至老死是菩薩不。不也世尊。於須菩提意云何。離色離受想行識乃至離老死是菩薩不。不也世尊。須菩提。於汝意云何。色如相是菩薩不。不也世尊。乃至老死如相是菩薩不。不也世尊。離色如相乃至離老死如相是菩薩不。不也世尊。佛告須菩提。汝觀何等義。言色非菩薩。乃至老死非菩薩。離色非菩薩。乃至離老死非菩薩。色如相非菩薩。乃至老死如相非菩薩。離色如相非菩薩。乃至離老死如相非菩薩。須菩提言。世尊。衆生畢竟不可得。何況當是菩薩。色不可得。何況色離色色如離色如。是菩薩。乃至老死不可得。何況老死離老死。老死如離老死如。是菩薩。佛告須菩提。善哉善哉。如是須菩提。菩薩摩訶薩衆生不可得故。般若波羅蜜亦不可得。當作是學。於須菩提意云何。色是菩薩義不。不也世尊。受想行識是菩薩義不。不也世尊。於須菩提意云何。色常是菩薩義不。不也世尊。受想行識常是菩薩義不。不也世尊。色無常是菩薩義不。不也世尊。受想行識無常是菩薩義不。不也世尊。色樂是菩薩義不。不也世尊。受想行識樂是菩薩義不。不也世尊。色苦是菩薩義不。不也世尊。受想行識苦是菩薩義不。不也世尊。色我是菩薩義不。不也世尊。受想行識我是菩薩義不。不也世尊。色非我是菩薩義不。不也世尊。受想行識非我是菩薩義不。不也世尊。於須菩提意云何。色空是菩薩義不。不也世尊。受想行識空是菩薩義不。不也世尊。色非空是菩薩義不。不也世尊。受想行識非空是菩薩義不。不也世尊。色相是菩薩義不。不也世尊。受想行識相是菩薩義不。不也世尊。色無相是菩薩義不。不也世尊。受想行識無相是菩薩義不。不也世尊。色作是菩薩義不。不也世尊。受想行識作是菩薩義不。不也世尊。色無作是菩薩義不。不也世尊。受想行識無作是

菩薩義不.不也世尊.乃至老死亦如是.佛告須菩提.汝觀何等義.言色非菩薩義.受想行識非菩薩義.乃至色受想行識無作.非菩薩義.乃至老死亦如是.須菩提白佛言.世尊.色畢竟不可得.何況色是菩薩義.受想行識亦如是.世尊.色常畢竟不可得.何況色無常是菩薩義.乃至識亦如是.世尊.色樂畢竟不可得.何況色苦是菩薩義.乃至識亦如是.世尊.色我畢竟不可得.何況色非我是菩薩義.乃至識亦如是.世尊.色有畢竟不可得.何況色空是菩薩義.乃至識亦如是.世尊.色相畢竟不可得.何況色無相是菩薩義.乃至識亦如是.世尊.色作畢竟不可得.何況色無作是菩薩義.乃至識亦如是.佛告須菩提.善哉善哉.如是須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.色義不可得.受想行識義不可得.乃至無作義不可得.當作是學般若波羅蜜.須菩提.汝言我不見是法名菩薩.須菩提.諸法不見諸法.諸法不見法性.法性不見諸法.法性不見地種.地種不見法性.乃至識種不見法性.法性不見識種.法性不見眼色眼識性.眼色眼識性不見法性.乃至法性不見意法意識性.意法意識性不見法性.須菩提.有爲性不見無爲性.無爲性不見有爲性.何以故.離有爲不可說無爲.離無爲不可說有爲.如是須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.於諸法無所見.是時不驚不畏不怖.心亦不沒不悔.何以故.是菩薩摩訶薩不見色受想行識故.不見眼乃至意.不見色乃至法.不見婬怒癡.不見無明乃至老死.不見我乃至知者見者.不見欲界色界無色界.不見聲聞心辟支佛心.不見菩薩不見菩薩法.不見佛不見佛法不見佛道.是菩薩一切法不見故.不驚不畏不怖不沒不悔.須菩提白佛言.世尊.何因緣故.是菩薩心不沒不悔.佛告須菩提.菩薩摩訶薩一切心心數法.不可得不可見.以是故.菩薩摩訶薩心不沒不悔.世尊.云何菩薩心不驚不畏不怖.佛告須菩提.是菩薩意及意識.不可得不可見.以是故.不驚不畏不怖.如是須菩提.菩薩摩訶薩一切法不可得故.應行般若波羅蜜.須菩提.菩薩摩訶薩一切行處.不得般若波羅蜜.不得菩薩.不得菩薩名.亦不得菩薩心.卽是敎菩薩摩訶薩

摩訶般若波羅蜜經卷第三

〔麗芥〕〔宋薑〕〔元薑〕〔明薑〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

勸學品第八

爾時須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩欲具足檀那波羅蜜。當學般若波羅蜜。欲具足尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩欲知色。當學般若波羅蜜。乃至欲知識。當學般若波羅蜜。欲知眼乃至意。欲知色乃至法。欲知眼識乃至意識。欲知眼觸乃至意觸。欲知眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受。當學般若波羅蜜。欲斷婬怒癡。當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩欲斷身見戒取疑婬欲瞋恚色愛無色愛。調慢無明等。一切結使及纏。當學般若波羅蜜。欲斷四縛四結四顛倒。當學般若波羅蜜。欲知十善道。欲知四禪。欲知四無量心四無色定四念處乃至十八不共法。當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩欲入覺意三昧。當學般若波羅蜜。欲入六神通九次第定超越三昧。當學般若波羅蜜。欲得師子遊戲三昧。當學般若波羅蜜。欲得師子奮迅三昧。欲得一切陀羅尼門。當學般若波羅蜜。菩薩摩訶薩欲得首楞嚴三昧。寶印三昧。妙月三昧。月幢相三昧。一切法印三昧。觀印三昧。畢法性三昧。畢住相三昧。如金剛三昧。入一切法門三昧。三昧王三昧。王印三昧。淨力三昧。高出三昧。必入一切辯才三昧。入諸法名三昧。觀十方三昧。諸陀羅尼門印三昧。一切法不忘三昧。攝一切法聚印三昧。虛空住三昧。三分清淨三昧。不退神通三昧。出鉢三昧。諸三昧幢相三昧。欲得如是等諸三昧門。當學般若波羅蜜。復次世尊。菩薩摩訶薩欲滿一切衆生願。當學般若波羅蜜。欲得具足如是善根常不墮惡趣。欲得不生卑賤之家。欲得不住聲聞辟支佛地中。欲得不墮菩薩頂者。當學般若波羅蜜。爾時慧命舍利弗問須菩提云何為菩薩摩訶薩墮頂。須菩提言。舍利弗。若菩薩摩訶薩不以方便行六波羅蜜。入空無相無作三昧。不墮聲聞辟支佛地。亦不入菩薩位。是名菩薩摩訶薩法生故墮頂。舍利弗問須菩提。云何名菩薩生。須菩

須上三本俱有慧命二字
怒同作瞋〔調〕元明俱作掉〇一切三本俱作諸
必明作畢
法下元明俱有愛字

無三本俱作不

不可同作無所下同

淨上同有淸字若同作等

提答舍利弗言。生名法愛。舍利弗言。何等法愛。須菩提言。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。色是空受念著。受想行識是空受念著。舍利弗。是名菩薩摩訶薩順道法愛生。復次舍利弗。菩薩摩訶薩色是無相受念著。受想行識是無相受念著。色是無作受念著。受想行識是無作受念著。色是寂滅受念著。受想行識是寂滅受念著。色是無常乃至識。色是苦乃至識。色是無我乃至識。受念著。是爲菩薩順道法愛生。是苦應知。集應斷。盡應證。道應修。是垢法是淨法。是應近是不應近。是菩薩所應行是非菩薩所應行。是菩薩道是非菩薩道。是菩薩學是非菩薩學。是菩薩檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。是非菩薩檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。是菩薩方便是非菩薩方便。是菩薩熟是非菩薩熟。舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。是諸法受念著。是爲菩薩摩訶薩順道法愛生。舍利弗問須菩提。云何名菩薩摩訶薩無生。須菩提言。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。內空中不見外空。外空中不見內空。外空中不見內外空。內外空中不見外空。內外空中不見空空。空空中不見內外空。空空中不見大空。大空中不見空空。大空中不見第一義空。第一義空中不見大空。第一義空中不見有爲空。有爲空中不見第一義空。有爲空中不見無爲空。無爲空中不見有爲空。無爲空中不見畢竟空。畢竟空中不見無爲空。畢竟空中不見無始空。無始空中不見畢竟空。無始空中不見散空。散空中不見無始空。散空中不見性空。性空中不見散空。性空中不見諸法空。諸法空中不見性空。諸法空中不見自相空。自相空中不見諸法空。自相空中不見不可得空。不可得空中不見自相空。不可得空中不見無法空。無法空中不見不可得空。無法空中不見有法空。有法空中不見無法空。有法空中不見無法有法空。無法有法空中不見有法空。舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。得入菩薩位。復次舍利弗。菩薩摩訶薩欲學般若波羅蜜。應如是學。不念色受想行識。不念眼乃至意。不念色乃至法。不念檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜乃至十八不共法。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。得是心不應念不應高。無等等心不應念不應高。大心不應念不應高。何以故。是心非心。心相常淨故。舍利弗語須菩提。云何名心相常淨。須菩提言。若菩薩知是心相。與婬怒癡不合不離。諸纒流縛若諸結使。一切煩惱不合不離。聲聞辟支佛心不合不離。舍利弗。是名菩薩心相常淨。舍利弗語須菩提。有是無心

相心不。須菩提報舍利弗言。無心相中。有心相無心相可得不。舍利弗言。不可得。須菩提言。若不可得。不應問有是無心相心不。舍利弗復問。何等是無心相。須菩提言。諸法不壞不分別。是名無心相。舍利弗復問須菩提。但是心不壞不分別。色亦不壞不分別。乃至佛道亦不壞不分別耶。須菩提言。若能知心相不壞不分別。是菩薩亦能知色乃至佛道不壞不分別。爾時慧命舍利弗讚須菩提言。善哉善哉。汝眞是佛子從佛口生。從見法生從法化生。取法分不取財分。法中自信身得證。如佛所說得無諍三昧中汝最第一。實如佛所擧須菩提。菩薩摩訶薩應如是學般若波羅蜜。是中亦當分別知。菩薩如汝所說行。則不離般若波羅蜜。須菩提。善男子善女人。欲學聲聞地亦當應聞般若波羅蜜。持誦讀正憶念如說行。欲學辟支佛地亦當應聞般若波羅蜜。持誦讀正憶念如說行。欲學菩薩地亦當應聞般若波羅蜜。持誦讀正憶念如說行。何以故。是般若波羅蜜中廣說三乘。是中菩薩摩訶薩聲聞辟支佛當學

摩訶般若波羅蜜經集散品第九

爾時慧命須菩提白佛言。世尊。我不覺不得是菩薩行般若波羅蜜。當爲誰說般若波羅蜜。世尊。我不得一切諸法集散。若我爲菩薩作字言菩薩或當有悔。世尊。是字不住亦不不住。何以故。是字無所有故。以是故。是字不住亦不不住。世尊。我不得色集散乃至識集散。若不可得云何當作名字。世尊。以是因緣故。是字不住亦不不住。何以故。是字無所有故。世尊。我亦不得眼集散乃至意集散。若不可得云何當作名字言是菩薩。世尊。是眼名字乃至意名字。不住亦不不住。何以故。是名字無所有故。以是故。是字不住亦不不住。世尊。我不得色集散乃至法集散。若不可得云何當作名字言是菩薩。世尊。是色字乃至法字。不住亦不不住。何以故。是字無所有故。以是故。是字不住亦不不住。眼識乃至意識。眼觸乃至意觸。眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受亦如是。世尊。我不得無明集散。乃至不得老死集散。世尊。我不得無明盡集散。乃至不得老死盡集散。世尊。我不得婬怒癡集散諸邪見集散皆亦如是。世尊。我不得六波羅蜜集散四念處集散乃至八聖道分集散。空無相無作集散。四禪四無量心四

不上三本俱有亦字

息下宋明倶無念身二字○我下三本倶無亦字次同○我若同作若我○五下三本倶有受字○嚮同作響次同
法下同有也字
世界同作國土
蔭同作陰
入同作處○法宋作性
名下宋明倶無字字次同○名下宋有佛字
惟越三本倶作鞞跋

無色定集散。念佛念法念僧念戒念捨念天。念善念入出息念身念死集散。我亦不得佛十力。乃至十八不共法集散。世尊我若不得六波羅蜜。乃至十八不共法集散。云何當作字言是菩薩。世尊。是字不住。亦不不住。何以故。是字無所有故。以是故。是字不住亦不不住。世尊。我不得如夢五陰集散。我亦不得如嚮如影如燄如化五受陰集散。亦如上說。世尊。我不得離集散。我不得寂滅不生不滅。不示不垢不淨集散。世尊。我不得如法性實際法相法位集散。亦如上說。我不得諸善不善法集散。我不得有爲無爲法有漏無漏法集散。過去未來現在法集散。不過去不未來不現在法集散。何等是不過去不未來不現在。所謂無爲法。世尊我亦不得無爲法集散。世尊。我亦不得佛集散。世尊。我亦不得十方如恒河沙等世界諸佛。及菩薩聲聞集散。世尊。若我不得諸佛集散。云何當教菩薩摩訶薩般若波羅蜜。世尊。是菩薩字不住亦不不住。何以故。是字無所有故。以是故。是字不住亦不不住。世尊。我不得是諸法實相集散。云何當與菩薩作字言是菩薩。世尊。是諸法實相。名字不住亦不不住。何以故。是名字無所有故。以是故。是名字不住亦不不住。世尊。諸法因緣和合假名施設。所謂菩薩是名字。於五蔭中不可說。十二入十八界乃至十八不共法中不可說。於和合法中亦無可說。世尊。譬如夢於諸法中不可說。嚮影燄化於諸法中。亦不可說。譬如名虛空。亦無法中可說。世尊。如地水火風名。亦無法中可說。戒三昧智慧解脫解脫知見名。亦無法中可說。如須陀洹名字。乃至阿羅漢辟支佛名字。亦無法中可說如佛名法名。亦無法中可說。所謂若善若不善。若常若無常。若苦若樂。若我若無我。若寂滅若離。若有若無。世尊。我以是義故。心悔一切諸法集散相不可得。云何爲菩薩作字言是菩薩。世尊。是字不住亦不不住。何以故。是字無所有故。以是故。是字不住亦不不住。世尊。若菩薩摩訶薩聞作是說般若波羅蜜。如是相如是義。心不沒不悔不驚不畏不怖。當知是菩薩必住阿惟越致。性中住不住法故。復次世尊。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。色中不應住。受想行識中不應住。眼耳鼻舌身意中不應住。色聲香味觸法中不應住。眼識乃至意識中不應住。眼觸乃至意觸中不應住。眼觸因緣生受。乃至意觸因緣生受中不應住。地種。水火風種空識種中不應住。無明乃至老死中不應住。何以故。世尊。色色相空受想行識識相空。世尊。色空不名爲色。離空亦無色。色卽是空空卽是色。受想行識。識空不名爲識。離空亦無識

識卽是空空卽是識。乃至老死老死相空。世尊。老死空不名老死。離空亦無老死。老死卽是空。空卽是老死。世尊
以是因緣故。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。不應色中住。乃至老死中不應住。復次世尊。菩薩摩訶薩欲行般若
波羅蜜。四念處中不應住。何以故。四念處四念處相空。世尊。四念處空不名四念處。離空亦無四念處。四念處卽
是空。空卽是四念處。乃至十八不共法亦如是。世尊。以是因緣故。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。四念處乃至十
八不共法中不應住。復次世尊。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。檀那波羅蜜中不應住。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜
毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜中不應住。何以故。檀那波羅蜜檀那波羅蜜相空。乃至般若波羅蜜般
若波羅蜜相空。世尊。檀那波羅蜜空不名檀那波羅蜜。離空亦無檀那波羅蜜。檀那波羅蜜卽是空。空卽是檀那
波羅蜜。乃至般若波羅蜜亦如是。世尊。以是因緣故。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。不應六波羅蜜中住。復次世
尊。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。文字中不應住。一字門二字門。如是種種字門中不應住。何以故。諸字諸字相
空故。亦如上說。復次世尊。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。諸神通中不應住。何以故。諸神通諸神通相空。神通空
不名神通。離空亦無神通。神通卽是空。空卽是神通。世尊。以是因緣故。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。諸神通中
不應住。復次世尊。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。色是無常不應住。受想行識是無常不應住。何以故。無常無常
相空。世尊無常空不名無常。離空亦無無常。無常卽是空。空卽是無常。世尊。以是因緣故。菩薩摩訶薩欲行般若
波羅蜜。色是無常不應住。受想行識是無常不應住。色是苦不應住。受想行識是苦不應住。色是無我不應住。受
想行識是無我不應住。色是空不應住。受想行識是空不應住。色是寂滅不應住。受想行識是寂滅不應住。色是
離不應住。受想行識是離不應住。亦如上說。復次世尊。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。如中不應住。何以故。如如
相空。世尊。如相空不名如。離空亦無如。如卽是空空卽是如。世尊。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。法性法相法位
實際中不應住。何以故。實際實際空。世尊。實際空不名實際。離空亦無實際。實際卽是空。空卽是實際。復次世尊。
菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。一切陀羅尼門中不應住。一切三昧門中不應住。何以故。陀羅尼門陀羅尼門相
空。三昧門三昧門相空。世尊。陀羅尼門三昧門空。不名陀羅尼門三昧門。離空亦無陀羅尼三昧門。陀羅尼三昧

神上三本俱無諸字
空上同有相字
尼下同有門字下同

無上同有以字次同○故以吾三字宋作有次同○心下三本俱有故字下同○以吾二字宋明俱作有

陀上三本俱有諸字○云宋作字○性宋明俱作信○相下元無中字○得故見三字宋明俱作故得元作得見下同○智下元無慧字○見宋明俱作得下同○無元作若次同

門卽是空。空卽是陀羅尼三昧門。世尊。以是因緣故。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜如。乃至陀羅尼三昧門中不應住。世尊。如菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜無方便故。以吾我心於色中住。是菩薩作色行。以吾我心於受想行識中住。是菩薩作識行。若菩薩作行者。不受般若波羅蜜。亦不具足般若波羅蜜。不具足般若波羅蜜故。不能得成就薩婆若。世尊。如菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜無方便故。以吾我心於十二入乃至陀羅尼三昧門中住。是菩薩作十二入乃至作陀羅尼三昧門行若菩薩作行者。不受般若波羅蜜。亦不具足般若波羅蜜。不具足般若波羅蜜故。不能得成就薩婆若。何以故。色是不受受想行識是不受。色不受則非色性空故。受想行識不受則非識。性空故。十二入是不受。乃至陀羅尼三昧門是不受。十二入不受則非十二入。乃至陀羅尼三昧門不受則非陀羅尼三昧門。性空故。般若波羅蜜亦不受。般若波羅蜜不受則非般若波羅蜜。性空故如是菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。應觀諸法性空。如是觀心無行處。是名菩薩摩訶薩不受三昧廣大之用。不與聲聞辟支佛共。是薩婆若慧。亦不受內空故。外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空自相空諸法空不可得空無法空有法空無法有法空故。何以故。是薩婆若不可以相行得相行有垢故。何等是垢相。色相乃至陀羅尼三昧門相。是名垢相。是相若受若修。可得薩婆若者。先尼梵志。於一切智中終不生信。云何爲信信般若波羅蜜。分別解知稱量思惟。不以相法。不以無相法。如是先尼梵志。不取相住信行中。用性空智入諸法相中。不受色不受受想行識。何以故。諸法自相空故不可得受。是先尼梵志。非內觀得故見是智慧。非外觀得故見是智慧。非內外觀得故見是智慧。亦不無智慧觀得故見是智慧。何以故。梵志不見是法智者知法知處故此梵志非內色中見是智慧非內受想行識中見是智慧。非外色中見是智慧非外受想行識中見是智慧。非內外色中見是智慧。非內外受想行識中見是智慧。亦不離色受想行識中見是智慧。內外空故。先尼梵志此中心得信解於一切智。以是故。梵志信諸法實相。一切法不可得故。如是信解已無法可受。諸法無相無憶念故。是梵志於諸法亦無所得。無取無捨。取捨不可得故。是梵志亦不念智慧。諸法相無念故。世尊。是名菩薩摩訶薩般若波羅蜜。此彼岸不度故。是菩薩色受想行識不受。一切法不受故。乃至諸陀羅尼三昧門亦不受。一切法不受故。是菩薩

於是中亦不取涅槃未具足四念處乃至八聖道分未具足十力乃至十八不共法故何以故是四念處非四念處乃至十八不共法非十八不共法是諸法非法亦不非法是名菩薩摩訶薩般若波羅蜜色不受乃至十八不共法不受復次世尊菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜應如是思惟何者是般若波羅蜜何以故名般若波羅蜜是誰般若波羅蜜若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜如是念若法無所有不可得是般若波羅蜜爾時舍利弗問須菩提何等法無所有不可得須菩提言般若波羅蜜是法無所有不可得禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜是法無所有不可得內空故外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空自相空諸法空不可得空無法空有法空無法有法空故舍利弗色法無所有不可得受想行識法無所有不可得內空法無所有不可得乃至無法有法空法無所有不可得舍利弗四念處法無所有不可得乃至十八不共法無所有不可得舍利弗諸神通法無所有不可得如如法無所有不可得法性法相法位法住實際法無所有不可得舍利弗佛無所有不可得薩婆若法無所有不可得一切種智法無所有不可得內空乃至無法有法空故舍利弗若菩薩摩訶薩如是思惟如是觀時心不沒不悔不驚不畏不怖當知是菩薩不離般若波羅蜜行舍利弗問須菩提何因緣故當知菩薩不離般若波羅蜜行須菩提言色離色性受想行識離識性六波羅蜜離六波羅蜜性乃至實際離實際性舍利弗復問須菩提云何是色性云何是受想行識性云何乃至實際性須菩提言無所有是色性無所有是受想行識性乃至無所有是實際性舍利弗以是因緣故當知色離色性受想行識離識性乃至實際離實際性舍利弗色亦離色相受想行識亦離識相乃至實際亦離實際相相亦離相性亦離性舍利弗問須菩提菩薩摩訶薩若如是學得成就薩婆若耶須菩提言如是如是舍利弗若菩薩摩訶薩如是學得成就薩婆若何以故以諸法不生不成就故舍利弗問須菩提何因緣故諸法不生不成就須菩提言色色空是色生成就不可得受想行識識空是識生成就不可得乃至實際實際空是實際生成就不可得舍利弗菩薩摩訶薩如是學漸近薩婆若漸得身清淨心清淨相清淨漸得身清淨心清淨相清淨故是菩薩不生染心不生瞋心不生癡心不生憍慢心不生慳貪心不生邪見心是菩薩不生染心乃至不生邪見心

何下三本俱有是字

學下宋有復字○若下三本俱無耶字

故終不生母人腹中常得化生從一佛國至一佛國成就衆生淨佛國土乃至阿耨多羅三藐三菩提終不離諸佛舍利弗菩薩摩訶薩當作是行般若波羅蜜當作是學般若波羅蜜

品目相行元明俱作行相

摩訶般若波羅蜜經相行品第十

爾時須菩提白佛言世尊若菩薩摩訶薩無方便欲行般若波羅蜜若行色爲行相若行受想行識爲行相若色是常行爲行相若受想行識是常行爲行相若色是無常行爲行相若受想行識是無常行爲行相若色是樂行爲行相若受想行識是樂行爲行相若色是苦行爲行相若受想行識是苦行爲行相若色是有行爲行相若受想行識是有行爲行相若色是空行爲行相若受想行識是空行爲行相若色是我行爲行相若受想行識是我行爲行相若色是無我行爲行相若受想行識是無我行爲行相若色是離行爲行相若受想行識是離行爲行相若色是寂滅行爲行相若受想行識是寂滅行爲行相世尊若菩薩摩訶薩無方便行四念處爲行相乃至行十八不共法爲行相世尊若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時作是念我行般若波羅蜜有所得行亦是行相世尊若菩薩摩訶薩作是念能如是行是修行般若波羅蜜亦是行相當知是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜無方便須菩提語舍利弗若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時色受念妄解若色受念妄解爲色故作行若爲色故作行不能得離生老病死憂悲苦惱及後世苦若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時無方便眼受念妄解乃至意色乃至法眼識界乃至意識界眼觸乃至意觸眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受四念處乃至十八不共法受念妄解爲十八不共法故作行若爲作行是菩薩不能得離生老病死憂悲苦惱及後世苦如是菩薩尚不能得聲聞辟支佛地證何況得阿耨多羅三藐三菩提無有是處舍利弗當知是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜無方便舍利弗問須菩提云何當知菩薩摩訶薩行般若波羅蜜有方便須菩提語舍利弗若菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜時不行色不行受想行識不行色相不行受想行識相不行色受想行識常不行色受想行識無常不行色受想行識樂不行色受想行識苦不行色受想行識我不行色受想行識無我不行色受想行識空不行色受想行識無相不

法三本俱作性
餘上三本俱有諸字
遍明作徧次同
盡明作淨
生上三本俱有立字
闇明作暗○妙淨明相淨妙

行色受想行識無作。不行色受想行識離。不行色受想行識寂滅。何以故。舍利弗。是色空爲非色。離空無色離色無空。色卽是空空卽是色。受想行識空爲非識。離空無識離識無空。空卽是識識卽是空。乃至十八不共法空。爲非十八不共法。離空無十八不共法。離十八不共法無空。空卽是十八不共法十八不共法卽是空。如是舍利弗。當知是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜有方便。是菩薩摩訶薩如是行般若波羅蜜。能得阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。行亦不受不行亦不受行不行亦不受。非行非不行亦不受。不受亦不受。舍利弗語須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。何因緣故不受。須菩提言。是般若波羅蜜自性不可得故不受。何以故。無所有法是般若波羅蜜。舍利弗。以是故。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。行亦不受不行亦不受。行不行亦不受。非行非不行亦不受。不受亦不受。何以故。一切法性無所有。不隨諸法行。不受諸法相故。是名菩薩摩訶薩諸法無所受三昧廣大之用。不與聲聞辟支佛共。是菩薩摩訶薩行是三昧不離。疾得阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗言。但不離是三昧。令菩薩摩訶薩疾得阿耨多羅三藐三菩提。更有餘三昧。須菩提語舍利弗言。更有諸三昧。菩薩摩訶薩行是三昧。疾得阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗言。何等三昧菩薩摩訶薩行是。疾得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提言。諸菩薩摩訶薩有三昧。名首楞嚴行。是三昧令菩薩摩訶薩疾得阿耨多羅三藐三菩提。有名寶印三昧。師子遊戲三昧。妙月三昧月幢相三昧。出諸法印三昧。觀頂三昧。畢法性三昧。畢幢相三昧。金剛三昧。入法印三昧。三昧王安立三昧。王印三昧。放光三昧力進三昧。出生三昧。必入辯才三昧。入名字三昧。觀方三昧。陀羅尼印三昧。不忘三昧。攝諸法海印三昧。遍覆虛空三昧。金剛輪三昧。寶斷三昧。能照耀三昧。不求三昧。三昧無處住三昧。無心三昧。淨燈三昧。無邊明三昧。能作明三昧。普遍明三昧。堅淨諸三昧。三昧無垢明三昧。作樂三昧。電光三昧。無盡三昧。威德三昧。離盡三昧。不動三昧。莊嚴三昧。日光三昧。月淨三昧。淨明三昧。能作明三昧。作行三昧。知相三昧。如金剛三昧。心住三昧。遍照三昧。安立三昧。寶頂三昧。妙法印三昧。法等三昧。生喜三昧。到法頂三昧。能散三昧。壞諸法處三昧。字等相三昧。離字三昧。斷緣三昧。不壞三昧。無種相三昧。無處行三昧。離闇三昧。無去三昧。不動三昧。度緣三昧。集諸德三昧。住無心三昧。妙淨花三昧。覺意三昧。無量辯三昧。無等等三昧。度諸法

憙明作喜

身下元有衺字是三本俱作如

是同作此

等明作是

菩上三本俱無如是二字〔薩下同有如是二字次同〇是上同無如字

三昧。分別諸法三昧。散疑三昧。無住處三昧。一相三昧。生行三昧。一行三昧。不一行三昧。妙行三昧。達一切有底散三昧。入言語三昧。離音聲字語三昧。然炬三昧。淨相三昧。破相三昧。一切種妙足三昧。不憙苦樂三昧。不盡行三昧。多陀羅尼三昧。取諸邪正相三昧。滅憎愛三昧。逆順三昧。淨光三昧。堅固三昧。滿月淨光三昧。大莊嚴三昧。能照一切世三昧。等三昧。無諍行三昧。無住處樂三昧。如住定三昧。壞身三昧。壞語如虛空三昧。離著如虛空不染三昧。舍利弗。是菩薩摩訶薩行是諸三昧。疾得阿耨多羅三藐三菩提。復有無量阿僧祇三昧門陀羅尼門。菩薩摩訶薩學是三昧門陀羅尼門。疾得阿耨多羅三藐三菩提。慧命須菩提。隨佛心言。當知諸菩薩摩訶薩行是三昧者。已為過去諸佛所授記。今現在十方諸佛亦授是菩薩記。是菩薩不見是諸三昧。亦不念是三昧。亦不念我當入是三昧我今入是三昧我已入是三昧。是菩薩摩訶薩都無分別念。舍利弗問須菩提。菩薩摩訶薩住是諸三昧已。從過去佛受記耶。須菩提報言。不也舍利弗。何以故。般若波羅蜜不異諸三昧。諸三昧不異般若波羅蜜。菩薩不異般若波羅蜜及三昧。般若波羅蜜及三昧不異菩薩。般若波羅蜜卽是三昧。三昧卽是般若波羅蜜。菩薩卽是般若波羅蜜及三昧。般若波羅蜜及三昧卽是菩薩。舍利弗語須菩提。若三昧不異菩薩。菩薩不異三昧。三昧卽是菩薩菩薩。卽是三昧。菩薩云何知一切諸法等三昧。須菩提言。若菩薩入是三昧。是時不作是念。我以是法入是三昧。以是因緣故。舍利弗。是菩薩於諸三昧。不知不念。舍利弗言。何以故。不知不念。須菩提言。諸三昧無所有故。是菩薩不知不念。爾時佛讃言。善哉善哉。須菩提。如我說汝行無諍三昧第一。與此義相應。菩薩摩訶薩應如是學般若波羅蜜禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。四念處乃至十八不共法亦應如是學。舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩如是學。為學般若波羅蜜耶。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩如是學。為學般若波羅蜜。是法不可得故。乃至學檀那波羅蜜。是法不可得故。學四念處乃至十八不共法。是法不可得故。舍利弗白佛言。世尊。如是菩薩摩訶薩學般若波羅蜜。是法不可得耶。佛言。如是菩薩摩訶薩學般若波羅蜜。是法不可得。舍利弗言。世尊何等法不可得。佛言。我不可得。乃至知者見者不可得。畢竟淨故。五陰不可得。十二入不可。得十八界不可得。畢竟淨故。無明不可得。畢竟淨故。乃至老死不可得。畢竟淨故。苦諦不可得。畢

人同作夫

夫宋元俱作人人明作夫

惟越三本俱作鞞跋○十同作不○名下同有爲字

不上同有亦字次同

竟淨故。集滅道諦不可得。畢竟淨故。欲界不可得。畢竟淨故。色界無色界不可得。畢竟淨故。四念處不可得。畢竟淨故。乃至十八不共法不可得。畢竟淨故。六波羅蜜不可得。畢竟淨故。須陀洹不可得。畢竟淨故。斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛不可得。畢竟淨故。佛不可得。畢竟淨故。舍利弗白佛言。世尊。何等是畢竟淨。佛言。不出不生無得無作。是名畢竟淨。舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩若如是學。爲學何等法。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩如是學。於諸法無所學。何以故。舍利弗。諸法相不如凡人所著。舍利弗白佛言。世尊。諸法實相云何有。佛言。諸法無所有。如是有如是無所有。是事不知名爲無明。舍利弗白佛言。世尊。何等無所有。是事不知名爲無明。佛告舍利弗。色受想行識無所有。內空乃至無法有法空故。四念處乃至十八不共法無所有。內空乃至無法有法空故。是中凡夫以無明力渴愛故。妄見分別說是無明。是凡夫爲二邊所縛。是人不知不見諸法無所有。而憶想分別著色乃至十八不共法。是人著故於無所有法而作識知見。是凡人不知不見。何等不知不見。不知不見色。乃至十八不共法亦不知不見。以是故。墮凡夫數如小兒。是人不出。於何不出。不出欲界不出色界不出無色界。不出聲聞辟支佛法中。是人亦不信。不信何等。不信色空。乃至不信十八不共法空。是人不住。不住何等不住檀那波羅蜜。乃至不住般若波羅蜜。不住阿惟越致地乃至十住十八不共法。以是因緣故。名爲凡夫如小兒。亦名著者。何等爲著。著色乃至識。著眼入乃至意入著眼識界乃至意識界。著婬怒癡。著諸邪見。著四念處。乃至著佛道。舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩作如是學。亦不學般若波羅蜜不得薩婆若。佛語舍利弗。菩薩摩訶薩作如是學。亦不學般若波羅蜜。不得薩婆若。舍利弗白佛言。世尊。何以故。菩薩摩訶薩亦不學般若波羅蜜。不得薩婆若。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩無方便故。想念分別著般若波羅蜜著禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。乃至十八不共法一切種智。想念分別著。以是因緣故。菩薩摩訶薩如是學。亦不學般若波羅蜜。不得薩婆若。舍利弗白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩如是學。不學般若波羅蜜。不得薩婆若。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩如是學。不學般若波羅蜜不得薩婆若。舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩今云何應學般若波羅蜜得薩婆若。佛告舍利弗。若菩薩摩訶薩學般若波羅蜜時。不見般若波羅蜜。舍利弗。菩薩摩訶薩如是學般

若波羅蜜得薩婆若。以不可得故。舍利弗白佛言。世尊。云何名不可得。佛言。諸法內空乃至無法有法空故

摩訶般若經卷第三

品目學宋元俱作人○禪下三本俱無那字○檀下同無那字下同

幻三本俱作法

蔭同作陰下同

摩訶般若波羅蜜經卷第四

〔麗芥〕〔宋薑〕〔元薑〕〔明薑〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

幻學品第十一 丹本云幻人品

爾時慧命須菩提白佛言。世尊。若當有人問言。幻人學般若波羅蜜當得薩婆若不。幻人學禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。學四念處乃至十八不共法及一切種智。得薩婆若不。我當云何答。佛告須菩提。我還問汝。隨汝意答我。須菩提。於汝意云何。色與幻有異不。受想行識與幻有異不。須菩提言。不也世尊。佛言。於汝意云何。眼與幻有異不。乃至意與幻有異不。色乃至法與幻有異不。眼界乃至意識界與幻有異不。眼觸乃至意觸。眼觸因緣生受。乃至意觸因緣生受。與幻有異不。須菩提言。不也世尊。於汝意云何。四念處與幻有異不。乃至八聖道分與幻有異不。不也世尊。於汝意云何。空無相無作與幻有異不。不也世尊。須菩提。於汝意云何。檀那波羅蜜與幻有異不。乃至十八不共法與幻有異不。不也世尊。須菩提。於汝意云何。阿耨多羅三藐三菩提與幻有異不。不也世尊。何以故。色不異幻幻不異色。色即是幻幻即是色。世尊。受想行識不異幻幻不異受想行識。識即是幻幻即是識。世尊。眼不異幻幻不異眼。眼即是幻幻即是眼。眼觸因緣生受。乃至意觸因緣生受亦如是。世尊。四念處不異幻。幻不異四念處。四念處即是幻。幻即是四念處。乃至阿耨多羅三藐三菩提不異幻。幻不異阿耨多羅三藐三菩提。阿耨多羅三藐三菩提即是幻。幻即是阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。於汝意云何。幻有垢有淨不。不也世尊。須菩提。於汝意云何。幻有生有滅不。不也世尊。若幻不生不滅。是法能學般若波羅蜜當得薩婆若不。不也世尊。於汝意云何。五受蔭假名是菩薩不。如是世尊。於汝意云何。五受蔭假名有生滅垢淨不。不也世尊。於汝意云何。若法但有名字。非身非身業非口非口業非意非意業。不生不滅不垢不淨。如是法能學般若波羅蜜得薩婆若不。不也世尊。菩薩摩訶薩若能如是學般若波羅蜜。當得薩婆若。以無所

得同作學○人下同無學字

嚮同作響次同○燄宋元俱作炎下同○五陰三本俱作識○是上元無如字

亦上三本俱無是字有同作中次同

乃至三本俱作受想行三字

尸上同有不著二字

得故。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩應如是學般若波羅蜜。得阿耨多羅三藐三菩提如幻人學。何以故。世尊。當知五陰即是幻人。幻人即是五陰。佛告須菩提。於汝意云何。是五陰學般若波羅蜜當得薩婆若不。不也世尊。何以故。是五陰性無所。有無所有性亦不可得。佛告須菩提。於汝意云何。如夢五陰學般若波羅蜜當得薩婆若不。不也世尊。何以故。夢性無所有。無所有性亦不可得。於汝意云何。如嚮如影如燄如化五陰。學般若波羅蜜當得薩婆若不。不也世尊。何以故。嚮影燄化性無所有。無所有性亦不可得。六情亦如是。世尊。五陰即是六情六情即是五陰。如是法皆內空故不可得。乃至無法有法空故不可得。須菩提白佛言。世尊。新發大乘意菩薩聞說般若波羅蜜將無恐怖。佛告須菩提。若新發大乘意菩薩於般若波羅蜜。無方便亦不得善知識。是菩薩或驚或怖或畏。須菩提白佛言。世尊。何等是方便。菩薩行是方便。不驚不畏不怖。佛告須菩提。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜應薩婆若心觀色無常相。是亦不可得。觀受想行識無常相。是亦不可得。須菩提。是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜有方便。復次須菩提。菩薩摩訶薩應薩婆若心。觀色苦相。是亦不可得。受想行識亦如是。應薩婆若心。觀色無我相。是亦不可得。受想行識亦如是。復次須菩提。菩薩摩訶薩應薩婆若心。觀色空相是亦不可得。受想行識亦如是。觀色無相相是亦不可得。受想行識亦如是。觀色無作相是亦不可得。乃至識亦如是。觀色寂滅相是亦不可得。乃至識亦如是。觀色離相是亦不可得。乃至識亦如是。是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜有方便。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。觀色無常相是亦不可得。觀色苦相無我相空相無相相無作相寂滅相離相。是亦不可得受想行識亦如是。是時菩薩作是念。我當爲一切衆生說相無常法。是亦不可得。當爲一切衆生說苦相說無我相空相無相相無作相寂滅相離相。是亦不可得。是名菩薩摩訶薩檀那波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩不以聲聞辟支佛心。觀色無常亦不可得。不以聲聞辟支佛心。觀識無常亦不可得。不以聲聞辟支佛心。觀色苦無我空無相無作寂滅離。亦不可得。受想行識亦如是。是名菩薩摩訶薩尸羅波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。是諸法無常相。乃至離相忍欲樂。是名菩薩摩訶薩羼提波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。應薩婆若心觀色無常相亦不可得。乃至離相亦不可得。受想行識亦如是。應薩婆若心不捨

般上同無是字

畏怖三本俱作怖畏

不息.是名菩薩摩訶薩毗棃耶波羅蜜.復次須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.不起聲聞辟支佛意及餘不善心.是名菩薩摩訶薩禪那波羅蜜.復次須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.如是思惟.不以空色故色空.色卽是空空卽是色.受想行識亦如是.不以空眼故眼空.眼卽是空空卽是眼.乃至意觸因緣生受.不以空受故受空.受卽是空空卽是受.不以空四念處故.四念處空.四念處卽是空.空卽是四念處.乃至不以空十八不共法故.十八不共法空.十八不共法卽是空.空卽是十八不共法.如是須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.不驚不畏不怖.須菩提白佛言.世尊.何等是菩薩摩訶薩善知識守護故.聞說是般若波羅蜜不驚不畏不怖.佛告須菩提.菩薩摩訶薩善知識者.說色無常亦不可得.持是善根不向聲聞辟支佛道.但向一切智.是名菩薩摩訶薩善知識.說受想行識無常亦不可得.持是善根不向聲聞辟支佛道.但向一切智.是名菩薩摩訶薩善知識.須菩提.菩薩摩訶薩復有善知識.說色苦亦不可得.說受想行識苦亦不可得.說色無我受想行識無我亦不可得.說色空無相無作寂滅離亦不可得.受想行識空無相無作寂滅離亦不可得.持是善根不向聲聞辟支佛道.但向一切智.須菩提.是名菩薩摩訶薩善知識.須菩提.菩薩摩訶薩復有善知識.說眼無常乃至離亦不可得.乃至意觸因緣生受.說無常乃至離亦不可得.持是善根不向聲聞辟支佛道.但向一切智.是名菩薩.摩訶薩善知識.須菩提.菩薩摩訶薩復有善知識.說修四念處法乃至離亦不可得.持是善根不向聲聞辟支佛道.但向一切智.須菩提.是名菩薩摩訶薩善知識.乃至說修十八不共法.修一切智亦不可得.持是善根不向聲聞辟支佛道.但向一切智.是名菩薩摩訶薩善知識.須菩提白佛言.云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜無方便.隨惡知識聞說是般若波羅蜜驚畏怖.佛告須菩提.菩薩摩訶薩離一切智心.修般若波羅蜜.得是般若波羅蜜.念是般若波羅蜜禪那波羅蜜毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜.皆得皆念.復次須菩提.菩薩摩訶薩離薩婆若心.觀色內空乃至無法有法空.觀受想行識內空乃至無法有法空.觀眼內空乃至無法有法空.乃至意觸因緣生受內空.乃至無法有法空.於諸法空.有所念有所得.復次須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜離薩婆若心修四念處亦念亦得乃至修十八不共法.亦念亦得.如是須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.以無方便故聞是般若波羅蜜驚

禪下同無那字次同

上明作尙○到上三本俱無來字○離上宋明俱無敎字

懃三本俱作勤下同

畏怖。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩隨惡知識聞般若波羅蜜驚畏怖。佛告須菩提。菩薩摩訶薩惡知識敎離般若波羅蜜離禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。須菩提。是名菩薩摩訶薩惡知識。須菩提。菩薩摩訶薩復有惡知識。不說魔事不說魔罪不作是言。惡魔作佛形像來。敎菩薩離六波羅蜜。語菩薩言。善男子。用修般若波羅蜜爲。用修禪|那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀|那波羅蜜爲。當知是菩薩摩訶薩惡知識。復次須菩提。惡魔復作佛形像到菩薩所。爲說聲聞經。若修妬路乃至憂波提舍敎詔。分別演說如是經。不爲說魔事魔罪。當知是菩薩摩訶薩惡知識。復次須菩提。惡魔作佛形像到菩薩所作是語。善男子。汝無眞菩薩心。亦非阿惟越致地。汝亦不能得阿耨多羅三藐三菩提。不爲說如是魔事魔罪。當知是菩薩惡知識。復次須菩提。惡魔作佛形像到菩薩所語菩薩言。善男子。色空無我無我所。受想行識空無我無我所。眼空無我無我所。乃至意觸因緣生受空。無我無我所檀|那波羅蜜空乃至般若波羅蜜空。四念處空。乃至十八不共法空。汝用阿耨多羅三藐三菩提爲。如是魔事魔罪不說不敎。當知是菩薩惡知識。復次須菩提。惡魔作辟支佛身到菩薩所語菩薩言。善男子。十方皆空是中無佛無菩薩無聲聞。如是魔事魔罪不說不敎。當知是菩薩摩訶薩惡知識。復次須菩提。惡魔作和|上阿闍黎身|來到菩薩所。敎離菩薩道。敎離一切種智。敎離四念處乃至八聖道分。敎離檀|那波羅蜜。乃至|敎離十八不共法。敎入空無相無作。作是言。善男子。汝修念是諸法得聲聞證。用阿耨多羅三藐三菩提爲。如是魔事魔罪不說不敎。當知是菩薩惡知識。復次須菩提。惡魔作父母形像到菩薩所語菩薩言。子汝爲須陀洹果證故|懃精進。乃至阿羅漢果證故|懃精進。汝用阿耨多羅三藐三菩提爲。求阿耨多羅三藐三菩提。當受無量阿僧祇劫生死。截手截脚受諸苦痛。如是魔事魔罪不說不敎。當知是菩薩惡知識。復次須菩提。惡魔作比丘形像到菩薩所語菩薩言。眼無常可得法。乃至意無常可得法。眼苦眼無我眼空。無相無作寂滅離說可得法。乃至意亦如是。用有所得法說四念處。乃至用有所得法說十八不共法。須菩提。如是魔事魔罪不說不敎。當知是菩薩惡知識。知已當遠離之

句宋明俱作有○提下元有中字

蜜下宋無時字下同○因下宋元俱無緣字

蜜下宋明俱無時字

想宋元俱作相

摩訶般若波羅蜜經句義品第十二

爾時須菩提白佛言。世尊。云何爲菩薩句義。佛告須菩提。無句義是菩薩句義。何以故。阿耨多羅三藐三菩提無有義處亦無我。以是故。無句義是菩薩句義。須菩提。譬如鳥飛虛空無有跡。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。譬如夢中所見無處所。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。譬如幻無有實義。如燄如響如影如佛所化無有實義。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。譬如如法性法相法位實際無有義。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。譬如幻人色無有義。幻人受想行識無有義。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如幻人眼無有義乃至意無有義。須菩提。如幻人色無有義乃至法無有義。眼觸因緣生受。乃至意觸因緣生受無有義。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如幻人行內空時無有義。乃至行無法有法空無有義。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如幻人行四念處乃至十八不共法無有義。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀色無有義是色無有故。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀。受想行識無有義是識無有故。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如佛眼無處所乃至意無處所。色乃至法無處所。眼觸乃至意觸因緣生受無處所。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如佛內空無處所。乃至無法有法空無處所。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如佛四念處無處所。乃至十八不共法無處所。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如有爲性中無無爲性義。無爲性中無有爲性義。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如不生不滅義無處所。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如不作不出不得不垢不淨無處所。菩薩句義無所有亦如是。須菩提白佛言。何法不生不滅故無處所。何法不作不出不得不垢不淨故無處所。佛告須菩提。色不生不滅故無處所。受想行識不生不滅故無處所。乃至不垢

不淨亦如是。入界不生不滅故無處所。乃至不垢不淨亦如是。四念處不生不滅故無處所。乃至不垢不淨亦如是。乃至十八不共法不生不滅故無處所。乃至不垢不淨亦如是。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如四念處淨義。畢竟不可得。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如四正懃乃至十八不共法淨義。畢竟不可得。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如淨中我不可得。我無所有故。乃至淨中知者見者不可得。知見無所有故。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。譬如日出時無有黑闇。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。譬如劫燒時無一切物。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。佛戒中無破戒。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。如佛定中無亂心。佛慧中無愚癡。佛解脫中無不解脫。佛解脫知見中無不解脫知見。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。須菩提。譬如佛光中日月光不現。佛光中四王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天梵衆天。乃至阿迦貳吒天。光不現。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。菩薩句義無所有亦如是。何以故。是阿耨多羅三藐三菩提菩薩。菩薩句義是一切法皆不合不散。無色無形無對一相。所謂無相。如是須菩提。菩薩摩訶薩一切法無閡相中。應當學亦應當知。須菩提白佛言。世尊。何等是一切法。云何一切法中無閡相應學應知。佛告須菩提。一切法者善法不善法。記法無記法。世間法出世間法。有漏法無漏法。有爲法無爲法。共法不共法。須菩提。是名一切法。菩薩摩訶薩是一切法無閡相中應學應知。須菩提白佛言。世尊。何等名世間善法。佛告須菩提。世間善法者。孝順父母。供養沙門婆羅門。敬事尊長。布施福處。持戒福處。修禪福處。勸導福事。方便生福德。世間十善道。九相。脹相血相壞相膿爛相青相噉相散相骨相燒相。四禪四無量心四無色定。念佛念法念僧念戒念捨念天。念善念安般念身念死。是名世間善法。何等不善法。奪他命不與取邪婬妄語兩舌惡口非時語貪惱害邪見。是十不善道等。是名不善法。何等記法。若善法若不善法。是名記法。何等無記法。無記身業口業意業。無記四大無記五陰十二入十八界。無記報。是名無記法。何等名世間法。世間法者。五陰十二入十八界。

知下見下並三本俱有者字
脫下同無佛字
王天宋作天王元明俱作天王天三字○貳三本俱作尼○閡同作礙下同
閡下宋無相字
禪元明俱作定○相三本俱作想下同
惱害宋明俱作瞋一字

空上三本俱無虛字下同
苦元明俱作喜
觸三本俱作識
著宋作諸同下元有諸字
品目金剛元作摩訶薩三字
菩上宋明俱無是字

十善道。四禪四無量心四無色定。是名世間法。何等名出世間法。四念處四正懃四如意足五根五力七覺分八聖道分。空解脫門無相解脫門無作解脫門。三無漏根。未知欲知根。知根。已知根。三三昧。有覺有觀三昧。無覺有觀三昧。無覺無觀三昧。明解脫念慧正憶八背捨。何等八色觀色是初背捨。內無色相外觀色是二背捨。淨背捨身作證。是三背捨。過一切色相故。滅有對相故。一切異相不念故。入無邊虛空處。是四背捨。過一切無邊虛空處。入一切無邊識處。是五背捨。過一切無邊識處。入無所有處。是六背捨。過一切無所有處。入非有想非無想處。是七背捨。過一切非有想非無想處。入滅受想定。是八背捨。九次第定。何等九。離欲離惡不善法有覺有觀。離生喜樂。入初禪。滅諸覺觀內清淨故。一心無覺無觀定生喜樂。入第二禪。離喜故行捨受身樂。聖人能說能捨念行樂。入第三禪。斷苦樂故。先滅憂喜故。不苦不樂捨念淨。入第四禪。過一切色相故。滅有對相故。一切異相不念故。入無邊虛空處。過一切無邊虛空處。入無邊識處。過一切無邊識處。入無所有處。過一切無所有處。入非有想非無想處。過一切非有想非無想處。入滅受想定。復有出世間法。內空乃至無法有法空。佛十力四無所畏四無礙智。十八不共法一切智。是名出世間法。何等爲有漏法。五受陰十二入十八界六種六觸六受四禪乃至四無色定。是名有漏法。何等爲無漏法。四念處乃至十八不共法及一切智。是名無漏法。何等爲有爲法。若法生住滅。欲界色界無色界。五陰乃至意觸因緣生受。四念處乃至十八不共法及一切智。是名有爲法。何等爲無爲法。不生不住不滅。若染盡瞋盡癡盡如不異法相法性法位實際。是名無爲法。何等爲共法。四禪四無量心四無色定。如是等是名共法。何等名不共法。四念處乃至十八不共法。是名不共法。菩薩摩訶薩於是自相空法中。不應著不動故。菩薩亦應知一切法不二相不動故。是名菩薩義

摩訶般若波羅蜜經金剛品第十三 丹本云摩訶薩品

爾時須菩提白佛言。世尊。何以故名爲摩訶薩。佛告須菩提。是菩薩於必定衆中爲上首。是故名摩訶薩。須菩提白佛言世尊。何等爲必定衆。是菩薩摩訶薩而爲上首。佛告須菩提。必定衆者。性地人八人須陀洹斯陀含阿那

惟越三本俱作鞞跋

當下宋無解字

恚下宋明俱無心字○慢元作惱

亦上宋無是事二字

行宋明俱作生

蜜下三本俱無時字下同

法下同無中字

舍阿羅漢辟支佛。初發心菩薩乃至阿惟越致地菩薩。須菩提。是爲必是衆。菩薩爲上首。菩薩摩訶薩於是中生大心。不可壞如金剛。當爲必定衆作上首。須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩生大心。不可壞如金剛。佛告須菩提。菩薩摩訶薩應生如是心。我當於無量生死中大誓莊嚴。我應當捨一切所有。我應當等心於一切衆生。我應當以三乘度脱一切衆生。令入無餘涅槃。我度一切衆生已。無有乃至一人入涅槃者。我應當解一切諸法不生相。我應當純以薩婆若心行六波羅蜜。我應當學智慧了達一切法。我應當了達諸法一相智門。我應當了達乃至無量相智門。須菩提。是名菩薩摩訶薩生大心。不可壞如金剛。是菩薩摩訶薩住是心中。於諸必定衆而爲上首。是法用無所得故。須菩提。菩薩摩訶薩應生如是心。我當代十方一切衆生若地獄衆生若畜生衆生若餓鬼衆生受苦痛。爲一一衆生。無量百千億劫代受地獄中苦。乃至是衆生入無餘涅槃。以是法故爲是衆生受諸懃苦。是衆生入無餘涅槃已。然後自種善根。無量百千億阿僧祇劫當得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。是爲菩薩摩訶薩生大心。不可壞如金剛。住是心中爲必定衆作上首。復次須菩提。菩薩摩訶薩生大快心。住是大快心中。爲必定衆作上首須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩大快心。佛言。菩薩摩訶薩從初發意乃至阿耨多羅三藐三菩提。不生染心瞋恚心愚癡心。不生慢心。不生聲聞辟支佛心。是名菩薩摩訶薩大快心。住是心中爲必定衆作上首。亦不念有是心。復次須菩提。菩薩摩訶薩應生不動心。須菩提白佛言。云何名不動心。佛言。常念一切種智心。亦不念有是心。是名菩薩摩訶薩不動心。復次須菩提。菩薩摩訶薩於一切衆生中應生利益安樂心。云何名利益安樂心。救濟一切衆生。不捨一切衆生。是事亦不念有是心。是名菩薩摩訶薩於一切衆生中生利益安樂心。如是須菩提。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。於必定衆中最爲上首。復次須菩提。菩薩摩訶薩應當行欲法喜法樂法心。何等是法。所謂不破諸法實相。是名爲法。何等名欲法喜法。信法忍法受法。是名欲法喜法。何等名樂法。常修行是法。是名樂法。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。於必定衆中能爲上首。是法用無所得故。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住內空乃至無法有法空。能爲必定衆作上首。是法用無所得故。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住四念處中。乃至住十八不共法中。能爲必定衆作上首。是

法用無所得故。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住如金剛三昧。乃至離著虛空不染三昧中住於必定衆作上首。是法用無所得故。如是須菩提。菩薩摩訶薩住是諸法中。能爲必定衆作上首。以是因緣故名爲摩訶薩

摩訶般若波羅蜜經樂說品第十四 丹本作斷見品

爾時慧命舍利弗白佛言。世尊。我亦欲說所以爲摩訶薩。佛告舍利弗。便說。舍利弗言。我見衆生見壽見命見生見養育見衆數見人見作見使作見起見使起見受見使受見知者見見者見。斷見常見。有見無見。陰見入見界見諦見因緣見。四念處見乃至十八不共法見。佛道見成就衆生見。淨佛國土見。佛見轉法輪見。爲斷如是諸見故而爲說法。是名摩訶薩。須菩提語舍利弗言。何因緣故。色見是妄見。何因緣故。受想行識乃至轉法輪見。是名妄見。舍利弗語須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。無方便故得色生見。用有所得故。得受想行識乃至轉法輪生見。用有所得故。是中菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力斷諸見網故而爲說法。用無所得故。爾時須菩提白佛言。世尊。我亦欲說所以爲摩訶薩。佛言。便說。須菩提言。世尊。是阿耨多羅三藐三菩提心。無等等心。不共聲聞辟支佛心。何以故。是一切智心無漏不繫故。是一切智心無漏不繫中亦不著。以是因緣故名摩訶薩。舍利弗語須菩提。何等爲菩薩摩訶薩無等等心。不共聲聞辟支佛心。須菩提言。菩薩摩訶薩從初發意以來。終不見法有生有滅。有增有減有垢有淨。舍利弗。若法無生無滅。乃至無垢無淨。是中無聲聞心無辟支佛心。無阿耨多羅三藐三菩提心無佛心。舍利弗。是名菩薩摩訶薩無等等心。不共聲聞辟支佛心。舍利弗語須菩提。如須菩提說。一切智心無漏心不繫心中亦不著。須菩提。色亦不著。受想行識亦不著四念處亦不著。乃至十八不共法亦不著。何以但說是心不著。著菩提言。如是如是。舍利弗。色亦不著乃至十八不共法亦不著。舍利弗語須菩提。凡夫人心亦無漏不繫性空故。諸聲聞辟支佛心諸佛心亦無漏不繫性空故。須菩提言。如是舍利弗。舍利弗言。須菩提。若色亦無漏不繫性空故。受想行識亦無漏不繫性空故。乃至意觸因緣生受。亦無漏不繫性空故。須菩提

品目樂說同作斷諸見三字

見上同無妄字○次妄同作爲○蜜下宋無時字下同○得同作於次同○菩上同無是中二字○網明作綱同下元無故字○以三本俱作已○來下同無終字

凡下同無夫字○色上宋明俱無若字○觸同作識次同

故下宋明俱無色中二字○著下同有色字○著十上同有不著二字○法下同無中不着三字○有三本俱作得
品目辯才元明俱作富樓那三字
尸下宋明俱無羅字下同

言爾。舍利弗言。四念處亦無漏不繫性空故。乃至十八不共法。亦無漏不繫性空故。須菩提言爾。如舍利弗所言凡夫人心亦無漏不繫性空故。乃至十八不共法。亦無漏不繫性空故舍利弗語須菩提。如須菩提所說。空無心故不著是心。須菩提。色無故不著色。受想行識乃至意觸因緣生受無故不著受。四念處無故不著四念處。乃至十八不共法無故。不著十八不共法。須菩提言。如是舍利弗。色無故色中不著。乃至十八不共法無故。十八不共法中不著。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。以阿耨多羅三藐三菩提心無等等心。不共聲聞辟支佛心。不念有是心亦不著是心。用一切法無所有故。以是故名摩訶薩

摩訶般若波羅蜜經辯才品第十五 丹本名爲富樓那品

爾時富樓那彌多羅尼子白佛言。世尊。我亦樂說所以爲摩訶薩。佛言便說。富樓那彌多羅尼子言。是菩薩大誓莊嚴是菩薩發趣大乘。是菩薩乘於大乘。以是故。是菩薩名摩訶薩。舍利弗語富樓那言。云何名菩薩摩訶薩大誓莊嚴。富樓那語舍利弗。菩薩摩訶薩不分別爲爾所人故。住檀那波羅蜜行檀那波羅蜜。爲一切衆生故。住檀那波羅蜜行檀那波羅蜜不爲爾所人故。住尸羅波羅蜜行尸羅波羅蜜。羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。爲一切衆生故。住般若波羅蜜行般若波羅蜜。菩薩摩訶薩大誓莊嚴。不齊限衆生。我當度若干人不度餘人。不言我令若干人至阿耨多羅三藐三菩提。餘人不至。是菩薩摩訶薩普爲一切衆生故大誓莊嚴。復作是念。我當自具足檀那波羅蜜。亦令一切衆生行檀那波羅蜜。自具足尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜。自具足般若波羅蜜。亦令一切衆生行般若波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。所有布施應薩婆若心。共一切衆生廻向阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。是名菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時檀那波羅蜜大誓莊嚴。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。應薩婆若心布施。不向聲聞辟支佛地。舍利弗。是名菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時尸羅波羅蜜大誓莊嚴。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。應薩婆若心布施。是諸施法信忍欲。是名行檀那波羅蜜時羼提波羅蜜大誓莊嚴。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行檀那

息上三本俱有不字

施下宋明俱無時字

波羅蜜時應薩婆若心布施懃修不息是名行檀那波羅蜜時毗梨耶波羅蜜大誓莊嚴復次舍利弗菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時應薩婆若心布施攝心不起聲聞辟支佛意是名行檀那波羅蜜時禪那波羅蜜大誓莊嚴復次舍利弗菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時應薩婆若心布施觀諸法如幻不得施者不得所施物不得受者是名行檀那波羅蜜時般若波羅蜜大誓莊嚴如是舍利弗菩薩摩訶薩應薩婆若心不取不得諸波羅蜜相當知是菩薩摩訶薩大誓莊嚴復次舍利弗菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時應薩婆若心布施共一切衆生迴向阿耨多羅三藐三菩提是名菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時檀那波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時是諸法信忍欲是名菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時羼提波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時懃修不息是名菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時毗梨耶波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時不受聲聞辟支佛心是名菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時禪那波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時觀一切法如幻亦不念有是戒用無所得故是名菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時般若波羅蜜如是舍利弗菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時攝諸波羅蜜以是故名大誓莊嚴復次舍利弗菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時應薩婆若心布施共一切衆生迴向阿耨多羅三藐三菩提是爲菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時檀那波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時不受聲聞辟支佛心但受薩婆若心是名菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時尸羅波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時應薩婆若心身心精進不休息是名菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時毗梨耶波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時攝心一處雖有苦事心不散亂是名菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時禪那波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時應薩婆若心觀諸法空無作者無受者若有呵罵割截者心如幻如夢是名菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時般若波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時應薩婆若心布施時不令身心懈怠是名菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時檀那波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時應薩婆若心始終具足清淨持戒是名菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時尸羅波羅蜜復次舍利弗菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時應薩婆若心修行忍辱是名菩薩摩訶薩行毗梨

菩下三本俱無摩訶薩三字

欲下宋明俱無離諸二字

耶波羅蜜時羼提波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時。應薩婆若心攝心離欲入諸禪定。是名菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時禪那波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時。應薩婆若心不取一切諸法相。於不取相亦不著。是名菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時般若波羅蜜。如是舍利弗菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時攝諸波羅蜜。復次舍利弗菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時。應薩婆若心定心布施不令心亂。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時檀那波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時。應薩婆若心持戒禪定力故。破戒諸法不令得入。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時尸羅波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時。應薩婆若心慈悲定故忍諸惱害。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時羼提波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時。應薩婆若心於禪不味不著。常求增進。從一禪至一禪。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時毗梨耶波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時。應薩婆若心於一切法無所依止。亦不隨禪生。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時般若波羅蜜。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時攝諸波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應薩婆若心布施。內外所有無所愛惜。不見與者受者及以財物。是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時檀那波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應薩婆若心持戒破戒二事不見故。是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時尸羅波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應薩婆若心不見呵者罵者打者殺者。亦不見用。是空能忍辱。是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時羼提波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應薩婆若心觀諸法畢竟空。以大悲心故行諸善法。是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時毗梨耶波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應薩婆若心入禪定觀。諸禪離相空相無相相無作相。是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時禪那波羅蜜。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時攝諸波羅蜜。舍利弗。如是名爲菩薩摩訶薩大誓莊嚴。是大誓莊嚴菩薩。十方諸佛歎喜。於大衆中稱名讚歎。某國土某菩薩摩訶薩大誓莊嚴成就衆生淨佛國土。慧命舍利弗問富樓那彌多羅尼子。云何菩薩摩訶薩發趣大乘。富樓那語舍利弗。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。離諸欲離諸惡不善法有覺有觀。離生喜樂入初禪。乃至入第

恨上元有無字
支三本俱作枝次同
空三本俱作虛

四禪中。以慈廣大無二無量。無怨恨無惱心行。遍滿一方二三四方四維上下。遍一切世間。悲喜捨心亦如是。是菩薩入禪時起時諸禪無量心及支共一切衆生迴向薩婆若。是名菩薩摩訶薩禪那波羅蜜發趣大乘。是菩薩摩訶薩住禪無量心作是念。我當得一切種智爲斷一切衆生煩惱故當說法。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時檀那波羅蜜。若菩薩摩訶薩應薩婆若心。修初禪住初禪。二三四禪亦如是不受餘心。所謂聲聞辟支佛心。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時尸羅波羅蜜。若菩薩摩訶薩。應薩婆若心入諸禪作是念。我爲斷一切衆生煩惱故當說法。是諸心欲樂忍。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時羼提波羅蜜。若菩薩摩訶薩應薩婆若心入諸禪。諸善根皆迴向薩婆若懃修不息。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時毘黎耶波羅蜜。若菩薩摩訶薩應薩婆若心入四禪及支。觀無常相苦相無我相空相無相無作相。共一切衆生迴向薩婆若。是名菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時般若波羅蜜。舍利弗。是名菩薩摩訶薩發趣大乘。復次菩薩摩訶薩發趣大乘行慈心作是念。我當安樂一切衆生入悲心。我當救濟一切衆生入喜心。我當度一切衆生入捨心。我當令一切衆生得諸漏盡。是名菩薩摩訶薩行無量心時檀那波羅蜜。復次菩薩摩訶薩是諸禪無量心。不向聲聞辟支佛地。但迴向薩婆若。是名菩薩摩訶薩行無量心時尸羅波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩行四無量心。不貪聲聞辟支佛地。但忍樂欲薩婆若。是名菩薩摩訶薩行無量心時羼提波羅蜜。若菩薩摩訶薩應薩婆若心。行四無量心但行清淨行。是名菩薩摩訶薩行無量心時毘黎耶波羅蜜。復次菩薩摩訶薩入禪入無量心時。亦不隨禪無量心生。是名菩薩摩訶薩行無量心時方便般若波羅蜜。舍利弗。是名菩薩摩訶薩發趣大乘。復次舍利弗。菩薩摩訶薩發趣大乘。一切種修四念處。乃至一切種修八聖道分。一切種修三解脫門。乃至十八不共法。是名菩薩摩訶薩發趣大乘。復次舍利弗。菩薩摩訶薩內空中智慧用無所得故。乃至無法有法空中智慧用無所得故。是名菩薩摩訶薩發趣大乘。復次舍利弗。菩薩摩訶薩一切法中不亂不定智慧。是名菩薩摩訶薩發趣大乘。復次舍利弗。菩薩摩訶薩發趣大乘。非常非無常智慧。非樂非苦非實非空非我非無我智慧。是名菩薩摩訶薩發趣大乘。用無所得故。復次舍利弗。菩薩摩訶薩智不行過去世。不行未來世。不行現在世。亦非不知三世。是名菩薩摩訶薩發趣大乘。用

故下同有舍利弗三字 爲下同無法字

品目乘上同有大字

蜜下同無時字次同

法下宋明俱無法字

菩上三本俱無若字次同

以同作已

是同作此

無所得故。復次菩薩摩訶薩發趣大乘智不行欲界不行色界不行無色界。亦非不知欲界色界無色界。用無所得故。是名菩薩摩訶薩發趣大乘。復次菩薩摩訶薩發趣大乘智不行世間法。不行出世間法。不行有爲法。不行無爲法。不行有漏法。不行無漏法。亦非不知世間法出世間法。有爲無爲法有漏無漏法。用無所得故。舍利弗是名菩薩摩訶薩發趣大乘

摩訶般若波羅蜜經乘乘品第十六

爾時慧命舍利弗問富樓那。云何名菩薩摩訶薩乘於大乘。富樓那答舍利弗言。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時乘檀那波羅蜜。亦不得檀波羅蜜。亦不得菩薩亦不得受者。是法用無所得故。是名菩薩摩訶薩乘檀那波羅蜜。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。乘尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜。乘般若波羅蜜亦不得般若波羅蜜。亦不得菩薩。是法用無所得故。是爲菩薩摩訶薩乘於般若波羅蜜。如是舍利弗。是爲菩薩摩訶薩乘於大乘。復次舍利弗。菩薩摩訶薩摩訶衍一心應薩婆若。修四念處法法壞故。乃至一心應薩婆若。修十八不共法法壞故是亦不可得。如是舍利弗。是名菩薩摩訶薩乘於大乘。復次舍利弗。菩薩摩訶薩作是念。菩薩但有名字。衆生不可得故。是名菩薩摩訶薩乘於大乘。復次舍利弗。若菩薩摩訶薩作是念。色但有名字。色不可得故。受想行識但有名字。識字不可得。故但有名字。眼不可得故。乃至意亦如是。四念處但有名字。四念處不可得故。乃至八聖道分但有名字。八聖道分不可得故。內空但有名字。內空不可得故。乃至無法有法空但有名字。無法有法空不可得故。乃至十八不共法但有名字。十八不共法不可得故。諸法如但有名字。如不可得故。法相法性法位實際但有名字。實際不可得故。阿耨多羅三藐三菩提及佛但有名字。佛不可得故。如是舍利弗。是名菩薩摩訶薩乘於大乘。復次舍利弗。若菩薩摩訶薩從初發意以來。具足菩薩神通成就衆生。從一佛國至一佛國。恭敬供養尊重讚歎諸佛。從諸佛聽受法教。所謂菩薩大乘。是菩薩乘是大乘。從一佛國至一佛國。淨佛國土成就衆生。初無佛國想。亦無衆生想。此人住不二法中。爲衆生受身。隨其所應自變其形而教化之。乃至一切智終不

修同作脩

離菩薩乘。是名菩薩乘是乘。得一切種智已轉法輪。聲聞辟支佛及天龍鬼神阿修羅世間人民所不能轉爾時十方如恒河沙等諸佛。皆歡喜稱名讚歎作是言。某方某國某菩薩摩訶薩。乘於大乘得一切種智轉法輪。舍利弗。是名菩薩摩訶薩乘於大乘

摩訶般若經卷第四

琉明作瑠

生下三本俱無衆生二字

摩訶般若波羅蜜經卷第五

〔麗芥〕〔宋薑〕〔元薑〕〔明薑〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

莊嚴品第十七

爾時須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩。大莊嚴何等是大莊嚴。何等菩薩能大莊嚴。佛語須菩提。菩薩摩訶薩摩訶衍大莊嚴。所謂檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜莊嚴。四念處莊嚴。乃至八聖道分內空莊嚴。乃至無法有法空。十力乃至十八不共法及一切種智莊嚴。變身如佛莊嚴。光明遍照三千大千國土。亦照東方如恒河沙等國土。南西北方四維上下亦復如是。三千大千國土六種震動。亦動東方如恒河沙等諸國土。南西北方四維上下亦復如是。是菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜摩訶衍大莊嚴。是三千大千國土變爲琉璃。化作轉輪聖王。須食與食須飲與飲。衣服臥具花香瓔珞擣香澤香房舍燈燭醫藥。種種所須盡給與之。與已而爲說法。所謂應六波羅蜜。衆生聞是法者終不離六波羅蜜。乃至阿耨多羅三藐三菩提。如是須菩提。是名菩薩摩訶薩摩訶衍大莊嚴。須菩提。譬如工幻師若幻師弟子。於四衢道中化作大衆。於前須食與食須飲與飲。乃至種種所須盡給與之。於須菩提意云何。是幻師實有衆生有所與不。須菩提言。不也世尊。須菩提。菩薩摩訶薩亦如是。化作轉輪聖王。種種具足須食與食須飲與飲。乃至種種所須盡給與之。雖有所施實無所與。何以故。須菩提。諸法相如幻故。復次須菩提。菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜。現生轉輪聖王家。以十善道教化衆生。有以四禪四無量心四無色定四念處乃至十八不共法教化衆生。衆生聞是法者。至阿耨多羅三藐三菩提終不離是法。譬如幻師若幻師弟子。於四衢道中化作大衆。以十善道教化令行。又以四禪四無量心四無色定四念處。乃至十八不共法教化令行。須菩提於汝意云何。是幻師實有衆生教令行十善道。乃至行十八不共法不。須菩提言。不也世尊。須菩提。菩薩摩訶薩亦如是。以十善道教化衆生令行。乃至十八不共法。實無衆生行十善道乃至十八不共法。何以故。諸法相如幻

敎下同無化字次同
若三本俱作如
衆生同作大衆

故。須菩提。是名菩薩摩訶薩大莊嚴。復次須菩提。菩薩摩訶薩住羼提波羅蜜。敎化衆生令行羼提波羅蜜。須菩提。云何菩薩摩訶薩住羼提波羅蜜。敎化衆生令行羼提波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩從初發意已來如是大莊嚴。若一切衆生罵詈刀杖傷害。菩薩摩訶薩於此中不起一念。亦敎一切衆生行此忍辱。譬若幻師若幻師弟子。於四衢道中化作大衆。令行忍辱餘如上說。須菩提。是名菩薩摩訶薩大莊嚴。復次須菩提。菩薩摩訶薩住毗棃耶波羅蜜敎一切衆生令行毗棃耶波羅蜜。須菩提。云何菩薩摩訶薩住毗棃耶波羅蜜。敎一切衆生令行毗棃耶波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩應薩婆若心。身心精進敎化衆生。譬如幻師若幻師弟子。於四衢道中化作大衆。敎令行身心精進餘如上說。是名菩薩摩訶薩大莊嚴。復次須菩提。菩薩摩訶薩住禪那波羅蜜。敎一切衆生令行禪那波羅蜜。須菩提。云何菩薩摩訶薩住禪那波羅蜜。敎一切衆生令行禪那波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩住諸法等中。不見法若亂若定。如是須菩提。菩薩摩訶薩住禪那波羅蜜。敎一切衆生令行禪那波羅蜜。乃至阿耨多羅三藐三菩提。終不離禪那波羅蜜。譬如工幻師若幻師弟子。於四衢道中化作大衆。敎令行禪那波羅蜜餘如上說。須菩提。是名菩薩摩訶薩大莊嚴。復次須菩提。菩薩摩訶薩住般若波羅蜜。敎一切衆生令行般若波羅蜜。須菩提。云何菩薩摩訶薩住般若波羅蜜。敎一切衆生令行般若波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。無有法得此岸彼岸。如是菩薩摩訶薩住般若波羅蜜中。敎一切衆生令行般若波羅蜜。譬如工幻師若幻師弟子。於四衢道中化作大衆。敎令行般若波羅蜜。須菩提。是名菩薩摩訶薩大莊嚴。復次須菩提。菩薩摩訶薩大莊嚴十方如恒河沙等國土中衆生隨其所應自變其身。住檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜亦敎衆生令行檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。是衆生行是法乃至阿耨多羅三藐三菩提終不離是法。須菩提。譬如工幻師若幻師弟子。於四衢道中化作衆生。敎令行六波羅蜜餘如上說。如是須菩提。是名菩薩摩訶薩大莊嚴。復次須菩提。菩薩摩訶薩大莊嚴。應薩婆若心不生是念。我敎若干人住檀那波羅蜜。不敎若干人住檀那波羅蜜。乃至般若波羅蜜亦如是。不生是念。我敎若干人住四念處。不敎若干人住四念處。乃至十八不共法亦如是。亦不生是念。我敎若干人令得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道一切種智。亦不敎若干人令得須陀洹果乃

知下明無者字

義下宋明俱無世尊二字
是無元作無是
宋無是字

至一切種智。我當令無量無邊阿僧祇衆生。住檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。立衆生於四念處乃至十八不共法。令無量無邊阿僧祇衆生得須陀洹果乃至一切種智。譬如工幻師若幻師弟子。於四衢道中化作大衆。教令行六波羅蜜乃至得一切種智餘如上說。須菩提。是名菩薩摩訶薩大莊嚴。爾時須菩提白佛言。世尊。如我從佛所聞義。菩薩摩訶薩無大莊嚴爲大莊嚴。諸法自相空故。所謂色色相空。受想行識識相空。眼眼相空。乃至意意相空。色色相空。乃至法法相空。眼識眼識相空。乃至意識意識相空。眼觸眼觸相空。乃至意觸意觸相空。眼觸因緣生受受相空。乃至意觸因緣生受受相空。世尊。檀那波羅蜜檀那波羅蜜相空。乃至般若波羅蜜般若波羅蜜相空。內空內空相空。乃至無法有法空無法有法空相空。四念處四念處相空。乃至十八不共法十八不共法相空。菩薩菩薩相空。世尊。以是因緣故。當知菩薩摩訶薩無大莊嚴爲大莊嚴。佛告須菩提。如是如是如汝所言。須菩提。薩婆若非作法。衆生亦非作法。菩薩爲是衆生大莊嚴。須菩提白佛言。世尊。何因緣故。薩婆若非作法。是衆生亦非作法。菩薩爲是衆生大莊嚴。佛語須菩提。作者不可得故。薩婆若非作非起法。是諸衆生亦非作非起法。何以故。須菩提。色非作非不作。受想行識非作非不作。眼非作非不作。乃至意非作非不作。色乃至法。眼識乃至意識。眼觸乃至意觸。眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受非作非不作。須菩提。我非作非不作。乃至知者見者非作非不作。何以故。是諸法畢竟不可得故。須菩提。夢非作非不作。何以故。畢竟不可得故。幻響影焰化非作非不作。何以故。畢竟不可得故。須菩提。內空非作非不作。畢竟不可得故。乃至無法有法空非作非不作。畢竟不可得故。須菩提。四念處非作非不作。畢竟不可得故。乃至十八不共法非作非不作。何以故。是法皆畢竟不可得故。須菩提。諸法如法相法性法住法位實際。非作非不作。畢竟不可得故。須菩提。菩薩非作非不作。畢竟不可得故。薩婆若及一切種智。非作非不作。畢竟不可得故。以是因緣故。須菩提。薩婆若非作非起法。是衆生亦非作非起法。菩薩爲是衆生大莊嚴。爾時須菩提白佛言。如我觀佛所說義。世尊。色無縛無脫。受想行識無縛無脫。爾時富樓那彌多羅尼子語須菩提。色是無縛無脫。受想行識是無縛無脫。須菩提言。如是如是。色是無縛無脫。受想行識是無縛無脫。富樓那問須菩提。何等色無縛無脫。何等受想行識無縛無脫。須菩提言。如夢色無縛無脫。如夢受

嚮三本俱作響○那下同無彌多羅尼子五字

色下宋明俱無無縛無脫無記六字

滅下三本俱有故字

蜜下同有中字

味下同無門字

想行識無縛無脫。如嚮如影如幻如焰如化。色受想行識無縛無脫。富樓那彌多羅尼子過去色無縛無脫。過去受想行識無縛無脫。未來色無縛無脫。未來受想行識無縛無脫。現在色無縛無脫。現在受想行識無縛無脫。何以故無縛無脫。是色無所有故。無縛無脫。受想行識無所有故無縛無脫。離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。善色受想行識亦無縛無脫。不善色受想行識無縛無脫。無記色無縛無脫無記受想行識無縛無脫。世間出世間有漏無漏色無縛無脫。受想行識亦無縛無脫。何以故。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。一切法亦無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。檀那波羅蜜無縛無脫尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜無縛無脫。無所有故離故寂滅不生故無縛無脫。富樓那。內空亦無縛無脫。乃至無法有法空亦無縛無脫。四念處無縛無脫。乃至十八不共法無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。阿耨多羅三藐三菩提無縛無脫。一切智一切種智無縛無脫。菩薩無縛無脫。佛亦無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。諸法如法相法性法住法位實際無爲法無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。是名菩薩摩訶薩無縛無脫檀那波羅蜜。乃至般若波羅蜜四念處。乃至一切種智。無縛無脫。是菩薩摩訶薩住無縛無脫檀那波羅蜜中。乃至住無縛無脫般若波羅蜜。住無縛無脫四念處。乃至住無縛無脫一切種智。無縛無脫成就衆生。無縛無脫淨佛國土。無縛無脫諸佛當供養。無縛無脫當聽法。無縛無脫諸佛終不離。無縛無脫諸神通終不離。無縛無脫五眼終不離。無縛無脫陀羅尼門終不離。無縛無脫諸三昧門終不離。無縛無脫當生道種智。無縛無脫當得一切種智。無縛無脫法輪轉。無縛無脫衆生安立三乘。如是富樓那。菩薩摩訶薩行無縛無脫六波羅蜜。當知一切法無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故。富樓那。是名菩薩摩訶薩無縛無脫大莊嚴。

摩訶般若波羅蜜經問乘品第十八 丹本名爲摩訶衍品

爾時須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩摩訶衍。云何當知菩薩摩訶薩發趣大乘。是乘發何處。是乘至何

薩下宋明俱有摩訶薩三字

共三本俱作與○生下同有共之二字

懃同作勤

觀上三本俱無亦字

空宋作法○方下元無相字

處.當住何處.誰當乘是乘出者.佛告須菩提.汝問何等是菩薩摩訶衍.須菩提.六波羅蜜是菩薩摩訶薩摩訶衍.何等六.檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜.云何名檀那波羅蜜.須菩提.菩薩摩訶薩以應薩婆若心內外所有布施共一切衆生迴向阿耨多羅三藐三菩提用無所得故.須菩提.是名菩薩摩訶薩檀那波羅蜜.云何名尸羅波羅蜜.須菩提.菩薩摩訶薩以應薩婆若心自行十善道亦敎他行十善道.以無所得故.是名菩薩摩訶薩尸羅波羅蜜.云何名羼提波羅蜜.須菩提.菩薩摩訶薩以應薩婆若心自具足忍辱亦敎他行忍辱.以無所得故.是名菩薩摩訶薩羼提波羅蜜.云何名毗梨耶波羅蜜.須菩提.菩薩摩訶薩以應薩婆若心.行五波羅蜜懃修不息.亦安立一切衆生於五波羅蜜.以無所得故.是名菩薩摩訶薩毗梨耶波羅蜜.云何名禪那波羅蜜.須菩提.菩薩摩訶薩以應薩婆若心.自以方便入諸禪不隨禪生.亦敎他令入諸禪.以無所得故.是名菩薩摩訶薩禪那波羅蜜.云何名般若波羅蜜.須菩提.菩薩摩訶薩以應薩婆若心.不著一切法亦觀一切法性.以無所得故.亦敎他不著一切法.亦觀一切法性.以無所得故.是名菩薩摩訶薩般若波羅蜜.須菩提.是爲菩薩摩訶薩摩訶衍.復次須菩提.菩薩摩訶薩復有摩訶衍.所謂.內空.外空.內外空.空空.大空.第一義空.有爲空.無爲空.畢竟空.無始空.散空.性空.自相空.諸法空.不可得空.無法空.有法空.無法有法空.須菩提白佛言.何等爲內空.佛言.內法名眼耳鼻舌身意.眼眼空非常非滅故.何以故.性自爾.耳耳空鼻鼻空舌舌空身身空意意空.非常非滅故.何以故.性自爾.是名內空.何等爲外空.外法名色聲香味觸法.色色空非常非滅故.何以故.性自爾聲聲空香香空味味空觸觸空法法空.非常非滅故.何以故.性自爾是名外空.何等爲內外空.內外法名內六入外六入.內法內法空非常非滅故.何以故.性自爾.外法外法空非常非滅故.何以故.性自爾是名內外空.何等爲空空.一切法空.是空亦空非常非滅故.何以故.性自爾.是名空空.何等爲大空.東方東方相空.非常非滅故.何以故.性自爾.南西北方四維上下.南西北方四維上下空.非常非滅故.何以故.性自爾.是名大空.何等爲第一義空.第一義名涅槃.涅槃涅槃空非常非滅故.何以故.性自爾.是名第一義空.何等爲有爲空.有爲法名欲界色界無色界.欲界欲界空.色界色界空.無色界無色界空.非常非滅故.何以故.性自爾.是名有爲空.何等爲無

想行識無縛無脫。如嚮如影如幻如焰如化。色受想行識無縛無脫。富樓那彌多羅尼子過去色無縛無脫。過去受想行識無縛無脫。未來色無縛無脫。未來受想行識無縛無脫。現在色無縛無脫。現在受想行識無縛無脫。何以故無縛無脫。是色無所有故。無縛無脫。離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。善色受想行識亦無縛無脫。不善色受想行識無縛無脫。無記色無縛無脫無記受想行識無縛無脫。世間出世間有漏無漏色無縛無脫。受想行識亦無縛無脫。何以故。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。一切法亦無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。檀那波羅蜜無縛無脫尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜無縛無脫。無所有故離故寂滅不生故無縛無脫。富樓那。內空亦無縛無脫。乃至無法有法空亦無縛無脫。四念處無縛無脫。乃至十八不共法無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。阿耨多羅三藐三菩提無縛無脫。一切智一切種智無縛無脫。菩薩無縛無脫。佛亦無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。諸法如法相法性法住法位實際無爲法無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故無縛無脫。富樓那。是名菩薩摩訶薩無縛無脫檀那波羅蜜。乃至般若波羅蜜四念處。乃至一切種智。無縛無脫。是菩薩摩訶薩住無縛無脫檀那波羅蜜中。乃至住無縛無脫般若波羅蜜。住無縛無脫四念處乃至住無縛無脫一切種智。無縛無脫成就衆生。無縛無脫淨佛國土。無縛無脫諸佛當供養。無縛無脫當聽法。無縛無脫諸佛終不離。無縛無脫諸神通終不離。無縛無脫五眼終不離。無縛無脫陀羅尼門終不離。無縛無脫諸三昧門終不離。無縛無脫當生道種智。無縛無脫當得一切種智。無縛無脫法輪轉。無縛無脫衆生安立三乘。如是富樓那。菩薩摩訶薩行無縛無脫六波羅蜜。當知一切法無縛無脫。無所有故離故寂滅故不生故。富樓那。是名菩薩摩訶薩無縛無脫大莊嚴。

摩訶般若波羅蜜經問乘品第十八 丹本名爲摩訶衍品

爾時須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩摩訶衍。云何當知菩薩摩訶薩發趣大乘。是乘發何處。是乘至何

嚮三本倶作響○那下同無彌多羅尼子五字
色下宋明倶無無縛無脫無記六字
滅下三本倶有故字
蜜下同有中字
際下同無門字

薩下宋明俱有摩訶薩三字
共三本俱作與〇生下同有共之二字
懃同作勤
觀上三本俱無亦字
空宋作法〇方下元無相字

處。當住何處。誰當乘是乘出者。佛告須菩提。汝問何等是菩薩摩訶衍。須菩提。六波羅蜜是菩薩摩訶薩摩訶衍。何等六。檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。云何名檀那波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩以應薩婆若心。內外所有布施共一切衆生迴向阿耨多羅三藐三菩提用無所得故。須菩提。是名菩薩摩訶薩檀那波羅蜜。云何名尸羅波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩以應薩婆若心自行十善道亦敎他行十善道。以無所得故。是名菩薩摩訶薩尸羅波羅蜜。云何名羼提波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩以應薩婆若心自具足忍辱亦敎他行忍辱。以無所得故。是名菩薩摩訶薩羼提波羅蜜。云何名毗梨耶波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩以應薩婆若心行五波羅蜜懃修不息。亦安立一切衆生於五波羅蜜。以無所得故。是名菩薩摩訶薩毗梨耶波羅蜜。云何名禪那波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩以應薩婆若心自以方便入諸禪不隨禪生。亦敎他令入諸禪。以無所得故。是名菩薩摩訶薩禪那波羅蜜。云何名般若波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩以應薩婆若心。不著一切法亦觀一切法性。以無所得故。亦敎他不著一切法。亦觀一切法性。以無所得故。是名菩薩摩訶薩般若波羅蜜。須菩提。是爲菩薩摩訶薩摩訶衍。復次須菩提。菩薩摩訶薩復有摩訶衍。所謂。內空。外空。內外空。空空。大空。第一義空。有爲空。無爲空。畢竟空。無始空。散空。性空。自相空。諸法空。不可得空。無法空。有法空。無法有法空。須菩提白佛言。何等爲內空。佛言。內法名眼耳鼻舌身意。眼眼空非常非滅故。何以故性自爾。耳耳空鼻鼻空舌舌空身身空意意空。非常非滅故。何以故性自爾。是名內空。何等爲外空。外法名色聲香味觸法。色色空非常非滅故。何以故。性自爾聲聲空香香空味味空觸觸空法法空。非常非滅故。何以故性自爾是名外空。何等爲內外空。內外法名內六入外六入。內法內法空非常非滅故。何以故性自爾。外法外法空非常非滅故。何以故性自爾是名內外空。何等爲空空。一切法空。是空亦空非常非滅故。何以故。性自爾。是名空空。何等爲大空。東方東方相空。非常非滅故。何以故。性自爾。南西北方四維上下。南西北方四維上下空。非常非滅故。何以故。性自爾。是名大空。何等爲第一義空。第一義名涅槃。涅槃涅槃空非常非滅故。何以故。性自爾。是名第一義空。何等爲有爲空。有爲法名欲界色界無色界。欲界欲界空。色界色界空。無色界無色界空。非常非滅故。何以故。性自爾。是名有爲空。何等爲無

若元明俱作爲
畢三本俱作至
陰三本俱作陰下同○等下同無名字
昧下同有三昧二字下同○畢明作異

爲空。無爲法名若無生相無住相無滅相。無爲法無爲法空非常非滅故。何以故。性自爾。是爲無爲空。何等爲畢竟空。畢竟名諸法畢竟不可得。非常非滅故。何以故。性自爾。是名畢竟空。何等爲無始空。若法初來處不可得。非常非滅故。何以故。性自爾。是名無始空。何等無散空。散名諸法無滅。非常非滅故。何以故。性自爾。是爲散空。何等爲性空。一切法性。若有爲法性若無爲法性。是性非聲聞辟支佛所作。非佛所作亦非餘人所作。是性性空非常非滅故。何以故。性自爾。是名性空。何等爲自相空。自相名色壞相。受受相。想取相。行作相。識識相。如是等有爲無爲法各各自相空。非常非滅故。何以故。性自爾。是名自相空。何等爲諸法空。諸法名色受想行識。眼耳鼻舌身意。色聲香味觸法。眼界色界眼識界。乃至意界法界意識界。是諸法。諸法空。非常非滅故。何以故。性自爾。是爲諸法空。何等爲不可得空。求諸法不可得。是不可得空非常非滅故。何以故。性自爾。是名不可得空。何等爲無法空。若法無是亦空非常非滅故。何以故。性自爾。是名無法空。何等爲有法空。有法名諸法和合中有自性相。是有法空非常非滅故。何以故。性自爾。是名有法空。何等爲無法有法空。諸法中無法。諸法和合中有自性相。是無法有法空非常非滅故。何以故。性自爾。是名無法有法空。復次須菩提。法法相空。無法無法相空。自法自法相空。他法他法相空。何等名法法相空。法名五陰。五陰空是名法法相空。何等名無法無法相空。無法名無爲法。是名無法無法空。何等名自法自法空。諸法自法空。是空非智作非見作。是名自法自法空。何等名他法他法空。若佛出若佛未出。法住法相法位法性如實際過此諸法空。是名他法他法空。是名菩薩摩訶薩摩訶衍。復次須菩提。菩薩摩訶薩摩訶衍。所謂名首楞嚴三昧。寶印三昧。師子遊戲三昧。妙月三昧。月幢相三昧。出諸法三昧。觀頂三昧。畢法性三昧。畢幢相三昧。金剛三昧。入法印三昧。三昧王安立三昧。放光三昧。力進三昧。高出三昧。必入辯才三昧。釋名字三昧。觀方三昧。陀羅尼印三昧。無誑三昧。攝諸法海三昧。遍覆虛空三昧。金剛輪三昧。寶斷三昧。能照三昧。不求三昧。無住三昧。無心三昧。淨燈三昧。無邊明三昧。能作明三昧。普照明三昧。堅淨諸三昧三昧。無垢明三昧。歡喜三昧。電光三昧。無盡三昧。威德三昧。離盡三昧。不動三昧。不退三昧。日燈三昧。月淨三昧。淨明三昧。能作明三昧。作行三昧。知相三昧。如金剛三昧。心住三昧。普明三昧。安立三昧。寶聚三昧。妙法印三昧。法等三昧。斷喜三

曚三本俱作蒙下同○無下同有住字

陀上同有多字○憎明作增

勢力三本俱作力勢

昧。到法頂三昧。能散三昧。分別諸法句三昧。字等相三昧。離字三昧。斷緣三昧。不壞三昧無種相三昧無處行三昧。離曚昧三昧。無去三昧。不變異三昧。度緣三昧。集諸功德三昧。住無心三昧。淨妙華三昧。覺意三昧。無量辯三昧。無等等三昧。度諸法三昧。分別諸法三昧。散疑三昧。無處三昧。一莊嚴三昧。生行三昧。一行三昧。不一行三昧。妙行三昧。達一切有底散三昧。入名語三昧。離音聲字語三昧。然炬三昧。淨相三昧破相三昧。一切種妙足三昧。不喜苦樂三昧。無盡相三昧。陀羅尼三昧。攝諸邪正相三昧。滅憎愛三昧。逆順三昧。淨光三昧。堅固三昧。滿月淨光三昧。大莊嚴三昧。能照一切世三昧。三昧等三昧。攝一切有諍無諍三昧。不樂一切住處三昧。如住定三昧。壞身衰三昧。壞語如虛空三昧。離著虛空不染三昧。云何名首楞嚴三昧。知諸三昧行處。是名首楞嚴三昧。云何名寶印三昧。住是三昧能印諸三昧。是名寶印三昧。云何名師子遊戲三昧。住是三昧能遊戲諸三昧中如師子。是名師子遊戲三昧。云何名妙月三昧。住是三昧能照諸三昧如淨月。是名妙月三昧。云何名月幢相三昧。住是三昧能持諸三昧相。是名月幢相三昧。云何名出諸法三昧。住是三昧能出生諸三昧。是名出諸法三昧。云何名觀頂三昧。住是三昧能觀諸三昧頂。是名觀頂三昧。云何名畢法性三昧。住是三昧決定知法性。是名畢法性三昧。云何名畢幢相三昧。住是三昧能持諸三昧幢。是名畢幢相三昧。云何名金剛三昧。住是三昧能持諸三昧。是名金剛三昧。云何名入法印三昧。住是三昧入諸法印。是名入法印三昧。云何名三昧王安立三昧。住是三昧一切諸三昧中安立住如王。是名三昧王安立三昧。云何名放光三昧。住是三昧能放光照諸三昧。是名放光三昧。云何名力進三昧。住是三昧於諸三昧能作勢力。是名力進三昧。云何名高出三昧。住是三昧能增長諸三昧。是名高出三昧。云何名必入辯才三昧。住是三昧能辯說諸三昧。是名必入辯才三昧。云何名釋名字三昧。住是三昧能釋諸三昧名字。是名釋名字三昧。云何名觀方三昧。住是三昧能觀諸三昧方。是名觀方三昧。云何名陀羅尼印三昧。住是三昧持諸三昧印。是名陀羅尼印三昧。云何名無誑三昧。住是三昧於諸三昧不欺誑。是名無誑三昧。云何名攝諸法海三昧。住是三昧能攝諸三昧如大海水。是名攝諸法海三昧。云何名遍覆虛空三昧。住是三昧遍覆諸三昧如虛空。是名遍覆虛空三昧。云何名金剛輪三昧。住是三昧能持諸三昧分。是名金剛輪三昧。云

斷寶宋明俱作寶斷次同　中不見一切三本俱作一切三昧中不見七字　闇三本俱作礙

何名斷寶三昧。住是三昧斷諸三昧煩惱垢。是名斷寶三昧。云何名能照三昧。住是三昧能以光明顯照諸三昧。是名能照三昧。云何名不求三昧。住是三昧無法可求。是名不求三昧。云何名無住三昧。住是三昧中不見一切法住。是名無住三昧。云何名無心三昧。住是三昧心心數法不行。是名無心三昧。云何名淨燈三昧。住是三昧於諸三昧中作明如燈。是名淨燈三昧。云何名無邊明三昧。住是三昧與諸三昧作無邊明。是名無邊明三昧。云何名能作明三昧。住是三昧卽時能爲諸三昧作明。是名能作明三昧。云何名普照明三昧。住是三昧卽能照諸三昧門。是名普照明三昧。云何名堅淨諸三昧三昧。住是三昧能堅淨諸三昧相。是名堅淨諸三昧三昧。云何名無垢明三昧。住是三昧能除諸三昧垢。亦能照一切三昧。是名無垢明三昧。云何名歡喜三昧。住是三昧能受諸三昧喜。是名歡喜三昧。云何名電光三昧。住是三昧照諸三昧如電光。是名電光三昧。云何名無盡三昧。住是三昧於諸三昧不見盡。是名無盡三昧。云何名威德三昧。住是三昧於諸三昧威德照然。是名威德三昧。云何名離盡三昧。住是三昧不見諸三昧盡。是名離盡三昧。云何名不動三昧。住是三昧令諸三昧不動不戲。是名不動三昧。云何名不退三昧。住是三昧能不見諸三昧退。是名不退三昧。云何名日燈三昧。住是三昧放光照諸三昧門。是名日燈三昧。云何名月淨三昧。住是三昧能除諸三昧闇。是名月淨三昧。云何名淨明三昧。住是三昧於諸三昧得四無閡智。是名淨明三昧。云何名能作明三昧。住是三昧於諸三昧門能作明。是名能作明三昧。云何名作行三昧。住是三昧能令諸三昧各有所作。是名作行三昧。云何名知相三昧。住是三昧見諸三昧知相。是名知相三昧。云何名如金剛三昧。住是三昧能貫達諸法亦不見達。是名如金剛三昧。云何名心住三昧。住是三昧心不動不轉不惱。亦不念有是心。是名心住三昧。云何名普明三昧。住是三昧普見諸三昧明。是名普明三昧。云何名安立三昧。住是三昧於諸三昧安立不動。是名安立三昧。云何名寶聚三昧。住是三昧普見諸三昧如見寶聚。是名寶聚三昧。云何名妙法印三昧。住是三昧能印諸三昧以無印印故。是名妙法印三昧。云何名法等三昧。住是三昧觀諸法等無法不等。是名法等三昧。云何名斷喜三昧。住是三昧斷一切法中喜。是名斷喜三昧。云何名到法頂三昧。住是三昧滅諸法闇亦在諸三昧上。是名到法頂三昧。云何名能散三昧。住是三昧中能破散諸法。是名

不同作無所二字

界三本俱作昧

能散三昧。云何名分別諸法句三昧。住是三昧分別諸三昧諸法句。是名分別諸法句三昧。云何名字等相三昧。住是三昧得諸三昧字等。是名字等相三昧。云何名離字三昧。住是三昧諸三昧中乃至不見一字。是名離字三昧。云何名斷緣三昧。住是三昧斷諸三昧緣。是名斷緣三昧。云何名不壞三昧。住是三昧不得諸法變異。是名不壞三昧。云何名無種相三昧。住是三昧不見諸法種種。是名無種相三昧。云何名無處行三昧。住是三昧不見諸三昧處。是名無處行三昧。云何名離朦昧三昧。住是三昧離諸三昧微闇。是名離朦昧三昧。云何名無去三昧。住是三昧不見一切三昧去相。是名無去三昧。云何名不變異三昧。住是三昧不見諸三昧變異相。是名不變異三昧。云何名度緣三昧。住是三昧度一切三昧緣境界。是名度緣三昧。云何名集諸功德三昧。住是三昧集諸三昧功德。是名集諸功德三昧。云何名住無心三昧。住是三昧於諸三昧心不入。是名住無心三昧。云何名淨妙花三昧。住是三昧令諸三昧得淨妙如花。是名淨妙花三昧。云何名覺意三昧。住是三昧諸三昧中得七覺分。是名覺意三昧。云何名無量辯三昧。住是三昧於諸法中得無量辯。是名無量辯三昧。云何名無等等三昧。住是三昧諸三昧中得無等等相。是名無等等三昧。云何名度諸法三昧。住是三昧度一切三界。是名度諸法三昧。云何名分別諸法三昧。住是三昧諸三昧及諸法分別見。是名分別諸法三昧。云何名散疑三昧。住是三昧得散諸法疑。是名散疑三昧。云何名無住處三昧。住是三昧不見諸法住處。是名無住處三昧。云何名一莊嚴三昧。住是三昧終不見諸法二相。是名一莊嚴三昧。云何名生行三昧。住是三昧不見諸行生。是名生行三昧。云何名一行三昧。住是三昧不見諸三昧此岸彼岸。是名一行三昧。云何名不一行三昧。住是三昧不見諸三昧一相。是名不一行三昧。云何名妙行三昧。住是三昧不見諸三昧二相。是名妙行三昧。云何名達一切有底散三昧。住是三昧入一切有一切三昧。智慧通達亦無所達。是名達一切有底散三昧。云何名入名語三昧。住是三昧入一切三昧名語。是名入名語三昧。云何名離音聲字語三昧。住是三昧不見諸三昧音聲字語。是名離音聲字語三昧。云何名然炬三昧。住是三昧威德照明如炬。是名然炬三昧。云何名淨相三昧。住是三昧淨諸三昧相。是名淨相三昧。云何名破相三昧。住是三昧不見諸三昧相。是名破相三昧。云何名一切種妙足三昧。住是三昧一切諸三昧種皆具足。

是名一切種妙足三昧。云何名不憙苦樂三昧。住是三昧不見諸三昧苦樂。是名不憙苦樂三昧。云何名無盡相三昧。住是三昧不見諸三昧盡。是名無盡相三昧。云何名多陀羅尼三昧。住是三昧能持諸三昧。是名多陀羅尼三昧。云何名攝諸邪正相三昧。住是三昧於諸三昧不見邪正相。是名攝諸邪正相三昧。云何名滅憎愛三昧。住是三昧不見諸三昧憎愛。是名滅憎愛三昧。云何名逆順三昧。住是三昧不見諸法諸三昧逆順。是名逆順三昧。云何名淨光三昧。住是三昧不得諸三昧明垢。是名淨光三昧。云何名堅固三昧。住是三昧不得諸三昧不堅固。是名堅固三昧。云何名滿月淨光三昧。住是三昧諸三昧滿足如月十五日。是名滿月淨光三昧。云何名大莊嚴三昧。住是三昧大莊嚴成就諸三昧。是名大莊嚴三昧。云何名能照一切世三昧。住是三昧諸三昧及一切法能照。是名能照一切世三昧。云何名三昧等三昧。住是三昧於諸三昧不得定亂相。是名三昧等三昧。云何名攝一切有諍無諍三昧。住是三昧能使諸三昧不分別有諍無諍。是名攝一切有諍無諍三昧。云何名不樂一切住處三昧。住是三昧不見諸三昧依處。是名不樂一切住處三昧。云何名如住定三昧。住是三昧不過諸三昧如相。是名如住定三昧。云何名壞身衰三昧。住是三昧不得身相。是名壞身衰三昧。云何名壞語如虛空三昧。住是三昧不見諸三昧語業如虛空。是名壞語如虛空三昧。云何名離著虛空不染三昧。住是三昧。見諸法如虛空無礙。亦不染是三昧。是名離著虛空不染三昧。須菩提。是名菩薩摩訶薩摩訶衍

五本俱以摩訶衍爲卷第五終同廣乘品以下爲卷第六〇品目元明俱無經名

摩訶般若波羅蜜經廣乘品第十九 丹本名爲四念處品

佛告須菩提。菩薩摩訶薩摩訶衍。所謂四念處。何等四。須菩提。菩薩摩訶薩內身中循身觀亦無身覺。以不可得故。外身中內外身中循身觀亦無身覺。以不可得故。懃精進一心除世間貪憂。內受內心內法。外受外心外法。內外受內外心內外法。循法觀亦無法覺。以不可得故。懃精進一心除世間貪憂。須菩提。菩薩摩訶薩云何內身中循身觀。須菩提。若菩薩摩訶薩行時知行。住時知住。坐時知坐。臥時知臥。知身所行如是知。須菩提。菩薩摩訶薩如是內身中循身觀。懃精進一心除世間貪憂。以不可得故。復次須菩提。菩薩摩訶薩若來若去。視瞻一心屈申

知元作如〇申三本俱作伸

入出禪定同作入禪出禪
鏇同作旋次同
一下同無心字
時下元無種種二字
匝明作帀次同
胃脬三本俱作膓胞○淡元明俱作痰○是稻二字三本俱在知字下○麥是豆同作豆是麥○見下同無是字○膖明作胮
[illegible]宋明俱作摑
法下二本俱無如是二字

俯仰．服僧伽梨執持衣鉢．飲食臥息坐立睡覺語默入出禪定．亦常一心．如是須菩提．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．內身中循身觀以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩內身中循身觀時．一心念入息時知入息．出息時知出息．入息長時知入息長．出息長時知出息長．入息短時知入息短．出息短時知出息短．譬如鏇師若鏇師弟子．繩長知長繩短知短．菩薩摩訶薩亦如是．一心念入息時知入息．出息時知出息．入息長時知入息長．出息長時知出息長．入息短時知入息短．出息短時知出息短．如是須菩提．菩薩摩訶薩內身中循身觀．懃精進一心除世間貪憂．以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩觀身四大作是念．身中有地大水大火大風大．譬如屠牛師若屠牛弟子．以刀殺牛分作四分．作四分已若立若坐觀此四分．菩薩摩訶薩亦如是．行般若波羅蜜時．種種觀身四大地大水大火大風大．如是須菩提．菩薩摩訶薩內身中循身觀．以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩觀內身．從足至頂周匝薄皮．種種不淨充滿身中．作是念．身中有髮毛爪齒薄皮厚皮筋肉骨髓脾腎心膽肝肺小腸大腸胃脬．屎尿垢汗淚涕涎唾膿血黃白淡𤸰肪𦙶腦膜．譬如田夫倉中隔盛雜穀．種種充滿稻麻黍粟豆麥．明眼之人開倉即知是麻是黍是稻．是粟是麥．是豆分別悉知．菩薩摩訶薩亦如是．觀是身從足至頂周匝薄皮種種不淨充滿身中髮毛爪齒乃至腦膜．如是須菩提．菩薩摩訶薩觀內身．懃精進一心除世間貪憂．以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩若見是棄死人身．一日二日至于五日．膖脹青瘀膿汁流出．自念我身亦如是相如是法未脫此法．如是須菩提．菩薩摩訶薩內身中循身觀．懃精進一心除世間貪憂．以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩若見是棄死人身若六日若七日．烏鵄鵰鷲豺狼狐狗．如是等種種禽獸[illegible]裂食之．自念我身如是相如是法未脫此法．如是須菩提．菩薩摩訶薩內身中循身觀．懃精進一心除世間貪憂．以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩若見是棄死人身種種禽獸．食已不淨爛臭．自念我身如是相如是法未脫此法．乃至除世間貪憂．復次須菩提．菩薩摩訶薩若見是棄死人身．骨璅血肉塗染筋骨相連．自念我身如是相如是法未脫此法．乃至除世間貪憂．復次須菩提．菩薩摩訶薩若見是棄死人身．骨璅血肉已離筋骨相連．自念我身如是相如是法未脫此法．乃至除世間貪憂．復次須菩提．菩薩摩訶薩若見是棄死人身．骨璅已散在地．自念我身如是相如是法未脫此

脇同作肋
見上同有著字
次同

名三本俱作爲
次同○願作同
作作願

法如是須菩提菩薩摩訶薩觀內身乃至除世間貪憂復次須菩提菩薩摩訶薩若見是棄死人身骨散在地脚骨異處髆骨髀骨腰骨脇骨脊骨手骨項骨髑髏各各異處自念我身如是相如是法未脫此法如是須菩提菩薩摩訶薩觀內身乃至除世間貪憂復次須菩提菩薩摩訶薩見是棄死人骨在地歲久風吹日曝色白如貝自念我身如是相如是法未脫此法如是須菩提菩薩摩訶薩觀內身乃至除世間貪憂以不可得故復次須菩提菩薩摩訶薩見是棄死人骨在地歲久其色如鴿腐朽爛壞與土共合自念我身如是相如是法未脫此法如是須菩提菩薩摩訶薩內身中循身觀懃精進一心除世間貪憂以不可得故外身內外身亦如是受念處心念處法念處亦應如是廣說須菩提是名菩薩摩訶薩摩訶衍復次須菩提菩薩摩訶薩摩訶衍所謂四正懃何等四須菩提菩薩摩訶薩未生諸惡不善法爲不生故欲生懃精進攝心行道已生諸惡不善法爲斷故欲生懃精進攝心行道未生諸善法爲生故欲生懃精進攝心行道已生諸善法爲住不失修滿增廣故欲生懃精進攝心行道以不可得故須菩提是名菩薩摩訶薩摩訶衍復次須菩提菩薩摩訶薩摩訶衍所謂四如意分何等四欲定斷行成就修如意分心定斷行成就修如意分精進定斷行成就修如意分思惟定斷行成就修如意分以不可得故須菩提是名菩薩摩訶薩摩訶衍復次須菩提菩薩摩訶薩摩訶衍所謂五根何等五信根精進根念根定根慧根是名菩薩摩訶薩摩訶衍以不可得故復次須菩提菩薩摩訶薩摩訶衍所謂五力何等五信力精進力念力定力慧力是名菩薩摩訶薩摩訶衍以不可得故復次須菩提菩薩摩訶薩摩訶衍所謂七覺分何等七菩薩摩訶薩修念覺分依離依無染向涅槃擇法覺分精進覺分喜覺分除覺分定覺分捨覺分依離依無染向涅槃以不可得故是名菩薩摩訶薩摩訶衍復次須菩提菩薩摩訶薩摩訶衍所謂八聖道分何等八正見正思惟正語正業正命正精進正念正定是名菩薩摩訶薩摩訶衍以不可得故復次須菩提菩薩摩訶薩摩訶衍所謂三三昧何等三空無相無作三昧空三昧名諸法自相空是名空解脫門無相名壞諸法相不憶不念是名無相解脫門無作名諸法中不願作是名無作解脫門是名菩薩摩訶薩摩訶衍以不可得故復次須菩提菩薩摩訶薩摩訶衍所謂苦智集智滅智道智盡智無生智法智比智世智他心智如實智云何名苦智知苦不生是名苦

觸宋明俱作識
諸上元有知字

身善三本俱作善身○口善同作善口

智.云何名集智.知集應斷是名集智.云何名滅智知苦滅是名滅智.云何名道智知八聖道.分是名道智.云何名盡智.知諸婬恚癡盡是名盡智.云何名無生智.知諸有中無生是名無生智.云何名法智.知五陰本事是名法智.云何名比智.知眼無常乃至意觸因緣生受無常是名比智.云何名世智.知因緣名字是名世智.云何名他心智.知他衆生心是名他心智.云何名如實智.諸佛一切種智是名如實智.須菩提.是名菩薩摩訶薩摩訶衍以不可得故.復次須菩提.菩薩摩訶薩摩訶衍.所謂三根.未知欲知根知根知根智者根.云何名未知欲知根.諸學人未得果信根精進根念根定根慧根.是名未知欲知根.云何名知根.諸學人得果信根乃至慧根.是名知根.云何名智者根.諸無學人若阿羅漢若辟支佛諸佛信根乃至慧根.是名智者根.須菩提.是名菩薩摩訶薩摩訶衍.以不可得故.復次須菩提.菩薩摩訶薩摩訶衍.所謂三三昧.何等三.有覺有觀三昧.無覺有觀三昧.無覺無觀三昧.云何名有覺有觀三昧.離諸欲離惡不善法.有覺有觀離生喜樂入初禪.是名有覺有觀三昧.云何名無覺有觀三昧.初禪二禪中間.是名無覺有觀三昧.云何名無覺無觀三昧.從二禪乃至非有想非無想定.是名無覺無觀三昧.須菩提.是名菩薩摩訶薩摩訶衍.以不可得故.復次須菩提.菩薩摩訶薩摩訶衍.所謂十念.何等十念佛念法念僧念戒念捨念天念善念出入息念身念死.須菩提.是名菩薩摩訶薩摩訶衍.以不可得故.復次須菩提.菩薩摩訶薩摩訶衍.所謂四禪四無量心四無色定八背捨九次第定.須菩提.是名菩薩摩訶薩摩訶衍.以不可得故.復次須菩提.菩薩摩訶薩摩訶衍.所謂佛十力.何等十.佛如實知一切法是處不是處相.一力也.如實知他衆生過去未來現在諸業諸受法.知造業處知因緣知報.二力也.如實知諸禪解脫三昧定垢淨分別相.三力也.如實知他衆生諸根上下相.四力也.如實知他衆生種種欲解.五力也.如實知世間種種無數性.六力也.如實知一切至處道.七力也.知種種宿命有相有因緣.一世二世乃至百千世劫.初劫盡我在彼衆生中生.如是姓如是名.如是飲食苦樂壽命長短.彼中死是間生.是間死還生是間.此間生名姓飲食苦樂壽命長短亦如是.八力也.佛天眼淨過諸天眼.見衆生死時生時.端正醜陋若大若小.若墮惡道若墮善道.如是業因緣受報.是諸衆生惡身業成就.惡口業成就.惡意業成就.謗毀聖人受邪見.業因緣故.身壞死時入惡道生地獄中.是諸衆生身善業成就.口善

業成就．意善業成就．不謗毀聖人受正見因緣故．身壞死時入善道生天上．九力也佛如實知諸漏盡故．無漏心解脫．無漏慧解脫．現在法中自證知入是法．所謂我生已盡梵行已作．從今世不復見後世．十力也．須菩提．是名菩薩摩訶薩摩訶衍．以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩摩訶衍．所謂四無所畏．何等四．佛作誠言．我是一切正智人．若有沙門婆羅門若天若魔若梵．若復餘衆如實難言．是法不知乃至不見是微畏相．以是故．我得安隱得無所畏安住聖主處．在大衆中師子吼能轉梵輪．諸沙門婆羅門若天若魔若梵．若復餘衆實不能轉．一無畏也．佛作誠言．我一切漏盡．若有沙門婆羅門若天若魔若梵．若復餘衆如實難言是漏不盡乃至不見是微畏相．以是故．我得安隱得無所畏安住聖主處．在大衆中師子吼能轉梵輪．諸沙門婆羅門若天若魔若梵．若復餘衆實不能轉．二無畏也．佛作誠言．我說障法．若有沙門婆羅門若天若魔若梵．若復餘衆如實難言．受是法不障道．乃至不見是微畏相．以是故．我得安隱得無所畏安住聖主處．在大衆中師子吼能轉梵輪．諸沙門婆羅門若天若魔若梵．若復餘衆實不能轉．三無畏也．佛作誠言．我所說聖道．能出世間隨是行能盡苦．若有沙門婆羅門若天若魔若梵．若復餘衆如實難言行是道不能出世間不能盡苦．乃至不見是微畏相．以是故．我得安隱得無所畏安住聖主處．在大衆中師子吼能轉梵輪．諸沙門婆羅門若天若魔若梵．若復餘衆實不能轉．四無畏也．須菩提．是名菩薩摩訶薩摩訶衍．以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩摩訶衍．所謂四無礙智．何等四．義無閡法無礙辭無閡樂說無閡．須菩提．是名菩薩摩訶薩摩訶衍．以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩摩訶衍．所謂十八不共法．何等十八．一諸佛身無失．二口無失．三念無失．四無異相．五無不定心．六無不知已捨心．七欲無滅．八精進無滅．九念無滅．十慧無滅．十一解脫無滅．十二解脫知見無滅．十三一切身業隨智慧行．十四一切口業隨智慧行．十五一切意業隨智慧行．十六智慧知見過去世無閡無障．十七智慧知見未來世無閡無障．十八智慧知見現在世無閡無障．須菩提．是名菩薩摩訶薩摩訶衍．以不可得故．復次須菩提．菩薩摩訶薩摩訶衍．所謂字等語等諸字入門．何等爲字等語等諸字入門．阿字門．一切法初不生故．羅字門．一切法離垢故．波字門．一切法第一義故．遮字門．一切法終不可得故．諸法不終不生故．那字門．諸法離名性相不得不失故．邏字門．諸法度世間

意善同作善意
間下同無隨字
閡同作礙下同
羅三本俱作邏
邏同作羅

支同作枝
陀同作吒
駊宋作斯元明俱作簸次同
陰元作衆
嗟同作蹉
遍三本俱作邊
薩下元無摩訶二字○衍下三本俱有以不可得故五字

故。亦愛|支因緣滅故。陀字門。諸法善心生故亦施相故。婆字門諸法婆字離故。茶字門。諸法茶字淨故。沙字門。諸法六自在王性清淨故。和字門。入諸法語言道斷故。多字門。入諸法如相不動故。夜字門。入諸法如實不生故。|陀字門。入諸法折伏不可得故。迦字門。入諸法作者不可得故。婆字門。入諸法時不可得故。諸法時來轉故。磨字門。入諸法我所不可得故。伽字門。入諸法去者不可得故。他字門。入諸法處不可得故。闍字門。入諸法生不可得故。|駊字門。入諸法|駊字不可得故。馱字門。入諸法性不可得故。賒字門入諸法定。不可得故。呿字門。入諸法虛空不可得故。叉字門。入諸法盡不可得故。哆字門。入諸法有不可得故。若字門。入諸法智不可得故。拕字門。入諸法拕字不可得故。婆字門。入諸法破壞不可得故。車字門。入諸法欲不可得故。如影五|陰亦不可得故。摩字門。入諸法摩字不可得故。火字門。入諸法喚不可得故。嗟字門。入諸法|嗟字不可得故。伽字門。入諸法厚不可得故。他字門。入諸法處不可得故。拏字門。入諸法不來不去不立不坐不臥故。頗字門。入諸法|遍不可得故。歌字門。入諸法聚不可得故。醝字門。入諸法醝字不可得故。遮字門。入諸法行不可得故。吒字門。入諸法傴不可得故。茶字門。入諸法邊竟處故不終不生。過茶無字可說。何以故。更無字故。諸字無|閡無名亦滅。不可說不可示。不可見不可書。須菩提。當知一切諸法如虛空。須菩提。是名陀羅尼門。所謂阿字義。若菩薩摩訶薩。是諸字門印阿字印。若聞若受若誦若讀若持若爲他說。如是知當得二十功德。何等二十。得強識念。得慚愧。得堅固心。得經旨趣。得智慧。得樂說無礙。易得諸餘陀羅尼門。得無疑悔心。得聞善不喜聞惡不怒。得不高不下住心無增無減。得善巧知衆生語。得巧分別五陰十二入十八界十二因緣四緣四諦。得巧分別衆生諸根利鈍。得巧知他心。得巧分別日月歲節。得巧分別天耳通。得巧分別宿命通。得巧分別生死通。得能巧說是處非處。得巧知往來坐起等身威儀。須菩提。是陀羅尼門字門阿字門等。是名菩薩摩訶薩|摩訶衍

摩訶般若波羅蜜經卷第五

摩訶般若波羅蜜經卷第六

〔麗芥〕〔宋黃〕〔元黃〕〔明黃〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

發趣品第二十

佛告須菩提。汝問云何菩薩摩訶薩大乘發趣。若菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。從一地至一地。是名菩薩摩訶薩大乘發趣。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩從一地至一地。佛言。菩薩摩訶薩知一切法無來去相。亦無有法若來若去若至若不至。諸法相不滅故。菩薩摩訶薩於諸地。不念不思惟。而修治地業。亦不見地。何等菩薩摩訶薩治地業。菩薩摩訶薩住初地時行十事。一者深心堅固。用無所得故。二者於一切衆生中等心。衆生不可得故。三者布施。施者受者不可得故。四者親近善知識。亦不自高。五者求法。一切法不可得故。六者常出家。家不可得故。七者愛樂佛身。相好不可得故。八者演出法教。諸法分別不可得故。九者破憍慢法。生慧不可得故。十者實語。諸語不可得故。菩薩摩訶薩如是初地中住。修治十事治地業。復次須菩提。菩薩摩訶薩住二地中。常念八法。何等八。一者戒清淨。二者知恩報恩。三者住忍辱力。四者受歡喜。五者不捨一切衆生。六者入大悲心。七者信師恭敬諮受。八者勤求諸波羅蜜。須菩提。是名菩薩摩訶薩住二地中。滿足八法。復次須菩提。菩薩摩訶薩住三地中行五法。何等五。一者多學問無厭足。二者淨法施。亦不自高。三者淨佛國土。亦不自高。四者受世間無量勲苦不以爲厭。五者住慚愧處。須菩提。是名菩薩摩訶薩住三地中。應滿足五法。復次須菩提。菩薩摩訶薩住四地中。應受行不捨十法。何等十。一者不捨阿蘭若住處。二者少欲。三者知足。四者不捨頭陀功德。五者不捨戒。六者穢惡諸欲。七者厭世間心。順涅槃心。八者捨一切所有。九者心不沒。十者不惜一切物。須菩提。是名菩薩摩訶薩住四地中不捨十法。復次須菩提。菩薩摩訶薩住五地中。遠離十二法。何等十二。一者遠離親白衣。二者遠離比丘尼。三者遠離慳惜他家。四者遠離無益談説。五者遠離瞋恚。六者遠離自大。七者遠離蔑人。八者遠離十不善道。

三本俱不分卷於此

品目發上元有摩訶般若波羅蜜經八字

破下宋明俱有於字○慢下同無法字

中下元明俱有應字○世上三本俱有諸字○勲同作勤○名同作爲下同○蘭同作練○心下元明俱無順涅槃心四字下同

説三本俱作處

處三本俱作心○作所期處同作應作願三字○不下同有應字○處同作止○法忍同作忍法○調上同有慧地二字

共同作佛五上同有名字

世界同作國土下同○健同作乾下同

九者遠離大慢.十者遠離自用.十一者遠離顚倒.十二者遠離婬怒癡.須菩提.是爲菩薩摩訶薩住五地中遠離十二事.復次須菩提.菩薩摩訶薩住六地中當具足六法.何等六.所謂六波羅蜜.復有六法所不應爲.何等六.一者不作聲聞辟支佛意.二者布施不應生憂心.三者見有所索心不沒.四者所有物布施.五者布施之後心不悔.六者不疑深法.須菩提.是名菩薩摩訶薩住六地中應滿具六法遠離六法.復次須菩提.菩薩摩訶薩住七地中應遠離二十法所不應著.何等二十.一者不著我.二者不著衆生.三者不著壽命.四者不著衆數乃至知者見者.五者不著斷見.六者不著常見.七者不應作相.八者不應作因見.九者不著名色.十者不著五陰.十一者不著十八界.十二者不著十二入.十三者不著三界.十四者不作著處.十五者不作所期處.十六者不作依處.十七者不著依佛見.十八者不著依法見.十九者不著依僧見.二十者不著依戒見.是二十法所不應著.復有二十法應具足滿.何等二十.一者具足空.二者無相證.三者知無作.四者三分淸淨.五者一切衆生中慈悲智具足.六者不念一切衆生.七者一切法等觀.是中亦不著.八者知諸法實相.是事亦不念.九者無生法忍.十者無生智.十一者說諸法一相.十二者破分別相.十三者轉憶想.十四者轉見.十五者轉煩惱.十六者等定慧地.十七者調意.十八者心寂滅.十九者無礙智.二十者不染愛.須菩提.是名菩薩摩訶薩住七地中應具足二十法.復次須菩提.菩薩摩訶薩住八地中應具足五法.何等五.順入衆生心.遊戲諸神通見諸佛國.如所見佛國自莊嚴其國.如實觀佛身自莊嚴佛身.是五法具足滿.復次須菩提.菩薩摩訶薩住八地中.復具足五法.何等五.知上下諸根.淨佛國土.入如幻三昧.常入三昧.隨衆生所應善根受身.須菩提.是爲菩薩摩訶薩住八地中具足五法.復次須菩提.菩薩摩訶薩住九地中應具足十二法.何等十二.受無邊世界所度之分.菩薩得如所願.知諸天龍夜叉健闥婆語而爲說法.處胎成就.家成就.所生成就.姓成就.眷屬成就.出生成就.出家成就.莊嚴佛樹成就.一切諸善功德成滿具足.須菩提.是名菩薩摩訶薩住九地中應具足十二法.須菩提.十地菩薩當知如佛.爾時慧命須菩提白佛言.世尊.云何菩薩摩訶薩深心治地業.佛言.菩薩摩訶薩應薩婆若心集一切善根.是名菩薩摩訶薩深心治地業.云何菩薩於一切衆生中等心.佛言.若菩薩摩訶薩應薩婆若心生四無量心.所謂慈悲喜捨.是名於一切衆生中

心下元無出家二字

憂同作優

初住同作住初

苦同作若

等心。云何菩薩修布施。佛言。菩薩施與一切衆生無所分別。是名修布施。云何菩薩親近善知識。佛言。能教人入薩婆若中住。如是善知識親近諮受恭敬供養。是名親近善知識。云何菩薩求法。佛言。菩薩應薩婆若心求法。不墮聲聞辟支佛地。是名求法。云何菩薩常出家治地業。佛言。菩薩世世不雜心出家。佛法中出家無能障礙者。是名常出家治地業。云何菩薩愛樂佛身治地業。佛言。若菩薩見佛身相。乃至阿耨多羅三藐三菩提終不離念佛。是名愛樂佛身治地業。云何菩薩演出法教治地業。佛言。菩薩若佛現在若佛滅度後。爲衆生說法初中後善妙義好語淨潔純具。所謂修多羅乃至憂波提舍。是名演出法教治地業。云何菩薩破於憍慢治地業。佛言。菩薩破是憍慢故終不生下賤家。是名破於憍慢治地業。云何菩薩實語治地業。佛言。菩薩如所說行。是名實語治地業。是爲菩薩摩訶薩初住地中修行十事治地業。云何菩薩戒淸淨。若菩薩摩訶薩不念聲聞辟支佛心。及諸破戒障佛道法。是名戒淸淨。云何菩薩知恩報恩。若菩薩摩訶薩行菩薩道。乃至小恩尚不忘何況多。是名知恩報恩。云何菩薩住忍辱力。若菩薩於一切衆生無瞋無惱。是名住忍辱力。云何菩薩受歡喜。所謂成就衆生以此爲喜。是名受歡喜。云何菩薩不捨一切衆生。若菩薩念欲救一切衆生故。是名不捨一切衆生。云何菩薩入大悲心。若菩薩如是念我爲一一衆生故。如恒河沙等劫地獄中受懃苦。乃至是人得佛道入涅槃。如是名爲爲一切十方衆生忍苦。是名入大悲心。云何菩薩信師恭敬諮受。若菩薩於諸師如世尊想。是名信師恭敬諮受。云何菩薩懃求諸波羅蜜。若菩薩一心求諸波羅蜜無異事。是名懃求諸波羅蜜。是爲菩薩摩訶薩住二地中滿足八法。云何菩薩摩訶薩多學問無厭足。諸佛所說法。若此間世界若十方世界。諸佛所說法盡欲聞持。是名多學問無厭足。云何菩薩淨法施。有所法施乃至不求阿耨多羅三藐三菩提何況餘事。是名不求名利法施。云何菩薩淨佛國土。以諸善根迴向淨佛國土。是名淨佛國土。云何菩薩受世間無量懃苦不以爲厭。諸善根備具故。能成就衆生亦莊嚴佛土。乃至具足薩婆若終不疲厭。是名受無量懃苦不以爲厭。云何菩薩住慙愧處。耻諸聲聞辟支佛意。是名住慚愧處。是爲菩薩摩訶薩住三地中滿足五法。云何菩薩不捨阿練若住處。能過聲聞辟支佛地。是名不捨阿練若住處。云何菩薩少欲。乃至阿耨多羅三藐三菩提尚不欲何況餘欲。是名少欲。云何菩薩知足。得一切

名下宋無厭世間心四字

法下三本俱無故字

種智是名知足。云何菩薩不捨頭陀功德。觀諸深法忍。是名不捨頭陀功德。云何菩薩不捨戒。不取戒相是名不捨戒。云何菩薩穢惡諸欲。欲心不生故。是名穢惡諸欲。云何菩薩厭世間心順涅槃心。知一切法不作故。是名厭世間心順涅槃心。云何菩薩捨一切所有。不惜內外諸法故。是名捨一切所有。云何菩薩心不沒。二種識處心不生故。是名心不沒。云何菩薩不惜一切物。於一切物不著不念。是名不惜一切物。是爲菩薩於四地中不捨十法。云何菩薩遠離親白衣。菩薩出家所生。從一佛國至一佛國。常出家剃頭著染衣。是名遠離親白衣。云何菩薩遠離比丘尼。不共比丘尼住。乃至彈指頃亦不生念。是名遠離比丘尼。云何菩薩遠離慳惜他家。菩薩如是思惟我應安樂衆生。他今助我安樂。云可生慳。是名遠離慳惜他家。云何菩薩遠離無益談處。若有談處或生聲聞辟支佛心。我當遠離。是名遠離無益談處。云何菩薩遠離瞋恚。不令瞋心惱心鬪心得入。是名遠離瞋恚。云何菩薩遠離自大。所謂不見內法故。是名遠離自大。云何菩薩遠離蔑人。所謂不見外法故。是名遠離蔑人。云何菩薩遠離十不善道。是十不善道能障八聖道。何況阿耨多羅三藐三菩提。是名遠離十不善道。云何菩薩遠離大慢。是菩薩不見法可作大慢者。是名遠離大慢。云何菩薩遠離自用。是菩薩不見是法可自用者。是名遠離自用。云何菩薩遠離顚倒。顚倒處不可得故。是名遠離顚倒。云何菩薩遠離婬怒癡。婬怒癡處不可見故。是名遠離婬怒癡。是爲菩薩住五地中遠離十二法。云何菩薩住六地中具足六法。所謂六波羅蜜。諸佛及聲聞辟支佛。住六波羅蜜中能度彼岸。是名具足六法。云何菩薩不作聲聞辟支佛意。作是念聲聞辟支佛意非阿耨多羅三藐三菩提道。云何菩薩布施不生憂心。作是念此非阿耨多羅三藐三菩提道。云何菩薩見有所索心不沒。作是念此非阿耨多羅三藐三菩提道。云何菩薩所有物布施。菩薩初發心時布施。不言是可與是不可與。云何菩薩布施之後心不悔。慈悲力故。云何菩薩不疑深法。信功德力故。是爲菩薩住六地中遠離六法。云何菩薩不著我。畢竟無我故。云何菩薩不著衆生不著壽命不著衆數乃至知者見者。是諸法畢竟不可得故。云何菩薩不著斷見。無有法斷。諸法畢竟不生故。云何菩薩不著常見。若法不生是不作常。云何菩薩不應取相。無諸煩惱故。云何菩薩不應作因見。諸見不可見故。云何菩薩不著名色。名色處相無故。云何菩薩不著五陰。不著十八界。不著十二入。是諸法

作下三本俱無忍字

閡同作礙

辨成明作成辨○相下同無故字

辯明作辦

性無故。云何菩薩不著三界。三界性無故。云何菩薩不應作著心。云何菩薩不應作願。云何菩薩不應作依止。是諸法性無故。云何菩薩不著依佛見。作依見不見佛故。云何菩薩不著依法見。法不可見故。云何菩薩不著依僧見。僧相無為不可依故。云何菩薩不著依戒見。罪無罪不著故。是為菩薩住七地中二十法所不應著。云何菩薩應具足空。具足諸法自相空故。云何菩薩無相證。不念諸相故。云何菩薩知無作。於三界中不作故。云何菩薩三分清淨。十善道具足故。云何菩薩一切衆生中慈悲智具足。得大悲故。云何菩薩不念一切衆生。淨國土具足故。云何菩薩一切法等觀。於諸法不損益故。云何菩薩知諸法實相。諸法實相無知故。云何菩薩無生忍。為諸法不生不滅不作忍故。云何菩薩無生智。知名色不生故。云何菩薩說諸法一相。心不行二相故。云何菩薩破分別相一切法不分別故。云何菩薩轉憶想。小大無量想轉故。云何菩薩轉見。於聲聞辟支佛地見轉故。云何菩薩轉煩惱。斷諸煩惱故。云何菩薩等定慧地。所謂得一切種智故。云何菩薩調意。於三界不動故。云何菩薩心寂滅。制六根故。云何菩薩無閡智。得佛眼故。云何菩薩不染愛。捨六塵故。是為菩薩住七地中具足二十法。云何菩薩順入衆生心。菩薩以一心知一切衆生心及心數法。云何菩薩遊戲諸神通。以是神通從一佛國至一佛國。亦不作佛國想。云何菩薩觀諸佛國。自住其國見無量諸佛國。亦無佛國想。云何菩薩如所見佛國自莊嚴其國。住轉輪聖王地。遍至三千大千世界。以自莊嚴。云何菩薩如實觀佛身。如實觀法身故。是為菩薩住八地中具足五法。云何菩薩知上下諸根。菩薩住佛十力。知一切衆生上下諸根。云何菩薩淨佛國土。淨衆生故。云何菩薩如幻三昧。住是三昧能辨成一切事。亦不生心相故。云何菩薩常入三昧。菩薩得報生三昧故。云何菩薩隨衆生所應善根受身。菩薩知衆生所應生善根而為受身。成就衆生故。是為菩薩住八地中具足五法。云何菩薩受無邊世界所度之分。十方無量世界中衆生。如諸佛法所應度者而度脫之。云何菩薩得如所願。得六波羅蜜具足故。云何菩薩知諸天龍夜叉揵闥婆語。辭辯力故。云何菩薩胎生成就。菩薩世世常化生故。云何菩薩家成就。常在大家生故。云何菩薩所生成就。若剎利家生若婆羅門家生故。云何菩薩姓成就。如過去菩薩所生姓。從此中生故。云何菩薩眷屬成就。純諸菩薩摩訶薩為眷屬故。云何菩薩出生成就。生時光明遍照無量無邊世界。亦不取相故。云何

菩薩出家成就。出家時無量百千億諸天侍從。出家是一切衆生必至三乘。云何菩薩莊嚴佛樹成就。是菩提樹以黃金爲根。七寶爲莖節枝葉。莖節枝葉光明遍照十方阿僧祇三千大千世界。云何菩薩一切諸善功德成滿具足。菩薩得衆生淸淨佛國亦淨。是爲菩薩住九地中具足十二法。云何菩薩住十地中當知如佛。若菩薩摩訶薩。具足六波羅蜜四念處乃至十八不共法一切種智具足滿。斷一切煩惱及習。是名菩薩摩訶薩住十地中當知如佛。須菩提。菩薩摩訶薩住是十地中。以方便力故行六波羅蜜。行四念處乃至十八不共法。過乾慧地性地八人地見地薄地離欲地已作地辟支佛地菩薩地。過是九地住於佛地。是爲菩薩十地。如是須菩提。是名菩薩摩訶薩大乘發趣

品目上明無經名○佛告須菩提乃至無相法出九百八十二字宋本大異對校甚難故今別卷末○不附載上元明俱有俱字○不上元有共字明有俱字○想元作相次同

檀下元明俱無那字下同○禪下同無那字次同

摩訶般若波羅蜜經出到品第二十一

佛告須菩提。汝所問是乘何處出至何處住者。佛言。是乘從三界中出。至薩婆若中住。以不二法故。何以故。摩訶衍薩婆若是二法。不合不散無色無形。無對一相。所謂無相。若人欲使實際出。是人爲欲使無相法出。若人欲使如法性不可思議性出。是人爲欲使無相法出。若人欲使色空出。是人爲欲使無相法出。若人欲使受想行識空出。是人爲欲。使無相法出。何以故。須菩提。色空相不出三界。亦不住薩婆若。受想行識空相不出三界。亦不住薩婆若。所以者何。色色相空。受想行識識相空故。若人欲使眼空出。是人爲欲使無相法出。若人欲使耳鼻舌身意空出。是人爲欲使無相法出。若人欲使乃至意觸因緣生受空出。是人爲欲使無相法出。何以故。須菩提。眼空不出三界亦不住薩婆若。乃至意觸因緣生受空。不出三界亦不住薩婆若。所以者何。眼眼相空。乃至意觸因緣生受。意觸因緣生受相空故。若人欲使夢出。是人爲欲使無相法出。若人欲使幻焰響影化出。是人爲欲使無相法出。何以故。須菩提。夢相不出三界亦不住薩婆若。幻焰響影化相。亦不出三界亦不住薩婆若。須菩提。若人欲使檀那波羅蜜出。是人爲欲使無相法出。若人欲使尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜出。是人爲欲使無相法出。何以故。檀那波羅蜜相。不出三界亦不住薩婆若。尸羅波羅蜜乃至般若波羅蜜。

懃同作勤　不上同有亦字　阿上元有須菩提三字　是元明俱作若○性性宋作無作法性性四字元作無性○薩上元何上元明俱無至字○性明作住○相下宋明作俱有乃至無作相五字○相元作性○空上三本俱有性字次同○所住宋作住處○出上元明俱無及字○陰元作衆

不出三界亦不住薩婆若。所以者何。檀那波羅蜜檀那波羅蜜相空。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪
那波羅蜜般若波羅蜜般若波羅蜜相空故。若人欲使內空出乃至無法有法空出。是人爲欲使無相法出。何以
故。須菩提。內空相乃至無法有法空相。不出三界亦不住薩婆若。所以者何。內空內空性空。乃至無法有法空無
法有法空性空故。若人欲使四念處出。是人爲欲使無相法出。何以故。四念處性。不出三界亦不住薩婆若。所以
者何。四念處性四念處性空故。若人欲使四正懃四如意足五根五力七覺分八聖道分出。是人爲欲使無相法
出。何以故。八聖道分性。不出三界不住薩婆若。所以者何。八聖道分性八聖道分性空故。乃至十八不共法亦如
是須菩提。若人欲使阿羅漢出生處。是人爲欲使無相法出。若人欲使辟支佛出生處。是人爲欲使無相法出。若
人欲使多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀出生處。是人爲欲使無相法出。何以故。阿羅漢性辟支佛性佛性。不出
三界亦不住薩婆若。所以者何。阿羅漢性阿羅漢性空。辟支佛性辟支佛性空。佛性佛性空故。若人欲使須陀洹
果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道佛道一切種智出。是人爲欲使無相法出。如上說。若人欲使名字假
名施設相但有語言出。是人爲欲使無相法出。何以故。名字空。不出三界亦不住薩婆若。所以者何。名字相名字
相空故。乃至施設亦如是。是人欲使不生不滅法不垢不淨無作法出。是人爲欲使無相法出。何以故。不生乃至
無作法性。不出三界亦不住薩婆若。所以者何。不生性乃至無作性性空故。須菩提。以是因緣故。摩訶衍從三界
中出。至薩婆若中住不動故。須菩提。汝所問是乘至何處住者。須菩提。是大乘無住處。何以故。一切法無住相故。
是乘若住不住法住。須菩提。譬如法性不生不滅。不垢不淨無相無作。非住非不住。須菩提。是乘亦如是。非住非
不住。何以故。法性相非住非不住。所以者何。法性相空故。乃至無作性無作性空故。諸餘法亦如是。須菩提。以是
因緣故。是乘無所住以不住法不動法故。須菩提。汝所問誰當乘是乘出者。無有人乘是乘出者。何以故。是乘及
出者所用法及出時。是一切法皆無所有。若一切法無所有。用何等法當出。何以故。我不可得乃至知者見者不
可得。畢竟淨故。不可思議性不可得。畢竟淨故。陰入界不可得。畢竟淨故。檀那波羅蜜不可得。畢竟淨故。乃至般
若波羅蜜不可得。畢竟淨故。內空不可得。畢竟淨故乃至無法。有法空不可得。畢竟淨故。四念處不可得。乃至十

八不共法不可得。畢竟淨故。須陀洹不可得。乃至阿羅漢辟支佛菩薩佛不可得。畢竟淨故。須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道佛道一切種智不可得。畢竟淨故。不生不滅不垢不淨無起無作不可得。畢竟淨故。過去世未來現在世生住滅不可得畢竟淨故。增減不可得。畢竟淨故。何法不可得故不可得。法性不可得故不可得。如實際不可思議性法相法位檀那波羅蜜不可得故不可得乃至般若波羅蜜不可得故不可得。內空不可得故不可得。乃至無法有法空不可得故不可得四念處不可得故不可得。乃至十八不共法不可得故不可得。須陀洹不可得故不可得。乃至佛不可得故不可得。須陀洹果不可得故不可得。乃至佛道不可得故不可得。不生不滅乃至不起不作。不可得故不可得。復次須菩提。初地不可得故不可得至乃第十地不可得故不可得。畢竟淨故。云何爲初地乃至十地。所謂乾慧地性地八人地見地薄地離欲地已作地辟支佛地菩薩地佛地。內空中初地不可得。乃至無法有法空中初地不可得。內空乃至無法有法空中。第二第三第四第五第六第七第八第九第十地不可得。何以故。須菩提。初地非得非不得。乃至十地非得非不得。畢竟淨故。內空乃至無法有法空中。成就衆生不可得。畢竟淨故。內空乃至無法有法空中淨佛國土不可得。畢竟淨故。內空乃至無法有法空中五眼不可得。畢竟淨故。如是須菩提。菩薩摩訶薩以一切諸法不可得故。乘是摩訶衍出三界。住薩婆若

摩訶般若波羅蜜經勝出品第二十二

慧命須菩提白佛言。世尊。摩訶衍摩訶衍者。勝出一切世間及諸天人阿修羅。世尊。是摩訶衍與虛空等。如虛空受無量無邊阿僧祇衆生。摩訶衍亦如是。受無量無邊阿僧祇衆生。世尊。是摩訶衍不見來處不見去處不見住處。是摩訶衍前際不可得後際不可得中際不可得。三世等是摩訶衍。世尊。以是故是乘名摩訶衍。佛告須菩提。如是如是。菩薩摩訶薩摩訶衍。所謂六波羅蜜。檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。是名菩薩摩訶薩摩訶衍。復次須菩提。菩薩摩訶薩摩訶衍。一切陀羅尼門。一切三昧門。所謂首楞嚴三昧。乃至離著虛空不染三昧。是名菩薩摩訶薩摩訶衍。復次須菩提。菩薩摩訶薩摩訶衍。所謂內空乃至

○來下宋元俱有世字○法上三本俱有法性二字○般上宋無乃至二字

第上宋有第一二字

國土元作世界○法下宋有中字○出下元無三界住三字○三本俱以薩婆若爲卷第六終同勝出品以下爲卷第七○品目上同無經名○修同作脩下同○三上同有是名二字

想同作相

阿修宋元明倶作阿脩

修三本倶作脩下同

無法有法空。是名菩薩摩訶薩摩訶衍。復次須菩提。菩薩摩訶薩摩訶衍所謂四念處乃至十八不共法。是名菩薩摩訶薩摩訶衍。如須菩提所言。是摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。若欲界當有實不虛妄不異諦不顛倒。有常不壞相非無法者。是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。以欲界虛妄憶想分別和合名字等有一切無常想無法。以是故摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。色界無色界若當實有不虛妄不異諦不顛倒。有常不壞相非無法者。是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。以色界無色界虛妄憶想分別和合名字等有一切無常破壞相無法。以是故摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。若色當實有不虛妄不異諦不顛倒。有常不壞相非無法者。是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。以色虛妄憶想分別和合名字等有一切無常破壞相無法。以是故。是摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。受想行識亦如是。須菩提。若眼乃至意。色乃至法。眼識乃至意識。眼觸乃至意觸。眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受。若當實有不虛妄不異諦不顛倒。有常不壞相非無法者。是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。以眼乃至意觸因緣生受虛妄憶想分別和合名字等有一切無常破壞相無法。以是故。摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。若法性是有法非無法者。是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。以法性無法非法。以是故。摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。若如實際不可思議性。是有法非無法者。是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。以如實際不可思議性無法非法。以是故。摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。若檀那波羅蜜。是有法非無法者是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅。以檀那波羅蜜無法非法。以是故摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。若尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。是有法非無法者。是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅。以尸羅波羅蜜乃至般若波羅蜜。無法非法。以是故摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。若內空乃至無法有法空。是有法非無法者。是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅。以內空乃至無法有法空無法非法。以是故摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅。須菩提。若四念處乃至十

須上同有若字

人下同無法字

若下同有當字

是上三本俱有若字

如明作於元無次同

若下元無當字

八不共法.是有法非無法者.是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅以四念處乃至十八不共法無法非法.以是故.摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.若性人法是有法非無法者是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅.以性人法無法非法.以是故.摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.若八人法須陀洹法斯陀含法阿那含法阿羅漢法辟支佛法佛法.是有法非無法者.是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅.以八人法乃至佛法無法非法.以是故.摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.若性地人是有法非無法者.是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅.以性地人無法非法.以是故.摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.若八人法須陀洹乃至佛.是有法非無法者.是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅.以八人乃至佛無法非法.以是故.摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.若一切世間及諸天人阿修羅.是有法非無法者.是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅.以一切世間及諸天人阿修羅無法非法.以是故.摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.若菩薩摩訶薩從初發心乃至道場.於其中間諸心若是有法非無法者.是摩訶衍不能勝出一切世間及諸天人阿修羅.以菩薩從初發心乃至道場.於其中間諸心無法非法.以是故.摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.若菩薩摩訶薩如金剛慧是有法非無法者.是菩薩摩訶薩不能知一切結使及習無法非法得一切種智.須菩提.以菩薩摩訶薩如金剛慧無法非法.是故菩薩知一切結使及習無法非法得一切種智.以是故.摩訶衍勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.若諸佛三十二相.是有法非無法者.諸佛威德不能照然勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.以諸佛三十二相無法非法.以是故.諸佛威德照然勝出一切世間及諸天人阿修羅.須菩提.若諸佛光明是有法非無法者.諸佛光明不能普照如恒河沙等國土.須菩提.以諸佛光明無法非法.以是故.諸佛能以光明普照如恒河沙等國土.須菩提.若諸佛六十種莊嚴音聲是有法非無法者.諸佛不能以六十種莊嚴音聲遍至十方無量阿僧祇國土.須菩提.以諸佛六十種莊嚴音聲無法非法.以是故諸佛能以六十種莊嚴音聲遍至十方無量阿僧祇國土.須菩提.諸佛法輪若當是有法非無法者.諸佛不能轉法輪諸沙門婆羅門若天若魔若梵.及世

間餘衆所不能如法轉者。須菩提。以諸佛法輪無法非法。以是故。諸佛轉法輪諸沙門婆羅門若天若魔若梵及世間餘衆不能如法轉者。須菩提。諸佛爲衆生轉法輪。是衆生若實有法非無法者。不能令是衆生於無餘涅槃而般涅槃。須菩提。以諸佛爲衆生轉法輪是衆生無法非法。以是故。能令衆生於無餘涅槃中。已滅今滅當滅

摩訶般若波羅蜜經等空品第二十二（丹本作含受品）

佛告須菩提。汝所言衍與空等。如是如是。須菩提。摩訶衍與虛空等。須菩提。如虛空無東方。無南方西方北方四維上下。須菩提。摩訶衍亦如是。無東方無南方西方北方四維上下。須菩提。如虛空非長非短非方非圓。須菩提。摩訶衍亦如是。非長非短非方非圓。須菩提。如虛空非青非黃非赤非白非黑。摩訶衍亦如是。非青非黃非赤非白非黑。以是故。說摩訶衍與空等。須菩提。如虛空非過去非未來非現在。摩訶衍亦如是。非過去非未來非現在。以是故。說摩訶衍與空等。須菩提。如虛空不增不減。摩訶衍亦如是。亦不增亦不減。須菩提。如虛空無垢無淨。摩訶衍亦如是無垢無淨。須菩提。如虛空無生無滅無住無異。摩訶衍亦如是無生無滅無住無異。須菩提。如虛空非善非不善非記非無記。摩訶衍亦如是非善非不善非記非無記。以是故。說摩訶衍與空等。如虛空無見無聞無覺無識。摩訶衍亦如是無見無聞無覺無識。如虛空不可知不可識。不可見不可斷。不可證不可修。摩訶衍亦如是。不可知不可識。不可見不可斷。不可證不可修。以是故。說摩訶衍與空等。如虛空非染相非離相。摩訶衍亦如是非染相非離相。如虛空不繫欲界不繫色界不繫無色界。摩訶衍亦如是。不繫欲界不繫色界不繫無色界。如虛空無初發心亦無二三四五六七八九第十心。摩訶衍亦如是。無初發心乃至無第十心。如虛空無乾慧地性人地八人地見地薄地離欲地已作地。摩訶衍亦如是。無乾慧地乃至已辦地。如虛空無須陀洹果無斯陀含果無阿那含果無阿羅漢果。摩訶衍亦如是。無須陀洹果乃至無阿羅漢果。如虛空無聲聞地無辟支佛地無佛地。摩訶衍亦如是。無聲聞地乃至佛地。以是故。說摩訶衍與虛空等。如虛空非色非無色。非可見非不可見。非有對非無對。非合非散。摩訶衍亦如是。非色非無色。非可見非不可見。非有對非無對。非合非散以是故。說摩訶衍

不上宋明俱有所字

品目上明無經名同等空三本俱作含受

空上元無虛字

不上三本俱無亦字

性下元明俱無人字○作三本俱作辦○辦同○佛上同有無字○空上同無虛字

摩上三本俱有是字下同

與空等。須菩提。如虛空非常非無常非樂非苦非我非無我。摩訶衍亦如是。非常非無常非樂非苦非我非無我。以是故。說摩訶衍與空等。須菩提。如虛空非空非不空非相非無相非作非無作。摩訶衍亦如是。非空非不空非相非無相非作非無作。以是故。說摩訶衍與空等。須菩提。如虛空非寂滅非不寂滅非離非不離。摩訶衍亦如是非寂滅非不寂滅非離非不離。以是故。說摩訶衍與空等。須菩提。如虛空非闇非明。摩訶衍亦如是。非闇非明。以是故。說摩訶衍與空等。須菩提。如虛空非可得非不可得。摩訶衍亦如是。非可得非不可得。以是故。說摩訶衍與空等。須菩提。如虛空非可說非不可說。摩訶衍亦如是。非可說非不可說。以是故。說摩訶衍與空等。須菩提。以是諸因緣故。說摩訶衍與空等。須菩提。如汝所言。如虛空受無量無邊阿僧祇衆生。摩訶衍亦受無量無邊阿僧祇衆生。如是如是。須菩提。衆生無有故。當知虛空無有。虛空無有故。當知摩訶衍亦無有。以是因緣故。摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生。何以故。是衆生虛空摩訶衍。是法皆不可得故。復次須菩提。摩訶衍無所有故。當知阿僧祇無所有。阿僧祇無所有故。當知無量無所有。無量無所有故。當知無邊無所有無邊無所有故。當知一切諸法無所有。以是因緣故。須菩提。是摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生。何以故。是衆生虛空摩訶衍阿僧祇無量無邊。是一切法不可得故。復次須菩提。我無所有乃至知者見者無所有故。當知如法性實際無所有。如法性實際無所有故。當知乃至無量無邊阿僧祇無所有。無量無邊阿僧祇無所有故。當知一切法無所有。以是因緣故。須菩提。是摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生。何以故。是衆生乃至知者見者實際乃至無量無邊阿僧祇。是一切法不可得故。復次須菩提。我無所有乃至知者見者無所有故。當知不可思議性無所有。不可思議性無所有故。當知色受想行識無所有。色受想行識無所有故。當知虛空無所有。虛空無所有故。當知摩訶衍無所有。摩訶衍無所有故。當知阿僧祇無所有。阿僧祇無所有故。當知無量無所有。無量無所有故。當知無邊無所有。無邊無所有故。當知一切諸法無所有。以是因緣故。須菩提。當知摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生。何以故。須菩提。我乃至知者見者等一切法皆不可得故。復次須菩提。我無所有乃至知者見者無所有故。當知眼無所有。耳鼻舌身意無所有眼乃至意無所有故。當知虛空無所有。虛空無所有故。當知摩訶衍無所有。摩訶衍無所有故。當知阿僧祇無所

摩上同無是字

地宋作法

有阿僧祇無所有故當知無量無所有無量無所有故當知無邊無所有無邊無所有故當知一切諸法無所有以是因緣故須菩提摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生何以故須菩提我乃至一切諸法皆不可得故復次須菩提我無所有乃至知者見者無所有故當知檀那波羅蜜無所有尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜無所有般若波羅蜜無所有故當知虛空無所有虛空無所有故當知摩訶衍無所有摩訶衍無所有故當知無量無邊阿僧祇無所有無量無邊阿僧祇無所有故當知一切諸法無所有以是因緣故須菩提是摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生何以故我衆生乃至一切諸法皆不可得故復次須菩提我無所有乃至知者見者無所有故當知內空無所有乃至無法有法空無所有無法有法空無所有故當知虛空無所有虛空無所有故當知摩訶衍無所有摩訶衍無所有故當知阿僧祇無量無邊無所有阿僧祇無量無邊無所有故當知一切諸法無所有以是因緣故須菩提是摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生何以故我衆生乃至一切諸法皆不可得故復次須菩提我衆生乃至知者見者無所有故當知四念處無所有四念處無所有故乃至十八不共法無所有十八不共法無所有故當知虛空無所有虛空無所有故當知摩訶衍無所有摩訶衍無所有故當知阿僧祇無量無邊無所有阿僧祇無量無邊無所有故當知一切諸法無所有以是因緣故須菩提是摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生何以故我衆生乃至一切諸法皆不可得故復次須菩提我衆生無所有乃至知者見者無所有故當知性地無所有乃至已作地無所有已作地無所有故當知虛空無所有虛空無所有故當知摩訶衍無所有摩訶衍無所有故當知阿僧祇無量無邊無所有阿僧祇無量無邊無所有故當知一切諸法無所有以是因緣故是摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生何以故我衆生乃至一切諸法皆不可得故復次須菩提我衆生乃至知者見者無所有故當知須陀洹無所有須陀洹無所有故當知斯陀含無所有斯陀含無所有故當知阿那含無所有阿那含無所有故當知阿羅漢無所有阿羅漢無所有故當知乃至一切諸法無所有以是因緣故須菩提摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生何以故須菩提我乃至一切諸法皆不可得故復次須菩提我乃至知者見者無所有故當知聲聞乘無所有聲聞乘無所有故當知辟支佛乘無所有辟支佛乘無所有故當知

如性如三本俱作性如如

佛乘無所有。佛乘無所有故。當知聲聞人無所有。聲聞人無所有故。當知須陀洹無所有。須陀洹無所有故。乃至佛無所有。佛無所有故。當知一切種智無所有。一切種智無所有故。當知虛空無所有。虛空無所有故。當知摩訶衍無所有。摩訶衍無所有故。當知乃至一切諸法無所有。以是因緣故。是摩訶衍受無量無邊阿僧祇衆生。何以故。我乃至一切諸法皆不可得故。須菩提。譬如涅槃性中受無量無邊阿僧祇衆生。是摩訶衍亦受無量無邊阿僧祇衆生。以是因緣故。須菩提。如虛空受無量無邊阿僧祇衆生。是摩訶衍亦如是。受無量無邊阿僧祇衆生。須菩提。汝所言是摩訶衍不見來處不見去處不見住處。如是如是。須菩提。是摩訶衍不見來處不見去處不見住處。何以故。須菩提。一切諸法不動相故。是法無來處無去處無住處。何以故。須菩提。色無所從來亦無所去亦無所住。受想行識無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。色法無所從來亦無所去亦無所住。受想行識法無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。色如無所從來亦無所去亦無所住。受想行識如無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。色性無所從來亦無所去亦無所住。受想行識性無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。色相無所從來亦無所去亦無所住。受想行識相無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。眼眼法眼如眼性眼相無所從來亦無所去亦無所住。耳鼻舌身意。意法意如意性意相。無所從來亦無所去亦無所住。色聲香味觸法亦如是。須菩提。地種地種法地種如地種性地種相。無所從來亦無所去亦無所住。水火風空識種。識種法識種如識種性識種相亦如是。須菩提。如如法如如如性如如相。無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。實際實際法實際如實際性實際相。無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。不可思議。不可思議法。不可思議如。不可思議性。不可思議相無。所從來亦無所去亦無所住。須菩提。檀那波羅蜜。檀那波羅蜜法。檀那波羅蜜如。檀那波羅蜜性。檀那波羅蜜相無所從來亦無所去亦無所住。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。般若波羅蜜法。般若波羅蜜如。般若波羅蜜性。般若波羅蜜相。無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。四念處四念處法四念處如四念處性四念處相。無所從來亦無所去亦無所住。乃至十八不共法亦如是。須菩提。菩薩菩薩法菩薩如菩薩性菩薩相。無所從來亦無所去亦無所住。佛佛法佛如佛性佛相。無所從來亦無所去亦無所住。阿耨多羅三

世下宋無中字次同〇不上三本俱有亦字〇得下元無乃至十八不共法亦如是十字〇來下同有世字下同〇在同作世

藐三菩提。阿耨多羅三藐三菩提法如性相。無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。有爲法有爲法法有爲法如有爲法性有爲法相無所從來亦無所去亦無所住。須菩提。無爲法無爲法法無爲法如無爲法性無爲法相。無所從來亦無所去亦無所住。以是因緣故。須菩提。是摩訶衍不見來處不見去處不見住處。須菩提。汝所言是摩訶衍前際不可得後際不可得中際不可得。是衍名三世等。以是故。說名摩訶衍。如是如是。須菩提。是摩訶衍前際不可得後際不可得中際不可得。是衍名三世等以是故說名摩訶衍。何以故。須菩提。過去世過去世空。未來世未來世空。現在世現在世空。三世等三世等空。摩訶衍摩訶衍空。菩薩菩薩空。何以故。須菩提。是空非一非二非三非四非五非異。以是故。說名三世等。是菩薩摩訶薩摩訶衍。是衍中等不等相不可得故。染不染不可得。瞋不瞋不可得。癡不癡不可得。慢不慢不可得。乃至一切善法不善法不可得。是衍中常不可得無常不可得。樂不可得苦不可得。實不可得空不可得我不可得無我不可得。欲界不可得色界不可得無色界不可得。度欲界不可得度色界不可得度無色界不可得。何以故。是摩訶衍自法不可得故。須菩提。過去色過去色空。未來現在色。未來現在色空。過去受想行識過去受想行識空。未來現在受想行識。未來現在受想行識空。空中過去色不可得。何以故。空中空亦不可得。何況空中過去色可得。空中未來現在色不可得。何以故。空中空亦不可得。何況空中未來現在色可得。空中過去受想行識不可得。何以故。空中空亦不可得。何況空中過去受想行識可得。空中未來現在受想行識不可得。何以故。空中空亦不可得。何況空中未來現在受想行識可得。須菩提。過去檀那波羅蜜不可得。未來檀那波羅蜜不可得。現在檀那波羅蜜不可得。三世等中檀那波羅蜜亦不可得。何以故。等中過去世不可得。未來世不可得。現在世不可得。等中等亦不可得。何況等中過去世未來世現在世可得。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜亦如是。復次須菩提。過去世中四念處不可得。乃至過去世中十八不共法不可得。未來世現在世亦如是。復次須菩提。三世等中四念處不可得。三世等中乃至十八不共法亦不可得。何以故。等中過去世四念處不可得。等中未來世四念處不可得。等中現在世四念處不可得。乃至十八不共法亦如是。等中等亦不可得。何況等中過去世四念處。未來現在世四念處可得。等中等亦不

世下同無乃至十八不共法七字○世下三本俱無中字次同○來下元明俱有世字
來下三本俱無世字
今宋作令
佛告乃至無起無作八百九十九字當卷第三十六紙四行以下宋本出到品之文也

可得。何況等中過去世乃至十八不共法可得。未來現在世乃至十八不共法亦如是。復次須菩提過去世凡夫人不可得。未來世現在世中凡夫人不可得。三世等中凡夫人亦不可得。何以故。衆生不可得。乃至知者見者不可得故。過去世中聲聞辟支佛菩薩佛不可得。未來現在世。聲聞辟支佛菩薩佛不可得。三世等中聲聞辟支佛菩薩佛不可得。何以故。衆生不可得乃至知者見者不可得故。如是須菩提。菩薩摩訶薩住般若波羅蜜中。學三世等相。當具足一切種智。是名菩薩摩訶薩摩訶衍。所謂三世等相。菩薩摩訶薩住是衍中。勝一切世間及諸天人阿修羅。成就薩婆若。爾時須菩提白佛言。世尊。善哉善哉。是菩薩摩訶薩摩訶衍。何以故。過去諸菩薩摩訶薩。是衍中學得一切種智。未來世諸菩薩摩訶薩。亦是衍中學當得一切種智。世尊。今十方無量阿僧祇國土中諸菩薩摩訶薩。亦是衍中學得一切種智。以是故。世尊。是衍實是菩薩摩訶薩摩訶衍。佛告須菩提。如是如是。過去未來現在諸佛是摩訶衍中學。已得一切種智。當得今得

佛告須菩提。汝所問是乘何處出至何處住者。佛言。是乘從三界中出。至薩婆若中住。以不二法故。何以故。摩訶衍薩婆若。是二法俱不合不散無色無形。無對一相。所謂無相。若人欲出無相法。爲欲出實際。若欲出無相法。爲欲出如法性不可思議性。若欲出無相法。爲欲出色空。爲欲出受想行識空。何以故。須菩提。色空相不出三界。亦不住薩婆若。受想行識空相不出三界。亦不住薩婆若。所以者何。色色相空。受想行識識相空故。若欲出無相法。爲欲出眼空。爲欲出耳鼻舌身意空。爲欲出乃至眼觸因緣生受空。耳鼻舌身意觸因緣生受空。何以故。須菩提。眼空不出三界。亦不住薩婆若。乃至意觸因緣生受空。不出三界。亦不住薩婆若。所以者何。眼眼相空。乃至意觸因緣生受。意觸因緣生受相空故。若欲出無相法。爲欲出夢。爲欲出幻焰響影佛所化。何以故。須菩提。夢相不出三界。亦不住薩婆若。幻燄響影化相不出三界。亦不住薩婆若。須菩提。若欲出無相法。爲欲出檀那波羅蜜。若欲出無相法。爲欲出尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。何以故。檀那波羅蜜相。不出三界。亦不住薩婆若。尸羅波羅蜜乃至般若波羅蜜。不出三界。亦不住薩婆若。何以故。檀那波羅蜜檀那波羅蜜性空。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。般若波

羅蜜性空、若欲出無相法、爲欲出內空乃至無法有法空、何以故、須菩提、內空性乃至無法有法空性、不出三界、亦不住薩婆若、所以者何、內空性內空性空、乃至無法有法空性無法有法空性空故、若欲出無相法、爲欲出四念處、何以故、四念處性、不出三界、亦不住薩婆若、所以者何、四念處性四念處性空、若欲出無相法、爲欲出四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分、何以故、八聖道分性、不出三界、亦不住薩婆若、所以者何、八聖道分性八聖道分性空故、乃至十八不共法亦如是、須菩提、若欲出無相法、爲欲出阿羅漢生處、爲欲出辟支佛生處、爲欲出多陀阿伽度阿羅呵三藐三佛陀生處、何以故、阿羅漢性辟支佛性佛性、不出三界、亦不住薩婆若、所以者何、阿羅漢性阿羅漢性空、辟支佛性辟支佛性空、佛性佛性空、若欲出無相法、爲欲出須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道佛道一切種智、何以故、須陀洹果乃至一切種智性、不出三界、亦不住薩婆若、所以者何、須陀洹果乃至一切種智、一切種智性空故、若欲出無相法、爲欲出名字假名施設相但有言語、何以故、名字不出三界、亦不住薩婆若、所以者何、名字相名字相空故、乃至施設亦如是、若欲出無相法、爲欲出不生不滅不垢不淨無起無作

摩訶般若波羅蜜經卷第六

摩訶般若波羅蜜經卷第七

〔麗芥〕〔宋薑〕〔元薑〕〔明薑〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

會宗品第二十四

爾時慧命富樓那彌多羅尼子白佛言。世尊。佛使須菩提爲諸菩薩摩訶薩說般若波羅蜜。今乃說摩訶衍。爲須菩提白佛言。世尊。我說摩訶衍。將無離般若波羅蜜耶。佛言不也。須菩提。汝說摩訶衍。隨般若波羅蜜不離。何以故。一切所有善法助道法。若聲聞法若辟支佛法若菩薩法若佛法。是一切法皆攝入般若波羅蜜中。須菩提白佛言。世尊。何等諸善法助道法聲聞法辟支佛法菩薩法佛法。皆攝入般若波羅蜜中。佛告須菩提。所謂檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。四念處四正懃四如意足五根五力七覺分八聖道分。空無相無作解脫門。佛十力四無所畏四無閡智大慈大悲十八不共法。無錯謬相常捨行。須菩提。是諸餘善法助道法。若聲聞法若辟支佛法若菩薩法若佛法。皆攝入般若波羅蜜中。須菩提。若菩薩摩訶薩摩訶衍。若般若波羅蜜禪那波羅蜜毗黎耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。若色受想行識。眼色眼識。眼觸眼觸因緣生諸受。乃至意法意識。意觸意觸因緣生諸受。地種乃至識種。四念處乃至八聖道分。空無相無作解脫門及諸善法。若有漏若無漏。若有爲若無爲。若苦諦集諦滅諦道諦。若欲界若色界若無色界。若內空乃至無法有法空。諸三昧門諸陀羅尼門。佛十力乃至十八不共法。若佛法佛法性如實際不可思議性涅槃。是一切諸法皆不合不散無色無形無對無閡無等一相。所謂無相。須菩提。以是因緣故。汝所說摩訶衍隨順般若波羅蜜。何以故。須菩提。摩訶衍不異般若波羅蜜。般若波羅蜜不異摩訶衍。般若波羅蜜摩訶衍無二無別。檀那波羅蜜不異摩訶衍。摩訶衍不異檀那波羅蜜。檀那波羅蜜摩訶衍無二無別。乃至禪那波羅蜜亦如是。須菩提。四念處不異摩訶衍。摩訶衍不異四念處。四念處摩訶衍無二無別。乃至十八不共法不異摩訶衍。摩訶衍不

三本俱不分卷於此○品目上宋元俱有摩訶般若波羅蜜經六字

蜜下三本俱無耶字

懃同作勤

閡同作礙○相上宋明俱有法字

無對無閡無等宋作無礙無等元明俱作無礙無對

異十八不共法十八不共法摩訶衍無二無別。以是因緣故。須菩提。汝說摩訶衍卽是說般若波羅蜜

摩訶般若波羅蜜經十無品第二十五

慧命須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩前際不可得。後際不可得中際不可得。色無邊故。當知菩薩摩訶薩亦無邊。受想行識無邊故。當知菩薩摩訶薩亦無邊。色是菩薩摩訶薩。是亦不可得。受想行識是菩薩摩訶薩。是亦不可得。如是世尊。於一切種一切處。求菩薩不可得。世尊。我當教何等菩薩摩訶薩般若波羅蜜。世尊。菩薩摩訶薩但有名字。如說我名字我畢竟不生。如我諸法亦如是無自性。何等色畢竟不生。何等受想行識畢竟不生。世尊。是畢竟不生不名爲色。是畢竟不生不名爲受想行識。世尊。若畢竟不生法。當教是般若波羅蜜耶。離畢竟不生亦無菩薩行阿耨多羅三藐三菩提。若菩薩聞作是說。心不沒不悔不驚不怖不畏。當知是菩薩摩訶薩。能行般若波羅蜜。舍利弗問須菩提。何因緣故。言菩薩摩訶薩前際不可得後際不可得中際不可得。須菩提。何因緣故。言色無邊故。當知菩薩亦無邊。受想行識無邊故。當知菩薩亦無邊。須菩提。何因緣故。言色是菩薩是亦不可得。受想行識是菩薩是亦不可得。須菩提。何因緣故。言於一切種一切處菩薩不可得。當教何等菩薩般若波羅蜜。須菩提。何因緣故。言菩薩摩訶薩但有名字。須菩提。何因緣故。言如說我名字我畢竟不生。如我諸法亦如是無自性。何等色畢竟不生。何等受想行識畢竟不生。須菩提。何因緣故。言畢竟不生不名爲色。畢竟不生不名爲受想行識。須菩提。何因緣故。言若畢竟不生法。當教是般若波羅蜜耶。須菩提。何因緣故。言離畢竟不生亦無菩薩行阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。何因緣故。言若菩薩聞作是說。心不沒不悔不驚不怖不畏。若能如是行。是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。爾時須菩提報舍利弗言。衆生無所有故菩薩前際不可得。衆生空故菩薩前際不可得。衆生離故菩薩前際不可得。舍利弗。色無有故菩薩前際不可得。受想行識無有故菩薩前際不可得。色空故菩薩前際不可得。受想行識空故菩薩前際不可得。色離故菩薩前際不可得。受想行識離故菩薩前際不可得。舍利弗。色性無故菩薩前際不可得。受想行識性無故菩薩前際不可得。舍利弗。檀那波羅蜜無有故菩薩前

品目上明無經名下同

無下宋明俱無所字

亦三本俱作菩薩次同

三本俱以不可得爲卷第七終同（）復次舍利弗以下爲卷第八十無品第二十五之餘（）其品目中宋元俱無之餘二字

言上三本俱有所字下同

際不可得。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜無有故菩薩前際不可得。何以故。舍利弗。空中前際不可得後際不可得中際不可得。空不異菩薩。菩薩不異前際。舍利弗。空菩薩前際。是諸法無二無別。以是因緣故。舍利弗。菩薩前際不可得。舍利弗。檀那波羅蜜空故。檀那波羅蜜離故。檀那波羅蜜性無故。菩薩前際不可得。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜空故。般若波羅蜜離故。般若波羅蜜性無故。菩薩前際不可得。何以故。舍利弗。空中前際不可得後際不可得中際不可得。空不異菩薩亦不異前際。舍利弗。空菩薩前際無二無別。以是因緣故。舍利弗。菩薩前際不可得。復次舍利弗。內空無所有故。菩薩前際不可得。乃至無法有法空無所有故。菩薩前際不可得。復次舍利弗。內空空故內空離故內空性無故。乃至無法有法空空故離故性無故。菩薩前際不可得。餘如上說。復次舍利弗。四念處無所有故。菩薩前際不可得。四念處空故離故性無故。菩薩前際不可得。乃至十八不共法無所有故。菩薩前際不可得。十八不共法空故離故性無故。菩薩前際不可得。餘如上說。以是因緣故。舍利弗。菩薩前際不可得。復次舍利弗。一切三昧門。一切陀羅尼門無有故。菩薩前際不可得。三昧門陀羅尼門。空故離故性無故。菩薩前際不可得。餘如上說。復次舍利弗。法性無有故。菩薩前際不可得。法性空故離故性無故。菩薩前際不可得。餘如上說。復次舍利弗。如無有故空故離故性無故。實際無有故空故離故性無故。不可思議性無有故空故離故性無故。菩薩前際不可得。餘如上說。復次舍利弗。聲聞無有故菩薩前際不可得。聲聞空故離故性無故菩薩前際不可得。辟支佛無有故空故離故性無故菩薩前際不可得。佛無有故空故離故性無故菩薩前際不可得。阿耨多羅三藐三菩提無有故。乃至性無故菩薩前際不可得。復次一切種智無有故乃至性無故菩薩前際不可得。何以故。舍利弗。空前際不可得後際不可得中際不可得。菩薩不可得。舍利弗。空不異菩薩亦不異前際。空菩薩前際。是諸法無二無別。以是因緣故。舍利弗。菩薩前際不可得後際中際亦如是。如舍利弗言。色無邊故當知菩薩亦無邊。受想行識無邊故當知菩薩亦無邊。舍利弗。色如虛空受想行識如虛空。何以故。舍利弗。如虛空邊不可得中不可得。無邊無中故但說名虛空。如是舍利弗。色邊不可得中不可得。是色空故。空中亦無邊亦無中。受想行識邊不可得中不可得。識空故。空中亦無

十上三本俱有第字

邊亦無中.以是因緣故.舍利弗.色無邊故當知菩薩亦無邊.受想行識無邊故當知菩薩亦無邊.乃至十八不共法亦如是.如舍利弗言.色是菩薩是亦不可得.受想行識是菩薩是亦不可得.舍利弗.色色相空.受想行識識相空.檀那波羅蜜檀那波羅蜜相空.乃至般若波羅蜜亦如是.內空內空相空.乃至無法有法空無法有法空相空.四念處四念處相空.乃至十八不共法十八不共法相空.如法性實際不可思議性不可思議性相空.三昧門三昧門相空.陀羅尼門陀羅尼門相空.一切智一切智相空.道智道智相空.一切種智一切種智相空.聲聞乘聲聞乘相空.辟支佛乘辟支佛乘相空.佛乘佛乘相空.聲聞人聲聞人相空.辟支佛人辟支佛人相空.佛佛相空空中色不可得.受想行識不可得.以是因緣故.舍利弗.色是菩薩是亦不可得.受想行識是菩薩是亦不可得.如舍利弗言.何因緣故.於一切種一切處菩薩不可得.當敎何等菩薩般若波羅蜜.舍利弗.色色中不可得.色受中不可得.受受中不可得.受色中不可得.受想中不可得.想想中不可得.想色受中不可得.想行中不可得.行行中不可得.行色受想中不可得.行識中不可得.識識中不可得.識色受想行中不可得.舍利弗.眼眼中不可得.眼耳中不可得.耳耳中不可得.耳眼中不可得.耳鼻中不可得.鼻鼻中不可得.鼻眼耳中不可得.鼻舌中不可得.舌舌中不可得.舌眼耳鼻中不可得.舌身中不可得.身身中不可得.身眼耳鼻舌中不可得.身意中不可得.意意中不可得.意眼耳鼻舌身中不可得.六入六識六觸.六觸因緣生受亦如是.檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜.內空乃至無法有法空.四念處乃至十八不共法.一切三昧門一切陀羅尼門.性法乃至辟支佛法.初地乃至十地.一切智道種智一切種智亦如是.須陀洹乃至阿羅漢辟支佛菩薩佛亦如是.菩薩菩薩中不可得.菩薩般若波羅蜜中不可得.般若波羅蜜般若波羅蜜中不可得.般若波羅蜜菩薩中不可得.般若波羅蜜中敎化無所有不可得.敎化中敎化無所有不可得.敎化中菩薩及般若波羅蜜無所有不可得.舍利弗.如是一切法無所有不可得.以是因緣故.於一切種一切處菩薩不可得.當敎何等菩薩般若波羅蜜.如舍利弗言.何因緣故.說菩薩摩訶薩但有假名.舍利弗.色是假名.受想行識是假名.色名非色.受想行識名非識.何以故.名名相空.若空則非菩薩.以是因緣故.舍利弗.菩薩但有假名.復次舍利弗.檀那波羅蜜但有名字.名字中非有檀那波羅蜜.檀那波羅蜜中非有名字.

法若元作若法

失下同無復次舍利弗五字○法下三本俱有無常亦不失五字

以是因緣故.菩薩但有假名.尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜但有名字.名字中無有般若波羅蜜.般若波羅蜜中無有名字.以是因緣故.菩薩但有假名.舍利弗.內空但有名字.乃至無法有法空但有名字.名字中無內空.內空中無名字.何以故.名字內空俱不可得.乃至無法有法空亦如是.以是因緣故.舍利弗.菩薩但有假名.舍利弗.四念處但有名字.乃至十八不共法但有名字.一切三昧門一切陀羅尼門.乃至一切種智亦如是.以是因緣故.舍利弗.我說菩薩但有假名.如舍利弗言.何因緣故.說我名字畢竟不生.舍利弗.我畢竟不可得云何當有生.乃至知者見者畢竟不可得云何當有生.舍利弗.色畢竟不可得云何當有生.受想行識畢竟不可得云何當有生.眼畢竟不可得.乃至意觸因緣生受畢竟不可得云何當有生.檀那波羅蜜畢竟不可得.乃至般若波羅蜜畢竟不可得云何當有生.內空畢竟不可得.乃至無法有法空畢竟不可得云何當有生.四念處畢竟不可得.乃至十八不共法畢竟不可得云何當有生.諸三昧門諸陀羅尼門畢竟不可得云何當有生.聲聞乃至佛畢竟不可得云何當有生.以是因緣故.舍利弗.我說如我名字我亦畢竟不生.如舍利弗所言.如我諸法亦如是無自性.舍利弗.諸法和合生故無自性.舍利弗.何等和合生無自性.舍利弗.色和合生無自性.受想行識和合生無自性.眼和合生無自性.乃至意和合生無自性.色乃至法.眼界乃至法界.地種乃至識種.眼觸乃至意觸.眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受.和合生無自性.檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜.和合生無自性.四念處乃至十八不共法.和合生無自性.復次舍利弗.一切法無常亦不失.舍利弗問須菩提.何等法無常亦不失.須菩提言.色無常亦不失.受想行識無常亦不失.何以故.法若無常即是動相即是空相.以是因緣故.舍利弗.一切有爲法無常亦不失.復次舍利弗.若有漏法若無漏法.若有記法若無記法.何以故.若法無常即是動相即是空相.以是因緣故.舍利弗.一切作法無常亦不失.復次舍利弗.一切法非常非滅.舍利弗言.何等法非常非滅.須菩提言.色非常非滅.何以故.性自爾.受想行識非常非滅.何以故.性自爾.乃至意觸因緣生受非常非滅.何以故.性自爾.以是因緣故.舍利弗.諸法和合生無自性.如舍利弗所言.何因緣故色畢竟不生.受想行識畢竟不生.須菩提言.色非作法.受想行識非作法.何以故.作者不可得故.舍利弗.眼非作法.何以故.作者不可得故.乃至

非下同無起非二字

不上同無是字次同〇名下同有爲字〇異上元明俱有無字下同

不上三本俱無亦字

意亦如是.眼界乃至意觸因緣生受亦如是.復次舍利弗.一切諸法皆非起非作.何以故.作者不可得故.以是因緣故.舍利弗.色畢竟不生.受想行識畢竟不生.如舍利弗所言.何因緣故.畢竟不生是不名爲色.畢竟不生是不名受想行識.須菩提言.色性空是空無生無滅無住異.受想行識性空是空無生無滅無住異.眼乃至一切有爲法性空.是空無生無滅無住異.以是因緣故.舍利弗.畢竟不生不名色.畢竟不生不名受想行識.如舍利弗所言.何因緣故.畢竟不生法當教是般若波羅蜜耶.須菩提言.畢竟不生即是般若波羅蜜.般若波羅蜜即是畢竟不生.般若波羅蜜畢竟不生無二無別.以是因緣故.舍利弗.我說畢竟不生當教是般若波羅蜜耶.如舍利弗所言何因緣故.離畢竟不生無菩薩行阿耨多羅三藐三菩提.須菩提言.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.不見畢竟不生異般若波羅蜜.亦不見畢竟不生異菩薩.畢竟不生及菩薩無二無別.不見畢竟不生異色.何以故.是畢竟不生及色無二無別.不見畢竟不生異受想行識.何以故.畢竟不生受想行識無二無別.乃至一切種智亦如是.以是因緣故.舍利弗.離畢竟不生無菩薩行阿耨多羅三藐三菩提.如舍利弗所言.何因緣故.菩薩聞作是說.心不沒不悔不驚不怖不畏.是名菩薩行般若波羅蜜.須菩提言.菩薩摩訶薩不見諸法有覺知想.見一切諸法如夢如響如幻如焰如影如化.舍利弗.以是因緣故.菩薩聞作是說.心不沒不悔.不驚不怖不畏.須菩提白佛言.世尊.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜如是觀諸法.是時菩薩摩訶薩不受色不示色不住色不著色.亦不言是色.受想行識.亦不受不示不住不著.亦不言是受想行識.眼不受不示不住不著亦不言是眼.耳鼻舌身意不受不示不住不著.亦不言是意.檀那波羅蜜不受不示不住不著.亦不言是檀那波羅蜜.尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜.不受不示不住不著.亦不言是般若波羅蜜.內空不受不示不住不著.亦不言是內空.乃至無法有法空亦如是.復次世尊.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.四念處不受不示不住不著.亦不言是四念處.乃至十八不共法不受不示不住不著.亦不言是十八不共法.一切三昧門一切陀羅尼門乃至一切種智.不受不示不住不著.亦不言是一切種智.復次世尊.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.不見色乃至不見一切種智.何以故.色不生是非色.受想行識不生是非識.眼不生是非眼.耳鼻舌身意不生是非意.檀那波羅蜜不生是

生下元有法字

法下三本俱作相字

非檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜不生是非般若波羅蜜何以故色不生不二不別乃至般若波羅蜜不生不二不別內空不生是非內空乃至無法有法空不生是非無法有法空何以故內空乃至無法有法空不生不二不別世尊四念處不生非四念處何以故四念處不生不二不別何以故世尊是不生法非一非二非三非異以是故四念處不生不二不別乃至十八不共法不生非十八不共法何以故十八不共法不生不二不別何以故世尊是不生法非一非二非三非異以是故十八不共法不生非十八不共法世尊如不生是非如乃至不可思議性不生是非不可思議性世尊是阿耨多羅三藐三菩提不生一切智一切種智不生是非一切種智何以故是阿耨多羅三藐三菩提乃至一切種智不生不二不別何以故世尊是不生非一非二非三非異以是故乃至一切種智不生非一切種智世尊色不滅相是非色何以故色及不滅相不二不別何以故世尊是不滅法非一非二非三非異以是故色不滅相是非色受想行識不滅相是非識何以故識及不滅不二不別何以故世尊是不滅法非一非二非三非異以是故識不滅是非識檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜內空乃至無法有法空四念處乃至十八不共法亦如是世尊以是故色入無二法數受想行識入無二法數乃至一切種智入無二法數

摩訶般若波羅蜜經無生品第二十六

爾時慧命舍利弗語須菩提菩薩摩訶薩行般若波羅蜜觀諸法何等是菩薩何等是般若波羅蜜何等是觀須菩提語舍利弗汝所問何等是菩薩爲阿耨多羅三藐三菩提是人發大心以是故名爲菩薩亦知一切法一切種相是中亦不著知色相亦不著乃至知十八不共法相亦不著舍利弗問須菩提何等爲一切法相須菩提言若以名字因緣和合等知諸法是色是聲香味觸法是內是外是有爲法是無爲法以是名字相語言知諸法是名知諸法相如舍利弗所問何等是般若波羅蜜遠離故是名般若波羅蜜何等法遠離遠離陰界入遠離檀那波羅蜜乃至禪那波羅蜜遠離內空乃至無法有法空以是故遠離名般若波羅蜜復次遠離四念處乃至遠離十八不共法遠離一切智以是因緣故遠離名般若波羅蜜如舍利弗所問何等是觀舍利弗菩薩摩訶薩行般

若波羅蜜時.觀色非常非無常.非樂非苦.非我非無我.非空非不空.非相非無相.非作非無作.非寂滅非不寂滅非離非不離.受想行識亦如是.檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜.內空乃至無法有法空.四念處乃至十八不共法一切三昧門一切陀羅尼門.乃至一切種智.觀非常非無常非樂非苦非我非無我非空非不空.非相非無相非作非無作非寂滅非不寂滅非離非不離.舍利弗.是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時觀諸法.舍利弗問須菩提何因緣故.色不生是非色.受想行識不生是非識.乃至一切種智不生是非一切種智.須菩提言.色色相空.色空中無色無生.以是因緣故.色不生是非色.受想行識識相空.識空中無識無生.以是因緣故.受想行識不生是非受想行識.舍利弗.檀那波羅蜜檀那波羅蜜相空.檀那波羅蜜空中無檀那波羅蜜無生.尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜.般若波羅蜜相空.般若波羅蜜空中無般若波羅蜜無生.以是因緣故.舍利弗.般若波羅蜜不生是非般若波羅蜜.內空乃至無法有法空.四念處乃至十八不共法.一切種智亦如是.以是因緣故.內空不生是非內空.乃至一切種智不生是非一切種智.舍利弗問須菩提.汝何因緣故.言色不二是非色.受想行識不二是非識.乃至一切種智不二是非一切種智.須菩提答言.所有色所有不二.所有受想行識所有不二.是一切法皆不合不散無色無形無對一相所謂無相.眼乃至一切種智亦如是.以是因緣故.舍利弗.色不二是非色.受想行識不二是非識.乃至一切種智不二是非一切種智.舍利弗問須菩提.何因緣故.言是色入無二法數.受想行識入無二法數.乃至一切種智入無二法數.須菩提答言.色不異無生.無生不異色.色即是無生無生即是色.受想行識不異無生.無生不異識.識即是無生無生即是識.以是因緣故.舍利弗.色入無二法數.受想行識入無二法數.乃至一切種智亦如是.爾時須菩提白佛言.世尊.若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜如是觀諸法.是時見色無生畢竟淨故.見受想行識無生畢竟淨故.見我無生乃至知者見者無生畢竟淨故.見檀那波羅蜜無生乃至般若波羅蜜無生畢竟淨故.見內空無生乃至無法有法空無生畢竟淨故.見四念處無生乃至十八不共法無生畢竟淨故.見一切三昧一切陀羅尼無生畢竟淨故.乃至見一切種智無生畢竟淨故.見凡人凡人法無生畢竟淨故.見須陀洹須陀洹法斯陀含斯陀含法阿那含阿那含法阿羅漢阿羅漢法辟支

二宋明俱作滅下同

言下三本俱無是字

佛辟支佛法菩薩菩薩法佛佛法無生畢竟淨故。舍利弗語須菩提。如我聞須菩提所說義。色是不生受想行識是不生。乃至佛佛法是不生。若爾者今不應得須陀洹須陀洹果斯陀含斯陀含果阿那含阿那含果阿羅漢阿羅漢果辟支佛辟支佛道。不應得菩薩摩訶薩一切種智。亦無六道別異。亦不得菩薩摩訶薩五種菩提。須菩提。若一切法不生相。何以故。須陀洹爲斷三結故修道。斯陀含爲薄婬恚癡故修道。阿那含爲斷五下分結故修道。阿羅漢爲斷五上分結故修道。辟支佛爲辟支佛法故修道。何以故。菩薩摩訶薩作難行爲衆生受種種苦。何以故。佛得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。佛轉法輪。須菩提語舍利弗。我不欲令無生法有所得。我亦不欲令無生法中得須陀洹須陀洹果。乃至不欲令無生法中得阿羅漢阿羅漢果辟支佛辟支佛道。我亦不欲令菩薩作難行爲衆生受種種苦。菩薩亦不以難行心行道。何以故。舍利弗。生難心苦心不能利益無量阿僧祇衆生。舍利弗。今菩薩憐愍衆生。於衆生如父母兄弟想。如兒子及己身想。如是能利益無量阿僧祇衆生。用無所得故。所以者何。菩薩摩訶薩應生如是心。如我一切處一切種不可得。內外法亦如是。若生如是想則無難心苦心。何以故。是菩薩於一切種一切處一切法不受故。舍利弗。我亦不欲令無生中佛得阿耨多羅三藐三菩提。亦不欲令無生中轉法輪。亦不欲令以無生法得道。舍利弗語須菩提。今欲令以生法得道以無生法得道。須菩提語舍利弗。我不欲令以生法得道。舍利弗言。今須菩提欲令以無生法得道。須菩提言。我不亦欲令以無生法得道。舍利弗言。如須菩提所說無知無得。須菩提言。有知有得不以二法。今以世間名字故有知有得。世間名字故有須陀洹乃至阿羅漢辟支佛諸佛。第一實義中無知無得。無須陀洹乃至無佛。須菩提。若世間名字故有知有得。六道別異亦世間名字故有。非以第一實義耶。須菩提言。如是如是。舍利弗。如世間名字故有知有得。六道別異亦世間名字故有。非以第一實義。何以故。舍利弗。第一實義中無業無報無生無滅無淨無垢。舍利弗語須菩提。不生法生。生法生。須菩提言。我不欲令不生法生。亦不欲令生法生。舍利弗言。何等不生法不欲令生。須菩提言。色是不生法。自性空不欲令生。受想行識是不生法。自性空不欲令生。乃至阿耨多羅三藐三菩提是不生法。自性空不欲令生。舍利弗語須菩提。生生不生生。須菩提言。非生生亦非不生生。何以故。舍利弗。生不生是二法。不合不散無

用同作以

種同作處○處同作種

轉上宋明俱有得字○法下三本俱有中字

色無形無對一相所謂無相。舍利弗。以是因緣故。非生生亦非不生生。爾時舍利弗語須菩提。須菩提。樂說無生法及無生相。須菩提語舍利弗。我樂說無生法亦樂說無生相。何以故。諸無生法無生相及樂說語言。是一切法皆不合不散無色無形無對一相所謂無相。舍利弗語須菩提。汝樂說不生法亦樂說不生相。是樂說語言亦不生。須菩提言。如是如是舍利弗。何以故。舍利弗。色不生受想行識不生。眼不生乃至意不生。地種不生乃至識種不生。身行不生口行不生意行不生。檀那波羅蜜不生。乃至一切種智不生。以是因緣故。舍利弗。我樂說不生法亦樂說不生相。是樂說語言亦不生。爾時舍利弗語須菩提。須菩提於說法人中應最在上。何以故。須菩提。隨所問皆能答。須菩提言。諸法無所依故。舍利弗語須菩提。云何諸法無所依。須菩提言。色性常空。不依內不依外不依兩中間。受想行識性常空。不依內不依外不依兩中間。眼耳鼻舌身意性常空。不依內不依外不依兩中間。色性常空乃至法性常空。不依內不依外不依兩中間。檀那波羅蜜性常空。乃至般若波羅蜜性常空。不依內不依外不依兩中間。內空性常空。乃至無法有法空性常空。不依內不依外不依兩中間。舍利弗。四念處性常空。乃至一切種智性常空。不依內不依外不依兩中間。以是因緣故。舍利弗。一切諸法無所依性常空故。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。應淨色受想行識乃至應淨一切種智。舍利弗問須菩提。菩薩摩訶薩云何行六波羅蜜時淨菩薩道。須菩提言。有世間檀那波羅蜜。有出世間檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。有世間有出世間。舍利弗問須菩提。云何世間檀那波羅蜜。云何出世間檀那波羅蜜。須菩提言。若菩薩摩訶薩作施主。能施沙門婆羅門貧窮乞人。須食與食須飲與飲須衣與衣。臥具牀榻房舍香華瓔珞醫藥種種所須資生之物。若妻子國土頭目手足支節等。內外之物盡以給施。施時作是念。我與彼取我不慳貪我爲施主我能捨一切。我隨佛教施我行檀那波羅蜜。作是施已。用得法與一切衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。念言。是布施因緣。令衆生得今世樂。後當令得入涅槃樂。是人布施有三礙。何等三。我相他相施相。著是三相布施。是名世間檀那波羅蜜。何因緣故名世間。於世間中不動不出。是名世間檀那波羅蜜。云何名出世間檀那波羅蜜。所謂三分清淨。何等三。菩薩摩訶薩布施時。我不可得不見受者。施物不可得亦不望報。是

不 三本俱作無 次同

不見受者 三本

俱作受者不可得

世宋元俱作出

(名)三本俱作爲

蜜下同無中字

諸下同有佛字

今同作令

名菩薩摩訶薩三分淸淨檀那波羅蜜。復次舍利弗。菩薩摩訶薩布施時。施與一切衆生。衆生亦不可得。以此布施迴向阿耨多羅三藐三菩提。乃至不見微細法相。舍利弗。是名出世間檀那波羅蜜。何以故。名爲出世間。於世間中能動能出。是故名出世間檀那波羅蜜。尸羅波羅蜜有所依是名世間尸羅波羅蜜。無所依是爲出世間尸羅波羅蜜。餘如檀那波羅蜜說。羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜有所依是名世間。無所依是名出世間。餘亦如檀那波羅蜜中說。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時淨菩薩道。舍利弗問須菩提。云何菩薩摩訶薩爲阿耨多羅三藐三菩提道。須菩提言。四念處。是菩薩摩訶薩爲阿耨多羅三藐三菩提道。乃至八聖道分空解脫門無相解脫門無作解脫門。內空乃至無法有法空。一切三昧門一切陀羅尼門。佛十力四無所畏四無礙智。十八不共法大慈大悲。舍利弗。是名菩薩摩訶薩爲阿耨多羅三藐三菩提道。爾時舍利弗讚須菩提言。善哉善哉。何等波羅蜜力。須菩提言。是般若波羅蜜力。所以者何。般若波羅蜜能生一切諸善法若聲聞法辟支佛法菩薩法佛法。舍利弗。般若波羅蜜能受一切諸善法聲聞法辟支佛法菩薩法佛法。舍利弗。過去諸佛行般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提。未來諸佛亦行般若波羅蜜當得阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。今現在十方諸國土中。諸佛亦行是般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。若菩薩摩訶薩聞說般若波羅蜜時不疑不難。當知是菩薩摩訶薩行菩薩道。行菩薩道者救一切衆生故。心不捨一切衆生。以無所得故。是菩薩常應不離是念。所謂大悲念。舍利弗復問。欲使菩薩摩訶薩常不離是念。所謂大悲念。若菩薩摩訶薩常不離大悲念。今一切衆生皆當作菩薩。何以故。須菩提。一切衆生亦不離諸念故。須菩提言。善哉善哉舍利弗。汝欲難我而成我義。何以故。衆生無故念亦無。衆生性無故念性亦無。衆生法無故念法亦無。衆生離故念亦離。衆生空故念亦空。衆生不可知故念亦不可知。舍利弗。色無故念亦無。色性無故念性亦無。色法無故念法亦無。色離故念亦離。色空故念亦空。色不可知故念亦不可知。受想行識亦如是。眼乃至意。色乃至法。地種乃至識種。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不共法。一切三昧門一切陀羅尼門。一切智一切種智乃至阿耨多羅三藐三菩提無故念亦無。乃至阿耨多羅三藐三菩提不可知故念亦不可知。舍利弗。菩

應下三本俱有當字○踊同作涌下同

佛下同有言佛二字○笑上同有微字

品目問住宋作天主元明俱作天王○天下元○無等各二字

桂三本俱作炷○浮下同有那字○檀同作提

今宋作令○發下元無心字

薩摩訶薩行是道。我欲使不離是念。所謂大悲念。爾時佛讚須菩提言。善哉善哉。是菩薩摩訶薩般若波羅蜜其有說者亦當如是說。汝所說般若波羅蜜皆是承佛意故。菩薩摩訶薩學般若波羅蜜應如汝所說學。須菩提說是般若波羅蜜品時。三千大千國土六種震動。東踊西沒西踊東沒。南踊北沒北踊南沒。中踊邊沒邊踊中沒。爾時佛微笑。須菩提白佛。何因緣故笑。佛告須菩提。如我於此國土說般若波羅蜜。東方無量阿僧祇國土中諸佛。亦爲諸菩薩摩訶薩說般若波羅蜜。南西北方四維上下亦說是般若波羅蜜。說是般若波羅蜜品時。十二那由他諸天人得無生法忍。十方諸佛說是般若波羅蜜時。無量阿僧祇衆生亦發阿耨多羅三藐三菩提心

摩訶般若波羅蜜經問住品第二十七（丹本作天主品）

爾時三千大千世界諸四天王天等。各與無數百千億諸天俱來在會中。三千大千世界諸釋提桓因等。諸忉利天須夜摩天王等。諸夜摩天兜率陀天王等。諸兜率陀天須涅蜜陀天王等。諸妙化天婆舍跋提天王等。諸自在行天各與無數百千億諸天俱來在會中。三千大千世界諸梵天王等。乃至首陀婆諸天等。各與無數百千億諸天俱來在會中。是諸四天王天乃至首陀婆諸天業報生身光明。於佛常光百分千分千萬億分不能及一。乃至不可以算數譬喩爲比。世尊光明最勝最妙最上第一。諸天業報光明在佛光邊不照不現。譬如燋柱比閻浮檀金。爾時釋提桓因白大德須菩提。是三千大千世界諸四天王天乃至首陀婆諸天。一切和合欲聽須菩提說般若波羅蜜義。須菩提。菩薩摩訶薩云何應住般若波羅蜜中。何等是菩薩摩訶薩般若波羅蜜。云何菩薩摩訶薩應行般若波羅蜜。須菩提語釋提桓因言。憍尸迦。我今當承順佛意承佛神力。爲諸菩薩摩訶薩說般若波羅蜜。如菩薩摩訶薩所應住般若波羅蜜中。諸天子。今未發阿耨多羅三藐三菩提心者應當發心。諸天子若入聲聞正位。是人不能發阿耨多羅三藐三菩提心。何以故。與生死作障隔故。是人若發阿耨多羅三藐三菩提心者我亦隨喜。所以者何。上人應更求上法。我終不斷其功德。憍尸迦。何等是般若波羅蜜。菩薩摩訶薩應薩婆若心。念色無常念色苦念色空念色無我。念色如病如敗癰瘡。如箭入身痛惱衰壞憂畏不安。以無所得故。受想行識亦

亦三本俱作以次同

如是．眼耳鼻舌身意．地種水火風空識種．觀無常乃至憂畏不安．是亦無所得故．觀色寂滅離不生不滅不垢不淨．受想行識亦如是．觀地種乃至識種寂滅離不生不滅不垢不淨．亦無所得故．復次憍尸迦．菩薩摩訶薩應薩婆若心．觀無明緣諸行．乃至老死因緣大苦聚集．亦無所得故．觀無明滅故諸行滅．乃至生滅故老死滅．老死滅故憂悲苦惱大苦聚滅．以無所得故．復次憍尸迦．菩薩摩訶薩應薩婆若心修四念處．以無所得故．乃至修佛十力十八不共法．以無所得故．復次憍尸迦．菩薩摩訶薩應薩婆若心行檀那波羅蜜．以無所得故．行尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜．以無所得故．復次憍尸迦．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．作是觀．但諸法諸法共相因緣潤益增長分別校計．是中無我無我所．菩薩迴向心不在阿耨多羅三藐三菩提心中．阿耨多羅三藐三菩提心不在迴向心中．迴向心於阿耨多羅三藐三菩提心中不可得．阿耨多羅三藐三菩提心於迴向心中不可得．菩薩雖觀一切法亦無法可得．是名菩薩摩訶薩般若波羅蜜．釋提桓因問大德須菩提云何菩薩迴向心不在阿耨多羅三藐三菩提心中．云何阿耨多羅三藐三菩提心不在迴向心中．云何迴向心於阿耨多羅三藐三菩提心中不可得．云何阿耨多羅三藐三菩提心於迴向心中不可得．須菩提語釋提桓因言．憍尸迦．迴向心阿耨多羅三藐三菩提心．非心是非心相．非心相中不可迴向．是非心相常非心相．不可思議相常不可思議相．是名菩薩摩訶薩般若波羅蜜．爾時佛讚須菩提言．善哉善哉．須菩提．汝爲諸菩薩摩訶薩說般若波羅蜜．安慰諸菩薩摩訶薩心．須菩提白佛言．世尊．我應報恩不應不報恩．過去諸佛及諸弟子爲諸菩薩說六波羅蜜示敎利喜．世尊．爾時亦在中學得阿耨多羅三藐三菩提．我今亦當爲諸菩薩說六波羅蜜示敎利喜．令得阿耨多羅三藐三菩提．爾時須菩提語釋提桓因言．憍尸迦．汝今當聽菩薩摩訶薩般若波羅蜜中．如所應住所不應住．憍尸迦．色色空受想行識受想行識空．菩薩菩薩空．是色空菩薩空不二不別．受想行識空菩薩空不二不別．憍尸迦．菩薩摩訶薩般若波羅蜜中應如是住．復次眼眼空乃至意意空菩薩菩薩空．眼空乃至菩薩空不二不別．六塵亦如是．地種地種空．乃至識種識種空．菩薩菩薩空．憍尸迦．地種空乃至識種空．菩薩空不二不別．憍尸迦．菩薩摩訶薩般若波羅蜜中應如是住．無明無明空．乃至老死老死空．無明滅無明滅空．乃至老死滅老

果下三本俱無中字次同
十上同有第字
惟越同作鞞跋
土宋元俱作上
〔國〕三本俱作佛〔〕澤同作塗

死滅空。菩薩菩薩空。憍尸迦。無明空乃至老死空。無明滅空乃至老死滅空。菩薩空不二不別。憍尸迦。菩薩摩訶薩般若波羅蜜中應如是住。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不共法。一切三昧門一切陀羅尼門。聲聞乘辟支佛乘佛乘。聲聞辟支佛菩薩佛亦如是。一切種智一切種智空。菩薩菩薩空。一切種智空菩薩空不二不別。憍尸迦。菩薩摩訶薩般若波羅蜜中應如是住。爾時釋提桓因問須菩提。云何般若波羅蜜中所不應住。須菩提言。憍尸迦。菩薩摩訶薩不應色中住。以有所得故。不應受想行識中住。以有所得故。不應眼中住乃至不應意中住。不應色中住乃至不應法中住。眼識乃至意識。眼觸乃至意觸。眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受中不應住。以有所得故。地種乃至識種中不應住。以有所得故。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。四念處乃至十八不共法中不應住。以有所得故。須陀洹果中不應住。以有所得故。乃至阿羅漢果辟支佛道菩薩道佛道一切種智中不應住。以有所得故。復次憍尸迦。菩薩摩訶薩色是常不應住。色是無常不應住。受想行識亦如是。色若樂若苦若淨若不淨。若我若無我若空若不空。若寂滅若不寂滅若離若不離不應住。以有所得故。受想行識亦如是。復次憍尸迦。菩薩摩訶薩須陀洹果無爲相。斯陀含果無爲相。阿那含果無爲相。阿羅漢果無爲相不應住。辟支佛道無爲相佛道無爲相不應住。須陀洹福田不應住。斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛佛福田不應住。復次憍尸迦。菩薩摩訶薩初地中不應住。以有所得故。乃至十地中不應住。以有所得故。復次菩薩摩訶薩住初發心中。我當具足檀那波羅蜜不應住。乃至我當具足般若波羅蜜不應住。具足六波羅蜜當入菩薩位不應住。入菩薩位已當住阿惟越致地不應住。菩薩當具足五神通不應住。以有所得故。菩薩住五神通已。我當遊無量阿僧祇佛國土。禮敬供養諸佛聽法。聽法已爲他人說。菩薩摩訶薩如是不應住。以有所得故。如諸佛國土嚴淨。我亦當莊嚴國土不應住。以有所得故。成就衆生令入佛道不應住。到無量阿僧祇國土諸佛所。尊重愛敬供養。以香花瓔珞澤香擣香幢幡華蓋百千億種寶衣供養諸佛不應住。以有所得故。我當令無量阿僧祇衆生發阿耨多羅三藐三菩提心。如是菩薩不應住。我當生五眼肉眼天眼慧眼法眼佛眼不應住。我當生一切三昧門不應住。隨所欲遊戲諸三昧不應住。我當生一切陀羅尼門不應住。我當得佛十力不應住。我當得

人下三本俱無如是二字
世界同作國土次同○住下元有使字
薩下三本俱無今字
叉明作叉
言下三本俱有所可二字

四無所畏四無礙智十八不共法不應住。我當具足大慈大悲不應住。我當具足三十二相不應住。我當具足八十隨形好不應住。以有所得故。是八人是信行人。是法行人如是不應住。須陀洹極七世生不應住。家家不應住。須陀洹命終垢盡不應住。須陀洹中間入涅槃不應住。是人向斯陀含果證不應住。是人斯陀含一來入涅槃不應住。是人向阿那含果證不應住。斯陀含一種不應住。是人阿那含彼間入涅槃不應住。是人向阿羅漢果證不應住。是人阿羅漢今世入無餘涅槃不應住。是辟支佛不應住。過聲聞辟支佛地我當住菩薩地不應住。道種智中不應住。以有所得故。一切種一切法知已斷諸煩惱及習不應住。佛得阿耨多羅三藐三菩提當轉法輪不應住。作佛事度無量阿僧祇衆生入涅槃不應住。四如意足中不應住。入是三昧住如恒河沙等劫壽不應住。我當得壽命無央數劫不應住。三十二相一一相百福莊嚴不應住。我一世界如十方恒河沙等世界不應住。我三千大千世界純是金剛不應住。我菩提樹當出如是香。衆生聞者無有婬欲瞋恚愚癡。亦無聲聞辟支佛心。是一切人必當得阿耨多羅三藐三菩提。若衆生聞是香若。身病意病皆悉除盡不應住。當使我世界中無有色受想行識名字不應住。當使我世界中無有檀那波羅蜜名字。乃至無有般若波羅蜜名字。當使我世界中無有四念處名字。乃至無有十八不共法名字。亦無須陀洹名字乃至無有佛名字下應住。以有所得故。何以故。諸佛得阿耨多羅三藐三菩提時。一切諸法無所得故。如是憍尸迦。菩薩於般若波羅蜜中不應住。以有所得故。爾時舍利弗心念。菩薩今云何應住般若波羅蜜中。須菩提知舍利弗心所念。語舍利弗言。於汝意云何。諸佛何所住。舍利弗語須菩提。諸佛法無有住處。諸佛不色中住。不受想行識中住。不有爲性中住。不無爲性中住。不四念處中住。乃至不十八不共法中住。不一切種智中住。舍利弗。菩薩摩訶薩般若波羅蜜中應如是住如諸佛住。於諸法中非住非不住。舍利弗。菩薩摩訶薩般若波羅蜜中應如是學。我當住不住法故。爾時會中有諸天子。作是念。諸夜叉語言字句所說尚可了知。須菩提所說語言論議解釋般若波羅蜜了不可知。須菩提知諸天子心所念。語諸天子。不解不知耶。諸天子言。大德。不解不知。須菩提語諸天子。汝等法應不知。我無所論說。乃至我不說一字亦無聽者。何以故。諸字非般若波羅蜜。般若波羅蜜中無聽者諸佛阿耨多羅三藐三菩提無字無說。諸天子。如佛化

作化人。是化人復化作四部衆比丘比丘尼優婆塞優婆夷。化人於四部衆中說法。於汝意云何。是中有說者有聽者有知者不。諸天子言。不也大德。須菩提言。一切法皆如化。此中無說者無聽者無知者。諸天子。譬如人夢中見佛說法。於汝意云何。是中有說者有聽者有知者不。諸天子言不也大德。須菩提語諸天子。一切諸法皆如夢。無說無聽無知者。諸天子。譬如二人在大深澗。各住一面讚佛法衆。有二響出。於諸天子意云何。是二響展轉相解不。諸天子言。不也大德。須菩提語諸天子。一切法亦如是。無說無聽無知者。諸天子。譬如工幻師。於四衢道中化作佛及四部衆。於中說法。於諸天子意云何。是中有說者有聽者有知者不。諸天子言。不也大德。須菩提語諸天子。一切諸法如幻。無說者無聽者無知者。爾時諸天子心念。須菩提所說欲令易解。轉深轉妙。須菩提知諸天子心所念。語諸天子言。色非深非妙。受想行識非深非妙。色性非深非妙。受想行識性非深非妙。眼性乃至意性色性乃至法性。眼界性乃至意界性。眼識乃至意識。眼觸乃至意觸。眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不共法。一切諸三昧門一切諸陀羅尼門。乃至一切種智一切種智性非深非妙。諸天子復作是念。是所說法中不說色。不說受想行識。不說眼乃至意觸因緣生受。不說檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。不說內空乃至無法有法空。不說四念處乃至十八不共法。不說陀羅尼門三昧門乃至一切種智。不說須陀洹果乃至阿羅漢果。不說辟支佛道。不說阿耨多羅三藐三菩提道。是法中不說名字語言。須菩提知諸天子心所念。語諸天子言。如是如是諸天子。是法中諸佛阿耨多羅三藐三菩提不可說相。是中無說者無聽者無知者。以是故。諸天子。善男子善女人欲住須陀洹果欲證須陀洹果者。是人不離是忍。斯陀含阿那含阿羅漢果辟支佛道佛道。欲住欲證不離是忍。如是諸天子。菩薩摩訶薩從初發心般若波羅蜜中應作如是住。以無說無聽故。

摩訶般若經卷第七

不也大德三本俱作大德不也下同

法上同無諸字

陀上同無諸字

末題七同作八

摩訶般若波羅蜜經卷第八

經題八三本俱作九

〔麗芥〕〔宋薑〕〔元薑〕〔明薑〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

幻聽品第二十八（丹本作幻人聽法品）

爾時諸天子心念。應用何等人聽須菩提所說法。須菩提知諸天子心所念。語諸天子言。如幻化人聽法。我應用如是人。何以故。如是人無聞無聽無知無證故。諸天子語須菩提。是衆生如幻聽法者亦如幻。衆生如化聽法者亦如化耶。如是如是。諸天子。衆生如幻聽法者亦如幻。衆生如化聽法者亦如化。諸天子。我如幻如夢。衆生乃至知者見者亦如幻如夢。諸天子。色如幻如夢。受想行識如幻如夢。眼乃至意觸因緣生受如幻如夢。內空乃至無法有法空。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。如幻如夢。諸天子。四念處乃至十八不共法如幻如夢。須陀洹果如幻如夢。斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道如幻如夢。諸天子。佛道如幻如夢。爾時諸天子問須菩提。汝說佛道如幻如夢。汝說涅槃亦復如幻如夢耶。須菩提語諸天子。我說佛道如幻如夢。我說涅槃亦如幻如夢。若當有法勝於涅槃者。我說亦復如幻如夢。何以故。諸天子。是幻夢涅槃不二不別。爾時慧命舍利弗。摩訶目揵連。摩訶拘絺羅。摩訶迦旃延。富樓那彌多羅尼子。摩訶迦葉。及無數千菩薩問須菩提。般若波羅蜜如是甚深難見難解難知寂滅微妙。誰當受者。爾時阿難語諸大弟子及諸菩薩阿惟越致諸菩薩摩訶薩。能受是甚深難見難解難知寂滅微妙般若波羅蜜。正見成就人。漏盡阿羅漢所願已滿亦能信受。復次善男子善女人。多見佛於諸佛所多供養種善根。親近善知識有利根。是人能受不言是法非法。須菩提言。不以空分別色。不以色分別空。受想行識亦如是。不以無相無作分別色。不以色分別無相無作。受想行識亦如是。不以無生無滅寂滅離分別色。不以色分別無生無滅寂滅離。受想行識亦如是。眼乃至意觸因緣生受亦如是。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不共法。一切三昧門一切陀羅尼門。須陀洹乃至阿羅漢辟支佛佛一切智。

說下同無法字

揵同作乾

惟越同作鞞跋

信受同作受之

檀下同無那字下同

不以空分別一切智。不以一切智分別空。不以空分別一切種智。不以一切種智分別空。無相無作無生無滅寂滅離亦如是。須菩提語諸天子言。是般若波羅蜜甚深誰能受者。是般若波羅蜜中無法可示無法可說。若無法可示無法可說。受人亦不可得。爾時舍利弗語須菩提言。般若波羅蜜中廣說三乘之教及護持菩薩之教。從初發意地乃至十地。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。四念處乃至八聖道分。佛十力乃至十八不共法。護持菩薩之教。菩薩摩訶薩如是行般若波羅蜜。常化生不失神通。遊諸佛國具足善根。隨其所欲供養諸佛即得如願。從諸佛所聽受法教乃至薩婆若初不斷絕。未曾離三昧時。當得捷疾辯利辯不盡辯不可斷辯隨應辯義辯一切世間最上辯。須菩提言。如是如是。如舍利弗言。般若波羅蜜廣說三乘之教及護持菩薩之教。乃至菩薩摩訶薩得一切世間最上辯。不可得故。我乃至知者見者不可得。色受想行識檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜不可得。內空乃至無法有法空不可得。四念處乃至八聖道分。佛十力乃至一切種智亦不可得故。舍利弗語須菩提。何因緣故。般若波羅蜜中廣說三乘而不可得。何因緣故。般若波羅蜜中護持菩薩。何因緣故。菩薩摩訶薩得捷疾辯乃至一切世間最上辯。不可得故。須菩提語舍利弗言。以內空故般若波羅蜜廣說三乘不可得。外空乃至無法有法空故。廣說三乘不可得。內空故護持菩薩乃至一切世間最上辯。不可得故。外空乃至無法有法空故。護持菩薩乃至一切世間最上辯。不可得故

摩訶般若波羅蜜經散花品第二十九

爾時釋提桓因及三千大千世界中四天王天乃至阿迦尼吒諸天。作是念。慧命須菩提爲雨法雨。我等寧可化作花散佛菩薩摩訶薩比丘僧須菩提及般若波羅蜜上。即時釋提桓因及三千大千世界中諸天。化作花散佛菩薩摩訶薩比丘僧及須菩提上。亦供養般若波羅蜜。是時三千大千世界花悉周遍。於虛空中化成花臺端嚴殊妙。須菩提心念。是諸天子所散花天上未曾見。如是花比。是花是化華非樹生花。是諸天子所散花。從心樹生非樹生花。釋提桓因知須菩提心所念。語須菩提言。大德。是花非生花亦非意樹生。須菩提語釋提桓因言。憍尸

護持元明俱作攝取○教同作法
至上三本俱無乃字
不上同無亦字
世界宋元題作國土
意三本俱作心

次同〇若上同
無是花二字
心念是三本倶
作作是念〇大
德同作慧命〇
不上同有亦字
不上同無亦字

迦汝言是華非生花亦非意樹生憍尸迦是花若非生法不名爲花釋提桓因語須菩提言大德但是花不生色亦不生受想行識亦不生須菩提言憍尸迦非但是花不生色亦不生若不生是不名爲色受想行識亦不生若不生是不名爲識六入六識六觸六觸因緣生諸受亦如是檀那波羅蜜不生若不生是不名檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜不生若不生是不名般若波羅蜜內空不生若不生是不名內空乃至無法有法空不生若不生是不名無法有法空四念處不生若不生是不名四念處乃至十八不共法不生若不生是不名十八不共法乃至一切種智不生若不生是不名一切種智爾時釋提桓因心念是慧命須菩提其智甚深不壞假名而說諸法相佛知釋提桓因心所念語釋提桓因言如是如是憍尸迦須菩提其智甚深不壞假名而說諸法相釋提桓因白佛言世尊大德須菩提云何不壞假名而說諸法相佛告釋提桓因色但假名須菩提不壞假名而說諸法相受想行識但假名須菩提亦不壞假名而說諸法相所以者何是諸法相無壞不壞故須菩提所說亦無壞不壞眼乃至意觸因緣生諸受亦如是檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜內空乃至無法有法空四念處乃至十八不共法亦如是須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道菩薩道佛道一切智一切種智亦如是須陀洹乃至阿羅漢辟支佛佛是但假名須菩提不壞假名而說諸法相何以故是諸法相無壞不壞故須菩提所說亦無壞不壞如是憍尸迦須菩提不壞假名而說諸法相須菩提語釋提桓因言如是如是憍尸迦如佛所說諸法但假名菩薩摩訶薩當作是知諸法但假名應如是學般若波羅蜜憍尸迦菩薩摩訶薩作如是學爲不學色不學受想行識何以故不見色當可學者不見受想行識當可學者菩薩摩訶薩如是學爲不學檀那波羅蜜何以故不見檀那波羅蜜當可學者乃至不學般若波羅蜜何以故不見般若波羅蜜當可學者如是學爲不學內空乃至無法有法空何以故不見內空乃至無法有法空當可學者如是學爲不學四念處乃至十八不共法何以故不見四念處乃至十八不共法當可學者如是學爲不學須陀洹果乃至一切種智何以故不見須陀洹果乃至一切種智當可學者爾時釋提桓因語須菩提言菩薩摩訶薩何因緣故不見色乃至不見一切種智須菩提言色色空乃至一切種智一切種智空憍尸迦色空不學色空乃至一切種智空不學一切種智空憍尸迦若如是不學空是名學空

不上同有以字

以不二故是菩薩摩訶薩學色空以不二故乃至學一切種智空不二故若學色空不二故乃至學一切種智空不二故是菩薩摩訶薩能學檀那波羅蜜不二故乃至能學般若波羅蜜不二故能學四念處不二故乃至能學十八不共法不二故能學須陀洹果不二故乃至能學一切種智不二故是菩薩能學無量無邊阿僧祇佛法若能學無量無邊阿僧祇佛法是菩薩不爲色增學不爲色滅學乃至不爲一切種智增學不爲一切種智滅學若不爲色增減學乃至不爲一切種智增減學是菩薩不爲色受學不爲色滅學亦不爲受想行識受學亦不爲滅學乃至一切種智亦不爲受學亦不爲滅學舍利弗語須菩提菩薩摩訶薩如是學不爲受色學不爲滅色學乃至一切種智亦不爲受學亦不爲滅學須菩提言菩薩摩訶薩若如是學不爲受色學不爲滅色學乃至一切種智亦不爲受學亦不爲滅學須菩提何因緣故菩薩摩訶薩不爲受色學不爲滅色學乃至一切種智亦不爲受學亦不爲滅學須菩提言是色不可受亦無受色者乃至一切種智不可受亦無受者內外空故如是舍利弗菩薩摩訶薩一切法不受故能到一切種智是時舍利弗語須菩提菩薩摩訶薩如是學般若波羅蜜能到一切種智耶須菩提言菩薩摩訶薩如是學般若波羅蜜能到一切種智一切法不受故舍利弗語須菩提若菩薩摩訶薩於一切法不受不滅學者菩薩摩訶薩云何能到一切種智須菩提言菩薩摩訶薩行般若波羅蜜不見色生不見色滅不見色受不見色不受不見色垢不見色淨不見色增不見色滅何以故舍利弗色色性空故受想行識亦不見生亦不見滅亦不見受亦不見不受亦不見垢亦不見淨亦不見增亦不見滅何以故識識性空故乃至一切種智亦不見生亦不見滅亦不見受亦不見不受亦不見垢亦不見淨亦不見增亦不見滅何以故一切種智一切種智性空故如是舍利弗菩薩摩訶薩爲一切法不生不滅不受不捨不垢不淨不合不散不增不減故學般若波羅蜜能到一切種智無所學無所到故爾時釋提桓因語舍利弗菩薩摩訶薩般若波羅蜜當於何處求舍利弗言菩薩摩訶薩般若波羅蜜當於須菩提品中求釋提桓因語須菩提是汝神力使舍利弗言菩薩摩訶薩般若波羅蜜當於須菩提品中求須菩提語釋提桓因非我神力釋提桓因語須菩提是誰神力須菩提言是佛神力釋提桓因言一切法皆無受處何以故言是佛神力離無受處相如來不可得離如如來亦不可得

亦上元明俱無如法二字

須菩提語釋提桓因言．如是如是．憍尸迦．離無受處相如來不可得．離如如來亦不可得．無受處相中如來不可得．如中如來不可得．色如中如來如不可得．如來如中色如不可得．色法相中如來法相不可得．如來法相中色法相不可得．受想行識法相中．乃至一切種智如法亦如是．憍尸迦．如來色如中不合不散．受想行識如中不合不散．如來離色如不合不散．離受想行識如不合不散．乃至一切種智亦如是．如來色法相中不合不散．受想行識法相中不合不散．如來離色法相中不合不散．離受想行識法相中不合不散．乃至一切種智亦如是．憍尸迦．如是等一切法中不合不散．是佛神力用無所受法故．如憍尸迦言．菩薩摩訶薩般若波羅蜜當於何處求．憍尸迦．不應色中求般若波羅蜜．亦不應離色求般若波羅蜜．不應受想行識中求．亦不應離受想行識求．何以故．是般若波羅蜜．色受想行識．是一切法皆不合不散無色無形無對一相．所謂無相．乃至一切種智中不應求般若波羅蜜．亦不應離一切種智求般若波羅蜜．何以故．是般若波羅蜜．一切種智是一切法皆不合不散無色無形無對一相．所謂無相．何以故．般若波羅蜜．非色亦非離色．非受想行識亦非離受想行識．乃至非一切種智亦非離一切種智．般若波羅蜜．非色如亦非離色如．非受想行識如亦非離受想行識如．般若波羅蜜．非色法亦非離色法．非受想行識法亦非離受想行識法．乃至非一切種智如．亦非離一切種智如．般若波羅蜜．非一切種智法亦非離一切種智法．何以故．憍尸迦．是一切法皆無所有不可得．以無所有不可得故．般若波羅蜜非色亦非離色．非色如亦非離色如．非色法亦非離色法．乃至一切種智亦非離一切種智．非一切種智如亦非離一切種智如．非一切種智法亦非離一切種智法．釋提桓因語須菩提．是摩訶波羅蜜．是菩薩摩訶薩般若波羅蜜．無量波羅蜜．無邊波羅蜜．是菩薩摩訶薩般若波羅蜜．諸須陀洹須陀洹果．從是般若波羅蜜中學成．乃至諸阿羅漢阿羅漢果諸辟支佛辟支佛道諸菩薩摩訶薩．皆從是般若波羅蜜中學成．能成就衆生淨佛國土．得阿耨多羅三藐三菩提皆從是學成．須菩提語釋提桓因言．如是如是．憍尸迦．是摩訶波羅蜜．是菩薩摩訶薩般若波羅蜜．無量波羅蜜．無邊波羅蜜．是菩薩摩訶薩般若波羅蜜．從是中學成．須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道．諸菩薩摩訶薩從是般若波羅蜜中學成．能成就衆生淨佛國土．得阿耨多羅三藐三菩提．已得今得當得．憍尸迦．色大故

色上宋無是字
前下後下並三本俱有際字
如亦明作亦如
意上三本俱有汝字〇實同作中〇說下同有實有二字〇佛上明有諸字〇恒上元明俱無如字
品目三歎宋作願視

般若波羅蜜亦大。何以故。是色前際不可得後際不可得中際不可得。受想行識大故般若波羅蜜亦大。何以故。受想行識前際不可得後際不可得中際不可得。乃至一切種智亦如是。以是因緣故。憍尸迦。是摩訶波羅蜜是菩薩摩訶薩般若波羅蜜。憍尸迦。色無量故般若波羅蜜無量。何以故。色量不可得故。憍尸迦。譬如虛空量不可得。色亦如是量不可得。虛空無量故色無量。色無量故般若波羅蜜無量。受想行識乃至一切種智無量故。般若波羅蜜無量。何以故。一切種智量不可得。譬如虛空量不可得。一切種智亦如是量不可得。虛空無量故一切種智無量。一切種智無量故般若波羅蜜無量。以是因緣故。憍尸迦。是菩薩摩訶薩般若波羅蜜無量。憍尸迦。色無邊故諸菩薩摩訶薩般若波羅蜜無邊。何以故。憍尸迦。是色前際不可得後際不可得中際不可得。受想行識無邊故般若波羅蜜無邊。何以故。受想行識前際後際中際皆不可得故。乃至一切種智無邊故般若波羅蜜無邊。何以故。一切種智前後中際皆不可得故。以是因緣故。憍尸迦。是般若波羅蜜無邊。色無邊乃至一切種智無邊。

復次憍尸迦。緣無邊故般若波羅蜜無邊。須菩提。云何緣無邊故般若波羅蜜無邊。須菩提言。緣一切無邊法故般若波羅蜜無邊。云何緣一切無邊法故般若波羅蜜無邊。須菩提言。緣無邊法性故般若波羅蜜無邊。復次憍尸迦。緣無邊如故般若波羅蜜無邊。釋提桓因言。云何緣無邊如故般若波羅蜜無邊。須菩提言。如無邊故緣亦無邊。緣無邊故如亦無邊。以是因緣故。諸菩薩摩訶薩般若波羅蜜無邊。復次憍尸迦。衆生無邊故般若波羅蜜無邊。釋提桓因問須菩提。云何衆生無邊故般若波羅蜜無邊。須菩提言。於意云何。何等法名衆生。釋提桓因言。無有法名衆生。假名故爲衆生。是名字本無有法亦無所趣。强爲作名。憍尸迦。於汝意云何。是般若波羅蜜中說衆生有實不。釋提桓因言無也。憍尸迦。若般若波羅蜜實不說衆生。無邊亦不可得。憍尸迦。於汝意云何。佛如恒河沙劫壽。說衆生衆生名字。頗有衆生法有生有滅不。釋提桓因言不也。何以故衆生從本已來常淸淨故以是因緣故。憍尸迦。衆生無邊故當知般若波羅蜜亦無邊

摩訶般若波羅蜜經三歎品第三十 丹本作顧視品

爾時諸天王及諸天。諸梵王及諸梵天。伊賒那天及諸神仙幷諸天女。同時三反稱歎。快哉快哉慧命須菩提所說法。皆是佛出世間因緣恩力演布是教。若有菩薩摩訶薩行是般若波羅蜜不遠離者。我輩視是人如佛。何以故。是般若波羅蜜中雖無法可得。所謂色受想行識乃至一切種智。而有三乘之教。所謂聲聞乘辟支佛乘佛乘。爾時佛告諸天子。如是如是。諸天子如汝所言。是般若波羅蜜中雖無法可得。所謂色受想行識乃至一切種智。而有三乘之教。所謂聲聞乘辟支佛乘佛乘。諸天子。若有菩薩摩訶薩行是般若波羅蜜不遠離者。視是人當如佛。以無所得故。何以故。是般若波羅蜜中廣說三乘之教。所謂聲聞辟支佛佛乘。檀那波羅蜜中佛不可得。離檀那波羅蜜佛亦不可得。乃至般若波羅蜜中佛不可得。離般若波羅蜜佛亦不可得。內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不共法。一切種智亦如是。佛語諸天子。菩薩摩訶薩若能學是一切法。所謂檀那波羅蜜乃至一切種智。以是事故當視是菩薩摩訶薩如佛。諸天子。我昔於然燈佛時。花嚴城內四衢道頭見佛聞法。即得不離檀那波羅蜜行不離尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜行。不離內空乃至無法有法空。四念處乃至八聖道分。不離四禪四無量心四無色定。一切三昧門一切陀羅尼門。不離四無所畏佛十力四無礙智十八不共法大慈大悲。及餘無量諸佛法行。無所得故。是時然燈佛。記我當來世過一阿僧祇劫當作佛。號釋迦牟尼多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀。毗侈遮羅那修伽度路伽憊無上士調御丈夫天人師佛世尊。爾時諸天子白佛言。世尊。甚希有是般若波羅蜜。能令諸菩薩摩訶薩得薩婆若。於色不取不捨故。於受想行識不取不捨故。乃至一切種智不取不捨故。爾時佛觀四衆和合比丘比丘尼優婆塞優婆夷。及諸菩薩摩訶薩。幷四天王天乃至阿迦尼吒諸天皆會坐。普觀是已。佛告釋提桓因言。憍尸迦。若菩薩摩訶薩。若比丘若比丘尼若優婆塞若優婆夷。若諸天子若諸天女。是般若波羅蜜若聽受持親近讀誦。爲他說正憶念不離薩婆若心。諸天子。是人魔若魔民不能得其便。何以故。是善男子善女人。諦了知色空。空不能得空便。無相不能得無相便。無作不能得無作便。諦了知受想行識空。空不能得空便。乃至無作不能得無作便。乃至諦了知一切種智空。空不能得空便。乃至無作不能得無作便。何以故。是諸法自相性不可得。無事可得便誰受惱者。復次憍尸迦是善男子

聞下佛下並三本俱有乘字〇亦宋作中〇乃元作了

頭三本俱作中

無上三本俱有以字〇毗同作鞞

已上元明俱無是字〇是上三本俱有於字〇民同作天

自下元明俱無

善女人人非人不能得其便。何以故。是善男子善女人一切衆生中善修慈心悲喜捨心。以無所得故。憍尸迦是善男子善女人終不橫死。何以故。是善男子善女人行檀那波羅蜜。於一切衆生等心供給故。復次憍尸迦。三千大千世界四天王天三十三天。夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。梵天光音天遍淨天廣果天。是諸天中有發阿耨多羅三藐三菩提心者。未聞是般若波羅蜜未受持親近。是諸天子今應聞受持親近讀誦正憶念不離薩婆若心。復次憍尸迦。諸善男子善女人聞是般若波羅蜜。受持親近讀誦正憶念不離薩婆若心。是諸善男子善女人。若在空舍若在曠野若人住處終不怖畏。何以故。是善男子善女人。明於內空以無所得故。明於外空乃至無法有法空。以無所得故。爾時三千大千世界中諸四天王天三十三天。夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。乃至首陀婆諸天。白佛言。世尊。是善男子善女人能受持般若波羅蜜。親近讀誦正憶念不離薩婆若心者。我等常當守護。何以故。世尊。以菩薩摩訶薩因緣故。斷三惡道斷天人貧斷諸災患疾病飢餓。以菩薩因緣故。便有十善道現於世間。四禪四無量心四無色定。檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。內空乃至無法有法空。四念處乃至一切種智。以菩薩因緣故。世間便有剎利大姓婆羅門大姓居士大家諸王及轉輪聖王。四天王天乃至阿迦尼吒天。以菩薩因緣故有。須陀洹須陀洹果乃至阿羅漢阿羅漢果辟支佛辟支佛道以菩薩因緣故有。成就衆生淨佛國土。便有諸佛出現於世。便有轉法輪知有佛寶法寶比丘僧寶。世尊。以是因緣故。一切世間諸天及人阿修羅。應守護是菩薩摩訶薩。佛語釋提桓因。如是如是。憍尸迦。以菩薩摩訶薩因緣故。斷三惡道乃至三寶出現於世。以是故。諸天及人阿修羅常應守護供養恭敬尊重讚歎是菩薩摩訶薩。憍尸迦。供養恭敬尊重讚歎是菩薩摩訶薩。卽是供養我。以是故。是諸菩薩摩訶薩諸天及人阿修羅常應守護供養恭敬尊重讚歎。憍尸迦。若三千大千世界滿中聲聞辟支佛。譬如竹葦稻麻叢林。若有善男子善女人供養恭敬尊重讚歎。不如供養恭敬尊重讚歎初發心菩薩摩訶薩。不離六波羅蜜所得福德。何以故。不以聲聞辟支佛因緣故。有菩薩摩訶薩及諸佛出現於世。以有菩薩摩訶薩因緣故。有聲聞辟支佛諸佛出現於世。以是故。憍尸迦。是諸菩薩摩訶薩。一切世間諸天及人阿修羅。常應守護供養恭敬尊重讚歎

相字○善上三本俱無是字○慈下同無心字○憍上同有復次二字○世界同作國土下同

現於二字元明俱作出

剎上三本俱有生字

修同作脩下同

叢宋作茅叢

品目經下三本俱有現字滅諍宋作功德〇是般乃至誦讀宋作若聞受持是般若波羅蜜親近讀讀〇佛下三本俱無國字〇母宋作性〇國下三本俱有土字次同〇持元明俱作是〇持宋作受持元明俱作受是〇是般乃至受持宋作若受持般若波羅蜜〇唯下三本俱無然字

尸上三本俱無行字〇蜜下宋無中字

是般乃至受持

摩訶般若波羅蜜經滅諍品第三十一

丹本名爲現功德品

爾時釋提桓因白佛言。世尊。甚奇希有諸菩薩摩訶薩。是般若波羅蜜。若聞受持親近讀誦爲他說正憶念時。得如是今世功德。亦成就衆生嚴淨佛國土。從一佛國至一佛國供養諸佛。所欲供養之具隨意卽得。從諸佛聞法至得阿耨多羅三藐三菩提終不中忘。亦得家成就母成就生成就眷屬成就相成就光明成就眼成就耳成就三昧成就陀羅尼成就。是菩薩以方便力故變身如佛。從一國至一國到無佛處。讚檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。讚四禪四無量心四無色定。讚四念處乃至十八不共法。以方便力而爲說法。以三乘法度脫衆生。所謂聲聞辟支佛佛乘。世尊。快哉希有。受持般若波羅蜜爲已總攝五波羅蜜。乃至十八不共法。亦攝須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道佛道。一切智一切種智。佛告釋提桓因。如是如是。憍尸迦。持般若波羅蜜爲已總攝五波羅蜜乃至一切種智。復次憍尸迦。是般若波羅蜜受持親近讀誦爲他說正憶念。是善男子善女人所得今世功德汝一心諦聽。釋提桓因言。唯然世尊受敎。佛告釋提桓因言。憍尸迦。若有外道諸梵志若魔若魔民若增上慢人。欲乖錯破壞菩薩般若波羅蜜心。是諸人適生此心。卽時滅去終不從願。何以故。憍尸迦。菩薩摩訶薩。長夜行檀那波羅蜜。行尸羅羼提毘棃耶禪那般若波羅蜜。以衆生長夜貪諍故。菩薩悉捨內外物安立衆生於檀那波羅蜜中。以衆生長夜破戒故。菩薩悉捨內外法安立衆生於戒。以衆生長夜鬭諍故。菩薩悉捨內外法。安立衆生於忍辱。以衆生長夜懈怠故。菩薩悉捨內外法。安立衆生於精進。以衆生長夜亂心故。菩薩悉捨內外法。安立衆生於禪那。以衆生長夜愚癡故。菩薩悉捨內外法安立衆生於般若波羅蜜。以衆生長夜爲愛結故流轉生死。是菩薩摩訶薩以方便力斷衆生愛結。安立衆生於四禪四無量心四無色定。四念處乃至八聖道分空無相無作三昧。安立衆生於須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道佛道。憍尸迦。是爲菩薩摩訶薩行般若波羅蜜得現世功德後世功德。得阿耨多羅三藐三菩提轉法輪所願滿足入無餘涅槃。憍尸迦。是爲菩薩摩訶薩後世功德。復次憍尸迦。善男子善女人。是般若波羅蜜若聞受持親近讀誦爲他說正憶念。其所住處魔若魔民若外道梵志增上慢人。

宋作若聞受持
般若波羅蜜次
同〔憍上三本
俱無譬如二字
〕有上同有譬
如二字〇是同
作若〇若下元
明俱無聞字〇
怒宋作瞋〇能
下元明俱無聞
字〔持下同無
般若波羅蜜五
字〕念下宋無
般若波羅蜜五
字次同〇受下
宋有般若波羅
蜜五字〇他下
三本俱有人字

殺生讚歎三本
俱作殺讚二字

欲輕毀難問破壞般若波羅蜜終不能成.其人惡心轉滅功德轉增.聞是般若波羅蜜故漸以三乘道得盡衆苦.
譬如憍尸迦有藥名摩祇.有蛇飢行索食.見蟲欲噉.蟲趣藥所.藥氣力故蛇不能前即自還去.何以故.以是藥力
能勝毒故.憍尸迦.摩祇藥有如是力.是善男子善女人.是般若波羅蜜若聞受持親近讀誦爲他說正憶念.若有
種種鬪諍起欲來破壞者.以般若波羅蜜威力故.隨所起處即疾消滅.其人即生善心增益功德.何以故.是般若
波羅蜜能滅諸法諍亂.何等諸法.所謂婬怒癡無明乃至大苦聚諸蓋結使纏.我見人見衆生見.斷見常見垢見
淨見有見無見.如是一切諸見.慳貪犯戒瞋恚懈怠亂意無智.常想樂想淨想我想.如是等愛行.著色著受想行
識.著檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜.著內空外空內外空乃至
無法有法空.著四念處乃至十八不共法.著一切智一切種智著涅槃.是一切法諍亂盡能消滅不令增長.復次
憍尸迦.三千大千世界中諸四天王天諸釋提桓因諸梵天王乃至阿迦尼吒天.常守護是善男子善女人能聞
受持般若波羅蜜.供養讀誦爲他說.正憶念般若波羅蜜者.十方現在諸佛亦共擁護是善男子善女人能聞受
持供養讀誦爲他說.正憶念般若波羅蜜者.是善男子善女人.不善法滅善法轉增.所謂檀那波羅蜜轉增以無
所得故.乃至般若波羅蜜轉增以無所得故.內空轉增.乃至無法有法空轉增.以無所得故.四念處乃至十八不
共法轉增.以無所得故.諸三昧門諸陀羅尼門.一切智一切種智轉增.以無所得故.是善男子善女人所說人皆
信受.親友堅固不說無益之語.不爲瞋恚所覆.不爲憍慢慳貪嫉妬所覆.是人自不殺生.教人不殺生讚歎不殺
生法.亦歡喜讚歎不殺生者.自遠離不與取.亦教人遠離不與取.讚遠離不與取法.亦歡喜讚歎遠離不與取者.
自不邪婬教人不邪婬.讚不邪婬法.亦歡喜讚歎不邪婬者.自不妄語教人不妄語.讚不妄語法.亦歡喜讚歎不
妄語者.兩舌惡口無利益語亦如是.自不貪教人不貪.讚不貪法亦歡喜讚歎不貪者.不瞋惱不邪見亦如是.自
行檀那波羅蜜.教人行檀那波羅蜜.讚檀那波羅蜜法.亦歡喜讚歎行檀那波羅蜜者.自行尸羅波羅蜜.教人行
尸羅波羅蜜.讚尸羅波羅蜜法.亦歡喜讚歎行尸羅波羅蜜者.自行羼提波羅蜜.教人行羼提波羅蜜.讚羼提波
羅蜜法.亦歡喜讚歎行羼提波羅蜜者.自行毗梨耶波羅蜜.教人行毗梨耶波羅蜜.讚毗梨耶波羅蜜法.亦歡喜

昧下宋明俱無中字次同○行明作入
教上三本俱無中字○讚下同有入字
懃同作勤
無元明俱作不下同○謬錯三本俱作錯謬次同○法下同無自行二字○常元作當○法下元明俱無法字○行下宋有是字○道下三本俱無中字
如同作作

讚歎行毘梨耶波羅蜜者。自行禪那波羅蜜。教人行禪那波羅蜜。讚禪那波羅蜜法。亦歡喜讚歎行禪那波羅蜜者。自行般若波羅蜜。教人行般若波羅蜜。讚般若波羅蜜法。亦歡喜讚歎行般若波羅蜜者。自修內空教人修內空。讚內空法亦歡喜讚歎修內空者。乃至自修無法有法空。教人修無法有法空。讚無法有法空法。亦歡喜讚歎修無法有法空者。自入一切三昧中。教人入一切三昧中。讚一切三昧法。亦歡喜讚歎行一切三昧者。自得陀羅尼教人得陀羅尼。讚陀羅尼法。亦歡喜讚歎得陀羅尼者。自入初禪教人入初禪。讚初禪法亦歡喜讚歎入初禪者。二禪三禪四禪亦如是。自入慈心中教人入慈心。讚慈心法。亦歡喜讚歎入慈心者。悲喜捨心亦如是。自入無邊空處。教人入無邊空處。讚無邊空處法。亦歡喜讚歎入無邊空處者。無邊識處無所有處非有想非無想處亦如是。自修四念處教人修四念處。讚四念處法。亦歡喜讚歎修四念處者。四正懃四如意足五根五力七覺分八聖道分亦如是。自修空無相無作三昧。教人修空無相無作三昧。讚空無相無作三昧法。亦歡喜讚歎修空無相無作三昧者。自入八背捨教人入八背捨。讚八背捨法亦歡喜讚歎入八背捨者。自入九次第定教人入九次第定。讚九次第定法。亦歡喜讚歎入九次第定者。自修佛十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法亦如是。自行無謬錯法自行常捨法。教人行無謬錯法常捨法。讚無錯謬法常捨法法亦歡喜讚歎行無錯謬法常捨法者。自得一切種智教人得一切種智。讚一切種智法亦歡喜讚歎得一切種智者。是菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。所有布施與衆生共已迴向阿耨多羅三藐三菩提以無所得故。所有持戒忍辱精進禪定智慧。與衆生共已迴向阿耨多羅三藐三菩提以無所得故。是善男子善女人。如是行六波羅蜜時作是念。我若不布施當生貧窮家。不能成就衆生淨佛國土。亦不能得一切種智。我若不持戒當生三惡道中。尚不得人身。何況能成就衆生淨佛國土得一切種智。我若不修忍辱。則當諸根毀壞色不具足。不能得菩薩具足色身。衆生見者必至阿耨多羅三藐三菩提。亦不能得以具足色身成就衆生淨佛國土得一切種智。我若懈怠不能得菩薩道。亦不能得成就衆生淨佛國土得一切種智。我若亂心不能得生諸禪定。不能以此禪定成就衆生淨佛國土得一切種智。我若無智不能得方便智。以方便智過聲聞辟支佛地。成就衆生淨佛國土得一切種智。是菩薩復如是思惟。我不應隨

慳貪故不具足檀那波羅蜜。不應隨犯戒故不具足尸羅波羅蜜。不應隨瞋恚故不具足羼提波羅蜜。不應隨解意故不具足毗黎耶波羅蜜。不應隨亂意故不具足禪那波羅蜜。不應隨癡心故不具足般若波羅蜜。若不具足檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。我終不能成就一切種智。如是善男子善女人。是般若波羅蜜受持親近讀誦爲他說正憶念。亦不離薩婆若心。得是今世後世功德。釋提桓因白佛言。世尊。希有是菩薩摩訶薩般若波羅蜜。爲廻向薩婆若心故亦爲不高心故。佛告釋提桓因言。憍尸迦云何菩薩摩訶薩般若波羅蜜。爲廻向薩婆若心故亦爲不高心故。釋提桓因白佛言。世尊。菩薩摩訶薩若行世間檀那波羅蜜。布施諸佛辟支佛聲聞。及諸貧窮乞匃行路人。是菩薩無方便故生高心。若行世間尸羅波羅蜜言我行尸羅波羅蜜我能具足尸羅波羅蜜。無方便故生高心。言我行羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜。我行般若波羅蜜。我修般若波羅蜜。以是世間般若波羅蜜無方便故生高心。世尊。菩薩修世間四念處時自念言。我修四念處我具足四念處。無方便力故生高心。我修四正懃四如意足五根五力七覺分八聖道分。自念言。我修空無相無作三昧。我修一切三昧門當得一切陀羅尼門。我修佛十力四無所畏十八不共法。我當成就衆生我當淨佛國土。我當得一切種智。著吾我無方便力故生高心。世尊。如是菩薩摩訶薩行世間善法。著吾我故生高心。世尊。若菩薩摩訶薩行出世間檀那波羅蜜。不得施者不得受者不得施物。如是菩薩摩訶薩行出世間檀那波羅蜜。爲廻向薩婆若故亦不生高心。行尸羅波羅蜜。尸羅不可得。行羼提波羅蜜羼提不可得。行毗黎耶波羅蜜毗黎耶不可得。行禪那波羅蜜禪那不可得。行般若波羅蜜般若不可得。修四念處四念處不可得。乃至修十八不共法。十八不共法不可得。修大慈大悲。大慈大悲不可得。乃至修一切種智。一切種智不可得。世尊。如是菩薩摩訶薩般若波羅蜜。爲廻向薩婆若故。亦爲不生高心故

摩訶般若經卷第八

成就宋元俱作出到○不上三本俱無亦字○因下元明俱無言字

蜜下三本俱有故字○懃同作勤

當下同有得字

禪下宋元俱無那字

摩訶般若波羅蜜經卷第九

〔麗芥〕〔宋蓋〕〔元蓋〕〔明蓋〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

大明品第三十二（丹本作寶塔品）

爾時佛告釋提桓因言。若有善男子善女人聞是深般若波羅蜜。受持親近讀誦正憶念不離薩婆若心。兩陣戰時是善男子善女人誦般若波羅蜜故入軍陣中終不失命刀箭不傷。何以故是善男子善女人長夜行六波羅蜜。自除婬欲刀箭亦除他人婬欲刀箭。自除瞋恚刀箭亦除他人瞋恚刀箭。自除愚癡刀箭亦除他人愚癡刀箭。自除邪見刀箭亦除他人邪見刀箭。自除纏垢刀箭亦除他人纏垢刀箭。自除諸結使刀箭亦除他人結使刀箭憍尸迦。以是因緣。是善男子善女人不爲刀箭所傷。復次憍尸迦。是善男子善女人聞是深般若波羅蜜。受持親近讀誦正憶念不離薩婆若心。若以毒藥熏。若以蠱道若以火坑若以深水若欲刀殺若與其毒。如是衆惡皆不能傷。何以故。是般若波羅蜜是大明呪是無上明呪。若善男子善女人。於是明呪中學。自不惱身亦不惱他亦不兩惱。何以故。是善男子善女人。不得我不得衆生不得壽命乃至知者見者皆不可得。不得色受想行識。乃至一切種智亦不可得。以不得故。不自惱身亦不惱他亦不兩惱。學是大明呪故得阿耨多羅三藐三菩提。觀一切衆生心隨意說法。何以故。過去諸佛學是大明呪得阿耨多羅三藐三菩提。當來諸佛學是大明呪當得阿耨多羅三藐三菩提。今現在諸佛學是大明呪得阿耨多羅三藐三菩提。復次憍尸迦。般若波羅蜜若有但書寫經卷於舍供養。不受不讀不誦不說不正憶念。是處若人若非人不能得其便。何以故。是般若波羅蜜爲三千大千世界中諸四天王諸天。乃至阿迦尼吒諸天子。及十方無量阿僧祇世界中諸四天王天。乃至阿迦尼吒諸天所守護故。是般若波羅蜜所止處。諸天皆來供養恭敬尊重讚歎禮拜已去。是善男子善女人但書寫般若波羅蜜於舍供養。不受不讀不誦不說不正憶念。今世得如是功德。譬如若人若畜生來入菩提樹下諸邊內外。設有人非人

經題九三本俱作十
品目大上同有寶塔二字
四下同無言字
其元明俱作是〇般上三本俱無是字〇呪上元明俱無明字
得上同有可字
四上三本俱無諸字〇四上宋無諸字〇天上宋元俱有諸字

○諸天下元明俱有等字○但書乃至蜜元作般若波羅蜜但書寫○於上三本俱有經卷二字○人下宋明俱無持字元無持惡意三字○隨下三本俱無汝字○如佛乃至是身二十四字宋作佛從何道學得一切種智及相好身十四字○言下元明俱無佛字○因下三本俱無言字○相好元明俱作是○恭上三本俱有供養二字次同○樂下同無供養二字次同○香花乃至讚歎同作恭敬尊重讚歎華香乃至妓樂○生下三本俱無之物二字○提下三本俱無中字○法下同有不壞二字○於上同有決

持惡意來.不能得其便.何以故.是處過去諸佛於中得阿耨多羅三藐三菩提.得佛已施一切衆生無恐無畏.令無量阿僧祇衆生得須陀洹果.乃至得阿耨多羅三藐三菩提.以般若波羅蜜力故.是處得恭敬禮拜.花香瓔珞擣香澤香幢蓋伎樂供養.釋提桓因白佛言.世尊.若善男子善女人書寫般若波羅蜜.花香瓔珞乃至伎樂供養.若有人佛般涅槃後.若供養舍利若起塔供養恭敬尊重讚歎.花香瓔珞乃至伎樂供養.是二何者得福多.佛告釋提桓因.我還問汝隨汝意答我.於汝意云何.如佛得一切種智及得是身從何道.學得是一切種智得是身.釋提桓因白佛言.佛從般若波羅蜜中學得一切種智及相好身.佛告釋提桓因言.如是如是.憍尸迦.佛從般若波羅蜜中.學得一切種智.憍尸迦.不以相好身名爲佛.得一切種智故名爲佛.憍尸迦.是佛一切種智.從般若波羅蜜中生.以是故.憍尸迦.是佛身一切種智所依處.佛因是身得一切種智.善男子.當作是思惟.是身一切種智所依處.是故我涅槃後舍利當得供養.復次憍尸迦.善男子善女人若聞是般若波羅蜜.書寫受持親近讀誦正憶念.花香瓔珞擣香澤香幢蓋伎樂.恭敬供養尊重讚歎.是善男子善女人.則爲供養一切種智.以是故.憍尸迦.若有善男子善女人書是般若波羅蜜.若受持親近讀誦說正憶念.恭敬尊重讚歎花香瓔珞乃至伎樂供養.若復有善男子善女人.佛般涅槃後供養舍利起塔.香花乃至伎樂恭敬尊重讚歎.若有善男子善女人.書持是般若波羅蜜.恭敬尊重讚歎.花香瓔珞乃至伎樂供養.是人得福多.何以故.是般若波羅蜜中生五波羅蜜.生內空乃至無法有法空.四念處乃至十八不共法.一切三昧一切禪定.一切陀羅尼門.皆從般若波羅蜜中生.成就衆生淨佛國土.皆從般若波羅蜜中生.菩薩家成就色成就.資生之物成就·眷屬成就·大慈大悲成就.皆從般若波羅蜜中生.刹利大姓婆羅門大姓居士大家.皆從般若波羅蜜中生.四天王天乃至阿迦尼吒天.須陀洹乃至阿羅漢辟支佛.諸菩薩摩訶薩諸佛諸佛一切種智.皆從般若波羅蜜中生.爾時釋提桓因白佛言.世尊.閻浮提人不供養是般若波羅蜜.不恭敬不尊重不讚歎.爲不知供養多所利益耶.佛告釋提桓因言.憍尸迦.於汝意云何.閻浮提中幾所人.信佛不壞.信法信僧不壞.幾所人於佛無疑於法無疑於僧無疑.幾所人於佛決了於法於僧決了.釋提桓因白

了二字○亦婬瞋癡薄同作薄婬恚癡○結下同有故字

亦同作薄○凝下同無薄字

不同作無○亦下同有不聞二字

衆下元無生字○發下三本俱無心行二字〔提下同有心字○惟越同作鞞致○憍上元無以是故三字○當三本俱作應

佛言。世尊。閻浮提人於佛法僧得不壞信少於佛法僧無疑決了亦少。憍尸迦。於汝意云何。閻浮提幾所人得三十七品三解脫門八背捨九次第定四無礙智六神通。閻浮提幾所人斷三結故得須陀洹道。幾所人斷三結。亦婬瞋癡薄故得斯陀含道。幾所人斷五下分結得阿那含道。幾所人斷五上分結故得阿羅漢道。閻浮提幾所人求辟支佛。幾所人發阿耨多羅三藐三菩提心。釋提桓因白佛言。世尊。閻浮提中少所人得三十七品。乃至少所人發阿耨多羅三藐三菩提心。佛告釋提桓因言。如是如是。憍尸迦。少所人信佛不壞信法不壞信僧不壞。少所人於佛無疑於法無疑於僧無疑。少所人於佛決了於法決了於僧決了。憍尸迦。亦少所人得三十七品三解脫門八背捨九次第定四無礙智六神通。憍尸迦。亦少所人斷三結得須陀洹。斷三結亦婬瞋癡薄得斯陀含。斷五下分結得阿那含。斷五上分結得阿羅漢。少所人求辟支佛。於是中亦少所人發阿耨多羅三藐三菩提心。於發心中亦少所人行菩薩道。何以故。是衆生前世不見佛不聞法不供養比丘僧。不布施不持戒不忍辱不精進不禪定不智慧。不聞內空外空。乃至無法有法空亦不聞。不修四念處。乃至十八不共法亦不聞。不修諸三昧門諸陀羅尼門。亦不修一切智一切種智。憍尸迦。以是因緣故。當知少所衆生信佛不壞信法不壞信僧不壞。乃至少所衆生求辟支佛道。於是中少所衆生發阿耨多羅三藐三菩提心。於發心中少所衆生行菩薩道。於是中亦少所衆生得阿耨多羅三藐三菩提。憍尸迦。我以佛眼見東方無量阿僧祇衆生。發心行阿耨多羅三藐三菩提行菩薩道。是衆生遠離般若波羅蜜方便力故。若一若二住阿惟越致地。多墮聲聞辟支佛地。南西北方四維上下亦復如是。以是故。憍尸迦。善男子善女人發心求阿耨多羅三藐三菩提者。應聞般若波羅蜜。應受持親近讀誦說正憶念。受持親近讀誦說正憶念已。當書經卷恭敬供養尊重讚歎。花香瓔珞乃至伎樂。諸餘善法入般若波羅蜜中者。亦應聞受持乃至正憶念。何等是諸餘善法。所謂檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜。內空外空乃至無法有法空。諸三昧門諸陀羅尼門。四念處乃至十八不共法大慈大悲。如是等無量諸善法。皆入般若波羅蜜中。是亦應聞受持乃至正憶念。何以故。是善男子善女人當如是念。佛本爲菩薩時如是行如是學。所謂般若波羅蜜禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。內空乃

辟下元無支字○善上三本俱無若字○修同作脩下同○多下同無甚多二字○書下宋無寫字○滿閻浮提四字○三本俱置塔下○香花同作華香下同○多上元明俱有甚字○有上明有若字○滿四天下四字○三本俱置塔下○甚多同作世尊○滿小千國土起七寶塔同作起七寶塔滿小千世界○甚上同有世尊二字○國土同作世界下同○滿二千中國土起七寶塔同作起七寶塔滿二千中世界○萬三千大千國土中起七寶塔同作起七寶塔三千大千世界○壽下三本俱無供養二字

至無法有法空。諸三昧門諸陀羅尼門。四念處乃至十八不共法大慈大悲。如是等無量諸佛法。我等亦應隨學。何以故。般若波羅蜜是我等所尊。禪那波羅蜜乃至無量諸餘善法。亦是我等所尊。此是諸佛法印。諸辟支佛阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹法印。諸佛學是般若波羅蜜乃至一切種智得度彼岸。諸辟支佛阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹。亦學是般若波羅蜜乃至一切智得度彼岸。以是故。憍尸迦。若善男子善女人若佛在世若般涅槃後。應依止般若波羅蜜禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。乃至一切種智亦應依止。何以故。是般若波羅蜜乃至一切種智。是諸聲聞辟支佛菩薩摩訶薩。及一切世間天人阿修羅所可依止。憍尸迦。若有善男子善女人。佛般涅槃後爲供養佛故作七寶塔高一由旬。天香天花天瓔珞天擣香天澤香天衣天幢蓋天伎樂。供養恭敬尊重讚歎。憍尸迦。於汝意云何。是善男子善女人從是因緣得福多不。釋提桓因言世尊。甚多甚多。佛言。不如是善男子善女人聞是般若波羅蜜書寫受持親近正憶念不離薩婆若心。亦恭敬尊重讚歎。若華香瓔珞擣香澤香幢蓋伎樂供養。是善男子善女人福德多。佛告憍尸迦。置一七寶塔。若善男子善女人供養佛故。佛般涅槃後滿閻浮提起七寶塔。皆高一由旬。恭敬尊重讚歎。香花瓔珞。幢蓋伎樂供養。憍尸迦。於汝意云何。是善男子善女人得福多不。釋提桓因言。世尊。其福甚多。佛言。不如是善男子善女人如前供養般若波羅蜜其福多。憍尸迦。復置一閻浮提滿中七寶塔。有善男子善女人供養佛故。佛般涅槃後滿四天下起七寶塔。皆高一由旬供養如前。憍尸迦。於汝意云何。是善男子善女人其福多不。釋提桓因言。甚多甚多。佛言。不如是善男子善女人書持般若波羅蜜恭敬尊重讚歎花香乃至伎樂供養其福甚多。憍尸迦。復置四天下滿中七寶塔。若有善男子善女人。供養佛故佛般涅槃後滿小千國土起七寶塔。皆高一由旬。供養如前。憍尸迦。於汝意云何。是善男子善女人其福多不。釋提桓因言甚多佛言。不如是善男子善女人書是般若波羅蜜受持恭敬尊重讚歎花香乃至伎樂供養其福甚多。憍尸迦。復置小千國土滿中七寶塔。若有善男子善女人。供養佛故佛般涅槃後滿二千中國土起七寶塔。皆高一由旬供養如前。故不如供養般若波羅蜜其福甚多。復置二千中國土七寶塔。若有善男子善女人。供養佛故佛般涅槃後。萬三千大千國土中起七寶塔。皆高一由旬。盡形壽供養天

○多下三本俱無甚多二字○書下同有持字○恭上同無受持二字

品目明無經名下同

書下元明俱無持字次同○蜜下同有持字次同

華天香天瓔珞乃至天伎樂供養。於汝意云何。是善男子善女人得福多不。釋提桓因言。世尊。甚多甚多。佛言。不如是善男子善女人書是般若波羅蜜。受持恭敬尊重讚歎。香花乃至伎樂供養其福甚多。復置三千大千國土中七寶塔。若三千大千國土中衆生。一一衆生供養佛故。佛般涅槃後各起七寶塔。恭敬尊重讚歎華香乃至伎樂供養。若有善男子善女人書持般若波羅蜜。乃至正憶念不離薩婆若心。亦恭敬尊重讚歎花香瓔珞乃至伎樂供養。是人得福甚多。釋提桓因白佛言。如是如是。世尊。若人供養恭敬尊重讚歎是般若波羅蜜。則爲供養過去未來現在諸佛世尊。若十方如恒河沙等國土中衆生。一一衆生供養佛故。佛般涅槃後各起七寶塔高一由旬。是人若一劫若減一劫。恭敬尊重讚歎花香乃至伎樂供養。世尊。是善男子善女人得福多不。佛言甚多。釋提桓因言。若有善男子善女人書持是般若波羅蜜。乃至正憶念亦恭敬尊重讚歎。花香乃至伎樂供養其福大多。何以故。世尊。一切善法皆入般若波羅蜜中。所謂十善道四禪四無量心四無色定。三十七品三解脫門空無相無作。四諦苦諦集諦滅諦道諦。六神通八背捨九次第定。檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。內空乃至無法有法空。諸三昧門諸陀羅尼門。佛十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法。一切智道種智一切種智。世尊。是名一切諸佛法印。是法中一切聲聞及辟支佛。過去未來現在諸佛學是法得度彼岸

摩訶般若波羅蜜經述成品第三十三

爾時佛告釋提桓因言。如是如是。憍尸迦。是諸善男子善女人書持是般若波羅蜜經卷。受學親近讀誦說正憶念。加復供養華香瓔珞擣香澤香幡蓋伎樂。當得無量無數不可思議不可稱量無邊福德。何以故。諸佛一切智一切種智。皆從般若波羅蜜中生。諸菩薩摩訶薩禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。皆從般若波羅蜜中生。內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不共法。皆從般若波羅蜜中生。諸佛五眼皆從般若波羅蜜中生。成就衆生淨佛國土。道種智一切種智諸佛法。皆從般若波羅蜜中生。聲聞乘辟支佛乘

佛乘。皆從般若波羅蜜中生。以是故。憍尸迦。善男子善女人書持是般若波羅蜜經卷。親近讀誦說正憶念。加復供養花香乃至伎樂。過出前供養七寶塔。百分千分萬分百千萬分不及一。乃至算數譬喻所不能及。何以故。憍尸迦。若般若波羅蜜在於世者。佛寶法寶比丘僧寶終不滅。若般若波羅蜜在於世者。十善道四禪四無量心四無色定檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。四念處乃至十八不共法。一切智一切種智皆現於世。若般若波羅蜜在於世者。世間便有剎利大姓婆羅門大姓居士大家四天王天乃至阿迦尼吒諸天。須陀洹果乃至阿羅漢果。辟支佛道菩薩摩訶薩無上佛道轉法輪。成就衆生淨佛國土

摩訶般若波羅蜜經勸持品第三十四

爾時三千大千國土所有四天王天。乃至阿迦尼吒天。語釋提桓因諸天言。應受是般若波羅蜜。應持應親近應讀誦說正憶念。何以故。受持般若波羅蜜乃至正憶念故。一切所修集善法當具足滿。增益諸天衆減損阿修羅。諸天子。受持般若波羅蜜乃至正憶念故。佛種不斷法種僧種不斷。佛種法種僧種不斷故。便有檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜皆現於世。四念處乃至十八不共法菩薩道皆現於世。須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道佛道。須陀洹乃至佛。皆現於世。爾時佛告釋提桓因言。憍尸迦。汝當受是般若波羅蜜持讀誦說正憶念。何以故。若諸阿修羅生心。欲與三十三天共鬪。憍尸迦。汝爾時當誦念般若波羅蜜。諸阿修羅惡心即滅更不復生。憍尸迦。若諸天子天女五死相現時。當墮不如意處。汝當於其前誦讀般若波羅蜜。是諸天子天女聞般若波羅蜜功德故還生本處。何以故。聞般若波羅蜜有大利益故。復次憍尸迦。若有善男子善女人若諸天子天女。聞是般若波羅蜜經耳。是功德故漸當得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。憍尸迦。過去諸佛及弟子皆學是般若波羅蜜。得阿耨多羅三藐三菩提入無餘涅槃。憍尸迦。未來世諸佛今現在十方諸佛及弟子。是皆學般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提入無餘涅槃。何以故。憍尸迦。是般若波羅蜜攝一切善法。若聲聞法若辟支佛法。若菩薩法若佛法。釋提桓因白佛言。世尊。般若波羅蜜是大明呪

般上宋無是字

品目三上元無第字

受上明有若字〇集三本俱作習〇種下同有不斷二字

死明作衰〇誦讀三本俱作讀誦下同

月滿三本俱作
滿月
因下同無言字
○般上元明俱
無是字○至三
本俱作到○無
能同作官不○
責下同無者字
○共三本俱作
與○生下元明
俱無生字○諸
佛法宋明俱作
受法教○成上
元明俱無能字
○名下宋有善
男子善女人六
字○般上元無
是字

無上明呪無等等明呪。何以故。世尊。是般若波羅蜜能一除切不善。能與一切善法。佛語釋提桓因言。如是如是
憍尸迦。般若波羅蜜是大明呪無上明呪無等等明呪。何以故。憍尸迦。過去諸佛因是明呪故得阿耨多羅三藐
三菩提。未來世諸佛今現在十方諸佛。亦因是明呪得阿耨多羅三藐三菩提。因是明呪故世間便有十善道。便
有四禪四無量心四無色定。便有檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜四念處乃至十八不共法。便有法性如法相法
住法位實際。便有五眼須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道一切智一切種智。憍尸迦。菩薩摩訶薩因緣故。十善
出於世間。四禪四無量心乃至一切種智。須陀洹乃至諸佛出於世間。譬如月滿照明星宿亦能照明。如是憍尸
迦。一切世間善法正法十善乃至一切種智。若諸佛不出時皆從菩薩生。是菩薩摩訶薩方便力。皆從般若波羅
蜜生。是菩薩摩訶薩以是方便力。行檀那波羅蜜乃至禪那波羅蜜。內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不
共法。不證聲聞辟支佛地。亦能成就衆生淨佛國土。壽命成就國土成就菩薩眷屬成就得一切種智。皆從般若
波羅蜜生。復次憍尸迦。若善男子善女人聞般若波羅蜜。受持親近乃至正憶念。是人當得今世後世功德。成就。
釋提桓因白佛言。世尊。何等是善男子善女人受持般若波羅蜜。乃至正憶念得今世功德。佛告釋提桓因言若
有善男子善女人受持般若波羅蜜。乃至正憶念終不中毒死。兵刃不傷水火不害。乃至四百四病所不能中。除
其宿命業報。復次憍尸迦。若有官事起。是善男子善女人讀誦是般若波羅蜜故。往至官所無能譴責者。何以故。
是般若波羅蜜威力故。若善男子善女人誦讀是般若波羅蜜。到王所若太子大臣所。王及太子大臣皆歡喜問
訊和意共語。何以故。是諸善男子善女人常有慈悲喜捨心向衆生故。憍尸迦。若善男子善女人受持般若波羅
蜜乃至正憶念。得如是等種種今世功德。憍尸迦。何等是善男子善女人得後世功德。是善男子善女人終不離
十善道四禪四無量心四無色定。六波羅蜜四念處乃至十八不共法。是人終不墮三惡道受身完具。終不生貧
窮下賤工師除厠人擔死人家。常得三十二相。常得化生生諸現在佛國。終不離菩薩神通。若欲從一佛國至一
佛國。供養諸佛聽諸佛法。卽得隨意所遊佛國。能成就衆生淨佛國土。漸得阿耨多羅三藐三菩提。憍尸迦。是名
後世功德以是故。憍尸迦。善男子善女人應當受持是般若波羅蜜。親近讀誦說正憶念。花香乃至伎樂供養常

不離薩婆若心.是善男子善女人乃至阿耨多羅三藐三菩提.得今世後世功德成就

摩訶般若波羅蜜經遺異品第三十五 丹梵志品

爾時諸外道異學梵志來向佛所欲求佛短.是時釋提桓因心念.是諸外道梵志來向佛所欲求佛短.我今當誦念從佛所受般若波羅蜜.是諸外道梵志等.終不能中道作礙斷說般若波羅蜜.釋提桓因作是念已.即誦般若波羅蜜.是時諸外道梵志.遙繞佛復道還去.時舍利弗心念.是中何因緣.諸外道梵志遙繞佛復道還去.佛知舍利弗心念.告舍利弗.是釋提桓因誦念般若波羅蜜.以是因緣故.諸外道梵志遙繞佛復道還去.舍利弗.是諸外道梵志我不見一念善心.是諸外道梵志持惡心來欲索佛短.舍利弗.我不見說般若波羅蜜時一切世間若天若魔若梵若沙門衆婆羅門衆中有持惡意來能得短者.何以故.舍利弗.是三千大千國土中.諸四天王天乃至阿迦尼吒天.諸聲聞辟支佛諸菩薩摩訶薩.守護是般若波羅蜜.所以者何.是諸天人皆從般若波羅蜜中生故.復次舍利弗.十方如恒河沙等國土中.諸佛及聲聞辟支佛菩薩摩訶薩諸天龍鬼神等.皆守護是般若波羅蜜.所以者何.是諸佛等皆從般若波羅蜜中生故.爾時惡魔心念.今佛四衆現前集會.亦有欲界色界諸天子.是中必有菩薩摩訶薩受記當得阿耨多羅三藐三菩提.我寧可至佛所破壞·其意.是時惡魔化作四種兵來至佛所.爾時釋提桓因心念.是四種兵或是惡魔化作欲來向佛.何以故.是四種兵嚴飾.頻婆娑羅王四種兵所不類.波斯匿王四種兵所不類.諸釋子四種兵所不類.諸梨昌四種兵皆所不類.此是惡魔化作四種兵.是惡魔長夜索佛便欲惱衆生.我寧可誦念般若波羅蜜.釋提桓因.即時誦念般若.波羅蜜.惡鬼聞其所誦漸漸復道還去.爾時會中四天王諸天子.乃至阿迦尼吒諸天子.化作天花於虛空中而散佛上作是言.世尊.願令般若波羅蜜久住閻浮提.所以者何.閻浮提人受持般若波羅蜜隨所住時.佛寶亦住不滅法寶僧寶亦住不滅.爾時十方如恒河沙等世界中.諸天亦皆散花作是言.世尊.願令般若波羅蜜久住閻浮提.若般若波羅蜜久住.佛法僧亦當久住.亦分別知菩薩摩訶薩道.復次所在住處.善男子善女人有書持般若波羅蜜經卷.是處則爲照明已離諸冥.佛

品目遺異宋作梵志
道下三本俱無異學二字
誦下同有念字
是上三本俱有我不見三字○一上同無我不見三字
所元明俱作亦下同○寧宋作等○寶下宋明俱無亦字元無亦住二字○作上三本俱有而字○所在宋作在所○善上三本俱有有字○書上同無有字○諸元明俱作

衆○在所同作所在○善上宋明俱有有字○書上同無有字○以離諸三本俱作已離衆○民元明俱作天○如三本俱作卽○世尊同作何以故

品目尊導三本俱作阿難稱譽四字

智慧是宋作般若得稱四字元作智慧明作得稱○故下三本俱無知字○作宋作成次同

告釋提桓因等諸天子。如是如是。憍尸迦及諸天子。閻浮提人受持般若波羅蜜隨所住時。佛寶如是住法寶僧寶亦如是住。乃至在所住處。善男子善女人。有書持般若波羅蜜經卷。是處則爲照明以離諸冥。爾時諸天子。化作天花散佛上作是言世尊。若有善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念。魔若魔民不能得其便。世尊。我等亦當擁護是善男子善女人。何以故。若善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念。我等視是人如佛若次佛。是時釋提桓因白佛言。世尊。善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念者。當知是人先世於佛所作功德多。親近供養諸佛。爲善知識所護。世尊。諸佛一切智應當從般若波羅蜜中求。般若波羅蜜亦當從一切智中求。所以者何。般若波羅蜜不異一切智。一切智不異般若波羅蜜。般若波羅蜜一切智不二不別。是故我等視是人卽是佛若次佛。佛告釋提桓因言。如是如是。憍尸迦。諸佛一切智卽是般若波羅蜜。般若波羅蜜卽是一切智。何以故。憍尸迦。諸佛一切智皆從般若波羅蜜中生。般若波羅蜜不異一切智。一切智不異般若波羅蜜。般若波羅蜜一切智不二不別

摩訶般若波羅蜜經尊導品第三十六 丹阿難稱譽品

爾時慧命阿難白佛言。世尊。何以不稱譽檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜。乃至十八不共法。但稱譽般若波羅蜜。佛告阿難。般若波羅蜜於五波羅蜜乃至十八不共法。爲尊導。阿難。於汝意云何。不迴向薩婆若布施。得稱檀那波羅蜜不。不也世尊。不迴向薩婆若尸羅羼提毘梨耶禪那智慧是般若波羅蜜不。不也世尊。以是故。知般若波羅蜜於五波羅蜜乃至十八不共法爲尊導。是故稱譽。阿難白佛言。世尊。云何布施迴向薩婆若作檀那波羅蜜。乃至作般若波羅蜜。佛告阿難。以無二法布施迴向薩婆若。是名檀那波羅蜜。以不生不可得故。迴向薩婆若布施。是名檀那波羅蜜。乃至以無二法智慧迴向薩婆若。是名般若波羅蜜。以不生不可得故。迴向薩婆若智慧。是名般若波羅蜜。阿難白佛言。世尊。云何以不二法迴向薩婆若布施。是名檀那波羅蜜。乃至以不二法迴向薩婆若智慧。是名般若波羅蜜。佛告阿難。以色不二法故。受想行識不二法故。乃

色下同無色字

因三本俱作衆

無上道同作阿耨多羅三藐三菩提九字

衆宋明俱作品下同○定上解上並三本俱有無量二字○善上宋元俱無是字

樂下宋有我亦歎說是善男子善女人十一字

明有供養二字

○因下三本俱有言字下同

至阿耨多羅三藐三菩提不二法故．世尊．云何色不二法乃至阿耨多羅三藐三菩提不二法．佛言．色色相空．何以故．檀那波羅蜜色不二不別．乃至阿耨多羅三藐三菩提檀那波羅蜜不二不別．五波羅蜜亦如是．以是故阿難．但稱譽般若波羅蜜．於五波羅蜜乃至一切種智爲尊導．阿難．譬如大地以種散中得因緣和合便生．是諸種子依地而生．如是阿難．五波羅蜜依般若波羅蜜得生．四念處乃至一切種智亦依般若波羅蜜得生．以是故阿難．般若波羅蜜於五波羅蜜乃至十八不共法爲尊導．爾時釋提桓因白佛言．世尊．佛說善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念者功德未盡．何以故．受持般若波羅蜜．乃至正憶念．則受三世諸佛無上道．所以者何．欲得薩婆若當從般若波羅蜜中求．欲得般若波羅蜜當從薩婆若中求．世尊．受持般若波羅蜜乃至正憶念故．十善道現於世間．四禪四無量心四無色定乃至十八不共法．現於世間．受持般若波羅蜜乃至正憶念故．世間便有刹利大姓婆羅門大姓居士大家四天王天乃至阿迦尼吒諸天．受持般若波羅蜜乃至正憶念故．便有須陀洹乃至阿羅漢辟支佛菩薩摩訶薩受持般若波羅蜜乃至正憶念故．諸佛出於世間．爾時佛告釋提桓因言．憍尸迦．善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念．我不說但有爾所功德．何以故．憍尸迦．是善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念不離薩婆若心．無量戒衆成就定衆慧衆解脫衆解脫知見衆成就．復次憍尸迦．是善男子善女人能受持般若波羅蜜乃至正憶念不離薩婆若心當知是人爲如佛．復次憍尸迦．一切聲聞辟支佛．所有戒衆定衆智衆解脫衆解脫知見衆．不及是善男子善女人戒衆乃至解脫知見衆．百分千分百千萬億分乃至算數譬喩所不能及．何以故．是善男子善女人於聲聞辟支佛地中心得解脫．更不求大乘法故．復次憍尸迦．若有善男子善女人書持般若波羅蜜經卷．供養恭敬尊重．華香瓔珞乃至伎樂．亦得今世後世功德．爾時釋提桓因白佛言．世尊．是善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念．不離薩婆若心供養般若波羅蜜．恭敬尊重華香乃至伎樂．我常當守護是人．佛告釋提桓因．憍尸迦．是善男子善女人欲讀誦說是般若波羅蜜時．無量百千諸天皆來聽法．是善男子善女人說般若波羅蜜法諸天　益其膽力．是諸法師若疲極不欲說法．諸天益其膽力故．便能更說．善男子善女人受是般若波羅蜜乃至正憶念．供養花香乃至伎樂故．亦得是今世功德．

論難宋作難論

擁護三本俱作護持下同

現同作今

修羅元作羅漢

○宋元俱作脩羅

○蜜下三本俱無檀那波羅蜜五字

得上宋無亦字

○所下明有住字○諸上三本俱無所有二字

次同

揵同作乾下同

○那同作陀下同

復次憍尸迦。是善男子善女人於四部衆中。說般若波羅蜜時心無怯弱。若有論難亦無畏想。何以故。是善男子善女人。爲般若波羅蜜所護持故。般若波羅蜜中亦分別一切法。若世間若出世間·若有漏若無漏。若善若不善。若有爲若無爲。若聲聞法若辟支佛法。若菩薩法若佛法。善男子善女人住內空乃至住無法有法空故。不見有能難般若波羅蜜者。亦不見受難者亦不見般若波羅蜜。如是善男子善女人。爲般若波羅蜜所擁護故。無有能難壞者。復次善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念時。不沒不畏不怖。何以故。是善男子善女人不見是法沒者恐怖者。憍尸迦。善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念。花香供養乃至幡蓋。亦得是現世功德。復次憍尸迦。善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念。書持經卷花香供養乃至幡蓋。是人爲父母所愛。宗親知識所念。諸沙門婆羅門所敬。十方諸佛及菩薩摩訶薩。辟支佛阿羅漢乃至須陀洹所愛敬。一切世間若天若魔若梵及阿修羅等。皆亦愛敬。是人行檀那波羅蜜。檀那波羅蜜無有斷絕時。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。亦無有斷絕時。修內空不斷。乃至修無法有法空不斷。修四念處不斷。乃至修十八不共法不斷。修諸三昧門不斷。修諸陀羅尼門不斷。修諸菩薩神通不斷。成就衆生淨佛國土不斷。乃至修一切種智不斷。是人亦能降伏難論毀謗。善男子善女人受持般若波羅蜜乃至正憶念。不離薩婆若心。書持經卷香花供養乃至幡蓋。亦得是今世後世功德。復次憍尸迦。善男子善女人書持經卷。在所處三千大千世界中所有諸四天王天。發阿耨多羅三藐三菩提心者。皆來到是處。見般若波羅蜜受讀誦說。供養禮拜還去。三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。梵衆天梵輔天梵會天大梵天。光天少光天無量光天光音天。淨天少淨天無量淨天遍淨天。無陰行天福德天廣果天。發阿耨多羅三藐三菩提心者。皆來到是處。見般若波羅蜜受讀誦說。供養禮拜還去。淨居諸天所謂無誑天無熱天妙見天喜見天色究竟天。皆來到是處。見是般若波羅蜜受讀誦說。供養禮拜還去。復次憍尸迦十方世界中諸四天王天乃至廣果天發阿耨多羅三藐三菩提心。及淨居天幷餘諸天龍鬼神揵闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽亦來。見般若波羅蜜受讀誦說。供養禮拜還去。是善男子善女人應作是念。十方世界中諸四天王天乃至廣果天。發阿耨多羅三藐三菩提心。及淨居天幷餘

香上三本俱有衆名二字

貪下同無著字

諸天龍鬼神揵闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽來見般若波羅蜜受讀誦說供養禮拜我則法施已憍尸迦三千大千世界中所有諸四天王天乃至阿迦尼吒天及十方世界中諸四天王天乃至阿迦尼吒天發阿耨多羅三藐三菩提心者擁護是善男子善女人諸惡不能得便除其宿命重罪憍尸迦是善男子善女人亦得是今世功德所謂諸天子發阿耨多羅三藐三菩提心者皆來到是處何以故憍尸迦諸天子發阿耨多羅三藐三菩提心欲救護一切衆生不捨一切衆生安樂一切衆生故爾時釋提桓因白佛言世尊善男子善女人云何當知諸四天王天乃至阿迦尼吒天來及十方國土中諸四天王天乃至阿迦尼吒天來見般若波羅蜜受讀誦說供養禮拜時佛告釋提桓因憍尸迦若善男子善女人見大淨光明必知有大德諸天來見般若波羅蜜受讀誦說供養禮拜時復次憍尸迦善男子善女人若聞異妙香必知有大德諸天來見般若波羅蜜受讀誦說供養禮拜時復次憍尸迦善男子善女人行淨潔故諸天來到其處見般若波羅蜜受讀誦說供養歡喜禮拜是中有小鬼輩卽時出去不能堪任是大德諸天威德故以是大德諸天來故是善男子善女人生大心以是故般若波羅蜜所住處四面不應有諸不淨應當然燈燒香散衆名花衆香塗地衆蓋幢幡種種嚴飾復次憍尸迦善男子善女人說法時終無疲極自覺身輕心樂隨法偃息臥覺安隱無諸惡夢夢中見諸佛三十二相八十隨形好比丘僧恭敬圍遶而爲說法在諸佛邊聽受法教所謂六波羅蜜四念處乃至十八不共法分別六波羅蜜義分別四念處乃至十八不共法亦分別其義亦見菩提樹莊嚴殊妙見諸菩薩趣菩提樹得阿耨多羅三藐三菩提見諸佛成已轉法輪見百千萬菩薩共集法論議應如是求薩婆若應如是成就衆生應如是淨佛國土亦見十方無數百千萬億諸佛亦聞其名號某方某國某佛若干百千萬菩薩若干百千萬聲聞恭敬圍繞說法復見十方無數百千萬億諸佛般涅槃復見無數百千萬億諸佛七寶塔見供養諸塔恭敬尊重讚歎香花乃至幡蓋憍尸迦是善男子善女人見如是善夢臥安覺安諸天益其氣力自覺身體輕便不大貪著飲食衣服臥具湯藥於四供養其心輕微譬如比丘坐禪從禪定起心與定合不貪著飲食其心輕微何以故憍尸迦諸天法應以諸味之精益其氣力故十方諸佛及天龍鬼神阿修羅揵闥婆迦樓羅緊那羅摩睺羅伽亦益其氣力如是憍尸迦善男子善

念下同無亦字
書下同有寫字
子下元明俱有
衆字

女人欲得今世如是功德。應當受持般若波羅蜜親近讀誦說。正憶念亦不離薩婆若心。憍尸迦。善男子善女人雖不能受持乃至正憶念。應當書持經卷恭敬供養尊重讚歎香花瓔珞乃至幡蓋。憍尸迦。若善男子善女人聞是般若波羅蜜受持讀誦說正憶念。書經卷恭敬供養尊重讚歎花香乃至幡蓋。是善男子善女人功德甚多。勝於供養十方諸佛及弟子。恭敬尊重讚歎衣服飲食臥具湯藥。諸佛及弟子般涅槃後起七寶塔。恭敬供養尊重讚歎花香乃至幡蓋

摩訶般若經卷第九

摩訶般若波羅蜜經卷第十

〔麗薑〕〔宋海〕〔元海〕〔明海〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

法稱品第三十七

佛告釋提桓因言。憍尸迦。若滿閻浮提佛舍利作一分。復有人書般若波羅蜜經卷作一分。二分之中汝取何所。釋提桓因白佛言。世尊。若滿閻浮提佛舍利作一分。般若波羅蜜經卷作一分。二分之中我寧取般若波羅蜜經卷。何以故。世尊。我於佛舍利非不恭敬非不尊重。世尊。以是舍利從般若波羅蜜中生。般若波羅蜜修熏故。是舍利得供養恭敬尊重讚歎。爾時舍利弗問釋提桓因。憍尸迦。是般若波羅蜜不可取。無色無形無對一相。所謂無相。汝云何欲取。何以故。是般若波羅蜜不爲取故出。不爲捨故出。不爲增減聚散損益垢淨故出。是般若波羅蜜不與諸佛法不捨凡人法。不與辟支佛法阿羅漢法學法。不捨凡人法。不與無爲性不捨有爲性。不與內空乃至無法有法空。不與四念處乃至一切種智。不捨凡人法。釋提桓因語舍利弗。如是如是。舍利弗。若有人知是般若波羅蜜。不與諸佛法不捨凡人法。乃至不與一切種智不捨凡人法。是菩薩摩訶薩能行般若波羅蜜能修般若波羅蜜。何以故。般若波羅蜜不行二法相故。不二法相是般若波羅蜜。不二法相是禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜。爾時佛讚釋提桓因言。善哉善哉。憍尸迦。如汝所說。般若波羅蜜不行二法相故。不二法相是般若波羅蜜。不二法相是禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜。憍尸迦。若人欲得法性二相者。是人爲欲得般若波羅蜜二相。何以故。憍尸迦。法性般若波羅蜜無二無別。乃至檀那波羅蜜亦如是。若人欲得實際不可思議性二相者。是人爲欲得般若波羅蜜二相。何以故。般若波羅蜜不可思議性無二無別。釋提桓因白佛言。世尊。一切世間人及諸天阿修羅。應禮拜供養般若波羅蜜。何以故。諸菩薩摩訶薩般若波羅蜜中學得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。我常在善法堂上坐。若我不在座時。諸天子來供養我故。爲我坐處作禮繞竟還去。諸天子作是念。釋提桓因在是處坐。爲

經題十三本俱作十一　品目法稱同作舍利　舍上三本俱無是字　禪下同無那字下同〔檀下同無那字下同　修同作脩下同〔座宋作坐〕子下宋元俱無來字

揵三本俱作乾○樓宋元俱作留○那同作陀

心深三本俱作深心○般上同有深字

無下三本俱無有字

諸三十三天說法故。如是世尊。在所處書是般若波羅蜜經卷。受持讀誦爲他演說。是處十方世界中諸天龍夜叉揵闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽。皆來禮拜般若波羅蜜供養已去。何以故。是般若波羅蜜中生諸佛。及生一切衆生樂具故。諸佛舍利亦是一切種智住處因緣。以是故世尊。二分中我取般若波羅蜜。復次世尊。我若受持讀誦般若波羅蜜心深入法中。我是時不見怖畏相。何以故。世尊。是般若波羅蜜無相無貌無言無說。世尊。無相無貌無言無說。是般若波羅蜜乃至是一切種智。世尊。般若波羅蜜若當有相非無相者。諸佛不應知一切法無相無貌無言無說。得阿耨多羅三藐三菩提。爲弟子說諸法亦無相無貌無言無說。世尊。以般若波羅蜜實是無相無貌無言無說故。諸佛知一切諸法無相無貌無言無說。得阿耨多羅三藐三菩提。爲弟子說諸法。亦無相無貌無言無說。以是故。世尊。是般若波羅蜜一切世間諸天人阿修羅。應恭敬供養尊重讚歎香華瓔珞乃至幡蓋。復次世尊。若有人受持般若波羅蜜。親近讀誦說正憶念。及書供養華香乃至幡蓋。是人不墮地獄畜生餓鬼道中。不墮聲聞辟支佛地。乃至得阿耨多羅三藐三菩提常見諸佛。從一佛國至一佛國供養諸佛。恭敬尊重讚歎華香乃至幡蓋。復次世尊。滿三千大千世界佛舍利作一分。書般若波羅蜜經卷作一分。是二分中我故取般若波羅蜜。何以故。世尊。是般若波羅蜜中生諸佛舍利。以是故。舍利得供養恭敬尊重讚歎。是善男子善女人供養恭敬舍利故。受天上人中福樂。常不墮三惡道。如所願漸以三乘法入涅槃。是故世尊。若有見現在佛。若見般若波羅蜜經卷等無異。何以故。世尊。是般若波羅蜜與佛無二無別故。復次世尊。如佛住三事示現說十二部經修多羅祇夜乃至優波提舍。復有善男子善女人受持誦說是般若波羅蜜等無異。何以故。世尊。是般若波羅蜜中生三事示現及十二部經修多羅乃至優波提舍故。復次世尊。十方諸佛住三事示現。說十二部經修多羅乃至優波提舍。復有人受般若波羅蜜爲他人說等無有異。何以故。般若波羅蜜中生諸佛。亦生十二部經修多羅乃至優波提舍。復次世尊。若有供養十方如恒河沙等世界中諸佛恭敬尊重讚歎華香乃至幡蓋。復有人書般若波羅蜜經卷恭敬尊重讚歎華香乃至幡蓋。其福正等。何以故。十方諸佛皆從般若波羅蜜中生。復次世尊。善男子善女人聞是般若波羅蜜。受持讀誦正憶念亦爲他人說。是人不墮地獄道畜生餓鬼道。亦不墮聲聞

使明作便

是下寶三本俱作珠次同○除下宋元俱無愈字○寶元明俱作珠下同○令宋作今○瞖明作翳○寶近元作寶示明作珠示○尼下三本俱有珠字次同○若上元明俱無世尊是寶四字○寶三本俱作珠次同○中上元明俱有水字○難下同有言字○舉下明無寶字○所下

辟支佛地。何以故。當知是善男子善女人正住阿惟越致地中故。是般若波羅蜜遠離一切苦惱衰病。復次世尊。若有善男子善女人。書是般若波羅蜜經卷受持親近。供養恭敬尊重讃歎。是人離諸恐怖。世尊譬如負債人親近國王供給左右。債主反更供養恭敬是人。是人不復畏怖。何以故。世尊此人依近於王。勢恃有力故。如是世尊。諸佛舍利般若波羅蜜修熏故。得供養恭敬。世尊當知般若波羅蜜如王。舍利如負債人。負債人依王故得供養。舍利亦依般若波羅蜜修熏故得供養。世尊當知諸佛一切種智亦以般若波羅蜜修熏故得成就。以是故。世尊。二分中我取般若波羅蜜。何以故。世尊般若波羅蜜中生諸佛舍利三十二相。般若波羅蜜中亦生佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲。世尊。般若波羅蜜中生五波羅蜜使得波羅蜜名字。般若波羅蜜中生諸佛一切種智。復次世尊。所在三千大千世界中。若有受持供養恭敬尊重讃歎般若波羅蜜。是處若人若非人不能得其便。是人漸漸得入涅槃。世尊。般若波羅蜜爲大利益如是。於三千大千世界中能作佛事。世尊。在所處有般若波羅蜜則爲有佛。世尊。譬如無價摩尼珠寶在所住處非人不得其便。若男子女人有熱病。以是寶著身上。熱病即時除愈。若有風病若有冷病。若有雜熱風冷病。以寶著身上皆悉除愈。若闇中是寶能令明。熱時能令涼寒時能令溫。寶所住處其地不寒不熱時節和適。其處亦無諸餘毒螫。若男子女人爲毒蛇所螫。以寶示之毒即除滅。復次世尊。若男子女人眼痛膚瞖盲瞽。以寶近之即時除愈。若有癩瘡惡腫。以寶著身上病即除愈。復次世尊。是摩尼寶所在水中。水隨作一色。世尊。是寶若以青物裹著水中。水色則爲青。若黃赤白紅縹物裹著水中。水隨作黃赤白紅縹色。如是等種種色物裹著水中。水隨作種種色。世尊。若水濁以寶著中水即爲清。是寶其德如是。爾時阿難問釋提桓因言。憍尸迦。是摩尼寶爲是天上寶。爲是閻浮提寶。釋提桓因語阿難。是天上寶閻浮提人亦有是寶。但功德相少不具足。天上寶淸淨輕妙不可以譬喩爲比。復次世尊。是摩尼寶若著篋中舉寶出。其功德熏篋故人皆愛敬。如是世尊。在所在處有書般若波羅蜜經卷。是處則無衆惱之患。亦如摩尼寶所著處則無衆難。世尊。佛般涅槃後舍利得供養。皆是般若波羅蜜力。禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不共法。一切智法相法住法位法性實際不可思議性一切種智是諸功德力善男子善女

三本俱無在字

修薰同作熏修

誦下元明俱無解字

法下元明俱無法字次同

人作是念。是佛舍利一切智一切種智大慈大悲。斷一切結使及習。常捨行不錯謬法等諸佛功德住處。以是故舍利得供養。世尊。舍利是諸功德寶波羅蜜住處。不垢不淨波羅蜜住處。不生不滅波羅蜜。不入不出波羅蜜不增不損波羅蜜。不來不去不住波羅蜜。是佛舍利。是諸法相波羅蜜住處。以是諸法相波羅蜜修薰故舍利得供養。復次世尊。置三千大千世界滿中舍利。如恒河沙等諸世界滿其中舍利作一分。有人書般若波羅蜜經卷作一分。二分之中我取般若波羅蜜。何以故。是般若波羅蜜中生諸佛舍利。是般若波羅蜜修熏故舍利得供養。世尊。若有善男子善女人供養舍利恭敬尊重讚歎。其功德報不可得邊。受人中天上福樂。所謂剎利大姓婆羅門大姓居士大家四天王天處。乃至他化自在天中受福樂。亦以是福德因緣故當得盡苦。若受是般若波羅蜜讀誦解說正憶念。是人能具足禪那波羅蜜乃至能具足檀那波羅蜜。能具足四念處乃至能具足十八不共法。過聲聞辟支佛地住菩薩位。住菩薩位已得菩薩神通。從一佛國至一佛國。是菩薩為衆生故受身。隨其所應成就衆生。若作轉輪聖王若作剎利大姓。若作婆羅門大姓成就衆生。以是故。世尊。我不為輕慢不恭敬故不取舍利。以善男子善女人供養般若波羅蜜則為供養舍利故。復次世尊。有人欲見十方無量阿僧祇諸世界中現在佛法身色身。是人應聞受持般若波羅蜜讀誦正憶念為他人演說。如是善男子善女人。當見十方無量阿僧祇世界中諸佛法身色身。是善男子善女人行般若波羅蜜。亦應以法相修念佛三昧。復次善男子善女人欲見現在諸佛。應當受是般若波羅蜜乃至正憶念。復次世尊。有二種法相。有為諸法相。無為諸法相。云何有為諸法相。所謂內空中智慧。乃至無法有法空中智慧。四念處中智慧乃至八聖道分中智慧。佛十力四無所畏四無礙智。十八不共法中智慧。善法中不善法中。有漏法中無漏法中。世間法中出世間法中智慧。是名有為諸法法相。云何名無為諸法法相。若法無生無滅無住無異。無垢無淨無增無減諸法自性。云何名諸法自性。諸法無所有性是諸法自性。是名無為諸法法相。爾時佛告釋提桓因。如是如是。憍尸迦。過去諸佛因是般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提。過去諸佛弟子亦因般若波羅蜜得須陀洹道乃至阿羅漢辟支佛道。未來現在世十方無量阿僧祇諸佛。因是般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提。未來現在諸佛弟子亦因是般若波羅蜜得須陀洹道乃至辟

支佛道。何以故。般若波羅蜜中廣說三乘義。以無相法故。無生無滅法故。無垢無淨法故。無作無起不入不出。不增不損不取不捨法故。以俗法故非第一義。何以故。是般若波羅蜜非此非彼非高非下。非等非不等。非相非無相。非世間非出世間。非有漏非無漏。非有爲非無爲。非善非不善。非過去非未來非現在。何以故。憍尸迦。般若波羅蜜不取聲聞辟支佛法亦不捨凡人法。釋提桓因白佛言。世尊。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。知一切衆生心。亦不得衆生乃至知者見者亦不得。是菩薩。不得色不得受想行識。不得眼乃至意。不得色乃至法。不得眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受。不得四念處乃至十八不共法。不得阿耨多羅三藐三菩提。不得諸佛法。不得佛。何以故。般若波羅蜜不爲得法故出。何以故般若波羅蜜性無所有不可得。所用法不可得處亦不可得。佛告釋提桓因言。如是如是。憍尸迦。如汝所說。菩薩摩訶薩長夜行般若波羅蜜。阿耨多羅三藐三菩提不可得。何況菩薩及菩薩法。爾時釋提桓因白佛言。世尊。菩薩摩訶薩但行般若波羅蜜。不行餘波羅蜜耶。佛告釋提桓因言。憍尸迦。菩薩盡行六波羅蜜法以無所得故。行檀那波羅蜜不得施者不得受者不得財物。行尸羅波羅蜜不得戒不得持戒人不得破戒人。乃至行般若波羅蜜不得智慧不得智慧人不得無智慧人。憍尸迦。菩薩摩訶薩行布施時。般若波羅蜜爲作明導。能具足檀那波羅蜜。菩薩摩訶薩行持戒時。般若波羅蜜爲作明導能具足尸羅波羅蜜。菩薩摩訶薩行忍辱時。般若波羅蜜爲作明導能具足羼提波羅蜜。菩薩摩訶薩行精進時。般若波羅蜜爲作明導能具足毘梨耶波羅蜜。菩薩摩訶薩行禪那時。般若波羅蜜爲作明導能具足禪那波羅蜜。菩薩摩訶薩觀諸法時。般若波羅蜜爲作明導能具足般若波羅蜜。一切法以無所得故。所謂色乃至一切種智。憍尸迦。譬如閻浮提諸樹。種種葉種種華種種果種種色。其蔭無差別。諸波羅蜜入般若波羅蜜中至薩婆若無差別亦如是。以無所得故。釋提桓因白佛言。世尊。般若波羅蜜大功德成就。世尊。般若波羅蜜一切功德成就。世尊。般若波羅蜜無量功德成就。無邊功德成就。無等功德成就。世尊。若有善男子善女人書是般若波羅蜜經卷。恭敬供養尊重讚歎華香乃至幡蓋。如般若波羅蜜所說正憶念。復有善男子善女人書般若波羅蜜經卷與他人。其福何所爲多。佛告釋提桓因。憍尸迦。我還問汝隨汝意報我。若有善男子善女人供養諸佛舍利。恭敬尊重讚歎華香乃至幡

因下三本俱無言字下同

果宋元俱作菓 ○蔭三本俱作陰

蓋。若復有人分舍利如芥子許與他人。令供養恭敬尊重讚歎華香乃至幡蓋。其福何所爲多。釋提桓因白佛言。世尊。如我從佛聞法中義。有善男子善女人自供養舍利乃至幡蓋。若復有人分舍利如芥子許與他人令供養。其福甚多。世尊。佛見是福利衆生故。入金剛三昧中。碎金剛身作末舍利。何以故。有人佛滅度後。供養佛舍利乃至如芥子許。其福報無邊乃至盡苦。佛告釋提桓因言。如是如是。憍尸迦。若善男子善女人書般若波羅蜜經卷。供養恭敬香花乃至幡蓋。若復有人書般若波羅蜜經卷與他人令學。是善男子善女人其福甚多。復次憍尸迦。善男子善女人。如般若波羅蜜中義爲他人說。開示分別令易解。是善男子善女人。勝於前善男子善女人功德所從聞般若波羅蜜當視其人如佛。亦如高勝梵行人。何以故。當知般若波羅蜜卽是佛。般若波羅蜜不異佛。佛不異般若波羅蜜。過去未來現在諸佛。皆從般若波羅蜜中學得阿耨多羅三藐三菩提及高勝梵行人。高勝梵行人者。所謂阿惟越致菩薩摩訶薩。亦學是般若波羅蜜當得阿耨多羅三藐三菩提。聲聞人學是般若波羅蜜得阿羅漢道。求辟支佛道人學是般若波羅蜜得辟支佛道。菩薩學是般若波羅蜜得入菩薩位。以是故。憍尸迦。善男子善女人欲供養現在佛。恭敬尊重讚歎華香乃至幡蓋。當供養般若波羅蜜。我見是利益初得阿耨多羅三藐三菩提時作是念。誰有可供養恭敬尊重讚歎依止住者。憍尸迦。我於一切世間中若天若魔若梵若沙門婆羅門中。不見與我等者。何況有勝者。我又自思念。我所得法自致作佛。我供養是法。恭敬尊重讚歎當依止住。何等是法。所謂般若波羅蜜。憍尸迦。我自供養是般若波羅蜜恭敬尊重讚歎已依止住。何況善男子善女人欲得阿耨多羅三藐三菩提。而不供養般若波羅蜜恭敬尊重讚歎華香瓔珞乃至幡蓋。何以故。般若波羅蜜中生諸菩薩摩訶薩。諸菩薩摩訶薩中生諸佛。以是故。憍尸迦。善男子善女人若求佛道若求辟支佛道若求聲聞道。皆應供養般若波羅蜜恭敬尊重讚歎華香乃至旛蓋

摩訶般若波羅蜜經法施品第三十八 丹十善品

佛告釋提桓因言。憍尸迦。若有善男子善女人。教一閻浮提人行十善道。於汝意云何。以是因緣故得福多不。答

香花明作華香○男上女上並三本俱無善字

利下明無益字

等下三本俱無者字○者下明無我字○我下宋元俱無又字

品目法施三本俱作十善

如下明無是字下同

得上三本俱無令字○漢下同無果字○舍下明有果字次同○漢下同有果字

令宋元俱作今

千上宋無大字

其上元明俱無說字

言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人書持般若波羅蜜經卷與他人令讀誦說得福多。何以故。是般若波羅蜜中廣說諸無漏法。善男子善女人從是中學已學今學當學入正法位中。已入今入當入得須陀洹果。已得今得當得乃至阿羅漢果。求辟支佛道亦如是。諸菩薩摩訶薩求阿耨多羅三藐三菩提入正法位中。已入今入當入得阿耨多羅三藐三菩提。已得今得當得。憍尸迦。何等是無漏法。所謂四念處乃至八聖道分四聖諦。內空乃至無法有法空。佛十力乃至十八不共法。善男子善女人學是法得阿耨多羅三藐三菩提。已得今得當得。憍尸迦。若有善男子善女人。教一人令得須陀洹果。是人得福德勝教一閻浮提人行十善道。何以故。憍尸迦。教一閻浮提人行十善道。不離地獄畜生餓鬼苦。憍尸迦。教一人令得須陀洹果離三惡道故。乃至阿羅漢果辟支佛道亦如是。憍尸迦。若善男子善女人。教一閻浮提人令得須陀洹果斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛道。不如善男子善女人教一人令得阿耨多羅三藐三菩提得福多。何以故。憍尸迦。以菩薩因緣故生須陀洹乃至阿羅漢辟支佛。以菩薩因緣故生諸佛。以是因緣故。憍尸迦。當知善男子善女人書般若波羅蜜經卷。與他人令書持讀誦說得福多。何以故。是般若波羅蜜中廣說諸善法。是善法中學便出生剎利大姓婆羅門大姓居士大家四天王天乃至非有想非無想天。便有四念處乃至一切種智。便有須陀洹乃至阿羅漢辟支佛。便有諸佛。憍尸迦。置一閻浮提人。若有善男子善女人教四天下國土中眾生令行十善道。於汝意云何。是人以是因緣故得福多不。答言。甚多世尊。佛言。不如善男子善女人書般若波羅蜜經卷。與他人令書持讀誦說得福多。餘如上說。憍尸迦。置四天下國土中眾生。若教小千國土中眾生令行十善道亦如是。憍尸迦。置小千國土中眾生。若教二千中國土中眾生令行十善道。若有善男子善女人書般若波羅蜜經卷。與他人令書持讀誦說是人得福多。餘如上說。憍尸迦。置二千中國土中眾生。若教三千大千國土中所有眾生令行十善道。復有人書般若波羅蜜經卷。與他人令書持讀誦說是人福德多。憍尸迦。置三千大千國土中眾生。若教如恒河沙等國土中所有眾生令行十善道。若復有人書般若波羅蜜經卷。與他人令書持讀誦說其福多。餘如上說。復次憍尸迦。有人教一閻浮提眾生。令立四禪四無量心四無色定五神通。於汝意云何。是善男子善女人福德多不。釋提桓因言。甚多世尊。佛言。不如是

誦下元無說字次同

不宋作非下同○近同作覲

善男子善女人書般若波羅蜜經卷。與他人令書持讀誦說得福多。何以故。是般若波羅蜜中廣說諸善法。餘如上說。憍尸迦。置閻浮提中衆生。復置四天下國土中衆生。小千國土中衆生。二千中國土中衆生。三千大千國土中衆生。憍尸迦。若有人敎十方如恒河沙等國土中衆生。令立四禪四無量心四無色定五神通。於汝意云何。是人福德多不。答言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人書般若波羅蜜經卷。與他人令書持讀誦說得福多。何以故。是般若波羅蜜中廣說諸善法。餘如上說。復次憍尸迦。若有善男子善女人。受是般若波羅蜜持讀誦說正憶念。是人福德勝敎閻浮提人行十善道。立四禪四無量心四無色定五神通。正憶念者受持親近般若波羅蜜乃至正憶念。不以二法不以不二法。受持親近禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜乃至正憶念。不以二法不以不二法。爲阿耨多羅三藐三菩提正憶念內空乃至一切種智。不以二法不以不二法。復次憍尸迦。若有善男子善女人爲他人種種因緣。演說般若波羅蜜義。開示分別令易解。憍尸迦。何等是般若波羅蜜義。憍尸迦。般若波羅蜜義者。不應以二相觀。不應以不二相觀。非有相非無相。不入不出不增不損。不垢不淨不生不滅。不取不捨不住非不住。非實非虛非合非散。非著非不著。非因非不因。非法非不法。非如非不如非實際非不實際。憍尸迦。若善男子善女人能以是般若波羅蜜義。爲他人種種因緣演說。開示分別令易解。是善男子善女人所得福德甚多。勝自受持般若波羅蜜親近讀誦說正憶念。復次憍尸迦。善男子善女人自受持般若波羅蜜。親近讀誦說正憶念。亦爲他人種種因緣。演說般若波羅蜜義開示分別令易解。是善男子善女人所得功德甚多。釋提桓因白佛言。世尊。善男子善女人應如是演說般若波羅蜜義開示分別令易解。佛語釋提桓因言。如是憍尸迦。是善男子善女人應如是演說般若波羅蜜義開示分別令易解。憍尸迦。善男子善女人如是演說般若波羅蜜義開示分別令易解。得無量無邊阿僧祇福德。若有善男子善女人供養十方無量阿僧祇諸佛。盡其壽命隨其所須。恭敬尊重讚歎花香乃至幡蓋供養。若復有善男子善女人種種因緣。爲他人廣說般若波羅蜜義開示分別令易解。是善男子善女人功德甚多。何以故。諸過去未來現在佛皆於是般若波羅蜜中學得阿耨多羅三藐三菩提已得今得當得。復次憍尸迦。若善男子善女人於無量無邊阿僧祇劫行檀那

因下明無言字

三本俱以波羅蜜爲第十一終同佛言以下爲卷第十二十善品第三十八之餘○者上三本俱無相似般若波羅蜜七字

界元作衆下同

波羅蜜．不如是善男子善女人以般若波羅蜜爲他人演說其義開示分別令易解其福甚多．以無所得故．云何名有所得．憍尸迦．若菩薩摩訶薩用有所得故布施．布施時作是念．我與彼受所施者物．是名得檀那不得波羅蜜．我持戒此是戒．是名得戒不得波羅蜜．我忍辱爲是人忍辱．是名得忍辱不得波羅蜜．我精進爲是事勤精進．是名得精進不得波羅蜜．我修禪那所修是禪那．是名得禪那不得波羅蜜．我修慧所修是慧．是名得慧不得波羅蜜．憍尸迦．是善男子善女人如是行者．不得具足檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜．釋提桓因白佛言．世尊．菩薩摩訶薩云何修具足檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜．佛告釋提桓因言．菩薩摩訶薩布施時．不得與者．不得受者．不得所施物．是人得具足檀那波羅蜜．乃至修般若波羅蜜時．不得智不得所修智．是人得具足般若波羅蜜．憍尸迦．是爲菩薩摩訶薩具足檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜．善男子善女人如是行般若波羅蜜．當爲他人演說其義開示分別令易解．禪那波羅蜜毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜．演說其義開示分別令易解．何以故．憍尸迦．未來世當有善男子善女人．欲說般若波羅蜜而說相似般若波羅蜜．有善男子善女人發阿耨多羅三藐三菩提心．聞是相似般若波羅蜜失正道．善男子善女人應爲是人具足演說般若波羅蜜義開示分別令易解．釋提桓因白佛言．世尊．何等是相似般若波羅蜜．佛言．有善男子善女人說有所得般若波羅蜜．是爲相似般若波羅蜜．釋提桓因白佛言．世尊．云何善男子善女人說有所得般若波羅蜜．是爲相似般若波羅蜜．佛言．善男子善女人說有所得般若波羅蜜．是爲相似般若波羅蜜．相似般若波羅蜜者．說色無常．作是言能如是行．是行般若波羅蜜．行者求色無常．是爲行相似般若波羅蜜．說受想行識無常．作是言能如是行．是行般若波羅蜜．行者求受想行識無常．是爲行相似般若波羅蜜．說眼無常乃至說意無常．說色無常乃至說法無常．說眼界無常色界眼識界無常乃至說意界法界意識界無常．說地種無常乃至說識種無常．說眼識界無常乃至說意識界無常．說眼觸無常乃至說意觸無常．說眼觸因緣生受無常乃至說意觸因緣生受無常．廣說如五陰．說色苦乃至說意觸因緣生受苦．說色無我乃至說意觸因緣生受無我．皆如五陰說．行者行檀那波羅蜜時．爲說色無

則明作卽

常苦無我乃至意觸因緣生受說無常苦無我．尸羅波羅蜜乃至般若波羅蜜亦如是．行四禪四無量心四無色定爲說無常苦無我．行四念處爲說無常苦無我．乃至行薩婆若時爲說無常苦無我．作如是敎能如是行者．是爲行般若波羅蜜．憍尸迦．是名相似般若波羅蜜．復次憍尸迦．若是善男子善女人當來世說相似般若波羅蜜．作是言．汝善男子善女人修行般若波羅蜜．汝修行般若波羅蜜時當得初地．乃至當得十地．禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜亦如是．行者以相似有所得．以總相修是般若波羅蜜．憍尸迦．是名相似般若波羅蜜．復次憍尸迦．善男子善女人欲說般若波羅蜜．作是言．汝善男子善女人修行般若波羅蜜已．當過聲聞辟支佛地．是名相似般若波羅蜜．復次憍尸迦．善男子善女人爲求佛道者如是說．汝善男子善女人修行般若波羅蜜已．入菩薩位得無生法忍．得無生忍已便住菩薩神通．從一佛國至一佛國供養諸佛恭敬尊重讚歎．如是說者．是名相似般若波羅蜜．復次憍尸迦．善男子善女人爲求佛道者如是說．汝善男子善女人學是般若波羅蜜．受持讀誦說正憶念．當得無量無邊阿僧祇功德．如是說者是名相似般若波羅蜜．復次善男子善女人爲求佛道者如是說．如過去未來現在諸佛功德善本．從初發心至成得佛．都合集廻向阿耨多羅三藐三菩提．如是說者是名相似般若波羅蜜．釋提桓因白佛言．世尊．云何善男子善女人爲求佛道者．不說相似般若波羅蜜．佛言．若善男子善女人爲求佛道者說般若波羅蜜．善男子．汝修行般若波羅蜜莫觀色無常．何以故．色色性空．是色性非法若非法．則名爲般若波羅蜜．般若波蜜羅中色非常非無常．何以故．是中色尙不可得．何況常無常．憍尸迦．善男子善女人如是說者．是名不說相似般若波羅蜜．受想行識亦如是．復次憍尸迦．善男子善女人爲求佛道者說．汝善男子．修行般若波羅蜜．於諸法莫有所過莫有所住．何以故．般若波羅蜜中無有法可過可住．所以者何．一切法自性空．自性空是非法若非法．卽是般若波羅蜜．般若波羅蜜中無有法可入可出可生可滅．憍尸迦．是善男子善女人如是說．是名不說相似般若波羅蜜．廣說如上與相似相違．是名不說相似般若波羅蜜．如是憍尸迦．善男子善女人應如是演說般若波羅蜜義．若如是說般若波羅蜜義．所得功德勝於前者．復次憍尸迦．閻浮提中所有衆生皆敎令得須陀洹．於汝意云何．是人得福多不．答言．甚多世尊．佛言．不如是善男子善女人以般若波羅

誦讀明作讀誦次同

二元作三○沙下元明俱有等字

子下明有善女人三字○般上同有是字

誦讀三本俱作讀誦○出明作由

善男子三字三本俱在來下○說上同無解字○出生同作生出

如上三本俱無亦字

蜜爲他人種種因緣演說其義開示分別令易解。如是言。善男子善女人汝來受是般若波羅蜜。誦讀勤說正憶念。如般若波羅蜜中所說行。何以故。是般若波羅蜜中出生諸須陀洹。憍尸迦。置閻浮提中衆生。復置四天下衆生小千國土二千中國土三千大千國土衆生。若有人敎十方如恒河沙國土中衆生盡敎令得須陀洹。於汝意云何。是人得福多不。答言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人以般若波羅蜜爲他人種種因緣演說其義開示分別令易解。如是言。善男子。汝來受是般若波羅蜜。勤誦讀說正憶念。如般若波羅蜜中所說行。何以故。般若波羅蜜中出生諸須陀洹。復次憍尸迦。若有善男子善女人敎閻浮提中人。令得斯陀含阿那含阿羅漢。於汝意云何。是人得福多不。答言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人以般若波羅蜜爲他人種種因緣演說其義開示分別令易解。如是言。善男子。汝來受是般若波羅蜜。勤誦讀說正憶念。如般若波羅蜜中所說行。何以故。般若波羅蜜中出生諸斯陀含阿那含阿羅漢故。乃至十方如恒河沙等國土中衆生亦如是。復次憍尸迦。若善男子善女人敎一閻浮提中衆生令得辟支佛道。於汝意云何。是人得福多不。答言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人以般若波羅蜜爲他人種種因緣演說其義開示分別令易解。如是言。善男子。汝來受是般若波羅蜜。勤讀誦解說正憶念。如般若波羅蜜中所說行。何以故。般若波羅蜜中出生諸辟支佛道故。四天下乃至十方如恒河沙等國土中衆生亦如是。復次憍尸迦。善男子善女人敎一閻浮提中衆生。令發阿耨多羅三藐三菩提心。於汝意云何。是人得福多不。答言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人以般若波羅蜜爲他人種種因緣演說其義開示分別令易解。亦如是言。汝當隨般若波羅蜜中學。當得一切智法。汝若得一切智法。汝便得修行般若波羅蜜增益具足。若得修行般若波羅蜜增益具足。汝當得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。憍尸迦。般若波羅蜜中生諸初發意菩薩摩訶薩故。乃至十方如恒河沙等國土亦如是。復次憍尸迦。善男子善女人敎一閻浮提中衆生。令住阿惟越致地。於汝意云何。是人福德多不。答言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人以般若波羅蜜爲他人種種因緣演說其義開示分別令易解。亦如是言。汝來善男子。受是般若波羅蜜乃至如般若波羅蜜中所說行。汝便得一切智法。得一切智法已乃至便得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。般若波羅蜜中生諸菩薩摩訶薩

耶元作那○空
元作至

阿惟越致地故。乃至十方如恒河沙等國土亦如是。復次憍尸迦。一閻浮提中衆生發意求阿耨多羅三藐三菩提。若有善男子善女人爲是人廣説般若波羅蜜及其義解開示分別。如是言。汝來善男子。受是般若波羅蜜。乃至如般若波羅蜜中所說行。學已汝當得阿耨多羅三藐三菩提。復有人爲一阿惟越致菩薩演說般若波羅蜜及其義解開示分別。汝來受是般若波羅蜜。乃至如般若波羅蜜中所說行。學已汝當得阿耨多羅三藐三菩提。是善男子所得功德甚多。乃至十方如恒河沙等國土中亦如是。復次憍尸迦。若有一閻浮提中衆生皆得阿惟越致阿耨多羅三藐三菩提。復有善男子善女人以般若波羅蜜。爲是人演說其義。於是中有一菩薩疾欲得阿耨多羅三藐三菩提。若有善男子善女人。爲此菩薩說般若波羅蜜及其義解。是人功德最多。乃至十方如恒河沙等國土亦如是。釋提桓因白佛言。世尊。如菩薩摩訶薩轉轉近阿耨多羅三藐三菩提者。如是應轉轉教行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘黎耶波羅蜜禪波羅蜜般若波羅蜜。應教內空乃至無法有法空。四念處乃至八聖道分。佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。亦應供養衣服臥具飲食湯藥隨其所須。是善男子善女人。法施財施供養是菩薩。所得功德勝於前者。何以故。世尊。是菩薩摩訶薩疾得阿耨多羅三藐三菩提故。爾時慧命須菩提語釋提桓因言。善哉善哉。憍尸迦。汝爲聖弟子。安慰諸菩薩摩訶薩爲阿耨多羅三藐三菩提者。以法施財施利益法應爾。何以故。菩薩中生諸佛聖衆。若菩薩不發阿耨多羅三藐三菩提心者。是菩薩不能學六波羅蜜乃至十八不共法。若不學六波羅蜜乃至十八不共法。不能得阿耨多羅三藐三菩提。若不能得阿耨多羅三藐三菩提者。則無聲聞辟支佛。以是故。憍尸迦。諸菩薩摩訶薩學六波羅蜜乃至十八不共法。學六波羅蜜乃至十八不共法時。得阿耨多羅三藐三菩提。得阿耨多羅三藐三菩提故。斷地獄畜生餓鬼道。世間便有剎利大姓婆羅門大姓居士大家。四天王天乃至非有想非無想天。乃至檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不共法出現於世。聲聞乘辟支佛乘佛乘皆現於世

摩訶般若波羅蜜經卷第十

三本俱不分卷於此

品曰隨上宋元俱有摩訶般若波羅蜜經八字

福下三本俱無德字

至上同有乃字次同

福同作功

摩訶般若波羅蜜經卷第十一 〔麗董〕〔宋海〕〔元海〕〔明海〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

隨喜品第三十九 丹隨喜迴向品

爾時彌勒菩薩摩訶薩語慧命須菩提。有菩薩摩訶薩隨喜福德與一切衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。以無所得故。若聲聞辟支佛福德。若一切衆生福德。若布施若持戒若修定若隨喜。是菩薩摩訶薩隨喜福德與一切衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。其福德最上第一。最妙無上無與等。何以故。聲聞辟支佛及一切衆生。布施持戒修定隨喜。爲自調爲自淨爲自度故起。所謂四念處乃至八聖道分空無相無作。菩薩隨喜福德迴向阿耨多羅三藐三菩提。持是功德爲調一切衆生。爲淨一切衆生。爲度一切衆生故起。爾時慧命須菩提白彌勒菩薩言。諸菩薩摩訶薩念十方無量無邊阿僧祇國土中。無量無邊阿僧祇諸滅度佛。從初發心至得阿耨多羅三藐三菩提。入無餘涅槃乃至法盡。於其中間諸善根應六波羅蜜。及諸聲聞人善根。若布施福德持戒修定福德。及諸學人無漏善根。無學人無漏善根。諸佛戒衆定衆慧衆解脫衆解脫知見衆。一切智大慈大悲。及餘無量阿僧祇諸佛法。及諸佛所說法。是法中學得須陀洹果。乃至得阿羅漢果辟支佛道。入菩薩摩訶薩位。及餘衆生種諸善根。是諸善根一切和合隨喜福德。迴向阿耨多羅三藐三菩提。最上第一最妙無上無與等。如是隨喜已。持是隨喜福德迴向阿耨多羅三藐三菩提。若有善男子行菩薩乘者作是念我是心迴向阿耨多羅三藐三菩提。是生心緣事。若善男子。取相迴向阿耨多羅三藐三菩提。如所念可得不。彌勒菩薩語須菩提。是善男子行菩薩乘迴向阿耨多羅三藐三菩提。心是緣事。若善男子。取相不得如所念。須菩提語彌勒菩薩。若諸緣諸事無所有。是善男子行菩薩乘者。取相於十方諸佛諸善根。從初發心乃至法盡。及聲聞諸善根學無學善根。一切和合隨喜功德。迴向阿耨多羅三藐三菩提。以無相故。是菩薩將無顛倒。無常謂常想顛倒心顛倒見顛倒。不淨謂

淨．苦謂爲樂．無我謂我．想顚倒心顚倒見顚倒．若如緣如事．爲阿耨多羅三藐三菩提亦如是．迴向心亦如是．檀那波羅蜜尸羅羼提毘梨耶禪那般若波羅蜜．乃至十八不共法亦如是．若爾者．何等是緣．何等是事．何等是阿耨多羅三藐三菩提．何等是善根．何等是隨喜心迴向阿耨多羅三藐三菩提．彌勒菩薩語須菩提．若諸菩薩摩訶薩久行六波羅蜜．多供養諸佛種善根．與善知識相隨．善學自相空法．是諸菩薩是緣是事．諸佛諸善根隨喜福德．不取相迴向阿耨多羅三藐三菩提．以不二法非不二法．非相非不相．非可得法非不可得法．非淨非垢不生不滅法．是名迴向阿耨多羅三藐三菩提．若諸菩薩不久行六波羅蜜．不多供養諸佛．不種善根．不與善知識相隨．不善學自相空法．是諸菩薩是諸緣是諸事．諸佛諸善根隨喜福德諸心取相．迴向阿耨多羅三藐三菩提．是不名迴向．須菩提．如是般若波羅蜜義．乃至一切種智義．所謂內空乃至無法有法空．不應爲新學菩薩說．何以故．是菩薩所有少許信樂恭敬清淨心皆忘失．當在阿惟越致菩薩摩訶薩前說．若有爲善知識所護．若久供養諸佛種諸善根．應爲是人說如是般若波羅蜜義乃至一切種智義．所謂內空乃至無法有法空．是人聞是法不沒不驚不畏不怖．須菩提．菩薩摩訶薩隨喜福德．應如是迴向阿耨多羅三藐三菩提．所謂菩薩用心隨喜福德．迴向阿耨多羅三藐三菩提．是心盡滅變離．是緣是事是諸善根．亦盡滅變離．是中何等是隨喜心．何等是諸緣．何等是諸事．何等是諸善根．隨喜迴向阿耨多羅三藐三菩提．二心不俱．是心性亦不可得迴向．菩薩云何隨喜心迴向阿耨多羅三藐三菩提．若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．如是知是般若波羅蜜無有法．乃至檀那波羅蜜亦無有法．色無有法受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提無有法．菩薩摩訶薩應如是隨喜功德．迴向阿耨多羅三藐三菩提．若能如是迴向．是名隨喜功德迴向阿耨多羅三藐三菩提．爾時釋提桓因語須菩提．新發意菩薩聞是事將無驚懼怖畏．須菩提．云何新發意菩薩．作諸善根迴向阿耨多羅三藐三菩提．復云何隨喜福德迴向阿耨多羅三藐三菩提．須菩提語釋提桓因．若新發意菩薩行般若波羅蜜．不受是般若波羅蜜．以無所得故無相故．乃至檀那波羅蜜亦如是．多信解內空．乃至多信解無法有法空．多信解四念處乃至十八不共法．常與善知識相隨．是善知識爲說六波羅蜜義．開示分別如是教授．令常不離般若波羅蜜．乃至得入菩薩法位

羅下三本俱有波羅蜜三字

惟越同作毘跋

檀下同有那字

提下同有言字

解上三本俱有得字

想同作相下同

及同作是

乹明作乾○修同作脩下同○羅下同無緊那羅三字

作同作起

終不離般若波羅蜜．乃至不離檀那波羅蜜。不離四念處乃至十八不共法。亦教語魔事。聞種種魔事已不增不
滅．何以故．是菩薩摩訶薩不受一切法故．是菩薩亦常不離諸佛．乃至得菩薩位於中種善根．以是善根故生菩
薩家．|至得阿耨多羅三藐三菩提終不離是善根．復次新發意菩薩摩訶薩於過去十方無量無邊阿僧祇國土
中諸佛．|斷生死道斷諸戲論道．盡棄重擔滅聚落刺．斷諸有結正智|解脫．及弟子所作功德．於是中若刹利大姓
婆羅門大姓居士大家．四天王天乃至淨居天所種善根．是一切和合稱量．以隨喜心最上第一最妙無上無與
等應隨喜．隨喜已迴向阿耨多羅三藐三菩提．爾時彌勒菩薩語須菩提．若新發意菩薩摩訶薩念諸佛及弟子
諸善根隨喜功德．最上第一最妙無上無與等．隨喜已應迴向阿耨多羅三藐三菩提．云何菩薩不墮想顛倒心
顛倒見顛倒．須菩提言若菩薩摩訶薩念諸佛及僧．於是中不生佛|想．不生僧|想．無善根|想．用是心迴向阿耨多
羅三藐三菩提．是心中亦不生心|想．菩薩如是迴向想不顛倒心不顛倒見不顛倒．若菩薩摩訶薩念諸佛及僧
善根取相．取相已迴向阿耨多羅三藐三菩提．菩薩如是名爲想顛倒心顛倒見顛倒．若菩薩摩訶薩用是心念
諸佛及僧諸善根．是心念時即知盡滅．若盡滅是法不可得．迴向所用迴向心亦是盡滅相．所迴向處|及法亦如
是相．若如是相迴向．是名正迴向非邪迴向．菩薩摩訶薩應如是迴向阿耨多羅三藐三菩提．復次若菩薩摩訶
薩過去諸佛善根及弟子善根．是中凡夫人聞法種善根．若諸天龍夜叉乹闥婆阿|修羅迦樓羅|緊那羅摩睺羅
伽．聞法種善根．若刹利大姓婆羅門大姓居士大家．四天王天乃至阿迦尼吒天．聞法種善根．發阿耨多羅三藐
三菩提心．是一切福德和合稱量隨喜功德．最上第一最妙無上無與等．迴向阿耨多羅三藐三菩提．是時菩薩
若如是知是諸法盡滅．所迴向處及法亦自性空．能如是迴向．是名眞迴向阿耨多羅三藐三菩提．復次若菩薩
如是知無有法能迴向法．何以故．一切法自性空故．若如是迴向．是名正迴向阿耨多羅三藐三菩提．如是菩薩
摩訶薩行般若波羅蜜乃至檀那波羅蜜．不墮想顛倒心顛倒見顛倒．何以故．菩薩不著是迴向．亦不見以諸善
根迴向菩提心處．是名菩薩摩訶薩無上迴向．復次若菩薩摩訶薩知所|作福德離五陰十二入十八界．亦知般
若波羅蜜是離相．乃至檀那波羅蜜是離相．內空乃至無法有法空是離相．四念處乃至十八不共法是離相．如

過上三本俱無諸字○佛上同有諸字

飯宋作飲○誦讀三本俱作讀誦○已同作以

是菩薩摩訶薩隨喜心起福德.名廻向阿耨多羅三藐三菩提.復次若菩薩摩訶薩隨喜福德.知隨喜福德自性離.亦知諸佛離.佛性諸善根亦離.善根性菩提心菩提心性亦離.廻向廻向性亦離.菩薩菩薩性亦離.般若波羅蜜般若波羅蜜性亦離.禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜檀那波羅蜜性亦離.乃至十八不共法十八不共法性亦離.菩薩摩訶薩應如是行離相般若波羅蜜.是名菩薩摩訶薩般若波羅蜜中生隨喜福德.復次菩薩摩訶薩|諸過去滅度|佛諸善根.若欲廻向應如是廻向.作是念如諸佛滅度.相.諸善根相亦如是.滅度法相亦如是.我用心廻向是心相亦如是.若能如是廻向.當知是廻向阿耨多羅三藐三菩提.如是廻向不墮想顛倒心顛倒見顛倒.若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.取諸佛善根相廻向阿耨多羅三藐三菩提.是不名爲廻向.何以故.諸過去佛及善根.非相緣非無相緣.若菩薩摩訶薩作如是取相.是不名善根廻向阿耨多羅三藐三菩提.如是菩薩摩訶薩墮想顛倒心顛倒見顛倒.若菩薩摩訶薩諸佛及諸善根及諸心不取相.是名以諸善根廻向阿耨多羅三藐三菩提.如是菩薩摩訶薩不墮想顛倒心顛倒見顛倒.爾時彌勒菩薩問須菩提.云何菩薩摩訶薩於諸善根不取相.能廻向阿耨多羅三藐三菩提.須菩提言.以是事故.當知菩薩摩訶薩所學般若波羅蜜中.應有般若波羅蜜方便力.若是福德離般若波羅蜜.不得廻向阿耨多羅三藐三菩提.何以故.般若波羅蜜中諸佛不可得.諸善根不可得.廻向阿耨多羅三藐三菩提心亦不可得.於是中菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.應如是思惟.過去諸佛及弟子身皆滅諸善根亦滅.我今取相分別諸佛諸善根及諸心.以是取相廻向阿耨多羅三藐三菩提.諸佛所不許.何以故.取相有所得故.所謂於過去諸佛取相分別.是故菩薩摩訶薩欲以諸善根廻向阿耨多羅三藐三菩提.不應有得不應取相如是廻向.若有得取相廻向.諸佛不說有大利益.何以故.是廻向雜毒故.譬如美食雜毒.雖有好色好香爲人所貪而其中雜毒.愚癡之人食之歡喜.貪其好色香美可口.|飯欲消時受若死若死等苦.若善男子善女人.不諦受不諦取相.不諦|誦讀|不解中義.如是敎他言.汝善男子.過去未來現在十方諸佛.從初發意|已來至得阿耨多羅三藐三菩提.入無餘涅槃乃至法盡.於其中間行般若波羅蜜時作諸善根.行禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜時作諸善根.

陀 三本俱作那

如上同無餘字　諸上元明俱有修字

如上三本俱有如如二字

過上宋元俱有不字明有不名二字

修四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分佛十力乃至修十八不共法時作諸善根淨佛國土成就衆生作諸善根及諸佛戒衆定衆慧衆解脫衆解脫知見衆一切種智無錯謬法常捨行及諸弟子是中所種善根及諸佛所記當作辟支佛是中諸天龍阿修羅迦樓羅緊陀羅摩睺羅伽等所種善根是諸福德稱量和合隨喜迴向阿耨多羅三藐三菩提是迴向以取相得法故如雜毒食得法者終無正迴向何以故是得法雜毒有相有動有戲論若如是迴向則爲謗佛不隨佛教不隨法說是善男子善女人求佛道應如是學過去未來現在諸佛從初發意乃至法盡及弟子行般若波羅蜜時作善根乃至脩一切種智餘如上說云何諸善根迴向阿耨多羅三藐三菩提正迴向有求佛道善男子善女人行般若波羅蜜不欲謗諸佛者諸福德應如是迴向如諸佛所知以無上智慧是諸善根相是諸善根性我亦如是隨喜如諸佛所知我亦如是迴向阿耨多羅三藐三菩提求菩薩道善男子善女人應如是迴向阿耨多羅三藐三菩提若如是迴向則爲不謗佛如佛所教如佛法說是菩薩摩訶薩迴向則無雜毒復次求佛道善男子善女人行般若波羅蜜時諸善根應如是迴向如色不繫欲界不繫色界不繫無色界不繫法者不名過去不名未來不名現在如受想行識不繫欲界不繫色界不繫無色界不繫法者不名過去未來現在十二入十八界亦如是如般若波羅蜜不繫欲界不繫色界不繫無色界不繫法者不名過去未來現在禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜亦如是內空乃至無法有法空亦如是如四念處不繫欲界不繫色界不繫無色界不繫法者不名過去未來現在乃至八聖道分亦如是佛十力乃至十八不共法亦如是如法性法相法住法位實際不可思議性戒定慧解脫解脫知見衆一切種智無錯謬法常捨行不繫欲界不繫色界不繫無色界不繫法者不名過去未來現在是迴向所迴向處行者不繫皆亦如是是諸佛亦不繫諸善根亦不繫是諸聲聞辟支佛善根亦不繫不繫法者不名過去未來現在若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時如是知色不繫三界不繫法者不名過去未來現在若法過去未來現在者不可以取相有所得法迴向阿耨多羅三藐三菩提何以故是色無生若法無生則無法無法中不可迴向受想行識亦如是檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜四念處乃至無錯謬法常捨行不繫三界不繫法者亦非過去未來現在若非過去未來現在法者不可以取相有

三本俱以無與等爲卷第十二終同復次須菩提以下爲卷第十三隨喜品第三十九之餘

天下元明俱有子字

所得法迴向阿耨多藐三藐三菩提．何以故．是法無生．若無生則無法．無法中不可迴向．菩薩摩訶薩如是迴向則無雜毒．若求佛道善男子善女人．以取相得法．以諸善根迴向阿耨多羅三藐三菩提．是名邪迴向．若邪迴向諸佛所不稱譽．用是邪迴向不能具足檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜．不能具足四念處乃至八聖道分．內空乃至無法有法空．佛十力乃至無錯謬法常捨行．不能具足淨佛國土成就衆生．若不能淨佛國土成就衆生．則不能得阿耨多羅三藐三菩提．何以故．是迴向雜毒故．復次菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．應作是念．如諸佛所知諸善根迴向．是眞迴向．我亦應以是法相迴向．是名正迴向．爾時佛讚須菩提．善哉善哉．如汝所爲爲作佛事．爲諸菩薩摩訶薩說所應迴向法．以無相無得無出無垢無淨．無法性自相空常自性空．如法性如實際故．須菩提．若三千大千國土中衆生．皆行十善道四禪四無量心四無色定五神通．於須菩提意云何．是衆生得福多不．甚多世尊．佛言．不如是善男子善女人於諸善根心不著．迴向阿耨多羅三藐三菩提．須菩提．是善男子善女人福德．最上第一．最妙無上無與等．復次須菩提．若三千大千國土中衆生皆得須陀洹乃至阿羅漢辟支佛．若有善男子善女人盡形壽供養恭敬尊重讚歎．衣服飲食臥具醫藥供給所須．於須菩提意云何．是善男子善女人．是因緣故得福德多不．甚多世尊．佛言．不如是善男子善女人於諸善根心不著．迴向阿耨多羅三藐三菩提．最上第一．最妙無上無與等．復次須菩提．若三千大千國土中衆生皆發阿耨多羅三藐三菩提心．十方如恒河沙等國土中一一衆生．如恒河沙等劫．恭敬尊重讚歎供養是菩薩．衣服飲食臥具醫藥供給所須．於須菩提意云何．是善男子善女人是因緣故得福多不．甚多世尊．無量無邊阿僧祇不可以譬喩爲比．世尊．若是福德有形者．十方如恒河沙等國土所不受．佛告須菩提．善哉善哉．如汝所言．雖爾不如善男子善女人於諸善根心不著．迴向阿耨多羅三藐三菩提．最上第一．最妙無上無與等．是無著迴向功德．比前功德百倍千倍百千萬億倍．乃至算數譬喩所不能及．何以故．是善男子善女人取相得法．行十善道四禪四無量心四無色定五神通．取相得法供養須陀洹恭敬尊重讚歎．衣服飲食臥具醫藥供給所須．乃至取相供養菩薩故．爾時四天王天與二萬諸天．合掌禮佛作是言．世尊．菩薩摩訶薩最大迴向．以方便力故．以無所得故．以無相法故．以無覺法故．諸善根迴向阿

擣明作擣○鼓
天宋作天鼓○
如元明俱作作
是上三本俱俱
如二字作作
如三本俱作作
次同
足上同有佛字
○世界同作國
土
無下同無有字

耨多羅三藐三菩提。如是迴向不墮二法。爾時釋提桓因。亦與無數百千億三十三天及餘諸天子。持天華瓔珞擣香澤香天衣幡蓋鼓天伎樂以供養佛。如是言。世尊。菩薩摩訶薩最大迴向。以方便力故。以無所得故。以無相法故。以無覺法故。諸善根迴向阿耨多羅三藐三菩提。如是迴向不墮二法。須夜摩天王與千天子。刪兜率陀化樂他化自在諸天王。各與千天子俱。供養佛已。俱如是言。世尊。菩薩摩訶薩最大迴向。以方便力故。以無所得故。以無相法故。以無覺法故。諸善根迴向阿耨多羅三藐三菩提。如是迴向不墮二法。爾時諸梵天。與無數百千億那由他諸天俱。詣佛所頭面禮佛足。發大音聲。如是言。未曾有也。世尊。菩薩摩訶薩爲般若波羅蜜所護以方便力故。勝前善男子善女人取相有所得者。光音天乃至阿迦尼吒天。與無數百千億那由他諸天俱。詣佛所頭面禮足。發大音聲。如是言。未曾有也。世尊。菩薩摩訶薩爲般若波羅蜜所護以方便力故。勝前善男子善女人取相有所得者。爾時佛告四天王天乃至阿迦尼吒諸天子。若三千大千世界中所有衆生。皆發阿耨多羅三藐三菩提心。是一切菩薩念過去未來現在諸佛及聲聞辟支佛諸善根。從初發意乃至法住。於其中間所有善根。幷餘一切衆生所有善根。所謂布施持戒忍辱精進一心智慧。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。戒衆定衆慧衆解脫衆解脫知見衆。如是等諸餘無量佛法一切和合隨喜。隨喜已迴向阿耨多羅三藐三菩提。以取相有所得故。復有善男子善女人發阿耨多羅三藐三菩提心。念過去未來現在諸佛及聲聞辟支佛。從初發意乃至法住。於其中間所有善根。幷餘一切衆生所有善根所謂布施持戒忍辱精進一心智慧檀那波羅蜜乃至無量諸佛法。一切和合稱量。以無所得故。無二法故。無有相法故。不著法故。無覺法故。是最上隨喜。第一最妙無上無與等隨喜。隨喜已迴向阿耨多羅三藐三菩提。是善男子善女人功德。勝前善男子善女人功德百倍千倍百千萬億倍。乃至算數譬喩所不能及。爾時須菩提白佛言。世尊。世尊說善男子善女人和合諸善根稱量隨喜迴向。最上第一最妙無上無與等。世尊。云何名隨喜最上。乃至無與等。佛言。若善男子善女人於過去未來現在諸法。不取不捨不念非不念不得非不得。是諸法中亦無有法生者滅者若垢若淨。諸法不增不減不來不去。不合不散不入不出。如過去未來現在諸法相。如如相法性法住法位。我亦如是隨喜。隨喜已迴向阿耨多羅三藐三菩提。如是迴向

最上第一最妙無上無與等須菩提是隨喜法比餘隨喜百倍千倍百千萬億倍乃至算數譬喻所不能及復次須菩提求佛道善男子善女人於過去未來現在諸佛及聲聞辟支佛從初發心乃至法住於其中間所有善根若布施乃至智慧檀那波羅蜜乃至無量諸佛法及餘一切衆生所有善根若欲隨喜者應如是隨喜作是念布施與解脫等戒忍精進禪智與解脫等色與解脫等受想行識亦與解脫等內空與解脫等乃至無法有法空亦與解脫等四念處與解脫等乃至八聖道分亦與解脫等佛十力與解脫等乃至一切種智亦與解脫等戒衆定衆慧衆解脫衆解脫知見衆亦與解脫等隨喜與解脫等過去未來現在諸法與解脫等十方諸佛與解脫等諸佛迴向與解脫等諸佛與解脫等諸佛滅度與解脫等諸佛弟子聲聞辟支佛與解脫等諸佛弟子滅度與解脫等諸佛法相與解脫等諸聲聞辟支佛法相與解脫等一切諸法相亦與解脫等我以是諸善根相隨喜功德迴向阿耨多羅三藐三菩提亦與解脫等不生不滅故須菩提是名諸菩薩摩訶薩隨喜功德最上第一最妙無上無與等須菩提菩薩成就是隨喜功德當疾得阿耨多羅三藐三菩提復次須菩提十方如恒河沙等現在諸佛及諸弟子現在若有求佛道善男子善女人盡形壽供養是諸佛及弟子一切所須供養恭敬尊重讚歎衣服飲食臥具醫藥是諸佛滅度後晝夜懃修供養恭敬尊重讚歎華香乃至幡蓋伎樂以取相有所得故持戒忍辱精進禪定修智慧以取相有所得故復有善男子善女人發意求阿耨多羅三藐三菩提行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜以不取相無所得法方便力諸善根迴向阿耨多羅三藐三菩提是福德最上第一最妙無上無與等勝前福德百倍千倍百千萬倍乃至算數譬喻所不能及如是須菩提菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜時以方便力故諸善根應迴向阿耨多羅三藐三菩提以不取相無所得法故

摩訶般若波羅蜜經照明品第四十（丹本名大度品）

爾時慧命舍利弗白佛言世尊是般若波羅蜜佛言是般若波羅蜜世尊般若波羅蜜能照一切法畢竟淨故世

佛下三本俱有佛字次同
子下同無現在二字〔〕懃同作勤
智上明無修字
倍上同有億字〔〕蜜下同無時字
品目上同無經名下同

道三本俱作見

卽同作則次同

羅下三本俱有波羅蜜字〇智上元明俱有種字

尊.應禮般若波羅蜜.世尊.般若波羅蜜不著三界.世尊.般若波羅蜜除諸闇冥.一切煩惱諸見除故.世尊.般若波羅蜜一切助道法中最上.世尊.般若波羅蜜安隱.能斷一切怖畏苦惱故.世尊.般若波羅蜜能與光明.五眼莊嚴故.世尊.般若波羅蜜能示導墮邪|道衆生.離二邊故.世尊.般若波羅蜜是一切種智.一切煩惱及習斷故.世尊.般若波羅蜜是諸菩薩摩訶薩母.能生諸佛法故.世尊.般若波羅蜜不生不滅.自相空故.世尊.般若波羅蜜遠離生死.非常非滅故.世尊.般若波羅蜜無救者作護.施一切珍寶故.世尊.般若波羅蜜具足力.無能破壞故.世尊.般若波羅蜜能轉三轉十二行法輪.一切諸法不轉不還故.世尊.般若波羅蜜能示諸法性.無法有法空故.世尊.應云何供養般若波羅蜜.佛言.當如供養世尊.禮般若波羅蜜當如禮世尊.何以故.世尊不異般若波羅蜜.般若波羅蜜不異世尊.世尊|卽是般若波羅蜜.般若波羅蜜|卽是世尊.是般若波羅蜜中.出生諸佛菩薩辟支佛阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹.般若波羅蜜中生十善道四禪四無量心四無色定五神通.內空乃至無法有法空.四念處乃至八聖道分.是般若波羅蜜中生佛十力十八不共法.大慈大悲一切種智.爾時釋提桓因心念.何因緣故.舍利弗問是事.念已語舍利弗.何因緣故問是事.舍利弗語釋提桓因言.憍尸迦.諸菩薩摩訶薩.爲般若波羅蜜守護.以漚惒拘舍羅力故.於過去未來現在諸佛.從初發心乃至法住.於其中間所作善根一切和合隨喜.廻向阿耨多羅三藐三菩提.以是因緣故我問是事.憍尸迦.菩薩摩訶薩般若波羅蜜.勝檀那波羅蜜尸|羅羼提毗棃耶禪那波羅蜜.譬如生盲人若百若千若百千.而無前導不能趣道入城.憍尸迦.五波羅蜜亦如是.離般若波羅蜜如盲無導不能趣道.不能得一切|智.憍尸迦.若五波羅蜜得般若波羅蜜將導.是時五波羅蜜名爲有眼.般若波羅蜜將導得波羅蜜名字.釋提桓因語舍利弗.如所言.般若波羅蜜將導五波羅蜜故.得波羅蜜名字.舍利弗.若無檀那波羅蜜助五波羅蜜.不得波羅蜜名字.若無尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜.五波羅蜜不得波羅蜜名字.若爾者何以故.獨讚般若波羅蜜.舍利弗言.如是如是.憍尸迦.無檀那波羅蜜.五波羅蜜不得波羅蜜名字.無尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜.五波羅蜜不得波羅蜜名字.但菩薩摩訶薩住般若波羅蜜中.能具足檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜.以是故.憍

尸迦．般若波羅蜜．於五波羅蜜中最上第一．最妙無上無與等．舍利弗白佛言．世尊．云何應生般若波羅蜜．佛告舍利弗．色不生故般若波羅蜜生．受想行識不生故般若波羅蜜生．檀那波羅蜜不生故般若波羅蜜生．乃至禪那波羅蜜不生故般若波羅蜜生．內空乃至無法有法空．四念處乃至八聖道分．佛十力乃至一切智．一切種智不生故．般若波羅蜜生．如是諸法不生故般若波羅蜜應生．舍利弗言．世尊．云何色不生故般若波羅蜜生．乃至一切諸法不生故般若波羅蜜應生．佛言．色不起不生不得不失故．乃至一切諸法不起不生不得不失故．般若波羅蜜生．舍利弗白佛言．如是生般若波羅蜜．與何等法合．佛言．無所與合．以是故．得名般若波羅蜜．世尊．不與何等法合．佛言．不與不善法合．不與善法合．不與世間法合．不與出世間法合．不與有漏法合．不與無漏法合．不與有罪法合．不與無罪法合．不與有爲法合．不與無爲法合何以故．般若波羅蜜不爲得法故生．以是故於諸法無所合．爾時釋提桓因白佛言．世尊．是般若波羅蜜亦不合薩婆若．佛言．如是憍尸迦．般若波羅蜜亦不合．薩婆若亦不得故．釋提桓因言．世尊．云何般若波羅蜜亦不合．薩婆若亦不得．佛言．般若波羅蜜不如名字不如相．不如起作法合．釋提桓因言．今云何合．佛言．若菩薩摩訶薩如不取不受不住不著不斷．如是合亦無所合．如是憍尸迦．般若波羅蜜一切法合亦無所合．爾時釋提桓因白佛言．未曾有也．世尊．是般若波羅蜜力．爲一切法不起不生不得不失故生．須菩提白佛言．世尊．若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．作是念．般若波羅蜜若一切法合若不合．是菩薩摩訶薩則捨般若波羅蜜．遠離般若波羅蜜．佛告須菩提．復有因緣．菩薩摩訶薩捨般若波羅蜜．遠離般若波羅蜜．若菩薩摩訶薩作是念．是般若波羅蜜無所有．空虛不堅固．是菩薩摩訶薩則捨般若波羅蜜．遠離般若波羅蜜．須菩提．以是因緣故．捨離般若波羅蜜．須菩提白佛言．世尊．信般若波羅蜜．爲不信何法．佛告須菩提．信般若波羅蜜．則不信色不信受想行識．不信眼乃至意．不信色乃至法．不信眼識界乃至意識界．不信檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘黎耶波羅蜜禪那波羅蜜．不信內空乃至無法有法空．不信四念處乃至八聖道分．不信佛十力乃至十八不共法．不信須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道．不信菩薩道．不信阿耨多羅三藐三菩提乃至一切種智．須菩提白佛言．世尊．云何信般若波羅蜜時不信色乃至一切種智．

法上同有諸字
得下三本俱無故字
蜜下同無力字
眼下元明俱無識字．

尸下三本俱無羅字○檀下三本俱無那字○不作色同作色不作○散上同無色字

蜜下同有多字而無不生乃至羅蜜十一字

佛告須菩提.色不可得故.信般若波羅蜜不信色.乃至一切種智不可得故.信般若波羅蜜不信一切種智.以是故.須菩提.信般若波羅蜜時.不信色乃至不信一切種智.須菩提白佛言.世尊.是般若波羅蜜.名爲摩訶波羅蜜.須菩提.何因緣故.是般若波羅蜜.名爲摩訶波羅蜜.須菩提言.世尊.是般若波羅蜜不作色大不作色小.受想行識不作大不作小.眼乃至意.色乃至法.眼識界乃至意識界.不作大不作小.檀那波羅蜜乃至禪那波羅蜜.不作大不作小.內空乃至無法有法空.不作大不作小.四念處乃至阿耨多羅三藐三菩提.不作大不作小.諸佛法不作大不作小.諸佛不作大不作小.是般若波羅蜜不作色合不作色散.受想行識不作合不作散.乃至諸佛不作合不作散.不作色無量.不作色非無量.乃至諸佛不作無量.不作非無量.不作色廣不作色狹.乃至諸佛不作廣不作狹.不作色有力.不作色無力.乃至諸佛不作有力不作無力.世尊.以是因緣故.是般若波羅蜜名摩訶波羅蜜.世尊.若新發意菩薩摩訶薩.若不遠離般若波羅蜜.不遠離禪那波羅蜜.不遠離毗梨耶波羅蜜.不遠離羼提波羅蜜.不遠離尸羅波羅蜜.不遠離檀那波羅蜜.如是念是般若波羅蜜.不作色大不作色小.乃至諸佛不作大不作小.不作色合不作色散.不作色無量.不作色非無量.不作色有力.不作色無力.乃至諸佛不作有力不作無力.世尊.菩薩摩訶薩若如是知.是爲不行般若波羅蜜.何以故.是非般若波羅蜜相.所謂作色大小.乃至諸佛作大小.色有力無力.乃至諸佛有力無力.世尊.是菩薩摩訶薩.用有所得故有大過失.所謂行般若波羅蜜時.作色大作色小.乃至諸佛作有力作無力.何以故.有所得相者無阿耨多羅三藐三菩提.所以者何.衆生不生故般若波羅蜜不生.色不生故般若波羅蜜不生.乃至佛不生故般若波羅蜜不生.衆生性無故般若波羅蜜性無.色性無故般若波羅蜜性無.乃至佛性無故般若波羅蜜性無.衆生非法故般若波羅蜜非法.色非法故般若波羅蜜非法.乃至佛非法故般若波羅蜜非法.衆生空故般若波羅蜜空.色空故般若波羅蜜空.乃至佛空故般若波羅蜜空.衆生離故般若波羅蜜離.色離故般若波羅蜜離.乃至佛離故般若波羅蜜離.衆生無有故般若波羅蜜無有.色無有故般若波羅蜜無有.乃至佛無有故般若波羅蜜無有.衆生不可思議故般若波羅蜜不可思議.色不可思議故般若波羅蜜不可思議.乃至佛不可思議故般若波羅蜜不可思議.衆生不滅故般若波羅蜜不滅色

不滅故般若波羅蜜不滅。乃至佛不滅故般若波羅蜜不滅。衆生不可知故般若波羅蜜不可知。色不可知故般若波羅蜜不可知。乃至佛不可知故般若波羅蜜不可知。衆生力不成就故般若波羅蜜力不成就。色力不成就故般若波羅蜜力不成就。乃至佛力不成就故般若波羅蜜力不成就。世尊。以是因緣故。諸菩薩摩訶薩般若波羅蜜名爲摩訶波羅蜜

摩訶般若波羅蜜經信毀品第四十一（丹泥梨品）

爾時慧命舍利弗白佛言。世尊。有菩薩摩訶薩信解是般若波羅蜜者。從何處　來生是間。發阿耨多羅三藐三菩提心。來爲幾時。爲供養幾佛。行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。供養幾佛來爲幾時。能隨順解深般若波羅蜜義。佛告舍利弗。是菩薩摩訶薩供養十方諸佛來生是間。是菩薩發阿耨多羅三藐三菩提心來。無量無邊阿僧祇百千萬億劫。是菩薩摩訶薩從初發心常行六波羅蜜。供養無量無邊不可思議阿僧祇諸佛。來生是間。舍利弗。是菩薩摩訶薩若見若聞般若波羅蜜。作是念我見佛從佛聞法。舍利弗。是菩薩摩訶薩能隨順解深般若波羅蜜義。以無相無二無所得故。須菩提白佛言。世尊。是般若波羅蜜可聞可見耶。佛告須菩提。是般若波羅蜜無有聞者無有見者。般若波羅蜜無聞無見諸法鈍故。禪那波羅蜜毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。無聞無見諸法鈍故。內空無聞無見諸法鈍故。乃至無法有法空無聞無見諸法鈍故。四念處無聞無見諸法鈍故。乃至八聖道分無聞無見諸法鈍故。佛十力乃至十八不共法無聞無見諸法鈍故。須菩提。佛及佛道無聞無見諸法鈍故。須菩提白佛言。世尊。是菩薩幾時行佛道。能習行如是深般若波羅蜜。佛告須菩提。是中應分別說。須菩提。有菩薩摩訶薩初發意習行深般若波羅蜜禪那波羅蜜毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。以方便力故於法無所破壞。不見諸法無利益者。亦終不遠離　六波羅蜜。亦不遠離諸佛。從一佛國至一佛國。若欲以善根力供養諸佛隨意即得。終不生母人腹中。終不離諸神通。終不生諸煩惱及聲聞辟支佛心。從一佛國至一佛國。成就衆生淨佛國土。須菩提。如是

蜜下同無供養幾佛四字〇六波羅蜜同作檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜三十一字

國三本俱作世界二字下同

億下同有劫字
則爲同作卽是〇毀呰同作呰毀
生下元明俱有生字
呰毀三本俱作毀呰〇身上同有其字
壞同作破〇苦同作憂〇令上同有戒字

等諸菩薩摩訶薩能習行深般若波羅蜜。須菩提。有菩薩摩訶薩多見諸佛若無量百千萬億。從諸佛所行布施持戒忍辱精進一心智慧。皆以有所得故。是菩薩聞說深般若波羅蜜時。便從衆中起去。不恭敬深般若波羅蜜及諸佛。是菩薩今在此衆中坐。聞是甚深般若波羅蜜。不樂故便捨去。何以故。是善男子善女人等。先世聞深般若波羅蜜時棄捨去。今世聞深般若波羅蜜亦棄捨去。身心不和。是人種愚癡因緣業種。是愚癡因緣罪故。聞說深般若波羅蜜呰毀。呰毀深般若波羅蜜故。則爲呰毀過去未來現在諸佛一切智一切種智。是人毀呰三世諸佛一切智故起破法業。破法業因緣集故。無量百千萬億歲墮大地獄中。是破法人輩從一大地獄至一大地獄。若火劫起時。至他方大地獄中生在彼間。從一大地獄至一大地獄。彼間若火劫起時。復至他方大地獄中生在彼間。從一大地獄至一大地獄。如是遍十方。彼間若火劫起故從彼死。破法業因緣未盡故。還來是間大地獄中生此間。亦從一大地獄至一大地獄受無量苦。此間火劫起時。復生十方他國土。生畜生中。受破法罪業苦。如地獄中說。重罪轉薄或得人身。生盲人家生旃陀羅家。生除廁擔死人種種下賤家。若無眼若一眼若眼瞎。無舌無耳無手。所生處無佛無法無佛弟子處。何以故。種破法業積集厚重具足故受是果報。爾時舍利弗白佛言。世尊。五逆罪與破法罪相似耶。佛告舍利弗。不應言相似。所以者何。若有人聽說是甚深般若波羅蜜時。毀呰不信般若波羅蜜作是言。不應學是法。是非法非善非佛教。諸佛不說是語。是人自呰毀般若波羅蜜。亦教他人毀呰般若波羅蜜。自壞其身亦壞他人身。自飮毒殺身亦飮他人毒。自失身亦失他人身。自不知不信毀呰深般若波羅蜜。亦教他人令不信不知。舍利弗。如是人我不聽聞其名字。何況眼見共住。何以故。當知是人名爲汙法人。爲墮衰濁黑性。如是人若有聽其言信用其語。亦受如是苦。舍利弗。若人破般若波羅蜜。當知是名爲壞法人。舍利弗白佛言。世尊。世尊說壞法之人所受重罪。不說是人所受身體大小。佛告舍利弗。不須說是人受身大小。何以故。是壞法人若聞自所受身體大小。便當吐熱血若死若近死苦。是破法人聞如是身有如是重罪。是人便大愁毒。如箭入心漸漸乾枯。作是念。破法罪故得如是大醜身受如是無量苦。以是故。佛不聽舍利弗問是人所受身體大小。舍利弗白佛言。願佛說之。爲未來世作明。令知破法業積集故。得如是大醜身受如是苦。佛告舍利弗。後世

時苦同作苦時○明下宋無誡字同元明俱作戒○壞三本俱作破

四下同無佛言二字

○般上同有深字○懃同作勤次同○此宋作此之二字元明俱無○深上三本俱有是字○得下同無此字○八下宋有說字

入若聞是破法業積集厚重具足。受大地獄中久久無量苦。聞是久久無量時苦。足爲未來世作明誡。舍利弗白佛言。世尊。若白淨性善男子善女人。聞是法足作依止。寧失身命不壞法。自念我若破法當受如是苦。爾時須菩提白佛言。世尊。善男子善女人。應好攝身口意業。無受如是諸苦。或不見佛或不聞法或不親近僧。或生無佛國土中。或生人中墮貧窮家。或人不信受其言。須菩提白佛言。世尊。以積集口業故。有如是破法重罪耶。佛告須菩提。以積集口業故有是破法重罪。須菩提。是愚癡人在佛法中出家受戒。破深般若波羅蜜毀呰不受。須菩提。若破般若波羅蜜。毀呰般若波羅蜜。則爲破十方諸佛一切智。一切智破故。則爲破佛寶。破佛寶故破法寶。破法寶故破僧寶。破三寶故。則破世間正見。破世間正見故。則破四念處。乃至破一切種智法。破一切種智法故。則得無量無邊阿僧祇罪。得無量無邊阿僧祇罪已。則受無量無邊阿僧祇憂苦。須菩提白佛言。世尊。是愚癡人毀呰破壞是深般若波羅蜜。有幾因緣。佛告須菩提。有四因緣。是愚癡人毀呰破是深般若波羅蜜。須菩提言。世尊。何等四。佛言。是愚癡人爲魔所使故。欲毀呰破壞深般若波羅蜜。是名初因緣。是愚癡人不信深法不信不解心不得清淨。是第二因緣故。是愚癡人欲毀呰破壞深般若波羅蜜。是愚癡人與惡知識相隨心沒懈怠。堅著五受陰。是第三因緣故。是愚癡人欲毀呰破壞深般若波羅蜜。是愚癡人多行瞋恚自高輕人。是第四因緣故。是愚癡人欲毀呰破壞深般若波羅蜜。須菩提。以是四因緣故。愚癡人欲破壞深般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。是般若波羅蜜。不懃精進種不善根惡友相得。此人難信難解。佛言。如是如是。須菩提。深般若波羅蜜不懃精進種不善根惡友相得。此人難信難解。須菩提白佛言。世尊。是般若波羅蜜云何甚深難信難解。須菩提。色不縛不解。何以故。無所有性是色。受想行識不縛不解。何以故。無所有性是受想行識。檀那波羅蜜不縛不解。何以故。無所有性是檀那波羅蜜。尸羅波羅蜜不縛不解。何以故。無所有性是尸羅波羅蜜。羼提波羅蜜不縛不解何以故。無所有性是羼提波羅蜜。毗棃耶波羅蜜不縛不解。何以故。無所有性是毗棃耶波羅蜜。禪那波羅蜜不縛不解。何以故。無所有性是禪那波羅蜜。般若波羅蜜不縛不解。何以故。無所有性是般若波羅蜜。須菩提。內空不縛不解。何以故。無所有性是內空。乃至無法有法空不縛不解。何以故。無所有性是無法有法空。四念處不縛不解。何以故。無所

本上元明俱無色字

現明作行○在下同無色字○行同作現○意明作喜次同○如上三本俱無佛言二字

淨下同無故字

我下元明俱無淨字

有性是四念處.乃至一切智一切種智不縛不解.何以故.無所有性是一切智一切種智.須菩提.色本際不縛不解.何以故.色本際無所有性是色.受想行識乃至一切種智本際不縛不解.何以故.本際無所有性是一切種智.須菩提.色後際不縛不解.何以故.後際無所有性是色.受想行識乃至一切種智後際不縛不解.何以故.後際無所有性是一切種智.須菩提.現在色不縛不解.何以故.現在無所有性是色.受想行識乃至現在一切種智不縛不解.何以故.現在無所有性是一切種智.須菩提白佛言.世尊.是般若波羅蜜不勤精進.不種善根惡友相得.懈怠少進.意忘無巧便慧.如此之人實難信難解.佛言.如是如是.須菩提.是般若波羅蜜不勤精進.不種善根惡友相得繫屬於魔.懈怠少進.意忘無巧便慧.如此之人實難信難解.何以故.色淨果亦淨.受想行識淨果亦淨.乃至阿耨多羅三藐三菩提淨果亦淨.復次須菩提.色淨故即般若波羅蜜淨.般若波羅蜜淨即色淨.受想行識淨故即般若波羅蜜淨.般若波羅蜜淨即受想行識淨.乃至一切種智淨即般若波羅蜜淨.般若波羅蜜淨即一切種智淨.色淨般若波羅蜜淨.無二無別無斷無壞.乃至一切種智淨般若波羅蜜淨.無二無別無斷無壞.復次須菩提.不二淨故色淨.不二淨故乃至一切種智淨.何以故.是不二淨色淨.乃至一切種智淨.無二無別故.我淨衆生淨.乃至知者見者淨故.色淨受想行識淨.乃至一切種智淨.色淨乃至一切種智淨故.我淨衆生乃至知者見者淨.何以故.是我衆生乃至知者見者淨.色淨乃至一切種智淨.不二不別無斷無壞.復次須菩提.婬淨故色淨.乃至一切種智淨.何以故.婬淨色淨乃至一切種智淨不二不別.瞋癡淨故色淨.乃至一切種智淨.何以故.瞋癡淨色淨乃至一切種智淨.不二不別.復次須菩提.無明淨故諸行淨.諸行淨故識淨.識淨故名色淨.名色淨故六入淨.六入淨故觸淨.觸淨故受淨.受淨故愛淨.愛淨故取淨.取淨故有淨.有淨故生淨.生淨故老死淨.老死淨故般若波羅蜜淨.般若波羅蜜淨故.乃至檀那波羅蜜淨.檀那波羅蜜淨故內空淨.內空淨故乃至無法有法空淨.無法有法空淨故四念處淨.四念處淨故乃至一切智淨.一切智淨故一切種智淨.何以故.是一切智淨一切種智淨.不二不別無斷無壞.復次須菩提.般若波羅蜜淨故色淨.乃至般若波羅蜜淨故一切智淨.是般若波羅蜜淨一切智淨.不二不別故.須菩提.禪那波羅蜜淨故乃至一切智淨.毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀

那波羅蜜淨故.乃至一切智淨.內空淨故乃至一切智淨.四念處淨故乃至一切智淨.復次須菩提.一切智淨故乃至般若波羅蜜淨.如是一一如先說.復次須菩提.有爲淨故無爲淨.何以故.有爲淨無爲淨.不二不別不斷不壞故.復次須菩提.過去淨故未來現在淨.未來淨故過去現在淨.現在淨故過去未來淨.何以故.現在淨過去未來淨.不二不別不斷不壞故

摩訶般若波羅蜜經卷第十一

不三本俱作無次同

末題一同作三

經題二同作四

摩訶般若波羅蜜經卷第十二 〔麗蘁〕〔宋海〕〔元海〕〔明海〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

歎淨品第四十二

爾時舍利弗白佛言。世尊。是淨甚深。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。何法淨故是淨甚深。佛言。色淨故是淨甚深。受想行識淨故。四念處淨故。乃至八聖道分淨故。佛十力淨故。乃至十八不共法淨故。菩薩淨佛淨故。一切智一切種智淨故。是淨甚深。世尊。是淨明。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。何法淨故是淨明。佛言。般若波羅蜜淨故是淨明。乃至檀那波羅蜜淨故是淨明。四念處乃至一切智淨故是淨明。世尊。是淨不相續。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。何法不相續故是淨不相續。佛言。色不去不相續故。是淨不相續。乃至一切種智不去不相續故。是淨不相續。世尊。是淨無垢。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。何法無垢故是淨無垢。佛言。色性常淨故是淨無垢。乃至一切種智性常淨故是淨無垢。世尊。是淨無得無著。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。何法無得無著故是淨無得無著。佛言。色無得無著故。是淨無得無著。乃至一切種智無得無著故。是淨無得無著。世尊。是淨無生。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。何法無生故是淨無生。佛言。色無生故是淨無生。乃至一切種智無生故是淨無生。世尊。是淨不生欲界中。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。云何是淨不生欲界中。佛言。欲界性不可得故。是淨不生欲界中。世尊。是淨不生色界中。佛言。畢竟淨故舍利弗言。云何是淨不生色界中。佛言。色界性不可得故。是淨不生色界中。世尊。是淨不生無色界中。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。云何是淨不生無色界中。佛言。無色界性不可得故。是淨不生無色界中。世尊。是淨無知。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。云何是淨無知。佛言。諸法鈍故是淨無知。世尊。色無知是淨淨。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。云何色無知是淨淨。佛言。色自性空故。色無知是淨淨。世尊。受想行識無知是淨淨。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。云何受想行識無知是淨淨。佛言。受想行識自性空故無知是淨淨。世尊。一切法淨故是淨淨。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。

云何一切法淨故是淨淨。佛言。一切法不可得故一切法淨是淨淨。世尊。是般若波羅蜜於薩婆若無益無損。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。云何般若波羅蜜於薩婆若無益無損。佛言。法常住相故。般若波羅蜜於薩婆若無益無損。世尊。是般若波羅蜜淨於諸法無所受。佛言。畢竟淨故。舍利弗言。云何般若波羅蜜淨於諸法無所受。佛言。法性不動故。是般若波羅蜜淨於諸法無所受。爾時慧命須菩提白佛言。世尊。我淨故色淨。佛言。畢竟淨故。須菩提言。以何因緣。我淨故色淨畢竟淨。佛言。我無所有故。色無所有畢竟淨。世尊。我淨故受想行識淨。佛言。畢竟淨故。須菩提言。何因緣故。我淨受想行識淨畢竟淨。佛言。我無所有故。受想行識無所有畢竟淨。世尊。我淨故檀那波羅蜜淨。我淨故尸羅波羅蜜淨。我淨故羼提波羅蜜淨。我淨故毘梨耶波羅蜜淨。我淨故禪那波羅蜜淨。世尊。我淨故般若波羅蜜淨。世尊。我淨故四念處淨。世尊。我淨故乃至八聖道分淨。世尊。我淨故佛十力淨。世尊。我淨故乃至十八不共法淨。佛言。畢竟淨故。須菩提言。何因緣故。我淨檀那波羅蜜淨。我淨乃至十八不共法淨。佛言。我無所有故。檀那波羅蜜無所有故淨。乃至十八不共法無所有故淨。世尊。我淨故須陀洹果淨。我淨故斯陀含果淨。我淨故阿那含果淨。我淨故阿羅漢果淨。我淨故辟支佛道淨。我淨故佛道淨。佛言。畢竟淨。須菩提言。何因緣故。我淨須陀洹果淨。斯陀含果淨。阿那含果淨。阿羅漢果淨。辟支佛道淨。佛道淨。佛言。自相空故。世尊。我淨故一切智淨。佛言。畢竟淨故。須菩提言。何因緣故。我淨故一切智淨。佛言。無相無念故。世尊。以二淨故無得無著。佛言。畢竟淨。須菩提言。何因緣故。以二淨故無得無著是畢竟淨。佛言。無垢無淨故。世尊。我無邊故色淨受想行識淨。佛言。畢竟淨。須菩提言。何因緣故我無邊故色淨受想行識淨。佛言。畢竟空無始空故。須菩提白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩能如是知。是名菩薩摩訶薩般若波羅蜜。佛言。畢竟淨故。須菩提言。何因緣故菩薩摩訶薩能如是知。是名菩薩摩訶薩般若波羅蜜。佛言。知道種故。世尊。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故作是念。色不知色。受想行識不知識。過去法不知過去法。未來法不知未來法。現在法不知現在法。佛言。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故不作是念。我施與彼人。我持戒如是持戒。我修忍如是修忍。我精進如是精進。我入禪如是入禪。我修智慧如是修智慧。我得福德如是得福德。我當入菩薩法位中。我當淨佛國土成就衆生。我得一切種智。

住下明無相字
淨下三本俱無故字
有下同無故字
是下三本俱有淨字
菩上同有若字
菩上同無若字〇識上同有受想行三字
我同作當

須菩提汝同作
汝須菩提

滅三本倶作作

須菩提。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故無諸憶想分別。內空外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空諸法空自相空故。須菩提。是名菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故無所礙。爾時釋提桓因問須菩提。云何是求菩薩道善男子礙法。須菩提報釋提桓因言。憍尸迦。有求菩薩道善男子善女人取心相。所謂取檀那波羅蜜相。取尸羅波羅蜜相羼提波羅蜜相毗黎耶波羅蜜相禪那波羅蜜相般若波羅蜜相。取內空相外空內外空乃至無法有法空相。取四念處相乃至八聖道分相。取佛十力相乃至十八不共法相。取諸佛相。取於諸佛種善根相。是一切福德和合取相。迴向阿耨多羅三藐三菩提。憍尸迦。是名求菩薩道善男子善女人礙法。用是法故。不能無礙行般若波羅蜜。何以故。憍尸迦。是色相不可迴向。受想行識相不可迴向。乃至一切種智相不可迴向。復次憍尸迦。若菩薩摩訶薩示教利喜他人阿耨多羅三藐三菩提。應示教利喜一切諸法實相。若求菩薩道善男子善女人。行檀那波羅蜜時。不應作是分別言。我施與我持戒我忍辱我精進我入禪定我修智慧。我行內空外空內外空。乃至我行無法有法空。我修四念處。乃至我行阿耨多羅三藐三菩提。善男子善女人應如是示教利喜他人阿耨多羅三藐三菩提。若如是示教利喜阿耨多羅三藐三菩提。自無錯謬。亦如佛所說法示教利喜。令是善男子善女人遠離一切礙法。爾時佛讚須菩提。善哉善哉。如汝爲諸菩薩說諸礙法。須菩提。汝今更聽我說微細礙相。須菩提。汝一心好聽。佛告須菩提。有善男子善女人。發阿耨多羅三藐三菩提心取相念諸佛。須菩提。所可有相皆是礙相。又於諸佛從初發意乃至法住。於其中間所有善根取相憶念。取相憶念已迴向阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。所可有相皆是礙相。又於諸佛及弟子所有善根及餘衆生善根。取相迴向阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。所可有相皆是礙相。何以故。不應取相憶念諸佛。亦不應取相憶念諸佛善根。須菩提白佛言。世尊。是般若波羅蜜甚深。佛言。一切法常離故。須菩提言。世尊。我當禮般若波羅蜜。佛告須菩提。是般若波羅蜜無起無作故。無有能得者。須菩提言。世尊。一切諸法亦不可知不可得。佛言。一切法一性非二性。須菩提。是一法性是亦無性。是無性卽是性。是性不起不滅。如是須菩提。菩薩摩訶薩若知諸法一性。所謂無性無起無作。則遠離一切礙相。須菩提白佛言。世尊。是般若波羅蜜難知難解。佛言。如所言。是

般若波羅蜜無見者無聞者無知者無識者無得者。世尊。是般若波羅蜜不可思議。佛言。如所言。是般若波羅蜜不從心生。不從色受想行識生。乃至不從十八不共法生|

摩訶般若波羅蜜經無作品第四十三 丹面各千佛品

須菩提白佛言。是般若波羅蜜無所作。佛言。作者不可得故。色不可得。乃至一切法不可得故。世尊。若菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。應云何行。佛告須菩提。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。不行色。是行般若波羅蜜。不行受想行識。是行般若波羅蜜。乃至不行一切種智。是行般若波羅蜜。不行色常無常。是行般若波羅蜜。乃至一切種智不行常無常。是行般若波羅蜜。不行色若苦若樂。是行般若波羅蜜。乃至不行一切種智若苦若樂。是行般若波羅蜜。不行色是我非我。是行般若波羅蜜。乃至不行一切種智是我非我。是行般若波羅蜜。不行色淨不淨。是行般若波羅蜜。乃至不行一切種智淨不淨。是行般若波羅蜜。何以故。是色無所有性。云何有常無常苦樂我無我淨不淨。受想行識亦無所有性。云何有常無常乃至淨不淨。乃至一切種智無所有性。云何有常無常乃至淨不淨。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不行色不具足。是行般若波羅蜜。不行受想行識不具足。是行般若波羅蜜。乃至不行一切種智不具足。是行般若波羅蜜。何以故。色不具足者是不名色。如是亦不行|爲行般若波羅蜜。受想行識不具足者。是不名識。如是亦不行|爲行般若波羅蜜。乃至不行一切種智不具足者。是不名一切種智。如是亦不行|爲行般若波羅蜜。須菩提白佛言。未曾有也世尊。善說求菩薩道善男子善女人礙不礙相。佛言。如是如是。須菩提。佛善說求菩薩道善男子善女人礙不礙相。復次須菩提。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不行色不礙是行般若波羅蜜。不行受想行識不礙是行般若波羅蜜。不行眼不礙是行般若波羅蜜。不行耳鼻舌身不礙是行般若波羅蜜。不行意不礙是行般若波羅蜜。不行檀那波羅蜜不礙是行般若波羅蜜。不行尸羅波羅蜜不礙是行般若波羅蜜。不行羼提波羅蜜不礙是行般若波羅蜜。不行毗棃耶波羅蜜不礙是行般若波羅蜜。不行禪那波羅蜜不礙是行般若波羅蜜。不行般若波羅蜜不礙是行般若波羅蜜。乃至不行一切種智

法下北藏無生字

爲元明俱作是次同

虛上三本俱有如字

世界同作國土下同

我下明有當字○衆宋作品次同○諸上三本俱無有字

不礙是行般若波羅蜜.須菩提.菩薩摩訶薩如是行般若波羅蜜時.知色是不礙.知受想行識是不礙.乃至知一切種智是不礙.知須陀洹果不礙.知斯陀含果不礙.知阿那含果不礙.知阿羅漢果不礙.知辟支佛道不礙.知阿耨多羅三藐三菩提道不礙.爾時慧命須菩提白佛言.未曾有也世尊.是甚深法若說亦不增不減.若不說亦不增不減.佛語須菩提.如是如是.是甚深法若說亦不增不減.若不說亦不增不減.譬如佛盡形壽若讚若毀虛空.讚時亦不增不減.毀時亦不增不減.須菩提.如幻人.若讚時不增不減.毀時亦不增不減.讚時不喜.毀時不憂.須菩提.諸法法相亦如是.若說亦如本不異.若不說亦如本不異.須菩提白佛言.世尊.諸菩薩摩訶薩所爲甚難.修行是般若波羅蜜時.不憂不喜而能習般若波羅蜜.於阿耨多羅三藐三菩提亦不轉還.何以故.世尊.修般若波羅蜜如修虛空.如虛空中無般若波羅蜜.無禪那無毗黎耶無羼提無尸羅無檀那波羅蜜.如虛空中無色無受想行識.亦無內空外空內外空乃至無法有法空.無四念處乃至無八聖道分.無佛十方乃至無十八不共法.無須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果.無辟支佛道無阿耨多羅三藐三菩提.修般若波羅蜜亦如是.世尊.應禮是諸菩薩摩訶薩能大誓莊嚴.世尊.是人爲衆生大誓莊嚴勤精進如爲虛空大誓莊嚴勤精進.世尊.是人欲度衆生如欲度虛空.世尊.是諸菩薩摩訶薩大誓莊嚴.如爲虛空等衆生大誓莊嚴.世尊.是人大誓莊嚴.欲度衆生爲如擧虛空.世尊.諸菩薩摩訶薩得大精進力.欲度衆生故發阿耨多羅三藐三菩提心.世尊.諸菩薩摩訶薩大誓莊嚴欲度衆生故發阿耨多羅三藐三菩提心.世尊.諸菩薩摩訶薩大勇猛爲度如虛空等衆生故.發阿耨多羅三藐三菩提心.何以故.世尊.若三千大千世界滿中諸佛.譬如竹葦甘蔗稻麻叢林諸佛.若一劫若減一劫常說法.一一佛度無量無邊阿僧祇衆生令入涅槃.世尊.是衆生性亦不減亦不增.何以故.衆生無所有故.衆生離故.乃至十方世界中.諸佛所度衆生亦如是.世尊.以是因緣故我如是說.是人欲度衆生故發阿耨多羅三藐三菩提心.爲欲度虛空.是時有一比丘.作是言.我禮般若波羅蜜.般若波羅蜜中雖無法生無法滅.而有戒衆定衆慧衆解脫衆解脫知見衆.而有諸須陀洹諸斯陀含諸阿那含諸阿羅漢諸辟支佛有諸佛.而有佛寶法寶比丘僧寶而有轉法輪.爾時釋提桓因語須菩提.若菩薩摩訶薩習般若波羅蜜.爲習何法.須菩提語釋提桓因言.

空下同無法字
但同作徒
住明作性
華同作香
却明作御

憍尸迦。是菩薩摩訶薩習般若波羅蜜。爲習空|法。釋提桓因白佛言。世尊。若善男子善女人受持是般若波羅蜜。親近讀誦說正憶念。我當作何等護。爾時須菩提語釋提桓因言。憍尸迦。汝頗見是法可守護者不。釋提桓因言。不也須菩提。我不見是法可守護者。須菩提言。憍尸迦。若善男子善女人。如般若波羅蜜中所說行。即是守護所謂常不遠離如所說般若波羅蜜行。是善男子善女人。若人若非人不得其便。當知是善男子善女人。不遠離般若波羅蜜。憍尸迦。若人欲護行般若波羅蜜菩薩。爲欲護虛空。憍尸迦。於汝意云何。汝能護夢燄影響幻化不。釋提桓因言。不能護。若人欲護行般若波羅蜜諸菩薩摩訶薩。亦如是|但自疲苦。憍尸迦。於汝意云何。能護佛所化不。釋提桓因言。不能護。若人欲護行般若波羅蜜諸菩薩摩訶薩亦如是。憍尸迦。於汝意云何。能護法性實際如不可思議|住不。釋提桓因言。不能護。若人欲護行般若波羅蜜諸菩薩摩訶薩亦如是。爾時釋提桓因問須菩提。云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。知見諸法如夢如燄如影如響如幻如化。諸菩薩摩訶薩如所知見故。不念夢不念是夢。不念用夢不念我夢。燄影響幻化亦如是。須菩提言。憍尸迦。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。不念色不念是色。不念用色不念我色。是菩薩摩訶薩亦能不念夢不念是夢。不念用夢不念我夢。乃至化亦不念化不念是化。不念用化不念我化。受想行識亦如是。乃至一切智。不念一切智不念是一切智。不念用一切智不念我一切智。是菩薩摩訶薩亦能不念夢不念是夢。不念用夢不念我夢。乃至化亦如是。如是憍尸迦。菩薩摩訶薩知諸法如夢如燄如影如響如幻如化。爾時佛神力故。三千大千|世界中諸四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。梵身天梵輔天梵衆天大梵天。少光天乃至淨居天。是一切諸天以天栴檀|華遙散佛上。來詣佛所頭面禮佛足|却住一面。爾時四天王天。釋提桓因及三十三天。梵天王乃至諸淨居天。佛神力故見東方千佛說法。亦如是相如是名字說是般若波羅蜜品。諸比丘皆字須菩提。問難般若波羅蜜品者。皆字釋提桓因。南西北方四維上下亦如是。各千佛現。爾時佛告須菩提。彌勒菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時。亦當於是處說般若波羅蜜。賢劫中諸菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時。亦當於是處說般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。彌勒菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時。用何相何因何義說是般若波羅蜜義。佛告須菩提。彌勒

出下三本俱無故字

相明作故

皆悉三本俱作悉皆

菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時。色非常非無常。當如是說法。色非苦非樂。色非我非無我。色非淨非不淨。當如是說法。色非縛非解。當如是說法。受想行識非常非無常。乃至非縛非解。當如是說法。色非過去色非未來色非現在。當如是說法。受想行識亦如是。色畢竟淨。當如是說法。受想行識畢竟淨。當如是說法。乃至一切智畢竟淨。當如是說法。須菩提白佛言。世尊。是般若波羅蜜清淨。佛言。色清淨故般若波羅蜜清淨。受想行識清淨故般若波羅蜜清淨。世尊。云何色清淨故般若波羅蜜清淨。云何受想行識清淨故般若波羅蜜清淨。佛言。若色不生不滅不垢不淨。是名色清淨。受想行識不生不滅不垢不淨。是名受想行識清淨。復次須菩提。虛空清淨故般若波羅蜜清淨。世尊。云何虛空清淨故般若波羅蜜清淨。佛言。虛空不生不滅故清淨。般若波羅蜜亦如是。復次須菩提。色不汙故般若波羅蜜清淨。受想行識不汙故般若波羅蜜清淨。世尊。云何色不汙故般若波羅蜜清淨。受想行識不汙故般若波羅蜜清淨。佛言。如虛空不可汙故虛空清淨。世尊。云何如虛空不可汙故虛空清淨。佛言。虛空不可取故虛空清淨。虛空清淨故般若波羅蜜清淨。復次須菩提。虛空可說故般若波羅蜜清淨。世尊。云何虛空可說故般若波羅蜜清淨。佛言。因虛空中二聲出故。般若波羅蜜亦如虛空可說故清淨。須菩提。虛空不可說故般若波羅蜜清淨。世尊。云何虛空不可說故般若波羅蜜清淨。佛言。如虛空無可說故般若波羅蜜清淨。復次如虛空不可得故般若波羅蜜清淨。世尊。云何如虛空不可得故般若波羅蜜清淨。佛言。如虛空無所得相般若波羅蜜亦如虛空無所得故清淨。復次須菩提。一切法不生不滅不垢不淨故般若波羅蜜清淨。世尊。云何一切法不生不滅不垢不淨故般若波羅蜜清淨。佛言。一切法畢竟清淨故般若波羅蜜清淨。須菩提白佛言。世尊。若善男子善女人。受持是般若波羅蜜親近正憶念者。終不病眼。耳鼻舌身亦終不病。身無形殘。亦不衰老終不橫死。無數百千萬諸天。四天王天乃至淨居諸天。皆悉隨從聽受。六齋日月八日二十三日十四日二十九日十五日三十日。諸天衆會。善男子善女人爲法師者。在所說般若波羅蜜處皆悉來集。是善男子善女人在大衆中說是般若波羅蜜。得無量無邊阿僧祇不可思議不可稱量福德。佛告須菩提。如是如是。是善男子善女人。若六齋日月八日二十三日十四日二十九日十五日三十日。在諸天衆前說是般若波羅蜜義。是善男子善女

智上明有種字

迦三本俱作伽 〔訶元明俱作阿

蜜下三本俱有多字

尸下同有羅字

人得無量無邊阿僧祇不可思議不可稱量福德。何以故。須菩提。般若波羅蜜是大珍寶。是般若波羅蜜能拔地獄畜生餓鬼及人中貧窮。能與剎利大姓婆羅門大姓居士大家。能與四天王天處乃至非有想非無想處。能與須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提。何以故。是般若波羅蜜中廣說十善道四禪四無量心四無色定四念處。乃至八聖道分檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。廣說內空乃至無法有法空。廣說佛十力乃至一切智。從是中學出生剎利大姓婆羅門大姓居士大家。出生四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。梵身天梵輔天梵衆天大梵天。光天少光天無量光天光音天。淨天少淨天無量淨天遍淨天。阿那婆迦天得福天廣果天無想天。阿浮訶那天不熱天快見天妙見天阿迦尼吒天。虛空無邊處天。識無邊處天。無所有處天非有想非無想處天。是法中學得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。得辟支佛道得阿耨多羅三藐三菩提。以是故須菩提般若波羅蜜名爲大珍寶。珍寶波羅蜜中無有法可得若生若滅若垢若淨若取若捨。珍寶波羅蜜亦無有法若善若不善。若世間若出世間。若有漏若無漏。若有爲若無爲。以是故須菩提。是名無所得珍寶波羅蜜。須菩提。是珍寶波羅蜜無有法能染汙。何以故。所用染法不可得故。須菩提。以是故名無染珍寶波羅蜜。須菩提。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。亦如是不知。亦如是不分別。亦如是不可得。亦如是不戲論。是爲能修行般若波羅蜜。亦能禮覲諸佛從一佛國至一佛國。供養恭敬尊重讚歎諸佛。遊諸佛剎成就衆生淨佛國土。須菩提。是般若波羅蜜於諸法無有力無非力。亦無受亦無與。不生不滅不垢不淨不增不減。是般若波羅蜜亦非過去非未來非現在。不捨欲界不住欲界。不捨色界不住色界。不捨無色界不住無色界。是般若波羅蜜。不與檀那波羅蜜亦不捨。不與尸波羅蜜亦不捨。不與羼提波羅蜜亦不捨。不與毘梨耶波羅蜜亦不捨。不與禪那波羅蜜亦不捨。不與般若波羅蜜亦不捨。不與內空亦不捨。乃至不與無法有法空亦不捨。不與四念處亦不捨。乃至不與八聖道分亦不捨。不與佛十力亦不捨。乃至不與十八不共法亦不捨。不與須陀洹果亦不捨。乃至不與阿羅漢果亦不捨。不與辟支佛道亦不捨。乃至不與一切智亦不捨。是般若波羅蜜不與阿羅漢法不捨凡人法。不與辟支佛法不捨阿

照三本俱作詔

品目遍上同有百波羅蜜四字

羅漢法。不與佛法不捨辟支佛法。是般若波羅蜜亦不與無爲法不捨有爲法。何以故若有諸佛若無諸佛。是諸法相常住不異。法相法住法位常住不謬不失故。爾時諸天子。虚空中立發大音聲踊躍歡喜。以漚鉢羅華波頭摩華拘物頭華分陀利華而散佛上。作如是言。我等於閻浮提見第二法輪轉。是中無量百千天子得無生法忍。佛告須菩提。是法輪轉非第一轉非第二轉。是般若波羅蜜不爲轉不爲還故出。無法有法空故。須菩提白佛言。世尊。云何無法有法空故。般若波羅蜜不爲轉不爲還故出。佛言。般若波羅蜜。般若波羅蜜相空。乃至檀那波羅蜜。檀那波羅蜜相空。內空內空相空。乃至無法有法空。無法有法空相空。四念處四念處相空。乃至八聖道分八聖道分相空。佛十力佛十力相空。乃至十八不共法十八不共法相空。須陀洹果須陀洹果相空。斯陀含果斯陀含果相空。阿那含果阿那含果相空。阿羅漢果阿羅漢果相空。辟支佛道辟支佛道相空。一切種智一切種智相空。須菩提白佛言。世尊。諸菩薩摩訶薩般若波羅蜜。是摩訶波羅蜜。何以故。雖一切法自性空。而諸菩薩摩訶薩因般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提。亦無法可得轉法輪亦無法可轉。亦無法可還。是摩訶波羅蜜中亦無有法可見。何以故。是法不可得若轉若還一切法畢竟不生故。何以故。是空相不能轉不能還。無相相不能轉不能還。無作相不能轉不能還。若能如是說般若波羅蜜。教照開示分別顯現解釋淺易。有能如是教者。是名清淨說般若波羅蜜。亦無說者亦無受者亦無證者。若無說無受無證亦無滅者。是說法中亦無畢定福田

摩訶般若波羅蜜經遍歎品第四十四 丹百波羅蜜品

爾時慧命須菩提白佛言。世尊。無邊波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。如虚空無邊故。世尊。等波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。諸法等故。世尊。離波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。畢竟空故。世尊。不壞波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不可得故。世尊。無彼岸波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。無名無身故。世尊。空種波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。入出息不可得故。世尊。不可說波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。覺觀不可得故。世尊。無名波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。受想行識不可得故。世尊。不去波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不來故。世尊。無移波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切

法不可伏故。世尊。盡波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法畢竟盡故。世尊。不生波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不滅故。世尊。不滅波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不生故。世尊。無作波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。作者不可得故。世尊。無知波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。知者不可得故。世尊。不到波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。生死不可得故。世尊。不失波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不失故。世尊。夢波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。乃至夢中所見不可得故。世尊。響波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。聞聲者不可得故。世尊。影波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。鏡面不可得故。世尊。燄波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。水流不可得故。世尊。幻波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。術事不可得故。世尊。不垢波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。諸煩惱不可得故。世尊。無淨波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。煩惱虛誑故。世尊。不汙波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。處不可得故。世尊。不戲論波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切戲論破故。世尊。不念波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切念破故。世尊。不動波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。法性常住故。世尊。無染波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。知一切法無妄解故。世尊。不起波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法無分別故。世尊。寂滅波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法相不可得故。世尊。無欲波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。欲不可得故。世尊。無瞋波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。瞋恚不實故。世尊。無癡波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。無明黑闇滅故。世尊。無煩惱波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。分別憶想虛妄故。世尊。無衆生波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。衆生無所有故。世尊。無斷波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。諸法不起故。世尊。無二邊波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。離二邊故。世尊。不壞波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不相離故。世尊。不取波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。過聲聞辟支佛地故。世尊。不分別波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。諸妄想不可得故。世尊。無量波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。諸法量不可得故。世尊。虛空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法無所有故。世尊。無常波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法破壞故。世尊。苦波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法苦惱相故。世尊。無我波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不著故。世尊。空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不可得故。世尊。無相波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不生故。世尊。內空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。內法不可得故。世尊。外空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。外法不可得故。世尊。內外空波

妄上三本俱無無字

壞元明俱作破

法下三本俱無相字

說下同無者字

羅蜜是般若波羅蜜。佛言。內外法不可得故。世尊。空空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。空空法不可得故。世尊。大空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不可得故。世尊。第一義空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。涅槃不可得故。世尊。有爲空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。有爲法不可得故。世尊。無爲空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。無爲法不可得故。世尊。畢竟空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。諸法畢竟不可得故。世尊。無始空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。諸法無始不可得故。世尊。散空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。散法不可得故。世尊。性空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。有爲無爲性不可得故。世尊。諸法空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不可得故。世尊。無所得空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。無所有故。世尊。自相空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。諸法自相離故。世尊。無法空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。無法不可得故。世尊。有法空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。有法不可得故。世尊。無法有法空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。無法有法相不可得故。世尊。念處波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。身受心法不可得故。世尊。正勤波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。善不善法不可得故。世尊。如意足波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。四如意足不可得故。世尊。根波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。五根不可得故。世尊。力波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。五力不可得故。世尊。覺波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。七覺分不可得故。世尊。道波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。八聖道分不可得故。世尊。無作波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。無作不可得故。世尊。空波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。空相不可得故。世尊。無相波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。寂滅相不可得故。世尊。背捨波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。八背捨不可得故。世尊。定波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。九次第定不可得故。世尊。檀那波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。慳貪不可得故。世尊。尸羅波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。破戒不可得故。世尊。羼提波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。忍不忍不可得故。世尊。毗梨耶波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。懈怠精進不可得故。世尊。禪那波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。定亂不可得故。世尊。般若波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。癡慧不可得故。世尊。十力波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法不可伏故。世尊。四無所畏波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。道種智不沒故。世尊。無礙智波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法無障無礙故。世尊。佛法波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。過一切法故。世尊。如實說者波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切語如

切下明無法一切三字

實故。世尊。自然波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。一切法中自在故。世尊。佛波羅蜜是般若波羅蜜。佛言。知一切法一切種智故

摩訶般若波羅蜜經卷第十二

經題三三本俱作五

品目聞上同有經耳二字

受下元明俱無親近讀誦四字

(行上三本俱無修字

摩訶般若波羅蜜經卷第十三

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

聞持品第四十五 丹本耳品

爾時釋提桓因作是念。若善男子善女人得聞般若波羅蜜經耳者。是人於前世佛作功德。與善知識相隨。何況受持親近讀誦正憶念如說行。當知是善男子善女人多親近諸佛。能得聽受親近讀誦。乃至正憶念如說修行能問能答。當知是善男子善女人於前世多供養親近諸佛故。聞是深般若波羅蜜不驚不怖不畏。當知是人亦於無量億劫。行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。爾時舍利弗白佛言。世尊。若有善男子善女人聞是深般若波羅蜜不驚不怖不畏。聞已受持親近如說習行。當知是善男子善女人如阿惟越致菩薩摩訶薩。何以故。世尊。是般若波羅蜜甚深。若先世不久行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。終不能信解深般若波羅蜜。世尊。若有善男子善女人呰毀深般若波羅蜜者。當知是人前世亦呰毀深般若波羅蜜。何以故。是善男子善女人聞說深般若波羅蜜時。無有信樂心不清淨。是善男子善女人先世不難不問諸佛及弟子。云何應行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。云何應修內空。乃至云何應修無法有法空。云何應修四念處。乃至云何應修八聖道分。云何應修佛十力。乃至云何應修十八不共法。釋提桓因語舍利弗。是深般若波羅蜜若有善男子善女人。不久行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。不行內空外空乃至無法有法空。不行四禪四無量心四無色定。不行四念處乃至八聖道分。不行佛十力乃至十八不共法。如是人不信解是般若波羅蜜有何可怪。大德舍利弗。我禮般若波羅蜜。禮般若波羅蜜是禮一切智。佛告釋提桓因言。如是如是。憍尸迦。禮般若波羅蜜是禮一切智。何以故。憍尸迦。諸佛一切智皆從般若波羅蜜生。一切智

卽是般若波羅蜜。以是故。憍尸迦。善男子善女人欲住一切智。當住般若波羅蜜。善男子善女人欲生道種智。當習行般若波羅蜜。欲斷一切諸結及習。當習行般若波羅蜜。善男子善女人欲轉法輪。當習行般若波羅蜜。善男子善女人欲得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。當習行般若波羅蜜。欲得辟支佛道。當習行般若波羅蜜。欲敎衆生令得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。當習行般若波羅蜜。若善男子善女人欲敎衆生令得阿耨多羅三藐三菩提。若欲總攝比丘僧。當習行般若波羅蜜。釋提桓因白佛言。世尊。菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜時。云何名住般若波羅蜜禪那波羅蜜毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。云何住內空外空乃至無法有法空。云何住四禪四無量心四無色定五神通。云何住四念處乃至八聖道分。云何住佛十力乃至十八不共法。世尊。菩薩摩訶薩云何習行般若波羅蜜乃至檀那波羅蜜內空乃至十八不共法。佛語釋提桓因言。善哉善哉。憍尸迦。汝能樂問是事。皆是佛神力。憍尸迦。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。若不住色中爲習行般若波羅蜜。若不住受想行識中爲習行般若波羅蜜。眼耳鼻舌身意色聲香味觸法。眼界乃至意識界亦如是。憍尸迦。若菩薩摩訶薩不住般若波羅蜜中。爲習般若波羅蜜。不住禪那波羅蜜中爲習禪那波羅蜜。不住毗棃耶波羅蜜中爲習毗棃耶波羅蜜。不住羼提波羅蜜中爲習羼提波羅蜜。不住尸羅波羅蜜中爲習尸羅波羅蜜。不住檀那波羅蜜中爲習檀那波羅蜜。如是憍尸迦。是名菩薩摩訶薩不住般若波羅蜜中。爲習般若波羅蜜。憍尸迦。不住內空中爲習內空。乃至不住無法有法空中爲習無法有法空。不住四禪中爲習四禪。不住四無量心中爲習四無量心。不住四無色定中爲習四無色定。不住五神通中爲習五神通。不住四念處中爲習四念處。乃至不住八聖道分中爲習八聖道分。不住佛十力中爲習佛十力。乃至不住十八不共法中爲習十八不共法。何以故。憍尸迦。是菩薩不得色可住可習處。乃至十八不共法。不得十八不共法可住可習處。復次憍尸迦。菩薩摩訶薩不習色。若不習色是名習色。受想行識乃至十八不共法亦如是。何以故。是菩薩摩訶薩色前際不可得中際不可得後際不可得。乃至十八不共法亦如是。舍利弗白佛言。世尊。是般若波羅蜜甚深。佛言。色如甚深故。般若波羅蜜甚深。受想行識如甚深故。般若波羅蜜甚深。乃至十八不共法亦如是。舍利弗言。世

禪那宋作毗棃耶〇毗棃耶同作禪那

修上三本倶有
實字

尊是般若波羅蜜難可測量佛言色難可測量故般若波羅蜜難可測量受想行識乃至十八不共法難可測量故般若波羅蜜難可測量世尊是般若波羅蜜無量佛言色無量故般若波羅蜜無量受想行識乃至十八不共法無量故般若波羅蜜無量佛告舍利弗若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時不行色甚深爲行般若波羅蜜不行受想行識乃至不行十八不共法甚深爲行般若波羅蜜何以故色甚深相爲非色受想行識乃至十八不共法甚深相爲非十八不共法如是不行爲行般若波羅蜜舍利弗若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時不行色難測量爲行般若波羅蜜不行受想行識乃至不行十八不共法難測量爲行般若波羅蜜何以故色難測量相爲非色受想行識乃至十八不共法難測量相爲非十八不共法舍利弗若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時不行色無量爲行般若波羅蜜不行受想行識乃至不行十八不共法無量爲行般若波羅蜜何以故色是無量相爲非色受想行識乃至十八不共法無量相爲非十八不共法舍利弗白佛言世尊是般若波羅蜜甚深甚深相難見難解不可思量不應在新發意菩薩前說何以故新發意菩薩聞是甚深般若波羅蜜或當驚怖心生疑悔不信不行是甚深般若波羅蜜當在阿惟越致菩薩摩訶薩前說是菩薩聞是甚深般若波羅蜜不驚不怖心不疑悔則能信行釋提桓因問舍利弗若在新發意菩薩摩訶薩前說是深般若波羅蜜有何等過舍利弗報釋提桓因言憍尸迦若在新發意菩薩前說是深般若波羅蜜或當驚怖呰毀不信是新發意菩薩或有是處若新發意菩薩聞是深般若波羅蜜毀呰不信種三惡道業是業因緣故久久難得阿耨多羅三藐三菩提釋提桓因問舍利弗頗有未受記菩薩摩訶薩聞是深般若波羅蜜不驚不怖者不舍利弗言如是憍尸迦若有菩薩摩訶薩聞是深般若波羅蜜不驚不怖當知是菩薩得受阿耨多羅三藐三菩提記不久不過一佛兩佛佛告舍利弗如是如是是菩薩摩訶薩久發意行六波羅蜜多供養諸佛聞是深般若波羅蜜不驚不怖不畏聞即受持如般若波羅蜜中所說行爾時舍利弗白佛言世尊我欲說譬喩如求菩薩道善男子善女人夢中修行般若波羅蜜入禪定勤精進具足忍辱守護於戒行布施修行內空外空乃至坐於道場當知是善男子善女人近阿耨多羅三藐三菩提何況菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提覺時修行般若波羅蜜入禪定勤精進具足忍辱守護於戒行布

行上同無修字

阿上三本俱無得字

施。而不疾成阿耨多羅三藐三菩提坐於道場。世尊。善男子善女人善根成就。得聞般若波羅蜜受持乃至如說修行。當知是菩薩摩訶薩久發意種善根。多供養諸佛與善知識相隨。是人能受持般若波羅蜜乃至正憶念。當知是人近受阿耨多羅三藐三菩提記。當知是善男子善女人如阿惟越致菩薩摩訶薩。於阿耨多羅三藐三菩提不動轉。能得深般若波羅蜜。得已能受持讀誦乃至正憶念。世尊。譬如人欲過百由旬若二百三百四百由旬曠野嶮道。先見諸相若放牧者若疆界若園林。如是等諸相故知近城邑聚落。是人見是相已作是念。如我所見相當知城邑聚落不遠。心得安隱不畏賊難惡蟲飢渴。世尊。菩薩摩訶薩亦如是。若得是深般若波羅蜜受持讀誦乃至正憶念。當知近受得阿耨多羅三藐三菩提記不久。當知是菩薩摩訶薩。不應畏墮聲聞辟支佛地。是諸先相。所謂甚深般若波羅蜜得聞得見得受持。乃至正憶念故。佛告舍利弗。如是如是。汝更樂說者便說。世尊。譬如人欲見大海發心往趣。不見樹相不見山相。是人雖未見大海知大海不遠。何以故。大海處平無樹相無山相故。如是世尊。菩薩摩訶薩聞是深般若波羅蜜受持乃至正憶念時。雖未佛前受劫數之記若百劫千劫百千萬億劫。是菩薩自知近受阿耨多羅三藐三菩提記不久。何以故。我得聞是深般若波羅蜜。受持讀誦乃至正憶念故。世尊。譬如初春諸樹故葉已墮。當知此樹新葉華果出在不久。何以故。見是諸樹先相故。知今不久華葉果出。是時閻浮提人見樹先相皆悉歡喜。世尊。菩薩摩訶薩得聞是深般若波羅蜜。受持讀誦乃至正憶念如說行。當知是菩薩善根成就多供養諸佛。是菩薩應作是念。先世善根所追趣阿耨多羅三藐三菩提。以是因緣故得見得聞是深般若波羅蜜。受持讀誦乃至正憶念如說行。是中諸天子。曾見佛者歡喜踊躍。作是念言。先諸菩薩摩訶薩亦有如是受記先相。今是菩薩摩訶薩受阿耨多羅三藐三菩提記亦不久。世尊。譬如母人懷妊。身體苦重行步不便。坐起不安眠食轉少。不喜語言厭本所習。受苦痛故有異母人見其先相。當知產生不久。菩薩摩訶薩亦如是。種善根多供養諸佛久行六波羅蜜。與善知識相隨善根成就。得聞深般若波羅蜜受持讀誦乃至正憶念如說行。諸人亦知是菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提記不久。佛告舍利弗言。善哉善哉。汝所樂說皆是佛力。爾時須菩提白佛言。希有世尊。諸多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀。善付諸菩薩摩訶薩事。佛告須菩提。諸

惟三本俱作維下同

菩薩摩訶薩發阿耨多羅三藐三菩提心安隱多衆生。令無量衆生得樂。憐愍饒益諸天人故是諸菩薩行菩薩道時。以四事攝無量百千衆生。所謂布施愛語利益同事。亦以十善道成就衆生。自行初禪亦敎他人令行初禪。乃至自行非有想非無想處。亦敎他人令行乃至非有想非無想處。自行檀那波羅蜜亦敎他人令行檀那波羅蜜。自行尸羅波羅蜜亦敎他人令行尸羅波羅蜜。自行羼提波羅蜜亦敎他人令行羼提波羅蜜。自行毗梨耶波羅蜜亦敎他人令行毗梨耶波羅蜜。自行禪那波羅蜜亦敎他人令行禪那波羅蜜。自行般若波羅蜜亦敎他人令行般若波羅蜜。是菩薩得般若波羅蜜以方便力敎衆生令得須陀洹果。自於內不證。敎衆生令得斯陀含果阿那含果阿羅漢果。自於內不證。敎衆生令得辟支佛道。自於內不證。自行六波羅蜜亦敎無量百千萬諸菩薩令行六波羅蜜。自住阿惟越致地亦敎他人住阿惟越致地。自淨佛國土亦敎他人淨佛國土。自成就衆生亦敎他人成就衆生。自得菩薩神通亦敎他人令得菩薩神通。自淨陀羅尼門亦敎他人淨陀羅尼門。自具足樂說辯才亦敎他人具足樂說辯才。自受色成就亦敎他人受色成就。自成就三十二相亦敎他人成就三十二相。自成就童眞地亦敎他人成就童眞地。自成就佛十力亦敎他人令成就佛十力。自行四無所畏亦敎他人行四無所畏。自行十八不共法亦敎他人令行十八不共法。自行大慈大悲亦敎他人行大慈大悲。自得一切種智亦敎他人令得一切種智。自離一切結使及習亦敎他人令離一切結使及習。自轉法輪亦敎他人轉法輪。須菩提白佛言。希有世尊。諸菩薩摩訶薩大功德成就。所謂爲一切衆生行般若波羅蜜。欲得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。云何諸菩薩摩訶薩具足修行般若波羅蜜。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不見色增相亦不見減相。不見受想行識增相亦不見減相。乃至一切種智不見增相亦不見減相。菩薩摩訶薩是時具足般若波羅蜜。

復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不見是法是非法。不見是過去法是未來現在法。不見是善法不善法有記法無記法。不見是有爲法無爲法。不見欲界色界無色界。不見檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。乃至不見一切種智。如是菩薩摩訶薩具足修行般若波羅蜜。何以故。諸法無相故。諸法空欺誑無堅固。無覺者無壽命者。須菩提言。世尊。世尊所說不可思議。佛告須菩提。色不可思議

故所說不可思議。受想行識不可思議故所說不可思議。六波羅蜜不可思議故所說不可思議。乃至一切種智不可思議故所說不可思議。須菩提。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。知色是不可思議。受想行識是不可思議。乃至知一切種智是不可思議。是菩薩則不能具足般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。是深般若波羅蜜誰當信解者。佛言。若有菩薩摩訶薩久行六波羅蜜。種善根多親近供養諸佛與善知識相隨。是菩薩能信解深般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩久行六波羅蜜。種善根多親近供養諸佛。與善知識相隨。佛言。若菩薩摩訶薩不分別色。不分別色相。不分別色性。不分別受想行識。不分別識相。不分別識性。眼耳鼻舌身意。色聲香味觸法。眼界乃至意識界亦如是。不分別欲界色界無色界。不分別三界相性。不分別檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。內空乃至無法有法空。四念處乃至八聖道分。佛十力乃至十八不共法。不分別檀乃至十八不共法相。不分別十八不共法性。不分別道種智。不分別道種智相性。不分別一切種智。不分別一切種智相。不分別一切種智性。何以故。須菩提。色不可思議。受想行識不可思議。乃至一切種智不可思議。如是須菩提。是名菩薩摩訶薩久行六波羅蜜。種善根多親近供養諸佛。與善知識相隨。須菩提白佛言。世尊。色甚深故般若波羅蜜甚深。受想行識甚深乃至一切種智甚深故般若波羅蜜甚深。世尊。是般若波羅蜜珍寶聚。有須陀洹果寶故。有斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提寶故。有四禪四無量心四無色定五神通四念處乃至八聖道分。佛十力四無所畏四無礙智。大慈大悲十八不共法。一切智一切種智寶故。世尊。是般若波羅蜜清淨聚。色清淨故般若波羅蜜清淨聚。受想行識清淨乃至一切種智清淨故般若波羅蜜清淨聚。須菩提言。世尊。甚可怪說是般若波羅蜜時多有留難。佛言。如是如是。須菩提。是甚深般若波羅蜜多有留難。以是事故。善男子善女人若欲書是般若波羅蜜時應當疾書。若讀誦思惟說正憶念修行時亦應疾修行。何以故。是甚深般若波羅蜜。若書讀誦思惟說正憶念修行時。不欲令諸難起故。善男子善女人。若能一月書成當應勤書。若二月三月四月五月六月七月若一歲書成亦當勤書。讀誦思惟說正憶念修行。若一月得成就乃至一歲得成就。應當勤成就。何以故。須菩提。是珍寶中多有難起故。須菩提言。世尊。是甚深般若波羅蜜中。惡魔憙作留難故。不得令書。不

十上三本俱無檀乃至三字〇法下同無相字〇性同作相〇道種智同作十八不共法性六字

憙明作喜

成下同無就字

得令讀誦思惟說正憶念修行。佛告須菩提。惡魔雖欲留難是深般若波羅蜜令不得書讀誦思惟說正憶念修行。亦不能破壞是菩薩摩訶薩書般若波羅蜜乃至修行。爾時舍利弗白佛言。世尊。誰力故令惡魔不能留難菩薩摩訶薩書深般若波羅蜜乃至修行。佛言。是佛力故。惡魔不能留難菩薩摩訶薩書深般若波羅蜜乃至修行。舍利弗。亦是十方國土現在諸佛力故。是諸佛擁護念是菩薩故。令魔不能留難菩薩摩訶薩令不書成就般若波羅蜜乃至修行。何以故。十方國土中。現在無量無邊阿僧祇諸佛。擁護念是菩薩書深般若波羅蜜乃至修行法應爾。亦無能作留難。舍利弗。善男子善女人應當作是念。我書是深般若波羅蜜乃至修行。皆是十方諸佛力。舍利弗言。世尊。若有善男子善女人書是深般若波羅蜜乃至修行。皆是佛力故。當知是人是諸佛所護。佛言。如是如是。舍利弗。當知若有善男子善女人。書是深般若波羅蜜乃至修行。皆是佛力故。當知亦是諸佛所護。舍利弗言。世尊。十方現在無量無邊阿僧祇諸佛。皆識皆以佛眼見是善男子善女人書深般若波羅蜜時乃至修行時。佛言。如是如是。舍利弗。十方現在無量無邊阿僧祇諸佛。皆識皆以佛眼見是善男子善女人書深般若波羅蜜時乃至修行時。舍利弗。是中求菩薩道善男子善女人。若書是深般若波羅蜜。受持讀誦正憶念如說修行。當知是人近阿耨多羅三藐三菩提不久。舍利弗。善男子善女人書是深般若波羅蜜。受持讀誦乃至正憶念。是人於深般若波羅蜜多信解相。亦供養恭敬尊重讚歎是深般若波羅蜜。華香瓔珞乃至幡蓋供養。舍利弗。諸佛皆識皆以佛眼見是善男子善女人。是善男子善女人供養功德。當得大利益大果報。舍利弗。是善男子善女人以是供養功德因緣故終不墮惡道中。乃至阿惟越致地終不遠離諸佛。舍利弗。是善男子善女人是善根因緣故。乃至阿耨多羅三藐三菩提終不遠離六波羅蜜。終不遠離內空乃至無法有法空。終不遠離四念處乃至八聖道分。終不遠離佛十力乃至阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。是深般若波羅蜜佛般涅槃後當至南方國土。是中比丘比丘尼優婆塞優婆夷。當書是深般若波羅蜜。當受持讀誦思惟說正憶念修行。以是善根因緣故終不墮惡道中。受天上人中樂增益六波羅蜜。供養恭敬尊重讚歎諸佛。漸以聲聞辟支佛佛乘而得涅槃。舍利弗。是深般若波羅蜜從南方當轉至西方。所在處是中比丘比丘尼優婆塞優婆夷。當書是深般若波羅蜜。當受持讀誦

無下元明俱有有字〇般上同有深字

思惟說正憶念修行。以是善根因緣故終不墮惡道中。受天上人中樂增益六波羅蜜。供養恭敬尊重讚歎諸佛。漸以聲聞辟支佛佛乘而得涅槃。舍利弗。是深般若波羅蜜從西方當轉至北方。所在處是中比丘比丘尼優婆塞優婆夷。當書是深般若波羅蜜。當受持讀誦思惟說正憶念修行。以是善根因緣故終不墮惡道中。受天上人中樂增益六波羅蜜。供養恭敬尊重讚歎諸佛。漸以聲聞辟支佛佛乘而得涅槃。舍利弗。是深般若波羅蜜是時北方當作佛事。何以故。舍利弗。我法盛時無滅相。舍利弗。我已念是善男子善女人。受是深般若波羅蜜乃至修行。是善男子善女人能書是般若波羅蜜。恭敬供養尊重讚歎華香乃至幡蓋。舍利弗。是善男子善女人。以是善根因緣故終不墮惡道中。受天上人中樂增益六波羅蜜。供養恭敬尊重讚歎諸佛。漸以聲聞辟支佛佛乘而得涅槃。何以故。舍利弗。我以佛眼見是人我亦稱舉讚歎。十方國土中無量無邊阿僧祇諸佛。亦以佛眼見是人亦稱舉讚歎。舍利弗白佛言。世尊。是深般若波羅蜜後時當在北方廣行耶。佛言。如是如是。舍利弗。是深般若波羅蜜後時在北方當廣行。舍利弗。後時於北方是善男子善女人。若聞是深般若波羅蜜。若書受持讀誦思惟說正憶念如說修行。當知是善男子善女人久發大乘心。多供養諸佛種善根。久與善知識相隨。舍利弗白佛言。世尊。後時北方當有幾所善男子善女人求佛道。書深般若波羅蜜乃至如說修行。佛告舍利弗。後時北方雖多有求佛道善男子善女人。少有聞是深般若波羅蜜不沒不驚不怖不畏。何以故。是人多親近供養諸佛多諮問諸佛。是人必能具足般若波羅蜜禪那波羅蜜毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。具足四念處。乃至具足十八不共法。舍利弗。是善男子善女人善根純熟故。能多利益衆生爲阿耨多羅三藐三菩提。何以故。我今爲是善男子善女人說應薩婆若法。過去諸佛亦爲是善男子善女人說應薩婆若法。以是因緣故。是人後生時續得阿耨多羅三藐三菩提心。亦爲他人說阿耨多羅三藐三菩提法。是善男子善女人皆一心和合。魔若魔民不能沮壞阿耨多羅三藐三菩提心。何況惡行人毀呰行深般若波羅蜜者能壞其阿耨多羅三藐三菩提心。舍利弗。是求菩薩道諸善男子善女人。聞是深般若波羅蜜得大法喜法樂。亦立多人於善根爲阿耨多羅三藐三菩提。是善男子善女人於我前立誓願。我行菩薩道時當度無數百千萬億衆生。令發阿耨多羅三藐三菩提

受下三本俱無身字

得上三本俱有當字

品目明無經名下同

心示敎利喜乃至阿惟越致地受記我知其心我亦隨喜是善男子善女人亦於過去諸佛前立誓願我行菩薩道時當度無數百千萬億衆生令發阿耨多羅三藐三菩提心示敎利喜乃至阿惟越致地受記諸過去佛亦知其心而隨喜舍利弗是諸善男子善女人所爲心大所受色聲香味觸法亦大亦能大施能大施已種大善根種大善根已得大果報爲攝衆生故受身能於衆生中捨内外所有物以是善根因緣發願欲生他方國土現在諸佛說深般若波羅蜜處於諸佛前聞是深般若波羅蜜已亦於彼示敎利喜百千萬億衆生令發阿耨多羅三藐三菩提心舍利弗白佛言希有世尊佛於過去未來現在法無法不知無法如相不知衆生之行無事不知今佛悉知過去諸佛及菩薩聲聞亦知今現在十方諸佛國土菩薩及聲聞亦知未來諸佛及菩薩聲聞世尊未來世有善男子善女人勤求六波羅蜜受持讀誦乃至修行有得有不得佛告舍利弗若善男子善女人一心精進勤求當得應六波羅蜜諸經舍利弗白佛言善男子善女人如是勤行者得是應六波羅蜜深經耶佛語舍利弗是善男子善女人得是應六波羅蜜深經何以故善男子善女人爲阿耨多羅三藐三菩提故與衆生說法示敎利喜令住六波羅蜜以是因緣故是善男子善女人後身轉生易得應六波羅蜜深經得已如六波羅蜜所說修行精勤不息乃至淨佛國土成就衆生得阿耨多羅三藐三菩提

摩訶般若波羅蜜經魔事品第四十六

爾時慧命須菩提白佛言世尊是善男子善女人發阿耨多羅三藐三菩提心行六波羅蜜成就衆生淨佛國土佛已讚歎說其功德世尊云何是善男子善女人求於佛道生諸留難佛告須菩提樂說辯不卽生當知是菩薩魔事須菩提言世尊何因緣故樂說辯不卽生是菩薩魔事佛言有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時難具足六波羅蜜以是因緣故樂說辯不卽生是菩薩魔事復次須菩提樂說辯卒起當知亦是菩薩魔事世尊何因緣故樂說辯卒起復是魔事佛言菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜著樂說法以是因緣故樂說辯卒起當知是菩薩魔事復次須菩提書是般若波羅蜜經時偃蹇傲慢當知是菩薩魔事復次須菩提書是經時戲笑亂

蹇明作僊
蔑明作懱
受三本俱作授次同
受宋作授○記三本俱作說○時上同無念字○補同作甫
勤宋作懃

心。當知是菩薩魔事。復次須菩提。若書是經時輕笑不敬。當知是菩薩魔事。復次須菩提。若書是經時心亂不定。當知是菩薩魔事。復次須菩提。書是經時各各不和合。當知是爲菩薩魔事。復次須菩提。善男子善女人作是念。我不得是經中滋味便棄捨去。當知是爲菩薩魔事。復次須菩提。受持般若波羅蜜讀誦說若正憶念時偃|蹇傲慢。當知是爲菩薩魔事。復次須菩提。若受持般若波羅蜜經時。親近正憶念時轉相形笑。當知是爲菩薩魔事復次須菩提。若受持般若波羅蜜經讀誦正憶念修行時共相輕|蔑。當知是爲菩薩魔事。若受持般若波羅蜜讀誦乃至正憶念時散亂心。當知是爲菩薩魔事。若受持般若波羅蜜讀誦乃至正憶念時心不和合。當知是爲菩薩魔事。須菩提白佛言。世尊。世尊說善男子善女人作是念。我不得經中滋味便棄捨去。當知是爲菩薩魔事。世尊。何因緣故。菩薩不得經中滋味便棄捨去。佛言。是菩薩摩訶薩前世不久行般若波羅蜜禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。是人聞說是般若波羅蜜。便從座起作是念言。我於般若波羅蜜中無記心不淸淨。便從座起去。當知是爲菩薩魔事。須菩提白佛言。世尊。何因緣故不與|受記。聞說是般若波羅蜜時便從座起去。佛告須菩提。若菩薩未入法位中。諸佛不與|受阿耨多羅三藐三菩提記。復次須菩提。聞說般若波羅蜜時。菩薩作是念。我是中無名字心不淸淨。當知是爲菩薩魔事。須菩提言。何因緣故。是深般若波羅蜜中不說是菩薩名字。佛言。未|受記菩薩諸佛不|記名字。復次須菩提。是菩薩摩訶薩作是念。是般若波羅蜜中。無我生處名字若聚落城邑。是人不欲聽聞般若波羅蜜。便從會中起去。是人如所起|念時念念却一劫。|補當更勤精進求阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。菩薩學餘經棄捨般若波羅蜜終不能至薩婆若。善男子善女人爲捨其根而攀枝葉。當知是爲菩薩魔事。須菩提白佛言。世尊。何等是餘經。善男子善女人所學不能至薩婆若。佛言。是聲聞所應行經。所謂四念處四正|勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。空無相無作解脫門。善男子善女人住是中得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。是名聲聞所行不能至薩婆若。如是善男子善女人。捨般若波羅蜜親近是餘經。何以故。須菩提。般若波羅蜜中出生諸菩薩摩訶薩。成就世間出世間法。須菩提。菩薩摩訶薩學般若波羅蜜時。亦學世間出世間法。須菩提。譬如狗不從大家求食反從作務者索。如是須菩提。當來世

有元明俱作聞

薩下三本俱無摩訶薩三字

爲三本俱作亦

相上宋有無字元明俱有無示二字

有善男子善女人棄深般若波羅蜜而攀枝葉.取聲聞辟支佛所應行經.當知是爲菩薩魔事.須菩提.譬如有人欲得見象見已反觀其跡.須菩提.於汝意云何.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.佛言.諸求佛道善男子善女人亦復如是.得深般若波羅蜜棄捨去.取聲聞辟支佛所應行經.須菩提.當知是爲菩薩魔事.須菩提.譬如人欲見大海反求牛跡水.作是念.大海水能與此等不.須菩提.於汝意云何.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.佛言.當來世有求佛道善男子善女人亦如是.得深般若波羅蜜棄捨去.取聲聞辟支佛所應行經.當知是亦菩薩摩訶薩魔事.須菩提.譬如工匠若工匠弟子.欲擬作帝釋勝殿而揆則日月宮殿.須菩提.於汝意云何.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.如是須菩提.當來世有薄福德善男子善女人求佛道者.得是深般若波羅蜜便棄捨去.於聲聞辟支佛所應行經中求薩婆若.須菩提.於汝意云何.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.佛言.當知亦是菩薩魔事.須菩提.譬如有人欲見轉輪聖王.見而不識.後見諸小國王取其相貌.如是言轉輪聖王與此何異.須菩提.於汝意云何.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.須菩提.當來世有薄福德善男子善女人求佛道者.得是深般若波羅蜜棄捨去.取聲聞辟支佛所應行經持求薩婆若.須菩提.於汝意云何.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.當知是爲菩薩魔事.須菩提.譬如飢人得百味食棄捨去.反食六十日穀飯.須菩提.於汝意云何.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.佛言.當來世有求佛道善男子善女人.得聞深般若波羅蜜棄捨去.取聲聞辟支佛所應行經持求薩婆若.於汝意云何.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.當知是亦菩薩魔事.須菩提.譬如人得無價摩尼珠.反持比水精珠.須菩提.於汝意云何.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.佛言.當來世有求佛道善男子善女人.得聞深般若波羅蜜棄捨去.取聲聞辟支佛所應行經持求薩婆若.是人爲黠不.須菩提言.爲不黠.當知是亦菩薩魔事.復次須菩提.是求佛道善男子善女人.書是深般若波羅蜜時.樂說不如法事.不得書成般若波羅蜜.所謂樂說色聲香味觸法.樂說持戒禪定無色定.樂說檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜.樂說四念處乃至阿耨多羅三藐三菩提.何以故.須菩提.是般若波羅蜜中無樂說相.須菩提.般若波羅蜜不可思議相.般若波羅蜜不生不滅相.般若波羅蜜不垢不淨相.般若波羅蜜不亂不散相.般若波羅蜜無說相.般若波羅蜜無言無義相.般若波羅蜜無所得相.何以故.須菩提.般

亦是三本俱作
是亦次同

薩同作提

子明作人○國
上元明俱有若
字〔毀謗〕三本
俱作謗毀〔若
元明俱作起服
三本俱作衣〕
疾同作病○受
下同有持字○
受同作愛〔與
同作有○人宋
元俱作入〕是
上明有於字〔
今元明俱作若

若波羅蜜中無是諸法。須菩提。若有善男子善女人求菩薩道者。書是般若波羅蜜經時。以是諸法散亂心。當知亦是菩薩魔事。須菩提白佛言。世尊。是般若波羅蜜可書耶。佛言。不可書。何以故。般若波羅蜜自性無故。禪那波羅蜜毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。乃至一切種智自性無故。若自性無是不名爲法。無法不能書無法。須菩提。若求菩薩道善男子善女人作是念。無法是深般若波羅蜜。當知卽是菩薩魔事。世尊。是求菩薩道善男子善女人。用字書般若波羅蜜。自念我書是般若波羅蜜。以字著般若波羅蜜。當知亦是菩薩魔事。何以故。世尊。是般若波羅蜜無文字。禪那波羅蜜毗棃耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜無有文字。世尊。色無文字受想行識無文字。乃至一切種智無文字。世尊。若求菩薩道善男子善女人。著無文字般若波羅蜜。乃至著無文字一切種智。當知是亦菩薩魔事讀。誦說正憶念如說修行亦如是。復次須菩提。求佛道善男子善女子。書是般若波羅蜜時。國土念起聚落念起城邑念起方念起。若聞毀謗其師起念。若念父母及兄弟姊妹諸餘親里。若念賊若念旃陀羅。若念衆女若念婬女。如是等種種諸餘異念。留難惡魔復益其念。破壞書般若波羅蜜。破壞讀誦說正憶念如說修行。須菩提。當知是亦菩薩魔事。復次須菩提。求佛道善男子善女人。得名譽恭敬布施供養。所謂衣服飲食臥牀疾藥種種樂具。善男子善女人書是般若波羅蜜經受讀誦乃至正憶念時。受著是事不得書成般若波羅蜜。乃至正憶念。當知是亦菩薩魔事。復次須菩提。求佛道善男子善女人書般若波羅蜜。乃至如說修行時。惡魔方便持諸餘深經與是菩薩摩訶薩。有方便力者。不應貪著惡魔所與諸餘深經。何以故。是經不能令人至薩婆若故。是中無方便菩薩摩訶薩聞是諸餘深經。便捨深般若波羅蜜。須菩提。我是般若波羅蜜中廣說諸菩薩摩訶薩方便道。諸菩薩摩訶薩應當從是中求。須菩提。今善男子善女人求菩薩道捨是深般若波羅蜜。於魔所與聲聞辟支佛深經中求方便道。當知亦是菩薩魔事。

摩訶般若波羅蜜經卷第十三

經題四三本俱作六

品目兩下同有不和合三字〇人明作者

讀上三本俱無受持二字

蘭同作練下同

但受元明俱作受但

書下同有受字

善下同無持戒二字

悋三本俱作悋

摩訶般若波羅蜜經卷第十四

〔麗藍〕〔宋海〕〔元海〕〔明海〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

兩過品第四十七 丹兩不和合品

復次須菩提。聽法人欲書持般若波羅蜜讀誦問義正憶念。說法人懈墮不欲爲說。當知是爲菩薩魔事。須菩提。說法之人心不懈惰。欲令書持般若波羅蜜。聽法者不欲受之。二心不和。當知是爲魔事。復次須菩提。聽法人欲書持般若波羅蜜讀誦乃至正憶念。說法者欲至他方。當知是爲魔事。須菩提。說法人欲令書持般若波羅蜜。聽法者欲至他方。二心不和。當知是爲魔事。復次須菩提。說法人貴重布施衣服飲食臥具醫藥資生之物。聽法人少欲知足行遠離行。攝念精進一心智慧。兩不和合。不得書持般若波羅蜜受持讀誦問義正憶念。當知是爲魔事。須菩提。說法人少欲知足行遠離行。攝念精進一心智慧。聽法者貴重布施衣服飲食臥具醫藥資生之物。兩不和合。不得書持般若波羅蜜讀誦問義正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者受十二頭陀。一作阿蘭若。二常乞食。三納衣。四一坐食。五節量食。六中後不飲漿。七塚間住。八樹下住。九露地住。十常坐不臥。十一次第乞食。十二但三衣。聽法人不受十二頭陀。不作阿蘭若。乃至不受但三衣。兩不和合。不得書持般若波羅蜜讀誦問義正憶念。當知是爲魔事。須菩提。聽法者受十二頭陀。作阿蘭若。乃至但受三衣。說法人不受十二頭陀。不作阿蘭若。乃至不受但三衣。兩不和合。不得書持般若波羅蜜讀誦問義正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者有信有善。欲書深般若波羅蜜乃至正憶念。聽法者無信破戒惡行。不欲書受深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。須菩提。聽法者有信有善持戒。說法者無信破戒惡行。兩不和合。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者能一切施心不慳惜。聽法者悋惜不捨。當知是爲魔事。須菩提。聽法者一切能施心不慳惜。說法者悋法不施。兩不和合。不得書持般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。聽法者欲供養說法人衣服飲食臥具

醫藥資生所須。說法者不欲受之。當知是爲魔事。須菩提。說法者欲供給聽法人衣服乃至資生所須。聽法者不欲受之。兩不和合。不得書持般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者易悟。聽法人闇鈍。當知是爲魔事。須菩提。聽法者易悟。說法人闇鈍。兩不和合。不得書持般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者知十二部經次第義。所謂修姤路乃至優波提舍。聽法者不知十二部經次第義。當知是爲魔事。聽法者知十二部經次第義。說法人不知十二部經次第義。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者成就六波羅蜜。聽法人不成就六波羅蜜。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。聽法者有六波羅蜜。說法人無六波羅蜜。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者於六波羅蜜有方便力。聽法人於六波羅蜜無方便力。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。聽法者於六波羅蜜有方便力。說法人於六波羅蜜無方便力。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者得陀羅尼。聽法人無陀羅尼。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。聽法者得陀羅尼。說法者無陀羅尼。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者欲令書持般若波羅蜜讀誦乃至正憶念。聽法人不欲書持般若波羅蜜讀誦乃至正憶念。兩不和合。不得書般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。聽法者欲書讀誦說般若波羅蜜。說法者不欲令書般若波羅蜜乃至不欲令說。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說法者離貪欲瞋恚睡眠掉悔疑。聽法人貪欲瞋恚睡眠掉悔疑。當知是爲魔事。聽法者離貪欲瞋恚睡眠掉悔疑。說法人貪欲瞋恚睡眠掉悔疑。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。書是深般若波羅蜜乃至正憶念時。或有人來說三惡道中苦劇。汝何不於是身盡苦速入涅槃。何用是阿耨多羅三藐三菩提爲。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。書是深般若波羅蜜受持讀誦說正憶念時。或有人來讚四天王諸天。讚三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天梵天乃至非有想非無想天。讚初禪乃至非有想非無想定。作是言。善男子。欲界中受

姤路　三本俱作多羅
般　上同有深字
入　上同無速字

誦下三本俱無說字

小同作少○厭明作猒下同

五欲快樂.色界中受禪生樂.無色界中受寂滅樂.是事亦無常苦空無我.變相盡相散相離相滅相.汝何不於是身中取須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道.何用是世間生死中受種種苦求阿耨多羅三藐三菩提爲.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.復次須菩提.說法者一身無累自在無礙.聽法人多將人衆.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.聽法者一身無累自在無礙.說法者多將人衆.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.復次須菩提.說法者如是言.汝能隨我意者.當與汝般若波羅蜜令書讀誦說正憶念.若不隨我意者則不與汝.兩不和合.不得書深般若波羅蜜讀誦說正憶念.當知是爲魔事.復次須菩提.聽法者欲得追隨如其意.說法者不聽.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.復次須菩提.說法者欲得財利故.與般若波羅蜜令書持乃至正憶念.聽法者以是因緣故不欲從受.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.聽法者爲財利故.欲書深般若波羅蜜讀誦|說.說法者以是因緣故不欲與.兩不和合.不得書深般若波羅蜜讀誦說.當知是爲魔事.復次須菩提.說法者欲至他方危命之處.聽法者不欲隨去.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.聽法者欲至他方危命之處.說法者不欲去.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.復次須菩提.說法者欲至他方饑餓穀貴無水之處.聽法者不欲隨去.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.聽法者欲至他方饑餓穀貴無水之處.說法者不欲去.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.復次須菩提.說法者欲至他方豐樂之處.聽法者欲隨從去.說法者言.善男子.汝爲利養故追隨我.汝善自思惟.若得若不得無令後悔.以是|小因緣故.兩不和合.聽法者聞之心|厭作是念.是爲拒逆.不欲與我相隨.便卽止不去.兩不和合.不得書深般若波羅蜜乃至正憶念.當知是爲魔事.復次須菩提.說法者欲過曠野.賊怖旃陀羅怖獵師怖惡獸毒蛇怖.聽法者欲隨逐去.說法者言.善男子.汝何用到彼.彼中多有諸怖賊怖乃至毒蛇怖.聽法者聞之知其不欲與般若波羅蜜書持乃至正憶念.心|厭不欲追隨.以是少因緣故.兩不和合.當知是爲魔事.復次須菩提.說法者多有檀越數往問訊.以是因緣故.語聽法者.我有因緣應往到彼.聽法

不下同無得字〇不上同無兩字

應當知是魔事而三本俱作魔事應當覺知知已八字

是上同無以字

人知其意便止不去。兩不和合。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。惡魔作比丘形像來。方便破壞般若波羅蜜。不得令書持讀誦說正憶念。須菩提白佛言。世尊。何因緣故。惡魔作比丘形像。方便破壞般若波羅蜜。不得令書持乃至正憶念。佛言。惡魔作比丘形像來壞善男子善女人心。令遠離般若波羅蜜作是言。如我所說經卽是般若波羅蜜。此經非般若波羅蜜。須菩提。是中破壞諸比丘時。有未受記菩薩便墮疑惑。墮疑惑故不得書深般若波羅蜜。不受不持乃至不作正憶念。兩不和合。不得書成般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。惡魔作比丘身。到菩薩所如是言。若菩薩行。般若波羅蜜。於實際作證得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。得辟支佛道。以是不和合。不得書般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。說是深般若波羅蜜時。多有魔事起留難般若波羅蜜是爲魔事。菩薩摩訶薩應當覺知知已遠離。須菩提言。世尊。何等是魔事留難。菩薩應當覺知知已遠離。佛言。似般若波羅蜜諸魔事起。似禪那波羅蜜似毗梨耶波羅蜜似羼提波羅蜜似尸羅波羅蜜似檀那波羅蜜魔事起。菩薩應當覺知知已遠離。復次須菩提。聲聞辟支佛所應行經。是菩薩摩訶薩應當知是魔事而遠離之。復次須菩提。內空外空乃至無法有法空。四念處乃至八聖道分。空無相無作解脫門。用是法得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。如是等諸經。惡魔作比丘形像。方便與菩薩摩訶薩以是不和合故。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。惡魔作佛身金色丈光。到菩薩所是菩薩貪著。貪著因緣故耗減薩婆若。以是不和合故。不得書般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。復次須菩提。惡魔作佛身及比丘僧到菩薩前。是菩薩起貪著意作是念。我於當來世亦當如是從比丘僧爲說法。是菩薩貪著魔身故。耗減薩婆若。不得書成般若波羅蜜。當知是爲魔事。復次須菩提。惡魔化作無數百千萬億菩薩。行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。指示善男子善女人。善男子善女人見已貪著。貪著故耗減薩婆若。不得書深般若波羅蜜乃至正憶念。當知是爲魔事。何以故。是深般若波羅蜜中。無有色無有受想行識。乃至無阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。是般若波羅蜜若無有色。乃至無阿耨多羅三藐三菩提。是中無佛無聲聞無辟支佛無菩薩。何以故。一切諸法自性空

多下同有有怨二字

時下同有多有怨賊四字

惟越三本俱作毗跋

苦患同作患苦○蚖同作虺

故復次須菩提善男子善女人書是深般若波羅蜜受讀誦說正憶念時多有留難起須菩提譬如閻浮提中珍寶金銀琉璃車渠瑪瑙珊瑚等多難多賊如是須菩提善男子善女人書是深般若波羅蜜乃至正憶念時多賊多留難起須菩提白佛言如是世尊閻浮提中珍寶金銀琉璃車渠瑪瑙珊瑚等多賊多難世尊善男子善女人亦如是書是深般若波羅蜜乃至正憶念時多留難起多有魔事何以故是愚癡人爲魔所使善男子善女人書是深般若波羅蜜乃至正憶念時破壞令遠離世尊是愚癡人少智少慧是善男子善女人書深般若波羅蜜乃至正憶念時破壞令遠離是愚癡人心不樂大法是故不書是深般若波羅蜜不受不讀不誦不正憶念不如說修行亦壞他人令不得書深般若波羅蜜乃至如說修行佛言如是如是須菩提新發大乘意善男子善女人爲魔所使不種善根不供養諸佛不隨善智識故不書深般若波羅蜜乃至不正憶念而作留難是善男子善女人少智少慧心不樂大法是故不能書是深般若波羅蜜乃至正憶念魔事起故須菩提若善男子善女人能書是深般若波羅蜜乃至正憶念時魔事不起能具足禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜能具足四念處乃至一切種智須菩提當知佛力故是善男子善女人能書是深般若波羅蜜乃至正憶念亦能具足禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜具足內空乃至無法有法空具足四念處乃至八聖道分佛十力乃至一切種智須菩提十方現在無量無邊阿僧祇諸佛亦助是善男子善女人令得書是深般若波羅蜜乃至正憶念十方阿惟越致諸菩薩摩訶薩亦擁護祐助是善男子善女人書深般若波羅蜜乃至正憶念

摩訶般若波羅蜜經佛母品第四十八

佛告須菩提譬如母人有子若五若十若二十若三十若四十若五十若百若千母中得病諸子各各勤求救療作是念我等云何令母安隱無諸苦患不樂之事風寒冷熱蚊虻蛇蚖侵犯母身是我等憂其諸子等常求樂具供養其母所以者何生育我等示我世間如是須菩提佛常以佛眼視是深般若波羅蜜何以故是深般若波羅蜜能示世間相十方現在諸佛亦以佛眼常視是深般若波羅蜜何以故是深般若波羅蜜能生諸佛能與諸佛

一切智.能示世間相.以是故.諸佛常以佛眼視是深般若波羅蜜.又以般若波羅蜜能生禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜.能生內空乃至無法有法空.能生四念處乃至八聖道分.能生佛十力乃至一切種智.如是般若波羅蜜能生須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛諸佛.須菩提.所有諸佛已得阿耨多羅三藐三菩提今得當得.皆因深般若波羅蜜因緣故得.須菩提.若求佛道善男子善女人.當書是深般若波羅蜜乃至正憶念.諸佛常以佛眼視是人.須菩提.是求菩薩道善男子善女人.諸十方佛常守護.令不退阿耨多羅三藐三菩提.須菩提白佛言.如世尊所說.般若波羅蜜能生諸佛.能示世間相.世尊.般若波羅蜜云何能生諸佛.云何能示世間相.云何諸佛從般若波羅蜜生.云何諸佛說世間相.佛告須菩提.是深般若波羅蜜中生佛十力乃至十八不共法一切種智.須菩提.得是諸法因緣故名爲佛.須菩提.以是故深般若波羅蜜能生諸佛.須菩提.諸佛說五陰是世間相.須菩提言.世尊.云何深般若波羅蜜中說五陰相.云何深般若波羅蜜中示五陰.如須菩提.般若波羅蜜不示五陰破.不示五陰壞.不示生不示滅.不示垢不示淨.不示增不示減.不示入不示出.不示過去不示未來不示現在.何以故.空相不破不壞.無相相無作相不破不壞.不起法不生法無所有法性法不破不壞.相如是示.如是須菩提.佛說深般若波羅蜜能示世間相.復次須菩提.諸佛因般若波羅蜜.悉知無量無邊阿僧祇衆生心所行.須菩提.是深般若波羅蜜中.無衆生無衆生名.無色無色名.無受想行識無受想行識名.無眼乃至無意.無眼識乃至無意識.無眼觸乃至無意觸.乃至無一切種智.無一切種智名.如是須菩提.是深般若波羅蜜能示世間相.須菩提.是深般若波羅蜜亦不示色.不示受想行識.乃至不示一切種智.何以故.須菩提.是深般若波羅蜜中尚無般若波羅蜜.何況色乃至一切種智.復次須菩提.所有衆生名數.若有色若無色.若有想若無想.若非有想若非無想.若此間國土若遍十方國土.是諸衆生若攝心若亂心.是攝心亂心佛如實知.須菩提.云何佛知衆生攝心亂心相.以法相故知.用何等法相故知.須菩提.是法相中尚無法相.何況有攝心亂心.須菩提.以是法相故.佛知衆生攝心亂心.復次須菩提.佛知衆生攝心亂心云何知.須菩提.以盡相故知.以無染相故知.以滅相故知.以斷相故知.以寂相故知.以離相故知.如是須菩提.佛因般若波羅蜜知衆生攝心亂心.復次須菩提.佛因般若波羅蜜知衆

如三本俱作相
至下同無無字
心下明有是字

心下同有相字

住下明有相字

因下宋明倶無深字次同

生染心.如實知染心瞋心癡心.如實知瞋心癡心.須菩提白佛言.世尊.云何佛知衆生染心.如實知染心瞋心癡心.如實知瞋心癡心.佛告須菩提.染心如實相則無染心相.何以故.如實相中心心數法尚不可得.何況當得染心不染心.須菩提.瞋心癡心如實相則無瞋心無癡心相.何以故.如實相中心心數法尚不可得.何況當得瞋心不瞋心癡心不癡心.如是須菩提.佛因般若波羅蜜.衆生染心如實知染心.瞋心癡心如實知瞋心癡心.復次須菩提.佛因般若波羅蜜.衆生無染心.如實知無染心.無瞋心無癡心.如實知無瞋心無癡心.須菩提白佛言.世尊.云何衆生無染心.如實知無染心.無瞋心.如實知無瞋心.無癡心如實知無癡心.佛告須菩提.是心無染相中.染相不染相不可得.何以故.須菩提.二心不倶故.如是須菩提.佛因般若波羅蜜.衆生無染心.如實知無染心.須菩提.是無瞋心無癡心相中.癡心不癡心不可得.何以故.二心不倶故.如是須菩提.佛因般若波羅蜜.衆生無瞋心無癡心如實知.復次須菩提.佛因般若波羅蜜.是衆生廣心如實知廣心.須菩提白佛言.世尊.云何佛因般若波羅蜜.是衆生廣心如實知廣心.須菩提.佛知諸衆生心相不廣不狹不增不減不來不去.心相離故是心不廣不狹乃至不來不去.何以故.是心性無故.誰作廣誰作狹乃至來去.如是須菩提.佛因般若波羅蜜.是衆生廣心如實知廣心.復次須菩提.佛因般若波羅蜜.是衆生大心如實知大心.須菩提白佛言.世尊.云何佛因般若波羅蜜.是衆生大心如實知大心.佛告須菩提.佛因般若波羅蜜.不見衆生心來相去相.不見衆生心生相滅相住異相.何以故.是諸心性無故.誰來誰去誰生滅住異.如是須菩提.佛因般若波羅蜜.是衆生大心如實知大心.復次須菩提.佛因般若波羅蜜.衆生無量心如實知無量心.須菩提白佛言.世尊.云何佛因般若波羅蜜.衆生無量心如實知無量心.佛告須菩提.佛因般若波羅蜜.知是衆生心不見住不見不住.何以故.是無量心相無依止故.誰有住不住處.如是須菩提.佛因般若波羅蜜.衆生無量心如實知無量心.復次須菩提.佛因般若波羅蜜.衆生不可見心如實知不可見心.須菩提白佛言.世尊.云何佛因般若波羅蜜.衆生不可見心如實知不可見心.佛告須菩提.衆生心是無相.佛如實知無相.自相空故.復次須菩提.佛知衆生心五眼不能見.如是須菩提.佛因般若波羅蜜.衆生不可見心如實知不可見心.復次須菩提.佛因深般若波羅蜜.衆生心數出沒屈申如實知.世尊.云何佛

申三本俱作伸下同

識下元明俱有神及世間常是事實餘妄語是見依色十五字

知色如如相宋元明俱作知色相如如相知識如如相元明俱作知識相如如相上同無分別二字無五陰上即下同無是字

因深般若波羅蜜。衆生心數出沒屈申如實知。佛言。一切衆生心數出沒屈申等。皆依色受想行識生。須菩提。佛於是中知衆生心數出沒屈申。所謂神及世間常。是事實餘妄語。是見依色。神及世間無常。是事實餘妄語。是見依色。神及世間常亦無常。是事實餘妄語。是見依色。神及世間非常非無常。是事實餘妄語。是見依色。神及世間常是事實餘妄語。是見依受。神及世間無常是事實餘妄語。是見依受。神及世間常亦無常是事實餘妄語。是見依受。神及世間非常非無常。是事實餘妄語。是見依受。神及世間常是事實餘妄語。是見依想。神及世間無常是事實餘妄語。是見依想。神及世間常亦無常是事實餘妄語。是見依想。神及世間非常非無常是事實餘妄語。是見依想。神及世間常是事實餘妄語。是見依行。神及世間無常。是事實餘妄語。是見依行。神及世間常亦無常是事實餘妄語。是見依行。神及世間非常非無常。是事實餘妄語。是見依行。神及世間常是事實餘妄語。是見依識。神及世間無常。是事實餘妄語。是見依識。神及世間常亦無常。是事實餘妄語。是見依識。神及世間非常非無常。是事實餘妄語。是見依識。世間有邊。是事實餘妄語。是見依色。世間無邊。是事實餘妄語。是見依色。世間有邊無邊。是事實餘妄語。是見依色。世間非有邊非無邊。是事實餘妄語。是見依色。依受想行識亦如是。神即是身。是見依色。神異身異。是見依色。依受想行識亦如是。死後有如去。是事實餘妄語。是見依色。死後無如去。是事實餘妄語。是見依色。死後或有如去或無如去。是事實餘妄語。是見依色。死後非有如去非無如去。是事實餘妄語。是見依色。依受想行識亦如是。如是須菩提。佛因般若波羅蜜。衆生出沒屈申如實知。復次須菩提。佛知色相。云何知色相。知色如如相不壞。無分別無相無憶無戲論無得。色相亦如是。須菩提。佛知受想行識相。云何知受想行識相。知識如如相不壞。無分別無相無憶無戲論無得。受想行識相亦如是。如是須菩提。佛知衆生如相。及衆生心數出沒屈申如相。是五陰如相。諸行如相。即是一切法如相。何等是一切法如相。所謂六波羅蜜如相。六波羅蜜如相。即是三十七品如相。三十七品如相。即是十八空如相。十八空如相。即是八背捨如相。八背捨如相。即是九次第定如相。九次第定如相。即是佛十力如相。佛十力如相。即是四無所畏四無礙智大慈大悲乃至十八不共法如相。十八不共法如相。即是一切種智如相。一切種智如相。即是善法不善法。世間法出世間法。有漏法無漏

唯明本作惟○惟越致三本俱作惟毗跋致○佛乃至十一字元明俱作是法甚深故五字

世界三本俱作國土

是上元明俱無如字○修宋元明俱作脩○有宋元無知相知俱作相知○明知下同無相知二字

法如相。有漏法無漏法如相。即是過去未來現在諸法如相。過去未來現在諸法如相。即是有爲法無爲法如相。有爲法無爲法如相。即是須陀洹果如相。須陀洹果如相。即是斯陀含果如相。斯陀含果如相。即是阿那含果如相。阿那含果如相。即是阿羅漢果如相。阿羅漢果如相。即是辟支佛道如相。辟支佛道如相。即是阿耨多羅三藐三菩提如相。阿耨多羅三藐三菩提如相。即是諸佛如相。諸佛如相皆是一如相。不二不別不盡不壞。是名一切諸法如相。佛因般若波羅蜜得是如相。以是因緣故。般若波羅蜜能生諸佛。能示世間相。如是須菩提。佛知一切法如相。非不如相不異相。得是如相故佛名如來。須菩提白佛言。世尊。是諸法如相。非不如相不異相。甚深世尊。諸佛用是如。爲人說阿耨多羅三藐三菩提。世尊。誰能信解是者。唯有阿惟越致菩薩及具足正見人漏盡阿羅漢。何以故。佛得是甚深如法爲人說故。佛告須菩提。是如無盡相故甚深。須菩提言。何法無盡相故甚深。佛言。一切法無盡故。如是須菩提。佛得是一切諸法如已。爲衆生說

摩訶般若波羅蜜經問相品第四十九

爾時三千大千世界中。所有欲界天子色界天子。遙散華香來至佛所。頂禮佛足却一面住。白佛言。世尊。所說般若波羅蜜甚深。何等是深般若波羅蜜相。佛告欲界色界諸天子。諸天子。空相是深般若波羅蜜相。無相無作無起無生無滅無垢無淨。無所有法無相。無所依止虛空相。是深般若波羅蜜相。諸天子。如是等相是深般若波羅蜜相。佛爲衆生用世間法故說。非第一義。諸天子。如是諸相一切世間天人阿修羅不能破壞。何以故。是一切世間天人阿修羅。亦是相故。諸天子。相不能破相。相不能知相。相不能知無相。無相不能知相。是相是無相。相無相皆無所有。謂知相知者知法皆不可得故。何以故。諸天子。是諸相非色作。非受想行識作。非檀那波羅蜜作。非尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜作。非內空作非外空作。非內外空作。非無法空作非有法空作。非無法有法空作。非四念處作。乃至非一切種智作。諸天子。是相非人所有。非非人所有。非世間非出世間。非有漏非無漏。非有爲非無爲。佛復告諸天子。譬如有爲問何等是虛空相。此人爲正問不。諸天子言。

世尊。此不正問。何以故。世尊。是虛空無有相可說。虛空無爲無起故。佛告欲界色界諸天子。有佛無佛相性常住。佛得如實相性故。名爲如來。諸天子白佛言。世尊。世尊所得諸相性甚深。得是相故得無礙智。住是相中以般若波羅蜜集諸法自相。諸天子言。希有世尊。是深般若波羅蜜是諸佛常所行道處。行是道得阿耨多羅三藐三菩提。得阿耨多羅三藐三菩提已。通達一切法相。若色相若受想行識相。乃至一切種智相。佛言。如是如是。諸天子惱壞相是色相。佛得是無相。覺者受相。取者想相。起作者行相。了別者識相。佛得是無相。能捨者檀那波羅蜜相。無熱惱者尸羅波羅蜜相。不變異者羼提波羅蜜相。不可伏者毘梨耶波羅蜜相。攝心者禪那波羅蜜相。捨離者般若波羅蜜相。佛得是無相。心無所嬈惱者。是四禪四無量心四無色定相。佛得是無相。出世間者三十七品相。佛得是無相。苦者無作脫門相。集者空脫門相。寂滅者無相脫門相。佛得是無相。勝者十力相。不恐怖者無所畏相。遍知者四無礙智相。餘人無得者十八不共法相。佛得是無相。憐念衆生者大慈大悲相。實者無錯謬相。無所取者常捨相。現了知者一切種智相。佛得是無相。如是諸天子。佛得一切諸法無相。以是因緣故。佛名無礙智。爾時佛告須菩提。般若波羅蜜是諸佛母。般若波羅蜜能示世間相。是故佛依止是法行。供養恭敬尊重讚歎是法。何等是法。所謂般若波羅蜜。諸佛依止般若波羅蜜住。恭敬供養尊重讚歎是般若波羅蜜。何以故。是般若波羅蜜出生諸佛。佛知作人。若人正問知作人者。正答無過於佛。何以故。須菩提。佛知作人故。須菩提。佛所乘來法佛所從來道。得阿耨多羅三藐三菩提是乘是道。佛還恭敬供養尊重讚歎受持守護。須菩提。是名佛知作人。復次須菩提。佛知一切法無作相。作者無所有故。一切法無起相。形事不可得故。須菩提。佛因般若波羅蜜知一切法無作相。以是因緣故佛知作人。復次須菩提。佛因般若波羅蜜得一切法不生以無所得故。以是因緣故。般若波羅蜜能生諸佛能示世間相。須菩提言。世尊。若一切法無知者無見者。云何般若波羅蜜能生諸佛能示世間相。佛告須菩提。如是如是。一切法實無知者無見者。云何無知者無見者。一切法空虛誑不堅固。是故一切法。無知者無見者。復次須菩提。一切法無依止無所繫。以是故一切法無知者無見者。如是須菩提。般若波羅蜜能生諸佛能示世間相。不見色故示世間相。不見受想行識故示世間相。乃至不見一切種

無下同無有字
尸上宋元俱有乃字
集宋作習元明俱作離
是法行三本俱作法住二字
佛上元明俱無須菩提三字
以上同有亦字

空三本俱作性次同

示下三本俱有佛字

智故示世間相.如是須菩提.般若波羅蜜能生諸佛能示世間相.須菩提言.世尊.云何不見色故般若波羅蜜示世間相.不見受想行識乃至一切種智故示世間相.佛告須菩提.若不緣色生識.是名不見色相故示.不緣受想行識生識.乃至不緣一切種智生識.是名不見一切種智相故示.如是須菩提.是深般若波羅蜜能生諸佛能示世間相.復次須菩提.般若波羅蜜云何能生諸佛能示世間相.須菩提.般若波羅蜜示世間空.云何示世間空.示五陰世間空.示十二入世間空.示十八界世間空.示十二因緣世間空.示我見根本六十二見世間空.示十善道世間空.示四禪四無量心四無色定世間空.示三十七品世間空.示六波羅蜜世間空.示內空世間空.示外空世間空.示內外空世間空.示無法空世間空.示有法空世間空.示無法有法空世間空.示有爲空世間空.示無爲空世間空.示佛十力世間空.示十八不共法世間空.乃至示一切種智世間空.如是須菩提.般若波羅蜜能生諸佛能示世間相.復次須菩提.佛因是般若波羅蜜.示世間空.知世間空.覺世間空.思惟世間空.分別世間空.如是須菩提.般若波羅蜜能生諸佛能示世間相.復次須菩提.般若波羅蜜示佛世間空.云何示佛世間空.示五陰世間空.乃至示一切種智世間空.如是須菩提.般若波羅蜜能生諸佛能示世間相.復次須菩提.般若波羅蜜示佛世間不可思議.云何示世間不可思議.示五陰世間不可思議.乃至示一切種智世間不可思議.復次須菩提.般若波羅蜜示佛世間離.云何示世間離.示五陰世間離.乃至示一切種智世間離.如是須菩提.般若波羅蜜示佛世間離.復次須菩提.般若波羅蜜示佛世間寂滅.云何示世間寂滅.示五陰世間寂滅.乃至示一切種智世間寂滅.復次須菩提.般若波羅蜜示佛世間畢竟空.云何示世間畢竟空.示五陰世間畢竟空.乃至示一切種智世間畢竟空.復次須菩提.般若波羅蜜示佛世間性空.云何示世間性空.示五陰世間性空.乃至示一切種智世間性空.復次須菩提.般若波羅蜜示佛世間無法空.云何示世間無法空.示五陰世間無法空.乃至示一切種智世間無法空.復次須菩提.般若波羅蜜示世間有法空.云何示世間有法空.示五陰世間有法空.乃至示一切種智世間有法空.復次須菩提.般若波羅蜜示佛世間無法有法空.云何示世間無法有法空.示五陰世間無法有法空.乃至示一切種智世間無法有法空.復次須菩提.般若波羅蜜示佛世間獨空.云何示世間獨空.示五陰世間獨空.

爲下同無諸佛二字下稱下元明俱有量字

復次須菩提乃至量不可得百九十二字三本大異對校甚難故今別附校卷末

寧上三本俱有中字下同可上同

乃至示一切種智世間獨空。如是須菩提。般若波羅蜜能生諸佛能示佛世間相。須菩提。是深般若波羅蜜示世間相。所謂不生今世後世相。何以故。諸法無可用生今世後世相故。須菩提白佛言。世尊。是般若波羅蜜爲大事故起。世尊。是般若波羅蜜爲不可思議事故起。世尊。是般若波羅蜜爲不可稱事故起。世尊。是般若波羅蜜爲無量事故起。世尊。是般若波羅蜜爲無等等事故起。佛言。如是如是。須菩提。般若波羅蜜爲大事故起。爲不可思議事故起。爲不可稱事故起。爲無量事故起。爲無等等事故起。須菩提。云何是般若波羅蜜爲大事故起。須菩提。諸佛大事者。所謂救一切衆生。不捨一切衆生。須菩提。云何是般若波羅蜜爲不可思議事故起。須菩提。不可思議事者。所謂諸佛法。如來法。自然人法。一切智人法。以是故。須菩提。諸佛般若波羅蜜。爲諸佛不可思議事故起。須菩提。云何般若波羅蜜爲不可稱事故起。須菩提。一切衆生中。無有能思惟稱佛法如來法自然人法一切智人法。以是故。須菩提。般若波羅蜜爲不可稱事故起。須菩提。云何般若波羅蜜爲無量事故起。須菩提。一切衆生中無有能量佛法如來法自然人法一切智人法。以是故。須菩提。般若波羅蜜爲不可量事故起。須菩提。云何般若波羅蜜爲無等等事故起。須菩提。一切衆生中無有能與佛等者。何況過。以是故。須菩提。般若波羅蜜爲無等等事故起。須菩提白佛言。世尊。但佛法如來法自然人法一切智人法。不可思議不可稱無有量無等等事起耶。佛告須菩提。如是如是。佛法如來法自然人法一切智人法。不可思議不可稱無有量無等等。色亦不可思議不可稱無有量無等等。受想行識亦不可思議不可稱無有量無等等。乃至一切種智法性法相。不可思議不可稱無有量無等等。是中心心數法不可得。復次須菩提。色不可思議是亦不可得。乃至色無等等。是亦不可得。受想行識乃至一切種智無等等。是亦不可得。須菩提白佛言。世尊。何因緣色不可思議乃至無等等。是亦不可得。受想行識乃至一切種智無等等。是亦不可得。佛語須菩提。色量不可得故。受想行識量不可得故。乃至一切種智量不可得故。須菩提白佛言。世尊。何因緣色量不可得。乃至一切種智量不可得。佛告須菩提。色不可思議故。乃至色無等等故。量不可得。乃至一切種智不可思議故。乃至一切種智無等等故。量不可得。須菩提。於汝意云何。不可思議乃至無等等。寧可得不。色受想行識乃至一切種智可得不。須菩提言。世尊。不可得。以是故。須菩提。一切

有寧字○諸上同有是字

議下同無相字

是下同無亦字

天下同無及字解上同有得字○十下同無夾字

註次同菩上同無萬字

復次乃至能量三百五十八字當卷第一九二頁十五行不可得下三本之文也

法不可思議乃至無等等亦如是。須菩提。諸佛法不可思議不可稱無有量無等等。須菩提。是名諸佛法不可思議乃至無等等。須菩提。是諸佛法不可思議過思議相故。不可稱過稱故。無有量過量故。無等等過等等故。須菩提。是因緣故。一切法亦不可思議乃至無等等。須菩提。不可思議。名是義不可思議。不可稱。名是義不可稱。無有量。名是義不可量。無等等。名是義無等等。須菩提。是諸佛法不可思議乃至無等等。不可思議如虛空不可思議。不可稱如虛空不可稱。無有量如虛空無有量。無等等如虛空無等等。須菩提。是亦名諸佛法不可思議乃至無等等。佛法如是無量。一切世間天及人阿修羅。無能思議籌量者。說是諸佛法不可思議不可稱無有量無等等品時。五百比丘一切法不受故。漏盡心解脫得阿羅漢。二十丹千比丘尼亦不受一切法故漏盡得阿羅漢。六萬優婆塞三萬優婆夷諸法中遠塵離垢。諸法中法眼生。二十丹千萬菩薩摩訶薩得無生法忍。於是賢劫中當受記

摩訶般若波羅蜜經卷第十四

復次須菩提。色不可得故不可思議。乃至色不可得故無等等。受想行識不可得故不可思議。乃至識不可得故無等等。乃至一切種智不可得故不可思議。乃至一切種智不可得故無等等。須菩提白佛言。世尊。何因緣色不可得故不可思議。乃至無等等。受想行識不可得故不可思議。乃至無等等。乃至一切種智不可得故不可思議。乃至無等等。佛告須菩提。色無能量故不可得。受想行識無能量故不可得。乃至一切種智無能量故不可得。須菩提白佛言。世尊。何因緣色無能量故不可得。乃至一切種智無能量故不可得。佛告須菩提。色相不可思議故無能量。乃至色相無等等故無能量。乃至一切種智相不可思議故無能量。乃至一切種智相無等等故無能量

經題五三本俱作七

品目成上同有大事起三字

安樂無事同作無事安樂

不上同無亦字次同

欲下同無界字

摩訶般若波羅蜜經卷第十五

〔麗蕫〕〔宋海〕〔元海〕〔明海〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

成辦品第五十 丹本大事起品

爾時須菩提白佛言。世尊。是深般若波羅蜜爲大事故起。不可思議事故起。不可稱事故起。無有量事故起。世尊。是深般若波羅蜜無等等事故起。佛告須菩提。如是如是。是深般若波羅蜜爲大事故起。乃至無等等事故起。何以故。般若波羅蜜中含受五波羅蜜。般若波羅蜜中含受內空外空乃至無法有法空。含受四念處乃至八聖道分。是深般若波羅蜜中含受佛十力乃至一切種智。譬如灌頂王國土中尊。諸有官事皆委大臣。國王安樂無事自恣。如是須菩提。所有聲聞辟支佛法若菩薩法若佛法。一切皆在般若波羅蜜中。般若波羅蜜能成辦其事。以是故須菩提般若波羅蜜爲大事故起。乃至無等等事故起。復次須菩提。是般若波羅蜜。不取色不著色故能成辦。受想行識不取不著故能成辦。乃至一切種智不取不著故能成辦。須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道。乃至阿耨多羅三藐三菩提。不取不著故能成辦。須菩提白佛言。云何色不取不著故。般若波羅蜜能成辦。云何受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提不取不著故。般若波羅蜜能成辦。佛告須菩提。於汝意云何。頗見是色可取可著不。須菩提言。不也世尊。須菩提。於汝意云何。頗見受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提可取可著不。須菩提言。不也世尊。佛言。善哉善哉。須菩提。我亦不見是色可取可著。不見故不取。不取故不著。我亦不見受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提及一切種智可取可著。不見故不取。不取故不著。須菩提。我亦不見佛法如來法自然人法一切智人法可取可著。不見故不取。不取故不著。以是故須菩提。諸菩薩摩訶薩色亦不應取亦不應著。受想行識乃至佛法如來法。自然人法一切智人法。亦不應取亦不應著。爾時欲界色界諸天子白佛言。世尊。是般若波羅蜜甚深難見難解。不可思惟比類知。微妙善巧智慧寂滅者可知。能信是般若波羅蜜者。當知是菩薩多

世界三本俱作國土

成下同有就字

國土同作世界次同

供養諸佛多種善根。與善知識相隨能信解深般若波羅蜜。世尊。若三千大千世界中所有衆生。皆作信行法行人八人須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛若智若斷。不如是菩薩一日行深般若波羅蜜忍欲思惟籌量。何以故。是信行法行人八人須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛若智若斷。即是菩薩摩訶薩無生法忍。佛告欲色界諸天子。如是如是。諸天子。若信行法行人八人須陀洹乃至阿羅漢辟支佛。即是菩薩摩訶薩無生法忍。諸天子。若善男子善女人聞是深般若波羅蜜。書持受讀誦說正憶念。是善男子善女人疾得涅槃。勝求聲聞辟支佛乘善男子善女人。遠離深般若波羅蜜。行餘經若一劫若減一劫。何以故。是深般若波羅蜜中廣說上妙法。是信行法行人八人須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛所應學。菩薩摩訶薩亦所應學。學已得阿耨多羅三藐三菩提。是時欲色界諸天子。俱發聲言。世尊。是般若波羅蜜名摩訶波羅蜜。世尊。是般若波羅蜜名不可思議不可稱無有量無等等波羅蜜。信行法行人八人學是深般若波羅蜜。得成須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛。學是深般若波羅蜜。得成菩薩摩訶薩。是深般若波羅蜜中學得阿耨多羅三藐三菩提。是深般若波羅蜜亦不增亦不減。是時欲色界諸天子。頂禮佛足繞佛而去。去是不遠忽然不現各還本處。須菩提白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩聞是深般若波羅蜜。即時信解者從何處終來生是間。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩聞是深般若波羅蜜。即時信解不沒不却不難不疑不悔歡喜樂聽。聽已憶念不遠離是深般若波羅蜜。若行若住若坐若臥終不廢忘常隨法師。譬如新生犢子不離其母。菩薩摩訶薩亦如是。爲聞深般若波羅蜜故終不遠離法師。乃至得是深般若波羅蜜。口誦心解正見通達。須菩提。當知是菩薩從人道中終還生是間人中。何以故。是求佛道者。前世時聞深般若波羅蜜。書持恭敬尊重讚歎華香乃至幡蓋供養。以是因緣故。人中命終還生人中。聞是深般若波羅蜜即時信解。須菩提白佛言。世尊。頗有菩薩摩訶薩如是功德成就。他方國土供養諸佛。於彼命終來生是間。聞深般若波羅蜜即時信解。書持讀誦正憶念有是者不。佛言有。菩薩如是功德成就。他方國土供養諸佛。於彼命終來生是間。聞是深般若波羅蜜即時信解。書持讀誦正憶念。何以故。是菩薩摩訶薩從他方諸佛所。聞是深般若波羅蜜信解書持讀誦說正憶念。於彼間終來生此間。當知是人是先世功德成就。復次須菩提。有菩薩從彌勒

菩薩摩訶薩．聞是深般若波羅蜜．以是善根因緣故來生此間．須菩提．復有菩薩摩訶薩前世時．雖聞深般若波羅蜜不問中事．來生人中聞是深般若波羅蜜心有疑悔難悟．須菩提．如是菩薩當知先世雖聞是深般若波羅蜜．不問故今續疑悔難悟．須菩提．若菩薩先世雖聞禪那波羅蜜不問中事．今世聞般若波羅蜜時．不問故續生疑悔．須菩提．若菩薩先世雖聞毗梨耶波羅蜜不問中事．今世聞般若波羅蜜．不問故續復疑悔．須菩提．若菩薩先世雖聞羼提波羅蜜不問中事．今世聞般若波羅蜜．不問故續復疑悔．須菩提．若菩薩先世雖聞尸羅波羅蜜不問中事．今世聞般若波羅蜜．不問故續復疑悔．須菩提．若菩薩先世雖聞檀那波羅蜜不問中事今世聞般若波羅蜜．不問故續復疑悔．復次須菩提．菩薩摩訶薩先世雖聞內空外空內外空乃至無法有法空不問中事．來生人中聞是深般若波羅蜜．不問故續復疑悔難悟．復次須菩提．菩薩摩訶薩先世雖聞四念處乃至八聖道分四禪四無量心四無色定五神通佛十力乃至一切種智不問中事．來生人中聞是深般若波羅蜜．不問故續復疑悔難悟．復次須菩提．菩薩摩訶薩先世聞深般若波羅蜜．問中事而不行．捨身生時聞是深般若波羅蜜．若一日二日三日四日五日其心堅固．無能壞者若離所聞．時便退失何以故．先世聞是．深般若波羅蜜時．雖問中事不如說行．是人或時欲聞或時不欲聞．心輕不固志亂不定．譬如輕毛隨風東西．須菩提．當知是菩薩發意不久．不與善知識相隨．不多供養諸佛．先世不書是深般若波羅蜜．不讀不誦不正憶念．不學般若波羅蜜．不學禪那波羅蜜．不學毗梨耶波羅蜜．不學羼提波羅蜜．不學尸羅波羅蜜．不學檀那波羅蜜．不學內空乃至無法有法空．不學四念處乃至八聖道分．不學四禪四無量心五神通佛十力乃至不學一切種智．如是須菩提當知是菩薩摩訶薩．新發大乘意少信少樂故．不能書是深般若波羅蜜．不能受持讀誦說正憶念．須菩提．若求佛道善男子善女人．不書是深般若波羅蜜．不受持讀誦不說不正憶念．亦不爲深般若波羅蜜所護．乃至不爲一切種智所護．是人亦不如說行深般若波羅蜜乃至不如說行一切種智．是人或墮二地．若聲聞地若辟支佛地．何以故．是善男子善女人不書是深般若波羅蜜．不讀不誦不說不正憶念．是人亦不爲深般若波羅蜜所護．亦不如說行．以是故．是善男子善女人於二地中當墮一地

一上三本俱有爲字次同

水下同有若河若井若池若泉八字

護上同有守字次同○護故同作守護

裝同作莊次同

摩訶般若波羅蜜經譬喩品第五十一

佛告須菩提。譬如大海中船破壞。其中人若不取木不取器物。不取浮囊不取死尸。須菩提。當知是人不到彼岸沒海中死。須菩提。若船破時其中人取木取器物浮囊死尸。當知是人終不沒死。安隱無礙得到彼岸。須菩提。求佛道善男子善女人亦復如是。若但有信樂不依深般若波羅蜜。不書不讀不誦不正憶念。不依禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。不書不讀不誦不正憶念。乃至不依一切種智。不書不讀不誦不正憶念。須菩提。當知是善男子。中道衰耗是人未到一切種智。於聲聞辟支佛地取證。須菩提。若有求佛道善男子善女人。爲阿耨多羅三藐三菩提故。有信有忍有淨心有深心。有欲有解有捨有精進。是人依深般若波羅蜜書持讀誦說正憶念。是善男子善女人爲阿耨多羅三藐三菩提故。有諸信忍淨心深心欲解捨精進。爲深般若波羅蜜所護。乃至一切種智所護。爲深般若波羅蜜守護故。乃至一切種智守護故。終不中道衰耗過聲聞辟支佛地。能淨佛國土成就衆生。當得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。譬如男子女人持坏瓶取水。當知是瓶不久爛壞。何以故。是瓶未熟故還歸於地。如是須菩提。善男子善女人雖有爲阿耨多羅三藐三菩提心有信有忍有淨心有深心有欲有解有捨有精進。不爲般若波羅蜜方便力所守護。不爲禪那波羅蜜毗黎耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜所守護。不爲內空乃至無法有法空四念處乃至八聖道分佛十力乃至一切種智所守護。須菩提。當知是人中道衰耗墮聲聞辟支佛地。須菩提。譬如男子女人持熟瓶取水若河若井若池若泉。當知是瓶持水安隱。何以故。是瓶成熟故。如是須菩提。善男子善女人求阿耨多羅三藐三菩提。有諸信忍淨心深心欲解捨精進。爲般若波羅蜜方便力所護。爲禪定精進忍辱持戒布施乃至一切種智所護故。須菩提。當知是人不中道衰耗過聲聞辟支佛地。能淨佛國土成就衆生得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。譬如大海邊船未裝治。便持財物著上。須菩提。當知是船中道壞沒人船財物各在一處。是賈客無方便力故亡其重寶。如是須菩提。是求佛道善男子善女人。雖有爲阿耨多羅三藐三菩提心。有信忍淨心深心欲解捨精進。不爲般若波

耆宋作季次同

掖三本俱作腋

護下同有故字

已宋作以

忍下三本俱無辱字次同○禪下同有定字

以元明俱作已
以三本俱作用

羅蜜方便力所守護。乃至不爲一切種智所守護故。當知是人中道衰耗失大珍寶。大珍寶者所謂一切種智。衰耗者墮聲聞辟支佛地。須菩提。譬如人有智方便裝治海邊大船然後推著水中持財物著上上船而去。當知是船不中道沒壞。必得安隱到所至處。如是須菩提。善男子善女人爲阿耨多羅三藐三菩提有信忍淨心深心欲解捨精進。爲般若波羅蜜方便力所守護。爲禪定精進忍辱持戒布施乃至一切種智所護故。當知是菩薩得到阿耨多羅三藐三菩提不中道墮聲聞辟支佛地。須菩提。譬如有人年百二十歲年耆根熟。又有風冷熱病若雜病。須菩提。於汝意云何。是人能從床起不。須菩提言。不能。佛言。是人或有能起者云何。須菩提言是人雖能起不能遠行若十里若二十里。以其老病故。如是須菩提。善男子善女人雖有爲阿耨多羅三藐三菩提心有信忍淨心深心欲解捨精進。不爲般若波羅蜜方便力所守護。乃至不爲一切種智所守護故。當知是人中道墮聲聞辟支佛地。何以故。不爲般若波羅蜜方便力所守護故。須菩提。如向老人百二十歲年耆根熟。又有風冷熱病若雜病。是人而欲起行有兩健人各扶一掖。語老人言。莫有所難隨所欲至我等二人終不相捨。如是須菩提。若善男子善女人爲阿耨多羅三藐三菩提。有信忍淨心深心欲解捨精進。爲般若波羅蜜方便力所護。乃至爲一切種智所護。當知是人不中道墮聲聞辟支佛地能到是處。所謂阿耨多羅三藐三菩提。爾時佛復讚須菩提言。善哉善哉。須菩提汝爲諸菩薩摩訶薩問佛是事。須菩提。若有求佛道善男子善女人。從初發意已來以我我所心布施持戒忍辱精進禪定智慧。是善男子善女人布施時作是念。我是施主我施是人我施是物。我持戒我修忍辱我精進我入禪我修智慧。是善男子善女人念有是施是我施。乃至念有是慧是我慧。何以故。檀那波羅蜜中無如是分別。遠離此彼岸。是檀那波羅蜜相尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜中。無如是分別。何以故。遠離此彼岸是般若波羅蜜相。是人不知此岸不知彼岸。是人不爲檀那波羅蜜。乃至不爲一切種智所護故。墮聲聞辟支佛地不能到薩婆若。須菩提。云何求佛道人無方便。須菩提。求佛道人從初發心以來無方便行布施持戒忍辱精進禪定修智慧。是人作如是念。我布施施是人以是物施。我持戒修忍辱勤精進入禪定修智慧。如是修智慧。是人念有是施是我施以是施自高。念有是戒是我戒以是戒自高。念有是忍是

慧上同有智字下同

地三本俱作道中二字

蜜下同有所護爲三字次同

品目知上同有善字

我忍以是忍自高.念有是精進是我精進以是精進自高念.有是禪定是我禪定以是禪定自高念.有是慧是我慧以是慧自高.何以故.檀那波羅蜜中無如是分別.遠離此彼岸是檀那波羅蜜相.遠離此彼岸是尸羅波羅蜜相.遠離此彼岸是羼提波羅蜜相.遠離此彼岸是毗梨耶波羅蜜相.遠離此彼岸是禪那波羅蜜相.遠離此彼岸是般若波羅蜜相.何以故.般若波羅蜜中無是憶念分別.是求佛道善男子善女人.不知此岸不知彼岸.是人不爲檀那波羅蜜所護.不爲尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜所護.乃至不爲一切種智所護故.或墮聲聞道中或墮辟支佛道中不能得到薩婆若.如是須菩提.菩薩摩訶薩不爲般若波羅蜜方便力所守護故.或墮聲聞地或墮辟支佛地.須菩提.云何菩薩摩訶薩爲般若波羅蜜方便力所護故.不墮聲聞辟支佛道中疾得阿耨多羅三藐三菩提.須菩提.菩薩從初已來以方便力布施無我我所心布施.乃至無我我所心修智慧.是人不作是念.我有是施是我施.不以是施自高.乃至般若波羅蜜亦如是.是菩薩不念我布施.不念我施是人用是物施.不念我持戒有是戒.不念我忍辱有是忍辱.不念我精進有是精進.不念我禪定有是禪定.不念我修智慧有是智慧.何以故.是檀那波羅蜜中無如是分別.遠離此彼岸是檀那波羅蜜相.遠離此彼岸是尸羅波羅蜜相.遠離此彼岸是羼提波羅蜜相.遠離此彼岸是毗梨耶波羅蜜相.遠離此彼岸是禪那波羅蜜相.遠離此彼岸是般若波羅蜜相.何以故.是般若波羅蜜中無如是憶念分別.是菩薩摩訶薩知此岸知彼岸.是人爲檀那波羅蜜所護.爲尸羅波羅蜜所護.爲羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜所護.乃至爲一切種智所護故.不墮聲聞辟支佛地得到薩婆若.如是須菩提.菩薩摩訶薩爲般若波羅蜜方便力所護故.不墮聲聞辟支佛地疾得阿耨多羅三藐三菩提

摩訶般若波羅蜜經知識品第五十二

爾時慧命須菩提白佛言.世尊.新學菩薩摩訶薩.云何應學般若波羅蜜禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜.佛告須菩提.新學菩薩摩訶薩若欲學般若波羅蜜禪那精進忍辱持戒檀那波羅

蜜。先當親近供養善知識能說是深般若波羅蜜者。是人作是敎。汝善男子。所有布施一切迴向阿耨多羅三藐三菩提。善男子。所有持戒忍辱精進禪定智慧一切迴向阿耨多羅三藐三菩提。汝莫以色是阿耨多羅三藐三菩提。莫以受想行識是阿耨多羅三藐三菩提。莫以內空乃至無法有法空是阿耨多羅三藐三菩提。莫以尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜是阿耨多羅三藐三菩提。莫以檀那波羅蜜是阿耨多羅三藐三菩提。莫以四念處四正勤四如意是五根五力七覺分八聖道分是阿耨多羅三藐三菩提。莫以四禪四無量心四無色定五神通是阿耨多羅三藐三菩提。莫以佛十力乃至十八不共法是阿耨多羅三藐三菩提。所以者何。不取色便得阿耨多羅三藐三菩提。不取受想行識便得阿耨多羅三藐三菩提。不取檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜便得阿耨多羅三藐三菩提。不取內空乃至無法有法空四念處乃至十八不共法。便得阿耨多羅三藐三菩提。善男子。行是深般若波羅蜜時莫貪色。何以故。善男子。是色非可貪者。莫貪受想行識。何以故。受想行識非可貪者。善男子。莫貪檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。莫貪內空乃至無法有法空。莫貪四念處乃至八聖道分。莫貪四禪四無量心四無色定五神通。莫貪佛十力乃至一切種智。何以故。一切種智非可貪者。善男子。莫貪須陀洹果乃至阿羅漢果。莫貪辟支佛道。莫貪菩薩法位。莫貪阿耨多羅三藐三菩提。何以故。阿耨多羅三藐三菩提非可貪者。所以者何。諸法性空故。須菩提白佛言。世尊。諸菩薩摩訶薩能爲難事。於一切性空法中求阿耨多羅三藐三菩提。欲得阿耨多羅三藐三菩提。佛言。如是如是。須菩提。菩薩摩訶薩能爲難事。於一切性空法中求阿耨多羅三藐三菩提。欲得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。諸菩薩摩訶薩爲安隱世間故。發阿耨多羅三藐三菩提心。爲樂世間故爲救世間故。爲世間歸故爲世間依處故。爲世間洲故爲世間究竟道故。爲世間將導故爲世間趣故。發阿耨多羅三藐三菩提心。須菩提。云何菩薩摩訶薩爲安隱世間故。發阿耨多羅三藐三菩提心。須菩提。菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時。拔出六道衆生著無畏岸涅槃處。須菩提。是爲菩薩摩訶薩爲安隱世間故發阿耨多羅三藐三菩提心。云何菩薩摩訶薩爲樂世間故。發阿耨多羅三藐三菩提心。須菩提。菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時。拔出衆生種

究竟道故爲世間將導三本俱作將導故爲世間究竟道

無三本俱作不

法下同無相字

譬如同作者

種憂苦愁惱.著無畏岸涅槃處.須菩提.是爲菩薩摩訶薩爲樂世間故發阿耨多羅三藐三菩提心.云何菩薩摩訶薩爲救世間故發阿耨多羅三藐三菩提心.須菩提.菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時.救衆生生死中種種苦.亦爲斷是苦故而爲說法.衆生聞法漸以三乘而得度脫.須菩提.是爲菩薩摩訶薩爲救世間故發阿耨多羅三藐三菩提心.云何菩薩摩訶薩爲世間歸故發阿耨多羅三藐三菩提心.須菩提.菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時.拔出衆生生老病死相憂悲愁惱法.著無畏岸涅槃處.須菩提.是爲菩薩摩訶薩爲世間歸故發阿耨多羅三藐三菩提心.云何菩薩摩訶薩爲世間依處故.發阿耨多羅三藐三菩提心.須菩提.菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時.爲衆生說一切法無依處.須菩提.是爲菩薩摩訶薩爲世間依處故發阿耨多羅三藐三菩提心.須菩提白佛言.世尊.云何一切法無依處.佛言.色不相續.卽是色無生.色無生卽是色不滅.色無滅卽是色無依處.受想行識乃至一切種智亦如是.須菩提.是爲菩薩摩訶薩爲世間依處故發阿耨多羅三藐三菩提心.云何菩薩摩訶薩爲世間究竟道故.發阿耨多羅三藐三菩提心.須菩提.菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時.爲衆生說如是法.色究竟相非是色.受想行識乃至一切種智究竟相非是一切種智.須菩提.如究竟相一切法相亦如是.須菩提言.世尊.若一切法相如究竟相者.云何諸菩薩摩訶薩皆應得阿耨多羅三藐三菩提.何以故.世尊.色究竟相中無有分別.受想行識究竟相中無有分別.乃至一切種智究竟相中無有分別.所謂是色是受想行識.乃至是一切種智.佛告須菩提.如是如是.色究竟相中無有分別.受想行識乃至一切種智究竟相中無有分別.所謂是色乃至是一切種智.須菩提.是爲菩薩摩訶薩難事.如是觀諸法寂滅相而心不沒不却.何以故.菩薩摩訶薩作是念.是諸深法我應如是知得阿耨多羅三藐三菩提.如是寂滅微妙法當爲衆生說.是爲菩薩摩訶薩爲世間究竟道故發阿耨多羅三藐三菩提心.云何菩薩摩訶薩爲世間洲故.發阿耨多羅三藐三菩提心.須菩提.譬如江河大海四邊水斷是名爲洲.須菩提.色亦如是前後際斷.受想行識前後際斷.乃至一切種智前後際斷.以是前後際斷故一切法亦斷.須菩提.是一切法前後際斷故.卽是寂滅卽是妙寶.所謂空無所得愛盡無餘離欲涅槃.須菩提.若菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時.以寂滅微妙法爲衆生說.須菩

識下同有相字

不三本俱作非下同

起宋作趣

來明作增○去同作滅○不來不去同作無增無滅○入同作來○出同作去同下同有是趣不過何以故不來不去中趣非

提.是爲菩薩摩訶薩爲世間洲故發阿耨多羅三藐三菩提心.云何菩薩摩訶薩爲世間將導故.發阿耨多羅三藐三菩提心.須菩提.菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時.爲衆生說色不生不滅不垢不淨.說受想行識不生不滅不垢不淨.說十二入十八界四念處乃至八聖道分四禪四無量心四無色定五神通不生不滅不垢不淨.說須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道不生不滅不垢不淨.說佛十力乃至一切種智不生不滅不垢不淨.須菩提.是爲菩薩摩訶薩爲世間將導故發阿耨多羅三藐三菩提心.云何菩薩摩訶薩爲世間趣故.發阿耨多羅三藐三菩提心.須菩提.菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時.爲衆生說色趣空.說受想行識趣空.乃至說一切種智趣空.爲衆生說色非趣非不趣.何以故.是色空相非趣非不趣.說受想行識非趣非不趣.何以故.是受想行識空相非趣非不趣.乃至一切種智非趣非不趣.何以故.是一切種智空相非趣非不趣.如是須菩提.菩薩摩訶薩爲世間趣故.發阿耨多羅三藐三菩提心.何以故.一切法趣空.是趣不過.何以故.空中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣無相.是趣不過.何以故.無相中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣無作是趣不過.何以故.無作中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣無起是趣不過.何以故.無起中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣無所有.不生不滅不垢不淨是趣不過.何以故.無所有不生不滅不垢不淨中.趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣夢是趣不過.何以故.夢中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣幻趣響趣影趣化是趣不過.何以故.是化等中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣無量無邊是趣不過.何以故.無量無邊中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣不與不取是趣不過.何以故.不與不取中趣非趣不可得故.須菩提.一切法趣不擧不下是趣不過.何以故.不擧不下中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣不來不去是趣不過.何以故.不來不去中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣不入不出.不合不散不著不斷是趣不過.何以故.不著不斷中趣不趣不可得故.須菩提.一切法趣我衆生壽命人起使起作使作者知者見者是趣不過.何以故.我乃至知者見者畢竟不可得.云何當有趣不趣.須菩提.一切法趣有常是趣不過.何以故.有常畢竟不可得.云何當有趣不趣.須菩提.一切法趣樂淨我是趣不過.何以故.樂淨我畢竟不可得.云何當有趣不趣.須菩提.一切法趣無常苦不淨無我是趣不過.何以故.無常苦不淨

趣不可得故須菩提一切法趣不入不出三十字○作下三本俱無者字○趣下同無有字○常上元明俱無有字

得下三本俱無故字下同

若下三本俱無波羅蜜三字

無我畢竟不可得。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣欲事是趣不過。何以故。欲事畢竟不可得。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣瞋事癡事見事是趣不過。何以故。瞋事癡事見事畢竟不可得。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣如是趣不過。何以故。如中無來無去故。須菩提。一切法趣法性實際不可思議性是趣不過。何以故。法性實際不可思議性中無來無去故。須菩提。一切法趣平等是趣不過。何以故。平等中趣非趣不可得故。須菩提。一切法趣不動相是趣不過。何以故。不動相中趣不趣不可得故。須菩提。一切法趣色是趣不過。何以故。色畢竟不可得。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣受想行識是趣不過。何以故。受想行識畢竟不可得。云何當有趣不趣。十二入十八界亦如是。須菩提。一切法趣檀那波羅蜜是趣不過。何以故。檀那畢竟不可得。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣尸羅波羅蜜是趣不過。何以故。尸羅畢竟不可得故。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣羼提波羅蜜是趣不過。何以故。羼提畢竟不可得故。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣毗梨耶波羅蜜是趣不過。何以故。毗梨耶畢竟不可得故。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣禪那波羅蜜是趣不過。何以故。禪那畢竟不可得故。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣般若波羅蜜是趣不過。何以故。般若波羅蜜畢竟不可得故。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣內空是趣不過。何以故。內空畢竟不可得故。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣外空是趣不過。何以故。外空畢竟不可得故。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣內外空是趣不過。何以故。內外空畢竟不可得故。云何當有趣不趣。乃至一切法趣無法有法空是趣不過。何以故。無法有法空畢竟不可得。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣四念處乃至八聖道分是趣不過。何以故。四念處乃至八聖道分畢竟不可得故。云何當有趣不趣。須菩提。一切法趣佛十力乃至一切種智是趣不過。何以故。一切種智中趣不趣不可得故。須菩提。一切法趣須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道是趣不過。何以故。須陀洹果乃至辟支佛道中趣不趣不可得故。須菩提。一切法趣阿耨多羅三藐三菩提是趣不過。何以故。阿耨多羅三藐三菩提中趣不趣不可得故。須菩提。一切法趣須陀洹乃至佛是趣不過。何以故。須陀洹乃至佛中趣不趣不可得故。須菩提白佛言。世尊。是深般若波羅蜜誰能信解者。佛告須菩提。有菩薩摩訶薩。先於諸佛所久行六波羅蜜善根純熟。供養無

數百千萬億諸佛。與善知識相隨。是輩人能信解是深般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。能信解是深般若波羅蜜者。有何等性何等相何等貌。佛言。欲瞋癡斷離是性相貌。是菩薩摩訶薩則能信解深般若波羅蜜

摩訶般若波羅蜜經趣智品第五十三

須菩提白佛言。世尊。是諸菩薩摩訶薩解深般若波羅蜜者。當趣何所。佛告須菩提。是菩薩摩訶薩解深般若波羅蜜。當趣一切種智。須菩提白佛言。世尊。是菩薩摩訶薩能趣一切種智者。則爲一切衆生所歸趣。修般若波羅蜜故。世尊。修般若波羅蜜卽是修一切法。世尊。無所修是修般若波羅蜜。不受修壞修是修般若波羅蜜。佛告須菩提。何法壞故般若波羅蜜爲壞修。世尊。色壞故般若波羅蜜爲壞修。受想行識十二處十八界壞故。般若波羅蜜爲壞修。我乃至知者見者壞故。般若波羅蜜爲壞修。世尊。檀那波羅蜜壞故。般若波羅蜜爲壞修。乃至般若波羅蜜壞故。般若波羅蜜爲壞修。內空乃至無法有法空。四念處乃至十八不共法。須陀洹果乃至一切種智壞故。般若波羅蜜爲壞修。佛言。如是如是。須菩提。色壞故般若波羅蜜爲壞修。乃至一切種智壞故。般若波羅蜜爲壞修。爾時佛告須菩提。是深般若波羅蜜中阿惟越致菩薩摩訶薩應當驗知若菩薩摩訶薩於是深般若波羅蜜中不著。當知是阿惟越致相禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜中不著。四念處乃至一切種智中不著。當知是阿惟越致。若阿惟越致。菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜時。不以他語爲堅要。亦不隨他敎行。阿惟越致菩薩摩訶薩不爲欲心瞋心癡心所牽。若阿惟越致菩薩摩訶薩不遠離六波羅蜜。若阿惟越致菩薩摩訶薩聞說深般若波羅蜜時。心不驚不沒不怖不畏不悔。歡喜樂聞受持讀誦正憶念如說行。須菩提。當知是菩薩先世已問是深般若波羅蜜中事。已受持讀誦說正憶念。何以故。是菩薩摩訶薩有大威德故。聞是深般若波羅蜜。心不驚不怖不畏不沒不悔。歡喜樂聞受持讀誦正憶念。須菩提白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩聞深般若波羅蜜。不驚不怖乃至正憶念。世尊。是菩薩摩訶薩云何行是般若波羅蜜。佛言。隨順一切種智心。是菩薩摩訶薩應如是行般若波羅蜜。世尊。云何名隨順一切種智心。是菩薩摩訶薩應如是行般若波羅蜜。佛言。以空隨順。是爲菩薩摩訶薩行深般

品目智上同有一切二字
處同作入
惟越三本俱作毗跋下同致下元明俱無相字
問同作聞

是上三本俱有應如二字

若波羅蜜.以無相無作無所有不生不滅不垢不淨隨順.是菩薩摩訶薩應如是行般若波羅蜜.以如夢幻焰響化隨順.是行般若波羅蜜.須菩提白佛言佛說以空隨順乃至如夢如幻隨順.是行般若波羅蜜.世尊.是菩薩摩訶薩行何法.若色若受想行識乃至一切種智.佛告須菩提.菩薩摩訶薩不行色不行受想行識.乃至不行一切種智.何以故.是菩薩行處無作法無壞法.無所從來亦無所去無住處.是法不可數無有量.若無數無量是法不可得.不可以色得乃至不可以一切種智得.何以故.色卽是薩婆若.薩婆若卽是色.乃至一切種智卽是薩婆若.薩婆若卽是一切種智.若色如相乃至一切種智如相.皆是一如無二無別.色如相薩婆若如相.一如無二無別.乃至一切種智亦如是

摩訶般若波羅蜜經卷第十五

大正七年一月二十八日印刷
大正七年一月三十一日發行
大正七年八月二十三日再版發行
昭和二年三月十五日三版發行

著作權所有

國譯大藏經　經部　第二卷

【非賣品】

編輯兼發行者　國民文庫刊行會
東京市神田區小川町一番地

右代表者　鶴田久作
東京市本郷區西片町十番地

印刷者　君島潔
東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所　共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町百八番地

發行所　國民文庫刊行會
電話神田（二五）三三五番
電話神田（二八）三八八番
振替東京一八五七二番